收容書目

地方凡例録

日本經濟叢書

卷三十一

日本經濟叢書刊行會

日本經濟叢書卷三十一目次

解題

地方凡例錄

本書は德川時代の田制租法を始め、其他經濟上に關する重要の慣例取扱法等を、網羅記錄したるものにして、同時代の民政を調ぶるに於ては坐右缺ぐ可らざるものとなし、古來民間に最も重視せられたる有名の書なり、本書は幕末及明治初代には寫本にて坊間に傳ふるもの頗ぶる多く、又萬延元年には東條耕なる者之を校訂して二十卷となし、明治四年を以て出板したるものあり、又其後東條本を複刻公行したる者ありて、世上には多く此の二種の東條本のみ傳はり居れども、本書は東條本の刋行以前、卽ち慶應二年に南總の人大倉儀なる者が、活字を以て印行したる十一卷本を底本となして、此に收容したるも

のなり、大倉本は東條本に比すれば、活字の誤植等少なからず、中には行文殆んど通じ難き所ありと雖も、東條本は出板者の筆を加へたる所多く、又原文を省略したる廉も多ければ、詰り大倉本の方、不完全ながら、比較的原著作の眞面白を保留することと疑なきが如し、殊に大倉本は元來僅か三十部を限りて之を印行し、以て同志に頒與したるに過ざること、大倉氏自ら責任を以て表白し居る位にして、今や世上に流傳すること甚だ稀れにして、容易に入手し難ければ、本叢書には故らにこの大倉本を擇みたるなり、國書解題には東條本を解說し、東條耕が「謫居十一年の後萬延元年に至りて偶〻本書を市肆に獲、之を校正して久敬（原著者の名）が孫信敬に計る、信敬大に喜び、復校正して善本と爲す、實に久敬の歿後七十四年なり、明治四年辛未初めて世に行はる」とあり、東條本は現に如上二人の校正を經たるものにして、固より誤謬も少なく、隨て通讀し易しと雖も、此の東條本は原本の一卷を二卷に分ち、凡て二十卷となすも、原本は十一卷ありて、全くその一卷分を省略したるも

のなり、故に此の點に於ても、大倉本の方が久敬の原本に近きを證するに足るべし

著者は本書に自ら跋文を附記し「四年以前亥歳（編者案ずるに寛政三年なるべし）奉ニ大命、筆ヲ立テ官務ノ暇、著作スト雖、素ヨリ不智短才ノ臣久敬、文學ニ疎ク、殊更書籍ニ乏シ、今年寅仲秋（著者の歿年）ニ至リ、漸ク十一卷調成シテ、大看ニ備ヘヌ、目錄出ル條下凡十六卷程ニテ全備スベシ、……老命ノ限モ盡テ、臨終ノ期程近ク聞ユレバ、最早十二卷目ヨリ末、筆記スベキ力ナク、空シク過ヌル事イト歎ハシ」云々とあるを見れば、本書著作の由來は明瞭にして、而かも亦本書の完本にあらざるを見るべし、著者大石久敬、字は士恭、巖華と號す、通稱は猪十郎、高崎藩の士なり、出でゝ郡吏となり、經濟の才に長じ、循吏を以て聞ゆ、寛政六年十一月歳七十四にて歿せり

（注意）著者が小宮山昌世の田園類說を增補したる一人なることは、本叢書第八卷增補田園類說の解題及同書の序文に之を記せり、殊に其の序文には彼が

谷本脩と親交ありし等の事を詳にしあれば參考せらるべし

大正五年十二月

瀧本誠一

地方凡例録

大石久敬著

地方凡例錄卷一

目錄

私佃讀ニ付野山開發心得

地方凡例錄卷一

一　地方總論

夫地方ト云テ、外ニ可レ求道ナシ、相因リ相養フノ本、聖人利用厚生ノ道ニシテ、仁政ヲ行ヒ、井田ヲ以テ地方ノ始元トス、我國ノ中古君臣ノ階定リシヨリ、文武兩道ニ別レ、文官ハ內ヲ治メ、武官ハ外ヲ制シ、文ヲ以テ懷ケ、武ヲ以威シ、萬民ヲ治ム、其始四姓ヨリ出テ、公家二十姓、武家八十姓ト分下シ、四民共總テ百姓タリ、上古ハ兵農分ラズ、士モ東耕西收ノ務ヲ勵ミ、公納家用ノ有餘ヲ以、饑饉ノ備ヘ兵亂ノ用ニ當ツ、今兵農分レ、士ハ國政ニ預リ、亂ヲ鎭テ下ヲ平治シテ、民ヲシテ安全ナラシム、其功三民ニ冠タリ、耕農ヲ業トスル者而已ヲ百姓ト云、其外工商ノ品有テ、夫々ノ業ヲ營ミ、何レモ衣食住ノ三ヲハナル丶ハナシ、中ニモ食ヲ以テ第一トシ、五穀ノ本ハ百姓ニテ、農ヲツトメ外三民ヲ養フ、其外宮殿樓閣ヨリ民屋ニ至マデ、用ル所ノ竹木金銀銅鐵糸綿絹布、或四木、（桑・楮・漆・茶也）三艸、（麻・藍・紅花也）菜類總テ土ヨリ生ズル物、亦ハ海川ノ產物、ミナ地方ニ屬シ、一トシテ農人ノ手ニ出ザルハナシ、四民產業ノ本元タリ、故ニ百姓ノ二字ヲ御寶ト訓シ、天下ノ本元トス、然レドモ士ハ上ニ居テ三民ヲ司リ、國事ヲツトムル、士無ンバ下治ル事ナシ、然ルニ苛政ヲ用ヒ、賦

租ノアツクシ、課役ヲ重クスル時ハ、農民ツカレ、自然ト作物登ラズ、竟ニハ逃逆シテ、田園荒野トナル事有テ、四民何ヲ以カ立事アランヤ、元固ケレバ國安シ、上ニ財ヲ積テ民背ク時ハ、天下穩カナラズ、聖言ニモ財聚則民散ト云リ、タヾ正税ヲ納テ、民ヲシテ苦マシムル事ナキヲ、地方ノ本意トス、然ル時ハ萬民モ盡ル事ナク、民ノ戸賑ヒ、農事ノ力足リ、五穀豐カニシテ、上下不足ナク、民不レ爭、四海太平也

一　地方ノ業ト云ハ、土地經界ヲ改正シ、地位ノ善惡ヲヨク知テ田品ヲ檢地シ、永代上下ノ得失ヲ考ヘ、地味ニシタガヒ石モリノ不同ナク、官民失却困難ナキ樣是ヲ定メ、作物ノ合不合ヲ見ワケ、農事ノ時ノツシナハズ、耕耘肥養收納ノ時節ヲチガヘズ、農作ニ油斷ナキ樣教ヘサトシ、一作ニ於ハ稻粟ノヨシアシヲ吟味シ、年ノ豐凶ヲ考ヘ年貢ヲキハメ、亦ハ用水川除等ノ普請、地所ノ損益ヲ辨明スル事第一也、普請ハ國ノ大本ニシテ、禹司空タリシ時、修二理水一治メテ、八年外ニ在シテ、三度其門ヲ過レドモ入ラズ、其功德ヲ以テ中國ニ食ヲ得タリ、孟子ノ言ニモ、諸侯ノ寶三ツト云、第一土地也、禮記月令ニモ、四季春秋、其任ニ合フ者ヲエラミ邑里ニ出シ、アラカジメ用水川ヨケヲ修治セシメ、土地ノ破損ナク、上ハ國ニ益シ、下ハ民ノ艱難ヲ救フ事、士ノ重要當職也、地處用水等ニ付テハ、公事ナド起ルモノ也、總テ村里ヨク治ル時ハ訴訟ハナシ、若訴有ルトキハ我意ニツノラズ、理非明白ニ論辨スベシ、吟味ノ席ニテハ、双方ノ人相顏色、又言詞ノ遜不遜ニヨリテ、最屓偏執ノ心起ル者也、ヨ

クヨク私ヲステ、取サバキスベシ、總テ律令ハ天下ヲ治ル法也、令ハ前カタニ教ヘサトシ、罪ヲ犯サヌ様ニスル事ナリ、罪ヲ犯サセテ後ニ其者ヲ罰センハ如何也、明律ノ大意モ此心也、然レバ常々法令ヲ正クシテ、罪人ナキ様ニ教ヘサトシ、互ニ畔ヲ爭ヒ界ヲ論ズル事ナク、禮義ヲ旨トシ、訴訟等ナク、平安ニ治ル様ノ取計スルガ、吏タル者ノ當職ナリ、訟ノ絶ザルハ村カタ困窮ヨリ起リ、終ニハ國家ノ大害トナル、畢竟諸人我ハ善シ、他ハ惡シト思フユヱ、爭ヒ事モ起也、天下ミナ非レ之無レ理ト云テ、我ガ十分ノ理トオモフモ、他ノ心ニハ無理ト思ヘリ、サテ此事五分五分ノ出入トオモフ時ハ、我方ガムリ也、兎角手前ノ得手勝手ニ、心モ眼モクラミテ堺ヲアラソフハ、愚惡强欲ヨリ生ズ、其起ル所ハ人タル道ヲ知ラザル故也、因レ之平日上ヨリ村役人共ヨクヨク勘辨シテ、末々ノ者マデモ教ヘ導クベシ、必困窮ナル村カタニ限リ、障リ事タエヌ者也、是ニ由テ尙益々一村貧ニセマリ、後々ニハ亡命出奔スルモアリ、是亦其源ハ政事ノ正不正ニアリ、下々ニテ今日ノ渡世成リ難キトキハ、忍ビカ子テ不實ノ事モスルユヱ、公事ナドモ出來ル也、サスレバ年貢諸役ヲウスクシ、農作ヲハゲマシ、モシ働ヲイトヒ不精ノ者アラバ、急度イマシメ、是ニ順ハザル者アラバ、容赦ナク科ヲ申付、仁政ヲ施シナバ、衆人歸服シテ渡世ニ出精シ、作物豐カナレバ村カタヨク治リ、願ヒ事モ無クナルベシ、孔子ノ大聖ナル、訴ヲ聞事ハ我トテモ願人ト違フ事ナシ、裁判ノ誤ナシトモ云難ク、必ズ間チガヒノナキ様ニトアラバ、訴事ノ起ラヌ様ニ、前々ヨリ取計フヨリ外ニ仕カタハナシト宣ヘリ、由レ之上タル人タヾ政事ヲ

正クシ下ノ惠ミ、民ト共ニ苦樂ヲ同フスルホドノ政ナラデハ、天下太平ニハ治ラズ、昔難波ノ皇代ニハ、寒夜ニ御衣ヲウスクシ、儉約年ニハ供御ヲ甘ンジ玉ハズ、實ニ難レ有御仁德也、唯昔ハ下民ヲ子ノ如ク憐ミ玉ヒ、民ヨリハ父母ノ如クシタヒ尊ミ、國政ニ預ル卿大夫ハ云ニ不レ及、末々ノ下吏ニ至迄私ナキ樣ニ、上ヨリモ是ヲ糺明シ、御自分モ是ヲ第一ニシテ、上下和順ナル時ハ、必訟諍モ起ラズ、平安ニ治ル也、地方ニ預ル役人ナドハ、平生ニ此事ヲ心得收斂スルヲ我功トスルハ、大不忠也

一　近世ハ上下トモ驕奢ニウツリ、遠國僻地ノ卑賤ノ輩ニ至ルマデ花美ヲ好ミ、百姓モ農事ヲ厭ヒ、武士ノ勤ナドヲ心掛、或ハ市中商賈ノ風俗ニ習ヒ、自カラ耕作ニ疎ク成ユク事多シ、斯ナリ來リテハ、中々制シ難シ、由テ其兆ナキ間ニ、平日村吏ノ敎示第一也、元來下民ハ愚ナル者ナレバ、政道嚴烈ナレバ却テ恨ミ背キ、竟ニハ事ヲ起スモノ也、又和カ過レバ我マヽ出デ、上ヲオソレズ國政ヲ亂ル事アリ、聖人モ「唯女子與ニ小人一爲レ難レ養也、近レ之則不レ遜、遠レ之則怨」ト宣フ、小人ハ難レ治者ナレバ、政事ノ强弱勘辨第一也、由テ政務ヲ執ル人ハ學文ニ達シ、仁義忠貞ニシテ、ヨク人情ヲ知リ、贔屓偏執ノ沙汰ナク、親疎ノ差別ナク、私欲ナク、下役モ正直忠節ナル者ヲエラミ、是ヲ勸テ擧用ヒ、民ノ事ニカヽハル下役ニ至マデモ、一己ノ憤リハ云ニ及バズ、實情ヲ以テ導キ、總テ百姓トモ君主ノ貴キ事ヲシリ、亦厚恩ノアリ難キヲ思フ樣ニ、常々下々へ敎訓スルホドノ者ヲ見込テ用ル事、地方ヲ取アツカフ者、姑息ノ利ハ大害トシリ、フカク勘考專要也

一　凶作饑饉、或ハ流行病等ノ年ノ爲、夫食穀物ヲ平常ニ手當シテ置、亦ハ米穀盡タル時、可レ用水菜草根ナド食物ニナルベキ品ヲ兼テ百姓ニ敎ヘ置、其時節ヲ考ヘ取ヲサメオキ、飢ヲ助クベキ爲、平日ニ心掛備置キ、其時ニ臨ミテ狼狽セザル樣常ニ度ヲ定メ敎ヘオク事、是又地方取計フ者ノコヽロ掛也

一　民家ノ益ニ成ベキ草木ヲ考ヘ植テ藪林ヲ仕立、不益ノ空地ナキ樣ニコヽロ掛、又四壁ノ備等ハ勿論、常々コヽロヲ用ユベキ事

一　地方ヲ取アツカフニハ、前條ノ數章ハ云ニ及バズ、算術執筆ニ達シ、諸書帖面付ナドノ仕法ニ通ジ、國々ノ事ヲモ廣ク見聞シ、公事訴訟ノ裁判モ傳聞シテ、事ニ臨ミ迷ヒヲ取ヌ樣ニ心掛、又ハ其國其所昔ヨリノ引付仕來リナドノ事ヲモ勘辨シ、下々ニ可二歸順一儀ヲワキマヘ、取リ立ベキ仕來リヲ止メ、新法ヲ出スハ容易ノ事ナラズ、昔曲禮ニモ云如ク、昔ヨリノ仕來リノ國風郷例ヲ新規ニ改ハ大切也、然レドモ仕來リニ泥ミ、惡キ例ヲ用ユベキニ非ズ、後世故障ノ有無、亦下民服スベキヤ否ヤヲ考ヘ、ヨクヨク見定メシ上ニテ改正スベシ、已ニ甲州御屬國トナリシ時、國人服シ難キヲ知シ召テ、神君ノ嚴命ニテ、武田家ノ政事ヲ少シモ變ヘタマハズ、甲州一國ハ金モチガヒ、器物年貢ノ法ニ至ルマデ、信玄時代ノ如クナサレシ故國中服シ、一國平安ニ治リ、今ニ於テ其法ヲアラタメラレズ、古法ノ容易ニアラタメ難キ事、是ヲ以テシルベシ

但甲州金トテ丸キ歩判アリ、一歩銀十二匁、一兩ハ四十八匁也、尤小判ハナシ、二朱判、一朱判、

朱中アリ、二朱ハ六匁、一朱ハ三匁、何レモ丸キ歩判也、朱中ハ一匁五分ニテ四角也、是ハ今絶テ稀ニアリ、信玄時代ニハ朱中ノ次ニハ、糸目ト云金七匁五厘、小糸目三分七厘五毛ノ金アル由云傳フレドモ、今シル人ナシ、信玄時代ノ金ヲ古甲金ト云テ、當時通用ナク、至テ上品高直ナレドモ、當時拂底ニテマレナリ、其後松平甲州代ニ、此金ヲ吹サセラレ、今此金通用ス、形兩目等信玄ノ代ノ金ト同ジ、文金一分ノアタヒトハ、惡錢二百文ニアタル、古甲金ハ相場ナシトイヘドモ、所持ノ者ヘ所望スレバ、文金ノ一倍ニモアタル、金座モ松本トテ御朱印ヲ賜ハリ、甲州一國ノ金座也、升モ他國ト違ヒ、京升三升ヲ此國ノ升一升ト云、一升五合入ヲ半升、七合五勺升ヲ小半ト云、米穀其外トモ此升ニテ一國通用ス、由テ甲州ニテ一升ト云ハ、京升三升也、一國京升ハ不レ用シテ、多分一國升ヲ用ユ、尤京升モ文金モ通用セザルニハアラズ、若京升ニテ物ヲハカルトキハ、京マス何升ト云ハザレバ升目チガフ也、升坐・秤坐トモ御朱印ヲ賜ハリ、當地ニ住居シテ江戸ノ升秤堅ク不レ用、年貢モ大切・小切トテ、信玄ノ代ノ石升、今公儀ニテ御用ヒアル器ハ、丸キヲ用ヒズ、總テ四角也、家作モ殘ラズ切破風ヅクリニ、其外品々他國ト風俗チガヒ、信玄ノ政事ヲ今ニ用ル事也

已ニ賢ナル子産ガ良政サヘ新法ユエ、始ハ民服セズ、況ヤ今時ノ庸人眼前ノ便利ニ泥ミ、末世ノヨシアシヲモ辨ヘズ、新規ノ法令ヲ出シ、下民服セザルノミナラズ、却テ害ヲ生ズル事多シ、古法ヲ改ルハ實ニ容易ノ事ニアラズ、是等ノ勘辨ハ、吏タル者第一ノ心得也、總テ地方ト云ハ政事ノ要務、天地

ノ間千萬ノ事一モ殘ル事ナクレバ、諸事ニ心ヲコラシ、聖賢ノ道ヲ元トシ、文學ハ云ニオヨバズ、俗事卑賤貧人ノ事マデモヨク知リ、人情ニ通ゼズシテ地方功者トハ云難シ、中々我徒ノ及ブベキ事ニハアラザレドモ、タヾ其大意ヲ述ル而已

一　井田大意

井田トハ、三代ノ昔殷ノ代ニ始リ、周ノ末戰國ニ至リ此法廢リ、租税ノ收法區々ニナリ、本朝ニテハ尙以井田ノ事ナシ、人皇十五代神功皇后三韓征伐ノ時、井田ノ圖ヲ彼國ニ得玉ヒ、是ニナラヒテ租税モ大凡定ルトイヘドモ、井田ニハアラズ、其道高遠ニテ、今ノ世ニ至リテ不用ノ事ナリ、地方ノ元ハ井田タルニ由テ、タヾ其大畧ヲ記スノミ、總テ民恒ノ產無キ者ハ恒ノ心ナク、飢寒ニ苦シミ、常ノ心モ變ジテ惡事ヲナスベシ、故ニ井田ヲ正フシテ仁政ヲ行ヒ、年貢ヲ程ヨク取テ、上ニ蓄臣ナク、下ニ遊民ナク、國ニ荒圃ナク、政ニ苛政ナク、國々土地ニ順シ、稼熟シテ民散ゼザル樣ニ治ルヲ、地方ノ本元トス

一　夏ノ代ニハ洪水ノミニシテ、耕作スベキ地所少キユエニ、一夫ニ五十畝日本ノ六反一歩ホドニ當ルベシアタヘテ、別ニ公田モナク、其内ヨリ五畝ノ入トテ、十分一ヲ年貢ニ納メタリ、後世ニ至リ貢法ヲ用ヒテ、數年ノ中ヲ校ヘ定メ、日本ノ定免ト云如ク取シホドニ、豐年ニハ民モヨロシケレドモ、凶年ニハ難儀スル也、地所少キユエ、配當モ少ク取モ强シ

一殷ノ代ニ至テハ洪水モ少ク、土地モ開ケテ、田地段々廣ガリ、始テ井田ノ法制ヲ定ム、六百三十畝ヲ（長三百歩、横二百十歩）一井トシ、九區トテ九ツニ分ケ、毎區七十畝、其眞中七十畝ヲ公田トシテ、殘五百六十畝ヲ八夫（其實八戶也）ニアタエ、各七十畝ヲ宛受、八夫力ヲ合セ公田ヲ作リ、其穀有次第公納ス、是ヲ助法ト云、公田七十畝ノ内ニテ、廬舍二十四畝引、（毎夫廬舍一畝七十五歩）殘五十六畝實ノ公田也、公私ノ田共ニ一夫七十七畝ニシテ、此中ヨリ七畝ノ穀ヲ納ルユヱ、九分一厘内ノ税ニ當リ、夏ノ代五畝ノ入十分一ヨリ税少シ、周ノ代ニ至テ亦田地多クナリ、一夫ニ百畝ヅヽヲアタヘテ、一井九百歩（三百歩四方也）トシテ、一國ヲ百分ニワケテ、王城ヘ近キ郷十六分ハ、國中トシテ貢方ヲ用ヒ、一夫ニ田百歩ヲアタヘテ、其年ノ豐凶ニ順ヒ、百歩ノ内ヨリ十畝ノ年貢ヲ取、國家ノ諸用トス、是ハ運送モ近ク、田地モヨキ故、年貢重ケレドモ一井九百畝歩ノ中ニ、公田ヲ別ニ定メズ、毎年検見シテ、其年ノ豐凶ニ由テ、十分一ノ貢ヲ出ス、夏ノ代ニ一夫ノ受田五十畝歩ノ内ヨリ、五畝ノ貢ヲ定メ、免ニテ出シタルヨリハ輕シ、又王城ニ遠キ地八十四分ハ、野外トシテ助法ヲ用ヒ、一井九百畝歩ノ内ニテ百畝歩ヅヽヲアタヘ、公田百畝ノ内ニテ八夫ノ廬舍二十畝（一夫ニ二畝半ヅヽ）ヲ引テ、ノコリ八十畝實ノ公田也、公私共ニ八百八十畝、亦私田モ始ヨリ役是ト分ラズ一様ニ耕作シ、其出來タル穀ヲ割付、公田八十畝ノ分ヲ年貢ニ納ム、八分九厘ノ租ニアタル、殷ノ助法ヨリ亦輕シ、是ヲ周ノ徹法ト云、殷ノ法モ同様ノモノナレドモ、此代ハ八夫ノ受田面々ニ作リ、公田バカリヲ八夫力ヲ合シ耕作シ、何事モ睦マジク、自他ノ差別ナシ、如レ斯王城ノ遠近ニ

由テ一國ニ法ヲ用ヒ、貢モ徹、助モ徹也ト云テ、總テ周ノ徹法也、徹ハ通也、均也、八家互ニ合力シテ耕作スル故通也、亦秋ニナリ、八百八十畝ヲ甲乙ナク分ルユヱ均也、故ニ天下困窮スル事ナク、豐凶共ニ國中ノ民同樣也

一　一夫ニ上田ハ百畝、中田ハ二百畝、下田ハ三百畝ヅヽアタヘ、上田ハ一年休メテ作リ、中田ハ二年ヤスメ、下田ハ三年休メテ作ルニ因テ、三百畝ヅヽアタヘテ平均スル、百畝ヅヽアタヘタル積リ也、一夫年々ニ同ジ田ハ作ラズ、善惡ヲ取、カハリガハリニ作ラシム

但日本ニテモ昔ハマスメ作リトテ、隔年ニ作リシト也、當世ニハ圃作ハ、同ジハタケニ菜物ヲ作リテハ、彌地ヲキラフト云テ、出來ザル物アリ、故ニ其所ハ作物ヲカヘテツクレドモ、丸ニヤスメル事ハナシ、勿論稻作ハ毎年耕作ス、然レドモ兩毛作ノ場所ハ麥菜物等ヲツクラズ、春田トテ一作ヤスミテ稻ヲツクルハ、格別ニヨク出來ル、又旱水損等ニテ、前年ノ穗ツタリ腐ラシ一年ヤスミ、來年ハヨク出來テ、凡二年分モ取レル也、然ラバ昔ノ如ク一年ハ草ヲ生ジ、ヤスメ置ハヨロシカルベケレドモ、毎年賦税ヲ出ス故、ヤスムル事ナラズ、唯ヤケハタケノミハ、一年モ二年モ茸艾立ニシテ、休メ置テ作ルモヨシ、亦田ニヨシアシヲ取カヘテツクルハ、日本ニテモ水クサリ場ノ分ハ、割地トテ年季ヲ定メヨシアシ割カヘテ作ラスル、周ノ徹法ニ少シ似タリ

一　男二十歳ニナレバ、百畝ノ田ヲ渡シ耕作サセ、六十歳ニナレバ公儀ヘ返ス也、又惣領ノ外、弟ハ餘

夫トテ、父ユヅルベキ田地ナキニ因テ、雜人ニテモ十六歲ニナレバ、公儀ヨリ田二十五畝ツヽアタヘ、三十歲ニナレバ妻ヲ持テ、定ノ如ク百畝ニ足シテワタシ、百姓一戶トナル也、如レ此人ヲ多クスルホド、又新田ヲヒラクナリ、田地ノ增ユエ、二人ニ當テ不足ナシ

一　五畝ノ宅トテ、二畝半ハ公田ノ內ニアリ、廬舍ト云テ、春夏耕作スル時ウツリ居ル家也、又二畝半ハ域下、又ハ居村ニアリ、是ハ邑屋トテ、農事終リテ此邑ヘ歸リ、安居スル本宅也、是モ山川行路ノ三分去ル一ノ內ニ入テ年貢ハナシ、是ヲ合テ五畝ノ宅ト云、二ウチ半ト云屋シキハ、日本ノ九間四尺七寸餘四方ニアタル、屋敷ノ廻リニ垣ヲシテ、桑麻ナドヲウエテ、帛布ヲ調サセンガ爲也、此類ヲモウエズ農業ニオコタル者ニハ帛布ヲ出サセ、マタ工商モ家職ナクシテ居レバ、家租夫稅トテ、一夫ノ出ス年貢ホド取立、マタ農人ノ田ヲ荒シ、農業ヲオコタルヲ、屋粟トテ三夫ノ年貢ヲ取立ル也、是ハ民共不精ニテ惡キ身持サセマジキ爲ニ、罰法ヲ定メタル者也、全ク課役ヲ取タテルニ非ズ、民ヲ恤ミ饑寒ニ及バセマジキ爲也、右ノ如キ者ハタヾ敎ヘサトスノミニテハ順ハザル故、科料ヲ出サセ、懲シメテ出精サスル聖人ノ敎ナリ

一　祀禮入用ノ爲ニ、圭田トテ鄉官ヨリ以下ノ者ニハ定マリタル祿田ノ外ニ、一人ニ田五十畝ヅヽ、無年貢ニナアタユベシ

一　周ノ一尺ハ日本ノ曲尺ニテ六寸六分六厘ニアタル、此積リニテ周ノ一步六尺四方、日本ノ曲尺四

尺四方也、周ノ一畝ハ十歩四方ニテ、一歩（日本ノ四尺四方也）物百也、日本ノ田法ニ積リ、一畝七歩八厘餘ニナル、六間（一間ハ六尺五寸四方也）一尺四方也、高ニテ一斗二升六合二勺餘也、周ノ百畝ハ百歩四方（則十歩四方也）ニテ、日本ノ六十一間三尺五寸四方ニ當ル、田ニシテ一町二反六畝七歩餘、高ニシテ十二石六斗二升三合三勺トナル、是井田一夫ノ受田也

但夏ノ代ノ尺ハ、十寸ヲ一尺トス、所レ謂横黍尺是也、殷ノ代ニハ十二寸ヲ一尺トス、是商裄尺也、今日本ノ曲尺ハ商ケタ尺也、周ハ八寸ヲ一尺トス、由レ之商尺十二寸ヲ以テ周八寸ヲ除ケバ、六寸六分六厘六毛六六ト出ル也

一　周ノ一歩日本曲尺ニテ四尺四方也、日本ノ一歩ハ六尺五寸四方、則一間四方ヲ一坪ト云、一畝ヲ三十歩、一反ヲ三百歩、十反ヲ一町、三千坪也、田ノ上中下ニ平準シテ、凡一段ヲ高百石ニ積リ、前條ノ高ニナル、田畑平均シテ十町百石ト云、今ノ村高ノ大積也

一　井ノ田ハ九百畝ニテ、民家八夫、一夫ニ百畝ヅヽ、アタヘ、眞中百畝ヲ公田トス、經界井ノ字ノ如ク、溝ヲ付テ九百畝ニ分ル、略圖如レ左

一井九夫百畝也、一夫百畝ヅヽノ間ニ遂アリ、遂ノ上ニ徑アリ、一井毎ノ間ニ溝アリ、溝ノ上ニ畛アリ

井田ノ說ハ、浪花ノ儒生中井氏ノ考ヘアリ、慥ニシテ徵トシ見合ベキ也

一　右如圖一井ヲ四ツ合セタルヲ邑トス、二里四方也、四邑ヲ丘トス、四里四方也、四丘ヲ甸トス、十里四方也、四甸ヲ縣トス、二十里四方也。四縣ヲ都トス、四都ヲ同トス、四同ハ六鄕二百里四方也、十二同ヲ六遂トシ、二十同ヲ邦縣トシ、三十六同ヲ邦都トス、則王畿ニテ方千里也

道法

徑遂ノ上ニ小道アリ、小ミゾノ縁ノ小土手ノ樣ナル者也、一夫毎ニ通路シテ、牛馬モ通ルミチ也

畛、ミゾノ上ニアリ、十夫ノミチニテ、荷附馬ナドユルユル通レルミチ也

涂、洫ノ上ニ乘アリ、車ノ通ル廣キミチ也

道、澮ノ上ニ大道アリ、國々ヨリ大道ヘ出ルミチ也

路、川ノ上ニアル王城ヘノ往來ミチ也

溝法

遂、一夫、百畝ノ間ニアル小ミゾ也、深サ二尺、幅二尺、一人前ノ用水ミゾ也

溝、十夫、井ト井トノ間ニアル一畝ノヨコニアルミゾ也、フカサ廣サ共ニ四尺

澮、百夫、丘ト丘トノ中ニアル二十里成ノ内縦ニアリ、フカサ、ヒロサ共ニ八尺

洫、十夫、方百里内ノ間ニヨコニアリ、フカサ二尺、廣サ二尋、小川也

川、萬夫、方千里ノ間ニヨコニアリ、フカサ、ヒロサ限無キ大河也

右通路ノ行程ハ、一夫・十夫・千夫・萬夫ノ間ニアリ、タトヘテ云バ、東海道ナドヘ國々ヨリ出ルミチ、又夫ヘ一郡一村ヘ出ルミチ大中小ナリ、溝モ小ミゾヨリ大ミゾヘ出、ソレヨリ小河ヘ流レ落、大川ヘ流レ集ル如ク、一井ヨリ段々ト次第ニ付タル者也

但日本モ昔ハ大内裏アリシ時ハ、京都ノミチヲ大路ト云ハ車六兩竝ベ引、小路ハ二兩並ベテ引ホドノミチナリ、今モ是遺風平城ノ町ノ名ヲ何大路何小路ト名ヅケテ云ハ、是也

近世山野澤沼ヲヒラキ新田ヲナスニモ、水野ノ付様、勾配ノ法、赤鷹舍ノ地形ニ由リ、經界途ミゾノ法、井田ノ法モ考味シテ是ヲナサバ、便利ナルベシ

一井　一里　九百畝　八夫

日本ノ數ニ直シ

三丁十七間七寸五分四方

田十一丁三反六畝二歩餘

高百三十石六斗九合四勺餘

一邑　方二里則四井　三千六百畝　民家三十二夫

日本ノ數ニ直シ

六丁三十四間一尺五寸四方

田四十二丁四反四畝十一歩

高四百五十四石四斗三升餘

一丘　方四里則四邑　一萬四千四百畝　民家百二十八夫

日本ノ數ニ直シ

十三丁八間三尺四方

四百八十一丁七反七畝七歩餘
高千八百十七石七斗餘
制軍賦
戎馬一匹　甲士三人
牛三頭　士卒十八人
一甸　方八里則四丘　五萬七千六百畝　民家五百十二夫
日本ノ數ニ直シ
二十六丁十六間六尺四方
田地七百二十七丁一反歩餘
高七千二百七十一石餘
制軍賦
兵車一乘　但四車、馬四疋ニテ引
戎馬四疋　甲士十二人　牛十二頭
士卒七十二人
甸方八里ナレドモ、四方ヘ洫一里ヅヽ付ルユヱ、十里四方ニナル也

一縣　方十六里則四甸　二十三萬四百畝　民家二千四十八夫

日本ノ數ニ直シ

二里十六丁三十三間五尺五寸四方

田地二千九百八丁四反歩餘

高二萬九千八十四石二升餘

制軍賦

是ヨリ先何レモ四倍ト知ルベシ

縣ハ方十六里ナレドモ、甸ノ溢一方ヘ二里ヅヽ加ヘル故、二十里方ニナル也

一都　方三十二里則四縣　九十二萬千六百畝　民家八千百九十二夫

日本ノ數ニ直シ

二里三十三丁七間四尺五寸四方

田地一萬六千三十三丁六反歩餘

高十一萬六千三百三十六石九升餘

都ハ方三十二里ナレドモ、甸ノ溢一方ニテ四里ヅヽ加ル故、四十里四方ニナル也

一同　方六十四里則四都　三百六十八萬六千四百畝　民家三萬二千七百六十八夫

日本ノ數ニ直シ

五里三十丁十五間二尺五寸四方

田地四萬六千五百三十四丁四反九畝十八歩

高四十六萬五千三百四十四石三斗七升一合二勺

同ハ方六十四里ナレドモ、毎ノ通一方へ八里ツヽ加ヘ、縣ト都ノ通澮集テ三十六里增故、方百里ニ成也、兵車百乘ノ國也

制軍賦

兵車百乘　甲士三百人

戎馬四百匹　士卒千二百人

牛千二百頭

一　王畿萬乘ノ國ハ方千里百萬井　九億畝　民家八百萬夫

日本ノ數ニ直シ

八十五里十六丁五十五間二尺五寸四方

田地千百三十六萬九百四十六丁六反六畝歩

高一億千三百六十萬九千四百六十六石六斗餘

制軍賦

兵車萬乘　甲士三萬人

戎馬四萬疋　士卒七十二萬人

牛十二萬頭

一　司馬法ノ井田ハ前條ニ大同小異アリ、百畝ヲ一夫トシ、三夫ノ受ル田ヲ屋トシテ、三屋ヲ一井トス、則九百畝也、十井ヲ通トシ、十通ヲ成トシ、十成ヲ終トシ、十終ヲ同トス、是方百里一萬井九百萬畝、卿大夫ノ采地、兵車百乘ノ國也、十同ヲ封トス、長千里横百里、十萬井九千萬畝、諸侯ノ采地千乘ノ國也、天子ノ地也、大國小國皆卿大夫上中下士、ソレソレニ配當シアレドモ、今不用ノ事ニテ、井田ノ法ハ容易ニ書盡ベキニアラザレバ略レ之、井田圖考等ヲ見テ、委キ事ヲシルベシ

今日本租稅ノ法四公六民、或ハ五公五民ナド格別取立強ケレドモ、其代リニハ貢助ノ法ト違ヒ、定メタル軍役ノ勤メタル事ナシ、和漢時世大ニ隔タリ、井田貢法助法トモニ今ノ見合ニハナリ難シ、地方ノ始リハ元井田タル故、其大意ヲ記ス而已

一　農人耕作シテ、所得一夫百畝（日本ノ田ニシテハ、一町一反六畝步餘）凡ノ田ニテ、上農人ハ九人ヲ養フベシ、上ノ次ハ八人、中ハ七人、其次ハ六人、下ハ五人ヲヤシナフベシ、唐士庶人ノ在官者、其祿是ヲ以テ違ヒトス、農人一家五人ニテ貢法ノ稅ヲ出ス積リニテ、其内一石五斗年貢ニ出シ、殘十三石五斗ノ內、八石八斗五升

五人ノ食物引ノコリ、四石六斗五升貢出シテ、家用ニ當ルトイヘモド、五人ノ衣服其外諸入用ニハ、一向ニ不足也、然レドモ和漢トモ農業ノ外ニ仕事モアリ、亦豐年ニハ收納スル所十五石ナド丶云事ナシ、昔ノ貢法ニシテサヘ右ノ積リ也、今世日本ノ稅五公五民ノ法ニテハ、民ノ產ニハナリ難カルベシ、去ナガラ時代違バ、昔ノツモリハ用ヒガタシ、當世不用ノ事ナガラ、總テ古キヲシリテ、今時ニ當ツテ政務ヲ取ザレバ、元ヲ失フニ似タレバ、此ニシルス者也

一　地方六之數始之事、附田地一反三百步始

夫大極兩儀ヲ生ジ、陰陽トナル、陽ハ天ニシテ○ク、陰ハ地ニシテ□也、天覆テ外ナク、地載テステザルノ德、東西南北四方定リ、陰陽合體シテ萬物ヲ生ジ、天地四方ヲ合セテ六ノ數ヲ以、地方ノ本元トス、地方ハ總テ天地ノ間ニ孕タル森羅萬象、ミナ地ニ屬セズト云者ナシ、故ニ地ニ付タル儀ヲ取テ、惣名ヲ地方ト云、扨六ハ盈タル數ニテ陽ニ屬シ、三代ノ昔井田ノ法モ、六尺四方ヲ田地一步トシ、六十間ヲ一町、六町ヲ一里トス、一里ト云始リハ、「ヒトサト」ト云事、一村一村ノ間ヲ一里ト定メタルトミエタリ、井田ニテ凡六丁四方、田四十五町ホドノ場所、四井ヲ合セタルヲ邑ト云、則一村立タル所ト聞エ、由テ其邑々ノ間ノ町數ヲ以テ六丁ヲ一里ト立タル者ト見エタリ、日本モ昔ヨリ六尺四方ヲ一步トシ、六々三百六十步ヲ一段トス、六尺ヲ一間、六十間ヲ一丁、六丁ヲ一里トス（奥州多賀壕ノ坪ノ石碑ノ里數モ、六丁一里也）

中古ニ至リ六々三十六丁ヲ一里ニ改テ、今モ奥州ハ古例ノ如六丁一里也
白川領ヨリ日ノ方ハ、關東ニ准ジ三十六丁一里、夫ヨリ奥ハ六丁一里也
國ノ員モ六十六ヶ國ニ定リ、何レモ地ニヨリタル事、六ヲ離ル、事ナシ
但、田地一歩、昔ハ六尺四方タリシニ、中古ニ至リ一間ヲ六尺五寸ニ改ム、一間一歩タルニヨリ、田ノ一畝モ六尺五寸四方タヲリシ事アリシトミエタリ、其後六尺三寸ヲ一畝トシ、太閤檢地ノ時分マデ六尺三寸ト聞ユ、今モ屋舍等ノ一間ハ、六尺三寸ヲ京間ト云、六尺ヲ田舍間ト云、田地等モ檢地時代不知ナレバ六尺五寸四方ヲ一畝ト云習ハセシ所モアリ、古檢ハ總テ六尺三寸ヲ用ル事也、近世昔ニカヘリテ六尺一間也
然ルニ大ニ世隔リ、文祿四年秀吉公時代、宮部善祥坊・山口玄蕃頭經界ノ道ニクハシク、算勘ニ秀タルニヨリ、兩將ニ命セラレ、諸國ヲ檢地セシム、其時ニ五ノ數ヲ加ヘ、五六三百歩ヲ一段トシ玉フ、其故ハ六ハ天四方ヲ合セタル數ニテ、世界一盃ニ滿タルカタチナレバ、滿レバ欠ルノ儀アリ、又縱モナク横モナク、陰陽合體シテ萬物ノ生ズル儀ノ取テ、田地ニ五ヲ加ヘラレタリト云ヘリ、昔西國ヨリ國々ニ檢地シテ越前ヘ至ル時、豐臣公薨去ニ付、彼國マデニテ止テ、夫ヨリ東ハ此事ナシ、又田一段三百歩トナリタルハ、足利尊氏將軍ノ時代、六貫一疋ノ軍役勘定仕ヤスカランガ為、三百歩ニアラタマリタルトモ云、其始慥ナラザレドモ、豐臣家檢地ノ時、陰陽五行ノ理ヲ以テ五ヲ加ヘ、三百歩ニア

ラタマリタルト云事、理ニ於テ尤ノ樣ナレドモ、恐ラクハ後人附會ノ說ナランカ、足利時代算法ノ爲、三百步ニアラタマリシ方近カランカ

一　國郡鄕里始之事、付地堺炭ヲ埋始

人皇十代崇神天皇、四方ノ夷狄ヲ平定シ玉ヒ、十三代成務天皇卽位五年乙亥、始テ諸州ヲ分テ國造ヲ定メ、三十二ヶ國トシ玉フ。十四代仲哀天皇ノ御宇、貢ヲ定メ玉ヒ、十五代神功皇后三韓征伐シ玉ヒ、聖代井田ノ圖法ヲ得玉ヒ、是ニナラヒ五畿七道ヲ分チ、國ノ數ヲ增シ、尊卑ヲエラミ、阡陌ヲ定メ、溝洫ヲホラセ、道路ヲ分チ、普ク天下ニ農ヲ敎ヘ玉ヒ、租稅ノ法定ルトイヘドモ、上代ハ郡縣鄕里ノ堺モサダマラズ、四十二代文武天皇ノ御宇、海內ヲ六十六州ニサダメ、國郡ノ名悉ク備ハリ、大寶年中ヨリ律令モサダマリ、異國ハ夏ノ禹王ニ地理初リ、四十五代聖武天皇天平七年乙亥、吉備公僧行基泰澄三人ニ勅アリテ、同十七乙酉マデ十ヶ年ノ間ニ、六十六ヶ國二島ニ至ルマデ、諸州・郡縣・鄕里・邑村ヲサダメエラミ、奧州ニ鎭守府ヲ立テ、出羽國ニ秋田城ヲ築キ東國ヲ鎭守サセ、筑前ニ太宰府ヲ立西藩トシ玉フ、東國ハ泰澄是ヲ制シ、駿州ヨリ中國マデ行基奉レ之、其他ノ國々ハ吉備公是ヲ改正シ、古ヨリ五畿七道ハ分封トイヘドモ、詳ナラズシテ爭戰モ止トキナシ、三使勅命ヲ奉テ境ノ地ニ炭ヲ埋メ、是ヲ定テ田圃ヲ熟檢シ、道路溝坡ヲ修治セシメ、田六尺四方ヲ一步、三百六十步ヲ一段トシテ、士民五十戶ヲ一邑トス、里每ニ長一人ヲエラミ置、戶口ヲ檢考セシメ、租稅ノ法モ漸ク備レリ、炭ハ

萬代朽サル物故、境ノ地ニ是ヲウヅメテ證據トスル事ハ、已ニ此時ヲ初トス

一　御當代地方始之事

俗ニ地方ト云ハ、政務ノ事ニテ、强チ田畠收納等ノ取ハカラヒノミニ非ズ、總テ經濟ノ事ナレバ、聖賢ノ道ヲ元トシ、利世安民ノ大意ヲワスレズ、地理ニクハシク、用水川除修治等ノ道ヲ知リ、國益ノ失ナキ樣ニ心掛、上下ノ損益ヲ勘辨シ、農業ノ時ヲウシナハザル樣ニ敎ヘフクメ、民ヲイツクシミ、公事訴訟等ノ取ハカラヒニ私ナク、理非明白ニ決斷シテ、國家平安ニシテ治ルベキ事ヲ旨トシ、當然ノ時勢ヲ擇ヨク取アツカフヲ、地方功者ト云ベキ事ナルニ、今ノ世ニ地方功者トテ用ヒラルヽ人ヲ見ルニ、民ノ艱難ヲモ厭ハズ、前後ノ辨ヘモナク無理ニ取立テ、下ニ少シノ有餘アレバ、物ニ寄セ事ニ觸レテ課役ヲ掛、民ノ疲勞スルヲモシラズ、眼前ノ利ヲ得ルヲ手ガラト心得、當時ノ事バカリヲ專一トシテ、算筆達者ナル人ヲ地方功者ト思フハ、大ナル心得違ニテ、是ハ業ヲヨクスル者ト云ベキカ、總ジテ地方ニ流儀ト云ハ無キ事ナレドモ、御當代ニ至リテ、伊奈流・彥坂流トテ二家アリ、伊奈流ト云フハ、神祖御治世ノ比、伊奈熊藏ト云人經濟ノ事ニクハシク、算術ニ通達シ、專ラ租稅ノ事ヲ司ドリ、御代官ノ勤メラレ、後ニ朝散大夫備前守ニ任ゼラレシト云、此人ヨリ始リ、彥坂流ト云ハ、同御代慶長八年、彥坂小刑部ト云人、江戶町奉行タリシニ、伊奈備州ノ如ク經濟ニ通達シ、政事正シク地方功者ニテ、コノ人ヨリ始リタリ、然ルニ伊奈流ホド委備ナク、其ノ上子孫斷絕シテ、今ハコレヲ知

ル者ナシ、備州ノスヱハ近世マデ連綿トシテ、當時御料所地方ノ規則ハ、スベテコノ人ノ遺法ナリトシルベシ

一　上方關東國分之事　付田畑不同　御料所無國

關東關西ト分ルハ、昔逢阪ノ關ヨリ東三十三ヶ國、西三十三ヶ國ト分レシガ、今ハ名ノミトナリテ、箱根ヨリ奥州迄ヲ關東八州ト云、當時御勘定所ニテ、上方スヂ關東スヂト、國々ヲ分テ取アツカフニハ如レ左

關東方ハ　武藏　相摸　上野　下野

上總　下總　安房　常陸

外ニ　伊豆　甲斐　出羽　陸奥

北四ヶ國ヲ入、十二ヶ國ヲ關東ト云

上方ハ　山城　大和　攝津　和泉　河內

外ニ　近江　丹波　播磨

此三ヶ國ヲ入上方ト云、五畿內三州ト云

右ノ外東海道スヂ、中國スヂ、四國・西國・北國ヲヂトモ、スベテ上方スヂトイフ、上方關東ト二ツニ分ル比ハ、右十二ヶ國ハ關東方トイフ、其ノ外ノ國々ハスベテ上方スヂト、御勘定所ニテモ取アツカフ事ナリ

右ノ分ケ云時ハ、五畿内・東海道スヂ・中國スヂ・西國北國スヂト云也

一　上方スヂ國々平均スレバ、田方三分ニ畑カタ三分一アル積リ、東八州ハ田カタ少ク、畑カタ多ケレドモ、伊豆・甲州・出羽・奥州ヲ加フレバ、大カタ田畑等分也、由レ之關東ハ畑カタ永取、出羽奥州ノ内田畠米取、半石半永ノ引付也、上ガタスヂ畠米取トイヘドモ、三分一銀納アリテ、關東ノ永ドリト同樣成物也

御領所無レ之國々如レ左

紀伊　尾張　伊賀　志摩　備前　越中　若狹　因幡　伯耆　出雲
周防　長門　阿波　土佐　淡路　筑後　大隅　薩摩　壹岐　對馬

右二十ヶ國ハ御領無レ之、其外ノ國々ハ、何レモミナ御領所アリ

一　石高之事　付分米

右石高ト云ハ、村高ノ事ニテ、田畑ヲ檢地シテ土地ニ合セ、上中下ノ位ヲ分ケ、石盛ヲキハメ、田畠屋敷夫々ノ高ヲ寄合セタルヲ石ダカト云、則村ダカ也、高辻ト云モ同ジ事也、然ドモ高ツヂト云ハ、一

村中ノ高何ホドアリト云時ナドニハ、高ツヂト云、田畑ノタカヲ集メタル儀也、辻ト云字義、會也、物ノ集リタル形、高ニカギラズ、米ツヂ金ツヂナドト書、總テ道路ノ四ツヂナドノ、道ノ出會集ル意也、石ダカ村ダカトモ昔ハナク、戸數ト云テ家數ヲ以テ、何百何十戸ノ村ト云タルニ、鎌倉將軍ノ時代ニ至リ、文永ノコロヨリ貫ダカ始リ、足利將軍ノ時東國西國トモミナ貫ダカニナリ、一統何貫何百何十貫ノ村ト云、其後關東ハ永ダカ始リ、永ダカニテハ何百何十貫文ノ村ト云、石ダカニナリタル以後村ダカト云、然ルニ石ダカノ始リ、何レノ書ニモ慥ニ分ラザレドモ、文祿年中秀吉公ノ命ニ由テ、諸國一統檢地アリ、引續テ御入國以後、慶長ニモ檢地アリ、古制ハ追々廢レ、諸事改マリ、天正文祿ノコロヨリ石ダカ始リシト見エタリ、此外考ル所ナシ

石ノ正字ハ斛也、後醍醐天皇ノ御宇延元年中、斛器ヲ作ラシメ玉フ、斛ハ十斗也、石ヲ扼テ是ヲタメス故ニ、日本後世ニ至リテ、石ノ字ヲ以テ常法トナレリ

昔ノ租稅ハ籾納メユヱ、今石ダカト云ハ、則年貢籾石ノ納高也、昔ハ民間ニ金銀ノ通用ナク、諸品交易シタル時節故、百姓ハ籾ヲ以テ物ヲモトメ、又錢モアレバ物買シカ、慶長以後民間ニテモ金銀通用自由ニナリ、籾ツカヒ止シユヱ、年貢モスリテ取樣ニナリ、五合ズリヲ積リ、モミ高ノ半分米ニテ納ルユヱ、モミ高ハ村ダカトナリ、五分取ノツモリニテ、米納ニナリタル所、村々異同モアル故、厘付ト云事始リ、納方ハ土地稻作ノヨシアシニヨリテ、厘ニテ取ダカヲ極メ、村ダカハ噂物ノ樣ニナル、

前條ニ云如ク、村ダカト云事ハ中古ヨリ始リ、昔ハ無事ナガラ、後世ニテハ諸國ノ高キハマリ、至テ大切也

一但、タカハ石ダカニモカギラズ、萬事ニアルコトナリ、諸色ヲ積上ゲ高クナリタル形ヲイフ、扨貫ダカ永ダカ一事兩名ノ如ク思フモノモアレドモ、甚相違ノ事ナリ、貫ダカト云ハ永何貫文ニテハナク、田地ノ坪員ニ軍役ヲ割付ルヨリハジマリ、諸國ニアリ、マタ永ダカハ東西ニ永樂錢通用ヨリ初リ、關東ニカギル、扨諸侯ノ領地、諸士ノ知行、幾萬石幾千石トイフコト古法ニアラズ、鎌倉將軍時代マデハ、何國ニテ何百丁何十丁ト、田地ノ丁數ニテ下サレ、其後貫ダカ起リ、足利時代ニハ幾百貫幾十貫ト貫高ニテ知行ス、亦其以後關東ノ諸士ハ永ダカ何貫文ト領シタル所ニ、信長公・秀吉公ノ時代ヨリ、領スル所石ダカニナリタル由、然レドモ又天正ノコロヨリ、村ダカハ起リタル事ト見エタリ

一分米ト云モ石ダカノ事ナレドモ、惣村方ヲ分米トハ云ハズ、一村ノ内ニテ上中下所々ノ畝歩ノタカト云トキ、此分米何ホドト云、是モ帳付帳面ニ高ヲ本行ニカキ、脇ガキニ此反別何ホドトカク時ハ、分米トハカヽズ、タカ何ホドヽカキ、反別ヲ本行ニカキ、脇書ニタカヲ附ルニ、此分米何ホドヽカク事也、元來タカノ事ヲ分米ト云ハ、一村ノ内所々ノ畝歩ノ分ニ掛リタル米ヲ付ルト云心ニテ、分米トハ云ナリ

一　貫高之事　付六貫一疋之軍役一騎人數

貫高ハ北條ノ始京都將軍ノトキ、田地ニ貫ダカト云事始リ、知行領知ナド此貫ダカヲ用ヒ、東國西國一統ニ行ハレシ事也、北條時宗ノコロニ起リ、足利尊氏ノトキヨリ行ハレシ事ト見エタリ

貫ト云ハ、永錢ノ貫文ニアラズ、軍役ノ定メヲ田地ノ坪ニ割ツケシヨリ起リ、六貫一疋ト云事アリ、田地千坪ヲ一貫トシテ、六千坪ヲ六貫トス、此六貫ノ地ヨリ軍役一騎ヲ勤ル日本ノ古制、人皇三十七代孝德天皇大化二年ニ始ル、戸籍計帳班田收授ノ法ヲ作リ、三十歩廣サ十二歩爲ㇾ段、十段爲ㇾ丁トアレバ、昔ノ一段ハ三百六十歩也、六千ツボハ一丁六段二百四十ツボナレバ、軍役ノ積リ六カシキユヱ、尊氏時代ヨリ一段三百歩ニ直リ、二丁歩ニテ六貫ナルヲ以テ、一騎役直ニ分ル、昔ノ士ノ知行トシテ、高以前ハ田畠町歩ヲ以賜ハリ、足利家ノ後何百丁ト家祿定リ、石ダカ始リタルトキマデ、總テタカニテ領地シ、何千何百ト云事、今モ民間ニ言ノコレリ

苗ヲ百日苗・一貫目ナヘト百姓云テ、田地百ツボニナヘ百把ウヱ、是ヲ百目ト云、千ツボニ千把ウヱテ一貫目ト云、凡田一歩ニ籾一升トツモリ、十貫ハモミ百石、百貫ハ千石ニ當リ、三百貫ノ知行、田地百丁モミ高三千石、當時ノ石高十五ノ石盛ニ准ジ高千五百石、モミ數ニテモ五合ズリ、五公五民五ツ取ニツモリ、高千五百石也、昔三百貫ノ所領ニテハ、軍役五十騎ニアタル、昔ノ一騎ハ人數何ホドカシラネドモ、今ノ一騎ハ知行高二百石以上、侍二人・馬口取一人・鎗持一人・草履取一人・自分トモ六人

也、今時ノツモリニテハ、千五百石ノタカニテ五十騎ノ軍役ツトマルベキ事ニアラズ、然レドモ昔ハ農兵分レズ、武士ハ土着ノトキノ事ハ、今ノ引當ニハ成ガタシ

右貫高今モ武州・相州・上州邊ニアリ、石ダカハ元ヨリナク、多クハ無反別ノ村也

貫永ダカトモ御入國以來一貫ノ、タカ五石替ノ勘定御定法ニナル、然ル所武州久良岐郡杉田村ノタカノ割付ヲ見ウケタルニ、永一貫文ヲタカ二石カヘノ積リ也、然ラバ村ニヨリ仕來リアリ、總テ五石代トモ見エズ、亦關東ニハ永ダカト云事アリ

鎌倉近クニ寺社領ハ何レモ永ダカ也、村ダカニモ永ダカアリ、貫ダカト永ダカト混雜シテ、當時ハ一事兩名ノ様ニ思フ者モ多シ、貫ダカト云ハ、右ニ云如ク永錢ノ員數ニテハナシ、田地ヘ軍役ヲ掛タル名目ニテ、假ニ貫ダカト名付、永ダカハ中古年貢ヲ永樂錢ニテ納メ、日本ノ悪錢四錢ノカハリ永樂一錢ヲ用ヒ、其節ヨリ永ト云事始リ、貫高永ダカハ故違ヒタル事ナレドモ、後世ニ至リテハ相マギレテ、今ノ貫高村永ダカ村、何レカ慥ナラズ、已ニ右杉田村割付目ノ見出シニハ、貫高割付ノ事ト書キ、高付ハ永ダカ何百何十貫文、此タカ何ホドヽアリ、左スレバ貫ダカ村トモ、永ダカ村トモ分ラズ、定テ古代ハ分リタル事ニテ有ベキナレドモ、今ニテハ支配役人不行屆ニテ、マギレタル者トミエタリ、今ノ貫ダカ村、永ダカ村イヅレトモニ不分明ナル事也

一　永高之事

永高ノ初リハ、京都將軍ノ時代兵亂多クテ、鑄錢司ノ官モ名ノミニテ、通用ノ和錢少ク、異國へ砂金ヲ渡シ、錢ヲモトメシメ國用ヲ達ス、其内明朝ノ永樂錢勝レテヨロシク、又多クワタリ、鎌倉管領足利滿兼ノ代ニアタリテ、相州三崎浦へ唐船漂着シ、船中ヲ檢スルニ、此錢多ク積タリ、船ヲ停置、將軍義持公へ訴ヘシニ、關東へ着スル上ハ、滿兼得分タルベシト台命アリ、關東スヂ此錢イヨイヨ多クナリ、年貢ノ分總テ此錢ニテ納ムベキ旨命ゼラレ、他錢四文ニ此錢一文ヲ以テ通用ス、此節ノ年貢ハミナ是ヲ納ム、其時代マデ石高ハナク、昔ノ遺風、武士ノ所領町歩モ有テ重モニ貫高ナリ
永樂錢通用ニナリテ、田畑反ダカニ是ヲ納、貫高ヲ直ニツケ、今ノ本元ト云者ノ如ク、其貫數ヲ合セ永ダカト云テ、則一村ノタカニ用ヒタリ、其時代ノ檢地ニモ反別アリ、大半・小半ト云小割モアリ、亦田畑上中下ノ位モアレバ、永ダカトテ別ニ檢地セシ事ニテハナシ、上田一反ニ永何ホド、中下モ夫々ニ永ダカヲ極メ、畑モ同然也、其永納辻ヲ合セ、一村ノタカトス、是故ニ永ダカモ土地ノ位ニシタガヒ高下アリ、一貫文ノ地所廣狹アリテ定數ナキヲ、永別永盛ナド云、田ダカ永一貫文ハ籾五石ヲ納メ、畑方ハ直ニ永錢ニテ納ム、若外錢ニテヲサムレバ、永一文ノ代リ他錢四文ヲヲサム、其コロハ籾ツカヒノ時節ニテ、年貢モ籾ヲサメ也、其後米ヲサメニナリテ五合ズリノ積リ、永一貫文米二石五斗代ニナリタリ、今モ永高ノ場所ハ永別、永盛ト云事アリ、遠州榛原豐田周知郡・三州八名郡邊ハ檢地石盛モアリ、石高モアリ、水帳モアレドモ永ダカヲ用ヒ、石ダカニ永盛ノ幾百幾十文ヲ掛ヨセ合ハセ、永ダ

ナトシテ永一貫文ヲ高五石代ニシテ、其高ヲ役ダカト云テ、諸掛リ物等ハ此高ヲ用ヒ、檢地石ダカハ納所ダカト云、年貢ハ納所ダカニテヲサム、畠方ハ永盛一貫文、悪錢何百文トシテヲサムル事也

東海道スヂ尾張邊マデハ、永ダカノ村モ間リテアリ、上州綠野郡鬼石村三波川村ナド、無高無反別ニテ永ダカ也、鎌倉ノ寺社領尾張熱田ノ宮ナド、御朱印地モ永ダカ也

上方スヂ遠國ニハ右ノ如キハナキ事ニテ、中古石ダカ始リシ時分ハ、永一貫文ヲ高十石ニモ、十五石ニモ積タルト相見エ、慥ナル定法モナキ所、關東御入國ノ節、慶長年中伊奈備州檢地ノ時ヨリ、永一貫文ニハ籾五石納ル事始リ、其後籾ヲサメ相止、石ダカ等替リテモ、右ノ引付ヲ以テ永一貫文高五石代御定法ニナリタリ、右一貫ヲ十石ニモ十五石ニモツモリ定リタル石ダカナシト云ハ、定メテ永ダカニテハナク、貫ダカノ事ニテアルベキヤ、右ニ記ス杉田村貫ダカ、當時ニ石代ノ勘定、又鎌倉ノ村鑑ニ、延寶二寅年、成瀨五左衛門御代ノ時、貫ダカ一貫ヲ石ダカ一石八斗七升、一石八斗八升ナドニテ高付ノ村アリテ區々ニ聞ユ、永ダカハ御當代ニナリ、五石代ニキハマリ、今ハ小物ナリ金等ノ正永ヲメカニ結ビ、五石代ニスル、昔貫ダカハ國々ニ有タル由ユヱ、今諸國ニモ遺法アルベキカ、遠國ノ事ハシラズ、永ダカハ關東尾州邊マデニカギリタル事ナルニ、今ニ至テハ貫ダカ永ダカ混雜シテ辨ル者少ク、一串同名ノ樣ニナリ、勿論今ノ貫ダカ永ダカ共ニ、昔鎌倉時代ノ仕法ニテハナシ、昔ハ永盛ナドト云事ナク、中古天正以來ノ事トミエ、昔ノワケハ分ラズ、今關東永取ノ分、永一文ヲ米二石五斗

代ニ積リ、田ノ取米ニ加ヘ、免幾ツ何厘何毛ト厘付セリ、此二石五斗代ト云事、今ノ米相場ニハ一向引合ハヌ事ナレドモ、昔ハ米ノ直安ク、永樂錢一貫文ハ年貢籾五石納シ所、中古米納ニナリ、籾ノ半分米二石五斗トナリタル當リヲ以テ、今モ鄕帳ニ厘付ニ田永一貫文ヲ米二石五斗代ニセリ、尤百年以來米ノ直高クナリタルユヱ、實米ニ直スニハ二石五斗ヲ半分ニシテ、一石二斗五升代ニナル、然レドモ近年ノ當ニテハ實米トハ云難シトイヘドモ古法ヲ廢セズ、御定法ニナリテ、鄕帳五ケ年平均ノ所ハ、知行渡等ノ節、免ノ高下ヲ引合スル事ユヱ、一石二斗五升代ニテ取米ニ直シ、厘付スル事也

但、厘付ト云ハ、高ニテ取米ヲ除キ、幾ツ何分何厘何毛ト免ヲツケル事也

一 反高之事

新田取立ルトイヘドモ、荒地ニテ至テ惡地カ、又ハ澤沼ナドノ植出シ坡ノ外定ラザル地ナド、出水ノ度每ニオシ流ス樣ナル場所、反別バカリ檢地シテ、取箇ヲツケ高ニ入ラヌ田地ノ反ダカ場ト云、右樣ノ地所ヲ高ニムスビテハ、年貢ノ外ニ高役ノ諸掛リアリ、取箇ノ外ニタカニ掛リ物出ス故、一向ニ仕當ニ引合ハズ、作リ手ハナシ、亦作得モアル樣ニスルニハ、至テ下免ニセズシテハ成難キユヱ、タカニハムスビガタク、反別バカリニ年貢ノミ納ル事也

關東ニハ池多ク、反ダカノ所間々アリ、勿論村居等ナク、本村持ソヘ多シ、左レドモ一ガイニ村居ナシトモ云ガタシ、反ダカニテ一村相立アル所モ希ニハアリ、先ハ多分持ソヘ也、開發後追々地馴、タ

カ入ニモナルベキ地所ナレバ反ダカセズ、見取場ニシテ置、後年地ナレタル時、改メテタカ入ニスレドモ、前條ノ如キ地所ハ、始終トテモタカニムスビ難ク、反ダカニスル事也

一　小以高之事

小以高ハ、セカノ名目ニハアラズ、小ハノ事也、タトヘバタカ三百石ノ村、上田タカハ八十石、中田ハ百石、下田ハ百二十石都合三百石ノ所、上田ノ分幾口モ寄セ合セ、八十石ニナル所ニテ小以タカト云、尤タカニカギラズ、米金其外諸品幾口モアル内ニテ立タル所ヲ小以ト書、小ハト云事也、以ハ集止ノ字義、物ヲ集メ止タル事、内ニテ小サク集ルト云事ニテ、小以上ノ下略也

一　出目高之事

昔ノ見地ニテ、タトヘバ村ダカ千石アル所、何ゾ子細アリ亦新検ニナリタル時、千三百石ニ打出セバ、千石ハ古ダカ、三百石ハ出目ダカト云、亦ハ検地出ダカトモ云、上代ハ六尺五寸竿四寸竿モアリ、一反三百六十歩ノツモリ、天正・文祿ノコロハ検地ハ六尺三寸竿、一反三百歩ナル所、新検ハ六尺一寸竿ニテ、三百歩ニ付反別餘計ニナリ、其上古検ハ餘歩モ格別多ク、又ハ山附川ゾヒ空地アル村方ハ、地所切ソヘ等モアリ、カタガタ地廣ニナリタル故、新検ニナリテハ何レ村ダカ増也、左レドモ年々多分ノ川欠山崩亦ハ海欠抔ニテ、高内引ケ多ク、地所減少アル村方ハ新検ニナリテ、却テ高耗事モアリ

一　町反畝歩之事

新檢ハ田畑六尺四方ヲ歩ト云、三十歩ヲ一畝、十畝ヲ一反ト云、三百坪也、十反ヲ一町、十百町千町ト數ヘ、コノ町反畝歩ヲ惣名反別ト云、亦畝歩トモ云、反別ニ石盛其外何品ニテモ物ヲ割掛ルニハ、畝マデハ其マヽニテ置、歩ハ田法ニテ割、何畝何歩何厘何毛ト分ニシテ掛ル、又田畠ヲ坪ニスルニハ歩ハ殘シ、畝ヨリ十二三ヲ乘ズレバ、何萬何千坪ト歩ニナル、日本田圃數量ノ初リハ前ニ記ス如ク、孝德帝ノ御宇、田長サ三十歩廣サ十二歩爲レ段トアレバ、昔ハ三百六十歩ヲ以テ一反トス、此一歩ハ六尺四方也、中古六尺五寸ニ改マリ、又天正ノコロヨリ六尺三寸ニナリ、關東御入國ノ以後、慶長ノ末元和ノコロヨリ昔ニカヘリテ、六尺四方ヲ一歩トス、京都將軍ノ時代貫高始リ、三百歩一段ニナリ、天正文祿ノコロヨリ石ダカ始リ、其節ヨリ畝ト云名目始マリ、一段ヲ十ニ割、三十歩ヲ一畝ト極ム、秀吉公時代マデハ、大半・小半ト云一反ノ小割アリ、一反三百歩ニテ、其三歩二即二百歩ヲ大ト云、百五十歩ヲ半トシ、三分一ノ一百歩ヲ小トイフ、由テ天正文祿ノコロノ檢地ニハ、何段大何步、何段半何歩ナドト記シタル水帳アリ、畝ノ始マリシ以後ハ、大半小ノ員數ナシ、扨又今ハ田ニ反ノ字ヲ用ユ、昔ハ段ノ字ヲ書タリ、段ハ物ノ限リ、町モ田區ノ畔埒ノ字義也、唐土ニテハ田數小段町ト云事ナク、歩畝頃ト云、日本ノ歩段町ニ準ズ、唐土ノ畝ハ日本ノ反ナリ、頃ハ町也、今ノ三十歩ヲ畝ト云事、唐土ニハナキ事也、當世反ノ字ニ書カヘタルハ、略シテ字ノ半體ナルヲ誤リタルヲ知ラズ、其ママニカキ來シト見エタリ

一 無地高之事、付無地高ノ類ノ負高寺社ヘ不レ掛例

有來上中下ノ段別ニ石盛ヲカケヨセ付ル時、唯今マデハ割付高ニ不足ノ高ヲ無地高ト云、然レドモ石モリ散歩懸ナル村ニハナキ事也、作毛ノ外桑・桐・茶ナド多分アリ、積リ立米ニ直シ高ニ結ビ入、村高ヲフヤシタルモアリ、是等ノ類小物成ダカト名目ヲツケルモアリ、又ハ無地ダカト云モアリ、尤無地ダカハ大方高内引ニナル、右樣雜樹ノ物ダカニムスビ入ル分ハ、引物ニハ立ズ、割付等村ダカノ脇書ニ何ホド無地ダカト見セ物ニ記シ置、又ハ古檢ノ村方新檢入、何ゾ子細アリテ石モリ直リ、古代ノ石モリヨリ新檢ノ方低クナリ、反別ハ格引增減モナク、タカハ古ダカヨリ減タル所、村ダカハ減ジガヌク、地所ハナキユヱ、石モリ違ヒノ分無地ダカト云、タカ內引ニ立ルモアリ、或ハ昔ヨリ何故無地ダカニナリタルヤ其譯知レズ、タヾ仕來タリニテ村方モシラズ、斯ノ如モ多シ、何レニシテモ田畑反別ニ石モリヲカケ、タカ餘リタルハ、總テミナミナ無地ダカ也

一 無地高惣村親ダカニテ、タカ內引ニナリタルハ格ベツ、村中辨ヘダカニナリ、惣百姓ヘ割合セ等ニナル、負ダカ寺社ダカヘハ掛ザル例也、近年三州長澤村洞泉寺、同村ト負ダカノ事ニテ出入ノ節、無地ダカニテモ負ダカニナリタル如ク也、向後寺社ダカヘ不レ掛樣ニトノ御裁斷モアリシ事アリ

一 色高之事

桑漆楮茶青苧菅麥眞コモナドノ品、空地亦ハ畑廻リニ植立ツルノ分、其品ヲカゾヘ積リタテ、取米ヲ

付ダカニムスビ、村ダカニ組入ルヲ、總テ色ダカト云、慶安年中信州ノ檢地帳ニハ、野手米山手米ナドノ小物成ニタカヲ付、本途ダカ內ヘ入色ダカトシルシ、定五ツ取四ツ取モ見ユル、四木タカ等ハ其品ノ名目ヲアラハシ、桑ダカ楮ダカナド丶記スモアリ、亦其外ノ草木ヲ野ダカトシルス事モアリ、云様ハ種々ナリ、元來色ダカト云ハ小物ナリタカノ異名ノ様ナル者也、何レモタカニムスブ方ハ、其品ノ直ノ高下ヲ考ヘ、亦ハ納メキタル役米永辻ハ、一石ヲタカ二石、永ナラバ五石ガヘニ積リ、タカ入ニスル事也

割付郷帳等ニシルシ方、其時ノ役人心々ニテ、色タカトモ小物ナリダカトモ、或ハ其品ノ名目何ダカ入トモシルス事ト見エタリ、尤小物成ノ分タカニムスベバ、村々ヘ知行渡ノ節、物成結ニテ、定納小物ナリ米永ニタカヲ付、本途ダカニムスビ、小物成ダカト云也、又前條ノ品々昔ヨリタカニ入テナキ物ナドハ、其品ヲ檢地シテタカ入ニナリ、慶長年中美濃國檢地帳ニ、桑ダカ楮ダカアリ、何レモ十把ヲ一束トシテ、タカ一升ヨリ五升位マデアリテ一定ナラズ、其村右ノ木ノヨシアシヲ以テ附シ事ニヤ、左レドモ小物成ダカトハ少シ其故違フトイヘドモ、右信州ノ小物成ト、タカニ入タルハ色ダカト記シアルユヱ、區々ト見エテ、タカノ名目ハ、格別ニ定マリタル規則ナキ事ノ様ニ見エタリ

一　野高之事

野ダカハ大方山ダカニ似ヨリテ、秣場等入會ノ場所ニテモ、又持切ノ原ナドハ、萱立ノ野方ナド檢地

反別付タルモアリ、無反別ノ場所ニテモタカ入ニシテ、年貢ハ其村定免通リニ納メ、又ハ本ダカノ内ヨリヌキ付、高永別段ニ納ルモアリ、前條ノ苦參眞菰菅ダカ等野タカト唱モアリテ區々也．下總ノ海上郡銚子ナドノ野ダカハ、總テ入會ノ小松篶朶立林場ナドニテ、村ダカノ外ニテモ、矢張野錢ヲヲサムル也

一　海高之事

是ハ漁獵アル海山付村方ダカニムスビ、水帳ニ乘リ、本ダカ同樣年貢ダカ掛リ物勤ルモアリ、又水帳ニノラズ、村ダカノ外ニ海ダカ何十何石トシルシ、役金銀納ルモアリ、昔如何ノ事ニテタカ入ニナリタルヤ知レズ村方多シ、尤海山付ニハ總テ海ダカ有ニモ非ズ、海ダカアル村ハ、先ハ稀ニテ一定ナラズ、昔ヨリノ仕來リト見エタリ、勿論昔ヨリノ事トハ聞エズ、關東御入國以後ノ事トミユル、今モ海ダカアル村ニモ、海上ハ空クナル者ユエ、何方ヨリ何方マデタカ内ト定メタル事モナク、タカニムスブ方、何ヲ以テ高一石ト極メタルヤ知レズ、左レドモ其キハメタル時分ハ、當ナシニタカニモ入マジ、定テ小物ナリノ如ク、其所ノ漁獵或ハ海藻ノ所務ヲ積リ、金銀何ホド取ル浦方ニ付、米金銀何ホド納メテヨロシト、田地同然ト見テタカニムスビシトミユ

浦方ニテモ年々所務アルユエ、タカニムスビ年貢役金銀納テモヨイト思ヒテ受タルナルベシ、然ルニ田畑ハ年々種ヲオロシ立毛生ズレバ、末代盡事ナシ、然レドモ田畑サヘ流作不定ノ地ハタカニ結バズ、

反ダカナドニシテ置、況ヤ海川ノ獵亦ハ水草ノ所務ニ於ヲヤ、浦ノ樣子アシクナルカ、亦ハ風雨ノ變ニテ魚寄ラズ、尤魚ハ生物故、己レガ住ヨキ所ヘ至ル、然レバ今日魚ハ集ルトモ、明日ハ覺ツカナシ、水草ハ非情ノ者ナレドモ、是トテモ根ノツキル事アリ、種ヲオロシ肥シヲ加ヘ、耘シテ生育スル作物サヘ、時ノ變ニヨリ水旱蟲等ノ難アリテ一定ナラズ、魚去リ水草枯ツクシタル時ハ、手入モナラズ、海タカハ所ノ負ダカトナル、其村ノ有ン限リ永代ノ害也、中古改リテ海河ヲタカニムスブ事停止ニナリテ、今ハ何ホド大獵アル所ニテモ、役米運上ハ格別、新規ニタカ入ニハナラズ由尤ノ事也

下總海上郡銚子領ノ海ダカハ、元和ノコロ始リ、又元祿年中私領上知ニナリ、設樂勘左衛門御代官ノ節ヨリ始リタル村モアリ、尤モ何レモ村ダカノ外ニテ、本途ニハ入ラズ、海ダカ十石ニ役永凡一貫文ホド宛納ム、村ニヨリ少々員數不同アリ、昔タカ入ノ故由糺ストイヘドモ、今知ル者ナシ、勿論是ヨリ是マデノ界モシレズ、又同所川附並村ニモ、海ダカ無モアリ、越後蒲原郡信濃川五十嵐川ナド、魚獵アレドモ、海ダカナシ

一　山高之事

村中入會ノ山アリ、山カセギスルニ付、山ダカヲ本途並ノ年貢ヲ出シ、村ダカニムスビ入ル、此山ダカムスビ様、檢地ノ節反別ヲ改ル事モナク、山カセギノ助成ヲ見積リ納來タル役米、其村ノ免合等見合タカニ直ス、又ハ村ニヨリ新檢ヲ請、古檢ノタカニ不足アル時、古ダカ減ジ難ク、山稼モアルユヱ

山ダカヲウケ、本ダカニ合セ置事モアリ、又ハ檢晭ニモナキ山ハ反別改、田畝石盛ノ位ニ順ジ、タカニムスブ事モアリ、又下々畑山畑ナドヽ云名目ニテ、實ハ畠ニ非ズ、僅桒立木ノ山アリ、是等ハヤマダカトハ云ハズ、畑ダカニ入ル也

一　桑高之事

檢地ノ節クハ畠タカヅメハ、桒二尺繩ニシテ一束ヲタカ三升ノツモリ、若ホキ短キ時ハ二升ニモ積リ、クハノ大木ハ葉ヲコギ取事ユヱ、右ノ束マハリニ準ジ見ツモル事也、クハ畠並位付アル畑ヘ植付アルクハニ、クハダカ別ニムスビ入テハ、二重ダカニナル故、クハダカハ付ズ、勿論クハノ間々ニ作ル物ハ、木陰ニナリテ出來形ヨロシカラズ、故ニ檢地ノ節、上場所ヲ下ニモ下々ニモ位付スベキ事ナリ、檢地以後地主ノ勝手次第ニ、畑ヲツブシ、クハ仕立タルハ、クハダカ付べキ事ニ非ズ、尤畠ノマハリ空地ニ仕立ルカ、亦ハ原荒野ナドノ燒地ニ仕タテル分、クハダカニ付テヨロシケレドモ、昔ヨリナキ事ナラデハ高ニムスバズ、右タカノ當ニ准ジ、クハ年貢申付テ可レ然、束ニスル刈桒ハ葉性ヨロシキ大木ニシテ、葉ノコギ取ハ葉性モヨロシカラズ、分量嵩高ニ見エテモ、莇クハホド無事ユヱ、束數積時其心得アルべキ事也、大小ノクハ上州利根郡甲州郡内領等ニアリ、元來地性ヨロシカラス所ニアリ、又奥山家ナドニテズバイヲ切レバ本木枯ルユヱ、刈桒ニハナリ難シ、大木ニシテ置、葉ヲコギ取事也、クハ高ノ事、昔ハ前儀ノ通ニスルトイヘドモ、近年ノ檢地等ハクハ高ト云事ナク、クハニカギラズ、楮

茶漆等ニテモ畑ニアル、檢地ノ節植物ニカヽハラズ、土地ノ位ニテハ石モリ付致ス樣ニト被ニ仰出ハ當時ニテハ畑ニクハ類アレドモ、植物ニハカマハズ、畠並其土地ニ合フ位ツケスルユヱ、古檢ノ村ハ格別。新檢ノ村方ニハ、クハ高ト云事ハナシ

一　楮高之事

楮高付ルモ、クハダカ同樣ニ改メ、一束ダカ五升ニ積リ、或ハホキ短キハ、三四升ニモ極メ、其外取計方クハダカ同樣也、尤クハ楮モ民家助成ノ事ハ、格別勝劣ナシトイヘドモ、クハハ葉トモニタバネ、楮ハ枝ノミタバネル物ユヱ、同ジ三尺繩ニテモ正味多少アルユヱ、楮ノ方高ヲ多クスル事也、是又畠ニアル分、今ノ檢地ニハ、植物ニハカヽハラズ、地位ニヨリテ石モリ付ル也

一　ツカミ高之事

田畑無反別ニテ、村ダカノミアル所アリテ、檢地時代モ知レズ、勿論水帳モナシ、何ヲ以テタカヲツケタルト云事知レズ、是ハ昔タカ反ベツ等ナキ稻ノ束數ヲ以テ年貢ヲ納メ、百姓持地モ何十束刈トシテ、田地ノ取ヤリモタバ數ニテナシ、其後貫ダカ永ダカ等追々始リ、諸國檢地アラシムル所、至テ偏土ナドハ、昔ハ人モ通ハヌホドノ所モ、度々ノ檢地ニモ洩レ、或ハ文祿慶長以後開發ノ村、遠境僻土故國府ヘ知レヌ村ナドアリシニ、後世ニ至リテ年貢納ル樣ニナリ、百姓小前面々持分ノ高ハ積ラズシテ、一村一ツカミダカト唱ル、如レ此ノ村ハ總テ定免ニテ、小前ノ石ダカハナク、取米ダカヲ面々持ダ

カトシテ、諸役並人夫等モ取米迄ニ掛ケテ勤ル、永禄年中江州淺井ノ幕下ニ、多羅尾何某ト云人、淺井亡シ後、同國甲賀郡ノ山中ヘカクレ、始テ村居ヲナシ、今多羅尾村トテ、高八百石餘ノ村アリ、ダカノミニテ無反別則ツカミダカ也、尤ツカミダカト云ハ詞ノミニテ、書物ニハ不レ記

一　除地高之事

除地ト云ハ、御朱印地ニツヾキ重キ事ニテ、寺社境内、並免田畑居屋敷等無年貢ノ御證文アルカ、亦前々檢地帳外書ニヨケ地トシルシアル分ハ、タカ有無トモヨケ地ニテ、其外ノ無年貢所ハ見ステ地ト云、勿論寺社領ナドタカ反別モアリ、又反ベツアリテタカハ無モアリ、無ダカ無反ベツノ場所モアリ、タカノ有分ハヨケ地ダカト云、其外ハヨケ地トノミ云也

村々墓所死馬捨場等ヲヨケ地ト思フ者アリ、是ハヨケ地ニ非ズ、檢地ノ節繩外見ステ地也、右ノ外ニモ道川溝ナド、檢地ノ時見ステニスル地所品々ナリ、何レモ水帳外書ニ記シ置也

一　除高之事

蠲キ高ト云ハ、寺社境内、或ハ神佛免等村ダカニ結ビ、タカ内引ニ立、年貢諸役ヲ勤メヌタカヲ蠲キダカト云、又年貢ハ納メ、外高ニ掛ル物人足等差出サヌタカ有ハ、タトヘバ三百石ノ村ニテ、二百五十石ハ諸役ヲツトメ、五十石ハ何ゾ子細アリテ年貢ハ納メ、諸掛リ物バカリ蠲クヲ蠲ダカト云、又ハ年貢諸役ハ村ダカ並ニツトムレドモ、普請人足ナド本田ハツトメ、新田ダカハ勤メヌナドヽ云類モア

リ、其品ニヨリ鬮クヲ鬮ダカト云、鬮所見ステ地トハ、故由違フ事ナリ

一　込高之事

是ハ御料所ニハナキ事也、私領村替等ノ節、タトヘバタカ五百石四ツ取ノ村ニテ、唯今マデ知行セシ所、此度上リ代知外ノ村ニテタカ五百石渡ル、此村ハ三ツ五分ノ村ユヱ、五分ダケ以前ニ取來タル村ヨリ物成不足ユヱ、五分ダケノタカヲ其村中ニテカ、亦ハ他邑ニテモ五百石ノ上ニ増シテ渡スヲ込ダカト云、勿論權ノ高下計ニテハナク、双方ノ邑小物成高掛リ、米永物成ヅメニハタカニ結ビ、多少ヲ見テ、物ナリ不足ダケ高ニテ渡スヲ込ダカト云、或ハ御加增所一萬石ワタル時下免ノ邑多ク、平均三ツ五分ニ當ラズ、三ツニアタル物ナリ、米三千石ニテ五百石不足故、米五百石ダケノムラヲ御增被下、一萬石ノ拜領ダカニ一萬二千石モワタレバ、二千石ヲコミダカト云、總テ公儀ハ二斗五升入百俵ダカ百石トツモルユヱ、知行高ニテハ三ツ五分御定法也

私領ニテモ、家中物成多分三ツ五分ナレドモ、四ツ物成迚、四斗入又ハ四斗二升入抔、百俵ニテ百石ニ極メタル家柄モアリ、或ハ知行物成ノ外ニ、高百石ニ付四人扶持六人扶持宛付タル諸侯モアリ

一　延高之事

最モ御料所ニハ無事也、知行渡ノ節、タトヘバ高一萬石物ナリヅメニナキ高ニテ引替ニナリ、只今マデノ領知ハ三ツ五分取ニテ、物ナリ米三千五百石納リタル所、此度ワタリタル領知ハ四ツ取ニテ、物

ナリ米四千石アリ、先知ヨリ五百石マストモ、拜領ダカ一萬石ノタカヲ減ズル事ハナリ難シ、物ナリハマスニカマハズ、一萬石ワタス故、マシ米五百石ダケノ高千二百五十石、此メカノ分延ダカト云、萬石以下ハ物ナリヅメニテ村ガヘ等アル故、知行割掛リニテ、村方割合先ヅハノベダカノ事

但、右ノベダカ仕出シ方ハ、先知行ノ取米三千五百石ニ當知行ノ免四ツニテ鐲ケバ、タカ八千七百五十石ニナル、一萬石ノ内右タカ引ノ殘ダカ千二百五十石ト出ル、此分ノベダカ也

一物成詰之事　附知行渡三ツ五分ノ始リ、並ニ永方貫代私領ワタシノ節、新田ワタシ方、並ニ取箇免上、私領ワタシニ付野山開發ノ心得

是ハ知行ワタシノ節、タカ百石ニ米三斗五升入百俵ノ當リニテ米三十五石、免ニテ三ツ五分ニアタル公儀ヨリ私領ヘワタル村ハ、免ノ高下アルユヱ、其村々ニ物ナリ本途並ニ小物ナリ、米永鄕帳組ノ分打コミダカ百石三ツ五分ニ當ル樣ニ割合、三ツ五分ヨリ高免ノ村方有バ、又下免ノ村ヲ差加ヘ、高ニカヽハラズ、物ナリニテ增減スル故、物ナリヅメト云、左レドモ拜領ダカ千石ノ物ナリ四百石免アリ、四ツニ當ルトテ、三ツ五分ニ當ル樣千石ノ高ヲ減少シワタス事ハナラヌユヱ、三ツ五分ニ當ルベキ村方ヲ糺シ割合ワタス、又本千石ノ村下免ニテ、三ツ五分ノ物ナリニ不足ナレバ、外村ニテ不足ダケノ米ニアタル樣、千石ノ上ニタカヲマシ、込高ニシテワタス、是ハ新地ノ事也、或ハ村ガヘ等アル分ハ、三ツ五分ニカヽハラズ、今マデ納メ來ル本途小物ナリノ石數ヲ以テ引カヘ、双方ノ村方本途小

物ナリニ打コミ、物ナリヅメニテヒキカヘ、昔ハ萬石以下ノミ物ナリヅメニテ、萬石以上ハ物成ニカカハラズ石高ニテヒキカヘル由、然ル所何レノコロヨリカ、近年萬石以上村ガヘ加增地等、物ナリツメニナリタリ、夫々國ガヘ等ノ節ハ、物ナリヅメニナラズ、有ダカニテヒキカユル故、國ガヘニハ甚損益アリ、或ハ萬石以上以下トモ加增地三ツ五分ヨリ高免ニアタル村方渡モアリ、時ノ振合也、又不首尾ナドニテ、領知ノ内一萬石ニテモ、二萬石ニテモヒキカヘ地等ニナル時ハ、是亦物ナリヅメニハ無ク、石ダカニテヒキ替ル事モアリ、扨又萬石以下ノ御役人知行所ヨロシカラズ、御役中御藏前取ヲ願フテヒキカハル時、是マデノ知行千石物ナリ二ツ五分三ツ位ニアタルトモ、御藏米ニテハ百石百俵ノ積リ千俵渡ユヱ、三ツ五分ニ當ル、如レ此類ハ物ナリヅメニハ無者也

一　知行渡ノ事、昔ハ役格ニヨリ物ナリノ多少アリ、永方ハ永一貫文ヲ米一石二斗五升ニ積リ、米ニ直シテ蘿ヲ付來リシ所、有德院樣御代、享保七年ヨリ蘿ハ三ツ五分ノ勘定ニ定マリ、永一貫文ニ米一石ニツモリ、三ツ五分ニテ渡ス事ニナリタリ

但二斗五升ガヘニテ米ニ直シ免ヲ付ル也、右物ナリヅメニナリ、小物成ノ事米永トモ定納モノニテ、鄉帳外書ニアル分組入ル、左レドモ諸運上請負人等アル年季モノニテ增減アリ、又ハ分一類年々增減ノ浮役ハ、タトヘ鄉帳組ニアルトモ、物ナリヅメニハナラズ、糺ノ上除ク、亦私領前々ノ仕キタリニテ定納モノ、品、鄉帳割付等ニ記サヌ分モアリ、畢竟不吟味故ニ付、若知行ガヘナドアル時、

如レ此品ハ其掛リヘ伺ヒ、鄕帳ニ組入差出シテ然ルベキ事也

物ナリヅメノ事ニ付、享保年中御吟味役辻六郎左衞門伺有レ之、御付紙相濟タル分、左ノ通

一　新地并ニ御加增被レ下候節、知行割付仕候節、御役儀ノ格式ヲ以物成著付ノ高下、從ニ前々一ノ例ヲ以御勘定所ニテ割合仕來候得共、知行被レ下候儀ハ、御役儀ノ格ヲ以物成積リノ多少ノ差別可レ有レ之樣無ニ御座一候、自今ハ三ツ五分ニ相極被レ下候テ可レ然奉レ存候、品方永取ノ分一貫文ヲ、米一石二斗五升代ノ積リヲ以致ニ著付一來候得ドモ、自今一石替ノ積割合可レ然奉レ存候、以上

御附紙　金一兩ニ付米一石ニ積リ候儀ハ、前々ヨリ御勘定所ノ法ニ候間、時ノ相場ニカヽハリ不レ申、一石代ヲ以テ米ニ積リ來候ヘドモ、知行割計ハ本文ノ通リニ仕來リニ候

一　昔ヨリ私領渡ノ節、高百石內ノ新田ハ込高ニシテワタシ、百石以上ノ新田ハ本高ニ入レワタス御定法也、然所先年間部若狹守越前國替ノ時、五萬石ノ內五百七石程ノ小キ新田有レ之、此分モ本高ニ結ビ入、五萬石ノ高ニ合セワタシ國替ニ成、若州ニ限リタル事カ、又昔ノワタシ方ハ御定法改リタルカ、向後ハ右ノ類伺ヒノ上、御下知ノ上可レ計也

一　御代官ヨリ私領ヘ知行ワタシ有レ之村、私領ヘ請取タル上、物成ノ儀御料所ノ取箇ヨリ、私領ニテハ、免合上テ取ハ定格ノ由、享保年中御代官辻六郎左衞門覺書ニ記有レ之、此事私領ニ成くルトテ、無體ニ可レ上事ニハ有マジケレドモ、御料ハ廣大ナル故取箇モ緩ク、私領ニ成テハ領主地頭ノ所領小

キ故、物成上テモ不レ苦トミヱタリ、然ドモ其村々ノ取箇、元來强弱ニモ寄、又舊知村々ニ比べ强弱見合セ、勘辨ノ上免相可レ進也、賦税ヲユルクスルハ仁政ノ元ナレドモ、卒忽ニ可レ上事ニ非ズ

一　地方功者ト云人々ハ、御料所野錢山錢等納ル場所、百姓勝手ニ付テ田畠ニ開發イタシタキ旨ヲ願ヒ出ルトキニハ、色々ト吟味ノ上ニテ、如何ニモ其所ハ高入ニナルベキ場所ハ格別、左モナキ見取場ニテ差置體ノ所ハ、タトヘバ野山錢ト見トリ米永ト差引、見トリノ方格別御益ニナルトモ、開發ハ不可也、其故ハ知行渡ノ時、野山錢ハ物ナリ詰ニテ、高ニ結ビテワタス、見トリニ成レバ高外ニテワタスユヱ、當時少ノ御益ノ様ナレドモ、知行渡ノ節御不益ニナルユヱ、容易ニ開發ハセマジキ由、或人ノ書記ニミヱタリ、是等ハ國政ニ預ル心ヨリシテハ些細ノ了簡也、公儀トシテモ、私領トテモ別ノ事ニ非ズ、今ハ私領タリトモ、又御領ニナル時節アレバ、天下ノ田畑殖ル事、至終ノ國益也、諸侯方ヨリ以下何レモ臣下ナレバ、下々ノ不爲ニナラザル樣、御政事取計フコソ御仁政トモ云ベキニ、目前公儀ノ御利益トサヘミユレバ、私領ノ民家ハ勝手ニナルトモ、カマハヌ樣ナ見識トミユ、タトヘ地方功者ト云トモ、不仁政ニテハ後々ハヨロシカラズ

一　四一高之事

是ハ國々ニアル高ニハ非ズ、奥州伊達信夫宇多三郡ニ用ヒ、此高ニテ仕出ス役錢七百文替出目ト云、高掛リ小物ナリ有ユヱ、其年ノ取米ヲ以テ掛タルタカ也、由テ年々不同アリ、郷帳ニハ右小物ナリノ

居昔ニ、四一ダカヲ記シ置、右二品ノ納物他國ニ聞及バズ、奥州ノ内ニテモ、此三郡ハ七百石代ノ場所ユヱ、年貢納高他郷ニ稀ナル安石代ナレバ、取米ニ掛ル大ナル小物ナリアルトミエタリ

但四一仕出樣ハ、本途見取總トリ米ヲ四一ニテ除キ、位ヲ一位上、四一ダカト云、タトヘバ取米千石ヲ四一ニテ除ケバ二百四十三石九斗二合四勺二才トナル、是ヲ一位上テ二千四百三十九石二斗四合二勺ト見テ、四一高ト云

一四一高ノ始リ區々ニシテ、詳ニ知ル者ナシ、一說ニ、右高ニ掛ル夫錢昔ヨリ引付ノ高掛リ物ナリユヱ、昔ハ四ツ一分ノ定免ナル由ユヱ、四ツ一分ノ厘ヲ以テ當時ノ取米ヲ鬮ケバ、昔ノタカニナリ、古ダカ百石ニ引付ノ夫錢永六百文ヅヽ掛ル爲、四一ニテ本途取米ヲ鬮キ、古ダカヲ捺ト云、右ニ云如ク、四一ニテ鬮キ、一位上テ四一ダカニスルヲミテハ、四ツ一分ノ免ニテ、古ダカヲ仕出ス法當然トミエタリ、然ルニ何レノ頃ヨリカ見取米ヲ加ヘ、當時ハ本途看取總取米ヲ四一ニテ鬮ク、看取ハタカ外ノ物ナレバ、古ダカニ返スニハ、前條ノ通リ本途ノミノ筈也、今看取米ヲ加ルハ不審、若何レノ年カ誤リテ看取米ヲ加ヘ、其後ヒヤ付ニナリタルモ知レズ

但高ニ免ヲ乘ズレバトリ米出ル、トリ米ヲ免ニテ鬮ケバ高ニナル

又一說ニハ、奥州御代官長谷川庄五郎考ニ、四一ダカト云ハ、本途ミトリ總トリ米ヲ四斗一升俵ニ直シタル俵數ニテ、知行物ナリ等百石百俵ノ積リ、一俵ヲ一石ト見タル事也、夫錢ハ苞掛也、勿論ーリ

米ニカヽル品ナレバ、苞ニ直サズトモ、取米一石、夫錢何ホドカケテモヨキ事ナルニ、苞ニ直シタル故ハ、七百文替出目ト云カヽリ物アリ、是ハ本ト見トリ永ニ口永ヲクハヘ、夫ニ右ノタカカヽリ、夫錢並ニ足前秣木役ト云定納小物ナリ永共三口ヲクハヘ、總テ永ニ出目永掛ル時、物ナリ米一苞ニ永十文ヅヽ諸カヽリ入用ヲ免ジ、殘永ヲ元永トシテ、出目永ヲカケテ取立ル、右一苞當リノ諸入用ヒクニハ、タハラニ直サズシテハ成難キユヱ、一同タハラニ直シ置、夫錢モタハラモカヽリニシタルベシトノ考ナリ、何レモ後人ノ評ニテ、昔其始リ知ル者ナシ、左レドモ四ツ一分ノ免ニテ、古ダカヲ仕出スト見ル方、理近カルベシ、四斗一升苞ニ直シ、一苞ニ永十文ヅヽ諸入用ノ爲免スト云モ、其故分リ難シ、四一ダカ永一貫文ノ位ト見テヒキ落シ、殘リヲ元永ニ立ル事、何ユヱヒキオトスニヤ、其意知レザル故、長谷川氏ノ考ニ、諸ガカリノ入用ニ、一苞ニ永十文ヅヽ免シテ、跡ヲ元永ニ立ルトノ意ナルベシ、兩說何レモ是非極メ難シ、夫錢足前秣木役七百文替出目ノ事ハ、奧ニ記ス

一　二十貫百石之事　附永ノ四割高ノ二割替五石替ノ事、上方關東物成寄合差ノ事

二十貫百石ト云法昔ヨリ定リアリ、永ダカ二十貫文ハ石ダカニ對ス、今永ダカ村並小物ナリ等ニ結ブニハ、永一貫文タカ五石替ノ定法ニナリタルモ、昔二十貫百石ヨリ始リタリ、又永ノ四割ガヘト云ハ、タカ百石ヲ二ニ鐲テ取米五十石ヲ得、二ニ鐲ク故ニタカノ二割ガヘト云、永ダカ二十貫文、石ダカ百石ノ取米、五ツ取ニシテ米五十石ヲ、タカ永二十貫文ニテ鐲ケバ、永一貫文ニ米二石五斗トナル、取

米五十石永二十貫文ニ對用シテ、永十貫文米二十五石ニアタリ、タカ百石ノ米モ五ツ取ニテ五十石、永二十貫文ニ對用スルユヱ、米二石五斗永一貫文ニ當ル割、關東二石五斗代ノ始也

二十貫文ヲ法ニシテ永ヲ錣ケバ石高ヲ得ル、永ニ高五石ヲ乘ジテモ同然也、尙二石五斗代、一石二斗五升代ノ事ハ、末ノ條下ニシルスベシ、則チ二十貫百石ノ算法如レ左

一 永高二十貫文　何村

此取米五十石　但二石五斗代

永高十貫文　田方

此取米二十五石　但二石五斗替

內

永高十貫文　畠方

此取米二十五石　右同斷

此永十貫文

一高百石　何村

此取米五十石　高免五ツ

高五十石　田方

此取米二十五石　免五ッ
内
高五十石　　　　　　畑方
此取米永十貫文　同免
此米二十五石　二石五斗代
右ハタカヲムスブ法ニテ、田畑六分違ト云根元也
一　永一貫文タカ五石ニカユル始リハ、相州三州邊永ダカノ村、田畠千坪ヲ永ダカ一貫モンニ當ル、右千坪田法ニ三ニテ割ケバ三反三畝十歩トナル、是ヘ十五ノ石盛ヲ乘ジテ高五石ニナル、是檢地ノ法、凡一ツボ一升毛ノ積リ、一反ノ籾三石、五合ズリニシテ米一石五斗トナル、則十五ノ石モリナリ、是ヲ乘ジテ永一貫文、高五石ニ代ルナリ
一　國々所々色々ナル石代ノ法アルハ、元來土地ノヨシアシ、諸穀直段ノ高下ヨリ起リ、軍役騎馬積リナドハ、國々遠近、又運送ノ長短等ヲ以テ、知行物成ヲ積リタルト見エタリ、其故ハ上方知行ト奥州仙臺知行トハ、一倍知行ト云、上方ハ二十貫百石、仙臺ハ十貫百石トツモリ、上方知行百石、仙臺二百石ニ對用ス、左レバ上方關東ハ永ノ四割ガヘニテ、タカノ二割ガヘト知ルベシ、仙臺ニ限ラズ、奥羽越後又九州等ノ偏鄙僻境ハ其心得ヲ以テ知行渡シ、石代等ノ事勘辨スベシ

一　田畑六分違之事　附一五之法始

田畑六分チガヒト云ハ、石盛取米トモニ田畑ノ勝劣ヲ以テ、位ヲ分タル古法也、石盛ハ末ニ記ス如ク、田畑トモ上中下二ツ劣リニテ、田畑對用スルニハ、上田ノ石盛中田ノモリ同然ト云傳ルヲ、中田ノ石モリヲ直ニ上田ニ用ルト思ノハ誤也、中田ノモリ同樣ニスルハ假石モリニテ、夫ニ田六分チガヒノ六ヲ乘ジテ、則上田ノ實石モリニナル、タトヘバ上田十二、中田十、下田八、下々田六ナラバ、上田ハ中田ノモリ十ニ六夊チガヒノ六ヲ乘ジテ六ノモリニナル、夫ヨリ中下下々ト二ツ下リニ、石モリヲ付ベキ事ナルニ、近年ハ六分チガヒノ古法ヲ知ラスニヤ、大方上田ヲ下田ノ石モリト對用スル樣ニ付ル事、檢地ノ法ノ樣ニナリタリ、六分チガヒニテハ、中田ニ上畑ハ四分劣リニ當ル、直ニ用ルナラバ、下々田ノモリニ對用スル事ナリ、則六分チガヒノ法如レ左

上田一反步　石モリ十二

此米一石二斗　高ニ五ツ

此取米四斗八升　實藿四ツ

是ハ石モリ樣ル時、ツボ割一ツボニ一升毛、一反三百ツボニ籾三石アル內二割引二石四斗ト成、五合ズリニシテ米一石二斗アリ、是十二ノモリ也、五分々々ノ取ニシテ、米六斗ノ內又二割引四斗八升ノ反取トナル、五分取ノ內二割引ハ四公六民ノ積リ也、高ニ結ブニモ、二割引取ヲ付ルニ

モ、二割引都合四ワリノ引ニスル事古法也、五取ト記スハ空毛ニテ、實ハ四取ナリ、上方關東ト
モ如レ斯、反取ヲ四除シテ石モリ知ル也

中田一反歩
此分米一石　石モリ十
此取米四斗　實毛四ツ

下田一反歩　石モリ八
此分米八升　實厘同斷
此取米三斗二升　平均石モリ十一ニ當ル
小以高三石　平均五ツ取
此取米一石二斗　實厘四ツ

上田一反歩　假石盛十也
此分米一石　石モリ十
此取米四斗　高五ツ
此永百十六文　實厘四　二石五斗替

中畑一反歩

此分米八斗　　右同厘　石モリ八ツ

此取米三斗二升

此永百二十八文　　右同斷

下畑一反歩　　右同斷　モリ六ツ

此分米六斗　　厘同斷　石モリ同斷

此取米二斗四升

永九十六文　　平均八ツ高五ツ

小以高二石四斗　　貢厘四ツ

取米九斗六升　　二石五斗替

永三百八十四文

田畑合高五石四斗

取米二石一斗六升　　貢免四ツ

內米一石二斗　　田取米

米九斗六升　　畑取米

永三百八十四文　　二石五斗替

畠ハ假石モリ、田畠同免、畠米ハ二石五斗代、假直段ヲ以テ取永極、田ハ實米、畑ハ空米也、六分違ニテ、畑石盛並畑實米直段左ニ記ス、由テ石盛下ル故、高ハ減ズレドモ取米ハ減ナシ、畑ニハ米ナキ者ナレバ、米ノ反取有ベキ故ナシ、左レドモ免ヲ付ルニハ米無テハ成難キユヱ、六分違ノ直段ヲ以テ、假ニ實米ノ反取ヲ付シ者也

上中下田右同斷

小以高三石

取米一石二斗

上田一反歩　　中田石盛十ニ六分違

此分米六斗　　石盛六ツ

此取米二斗四升　　免四ツ

此永百六十文　　一石五斗ガヘ

是ハ假石モリ中田竝十ニ六分違ノ六ヲ乘ジ、實石モリ六ツヲ得ル、實釐四ツノ免ヲ乘ジテ、取米二斗四升トナル、六分チガヒノ法一五ニテ除キ取永ヲ得ル、一五ノ法ト云ハ、二石五斗ノ直段ニ六分チガヒヲ乘ジ、實米一石五斗ト成ル、則米ノ實直段也、又假反取四斗ニ六ヲ乘ジテモ、二斗四升ノ反取ヲ得ル、中下トモ何レ同ジ事也

中畑一反歩　下田石モリ八ニ六分チガヒ
此分米四斗八升　石モリ四ツ
取米一斗九升二合　免同斷
永百二十八文　直段右同斷
下畑一反歩　下々田石盛六ニ六分チガヒ
此分米三斗六升　石モリ三六
此取米一斗四升四合　免同斷
直段同斷
此永九十六文
小以高一石四斗四升　免四ツ
此取米五斗七升六合　一石五斗替
此永三百八十四文
田畑合高四石四斗四升
此取米一石七斗七升六合　免四ツ
內一石二斗　田取米

五斗七升六合　　畑取米

此永三百八十四文　　一石五斗替

右ノ通六分チガヒノ法ヲ以テ石モリニ直ストモ、取米永チガヒナシ

一田畑六分チガヒ一五ノ法ト云ハ、高百石五取田畑取分ヨリ始リタリ、タトヘバ

高百石

此取米五十石　　高ニ五ツ取

内米二十五石　　田方

米二十五石　　畠方

此本米十五石　　田畠等分ニ取分タル米也

術曰、高百石ニ免五ツヲ乗ジテ取米五十石ヲ得ル、田畑半々ニワケ、畠米二十五石トナル、是六分チガヒノ六ヲ乗ジテ本米十五石ヲ得ル、是畠ノ實取米也、亦永高二十貫百石ノ積リヲ以テ見ル時ハ、永十貫文高五十石也、此取米五ツ成ニシテ、米二十五石ニ六分ヲ乗ジ十五石ニナル、永十貫文ニ對スルユヱ、金一兩ニ米一石五斗替也、由レ之畑トリ米高ヲ一五ニテ除キ、畑トリ永ヲ得ルユヱ、一五ノ法ヲ用ル事也、是則畠永ノ實直段也、永一貫文二石五斗代ニカユルハ、田畠平等同トリニテ、高蘿ヲ見ル假直段也、二百五十石ハ實直段也、由レ之實米一石五斗ヲ假直段二石五斗ニテ除ケバ六ヲ得ル、是田六

分チガヒノ始也、其故ハ二石五斗ハ田畠同免平等ノ直段、一石五斗ハ畑バカリノ直打ニテ、一石五斗ハ二石五斗ノ六分ニ當ルユヱ、田ハタトリ、米六分チガヒト云

一　籏附八之法之事

籏付八ノ法ト云ハ、二割半ノ法也、此八ノ法ヲ用ユル事、タトヘバ田畠高百石五ツノ免ニテトリ米五十石等分ニテ田米二十五石、畠米二十五石ニ六分チガヒヲ乘ジ、實米十五石トナル、田畑ヲ合セテ四十石ナリ、平等ノトリ五十石ノ内是ヲ引、殘十石ヲ實ニ置、四十石ヲ法トシテ鐲ケバ二割半トナルナリ、是ニ元一ヲ加ハヘテ、一二五ヲ法ニシテ一ヲ鐲ケバ八ヲ得ルナリ、是ニヨリテ八ノ法ヲ用ユル高厘ヲ見ルニ、田トリ米二十五石ニ畑トリ永十貫文、一五ノ法ニテ此米十五石ヲ加ハヘ、四十石トナルナリ、八ニテ鐲ケバ田畠トリ米五十石トナルナリ、是亦タカニテ鐲キ厘ヲエル、是永方二石五斗代五ツ取ノ法ナリ、又畠永ニ二石五斗ヲ乘ジ、米ニシテ田米ヲクハヘテモ五十石トナルナリ

地方凡例録卷一終

地方凡例錄卷二

目錄

地方凡例錄卷二

一 檢地之事、附居檢地 水帖發 古來檢地 御條目 新田檢地御條目

檢地ハ土地經界ヲ改メ正スノ總名ニシテ、田畠ニ竿繩ヲ入反別ヲ改メ、土地ノ位ヲ糺シ、石盛ヲ附、石高ヲ定ルヲ云、國ノ盛衰民ノ安危ニ依ルコトニテ、其理ヲ辨ヘ其事ニ堪ル人ニ非ズンバ任セ難シ、先郷村ノタカヲ極ル事第一ニ可レ考、田畑薄地ニシテ石盛タカキ時ハ、縱租稅ヲ雖レ省民衰ヘテ、武家モ亦軍役足ラズ、石ダカ土地相應ナル時ハ、物成不レ減シテ百姓モ渡世タリヌ、因レ茲地制ノ調タル、地方ヲ領スル家ハ、軍役ヨク勤リテ、禮義缺ル事ナク、民ハ農業ヲ快勤テ、又ヨク法令ヲ守ル、是文武兼備、家安泰ノ本ナルベシ、ユヱニ仁政ハ經界ヨリ始ルト云リ、地方ヲ司ル者此道理ヲ辨ズ檢地ヲ致シ、地壘石ダカノ加ルヲ功トシ、或ハ租稅ヲ厚ク賦シテ、物成ノ增ヲ忠トスルトキハ、必政道ノ煩トナルベシ、異朝ノ昔井田ノ法有トイヘドモ、聖代ノ道其理高遠ニシテ、百代ノ末ニ於テ其事ヲ用ルニ便ナシ、今用ル所ハ田方百石ノ地割ヲ以天下ニ推及ボシ、檢地賦稅ノ本トス、譬バタカ百石ノ村三ッ五分之物成ヲ納ルトキ、三十五石ノ米ヲ以武家百石ノ軍役勤ル事、古今ノ通法也、其餘計ニテ百姓家數六軒人數三十人餘ノ渡世、此制法地面ヨキ所二百間四方ヲ一村トシテ、其內百姓屋敷ヲ立、畔井堀道ヲ付、

竪横ニ地割スレバ、田十町畑六反有、屋敷際二町歩ヲ上田トシ、其次中田三町、村端野末下田五町、屋敷附畑六反、屋敷六反、藪敷六反。外空地五反程、爲ニ諸用ニ殘ス、是ヲ二三五ノ法トイフ、尤村々右ノ割ニ可レ成事ニハ非ズ。山野ニ附タル村、或ハ他郷入合ノ田畑抔アリト雖、不ニ一定一、大ムネ二三五ノ法ヲ元トシテ、其土地ニ依テ考アルベシ、右割合ノ圖左ノ如シ

田方百石之地割大圖

二百間四方ヲ四十間四方宛二十五ニワリ、西北ノ隅四分ヲ居村トシテ、其内ニ上畑藪敷取、中一分ヲ明地、村附二方ヲ上田、其次二方ヲ中田、末折廻ヲ下田トス

高二十四石
上田二町歩　石盛十二
高三十石
中田三町歩　石盛十
同四十石
下田五町歩　石盛八
同六十石
上畑六反歩　石盛十

小以高百石

屋敷一軒前三反歩

內一反歩　家下庭園　同　藪敷　同　上畑

一石盛ハ上田一坪ニ籾一升、一反ニテ三石也、二割ヲ減ジテ二石四斗、又半減米ニシテ一石二斗、
是上田ノ石盛十二、二ツ下リニテ中田十ヲ、下田八ツ、畠ハ中田ニ准ジ十ト究、タカ百石ニナル、二

ヲリ減ルハ、干減籾等ヲ除クニアラズ、干減籾ハ外ニシテ、正實一升ノ内二ワリ減ルハ、種代五分欠米五分、年々損毛一ワリト積リ、正籾ノ内二ワリ引キ、石盛究ル也、勿論水旱損百姓ノ貧福ニ依リ、稲出來形善惡アル事ナレバ、坪苅ニ用ルハ大數ノ目當ニテ、第一ハ土地ノ善惡、乾濕淺深用水カケヒキ、肥養收納ノ勝手等諸事ヲ考合セ、石盛ヲキハメル事也、春法籾一升ノ村ハ上郷ナレバ、中下ノ村右ニ准ジ究ムベシ、扨又租税四公六民ト積レバ、四ツ物成ニ當ル、然レドモ上ノ村許ハコレナク、一坪籾八合以下ノ村多ケレバ、平均三ツ五分ト見テ、公納三分半、百姓作德六分半ノツモリ、米三十五石ニテハ、高百石ノ軍役ハ勤ル者ナリ、村々異同ハアレドモ、高百石平均凡米百石トミテ、作德米六十五石、百姓六軒凡人數三十八人ノ扶持方米五十四石ヒキ、殘リ十一石ニテハ渡世成ガタキツモリナレドモ、農民ノ食物ハ武家ト違ヒ、雜穀菜物草根等ヲ交ヘ用ヒ、米バカリハ不レ食ユヱ、扶持方ノツモリ餘程アマリアリ、又田畑雜穀共收納スル處、如何ホド土地アシキ村ニテモ、格別ノ損ナケレバ、高百石ノムラニテ、米ニ積リ百二三十石ハ取レルモノナリ、衣帶農具等ノ用ハ、イヅレノムラ方ニテモ、農具ノ外男女ノ稼相應ニアルモノニツキ、右ノ割ニテハ、地頭ハ軍役調、百姓ハ渡世足リ、國郡煩ナカルベシ、然ルニ檢地ノ仕方宜シカラズ、賦税ヲ重クシ撫民ノ心ナケレバ、國家亂レ上下困窮ノ基トナルコトヲ辨フベシ、尤右ニ述ル處ハ檢地ノ古法ニシテ、今ノ檢地ハ公儀御條目アリテ、古法ニ而已難レ依、當時ノ振合ヲ以テ檢地致スベキ儀トイヘドモ、大ムネ前書ノ意ヲ含ミ、萬民後代ノ安否ニ拘ル所ヲ不

レ忘、農役ニ於テ最モ念入ベキ事也、新田畑ハ格別、古田畑再檢ニナルハ、地廣地狹落地ニ二重打位違、或ハ川欠山崩切添等多キカ、出入アルカ、隱田ノ訴人有レ之カ、無レ據譯ニテムラ方願出ルニ於テハ、吟味ヲ遂ゲ再檢地致シ、石盛等改ベシ、縱古檢地廣ノ邑方タリトモ、領主地頭ハ勿論、公儀ニテモ譯モナク容易ニ再檢入ル儀ハ無事也、田地ノ徑歩五尺ヲ以爲二一歩ト一記タル書アリ、上古ハ度量衡トモ大小ノ二樣有レ之、田地米穀ヲ計ルハ大升大尺ヲ用ヒ、土地ノ廣サヲ積ルニハ、大尺トテ一尺二寸ヲ用テ一尺トス、二寸宛延ル故、五尺ニテハ一尺ノ延、今ノ六尺四方也、大尺ノ五尺ハ、小尺ノ六尺ニシテ同數ナレドモ、後世ニテハ小尺ト云物ナシ、大尺小尺ノ譯知ル者少ク、斷リ無時ハ紛敷故、六尺四方ヲ一歩トシルシタル書モアレバ、見ル者疑モ有ベキナレバ、其譯ヲシルス、御當代新檢以後、一間ニ一歩宛加ル通法ニ成、六尺一分ノ間竿ト記ス事定法ニ成タリ、上古ハ六尺竿ナル所、中古ヨリ元龜頃迄ノ地ハ六尺五寸、或ハ四寸ノ竿ヲ用ヒタルノ由世俗申傳フ、イマモ上方筋遠國古檢ノ村々ニハ、六尺五寸四方ヲ一歩ト覺エタルムラ多ケレドモ、檢地帳ハ勿論、何レノ書物ニモシルシタルコトナシ、畢竟古代ノ檢地ハ至テ地廣故、申傳ヘタルトミエタリ、古モ土地ヲ量ルハ六尺二間ノ積リナレドモ、量地ノ捗行タメ、竿ヲ一丈三尺ニシテ、其中間ヲ提行、ナカヲ兩端ヲ地ニツケシルス時、地ヨリ拳ヲ大概二尺五寸ホドト見テ、六尺五寸ヲ弦トシテ、二尺五寸ヲ鈎トシ、算法ニ依テ股ヲ出スハ、地面六尺ノモノ二ツ有ヲ以テ、捗行ノ爲ニ古來一丈三尺ノ竿ヲ製シタルコトアリ、是ヲ後世誤リテ、六尺五

寸四方一歩ノ所モ有ト心得違タルベシ、勿論工匠家作ノ間竿ハ、六尺五寸或六尺三寸ヲ用ヒ、是ヲ京間ト云ヒ、六尺一間ヲ田舎間ト唱ヘ、今モ大厦高梁ハ都テ京間ヲ用ル事也、田舎ノ歩六間四方タル事ハ諸書ニモ見エ、本朝上古ヨリノ事ノミニ非ズ、夏殷周三代ノ頃、井田貢法助法モ六尺四方ヲ一歩ト定タルトミエタリ、尤世々ニテ尺ハ長短アリ、今本朝ニテ用ル所ノ曲尺ハ、商尺トテ殷ノ代ノ尺ナリ、中華ニテモ唐朝ヨリ用レ之、イマ和漢トモ同様也、夏ノ尺ハ曲尺ニテハ八寸三分三釐餘、周尺ハ六寸六分六厘餘ニアタル、日本ハ商法ヲ用ヒ、六尺四方一歩タル事古今ノ通法ナレドモ、古検ノ場所其所ノ申傳ニテ、六尺五寸或ハ四寸三寸ノ檢地ト云ツタヘタルヲ、今更論ズルモ無益ノ事ナレバ、其村々申ツタヘノ儘ニシテ、取箇ヲモツモルベシ、昔ノ一反ハ三百六十歩ニテ、一歩ニ籾一升トツモリ、一反ニ三石六斗、コレヲ五合摺ニシテ米一石八斗一升、三百六十日ニ割一日五合ヅヽ、一反ノ米ニテ一人扶持ノツモリヲ以テ、三百六十歩ヲ壹反ニ極タル由申傳ルト雖、何レノ書ニモ不レ見、尚田數三百六十歩ノ儀ハ、孝徳天皇ノ御宇、大化年中班田凡長三十歩、廣サ十二歩爲レ段、十段爲レ町ト定メ玉ヒシ事日本紀ニモミエタリ、扶持方一人一飯二合五勺ノサダメハ、ハルカ後世ノ事ナレバ、フチ方ノ割ニハ有間敷、三百六十歩一日一合ニアタル勘定ヲ以テ、後人附會ノ說ナル事決セリ、文祿年中秀吉公ノ依レ命、諸國檢地ノ時ハ、六尺三寸ノ竿ヲ用ヒ、一反三百六十歩ニ極ル、イマノ三百六十歩ニアタル、コレ又一反一人フチノツモリノ由申シツタヘル、此時ハ大半小トイヒテ、一反ノ小割アリ、大ハ三分二

二百歩、半ハ百五十歩、小ハ百歩也、然ルニ太閤検地モ三百六十歩ノヨシ世俗申傳フトイヘドモ、大半小ノ割リニテ、三百歩タル事歴然タリ、サテ又六尺三寸竿、三百歩ヲ六尺竿ニ直セバ、三百三十坪七合五勺ニ當ル所、六尺三寸ニテ今ノ三百六十歩程ニアタルト申ツタフモ、算數ニ違ヒ不審也、全ク古昔ノ三百六十歩ニ附會シテ申シ傳タル事ニヤ、マタ六尺三寸竿ノ儀、文祿ノ検地帳奥書ニ間竿ノ數ナシ、其外何レノ書ニモミエズ、併シ當時古検ノ村ハ、検見歩苅等公儀ニテモ六尺三寸ザホヲ用ヒ、村村ニモ古検ハ三寸竿ト覺エ、通法ニ成タルヲ、敢テ可レ爭事ニハアラズ、唯古書ニ見アタラズ、出ル處不レ詳儀ヲ述ルノミ、總テ地方ノ儀古書ヲ調べ、出所ノ穿鑿疎ケレバ、イヒ傳ニハ斯様ノ差ヒ多シ、御當代ニ成、慶長元和ノ頃ヨリ、検地ハ六尺一分ノサホヲ用ヒ、一反三百歩ノ積リ、依レ之古検ハ六尺三寸四方ヲ一歩トシ、新検ハ六尺四方ヲ一歩トスルニヨリ、文祿年中迄ヲ古検トイフ、慶長元和以後ヲ新検ト云、サリナガラ其比迄ハ諸事大ヤウニテ、検地等歩畦引四壁引等ニモシカト定法ナキトミエ、フルキケン地ノ分ハ悉ク田畠ノ廣狭アリ、検地御條目等天和貞享ノコロヨリ追々究リ、元祿年中飛驒國御検地ノセツ、御條目シカトサダマリタルヨシ、ソノ後有徳院様御代、享保年中關東所々、並大和國御検地ノ砌、古法ヲ糺シ取捨有レ之、新検御條目改リ、今コレヲ用ル、ヒキ畝高ノ結ビ方等、以前トハ大ニ違ヒタリ、依テ慶長元和ノコロ、検地ハ新検トモ難レ申、別テ文祿以前ノ検地ハ、一歩ノ寸尺モシカト不ニ相分一、餘歩等ハ猶以悉不同アリ、検地時代不レ知、水帳無クトイフ村方抔ニハ、一反ノ田二反

ノ餘モアリ、三畝ノ畑五畝八畝モアリ、甚地廣成村方モアリ。又ハ百石ノ村ニテ田畑百石分ナク、至テ地詰ノ村モ間ニハアリト雖、先ハ古檢ノ地ビロノ場所多ク相見エ、水帳有レ之モ當時ノ水帳ト違ヒ、役人姓名印形等ナキモアリ、姓名ハアレドモ、至テ麁略ノ水帳ニテ、當時ノ反別ニヒキ不レ合、名前帳面ヲ用ル村カタモ多クアリ、越後國蒲原郡抔ハ古檢ニテ、地廣ノムラ方多シ、就レ中新發田領ハ嚴有院樣御代、承德年中地改至テ地廣故、新檢ニ不一致、三百六十歩ヲ一反トシ、大歩二百四十歩、半歩百八十歩、小歩百二十歩ト、往古ノ檢地ニ取合反別附直シ、高モ古ヘ樣ダカノ如ク取、米辻ヲムラダカトシテ拜領タカニ合セ、諸役等取米ダカニ懸リ、本高ハ草ダカト云テ、名計リノタカニ相成タル由、夫ユヱ餘國ニマレナリ、イタツテ地ビロノ處ナリ

一　檢地餘歩之儀ハ、古檢ハ二割、新檢ハ一ワリ五分ノ餘歩ヲ差加、畔ヒキ一尺、畔際一尺ヅヽ除キ、兩方ニテ三尺ヒキテ、屋敷ハ四方一間ヅヽヒキテハ、屋敷畝歩無レ之樣相ナリ、或ハ町立タルヤシキ、隣家垣根境等ハ、一間ヅヽヒクコトハナリガタク、見計ニテ除レ之、又ハ藪林アル屋敷ハ、藪林ヲモ除キ繩ヲ入ル、若藪林等アル屋敷ハ見ハカラヒ、藪錢、林錢等申付ル儀モアリ、依テ古檢一反歩ハ一反二畝歩、新檢ハ一反一畝十五歩有ル筈タリトイヘドモ、檢地奉行ラノ心々ニテ、繩竿ノ緩ミ詰リ、又ハ繩請ル節ノ晴雨朝夕ノ違ニテ延縮アルユヱ、新檢ノ田地ニモ廣狹有コトナリ、勿論檢地ハ天下ノ大法、地方ノ根元ニテ、一旦繩入レバ、往々其繩ヲ以テ年貢諸役ヲ務メ、誠ニ民ノ豐窮、都テ檢地ニ

ヨル儀ニテ、至テ大切成コトナリ、強キ檢地ニテハ百姓末々及ニ退轉ニ、檢地所モ自ラ明キ地ニ成ル故、公儀地頭ニテモタカ計リアリ、年貢不レ納樣ニ相ナリ行、マタ弱キ繩ニテハ、不益ニ百姓ニ德川ヲトラセ、公儀地頭ニテ無レ謂損失有レ之ニツキ、檢地ノ仕方ハ悉入レ念、上下ノ爲ヲ第一ニ心得、奉行役人正路ニ致ベキ事故、古今トモニ檢地役人ハ正直潔白ニテ、地方功者ヲ隨分撰ト雖ドモ、其內ニモ若不吟味ニテ、狠戾ノ檢地奉行役人有レ之、民ノ難儀ヲ厭ハズ百姓ヲ苦メ、始終上下ノ爲善惡ヲモ不レ顧、少タリトモ畝歩多ク打出シ、自分ノ功ニ致シ度、無慈悲ノ役人ノ手先ニ掛リタル村カタハ、繩モ詰リタカモ增シ、末々村カタ困窮ノ基トナリ、果ハ公儀地頭ノ損失トナル事也、又民ハ國ノ元、百姓困窮スレバ國ノ衰微ニ及ビ、公儀地頭ノ爲ニ不レ成儀ヲ辨ヘ、御爲第一ニ心得、下ヲ憐ミ、別テ檢地ハ國土萬民末代ノ盛衰ニ拘ル儀ヲ勘辨イタシ、自身ノ功マタハ當時聊ノ德ニ不レ拘、篤實ノ役人掛レバ、下奉行竿取等末々ノ者迄吟味行屆、繩ノ延縮ナク、箇樣ノ手先ニ掛リタルムラカタハ、自ラ入用等モ少ク、當前ニテ正道ノ檢地請ル、末世迄ノ仕合也、然ルニ檢地奉行惰弱ニテハ、下奉行手附ノ者ドモ吟味モ不ニ行屆ニ就レ夫テハ不埒ノ筋、依怙贔屓ノ沙汰モ計リ難ク、諸事不吟味ユヱナリ、繩ノ延縮不同アリ、得失不レ齊、末代迄上下ノ煩是ニ依事也、仍テ役人ノ賢愚、志ノ善惡能々糺シ申附ベシ、扨又天氣曇リ小雨等ノ日ハ繩濕リテ縮リ、朝ハ役人竿取等出懸ユヱ、勢モヨク繩ノヒキ方强ク、殊ニ前夜ノ朝改置シナハ、其上朝露ニテナハ縮マルニツキ、朝檢地ハ詰ルモノ也、夕方ニナレバ、ナハニタルミモツキ

竿トリドモ丶終日草臥、自然トヒキ方モ弱ク、ナハノ縮リユルム故、夕ナハハ延ルモノ也、且又檢地打初ハ、諸事細ニ吟味シテ反歩詰ルコトアリ、日數重ル程物每次第ニ緩ミツク物ユヱ、打初ノ村ハ繩ツマリ、數日相立末ニナリテハ、繩緩ム事アルニツキ、初中終晴雨朝夕ノ儀勘辨致シ、延テバミノ處、檢地役人隨分可二心附一儀勿論ナリ、尤繩ハ管ナハヲ用ヒ、一日ニ二三度ヅヽ間ヲ改ル定法タレドモ、兎角一統ニ無レ之ニツキ、村ニヨリマタハ一村ノ内ニテモ、耕地ニヨリナハノ延ビナハ有テ、自然ト反別廣狹出來イタスニツキ、能クヨク念ヲイレ心ツケベキ事ナリ

一　間竿ハ二間竿ニテ二丈二尺二分、一間ニ一分ヅヽ砂摺餘計ヲ盛込、一寸廻リ位ノ竹本末ヲ銅ニテ張リ、一尺ヅヽ目ヲ盛、三尺目、一間目ノ印不レ紛樣ニシテ用ル、マタハ本スヱニナハ奉行印形ヲ押、竹皮ニテ包ミ、印形不レ消ヤウニシテ用ル事モアリ、竹太クテハ重ク、トリ廻シ惡ク、勿論少シモユガミ有テハ不レ宜、水繩ハ苧性ヲ吟味致シ、筆ノ軸位三ツ縲ニ堅クナヒ、能々澁ヲ引強ク拔キ、五十間カ六十間ニ致ス、餘リ長キ繩ハ不レ締也、管ハ女竹性宜ヲ一間宛節ヲ貫キ、本末ヲ銅ニテ張、繩ヲ通シ管繩ニイタス、一間目每ニ白カハヲ附間數ヲ記、十間目每ニハ印不レ紛樣ニシテ相用ユ、是又繩管トモニ太クテハ、重シテ强クシマリ兼ル、尤管繩ハ重ク有テシマリ兼、トリ廻シ不レ宜ニツキ、今ハ多ク無管ノ繩ヲ能々ノビ縮ミナキ樣入念拵用ルモアリ、併御定法ハ管繩可二相用一事也、都テ繩檢地ハ反詰ル者也、其心得アルベキ事ナリ

一　檢地端尺、古來ハ兩半不レ記ト申法ニテ、竪横共間數二間半ハ不レ附處、元祿年中御條目ニハ、半間迄ニテ尺寸打ニ不レ可レ及、雖レ然田地竪横ニ隨ヒ、或ハ平均間ニ致ス處、八尺迄ハ歩詰ノ勘辨ニ入テ、竪横ノ間數水帳書附ルハ、間迄ニ限ルベシト有レ之、其後享保年中改リタル新檢御條目ニハ、都テ端尺ノ分六寸・一尺二寸・一尺八寸・二尺四寸・三尺六寸・四尺二寸・四尺八寸・五尺四寸ト記スベシト有テ、今ハ寸迄アラタメ、檢地帳ニモ六ノ數ヲ以前書ノ通リシルス事ニナリ、最モ寸ニ加捨有テ、縱バ三寸ハ捨、四寸ハ六寸トシルス、前後致ニ加捨一、右ノ寸尺ニ合スル坪詰ノ時、端尺ハ間ノ法六ニテ除キ、分ニシテ掛合スル故、端分ノ不盡ハ不レ出爲也、マタ反別ニ詰ル時、一ハ捨二ハ二ニ足スト云儀アリ、タトヘバ一反五畝一歩ト出レバ、一歩ハステ、一反五畝トシルシ、一反五畝二歩ト出タル時ハ、一歩足シ一段五畝三歩トシルス、捨ヨリ上ノ歩ニテモ同然、十三歩ハ一歩棄十二歩トシ、十四歩ハ一歩足シ十五歩ト致ス也、是ハ石盛ヲ掛ケ高ヲ附ル時、歩ハ田法三ニテ除キ、反別ノ分ニシテ石盛ヲ乘ル故、分ニ不盡不レ出爲也、是近年新檢之御定法也、古來ハ端尺モ端歩モ出次第ニ致シ、加除無レ之ニツキ、坪ニテ何坪何合何勺何才ト出、反別モ何十何歩何厘何毛ト相成、古キ檢地ノ村方ニハ、反別ニ厘毛マデツケアリ、扨マタ入歩ト云コトアリ、入歩込歩トイフ事アリ、入歩ト云ハ、元祿年中御條目ニ、惣テ田畑廻リニ堀田アルハ遂ニ僉議一、本歩ノ内ヲ入歩ニイタシ、水帳ニシルスベキト有リ、然レバ堀田ノ所ヲ、歩數ヲ畝歩ノ内ヘイレテ、其譯ヲ地株脇書ニシルシ置ク事ナリ、其外入歩ニ成ベキ場所ナニ程モアルベシ、

又込歩トイフハ、地面悪敷所ニテ、改レ之畝歩ニ見計ヒ、減ジテシルスコト也、コレヲ捨歩トモ云也

一 郷藏屋敷・牢屋敷・穢多屋敷等・古檢ハ高外見棄地ノ場所多シ、新檢ニ成テハ高ニ結ビ入ル筈ニツキ、若再檢ノ村等アレバ、反別改タカニ入、年貢ハ差赦、タカ内引ニイタスベシ、マタ處ニ寄名主給・堰ダカ給・渡守給・新田開發人馬捨場等前々除有レ之トモ、新檢ノセツハ相アラタメ、タカニムスビ引物可二相立一事

一 居檢地ト云ヿ稀ニ有レ之、コレハ古檢ノ場所、地味能地廣故、致二地押一サバ打出可レ有場處、村方依レ願可レ致二竿入一、見計ヒ増ダカ申ツケ、反別ハ不レ改ニツキ、何程増トイフ儀ナリガタク、タカ年貢計相増ユヱ、無地増ダカト村ダカノ内書ニ記、本ダカニ組入ル也、コレヲ居檢地ト云、右ニモ申如ク、檢地ハ上下萬民ノ盛衰得失ニ拘リ、甚大切成事ニテ、其村々ノ日請木蔭四面土地ノタカ低、山寄川附往還端村居ノ遠近等迄考合セ、地位ヲ定ムベシ、東西ニ高岸ヲ請タル場所、竝ニ往還筋竝木等有レ之、又森林等見計ヒ、木蔭引致スベク、或ハ片下リノ地所登リニ打竿ハ詰リ、下ハ延ルモノニ付、コレラノ儀モ心得、就レ中土地ノ善悪地味能々不レ存シテハ、位ヲ分、石盛難レ附、其外種々心得有テ、六ケシキモノニツキ、地方功者ニナクテハ成ガタキ事也、地所縄竿ノ入レ方等ハ、其場處ニ隨ヒ色々口傳モ有、諸證文諸帳面仕立方ノ定法ハ、先哲ノ著シ置ケル書物數多有リ、シルスニ遑アラズ、御定法ノ儀新檢御條目ヲ用ヒ、不レ分儀ハ相伺ヒ、若シ檢地ニ取掛ル事有バ、其筋功者ノ人ニ尋二問之一、諸事物能々不二取調一

シテハ、容易ニ難ニ取懸一、前ニシルス如ク、検地ハ國家萬民ノ歡憂ニ拘ル事ナレバ、最モ可レ入レ念事也、當時ノ御定法、春検地ハ其年ヨリタカニ結ビ、秋検地ハ其年ハ一ケ年見取ニシテ、翌年ヨリタカ入ニイタシ、検地濟タル上、石盛帳御勘定所ヘ差出シ得ニ御下知一、検地帳面二冊仕立差出シ改ヲ請、一冊ハ新田方ニ留リ、一冊ハ村方ヘ渡スコトナリ、私領ニテ検地イタストモ、此意ヲ以取計フベシ

一 検地帖ヲ水帖ト云事、民部省ニ大圖帖ト云事アリ、田圃ノ數量ヲ書シタル計帖也、依テ水帖ハ御圖帖ナルヲ、水ノ字ニ書アヤマリタルト古書ニミエタリ、又或說ニ、土地ヲ水土ト云ヲ以テ、水土帖ノ下略也トイフ說モアリ、又田ハ水ヲ以テ第一トスル故、水帳ト唱ルト云フ人アリ、先吏小宮山氏ノ評ニ、検地ハ其位反別ヲ分チ、經界ヲシルスモノナレバ、水土ノ下略トイフモ惑說ナルベシ、田ハ水ヲ第一トスル故水帳トイフモ押附タル按也、検地ハ田計リノコトニアラズ、畑有、屋敷アリ、山有、サスレバ水ノ縁ニ依テ水帳ト唱フルトイフモ、附會ノ說也、前ニ所レ謂御圖ト水帳ノ和訓同ジキユヱ、ナニトナクカキアヤマリナルベキナリ、禁廷ニ大圖帳有ニ依テ、之ニ類シタル帖ナルヲ以テ、御圖帖タル事著ルシ、然トイヘドモ舊來水帖ト書來リ、公儀ノ書物ニモ水ノ字ヲ用ヒ、世上一統流布スル文字、今御國圖帖ト可ニ書改一事ニハアラズ、只其元ヲ知ラシムルノミ也、又東鑑ニハ水帖ノ事ヲ田文トカキタリ、コレモ田ノミニ不レ可レ限ト可レ難人モ有ベケレドモ、田地トイフハ田畠一體ニ掛リ、田ハ作物ノ物名ナレバ、田文トカク事宜シキヤ

一　古來檢地御條目如レ左

一　檢地ハ百姓身代浮沈ニ候間、別テ入念其鄕ノ土目ヲ見ル事肝要ニ候、田畠上中下ノ伏場、或ハ反ダカ、出目有レ之カ、不足可レ致カノ考迄見定、諸事致二了簡一、御繩無レ强、正道ニ打可レ申事

一　田畠上中下ノ位附專一ニ候、總テ甲乙無レ之地方ハ、村前ヨリ上、順々ニ野末ヲ下ニイタシ、三ツ折等分ノ位付、作德ニ候トモ、山方野方ノ村々ハ相違ノ地方可レ有レ之、尙又用水惡水掛引旱損水損收納ノ勝手迄相考位附可レ致二了簡一事

附田畠致二坪附一、地請ノ節無二相違一樣可レ致事

一　上鄕下鄕ノ分、地面ノ善惡ニ計不レ可レ限、農業ノ外ニ餘勢有レ之カ、田方過不足、亦ハ野山草飼場ノ勝手迄大概合レ之、無二甲乙一樣可レ考事

一　竿打ハ不レ過二四人一ニ、田畑或ハ穗ノ上苅田荒畑等ノ打ヤウ彌々吟味イタシ、一日ノ内ニモ幾度モ樣シ打可レ爲レ致、殊ニタメ込候事、大田畑不レ及二目前一ハ、幾枚ニモ元切打候テ、別筆ヲ入歩ニイタス可ク、御繩反數多安クイタシ候テモ、麁相ニテハヨロシカラザル事

一　先組ノ内ニテ手分イタシ、打申間敷事

一　寺社屋敷ノ儀ハ、僉議ノ上屋敷分計除キ、帳面ニ反別ヲ顯シ可レ申候、然レドモ不レ及二了簡一儀ハ、衆評ノ上相極メ、猶不二相濟一儀ハ、寬ノ上相究可レ申事

一道橋井堀添狹ニ打詰申間ジキ事

一案内イタシ名主百姓ニ引落無レ之タメ、誓詞可レ申事

一勘定場帳面認候場ヘ、他ノ者入間ジキ事

一親ノ田畑子供分ルトモ、銘々持主名ヲ附可レ申事

一一村ノ内名主大勢有レ之、組下ノ百姓分候分致ニ分付一候ハ誰組ト書付、以來名田ノ分付紛無レ之様イタスベキコト

一日々打候本帖出來イタシ候ハ、頭付無レ之以前毎日百姓ニ貸渡、間違名違落地ニ重附等ノ有無吟味可レ爲レ致事

一間竿ハ大工曲尺ニテ、一丈二尺二分ニ可ニ相究一事

一往還ノ大道田畑作場道、並落シ堀圍堤等ノ端道ハ、三尺宛除キ可レ申事

一年季ヲ定田畠質物ニ入候者有レ之哉相タヅネ、質入候者アラバ、何年以前何年ヨリ何年季ニ入置候トモ、年季明受戻候儀不ニ相成一、田畑流ニ成候トカ、又何年以前質入ニイタシ置、年季明不レ申候トカ申候ハ、其通證文取レ之、其者ニ名前ヲ記可レ申コト

右之通可ニ相心得一候、猶不ニ相分一儀ハ窺可レ申者也

年號月日

右古代ノ御條目、時代年號不ニ相知一ト雖、多分ハ元祿年中飛驒國檢地ノ時抔、被ニ仰出一タルニモ可レ有レ之哉、尙追テ可レ考

一　享保十一年被ニ仰出一候新田檢地御條目如レ左、當時是ヲ用フル也

一　關東筋所々新田畑屋敷檢地ノ儀、先達テ地所割渡有レ之候分ハ、帳口ヨリ番附ノ地引申ツケ候上、田畠一枚限右ノ番附反畝歩、地主名前ノ札ヲ建サセ、檢地濟次第、右ノ札ヲ拔捨サセ可レ申コト

一　村々ニテ致ニ内割一、反畝歩分ケ置候所ハ、反別地引帳ニ記、札建候儀右同斷、若反畝歩不レ知所ハ、可レ致ニ檢地一順ニ番付ヲキハメ、右ノ趣地引帳拵、前同斷ニ札ヲタテサセ可レ申事

但、野帳ニハ、先達テ割渡或ハ村割ノ反畝歩ヲ肩書ニシルシ、番付不レ紛、落地無レ之樣ニ可レ致事

一　村境竝本田畑古新田堺ハ、檢地不ニ取掛一前方、双方名主組頭、或ハ庄屋年寄等案内ノ者立合、右ノ境目不ニ相紛一樣、境目印相建サセ可レ申候コト

但境目ハ雙方申分有レ之、堺目不分明ノ場所有レ之候ハ、双方吟味ノ上、繪圖書附ヲ以可ニ相伺一事

一　其村名主年寄組頭、並頭百姓ノ内、吟味ノ上人數相應ニ申ツケ落地仕間敷由、並道筋用水溝堀等無益ノ儀無レ之樣、有體ニ案内可レ仕由誓詞可ニ申附一事

附、繩引竿取召仕等ニ至迄、若非儀於レ有レ之ハ、御代官御勘定人衆ノ内ヘ早速可ニ申出一旨誓詞前書ニ可レ載コト

一間竿六尺一分一間ノ積ニツキ、一丈二尺二分盛込ニテ、二間竿ヲ以テ打㆑之、一反三百坪タルベシ

一縄ハ一間ヅヽノ管縄六十間、或ハ三十間縄ヲ用ユベシ、縄延縮アルベク間、早朝並四時八時改㆑之勿論、管透目無㆑之樣能々、一間ヅヽ間數ノ札ヲ可㆓附申㆒事

一間數ノ端尺ハ、六寸・一尺二寸・一尺八寸・二尺四寸・三尺・三尺六寸・四尺二寸・四尺八寸・五尺四寸、右ノ寸尺ニ不足ノ分ハ捨㆑之、算用ノ步詰一步ハ捨、二步ハ三步ニ足シ、是ヨリ上ノ端ハ准㆑之致㆓捨加㆒、畝ノ步ニ合候樣仕べキ事

附、竿縄數ヲ入候分改㆑之、寸尺ヲ用、平均ノ寸尺ハ、右之通尺寸ヲ可㆑用事

一田畠一枚切間數合ニツケ、讀合ノ上合算ニテ反畝步ヲツケ、其場ニテハ二帳共ニ、間數反畝步御勘定人印形可㆑仕候、尤間數反畝步相違有㆑之間敷哉、案内ノ者ニモ存シ寄申サセ、相違可㆑有㆑之趣ニ候ハ可㆓改直㆒事

一野帳ノ内一通ハ日々百姓共へ貸渡間敷、反畝步相違モ有㆑之マジキヤ相尋、少々ニテモ云分アリ候ハヾ、其品承屆可㆓改直㆒事

一田畑トモ字入念可㆓書附㆒、並道幅用水惡水堀幅改メ、其際ノ田畑脇書ニ可㆑記事

一新田所々御年貢可㆓請置㆒藏屋シキアリ候ハ、敷地ハ檢地高入ニ仕、物成引ニ致シ、勿論檢地帳奧書ニ委細シルス可キ事

附、田畑中大石大木塚等アリ候ハ、吟味ノ上檢地除レ之、其品地株ノ脇書ニシルス可キコト

一寺社領ノサカヒメ吟味ノ上、不レ紛樣ニ帳面可ニシルシ置一コト

一新田畑屋シキ林品等ノ內寺社領有レ之、願ノ上相立候分ハ、其場所ノ分可レ爲ニ無用一、檢地願不ニ
申出一分、檢地ノ內ニ可レ入、廟所ハ見捨地タルベキコト

附、無檢地ニ致候分、其田ハタ際幷繩歩ノ處ヘ明細ニ可ニ書記一事

一南東ニ高岸ヲ受候場所、幷往還道筋並木有レ之場處、田品木蔭引可レ爲ニ見捨一事

一畔際一尺ヅツ除ベシ、但類地畔ギハ一尺ヅヽ引レ之、畦一尺ノ積類地トモニ畔引、一尺五寸ノ積
リタルベシ、高畔ハ見計可レ引レ之、並小堤等有レ之分、長幅高ニ相改メ、其際ノ田品脇書ニ致シ、以

一用水有レ之、田ニ可レ成所品ニイタシ有レ之分ハ、田方ニイタシ檢地、尤間發ネガヒノ趣キ吟味
來不レ紛樣仕ルベキ事

一田方用水不ニ差支一樣吟味有レ之、小溝路トモニ以來迄引候樣地株ノ脇書ニ可レ仕候、田ヨリ田ヘ
可レ有レ之事
水ヒキ候地カブハ、其品ヲ記置ベキ事

一借家並小作有レ之候ハ、帳面ニ本地主可レ記、借家ノ小作ノ名ヲシルシ度ト相願候ハ、本地主カ
ブ吟味ノ上、不ニ相紛一樣地主ノ脇ヘ願ドホリシルスベキ事

一 田畑位附其村本田畠ノ位ツケヲ元ニ用ヒ、上ハ上ノ下、中ハ中ノ下、下ハ下々ノ下、見附何レモ一斗劣リ、新田ハタヲ可レ究、勿論其村古田ハタ眞土ノ所、新田畠野土ニ候ハヽ隣郷吟味イタシ、隣郷ノ野土ハタケノ位ツケヲ見合、土地相應ニ相極、其村本田畠ハ野土新田ハタハ眞土ニ候ハヽ、隣郷眞土ノ處ノ位ヲ以、右同斷見計可レ極、屋敷ハ其村上畑ノ位付タルベシ

一 屋敷ノ內家下庭構ノ分、上畑ノ位付タルベシ、ヤシキ構ノ內畑ハ見分ノ上位ヲ付、藪林等ハ藪錢林錢可二申付一、若又不相應ノ藪林仕立候ハヽ、吟味ヲ遂ゲベキ事

一 漆茶桑楮等植ツケアリ候ハヽ、其植物ニ不レ拘、土地相應位付タルベシ

一 旱損水損ノ申立有レ之候トモ、一切間取不レ申、其土地相應ノ石盛相究ムベキコト

一 新田場ニ竹木芦等生立、或ハ芝地有レ之候バ、吟味ノ上田畑開發成ベク場ハ、地主相極致二檢地一、開發願相濟候趣ヲ以、鍬下ゲ吟味可レ有レ之候、田畑ニ不レ成場處ハ、是又右願濟候節ノ趣相究、又ハ林畠或ハ山錢野錢等見計申ツケベク事

一 兩毛作片毛無二其差別一、土地相應ノ石盛キハメベキ事

一 田ハタ位附土地再見分ノ爲ニ候間、檢地相濟候上別段ニアヒ廻、石盛ノ位ツケ致ベキ事

一 案內ノ者誓詞申ツケ候上ハ、一二付ノ番ヅケノ處ヨリ一ヨリ十五六迄、段々ツケ置サセ、取レ之候上御代官御勘定人下役手札ヲ以テ入札致シ、案內ノ者ノ位ヅケヲモ見合、一決不レ致候バ、相談ノ上

アヒキハムベキコト

一　檢地帳相極候ハヾ、御代官御勘定人、竝下役竿取案內ノ百姓モ連印請書致シ、二冊可ニ差出一候、一冊ハ其村名主ニ可ニ相渡一、一冊ハ御勘定所ヘ可レ納事

一　新田畑屋敷惣テ開發願之趣、相應ノ儀有レ之候ハヾ、吟味ノ上ネガヒノ通可ニ相極一、品替リ共申分無レ據儀ニ候ハヾ、吟味ノ上其通リ相極、其品書附ヲ以、檢地仕廻候以後可ニ相達一事

一　間數反畝歩石盛附、惣テ檢地致方、村中惣百姓申分無レ之哉、竝竿取繩引下々迄、非儀成仕方無レ之ヤ、吟味ノ上申分無レ之候ハヾ、其段惣百姓連印一札可レ取事

一　竿取繩ヒキノ者吟味イタシ勤サセ、檢地ノ場ヘ無用ノ人足不ニ差出一樣可ニ申附一事

一　作毛不ニ踏荒一樣入念可ニ申附一候、且又御代官御勘定人、竝下役竿取等ニ至ル迄木錢拂、其所有合ノ野菜ヲ以テ、一汁一菜ノ外酒サカナ一切サシ出サズ、諸事費無レ之樣吟味可ニ申附一コト

右檢地ハ百姓永代家祿ニ候條、檢地石盛地面相當イタシ候樣可ニ入念一者也

午八月

此度關東所々新田品、竝見トリ場檢地ノ儀ニツキ、條目相極候間寫ニ遣之一候、各檢地ノ處ニ有レ之候ハヾ、右ノ趣ヲ以檢地ノ積被ニ相心得一、尤檢地可レ致前願有レ之候ハヾ、可レ被ニ相伺一候、以上

追而條目寫候テ、段々相廻シ可レ被ニ申候、在府無レ之面々ハ、留守居ノ者致ニ披見一、可ニ相返一候、

以上

八月廿九日

井澤彌惣兵衛

細田彌三郎

神谷武右衛門

辻六郎左衛門

杉岡彌太郎

萩原增左衛門

稻生下野守

久松大和守

筧　播摩守

駒木根肥後守

御代官衆

右新田檢地條目享保十一午年相究、其後ハ右御定法ヲ以御料私領トモ致ニ檢地ニ事也

一　地押之事、附．廻檢地

地押ト云ハ、田畠上中下ノ位付高石盛モ、前々ヨリ有來リトホリニテサシ置、繩竿ヲ入反別ヲ改ルヲ地押トモ、地詰トモ云、仕形ハ檢地ニカハルコトナシ、最モ一村地押ハ格別、一耕地二耕地位少々ノ地押ハ、本檢地ニ不レ及、廻檢地ニテ相濟、廻檢地ト云ハ、其地所ヲ致ニ分間一、繪圖ヲ引出シ、歩詰ニテ反別ヲ改ルコト也、何レニテモ反別改出アレバ、有來ノ石盛ニテ、高ヲツケ出高ジタカニ致ス、尤隱田等有レ之抔訴人有カ、何ゾ子細アリテ村方ヨリ願出、或ハ地所紛敷筋等ニテ難ニ捨置一場處、無レ據有レ之バ、一村地押イタスト雖、上ヨリ地オシ等容易ニ申附ル筋ニハナシ、又論所地改等ニテ地所不ニ相分一、隱シタル田畠有レ之節ハ、一村ニテモ、マタハ論處耕地限ニモ地押イタシ、隱レタル反別地所等改出セバ、其場所ハ其品ニヨリ改出致スト雖、高ヲ增出目高等ニハイタサズ、然レドモ論處モ其譯ニヨリ、一村地押等ニ成、格別地廣ニテ、論外ニモ不埒ノ地處等有レ之バ、其品ニ依テ吟味ヲ遂、爲ニ過怠一增ダカ申附ル儀モアリ、論所ノ地改ハ本檢地ニハイタサズ、廻ハリ檢地繪圖歩詰ニテ、奉行所ヘサシ出シ、何レニモ地オシハマハリ檢地可レ爲也

一　廻リ檢地トイフハ、可レ致ニ檢地一田畑一耕地限ニテモ、又論所ナラバ其論所計リニテモ、惣マハリヲ繪圖ニウツシ、反別ヲ改ルヲ云、先惣マハリ曲メ〱ニ間盤ヲ建、先ノ曲リメニ梵天竹ヲタテ、手前ノ曲リメヨリ間盤ニテ方角ヲ見込ミ、午ノ何分トカ、十二支ノ當ル所ヲ野帳ニ記シ、ソノハシヨリ先ノ梵天竹マデ間數ヲ打、帖面ニ番附イタシ、肝要ノ處ヘハ杭打ヲイタシ、番附順々ニ見マハリ、又ソ

ノ場處ノ内ニ有レ之田畑・屋敷・空地・小山等ノ形ヲ記ス、最寄ノ番ヨリソノ田ソノ畑、或ハ屋シキニテモ、小山ニテモソノ場所ノ角ヘ、何ノ何分トミ込之間ヲ打、帖面ニシルシ、ソノトコロニ盤ヲ移シ、其田畑等ノ形ヲ分間致シ、不レ殘濟タル上、野帖ヲ以テ見盤ニテ繪圖引出セバ、惣廻リノ形竝田畑山原等、夫々形繪圖面ニ顯ル、勿論間數ノ儀、十間四分トカ、六分トカ、其場所ノ廣狹ニ應ジ、繪圖ノ大サノ大概ヲツモリ、分通ヲ極メ、右引出タルヱ圖縮寸ニテ畝歩ヲツモリ、何反何歩ト記ス事也、右分間ノ仕方、歩詰ノ仕樣等イロ〳〵有レ之、口傳書アリテ委ハ難レ記、分間・町間・水盛等ハ其筋ノ書數多有レ之バ、ソノ書ヲ見テシルベシ、爰ニシルシ置處ハマハリ檢地ニテ、反別ヲアラタムル仕形ヲ粗著置モノ也

一 石盛之事

田畑致ニ檢地ハ上中下ノ地位ヲ分ケ、上田ニハ一段歩ニ石盛幾ツ、中下ハイクツト究メ、反別ニ懸ケ高ヲ仕出スヲ石モリトイフ、反別ニ石ダカヲ盛付ルユヱ、石盛ト名附ルナリ、石盛ノ附ヤウハ、土地ノ位ヲ見分ル儀第一ニテ土目ノ善惡ヲ考、上中下ヲ分ケ、扨上田ト見ユル田方ニテモ、稻作出來方同樣ニハ無レ之故、作毛ノ善惡ヲ見計、三四箇處モ坪刈イタシ、一坪ニ平均籾一升アレバ、一段三百歩ニ籾三石也、一町歩籾三十石ニ付、五合摺ニシテ米十五石有ユヱニ、則上田ヲ十五ニ盛付、上田ダカ十五石、免五ツトリ、米七石五斗ニ成ル

但、石モリノ古法ハ前條ニ如レ有、坪苅籾ノ内一割ヲ減ジ、縱バ上田一ツボ籾一升有、一反三石ノ内一割引、二石四斗ヲ五合ズリニシテ米一石二斗割、上田石モリ十二ニ可レ成處、享保年中新檢御條目出タル以後、檢地ハ石盛ニテノ二割引相止ミ、籾有次第ノ石盛ニ附ル儀、定法ノ樣ニ成タリ、勿論當時タリトモ地味ノ善惡ニ隨ヒ、勘辨作略有レ之儀ハ、檢地奉行ノ見計ヒニテ、强テ坪苅籾ノ石數ノミニ泥ミ石盛ヲ極ル儀ニハ無レ之コト也。

上田タカ十五石、夫ヨリ中・下・下々ト二ツ劣リ、中十三、下十一、下々九ト石盛ヲ附ル、仍テ上田一反歩タカ一石五斗也、然ドモ田畠ハ作入ノ精不精功、不功、又ハ民家ノ貧福ニテモ、肥シノ入方多少、修理手入勝劣有レ之、上田ニテモ不レ宜出來方モアリ、マタハ中下ニテモ、作人ヨリ宜出來形モ有レ之候ニツキ、無位ノ田方最初ニ石モリヲ極ルハ、至テ功者ノ入事ナリ、古田畑ニ再檢入ルハ、元來位付有レ之故、其位ニ應ジ上中下幾ツボモ小刈イタシ、出キ形ヲ平均シミルユヱ、分リ安キ方ナリ、勿論隣村ノ石モリト地位見比ベ、マタハ一反歩ニ平均何石何斗出キ可レ申ヲ積リ、根取米反ニ七斗五升ナラバ、五ツ取トミテ、十五ノモリト可ニ心得一、中・下・下々ノ二ツ劣リニ限ル儀ニモ無レ之、上田ト中田ノ間格ベツ相違ナクバ、一ツ劣リニモ致シ、マタ中ヨリ下ニ移ル位、カクベツニ下田ノ地面オトリタラバ、三ツオトリニモ致スベシ、乍レ去先ヅハ二ツオトリニ附ル事通法ナリ、サテ又上中下三段ニ不レ限、上ノ下ノ五段ニ分ル村カタモアリ、上ノ上中下・中ノ上中下・下ノ上中下ト九段ニ分、石モリ附ルムラ

カタモアリ、或ハ二村ノ内麥ヲ作兩毛ノ作田少々有レ之、其外ハ濕地等ニテ、一毛作ノ田計ナラバ、一體ノ位上中下三段ニ分ケ、麥田ハ上々ニ付ルコトモアリ、藺田・麻田等ハ極テ上々ニ附ル事也、尤モ兩毛作ノ場所ニモ土地不レ宜處有、然レドモ麥ハ惡地ニモ出キル者ナリ、藺麻ハ上田ニ無レ之テハ、仕附ノ成難キモノユヱ、田・麻田有レ之分ハ、其村ノ内ニテ上々ノ位ニツケル、都テ關東ハ反取ニツク、石盛少々不陸有テモ、トリ米ニ不レ拘樣成モノナレドモ、高役ハ石モリニ拘ラズ、別テ上方筋餘國ハ大方毳取故、石モリ高下土地ニ不レ當シテハ、取米多少有レ之、上下ノ爲不レ宜ニ附、石モリ究ル儀ハ至テ大切成事ナリ、土地ノ善惡計ニハ不レ拘、山方・野カタ・旱水損・用水掛リ・日請、或ハ農業ノ外、百姓稼ノ有無等マデ考合セ、五ケ年ノ取箇相糺シ、位違無レ之ヤウ隨分可ニ入念一儀勿論也、サテ又往古檢地ノ村、新檢等入候時、數百年以前檢地請タル節ハ、上田ノ處致ニ變地一、當時ハ下田ニ成、マタハ古ヘ下田ニテモ、中以上ノ田ニ成タル場所モアルニツキ、古檢ノ位ニ泥ム儀ニモ無レ之、依テ檢地地引帳ニ村役人竝案内ノ者カタニテ、當時ノ地味ヲ考ヘ、上中下ノ位致ニ穿鑿一、一番ヨリ段々十五番二十番迄モ番ヅケイタシ差出サセ、地引帳ト檢地奉行ヨリ下役帖ツケ竿トリ等迄、銘々見込ノ位突合セ、篤ト評議ノウヘ石モリ相定ムベシ

一　前條ニ著ス坪刈秋檢地ナラバ其秋作、春檢地ハ前年ノ稻作出來形ヲ檢地致シ相極ル事ナリ、然レドモ年年豐凶出キカタ不同アレバ、一ケ年ニテハ極難シ、新田畠開發ハ何レ五ケ年カ、三ケ年鍬下年季

有レ之事ニツキ、年々坪刈イタシ、何ケ年ニテモ平準シテ、石モリノ見合ニ致スベシ、假令バ三ケ年鍬下一ケ年ハ合毛一升一合有、一反三百歩ニ乘ジ、籾三石三斗也、五合ズリ米二石六斗五升、又一ケ年ハ一升有、モミ三石、米ニシテ一石五斗、マタ一ケ年ハ九合、一段モミ二石七斗、此米一石三斗五升、都合米四石五斗、三ケ年ニ平均、一ケ年一石五斗トナル、其内二割引一石二斗、一段十二ノ石盛ニ成、取箇ハ四公六民、根取四斗八升、是則古法ナリ、然ドモ今ハ二割引モナク、直ニ十五ノ盛ニ附、取箇モ五公五民、五分トリニシテ、根トリ七斗五升ニ成タルユヱ、民ノ難儀云計ナシ、上方筋ハ藺田・麻田・麥田等多キ場所ハ、五分トリニテモ民家ノ痛モ薄ケレドモ、關東ハ二タビ土地劣リ薄田多キユヱ、五分トリニテハ麥田有所モ、上方筋ヨリ格ベツ作徳少シ、況ヤ麥田無キ場所ハ悉及二困窮一、次第ニ村カタ零落シ、潰百姓モ出來、果ハ公儀地頭ノ損失トナレバ、何レ四公六民ノ心得ヲ以テ取箇ヲ可レ定事ナリ、勿論取箇ノ強弱ハ、其トキノ役人心々ニテ不二一定一、石盛ハ末代不レ動モノナレバ、檢地役人末代ノ豐窮ヲカンガヘ、心ヲモチユベキ事專一ナリ

一　畑ノ石盛ノ法ハ、下田ノ位ヲ畠ノ上ニ相タテル事通法ナリ

但畠石盛ノ古法ハ、中田石モリヲ上畠假ニシテ、田畠六分違ノ六ヲ乘ジ、上畑ノモリトナル、縱バ中田石モリ十ニ六ヲ乘ジ、上畑六トナリ、田畠トモ大法二ツ劣ナレバ、中田十ヲ下田八ニ對用スル處、コレマタ五六十年以來ハ、六分違ノ法モ不レ用、上畑ノ石モリヲ、直ニ用ユル通

法ト成タリ

是又凡二ツ劣リニテ位定ル、然レドモ是トテモ田ニハ宜ク、畑ニハ惡敷土地モ有、又畑ニハ相應ノ土地、田ニハ不レ宜地所モ有レ之ニ付、强テ上畑石盛、下田同位ニ限リタル儀ニハ無レ之、其村々土地ニ應ジ見計ヒアルコトナリ、元來畠ハ二毛三毛作リ、又ハ作物ニヨリ四毛モ取ル儀有レ之、田方ヨリハ作徳アリト雖モ、石盛低ク年貢モ下免ニ付事、畑作ハ人夫手間多分掛リ、培養モ餘計不レ入シテ出キ方不レ宜、旁入用多ク、既ニ上古ハ人少ニテ、田方第一ニ耕作シ、畠ハ少シ雜穀野菜等少々作リ、百姓夫食ノ足シニ致シ、無年貢ニテ公納ニハ不レ成由、中古以來追々諸國共ニ多人數ニ成、曠野原丘開立、畠地多耕作スルユヱ、一統年貢納ルコトニナリ、鎌倉將軍家時代ニハ、最早畑年貢納ムルト見エタリ、其名殘ニヤ、隱岐國・佐渡國元祿ノ頃迄ハ、畠方無年貢ノ由、是マタ其後ハ餘國並畠年貢納ルコトニ成タリ、往古ハ米穀ノ價至テ賤ク、畑取水田ノ取米ニ比ベ、サマデ下免ニモ有間敷ケレドモ、近年穀ノ價莫太ニ貴ク成、田ハタノ取箇直段ニ引比ベテハ、甚下免ニ相ミエル、然レドモ國法ニ成來リ、今更關東ノハタケヲ米ドリニモ不レ成、マタトリ上ル事モナリ難シ、勿論末世ニ至ル程、民ノ精力モウスクナリ、殊サラ片部迄一統奢侈ノ風俗ニ移リ、自ラ耕作ノ働疎ク、其上肥養高直ニナリ、微力ノ百姓ハ十分ノ耕作ナリガタク、古ニ比ベテハ田ハタトモ取箇悉致ニ減少シ、取譯田方ハ段々高免ニナリ、作徳少ク、田勝ニテハタケ不足ノ村カタハ別テ及ニ困窮シ、既ニ畑ハ無年貢ノ時代サヘアリ、勿論田畠六分違

ノ古法モ有、畑方新検ニ成、石盛附ルニハ心得可レ有也

一　屋敷石盛多分上畠並タレドモ、畠ニ不レ構、屋敷ハ十ノ盛ニ極タル所モ有、又ハ屋敷石盛中田ノ位ニ附ケ、上畑ヨリ一ツモ二ツモタカクツケタル所モ有リ、ケ様ノ村ハ今サラ上畑並ニ可レ下筋ニモ無レ之、古検ノ盛ニ習極ムベシ、併新屋敷抔當時検地有レ之バ、上畠並タルベシ、且大ヤシキニテ、ヤシキ内畑地等多分有レ之バ、家下・庭構・門内等ノ分ト畑並、畠ノ分ハ土地相應、外ノ畠並ノ石盛附ベシ、漆茶桑楮等植附有レ之畠、並旱損水損等、又ハ麥田兩毛作片毛作等ヲ勘辨イタシ、地位ヨリタカクモ低クモ石盛附ル儀、前ニ申如ク古ヘノ法ト雖、近年新検御條目ニハ、畑中四木等植物有無ニ不レ拘、其外兩毛作・片毛作・水旱・損地等ノ不レ及ニ勘辨一、其土地相應ノ石盛附可レ仕由、御定法ニ成タリ

一　新開或ハ見取場高入等改、検地石盛ツケル儀ハ、其ノ村ノ本田畑ヲ位ニ見比ベ、新田丈一ツ劣リニモツケルコトナリ、シカシ新開ノ場所地位至テ劣、其村ノ石盛相違無レ之バ、隣村ノ地位ニモ見合、軒下ニ砂畑抔ト云名目ニテ、本ノ下々田畑ノ位ヨリ一ツモ三ツモヒクヽツケル儀モアルナリ、若マタ本村ハ山寄野方等ニテ土地不レ宜、石盛モヒクキ所、新田ハ海川附洲、或ハ沼地等ノ新開、本村ノ地縁ヲ離レ、本田ノ土地ヨリ格別宜キ村ハ、本田ハタノ石盛ニ不レ拘、隣村他村ノ石盛見合、尚マタ作物出キカタヲ考ヘ、トコロ相應ニツケナガラ、新田本村石盛ヨリ高ク成ル事モアリ、大方國々上田十五ノ石盛多シ、尤十二三ヨリ十六七迄ノ石盛モアリ、田畑上中下平均十ノ石モリニテ、十町百石ノ村ハ、大

體上ノムラ也、其内餘國ニ勝レ石盛ノ高キハ、越前國・甲斐國・大和國・出羽・奥州ノ内ニハ、二十七八三十餘ノ石盛有レ之、伊勢國ノ内ニモ二十ヨリ二十一二マデノ石盛有、筑後久留米領等ハ田畑平均二十五ノ石盛也、箇様ノ處ハ稀ナル事ナリ、勿論右國々ナドハ、前條ニ申坪刈籾ノ割ニテ付タル石盛ニハ決テ無レ之、右國々トテモ稲ノ出來方、左迄餘國ニ替リタルコトモナク、坪刈ノ勘定ニハ不レ當、其詮ハ既ニ免ハ漸ク一ツ五分、或ハ二ツ三ツ位ノ下免ニテ、取箇ハ格別餘國ニ勝レタル様ニモ不レ見、全ク國ダカ多致度、古來不相應ノ石盛附タル儀ト相聞ユ、御料所ノ檢地ハ石盛伺書御勘定所ヘモ差出、新田カタ掛リ請吟味、御下知ノ上相極メ、其上ニテ檢地差出ス事也

一　斗代之事

斗代ト云ハ、石盛ノ別名ニテ、地面ノタカ何斗ニ當ルト云コトナルニ、村方ニテハ一反ノ取米何ホドト云、根トリノコトヲ斗代ト云、村方多キ故、石盛ヲ斗代ト唱ヘテハ紛シキ當時ハ、斗代ト云ヘバ、多クハ反トリノコトニ成ニツキ、石盛ヲ斗代トイフ義、先ヅハ宜カラズ、村方等ニテ石盛ヲタヅネル時ハ、上田ハ一石五斗代、上畑ハ一石代抔ト答、斗代ヲ石盛ノ本式ニ心得タル村方モ有ル也

一　大半小歩之事

天正文祿ノ頃迄ノ檢地ニハ、大半小歩ト云テ、一反三百歩ヲ三ツニ分ケ小割有、永高ノ比ヨリ石タカニ移ル迄モ行レシコトト見エ、古ヘノ檢地帳所持ノ村方ニハ大半小ノ附タル水帳今モ有レ之、尤上古

ヨリノ事トハキカズ、其筆メ時代不二相知一、大半小ノ小割如レ左

一反三百歩　大歩二百歩　三分二也

半歩百五十歩 半分也　小歩百歩　三分一也

一　秀吉公時代天正十九年、檢地奉行守田右京下野國足利郡羽田村水帳之內

中田五反半　四十二歩

下田三反大　十一歩

田合九段小三歩

右之通相見、位反別モ有テタカ石盛ナシ、關東水ダカト見エタリ、何尺竿ヲ以テ檢地ト申儀無レ之、一歩寸尺不二相分一、尤太閤檢地六尺三寸竿ト專ラ雖二申傳一、前條ニモ申如ク水帳ニ記無レ之、不分明也、文祿年中諸國檢地ノ節ニ至リ、一反ヲ十二割一畝ト定タル由、越後國ニハ大半小ノ附タル水帳處々ニアリ

一　竿延之事

是ハ古檢ノ邑新檢ニ成レバ、間竿ノ寸差フニ付、打出シノ出歩ヲ竿延トモ云、元和以來ノ新檢六尺竿ニ成タル村方ニテモ論地ニナル、又ハ何ゾ子細有リ、檢地或ハ地押等ニテ、一村反別改ルトキ、山添川附・野方等切添ニテ地廣ニ成、水帳ノ反別ヨリ餘計ニ打出事モアリ、右ニモ申如ク、新檢ニナリテ

モ、元和寛永ノ頃迄ハ、物毎大様ニテ、田畑餘歩等餘計ニ附タル故、當村檢地致セバ、何レ打出シ有レ之ニ付、箇様ノ類モ竿延ト云、或ハ切添場所有レ之、其場所計リ改メ出シ高反別相増ス分ハ、新田同様ニテ竿ノベトハ不レ申也

一　田畑石目之事、附　四木三草煙艸之初　藺田　麻田　麥田　見附田　砂田　山田　谷田　棚田
沼田　深田　植田　蒔田　摘田

藺田ハ疊ノ表ヲ織ル品ヲ作ル田ニテ、上田ニ無レ之テハ、性合悪敷不ニ用立一、中國近江邊ニ多シ、關東甲州抔ニモマレニハアレドモ、上方藺ト違ヒ、性不レ宜、下品也、尤燈心ニナルハ、常陸國筑波郡邊ヨリ多ク出テ、麁田ニモ作ル、麻ハ元來畠作ナレドモ、畠少成ムラ方ニテハ、地面宜キ兩毛作ノ田ニモ作リ、是以麁田ニテハ延ビモ短ク、性合不レ宜、上々ノ田ヲ撰ミ作リ、藺田同然也、夫ユヱ藺田・麻田ハ石盛上々ニ附ル、藺田ハ勝手作ニツキ、檢見ノ節稻ノ上毛並ニ合附致ス、尤モ所ニヨリテ藺跡ニ稻ヲ植　兩毛作ニナル場處モアリ、麻田・麥田ハ兩毛作也、木綿モ田ニ作ルハ勝手作リナレドモ、五畿内中國筋綿檢見有レ之國々ニテハ、木綿計ハ田ニ作リテモ、ハタケ綿同然木綿檢見ニ差加ユル也、最ワタ檢見無レ之國々、田ニモメンツクレバ稻上毛並ニナル、其外烏芋菅等又ハ何品作リテモ、勝手作ノ分ハ上毛並ニ相成事也

一　見附田・砂田・山田・谷田等ハ、其村ノ下々田ニモ成難シ、悪田故無位ニテ、夫々ノ名目ヲツケ、下

ゲテ石盛ヲ付ル也、此外悪地・下々田・新下々田・野地並荒田ナド、ムラニ寄色々名ヲツケタル無位ノ田アリ、其内見ツケ田ハ、悪地ノ内ニテハヨキトコロヲ云、悪田ノ内ミツケモノトイフ意ナルコトナリ

一　砂田トイフハ、山澤川端ナドニアラ砂交リ、至テ下田ニテ下々ノ位ニモ成難キ故、砂田ト申名目ヲツケ、無位ニテ石モリ取箇トモ低クツクル田也

一　山田・谷田ハ耕地ノ名ナレバ、通例ノ上・中・下・下々等位ヘ可レ附所モアリ、夫ハ山田・タニ田トハ不レ唱、其位々ヲ唱ル、山田・タニ田ト名ヅクルハ、山ノ洞・タニ間等ニアル田ニテ、至テ土地悪敷、猪鹿ノアラシモ強ク、下々田ノ位ニモ成ガタキ分、山田・タニ田トナヅケ、是以無位ニテ、石盛取箇トモ低クツケル也、都テ山間ノ田ハ纔三歩五歩ヅヽ、段々坂ノ様ニ畔ヲ立、壇有レ之ユヱ、棚田トモ膳田トモ云、棚田膳田トモ唱ル計ニテ、割ツケ等ニ記ス名目ニテハ、又位ノ有田ニテモ、又ハ砂田・山田・タニ田等無位ノ田ニテモ、山ノ片岨段々ニ畔有、坂ノ様ニ成ル田ヲ棚田膳田ナド云

一　スマ田・深田ハ位ノ名目、耕地ノ名ニモ非ズ、泥水深キ田ヲイフ、關東ニテハ常陸邊ニ多シ、其外處々ニアリ、越後ナドハ別シテフカ田勝ナリ、田ノ中ヘ入ルニハ、カンジキト云モノヲハク、徑一尺五六寸ノ竹ノ輪ノ中ニ板ヲハメ、緒ヲ立タルモノヲハキ入ラザレバ、深ク這入、田ノ内ニテ働クコト成難ク、沼田深田ヲ世俗水田トモ唱ルト雖、水田ト云ハ元來田方ノ惣名ニテ、稲ヲ作ルヲ水田ト云、畑物ヲ植ルヲ畠ト云、畠ノ字ハ白田ヲ一字ニ拵タルモノ也、畑ノ正字ハ圃園ノ二字何レモ畑ニテ、畑

畠トモ、俗字ナレドモ今世上一統通用スレバ、地方ノ書物等ニテ、正字ハカヘツテ認メガタシ
植田・蒔田・摘田トモ、名目ニモ位ニモ非ズ、仕形ノ違ヒタルヲ云、植田ハ苗代ニ仕立タル苗ヲウヱル田ニテ通例也、マキ田ハ苗ニテ不ㇾ栽、籾種ヲ苗代ニマク如ク、掻田ニ直ニマキ附ル田ヲ云、摘田ハ地ヲ掻テウヱル所ヲ棒杯ニテ穴ヲ突テ、其跡ヘ籾種ヲツミ入ル田也、籾粒ニテ入ルモアリ、又灰ニ交テ肥水ヲ懸ケナガシ入ルモアリ、マキ田・ツミ田トモ苗ニテウヱ附テハ、盛長實入モ悪敷土地有ㇾ之、其ノ場所ニヨリ前々致ツケタル儀、關東筋山寄等悪地ニアルコト也、最モ下田ニテモ、マキ田・ツミ田ハ土地ニ田不ㇾ合植田ニイタス所モ有リ、其ノ土地ノ仕來ナリ、苗代田ヲ親田ト唱ヘ、格別出キカタ宜キモノナリ

一　田畑ノ名目、往古ハ上・中・下・下々ノ位ハ有テ、右ニ著ス外ノ名目ハ、石ダカ以後初リシ事也

桑畑　楮田　漆畠　茶畑　麻畑　見附田　山田　野田　燒田　切替田　薙田　鹿野田　苅生田　林田　萱田　萩田　芦田

一　桑畑・楮畑・漆畠・茶畑・麻畠ハ上々畠也、此四品ヲ四木ト云、紅花・藍・麻ヲ三草ト云テ、和漢四民トモニナクテ不ㇾ叶品ニテ、民用第一ノモノ也、右七品上畠石盛ニ一ツ上リ、又ハ上畠並ニ附シモ有、慶長年中美濃國檢地帳ニ、クハ畠・楮畠ハ上畑ニ一ツ上リニテ十三、麻畑・茶畑ハ上畠並十二ノ石盛ニ相見ル、然レドモ右ニ述ル如ク、享保以來新田御條目ニハ、植物ハ當時ノ儀、石盛ハ土地ノ位タルニ

ヨリ、栽物ニ不レ拘地味ノ善惡ニ隨ヒ、位相應ニ石盛定ムベシ

但四木三草ハ元中華ヨリ渡リシモノト見エタリ、乍レ去楮ハ本朝ノ楮ト、中華ノ楮トハ性違ヒタルト見エ、日本ノ樣成紙中華ニハナシ、依テ日本ノ扇子傘等、唐土ニテハ悉ク重寶ス、又唐紙モ日本ニテハ製シ難シ、然レバ紙ノ木違タルニヤ、吾國ニテモ三ツマタト云フ木ノ皮ヲ紙ニ成、甲州ノ檀紙ハ三ツマタ也、半紙ノ樣ナルカミ又ハ帳ナドニスル　楮ノ紙ト違ヒ、唐紙ノ如ク竪横ニ裂ケ性不レ宜、紙捻抔ニハナラズ

一　茶ハ人皇八十三代土御門院ノ御宇建仁年中、建仁寺ノ開祖千光國師榮西入唐シテ、宋國ヨリ茶ノ實ヲ得テ歸朝シ、明惠上人栂尾ヘウユルヲ始トス、其以前ハ唐土ヨリ葉茶ニテ渡リシヲ用ヒタル由、其外ノ六品、元來日本ニ自然ト生ジタルカ、マタ上代異國ヨリ渡リシニヤ、其初不レ詳

煙草之事

一　煙草ハ三草ニハ非ザレドモ、和漢尊卑トモ是ヲ嗜ミ、三草ニ續タル者ニヤ、元蠻國ニ生ジタルヨシ、本朝ニタバコノ渡リタル發メハ、慶長十乙巳年台德院樣御代、南蠻國ヨリ肥前國長崎ヘ種渡リ、同所櫻馬場ニ作リハジメ、其後海內ニ廣マリ、今國々ニ名産アリ、併禁廷柳營ニハコレヲ不レ用、諸侯方ニモ招請等ノ賓客ニハ用ヒザル事也

一　見附畠砂畑ハ見付田・砂田同意ニテ、下々ノ位モ難レ付惡地ナレバ、其內ニテ少シ宜ヲ見附畠ト名ヅク、砂ハ海邊川ドホリ抔荒スナ交リノ土地、何レモ無位ニテ、下々畑ヨリ石盛ヒクヽ、トリ箇ノ反

當リモヤスクシタルハタヶナリト云

一　山畠ト云ハ、村居ニ離レタル山方ニ畠地有レ之、本村下々畠ヨリモ地面不レ宜、作物モ生立悪敷、禽獣ノアラシモ强ク、下々畠ノ高請等成難キ分ハ、畑ノ名目ハ付ト雖作物不ニ仕附一、松等ヲウヱ新ニ伐出シ、或ハ松杉檜等材木ニナル木ヲ植置モ有、柹栗等ノ菓木ヲ仕立ルモ有テ、下々畑ノ位ハナシ、山畠ト云名目無位ニテ、石盛リ取箇トモニヒクヽ附ルナリ

一　野畠モ山畑同然、野方原地等ノ悪地ノ所ヲ、野畠ト云名目ニテ高請シタル畑也

一　燒畑ト云ハ里方ニハナク、山中ニアリ、信州ナドニ多シト、上州榛名山・赤城山抔ノ樣成所、畠地ニハ無レ之、山ノ片岨ノ小柴垣草立ノ所ヲ、小芝草萱トモ燔テ一雨請、灰ノ濕リタル所ヘ蕎麥粟稗等ヲマキ附、養モ不レ致、灰計ニテ生立タル作物ユヱ、實ハ不レ宜、實ニ夫食迄ニ仕附ルコト也、コレヲ切替畑トモ薙畠トモ云、石盛等至テ低ク、山畑ヨリモ下々也、併蕎麥計ハ燔畑ノ分極上也、夫ユヱ信州上州ノ山中格別宜シ、勿論年々一ツ所ニ作ツケ成難シ、當年仕ツケタル所、來年ハ萱等生ジ次第ニ致シ置、外ノ所ヲ燒畠ニシテ作物仕ツケ、右ノ萱草立置タル場所、草立ノ樣子ニ隨ヒ、翌春翌々春燒畑ニイタシ、一年二年ガハリニ仕付イタス故、切替畠ト云、依テ檢地請ル時、縱バ十町ノ場所檢地イタセバ、五町カ三町ナラデハ不レ致ニ作付一、半分一箇年モ二ヶ年モ休故、十町ノ場所ニテ五町カ四町トイタシ高請、箇樣ノ場所ハ餘歩モ定法ニ不レ拘、格別餘計ニ差加ル、或ハ右燒畠ニテ山内木立有レ之場

所、又ハ燒畑ニ可ㇾ成所トモ、一同ニ一山反別相改、山高ニ受置、燔ニナル所ハ作付致スモアリ、是ハ切カヘ畑トハ不ㇾ云、山高也、又右體ノ處ハ無反別ニテ、山稼燔畠等ノ見込ヲ以、山高計受ル所モアリ

一　鹿野畠ト云ハ、重ニ奥羽ニテ唱、極山中ニ有ㇾ之、切替畑・燔畠同樣ナレドモ、鹿野ハタケハタカ計テ無反別也、作物仕付方ハ矢張燒畑同前也、往古見積リテ一山タカ受イタシタル儀ト相見エ、是ヨリ是マデトシカト限リモ無、割附ニハ廣野畠無反別ト記ス、至テ下免ニテ少々年貢相納、悉ク場廣也、國ニ寄テ反別ヲ付タルモアル也

一　苅生畠ハ甲州郡内領ニテ唱ル、是モ右同然タレドモ、高反別有ㇾ之、年貢ハ多分大豆ヲ納ルニ付、村方ニテハ大豆タカトモ云、一トホリノ燒畑ト違ヒ、五年モ十年モ柴小木草等立置、夫ヲヤキテ畠物仕付、又其場所ハ翌年ヨリ五七年モ柴草立休メオキ、宜時分ヤキ立畑作仕附ル、一體郡内領ハ山計成場所ニテ、往古檢地ノ砌、右ノトホリ五ケ年十ケ年モヤスムルコト故、至テ繩延一反歩ノ苅生畑ハ、一町歩モ二町歩モアリ、柴カヤ立ノ所モ、ヤキ畠致分モ一體ニ繩受、地主ハ極リ、彼方此方ト少々ヅツヤケ畠ニシテ作附致ス、年貢ハ一反ニ大豆二三升、五六升モ納メ、至テ下免ノ由、郡内領ハ蠶飼重ノ處ニテ、桑多ク入用故、苅生高ヘモ植付、マタハ山ニモ有リ、何レモ大木ニテモ切テ遣フ、右切カヘ畠・鹿野畠・苅生畑抔ト所々ニテ名カハリ、仕法モ少々違フト雖、都テ申處ハヤケ畠ニテ、其國其所其所ノ仕來リ差別有ㇾ之モアリ、マタ無反別モアル、作付仕方等處ニヨリテ少シヅヽ違フ、信州北國筋

ヤケ畑大分有レ之、上方筋四國西國トモ、山家ニハ何レモアリ

一　林畠ハ高受致シ雜木等仕立、薪ニ伐出ス畠ヲ云、山畑同然下々畠ノ位モ附難ク、林畑ト申名目ニテ石盛取箇モ低クツケル、尤林畑ニハ下畠下々ナドノ位ツケタルモアリ、不レ限二山中一、野方ニモ里方ニモ地廣成處ニアリ、里カタニテモ上州勢多郡邊、武州川越領野火止領ナド所々アリ、野カタノ惡地也

一　カヤ畑ト云ハ、畑受ニテ、作物不二仕附一、カヤ立ニイタシ置、無位、石盛モ低ク、年貢迚モカヤ畑ハ少々相納ル、カヤ畑ハ性合モ宜ク、延モヨク、苫カヤ等ニナル、山カヤヨリハ直段ハカクベツ宜シ、萱野ト云ハ無タカ無反別ニテ、運上永等差出ス、カヤ野年貢トテ米ニテ納ル所モ有レ之ハ、カヤ畠トハ不レ唱ナリ

一　荻畠モカヤ畠ト同然、タカヲウケ荻ヲ仕立ル也、無位ニテ石盛低ク、ヲギ畑年貢トテ物成モ少々出ス、カヤ畑ヲギハタケハ養手入等ノ世話モナク、作物ヨリ却テ勝手ニナル筋モ有、荻畑名目ニテ土地モ可也ニ有レ之バ、開發イタシ畠作仕附ル儀モアリ、若左樣ノ地所ハ、見分吟味ノ上本畑ヘ直ス、又野ニ立ル荻モアリ、是ハ無反別ニテ荻立ノ樣ニ見ハカラヒ、荻ヤク永ナド丶申附ルコトアリ

一　蘆圃ハ畑請ノ所、下々畑等水附ニテ作物仕ツケ難、蘆ウヱ立ル所モアリ、蘆畠ト申名目ニテ、無位ニタカツケ致シ、年貢納ルモ有、大川通・野地・海邊等アシ畠ト云テ、無タカ無反別ニテ、蘆運上ノ

收メヨシ立ノ所モアリ、ヨシハ河岸邊ナドニウエ立レバ、根蔓リ土地締リ、大水ノ時水刎ニ成、岸圍ニヨキ者也、無レ障バ隨分仕立可也

一　新田切添之事、幷分間クハ下年季地代金

新田ト云ハ、新田畑屋敷等ノ惣名ニシテ、新田トモ新開トモ云、細ニ分テ云トキハ、新田・新畑・新屋敷ノ差ベツアリ、何レモ一所立タル處ヲ新規ニ開發イタシ、都テ新田ト唱ル、海川ノ附洲・池沼ナドノ埋リタル所、山方原地ヨシ、原ナド田畠ニ成ベキ場所見立、其村ノ者ニテモ、又ハ他村ノ者ニテモ、新開願出ルトキ、古田畠ノ障リ、並隣村ノサシ障リ有無等得ト相糺シ、サハリナケレバ新開申附ル、先ヅ大繩反別トテ、其場所惣廻リヲ致ニ分間一、可レ障地所ハ相除キ、用水路堤敷道敷等コレマタ相除キ、分間繪圖步詰ニテ、惣反別何程ト相極メ、其地所早速田畑ニ開發成安キ處カ、マタハ格別開キ手間可ニ相掛一哉見分イタシ、三年ニテモ五年ニテモ鍬下年季ヲ極メ、地代金モ其場所相應、凡一反金二分カ一分ト定メ、惣金ダカ鍬下年季内ニ割合爲レ致ニ上納一、年季明翌年檢地イタシ、タカ入ニイタス、是モ稻作植ツケ以前立春カ、刈取アトニ無レ之テハ、檢地イタシ難ク、其年ノ立毛檢見セズシテハ、石盛ノ當リ、並取箇ノ程モ不レ分ニ付、多分秋冬ニ掛ケテノ檢地ニイタス方宜シ、右ニモ出ス如ク、秋檢地ナレバ其年計一ケ年見取ニ致シオキ、取箇ハ檢地通ニ申ツケ、翌年ヨリタカ入ニイタス定法也、新田畠石盛ノ儀ハ、其村本田畑類地ノ石盛見計、其外諸事考合セキハメル、若他村他國者ナド開願ノ時ハ、

村方差支有無、別テ入念不ニ相調一シテハ、後々サシツカヘ出來イタス者也、一體町人ノウケ負新田ハ御停止タリトイヘドモ、近年ハ大坂町人多分ノ新田有レ之ニツキ、一概ニハ云難シ、若町人ウケ負新開願出ル儀有レ之バ、其節ニ至リ相伺、取計フカタ可レ然、御代官其外ノ御役人ニテモ見立新開有レ之バ、其人一生物成ノ十分一被レ下御定法也

一　古田畑ノ地續ヲ切開タルヲ切添ト云、是マタ多分ノ切添ナレバ、其場所計檢地イタシ、高反別トモ相增事也、石盛ハ類地同樣ニイタス、併類地ハ土地宜ク、切添ノ分ハ山寄・木蔭・野付等ニテ畝歩モ多ク、格ベツ地味劣リタラバ、類地同然ノ石盛ニモ難レ付、土地見計、中ニモ下ニモツケル事有レ之者也

但、分間ト云ハ、檢盤トテ磁石ヲ立、十二支ヲ割付、夫ヲ以テ方角ヲ振間數ヲ引、百間四寸トカ、八寸トカ、一尺トカ場所廣狹ニ應ジ相極メ、繪圖ニ仕立ルコトナリ、分間ニテ反別改ルヲ廻リ檢地ト云、右繪圖形ニ隨ヒ、四角三角或ハ中スミヲ取、幾キレニモイタシ寸尺ヲ當テ、何間ニ何間ト坪詰ニイタシ、反別改ルヲ步詰ト云、鍬下年季ト云ハ、地所ニ應ジ開手間、其外開發入用ヲ積リ、何箇年ニテモ年季ヲ究メ、其內ハ作リドリニ致スヲ鍬下差免スト云、地代金上納イタス譯、空地ニテモ、海川ニテモ、地主ナキ場所ハ、都テ公儀地頭ノ物ナレバ開ホツイタシ、其場所ノ地主ニ相成ル故、冥加ノ爲代金サシ出シ、土地買請ル心ナリ

一　新林立出之事

新林ト云ハ、原地秣場、又ハ兀山等空地ニテ、木立ナク一場タテタル處、新規ニ木ヲ植ルヲ新林トイフ、マタ有キタル古ハヤシノ地續ニ木ヲ植足シ、林ヲ廣ゲタルヲ立出シト云、百姓持反別アル林ニテモ亦ハ無反別ニテモ、年貢カ役永林錢等相納ル林續ノ空地ニ多分致ニ植出レセバ、反別有レ之分ハ立出ノ反別相改、無反別ノ所ハ廣狹見計、年貢林錢等相增、勿論空地ニ新ハヤシ仕立ルハ、願ノ上年貢カ林錢等ヲ納サセ、仕立ル樣ニ取計フコトナリ、一體切ソヘ立出シト言葉ツヾキニハ同樣ニ唱レドモ、切ソヘハ田畠、立出シハ藪林ノ事也

一　土地善惡之事

天子諸侯ノ寶ト云ハ土地也、孟子ノ語ニ、諸侯ノ寶三ツト云ルハ、土地・人民・社稷此三ツナリ、中ニモ土地ヲ第一トスル、土ニ五品アリ、五土ト云、一ニ山林、二ニ川澤、三ニ丘陵、四ニ墳衍、五ニ原濕也、山ハ土石積テ高キヲ云、林ハ竹木多キヲイフ、川ハ水ノ流ルヽ也、澤ハ池沼湖ノ類、岳ハ土ノ小ダカキ處、陵ハ大ナル阜ナリ、墳ハ水邊ノ岸岨也、衍ハ地下リ平ナル處、原ハタカクテ平ニ打ヒテケタル處、濕ハシメリ有ル處ヲイフ、五種ノ土何レモ天子諸侯ヨリ下民ニ至ル迄所用有コトニテ、土地ヲ可レ尊コト勿論也、然レバ國政ニ預ル人、土地ノ善惡知ラズンバ有ベカラズ、先ヅ檢地石盛ヲ附ルモ、地味ノ善惡ヲ能々見分ルコト第一ナリ、土地ヲミルニ、マヅ陰陽ヲ見分ケ、草木ノ盛長ト色合、石ノ色土ノ色輕重淺深、ネバルトモロキト、地所ノタカヒクニ心ヲ付ベシ、大テイヲイヘバ、南下リ

ノ土地ハ上、東下リハ中、西下リハ下、北下リハ下々トシルベシ、土地ノネバル堅マルハ陰、カワキ重クハラヽク類ハ陽ナリ。陰氣ノ陽氣ニ勝ザルヤウニ心得ベシ、村居北ニアリテハ南ヲウケ、村前ニ田アリ、又北高ク南低ク、日請ヨキハ上田也、南ニ村居森林等有レ之、北請ニテ北低キ地ハ下田也、東高ク西ヒクキ土地ハ下田ナレドモ、早稻ニ宜シ、西高ク東ヒクキハ中ニテ、晩稻ニヨシ、又水掛リヨク底ニ水氣ヲ含ミ、日受ニテ上ニ陽氣ヲ請、地深ク土目重ク潤ヒアリ、塊和ラカニ碎ルハ上々田也、尤田ハ少々地淺クトモ、水掛リサヘ能日受ノ田ハヨシ、畠ノ淺ナルハ作物日受ケ强ク甚惡シ、村里ノ垢水流レ入ル田ハ宜シ、然レドモ汚泉多ク入レバ、必稻ニ蟲付モノ也、眞土ニ赤黑青ノ小石交リ、上白眞土ニテネバリヨキト、黑眞土麝香色ナルハ上地也、ネバリ干堅マル土ハ下々也、原附ノ高ミハ田畠トモニ惡地ト知ルベシ、野土ニテモ潤ヒ有テ重メナルハ、眞土ニ不レ劣上也、マタ鳶色成モ上、鼠色ハ中、鍋墨ノ如ク見ユルハ下也、山土薄柿色ニテ土目輕ク、マタ燒土ノ樣ニアカクネバリ堅マル土、砥石ノ如ク白ク堅マリタルツチ山方ニ多シ、何レモ取譯惡シ、泥ツチ重キハ上、輕キハ下也、サテマタウナヒ置タル田ニ、稻ノ根株太クアカク澤山見ユルハ地性惡シ、野土砂ツチニテシメリ無故、根株不レ損シテ浮安ク、フトクタク山アルハ大惡田也、眞土シマリ地目宜キ上田ハ根株少シ、マタ尉ガ髭ニ似タル牛蒜ト云草多ク生ル田ハ下々也、土筆ノ多ク山ニ出ルモ下畠也、マタ地ノ底ニ朽タル萱ナドノ根多ク、竹ナドサシ込メバ何ホドニテモ入ル田アリ、常陸邊ニハケトウト云、國ニ依リホツクト云所モ

有、出羽越後ナドニテハ浮田ト云、田ノ畔ヲ步行バフラ〳〵動ク、土一面桁下ハ何程深キニヤ、ソコ不ㇾ知沼方ニ多ク有ㇾ之、大雨洪水等ニテ、ウヱ田稻株土トモ流レ散リ、アトハ池ニ成ルコト間々アリ、越後國蒲原郡邊下筋ニ多ク有、至テ惡地也、扨土ノ位上々ト下々ハ人力ニテ如何トモ仕難シ、中下ノ地ハ人力ヲ以テ惡地ヲ肥地ニシ、弱ツチヲ強クシ、堅キヲ和ラゲ、ネバキヲモロク、淺キヲ深ク、輕キヲ引締ルホドノ事ハ、肥シノ仕方ウナヒ方等、人力ノ精次第心懸ニテ出キル者也、土目ノ儀色々有ㇾ之ト雖、見分ト大ガイ上中下ヲワケテ見ルトキハ、アラマシ左ノ如クシルス

砂並ニ白黑ノ眞土　赤並ニ鼠眞土　大川芥土（アツトモ云）　稻子眞土（麝香眞土トモ云）

野土交眞土　小石交リ合タル眞土

右ハ上々田畑成ベシ

サク石交リ、並ニ砂ノ過ル眞土　小石交リ、白並ニ黑重キ野土　砂ノ過タル大川芥土

右ハ中ノ田畑成ベシ

ネバキ赤地　輕キネバ地　強キ黑眞地　砂マゼリ野地　輕キアカ地　灰地　輕キ野地　青マサ地

砂計ノ畠

右ハ下ノ田畠成ベシ

以　上

一　土地ニ依テ植物ノ善惡所ニ依ルトハ雖、大抵黑ツチハ麥ニ宜シ、赭ツチハ大豆ニヨシ、黃白ツチハ粟黍ニヨシ、細ニ和カナル砂地大根ニヨシ、水近キ和カ成ツチ、日陰ハ芋ニ宜シ、アカ眞ツチ砂ツチ麥菜ニヨシ、黑眞ツチニ細石ノ能々思ヒ合タルハ諸作ニヨシ、別テ麻・木綿ニ宜シ、濕氣洩安キ南ムキノアカツチ楮ニヨシ、ツチ强ク堅ネバリ、小石交ノツチ茶ニヨシ、强ツチ麥・菜・大根・芋等ニハヨロシカラザレドモ、木綿ニハ相應ニテ成長モヨク、吹モ澤山也、又濕氣强キ畑諸作トモニ不宜ト雖、芋ニ至極ヨク、野ツチハ一體惡キモノナレドモ、大コンニハヨク、都テ菓樹ノ類ハ南向地深ノ肥地、屋敷廻リ人煙近キ程盛長モヨク、實入モヨロシキ者也

一　新田場・見取場等開發致シ、五七年ハ地不馴ツチ目惡ク出キ形モ不宜、年ヲ重ヌル程肥シノ精モ入リ、居芥溜リ土練レ、段々地性モ能ナルニ付、檢地初年等ニハツチ目見損ジアルモノ也、依テ石盛附ルニハ、甚功者人可有心得事也、都テ土地ノ善惡地味品々有之、作物ノ應不應、國々所々ニテ違ヒ、老農圃タリトモ難定コトノミ多ク、增テ一通リ地方ノ樣ニ見聞イタシタル計ニテハ一向知難シ、然シ大體右ノ趣心得、其所々ニテ功者ナル農夫ニ問フベシ、勿論右ノ如ク土地ノ可否ヲ論ズルト雖、水土ニ依テ違ヒ多、先ヅ作物ノ上ニテ云バ、越後邊ハ一反ニ麥三斗・四斗・五斗漸出來、奧州福島領抔土地宜キ處ナレバ、至極ノ大出來ニテ一石五六斗位也、關東ノ內ニハ餘リ不宜土地ニテ二三石出キルハ常ノ事ニテ、上出來ノ麥ハ四石程モアリ、又紅花抔關東ヨリ東海道筋ヲ見レバ、田ウヱ時分花

ヲ取仕廻フ、奥州邊ハ土用過ヨリ花摘初ル田モ、九月節句時分ヨリ早稻ヲ苅ソメ、追々晩稻迄引續收納スル國モアリ、九州邊ノ早稻ハ七月中ニハ不レ殘收納スト、オク手ハ悉ク遲ク、十月中霜月ニ掛ケ取合、日向薩摩邊ノ早稻ハ六月中收納致シ、國々ノ寒暖違ヒ有レドモ、左マデノ事モナク、作物ノ遲速ハ悉クチガヒアリ、上方筋ノ上田ハ一歩ニ籾一升モアリ、マタ三升ニ近キモ稀ニハ有レ之、關東ニテハ至テ能能出來タルト見エテモ、一升以上ノ稻ハマレナルコト也、上方中國筋上田トアレバ、其近所大カタ上地也、中下モ同ジ、關東ハ田畠トモ並ノ坪ニ上モ有、下々モ有、善惡入交リ也、マタ國ニヨリ兩毛作ノ場麥ヲ不レ蒔、地ヲ休メテ田作スレバ、殊ノ外能出來、麥ヲ取ルヨリ增ノ所モアリ、東海道筋麥田ニ麥ヲ蒔ザレバ、田作不出來也、サテマタ稻ヲ刈跡ヲ耕シ、冬水不レ絶掛置、春夏ノ足シニスル所多シ、然ルニ國ニヨリテ春田ヲウナヒ、荒ツチヲ白ク成ホド干ザレバ、田作冷テ青立ニ成ル處モアリ、東國ニテ宜キト云ツチ、西國ニテハアシキモ有、同ジ作物ニテモ、其國々ニテ作リカタノチガヒモ有、寒暖遲速土地ノ應不應一定ナラザレバ、强ク地味ノ儀ヲ論ズルハ不レ入事ノ樣ナレドモ、其國其所ニヨリ、地性ノ善惡、作物ノ仕カタ平日心懸、見覺聞識タル事ニテ、出キ形作リ方等ノタガヒメ有事ヲモ、廣ク知リ詳ニ辨ヘ、百姓苦樂豐窮、賦税强弱等モ厚ク心ヲ可レ用コト、地方ヲ主トスルモノヽ要務ナルベシ

一　土地ノ善惡旱水損場等ヲ見分ルニハ、其處ノ形容ヲ考知ルベシ、用水堀淺ク溝ノ如クニ見ユルハ、

水懸日由ノ所ト知ルベシ。是等ノ土地ハ田ニ麥・菜種等ヲ作ル、兩毛ノ場也、用水堀深ク遠キヨリ水ヲ引、水元遠ク用水堀多クハ高場也・惡水堀多キハ水損有地ト知ルベシ、民家四壁モナク、マタ有レドモマバラニシテ、都テ大木等無ハ水入處也、箇樣ノ地ニハ水塚トテ、百姓ノ居處高ク築上タル地モ有リ、マタ堤添ニ地面ヲタカクシテ家居有レ之モノ也、或ハ村上ニ大沼大川抔ヲ抱、マタハ村下一二里ノ間ニ大キナル流レアレバ、水落惡ク、大水ノ時逆水登リ、水湛水損多キ者ナリ、イネノ元水澁付其色クロク、茅垣根ノ元クロキハ深場也、マタイネ株タカク苅テ見ユルモ深場也、但岡ノ田ノヤウニミエテ、株タカク刈テミユルハ、前年ノ水ソンジ所ト知ルベシ

一　村柄善惡之事

其村へ入四壁繁茂シ、家居園等ノ締リノ能キハ宜キ村ナリ、村柄ヲミルニハ、高ニ人馬ノ數ヲ見合知ルベシ、タカ百石ニ人數百人ニ當ル村ハ、上村ナリ、馬是ニ準ズ、マタ職人・商人・醫者・山伏・道心者等遊民多キ村ハ、ヨキムラ也、村カタ繁華ニテ渡世仕安キ故爰ニ集ル、村カタ豐作ニ附、他へ奉公ニ出ル者ナク、他ヨリ奉公人ノ込タカニ合セテ人數モ多ク、仍テ人多キハ豐饒ノ村ト知ルベシ、マタムラへ入四壁モナク、有ドモマバラニテ家居垣根等ノ破レモ不レ厭、庭ノ園へ草深ク見ユルハ、困窮村也、偖又村へ入何トナクソハソハトシテ、見エ透ク樣ニ物サミシキ體ナルハ、至テノ困窮ムラ也、マタ家居ハ見苦敷トモ、山林・萱野・秣場・芦場等有、四壁ニモ樹木多クミユルムラハ、內證ヨキ者也、如レ此ノム

ラ多クハ野カタニ有モノ也

一　市場・河岸場等、其外定式作物ノ外、絹・綿・縞・木綿・布・麻類仕出シ、蠶飼・紙漉ナドアルムラハ、上々ノ邑ナリ、又右體ノ助成無トモ、古檢地ニテ山寄田畠地廣繩延ノムラハ豐年也、唯遊地モナク、山林野カタモ少ク、田畠一面ニ並ヨクミユルハ、必地詰リノモノニテ、ケ樣ノムラカ、マタハ往還筋ナド、少々町所懸リ家居並能キハ、ムラ柄宜クミエ、見分負ケシテ內證ハ困窮成者也

一　山方・濱方ハ高ニ不ㇾ拘、至テ人數多キ者也、是ハムラ柄ノ目當ニハナラズ、濱カタハ田地少ク、只漁獵ノミヲ渡世ニス、人數大勢入ル仕業成ユヱ、他ヘ出ルコトナク、マタ處々ヨリ漁師大勢集ルユヱ人數多シ、漁業ハ風雨ノ變ニ付、一向魚獵ノナラザル日多シ、タマ〱ヨキ日有テモ、大勢ノ人平日他借等ヲ以テ其日ヲ送リ、獵師ハ物ヲ貯フコトナク、其日限リニスル者ユヱ、大漁有テモ身ニツクコト少ク、マタ山カタハ上田ナク、山間谷間或ハ山ノ內日請ヨキ處ヲ切開キ、耕作ヲ營ムトイヘドモ、地面惡シキ里カタニテ、一反ノ取實ハ五反ニテモ取難シ、其上山中ユヱ猪鹿ニ食ヒアラサレ、種モ無事多シ、尤右體ノトコロハ、成丈山ヲ切開地所ハ廣シ、サテ切替畠・燒ハタケナド云ハ、一反ノ檢地ヲ請、五反モアル山ノ半腹又ハ峰ニテモ、小苗木艸萱等ヲ燔一雨請、濕リタル處ニ養モナク、粟稗蕎麥等ヲマキ付、一年ニ漸ク一毛取、夫モ年々ハ難ㇾ作、一作迹ハアラシ置、草木生茂リ、四五年目ニ又燒テ作ルユヱ、一反ノ繩請ニテ五反モ無テハ不ㇾ成事也、右一毛ノ作モ里カタノ畑作三分一モ取レズ、マキツ

ケ手入等スルモ家居ヨリ遥隔リ、山坂ヲ越カリ入収納スルモ、又遠方持運ビ、如レ斯所モ廣ク地嵩ヲ作リ、少々ヅヽ作リニテハコトタラズ、多分作ルニ付、自ラ人數多ク掛ルコト也、勿論右體ノ作リ計ニテハ渡世成難ク、薪ヲ伐里ヘ持出シ、マタハ材木板子木ヲ挽里ヘ出シ、少々ノ錢ヲ取鹽抔ヲ求メ、其日ヲ送ル事ユヱ、至テ困窮ナリ、マタ極山中嶮岨岸壁ニ住居スル百姓ハ、一向焼畑等モナラズ、野菜可レ作地所モナク、材木板或ハ薪ヲ採テ夫食ヲ調、或ハ櫟ノ實ワラビノ根ナドヲホリ夫食トス、誠ニ難儀成クラシ也、如レ斯ノムラユヱ、都テ山カタ濱カタ人多キハ、所柄善惡ノ見當ニハ會テナラザルコト也、サレバ箇様ノ所ハ年貢小物成等悉勘辨スベシ、山カタ場所廣クトモ、一概ニコヽロエテハ大成ル誤ナリ

一　又山カタニテモ山中ニ無レ之、後ロニ山ヲ請材木艸樹ナド多ク、薪ハ不レ及レ申山稼有テ、前ハ谷間打開テ作處多ク、里カタ同然ニテ土地宜ク、四木三草モアリ、産物多キムラカタハ至テ宜キ所ナリ、斯様ノムラカタニテモ山カタ故、面地ハヒロク、取箇ハ里カタヨリハ低シ、マタ濱カタト申内ニモ、湊ハ勿論、急度立タルミナトニ無レ之トモ、鯨・鰯ナドノ大漁有レ之、荷船モ有テ國々運送ノ便リ能キ濱カタハ必地面モ宜ク、海中干潟ノ新田等モ出來、作物・漁獵・船稼等品々有レ之上々ノムラモアリ、何レ山カタ・濱カタ・野カタトモ一概ニハ云ヒ難シ、能々心ヲ付テムラ柄ヲ見分ベシ、上ヘヨリハ見エガタシ、ムラガラ善惡ヲミワクルモ、經濟家一端トイヘリ

一　除地見捨地之事

除地ノ儀ハ、前條除地高ノ所ニ悉ク記ス如ク重キコトニテ、前々御證文有カ、又ハ古キ檢地帳ニ除地ト記シアルハ格別、繩外ノ地ヲ新規除地トシルスコト無レ之、併御當代ニテモ、何ゾ子細有レ之、除地ニ被二成下一ト申御證文等アラバ、古水帳ニ無レ之トモ除地ト唱ヘル、サナクテハ繩外除ニ成ル地所ハ、ミステ地ト可レ唱コト也、寺社境內・免田・塘敷・道敷・堀敷抔ノ類、古檢高內引ニ成居ル分、新檢入ル時高外見捨地ニハ致間敷、古來高入ニ成タル分ハ、新檢ニテモ高ニ結ビ、又々タカ內引ニ可レ致新田等、新ニタカ入ニ成ル地所ノ內繩外ニ除キ置分ハ、格別也

一　墓所損馬捨場之事

墓所損馬捨場ヲ高ノ內、地所ニハ不レ致、ミステ地ト致スベシ、在々墓所損馬ステ場入會ノ定法ニテ、一分持ニ致サスル儀ハ禁制也、處ニ依リ年貢地畑內ナドニ、自分墓處ヲ建タルモ相ミエ、此儀別テ不レ宜コト也、墓處ノ年貢ハ穢モノナレバ、公儀地頭ヘ可レ納コトニ非ズ、然ルニムラニ寄自分々々ノ持田ノ內、勝手次第ニハカ所ヲ立タル所多シ、甚無レ謂コト也、仍テ畠ノ內ヘ葬送ヲイタスコトハ、カタク禁ジタキ事ナリ

一　隱田之事

隱田ト云ハ、檢地ノ時不レ致二案內一殘シ置、田畑檢地入以後ヘ所務致シテモ、地主ヨリ不二申出一ヲ隱田

ト云、重々不届ニテ、礫ニ行ハル、御定法也。尤檢地後一兩年過ギ、落地有レ之旨訴出レバ、尙又相改高ニムスビ、落地ト申テ私ニハ不ニ相成一、役人ヨリ吟味ノ上見出シ、隱置タルニ無レ紛、不埒ノ筋露顯ニ於テハ、檢地後當分タリトモ科ニ被レ行、マタ新開切添等有レ之、三四年不ニ申出一トモ、カクシ田ト申筋ニハ無レ之、咎不ニ申付一、然レドモ多分ノ地所數十年不ニ申出一、無年貢ニテ作ルニ於テハ、カクシ田ニ準ジ、相應ノ科申附ル、都テ少ノ新開荒地起返シ等ヲ、早々改メ年貢取ル儀ハ不レ宜事也、一兩年モ年貢ヲ赦シ、百姓ノ入用手取等ノ代リニ爲レ取置ガヨシ、サスレバ百姓カタニテ出精イタシ、新開起返等イタス事ナリ

一　百苅反步之事

往古ハ田畑タカ無レ之、反別モ不ニ一定一、稻ノ束數ヲ以テ田數トス、今モ片鄙ノ遠境ニ無ダカ無反別ノムラ抔、何十刈何百刈ト束數ニテ反步ヲ分ル所有、至テ古法也。是ヲ百刈、千刈反步ト云、上古ハ田ノ租稅束數ヲ以テ定メ、畑ハ無年貢也、「人皇四十二代文武天皇慶雲三年九月丙辰、遣ニ使七道一、始定ニ田賦法一、町十五束、及點ニ役丁一」ト續日本紀ニ見ヘ、又田令ニ、「段租稻二束二把、町二十二束、田賦爲レ租、段地獲稻、五十束之稻舂得ニ米五升一、於レ町者得ニ五百束一」トアリ、右ノ積リニテハ、田一反三百六十坪ノ處ヨリ稻五十ソクヲ得、其内二束二把年貢ニ納ム、稻一ソクヲ搗テ米五升ヲ得レバ、一段米一石五斗也、其内ヨリ一斗一升年貢ニ納ム、一把ヲ一刈トスレバ、五十束ニテハ五百苅也、往古ハ無高反別ノ

樣ニ雖ニ中傳ヘ反別モ位モ有レ之ト見エ、段町ノ數和漢トモ上古ヨリ有レ之、既ニ人皇五十二代嵯峨天皇ノ御宇弘仁式ニ、上田一段地子モナク、中田一段八ソク、下田一段三ソク爲ニ地子ニトアレバ、位反ベツハ上古ヨリ有レ之事ト見エタリ、今無反別ノ村アルハ、中古反ベツヲ取失ヒタルカ、又古來開發時代ノ、無反別ニテ束刈ヲ以、年貢諸役ヲ勤來ル引附ニテ、當時無高無反別ノ村モ有ニヤ、古ハ一反何百カリト云定有、其世々ニテ極リモ有タルヤ知ラズ、當時ハ區々ト見エ、國ニヨリ一反百カリ、一町千カリトスル所モアリ、又近クハ御代官所信州水內郡權堂村・問御所村・荒木村・千馱村・栗田村、右五ヶ村往古ヨリ高ハ有レ之、無反別ニテ稻四十ソクカリヲ一段ト極反別ヲ積ル、勿論石盛モ無レ之ニ付、割出シ平均ニテ附置也

高五百八十九石四斗七升三合　右五ヶ村

此苅一萬九千六百四十九束一分　凡石盛平均十二餘

此反別四十九町一反二畝八步　但一反四十束之積

右五ヶ村無反別ニテ定免タル處、被レ免ニ檢見ニノ節勘定成リ難キユヱ、古來引附ノ稻ソク數ヲ以テ反別仕出、石盛ヲ割ツケ勘定スル也、村ダカハ何ノ頃ヨリ附タルニヤ、處ノ者モ是ヲ不レ知、往古上田一反五十ソクカリ、中田四十ソクカリ、下田三十ソクカリト云定メモアリ、此處古來中田ノ場處ト見エ、ソク數計リ縛リ書出來ルニヤ、勿論摘ミ高ナルベシ、當時モ右ノ通無反別ノ場所、或ハ貫ダカ等

ノ村方何百刈ヲ以テ年貢モ積リ、田畑質入等ニモ何十カリ何百カリニ、金銀何程ト證文ニモ認ル、右ニ如レ申稻何把ヲ幾カリト定リタル員數無レ之、其國其所ノ引付ニテソク數違ト雖、大旨稻二抓ヲ一把ニシテ、田一歩ニ凡十把ノツモリ、六把ヲ一ソクニ致ス所モアリ、又十把ヲ一ソクトメル處モ有レ之、段別ニ引合セ積レバ、十把一ソクニシテハ畝ニ三十ソク、一段ニ三百ソク也、又六把一ソクニツモリ、一畝ニ五十一ソク、一段ニ五百十ソク也、一ソクヲ一カリト云由、サスレバ三百カリニテ一段ノ所モアリ、五百カリニテ一段ノ處モ有ト見エタリ、江州甲賀郡信樂多羅尾村抔タカハ有テ、無反ベツノ邑方ニテ、小前ニタカ無レ之、右ノカリ數ヲ以テ質地等ノ取リ遣リイタス所、此村ハ三百カリヲ一反ト當テ取ヤリイタス、出羽國ナドハ五百カリヲ一段トツモル、マタ右ノ信州ムラ〱ハ四十カリヲ一段トツモル、四十ソクヲ一段トスレバ一ソクノ把數二抓一把ニシテ、十把六把ヲ一カリノ割ニテハ、餘國トハ大ニ違ヒ、勘定アハズ、然レバ信州ノ一ソクハ餘國ノ十ソクニモアタルニヤ、勿論二抓一把ト云モ定リタルコト無レ之、何百ソクカリヲ一段トキハメモナク、土地ノ善惡、累年ノ出來形、稻ノソク員大小多少有レ之、其所々ニテ前々有來リ、其ムラノ通用ニ付、一般ニ押平均シ極リタル儀無レ之、今ノ所ノ言習ハシ成ベシ、高反別有レ之村方ニテモ、百姓ドモ稻ノ多少ヲ論ズルヲ聞ケバ、百刈ノ場所ニテ當年ハ漸ク五十カリ取タル抔ト云。都テ小百姓ハ反別ヲ不レ知、何十カリ何百カリニテ、田ノ廣狹ヲ積ル類多ク聞ユ、國々所々ノ通法員違フユヱ、若右體無反別ノムラ方檢見等有カ、何ゾ反別ニ入用ノ

セツハ、其村々ニテ東カリノ通法トクト相糺、トリ計フベシ

一　流作場之事

是ハ川筋堤ノ外、或ハ湖水池沼等ノ岸トホリ、圍畔モナク、用水一面ニ掛ル地所ニ稲作仕付ル分、反別改ヲ請、流作場ト唱年貢ヲ納ム、旱魃年ニハ植出シ多ク、又水多キ時ハ作ツケ成難シ、仕ツケタル分モ押流シ、年々極テハ仕難キニツキ、不定ノ作場也、尤場所廣ク追々地高ニ成、地驅用水掛リノ仕形モアリテ新田ニモ可レ成趣ナラバ、小堤等築廻シ、追テタカ入ニモ致シ、又ハタカ入成難キ所ハ、反別ニモ致スベシ、一體反高同様ノモノナレドモ、毎年難レ仕ニ付、其上大水等ノトキ地面トモ押流スコトモ有、誠ノ不定地也、作附有レ之年ハ、見分イタシ取箇申ツケル、近江國湖水端ニ流作場多シ、旱年渇水ノ節ハ夥ク植出シ、マタ雨年ハ反別請有レ之分モ、一向植附成ガタク、或ハ今暫ニテ収納イタスホドノ處、一夜ニ押流シ、種モナクナル年モ間々有レ之、關東ニテモ武州・總州・常陸邊川附沼池等ニ處々ニ有レ之

一　見取場之事　附定見取　屋敷見取

見取ハ川附、或ハ山附・原地・野方等、卒地ノ場五畝三畝ヅヽ、田畑開發シ、作物仕付高ニ不レ入ヲ見取場ト唱、年々出キ形致ニ檢見ニ取箇申ツケル、新見取有レ之バ村方ヨリ訴出、又ハ地頭ヨリ改出シ候儀モアリ、檢地同様反別相改メ五七年モ見取場ニイタシ置、地驅タカ入ニ成ルモ可レ然所ハ、檢地イタシ石盛

ヲツケタカニ結ビ入ル事也、若又水損不定地カ、何ゾ子細有レ之、タカ入成ガタキ分ハ、始終見取場ニテ差置モアリ、ケ様ノ見取場ハ、反當リ年々カクベツ不同モ無レ之ニ付、毎年不レ及ニ見分一取箇ハ居置事モアリ、勿論野付・原地・山添麓等反別多分致ニ開發一時ハ、見取場ニ不レ致、大繩反別ヲ改、代金爲ニ相納一相應ノ鍬下年季差赦、新開ニ爲レ致、タカ入ニイタス、僅ノ畝歩ニテ見取場ニナレバ、地代金鍬下等ノ不レ及ニ沙汰一見出シタル年ヨリ反ニ二升カ三四升、土地ニ應ジ立毛見分ノ上、見取米取立ル事也

一　定見取ト云ハ、野山切開、又ハ地低ノ場所埋立、大分ノ手間入レタラバ、田畑ニ可レ成趣ニツキ、御代官地頭ヘ相願、年貢上納ニ被ニ仰附一定見取ノ名目ニ被ニ成下一バ、入用ヲ掛場所可ニ取立一旨願出ル時、得ト見分吟味ノ上開ホツイタシ、物入ノ程ヲ考定、見取ニ申ツケル事也、常々ミトリニ請置テハ、地面宜クナルニ隨ヒ、段々ミトリ米モ上リ、マタハ後年ニタカ入ニモ成、最初多分入用ヲカケ仕立タル無ニ甲斐一ユヱ、定ミトリニ願定、ミトリノ名目ニナレバ、初年相極タル取箇定納ニテ、年貢相增候儀ナシ、又致ニ皆損毛一テモ、引カタモ不レ立致ニ辨納一也、何程地ナレタリトモ高入ニ不ニ申付一所替等ノ時ハ跡支配ヘ右ノ趣申送ル、私領渡シニナルモ申送ルコトナリ

一　屋敷見取ト云ハ、川筋塘外河原附寄蘆場等ノ内、大分手間入築立屋敷ニ致セバ、川稼等ノ勝手宜、併塘内屋敷構ヨリ格ベツ金子餘計カヽリ、人夫モ多分懸レドモ、船稼等勝手ニナルユヱ、見トリ屋敷ニ御代官地頭ヘ願出候セツ、得ト見分吟味イタシ、村中隣村共差障リ、並川筋水行等ノ障リ有無巨細

相タヽシ、差支ナキハ屋敷ミトリ、年貢上納ニ相極メ申附ル、都テヤシキハ悪地ニテモ、上畑並又ハ上畑ヨリ高免ニ收ル所モアリ、右ミトリヤシキハトリ立ノ時、多分ノ入用掛リ、上畑並ニ納ルハ難儀ニツキ、最初ノ入用相考、ムラ並ヤシキ年貢ヨリ格ベツ引下ゲ、定メミトリニ相極ル事也

一　兩毛作　片毛作之事

田ニ麥ヲ作リ、稻作ノ外ニ麥トリ入ルヲ兩毛作ト云、上方筋西國筋ニテハ、田ニ麥作ノ外菜種ヲ重モニ作ル、是又兩毛作也、兩毛作ノ田地ニモ、土地ノ善悪上中下ハ悉雖レ有レ之、兩毛作ノ所ハ一體ノ地面不レ宜シテハ、兩毛トナリガタク、都テ田畠トモ一年モ半年モ、土地ヲ休ル程肥シノリテ、利メモヨク作物ヨク出來ル者也、依レ之兩毛作リノ田ハ、元來土地不レ宜シテハ、兩毛作トモ不出來ニナル、夫ユヱ水氣濕氣ナキ田ニテモ、土地宜シカラザル薄田ニハ、兩毛作成ガタシ、關東ノ土地ハ兩毛作少シ、併武州上州ハ兩毛作等ノ所モ餘程アリ、五畿内中國筋ニハ田ニ木綿ヲ造ル、是ハ出來形稻ト同時代ノ物故、兩毛作ニテハナシ、又濕氣地深田ノ類麥作成難キ、稻作計致ス田ヲ片毛作ト云、尤片毛作ノ所トテ悪地計ニテモナシ、上田モ有コト也、勿論租税ノ儀、兩毛作ノ所ハ何レ高免也、片毛作ノ所ハ麥作不レ取ダケ、取箇モ下免ニ無クテハ百姓立行難シ、檢見等致ストモ其心得肝要也

一　字之事

是ハ田畑其外山林野地等ニテモ、土地所ノ小名ヲ字ト云、口上ニテハ名所トモ、小名トモ、下ゲ名ト

モ申セドモ、帳面證文等ニ認ルニハ字ト書コトナリ

一　一筆限ト唱ル事

是ハ水帳・名寄帳抔ノ面、一反歩ニテモ、五畝三畝ニテモ、田畠一枚限ニ一打イタシ、何畝何歩何右衛門ト幾廉ニモ記シ有レ之、検見ノトキ内見帳・荒地起返小前帳抔ニモ、田畠一枚限リニ何畝何歩ト記、田畑ニイタシ建札帳面ト引合スル、其廉々ヲ一筆ト唱ル、帳面ニ一打ヲイタシ書コト、一筆ト申馴ハシタルト相聞ユ、縦バ五廉ニ記セバ五筆ト云、十廉アレバ十ヒツト云也

一　田畠畝歩ノ文字書法之事　附員數文字之事

田畠二十歩ニハ、スベテ廿ノ字ヲ用ヒ、勘方帖。村鑑帖等ノ御前帖ニモ正字ハ不レ書、廿歩ト略字ニ書法也、其譯ハ二十歩ト書テハ、一町二畝ニ紛レ、員數讀立算入等ノセツ、見違讀損ル儀モ有レ之、其上三十歩ト書事無レ之ニ付廿ト書ク、卅ニ直ス氣遣ヒナク、畝歩ニハ廿ノ字用ルガ地方ノ通法也、其外ニハ數字ニ一二、或ハ廿卅ナド書コト曾テ無レ之、一ハ壹ノ字、二ハ貳ノ字ニ不レ書シテハ、何レモ一點加レバ二ニモ三ニモ成、廿モ竪ニ一點入レバ卅ニナル故、御勘定所向都テ地方ノ書物ニハ、下書タリトモ員數ノ略字ハ不レ書法也、田畑ノ歩計ハ廿ノ略字ヲ検地帳割附等ニモ態ト書也、扨又讀合算入等ノ時、員ノ七ノ字ハナヽト讀事地方ノ通法也、コレハ四ハ七ノ聲ニ似タルユヱ、算チガヘ等無キタメナリ。

一　割地之事

是ハ水腐地新田場等ニ有レ之コトニテ、田方ニ字無レ之、一ノ割、二ノ割、三ノワリ抔、段々村々廣狹ニ應ジ、何十ワリニモ番附ニテ分ケ置、縱バ一ノワリ五反歩。二ノ割一町歩ト、檢地請ル時ワリ地ニ致シ繩請、サテワリカタハ上中下水腐無レ之所ト、年々致ニ水腐一場所トワリ合セ、百姓持高ニ應ジ、年季與ヘテ立地處ヨリ替ル、譬バ五ケ年ノ内何左衛門水損無レ之宜キ所多為レ持、又何兵衛ハ水損下田ノ所多ク與ヘテ其年季内為レ持置、又切替ニハ善惡入違ニ為レ持、總百姓無ニ甲乙一樣ニワリ合コトナリ、依レ之銘々持タカ極リアリト雖、此地所ハ此者ノ地所ト定リタル儀ナシ、水腐所ハ右ノトホリワリ替ニ不レ致シテハ、田所ニ至テ甲乙出來、水腐地計モチタル百姓ハ及レ潰ニ付、村中一統ニ相立タメ、ワリ地ニイタス也、仍テ年季カハリ割直ス時、村役人ドモ殊ノ外功者ノ入ルコトニテ、不案内ニワリ替レバ甲乙出來、百姓ドモ大ニ及ニ難儀一故、隨分入念ワリカユルコト也ト、越後邊多分ワリ地也、右體ノ場所ニテハ田畑ニ字有レ之、ワリ地ニ無レ之村ヲ、名田ノ村方ト唱、關東モ水場ニハワリ地ノ村有レ之也

一　耕地田面繩手根通沖通之事

耕地トハ如何成ル地所ヲ耕地ト唱ルト云ニモ無、何ヲ作ル處ト極ル言ニモ非ズ、村居ト村居ノ間、山ト林ノ間ナド、一面ニ田畑有レ之所ヲ一耕地ト云、國ニヨリ田面ト云フ處モ有、其外其所ニテ申習ハシノ里言雖レ有レ之、書面等ニハ都テ耕地ト認ル事也、繩手ト云モ耕地ニ似タルコトナレドモ、村ヨリ村ノ間等田畠ノ内道トホリ、又ハ往還筋立場ノ間、人家ナキ所ナドヲ繩手ト云、耕地ト云ハ、其所一圓ニ

成リ、縄手ハ一圓ノ耕地ノ内、此畦ヨリ彼方ノ畦マデ、一ナハテ抔ト云テ、一耕地ノ内幾縄手モ有レ之様成者也、根通リトイフハ、山林或ハ高岸人家等ノカタヘ寄タル場所ヲサシテ、根トホリト云、是ヲキベタ筋トイフ所モアリ、尤山下筋ヲキベタ筋ト唱ル所モアリ、沖トホリハ、耕地ノ眞中根トホリヲ離レタル田畑ヲオキト云也、海ノ沖磯トイフ心ナルラン、キベタトホリハ岸邊トホリト云ヲ略シタル里言ナルベシ

一 森林之事　附林改方並御林帖仕立　木立見　根伐仕立　山林竹仕立　御林木盗伐致タル者御仕置

一 森ト云ハ、寺社境内又ハ居屋敷ニテモ、木ヲ植立致二繁茂一ヲ森林ト云、右ハ山川原・野手原地等ニ木ヲ栽立茂リタルヲ林ト唱フ、森ハ多分寺社免地カ、屋敷反別ノ内ニ籠リ有レ之故、別段年貢等不レ出、古林ハ公儀御林・地頭林・井根ハヤシ・百姓ハヤシ、所ニ依リ品々アリ、御林並地頭ハヤシハ、百姓カタニテ下草苅取、下草錢トテ反當リ有レ之、年々相收ム、尤地頭ハヤシニハ其家々ノ仕來有レ之、落葉下草ハ無年貢ニテ百姓ニ取ラセ、本木ハ領主用木ニ遣ヒ、家中ノ諸士家作入用、又ハ林無キ村カタノ百姓家作等ノ節、願ニ依テ持高ニ應ジ取セル事モアリ、乍レ去箇様ノ類ハ少シ、井根ハヤシハ御用ニ付、諸役人郷廻リ等ノ時、枝葉ハ薪ニ用ヒ、眞木ハ堰川除ノ普請入用ニ伐渡ス事也、此井根ハヤシト云モ、所ニ寄リテハ有ドモ、稀成儀也、百姓ハヤシ無年貢ナレドモ、間ニハ林錢納ルモアリ、百姓ハヤシタリトモ、持主自由ニ良材ヲ伐遣フ事ナラズ、要用ニテキリ採時ハ願出、差圖ノ上キリ遣フナリ、又空

地ニ新ハヤシ仕立、百姓持ニナレバ、永林等相應ノ年貢申付ル事也、ハヤシニ不ㇾ限、百姓四壁或ハ屋敷前トホリ拵大木ノ類有ㇾ之、格別ノ大木ニテ、村中ハ勿論隣村ヘモ知レタル程ノ木ハ、御料私領トモ持主自由ニキリ取コトナラズ、ケ樣ノ村ハ御代官地頭カタニ帳面ニ記シ置コトナリ

一 林改カタノ儀、先ヅ分間ヲ以廻リ、檢地シテ反別ヲ改メ、繪圖ヲ仕立、樹數改カタハ小繩ヲ目ドホリニ廻シ結ビ切、サテ長ハ二間竿三間竿ヲ拵置、凡下枝迄二間竿ヲ當、夫ヨリ上凡三尺モ有ㇾ之ト見エバ、紙札ニ長二間半、夫々ノ木品ヲ記シ、右ノ廻シ置タル繩ニ結付、下枝迄三間モ可ㇾ有ト思フ木ニハ三間竿ヲ當、段々一本宛改、又大木ニテ下枝ヨリ下タ六七間モ、其餘モ可ㇾ有ㇾ之ト見エタル木ニハ、階子ヲ掛三間竿ニテ下ヨリ打、三竿モアレバ、夫ヨリ上ハ見積リ、九間半トカ、十間トカ極ムル、林ニ杉松檜椈槲。其外櫻栗椿等種々ノ木交リタルハ、紙札ニ何本ト木ノ名ヲ書附、縦ト名不ㇾ知ハ勿論、名知レタル木ニテモ、雜木ノ分ハ其木名ヲ不ㇾ及ㇾ書、雜木ト記シ、又杉林カ松林カニキハマリ、餘ノ木少々交リ有ㇾ之バ、樹品書附ニ不ㇾ及、其交リタル木ノ名計ヲ書附ル、都テ大小木トモ長ヲ御林帳ニ記ハ、下枝ヨリ下タノモノ也、併杉檜等節木ニテ下ヨリ枝付有ㇾ之、エダヲ不ㇾ伐、附次第ニ致シ、大樹ニ成タルモアリ、是ラハ下エダニ不ㇾ拘、凡用材ニ成ベキ程ノ長ヲ記シ、右紙札ニ節木ハフシ、曲木ハ曲リトシルシ、直成木ハ不ㇾ及ㇾ記、小木ニテ一尺四五寸廻リ迄ハ小繩ニ不ㇾ及、藁ニテ綴リ、何レモ紙札ハ附ルコトナリ、大成山林ハ境ヲ立、峯限カ或ハ何ゾ目印ヲシテ、是ヨリコレ迄ト境ノ限リヲ立、

前條ノ通改メ、其日カギリニ右ノムスビタル繩藁ヲ、ユヒ目ノ眞中ヨリ切、札ノ不レ落樣ニ取集カマスカムシロ等ニ入モチ歸リ、サテ間竿ノ下ニ置、切タル繩ヲ一筋ヅヽ當テ、夫々尺ヲ見直ス、其札ニ何尺何寸ト書ツケ札ヲ取、不レ殘改濟タル上其札ヲ見分、夫々ノ木品ヲ揃、夫ヨリ一間カ二間位迄ノ分ヲ集メ、目通リモ一尺ヨリ二尺位迄ノ札ヲ一ツニシテ一綴ニ取置、木數寸間ヲ御林帳ニ記ス、長ハ凡一間ヨリ二間位迄、目通リハ七八寸廻ヨリ一尺四五寸廻リマデ、夫ヨリ二間一尺位ヨリ三間位、一尺六七寸廻リヨリ二尺四五寸マハリ迄、凡間ニテ二間程マハリニテ一尺ホドヅヽ差ヒヲ一廉ニ致ス、勿論何ホド差ヒト云定法ハナシ、長五尺位目トホリ五六寸程ヨリ以下ハ木數ニ不レ入、小木苗木ニ加ユル、勿論小木苗木モ凡何千何百本ト記也、右ノトホリニテ總樹數何萬何千本トシルシテ、此譯何本長目トホリト、其木品毎寸間ハ前書ノ趣ニテ、幾口ニテモ分ケ、其內何十本節木曲樹ト、其廉々ニテ內譯ニ記ス、右改タル分其日限ニ繩藁トモ切取、モチ不レ歸シテ幾日モ差置、若風雨等有テハ、紙札損ジ、改タル分手戾ニ成故、其日限ニ切取コト也

一　前條ノトホリ改ルハ、山林嶮岨ニテモ、分間並木數改等相成分ハ改レドモ、至テ大山縱バ信州木曾山、武州秩父大瀧山、美濃國可兒郡御ハヤシ抔ハ、數里ニ連リケンソ岸壁ニテ、何萬町步有レ之ヤ、人倫ノ通路成難キ所モアリ、增テ樹數ハ何百萬本アルヤ計リ難シ、御ハヤシハ不レ及レ申、其外ニモ深山幽谷ニテ往古ヨリ改無レ之、反別木員不レ知トシルスモアリ、前書ノ改方ハ定法ナレドモ、縱改

相成ル御ハヤシタリトモ、數十萬本ノ木右ノ趣ニ改メテハ、一年二年ニ可ニ改盡一ニモ非ズ、イヅレ作略無テハ成ガタシ、依テ元來反別木員前々御林帳ニ有レ之分ハ、以前ノ改年ヨリ何十ヶ年相立哉相糺シ、年數ニ應ジ、小木苗木ノ程考ニ大概一、木立ノ厚薄大小見計ヒ、平準シテ中庸ノ所ニテ間數ヲ打マハシ、凡一反歩トカ二反歩トカ見切テ、其內ニ有レ之立木ヲ前書ノ趣ニ相改、反當リヲ以總反別ニ掛レバ何萬何千本ニ成、元帳ト差引何千何百本ノ增ト見テ、其內ニテ寸間モ割合、廉々能程ニ增シヲ記ス、若大場ノ林樹立、厚薄大小格別ニ違タル所等有レ之バ、何ヶ所ニテモ右ノ通ノ仕法ニシテ、夫ヲ平均シテ記スベシ、然レドモ私領上知抔林帳ト云モナク、元來反別樹數不レ知ハ、本法ニ不レ致シテハ更ニ見當モ無レ之故、縱年數掛ルトモ悉ク改ムベシ、乍レ去是トテモ大造ナル林改難ケレバ、反別計リ廻リ檢地ニテ改メ、木數寸間ハ前條ノトホリ、木立厚薄大小ヲ見計ヒ、平準ナル所ニテ堺ヲ極メ、其內ノ木ヲ改メ、其木品員數大小ヲ總反別ニ乘ジ、凡ニシルスヨリ外仕方ナシ、雖レ然此儀不レ伺シテ右體ノ作略荒增成事ヲ行ヒ、御後闇ニ相當ルモ難レ計ニ付、御林見分ノ上トテモ木目難レ改ハ、右ノ改方ニ可レ仕哉ノ旨窺、得ニ御下知一取計フベシ、又大山ケンソニテ道モ成難キホドノ林ハ、木數ハ勿論反別モアラタメ難ニツキ、凡竪何里横何里ホドノ林ニテ、反ベツ木數アラタメ難キ旨又相窺、御林帖ニ書シルスベシ、サテ御林アラタメハ九月ヨリ三月一倍、四月上旬頃マデニ改ベシ、夏秋木ノ葉下草繁茂シテハ、林ノ內往來モ不ニ自由一、又ハ大暑ノ時生茂リタルハヤシノ內、風モカヨハザル所ヘ數日入込、役人並人

足等アッサニ中リ病人等出來、或ハ毒蛇ノ害モ多ク、旁四月ヨリ八月迄ハ御ハヤシ改不レ致事也、北國筋奥羽抔雪深キ國々ハ、都テ四月ヨリ八月ノ内ナラデハ、雪ニ支ヤマイリモ成ガタケレバ、ユキ國ハ夏ノ内アラタムベシ

一　御林帳ニハ御林一ヶ所限、字山嶮岨平山里方ノ譯肩書ニ致シ、其御ハヤシヨリ江戸迄陸路何十里、何方河岸マデハ何里、何河岸迄何里、何河岸ヨリ江戸迄海上何十里有レ之ヤ、相糺可レ記、又此御林前前御用木ニ伐出有レ之カ、又ハ嶮岨ニテ切出等不レ成カ相タヾシ、御ハヤシ帳ニシルス、尤御用材ニキリ出シタル時ハ、滅木御證文取レ之、御ハヤシ帳滅木朱書ニテ書入ル、、又雪風折・根返リ・立枯木ノ分ハ木員相改、居村並近村々入札申觸御拂ニ致シ、若入札人無レ之バ居村買請申附、直段吟味ノ上相窺、御證文取レ之相拂、御ハヤシ帳ニ致ニ滅木ニ也、御ハヤシ帳仕立方前々振合有レ之ニ付末ニ雛形ヲ出シ置也

一　總而木立ヲ見立ルニ、峰トホリハ風強ク木ノ育立悪敷、延丈無ニ甲斐一、雜木ハ少ク松多クシテ、曲木勝ナル者也、然レドモ峯トホリノ松ハ風雨ニモマレテ、小木ノ時ヨリミキ子ジレテ堅ク育立候ユヱ、梁引物等ニ遣フ事格別強シ、水ニモ腐遲シ、山ノ中腹ハ木立繁ル者也、依テ大樹ハ少シ、木ノ延ハヨシ、スソトホリハ立樹マバラニテ雜樹多キモノ也、檜杉ノ類ハスソトホリ別テ生タチ能シ、大木モ有直成木多シ、ヒノキ杉ハ濕氣水氣ヲ好ム故、スソトホリ谷間等ヨシ、中腹ヨリ峯トホリニハ生立悉

悪シ、都テ海邊汐風強クアタルハヤシハ木立不レ宜、適々有テモ節曲木ノミナリ、又北受ノ山ハ樹聳エテ生タチ悪シ、杉ヒノキハヨシ、尤日受風當リ等ノ様子ニ隨、イヅレモ一様ニ云ガタシ

一御林ノ儀、大山ハ御ハヤシ守有レ之、扶持方被レ下、帯刀致モアリ、又一トホリノ御林ニハ守無レ之、其村ノ庄屋名主相守ル、是ハ扶持方無レ之、又ハ居村ヨリ格べツ遠所ニテ、其御ハヤシノ近邊ニ百姓家等有レ之、枝郷同然ノ所ハ、名主元ヨリ遠方守リモ屆兼ルユヱ、ソノ郷ニテ頭立タル百姓ヲ御ハヤシ守ニシテ、給分ハ御林下草等此者へ取ラスル所モアリ、扨御用材等ニ伐出有レ之時ハ、御林守名主爲レ致ニ案内、御林見分致シ、御用材ノ寸間ニ合セタル材品見立、一本ヅヽ削リ極印ヲ打、尤多分ノキリ出シ有レ之、抜キリニ成難キ程ノ大數ナラバ、スソトホリヨリ片附テキル事ヨシ、山出シノ勝手モ宜ク、左様ニ山片平モキル程ナラバ、キルベキ場處見立、鎌ハ苗木等ノ不レ宜分ヲ刈除キ、足場ヲヨクシテキルベシ、刈除キタル篠萱等束員ヲアラタメ、追テハ入札ヲ取拂ニ可レ致、其キリ跡ハキリ株ヲ掘セ、苗木植附申ベシ、尤根ヲ取スレバ薪ニ掘トルモノ也、根キリノ仕方、杣ドモハ功者有事ナレドモ、一トホリノ人足等ニキラスル時ハ、役人功者無テハ大木等ハキレ難シ、先根キリシテ何方へ可レ倒ト、木ノ倒レ掛ル所ヲ考、峰アラバミテ有カタへ返スベシ、必谷ノカタへ不レ可レ返、山出成難シ、又谷上ノ木拵切テタニヘ落スベキ處ハ、留木迚外ノ樹ヨリ木ニ横木ヲ結ビキリタル木ノ持レカヽル様ニシテキラザレバ、大木タニヘ落テハ、上ルニ悉人夫多ク費ル事アリ、其ノ樹品ニ依リ根ヨリ六七尺殘シ、根キ

リシテ下ヘ引落セバ、立木ノ儘ニテ自然ト返リ、樹ニ損ジモ不レ附、右キリ株ハ別ニキリ、御用木ニ可レ成バ遣ヒ、又御用木ニ不レ成バ御ハラヒニ致、檜サクラ等ハ榑木ニ成、入札直段宜キ者也、至テ大木元口ニテ差渡一尺モ可レ有レ之程ノ木ハ、一通ニテハ根切成難ク、是ハ焼伐ト云ニスルガヨシ、木根元ヲ五六尺八角十文字ニ貫、穴ノ如ク彫トホシ、廻リニ杜ノ如ク切ノコシタル所ニテ持テ居ル、其穴ヘ燔艸ヲ入火ヲカケ、燒切ニスレバ一度ニ燒落、根ノ上ニソロリト返ルユヱ、木ニ損ジナク、怪我等ノ案ジゴトモナク、大木ヲ四方ヨリ切テハ眞ニ至リ切ガタシ、夫ヲ木ノ下ニユキ切ル内ニ風トタヲレタレバ、大キニ怪我人アルモノナリ

一　根伐シタル樹當座ニ枝ヲキリ取レバ、其樹格ベツ重ク成モノ也、コレハ枝々ヘ可レ發勢發ル事不レ能、本木ニ勢籠ル故ナルベシ、根キリシテ四五日モ過テエダヲ取レバ、格ベツ輕ク成、仍テ不レ急材木ハキリ倒シテ四五日モ差置、日柄立テ末樹枝葉ヲキルガヨシ、是山師ノ秘事也、且又一山御拂等ニナルカ、又ハ江戸廻シ御用木等御キリ出シニ成、請負人等有レ之、杣山師ドモ入テ總山根キリ致シ、川下ゲ海上積廻ス樣成ル儀有レ之時ハ、山ノアラタメカタ、筏組、川下ゲ、船積等樣々手段有レ之、奉行人至テ功者入ル事也、然レドモ是ハマヅ大抵ニテハ無レ之儀ユヱ、仕カタ事長キ儀ニ付略レ之、勿論御用材御ハラヒ木トモ、キリ取タル株一本ヅヽ極印打、キリ株ト材木員引合セアラタメルコトナリ

一　山林竹木仕立カタ、凡木ヲ植ル處ハ深山幽谷土地厚キ所ハヨシ、高岡ハ其次也、松ハ嶺ニ宜ク、杉

ハタニニ宜ク、平地ニテモ杉檜松桐欅ノ太リ安キ木、肥地ニウユレバ十ケ年内外ニ材木ニ成、又薪ニ用ル雑木ハ四五年ノ内也、四木ノ類、或ハ栗柿桃梨ハ實ウヱ、又ハ接木ニシテ二三年ノ内實ヲ結ブ、地味ヲ考植ベシ、マタ田家ニ木ヲ藝ルハ西北ノ方ヨシ、竹ハ東北ノ角ニウヱ陽氣ヲ包ミ、マタ盜賊ノ防ギ、火難ノ隙ニナリ枝葉ハ薪ニ用ヒ、落葉肥ニ成大ニヨシ、垣ニハ枸杞五加葉枳殼ヲ植、眞木ニ柿枇杷桃ノ類ヲ植ベシ、偖マタ新林仕立用材ノ爲ナラバ、松杉ガヨシ、三四尺ヅヽ間ヲ置ウヱ、次第ニ茂ル時、木振惡敷ハキリ、又ハ可二植替一、實生三年目ニ木苗ウヱタルガヨシ、野芝原等其儘ウヱテハ育遲シ、キリ開テ何ゾ一作シテ、其アトヲツナヒテ藝レバ、能クツキテ早ク成木スル、養ハ下肥吉、タカ肥シニテ藝レバ、千萬本ニ一本モ枯ルヽコトナシ、養立ニ隨テ段段枝ヲ折薪ニスベシ、松ノ枝ハ本木ノ際ヨリキリ、杉ハエダヲ二寸計ノコシテキリ、ノコリタルエダヲ本木ノ際ヨリ、カハヲムキ置バ節入ニ成ラズ、又タキヾノ爲ノ林ハ、櫟小楢榎等ヲ取交藝ベシ、小木ノ内落葉ヲ取バ生立晩シ、不レ取バ朽テコヤシニ成、木大リ早シ、松林ハ別ノ木ヲ不レ交、松計ウヱテヨシ、縱バ一年ニ二町四カヅヽ毎年藝レバ、十一年目ニハ初年ノ林ノ内、筋宜ク大木ニ可レ成ヲ見タテ少少ノコシ、其外ハ不レ殘キリハラヒ、其アトニ又小松ヲ植立レバ薪不レ絶、段段キリハラフハ三尺ニ一本ヅヽニテ、二町四方ニ六萬本ホド也、エダ一束ヅヽ落シテモ六萬束也、三分一不二用立一トモ、大分ノタキヾナリ、キリノコシタル筋宜キ分、外ノ木キリ取小木ニ成故、格別盛木モ早ク良材ニ成也

一　松ヲ栽替ル事、正月二十日頃ヨリ二月社日前迄ヨシ、諸木トモ藝替ル時元生ヘタル如ク、木振枝抔ニ東西ヲ目印シテ掘リ、元ノ如ク藝ベシ、穴ヲ廣ク掘脇根一通リ並ベ、土ヲ懸ケ少シ押付、又根ヲ並ベ土ヲ掛、スボマラヌ様、東西ノ違ハザル様ニウヱ、大木ハ鳥居木ヲ建、夫ヨリ釣リ上ゲ、立根不レ折様ニスベシ、松ハ下ニ肥ヲ入、土ヲ細ニ碎キ、大麥粒ヲ一抓入テ藝レバ枯ルヽコトナシ、夏木ハ春葉ノ出ザル前カ、秋葉ノ落ル時分、冬木ハ夏葉茂リタル時、四五月頃ウヱカヘテヨシ、又果樹ハ上十五日ニ藝レバ實入多シ、始テ熟スル時兩手ニテ取ベシ、重テ實ヲ能結ブ者ナリ、必一ツ二ツ取ベカラズ、人取タル後鳥多ク取故也、椿ハ六月十五日ヨリ二十日ゴロ迄ニウヱテヨシ、根牛房ノ様成所切リ、燒テウウベシ、枝ヲ伐コト惡シ、杉ハ指木ヨシ、若生ヲ長七八寸計ニ切、先ヲソギ割掛ケ、大麥一粒挾ミ、四月中旬差スベシ、併今年芽計ハ惡シ、去年芽ノ境際ヨリキリタルガヨシ、皮ノマクレザル様ニ差シ、實ノナキ杉ヨシ、實ノ生ルハ生立遲、檜モ差木ヨシ、尤杉檜トモ差木ハ大木ニ成テ、内ニウロ出來安シ、實生ハ盛木ハオソケレドモ、大木ニ成テウロ出來ズ、桑ハ地際ノ枝折懸土ニ埋置、春ニ至テ一本ヨリ四五本ヅヽ芽ヲ出、實植ヨリ早ク生立者也、竹ヲウユルハ五月十五日頃ヨシ、竹ヲ中程ヨリ末ヲ留メウユル事古ヘヨリ多シ、然レドモ關東ノ地面ニハ末ヲ留テ枯ルコト多シ、縱根付タリトモ竹ノ子生ルコトオソシ、末ヲキラザレバ能ツキテ、竹ノ子多ク早ク茂ル、一所ヨリ枝二本付テ、節低キハ雌竹也、笋多ク出ル、人家ニ藪無ハ用事欠ルコト多シ、空地有バ竹ヲウヱ可、屋敷ノ西北ノ

方ヨシ、東北ニテモヨシ、南ニハ不レ可レ植、南ヲ開キ北ヲ閉バ夏涼敷冬暖ニ、菓樹能實ノリ、萬事ニ宜シ、疫病モ不レ入ト云、木ハ六月暗ノ内ニ可レ伐、竹ハ八月、是モ暗ノ内ニキルベシ、俗ニ木六竹八ト云、性合格別違フ、キリ時悪キ竹木ハ蟲入、別シテ竹ハ八月ヤミニキラズハ、却テ蟲入ニナル、沼川筋抔ニ芦ヲウヱルハ、若生一尺計根一節ツヽ懸テ切、差チヨクツク也、惣テ菜菓艸木凡テ民ヲ助ル品々種ヲ求メ、其法ニ隨ヒ作レ之、不用ノ地無様ニ心懸ベシ、四壁マバラニ竹木少ク、家居見エスク様ナル村ハ、役人百姓トモ心懸薄ク見エ、自ラ貧村ト見ユ、若空地有バ雜木等ヲウヱ置、村カタ用水川除普請等ノ用水ノ多足ニスベシ、又土地悪ク、畑地何程養入テモ種程モトモトレズ、或ハ山林ノ間遠所ノ畑悪キ地ノ上ニ、猪鹿ノ防ギトヾキ兼、年々荒地ニ成地所ニハ、杉柳桃等ヲウヱ、又ハ萩畑•萱畠•芦畑、或ハ松杉林等土地相應ノ物ヲ仕立、年貢輕ク申附ベシ、地味ヲ考右ノ類ヲ仕立、山野ニイラザル費ナキヤウニ致スコト、肝要ナリトイフ

一 御林材盗取致シタルモノ、古來ハ死罪、又ハ其仕形ニヨリ獄門ニモ被レ行タル所、享保ノ頃ヨリ一等輕ク相成、申合盗取シタル頭取ハ重追放、頭取ニ續タル者中追放、同類過料ニ相成近例有レ之也

一 萱野 芦野 秣場 原地 野地之事

萱野ト云ハ、埣地原地等カヤ立有レ之場所、反別相改、一反何程ト年貢相納苅取モアリ、又無反別ニテ萱野役•永運上抔ト名附納ルモ有、ヶ様ノ地底ハ入會ニ無レ之、地主村極リ、銘々控地ノ者也、尤村

中入會ノ場所モアリ、山方木立等ノ下草ニ立タルカヤニハ無レ之、カヤ計立タル地處也、畠カヤトテ畑請ノ地所ニカヤ立ルモ有レ之ハ、畠反別ニ入リ、カヤ野ニハ無レ之也

一　蘆野ハ川筋沼地等ニ有レ之、是又カヤ野同然反別有テ、一反何程ト年貢納ルモ有、又ハ無反別ニテ役永運上等差出スモアル也

一　秣場ハ田地肥ニ致ス草刈場ニテ、多分村々ノ入會ノ場所多シ、山方・野方・原地モアリ、年貢・野手米永地元村ニ納ルモアリ、又ハ古來ヨリ野手等不ニ差出一無年貢ニテ入會來リタル場所アリ、都テ入會ハ古例次第新規入會禁レ之、或ハ二村持限ノ秣ハ、一村ニテ取餘ル程ノ大場、他村ヨリ草札錢相納、禮ヲ以刈取所モアリ、札野モ勝手次第新規ニハ不ニ相成一、前々仕來リニ任ス、入會ノ秣場ニ假橋ヲ掛ケ、他ノ往來禁レ之定法也、都テ馬草場無テハ耕作サシツカヘ、大セツノモノナリ、依レ之右場所無レ之村々ハ、田畑ノ畔土手等ノ草ヲ刈用レ之、甚不自由也

一　原地ハ馬草場ニモ無レ之、小松小柴立等ノ草原不用ノ地多シ、一體野カタマグサ場等一圓ノ惣名ヲ、原地トモ唱ルナリ

一　野地ト云ハ、小アシ眞菰等有レ之、水附ノ低ミ通ノ原地ヲ野地ト唱ル、都テ右品々年貢役金銀運上等納ルモアリ、又ハ村々所得ニナル場所ニテモ、公儀地頭ヘ何品モ不ニ相納一、前々ヨリ村カタ勝手ニ致來ル類モ有レ之、其國其所古來ヨリ仕來ニテ、色々之場所有ル事ナリ

一　七島場之事

是ハ中國ヨリ西九州筋ニ有レ之事ニテ、琉球藺ヲ作ル場所也、右ヲ九州ニテハ七島ト云、琉球國ノ内七島ヨリ重ニ作リ出ス故名トス、九州ノ國々ニ多シ、中國筋ニモ稀ニ有レ之所モアリ、上方關東ニテハ餘リ不ニ見當一、大隅薩摩ニ夥敷作ル、海邊川通堤外水ノ絶ザル處ニ捺付、尤反別有レ之モ、島場年貢反當リヲ以テ相納ム、マレニハ無反別ノ所モアレドモ、琉球ハ藺同然作徳アルモノ故、無反別ノ處ハ少シ、尤モ反別計ニテ高入ニハ不レ致也、或ハ水腐場稻作成難キ田カタニモ作ル、田琉玖ハ性合宜ク、直格ベツ貴シ、田ニ苗ヲ致シ七島場ニウヱ附ル、薩摩ノ御藏琉玖ト云ハ右國並島々ヨリ渡リ、至テ宜ク上品也、右年貢ハカヤ野薹場年貢等ヨリハ、反當リ格ベツ高ク附ル也

一　鹽濱之事　附鹽ノ井　草生津油　石炭　土薪

鹽濱ハ海アル國ニハ何處ニモアレドモ、又鹽ニ成ヌ鹽モ有テ、鹽ハマ無キ海邊モ多シ、鹽ハマ願出レバ、田畠新開同然、大繩反別分間ニテ相改、鍬下年季吟味致、ハマ相應地代金モ納サセ、年季明檢地致シ、仕形ハ田畠檢地ニ替ルコト無、持主限反別ヲ改メ、餘歩モ田畑同然ニ差加ヘ、上中下三段ニ位分ケ致ス、位ノ見分ケ樣ハ濱ノヤウス、浪當ノ模樣宜敷、浪荒モ無平ラカニシテ、鹽ノ干加減迄宜キヲ上トシテ、其次ヲ中、又潮際度々普請等モイリ、地面モタカ低クアル場所ヲ下トス、汐ヲ引入ル大溝ヲ掘リ、夫ヨリ濱中ニ小溝ヲ立、濱ノ内ニ凡一段歩ニ井戸六ツ七ツ宛掘ル、是ハ汐ヲ干上テ鹽ヲ垂

ル處ナリ、深クハ不レ掘、此溝敷井戸敷ハ反別ノ外ニ除ク、尤海ノヤウスニヨリ溝モナク、海ヨリ直ニ汐ヲ汲ミ、一面ニ掛ルハマモアリ、國々所々ニテ少シヅヽノ違ヒアリ、燔方鹽釜ノ仕カタモ所々ノ仕來リニテ、少々ヅヽノ違アリ

一　鹽濱ハ反別計ニテ反高場ニ入レ、村タカニハ不レ結、乍レ去古ヘハタカ入ニ成タルトコロ有ニヤ、古キ濱ニハタカ入リニ成、鹽年貢本途ノ内ニ入タルモ見ユル、近年新鹽ハマハ都テ反ダカ也

一　年貢ハ上濱凡永五百文位、中三百五十文、下二百文程納ム、大概百五十文下リニ附ル、尤鹽ノ儀海ニヨリ格ベツノ善惡有テ、至テ惡キハ鹽辛キ有、苦キアリ、味甘キアリ、播州赤穂ノ鹽等味ヒ能クテ利強ク、最上ノ鹽トス、ハマニモ善惡アリ、又出キ上リノ多少モアリ、故ニ年貢モ國々同樣ニハナシ、關東ノ鹽ハマ年貢大ガイ右ノ當リ也、何レニシテモ畠年貢ヨリハ餘程タカク附ルコト也、年貢ヲ鹽ニテイタシ、正納ニナレバ、金拾兩ニ何百俵ト直段吟味ノ上正納申ツケル、下總國行德五位邊ノ正納鹽ハ、金十兩ニ五斗入二百俵、近來ノ定直段也、風雨等ニテ波荒浪•缺等アリ濱損ズレバ、見分ノ上年貢引方申附ル、普請成就致シ元ニ復シ、反別減少ナケレバ、定ノ通上納申附ル事也

一　奥州會津郡極山中ニ鹽生村ト云アリ、此村ニハ鹽出ル井戸村中ニ何ケ所モ極リ、往古ヨリ有レ之、此井ノ水ヲ汲上ゲ干立鹽ニ燒、村中遣ヒ鹽、並近村々ヘモ賣出ス、味ヒ潮ニカハラス、右村ハ今會津侯御領所ニ付、公儀ヘ運上差出ス、村中水ノ井モ有レ之、水ニモ差支ナシ、右ノ類餘國山中ニモ稀ニハ

有レ之由、中華ニモ鹽井有ル由、如何シテ海遠キ所、極山中ニ鹽有レ之哉不審

草生津油ト云ハ、越後國蒲原郡ノ内池有テ、池水ノ上ニ油浮ムヲ•藁カ、ミゴ箒ニテ救ヒ取、段々器ニ溜メ燈油トナル、村方助成ニナルユヱ、公儀ヘ運上ヲ納ル、水中ヨリ油ノ出ルコト、前條山中ニ鹽有ルト同事不思議ナルコトナリ、尤當國ニハ土中火有テ、如法寺村百姓莊右衛門トカ申者ノ家ニ、火ノ出ル穴アリ、爐ノ際ニ挽臼ノ下ヲ置、穴ノ口ニ臼ノ穴ヲ當、竹筒ヲハメ上ヨリ附木ニ火ヲトモシ、筒ノ口ニアテレバホツト火出•松明ノ如ク、筒ノ口ニ火燈レバ家内明ルシ、タケ筒ヲ以テ段々繼グバ何方マデモ筒ノ中ヲ火行カケヒノ如シ、此火ノ上ニ鍋釜ヲカケ置ケバ煮エ立、飯モ焚キ湯モワキ、越後國七不思議ノ一ツナリ、當時ニテハ外ニモ火出ル處アルヨシ、然レドモ右莊右衛門家ハ、三四代モ此火ニテ燈火薪ノ代ニ用ヒ家内ヲ辨ジ、公儀ヘモ相知レ、巡見上使ノ節ハ、彼家ヘ立ヨリ見ルコト舊例也、依テ其トキ修復等地頭ヨリ營レ之、夫ユヱ外ノ家ニテ地火ヲトル事領主ヨリ禁レ之、近來長岡城下ノチカキ處、三國通往還筋五日町トイフ所ノ山岩ノ間ヨリ火出テ、其火ヲ以テ溫泉ヲワカシ、湯治人等有レ之儀初リタリ、サスレバ越後國土中硫黃ノ氣多ク、自然ト火モ出アブラモ水面ニワキ出ルトミエタリ、箇樣ノ類ヒ餘國ニモ多クアルヤ、イマダ不レ及ニ見聞一事也

一石炭トイフハ、立花家領地筑後國三池領ニ有レ之、石ヲ燒テスミトシ、多ク諸國ヘ賣出ス、其村々ニテハ生石ヲ焚キテ薪トス、悉ク匂ヒ惡ク、コノ石ニモ硫黃ノ氣多クアルト見エ、生石ハ不レ及レ云、

石スミニモ至テ油煙ツヨク、別テ刀脇差其外鐵物ニ悉錆出、簞笥ノ内ノ衣類等モ古ルビルユヱ、家内ニテハ焚難ク、外面ニ七リンヲ備ヘ、不レ焚シテハ用ヒ難シ、右ノ石筑前國ニモアリ、其外國々ニモコレ有事シレズ

一 土ヲ薪トスルハ、越後國高田近所春日新田トイフトコロアリ、此ヘンニテ土ヲタキ木トス、其近村々ニモアリテ、タキヾノ代リニ用ユ、此土出ル處極リアリ、其土ヲトリ能ク日ニホシテ焚バ悉能燈ル、筑後國三井郡小郡村トイフ處ニモ、タキヾニ成ル土出ル所アリ、五六十年以前ヨリ初マレリ、水ナキ溜池ノ様ナル所アリ、此池ノ土ヲ取リ、日ニ干タキヾトス、此土ハ蘆萱ノ根抔ノ塊リタル様也、越後筑後トモ右村々ハ里方ニテ、薪不自由成所也、土ヲタク香ヒ石炭ニ不レ替、悪キ香アリテ悉油烟多シ、右ノ類品海内廣キコトナレバ、餘國ニモ右ニ類シタルコトモ有ベシ、都テ是等ノ類極山中ニ鑛アルニ似寄タル事故記レ之、世ノ中ニハ不思議ナル事モ多キモノ也

地方凡例録巻二終

地方凡例録卷三

目録

地方凡例錄卷三

一 檢見仕法之事

田方立毛見分ノ上致二坪苅一、稻作豐凶ニ隨ヒ、租稅ヲ極ルヲ檢見ト云、是ニハ悉ク譯有コトニテ、立毛ノ善惡ヲ見分ル計ニテハ檢見ニハ無ク、毛見ト云者ナリ、檢見トイフハ、立毛豐凶ヲ見定ルハ不レ及レ言、村柄ノ善惡、民力ノ强弱、其外諸事・視・觀・察ノ三ツヲ以取箇ヲ極ルニ付、檢見ト云ナリ、視トハ目ヲ以テミルコトニテ、先ヅ立毛ノ豐凶、村立家居ノ善惡、田畠反別ノ多少、田地繩延カ繩詰リカノ廣狹、勝手作ナドノ有無ヲ見ル義也、觀トハ心ヲ以テミルコトニテ、農業一式ノ村方カ、耕作ノ外助成ニナル稼ノ有無、百姓働ノ精不精ノ自由不自由入用ノ考、年貢納方ニ付費用ノ多少ナド、心ヲ用ヒ巨細ニ觀見致ス義也、察ハ理ヲ以テミル義ニテ、縱バ此邑畠勝ノ邑ニテ田方少ク、田ノ年貢少々進テモ、畑ノ作德多ク痛ニ不レ成ニ付、稻作出來方ヨリ宜ク取付テモ不レ苦道理、又ハ一向畠少キ村方、外ノ作德無レ之ニツキ、田ノ取考辨ナクテハ村方不二行立一、然レドモ餘計ニ取モ、マタハ勘辨致モ、他村ノ出來形見比べ有レ之モノニツキ、隣村ト格別不同有テハ、百姓ドモ承知不レ致也、此儀ニ不レ限、取箇附方ニツキ、理ヲ押テ相考ルコト也、都テ檢見ノ仕方ニヨリテ、困窮ノ村方取續ク儀モアリ、又忽チ潰ニ及ブコト

モ有レ之ニツキ、其年稻ノ出來形ノミニ泥ミ取箇究ル儀ハ、甚ダ不功者ノコトナリ。纔當年ノ取箇强、年貢少々相增トモ、冬春ニ至リ夫食差支、飢人等出來スレバ、是非夫食貸不レ致シテハ成難ク、其上年貢未進等致シ、嚴ク取立レバ東作取附モ出來兼、又ハツブレ百姓ラモ出來、切角取マシテモ實ノ增ニハ不レ成、差引イタセバ却テ不益ニ成事アリ、當座取マセバ檢見役人手柄ノ樣ニ見ユレドモ、始終公儀地頭ノ不益ノ基ト成也、又取箇ヲ緩ク致シテハ、眼前損失有コトユヱ、勘辨過ルモ惡シ、此處ノ用捨甚功者ノ入ル事ナリ、只正直ヲ元トシ、贔屓偏頗ノ私ナク、御爲第一ヲ心懸、マタ下民撫育ノ心掛ヲ不レ忘、上下始終得失、視。觀。察ノ三ツヲ以テ得ト勘辨思惟イタシ、立毛見分取箇相キハメルヲ、實ノ檢見トイフ、アシキ心得民ノ難儀モ不レ厭、當座租稅ヲマセバ、手ガラノ樣ニ相聞ユル故、自己ノ褒美等ヲ心掛、非道ナル取ケ相增族モ有レ之、是ラハ全ク自分ノ功ニ誇リ、實ハ公儀地頭ノ御爲ヲ存ル心底モナク、マタ下ヲ撫育ノ意モナク、只一旦ノ手柄ヲ顯シ度迄ノ儀ニテ、コレラヲ聚斂ノ臣トモ可レ申哉、檢見等ニ出ル役人能々可レ有ニ心得一事也

一　檢見村方ヘ立入ラバ、先ヅ人數牛馬ノ員數、男女稼ノ樣子、秣場薪取場、公邊地頭ノ用向勤方、助鄕ノ有無、年貢人馬出方ノ多少、塘川除用惡水普請所有無等得ト相尋、年貢ノ外村入用多分相掛ル村カ、マタ村入用少ク百姓勝手ニ能キ村カ相糺、作德ノ多少ヲ相辨、取箇附方ノ考ヲイタスベシ、且又檢見廻リ狀差出ス節、前々ヨリ永引荒地場所起返リ有レ之バ、一步ノ處ニテモ無レ隱可ニ書出置一、後日反ニ

露顯一カ、廻村ノセツ見出シ候バ、地主ハ勿論村役人可レ爲ニ越度一旨觸遣、起返小前帳爲ニ差出一申ベシ、檢見ノ時ナレバ隱難シ、追テ起返改別段ニ出ルトキ、邑ニヨリ等閑又ハ横着ニテカクシ置コト有レ之者也、檢見被レ免トモ、地所不レ紛儀有體ニ內見仕、其外品々ノ儀請書帳面ニ仕立置、歩苅帳印形ノトキ爲ニ讀聞一、村役人連印可レ取レ之、受證文文言ハ大抵通例有レ之、定法ノ文談ハナシ、又檢見ノ節廻米早廻シノ俵數致ニ吟味取締、是マタ受書可ニ取申一事

一　檢見以前村役人地主立合、悉ク見分イタシ、不同ナキヤウ有體ニ內見帳仕立、役所へ爲ニ差出一、得ト算入イタシ相改ムベシ、尤役所遠村ノ分ハ、前夜泊村へ可レ致ニ持參一旨申觸、取寄相改ベシ、村方耕地繪圖モ內見帳一同サシ出サセベシ、仕立方ハ先惣村ノ形、凡引隣村ノ地境何村ト記、居村百姓家居有レ之所ヲ書載、耕地有テモ耕地落ナキヤウニ、田畑ヲ凡ニ分ケ相糺、耕地ニ小字ヲ書、一耕地限リ田ノ反別凡ニ記シ、畧引書圖ニテサシ出スベシ、尤山川等アラバ是又記ベシ、耕地書圖ナクテハ、村方方角モ不レ知、マタ村ニヨリ檢見馴レ横着ナル役人ラハ、案內ノ節出來形宜キ耕地ヲ低合ニ付ケ、內見籾少キヤウニ致シ、其耕地へハ案內不レ致コトモ有者ナリ、享保年中以來關東上方遠國トモ、御代官所ノ分ハ都テ有毛檢見ニ相成タルユヱ、內見帳仕立方合毛附ニテ、惣歩毛揃ニテハ上中下ノ差別ナク、合限リニ寄附內見籾ヲ仕出ス、若私領上知等檢見不レ馴村々、帳面仕立方不案內ナラバ、按文サシ遣シ可レ爲ニ仕立一、內見帳サシ出タル上、高百石ニ田反別何程ニ當ルト申儀ヲ仕出シ見、百石當リ町歩多

キハ下田下々田多ク、石盛低ト知リ、又町歩少キハ石盛高ク、上下ノ田ト知リ、取箇ノ考ニ可レ致、上田反取高ケレドモ、夫丈ケ租税モ多ク、上田畠所持ノ百姓ハ勝手宜敷道理ナレドモ、石盛高キユヱ高掛リ物餘計ニ當リ、年貢反當リモ格別多キニ付、下田ヲ能ク作リタル方、却テ百姓勝手ニ成候コトモアリ、然レドモ惡田ニテハ是又肥養損ニテ作德無レ之、ケ様ノ勘辨ハ村々土地ニモ寄、田畠質入上田ハ望手少ク、中下ノ方望ムモノ多キ村モアリ、是ハ上田ハ高取米多分ニテ作德少ク、仕當ニ不レ合ユヱ也、都テ關東ハ反取ナレドモ、有毛檢見ニ成テハ、上中下ノ根取ニ不レ拘、押平均シテ有合毛取ニ付、麁ニテハ高免ニ當リ、反取ハヒクキモ有、又下免ニテモ反ドリタカク當ルモアリ、石盛次第ニツキ、其村村ニテ麁反取トモ仕出シ、百姓ノ損德能々勘辨イタシ、取箇極ル時不同無レ之様可二心附一事肝要也、偖マタ免上リノ儀、一村限リニテハ麁附上リ、惣寄ニテハ下ル事有レ之、是ハ水損場等至テ下免ノ村々、去年ハ水損ニテ檢見引多ク、當年ハ水損立歸リタル故、其村々ニテハ格別厘ツキ上リ、一郡一國ノ寄ニ成テハ、下免ノ村ダカ殖ルニツキ、却テ毛ツキ厘前年ヨリ下ルコト有テ、御取箇吟味スルニハ、村割ニテ毛附厘吟味、何ノ惣寄ニテハ、高厘ノ吟味ヲ可レ致事也、御取ケ高下ヲ考ルニハ、石盛タカヒク、上中下田ノ多少、其外役村、無役村、普請所ノ多少、男女稼ノ有無、秣肥薪トリ場等ノ遠近ニ付同様ノ地面ニテハ作德ノ多少有レ之ユヱ、厘ツキ高下有レ之者ナリ、マタ東西並邑有レ之、地面石モリ同ヤウ、其外差テ替コト無レ之村方、東村ハ免五ニ當リ、西邑ハ四ニテ一管違フ所、免ノ方トテモ村柄格

別宜クモナシ、サスレバ何ゾ子細有テ、同樣ノ村方ヲ往古ヨリ一尊違ニ致置ト見ユルニ付、理屈ニ拘リ容易ニ上ゲ下ゲハ成難シ、サリナガラ實ニ厘附ヲ可レ下ヤウ無レ之見定メタル村カタヲ不レ上モ、手弱シ、仍テ一尊違ノ厘先ヅ初年ニ三分餘モ上ゲテ試ミ、又翌年二分餘モ上レバ、五分程ノ上リニ成テ、若百姓及ニ難儀ニ差支ルコトアレバ、是非相歎ク、五分上ゲテモ百姓申分無レバ、又二三分宛モ上ゲ、ヤウスヲ見彌々村方痛ニ不レ成節ハ、東村同免ニ致べシ、必一同ニ一尊上ル儀ハ決テ不レ致コトナリ、一體檢見取ノ村カタ如何程ノ豐作ノ年タリトモ、俄ニ一年ニ五七分モ上ル儀ハカッテ不レ致事ナリ、一旦ニ取上テハ上ノ村タチマチ下村ニ成、困窮ノ基トナル、此當リハ地カタ功者ノ入事ニテ、勘辨可レ有コト也

但一尊ト云ハ、免一ツノ事ニテ、十一ノ免ナラバ十尊一ツトイフ石モリノヤウス、十一十二抔トハ不レ言、是モ十ヲヨリ下ノ免ニテハ尊トハ不レ言、八ツ九ツトイフ、十ヲノ免ニナレバ、十尊ト云、マタ寸トモ書

一　立毛ノ見ヤウ朝ノ間ハ稻ニ露ヲ含ミ、葉艶能ク穗首傾キ、實入ヨク見エ、雨天ノ節マタ其翌日ナドハ、取ワケヨク見ユル者也、晝ヨリ夕カタハ惡ク見エ、晴天風フキニハ、稻ノ見ワケ惡ク、日ニ向フテ見レバ、ヨク見レバ能見エ、日ヲ後ニシテ見ル所ハ惡ク見ユル、高ミ或ハ馬上ナドニテ見レバ穗ウスク、稻出來格別アシク見エ、ヒクミヨリ見上レバ賑々敷、マタ遠目ニ見流セバ能見ユル、右心

得ヲ以普通ヲ見分クベシ、籾ノ小筋淺キハ、實入ヨキ上作ニテ米多シ、深キハ實入不レ宜、マタ米モ少シ、一穂手ニトリシコキ見、手當リザラツクハヨシ、シナヘタルハ實入惡シ、サテ伏タル稻ハ實入宜キモノト心得ベカラズ、實入能稻ハ穂重ク鎌强ク、ホ先重ク葉色ヨク、弓ノ如クニシナヒ臥ス、是上出來也、マタ根ヨリヒシト折タル如クニ伏、ワラ色惡キハ虫付カ穀痛カ、ワラノ性弱クシテ臥タル惡穂ナリ、惣テ穀痛ノ稻ハ穂澤山ニ見エルモ、一向取實ナシ、何レモ伏タル稻ハ穂多クミユル者也、マタ水損場水被リ、或ハ長雨等ニテ繭穂少シ、芽ノ白ク出タル分ハ、早速干上レバ皆損ニハナラザレドモ、米性惡ク、最早芽ノ青ミ掛ル程ニ、蒔籾ノ儀百姓申立ル時、右ノ心得ヲ以見分クベシ、其外立毛ノ見樣色々有レ之、國處ニ依リ違ヒメモアリ、兎角度々檢見致、目ニモ心ニモ能ク不レ馴シテハ見分難シト雖、先ヅ荒增右ノ心得ヲ以見分スベシ

一　檢見道迚村々ニテ極メ置、小溝ニハ橋ヲ掛案内イタス、檢見ナレタル村方ハ、道筋計立毛相應ノ附合、何方ニテ坪刈イタシテモ、格別出入無樣ニイタシ、下見山間或ハ方角違ノ遠所等、檢見役人ヲ案内不レ致、耕地ハ宜ク出來形ニテモ、一合二合ノ合毛附ニテ、內見籾少キヤウニ帳面ヲ拵ニツキ、案內ノ外ニテモ心ニクキ場處ハ、案內ニ不レ構見分イタス可、勿論惣反別何程ト覺、段々ミタル町歩ノ多少ヲ考、若見請タル町歩格別少クハ、是非隱田坪有レ之ト心得ベシ、內見帳毛揃ニテ、一合毛二合毛、又ハ皆無反別多キ田場ニテハ、高合毛ノ札多ク、低ク合毛ノ札少ク見エタラバ、隨分心ヲ付、若內見帳

ト立札相違ハ無レ之哉相糺、胡亂ナル儀モ有レ之バ、建札不レ殘取上、內見帳ニ突合可レ致二吟味一、一體村方下見致方ノ儀、縱バ八合有レ之田ハ、五六合位ノ毛付ニ記、二三合有レ之分ハ皆無ニ書出事通法也、勿論二合迄ハ毛附ニテ、皆無イタスガ定法也、然ル處村ニ寄リ八合モ有レ之ヲ三四合ニツケ、四五合ノ田ヲ皆無ニイタス不埒ノ下見モ有レ之、內見ノ仕カタハ村々不同有レ之ニツキ、刈出シ掛ル儀、內見ノ强弱ニ隨ヒ、見計ヒ有レ之事也、皆無モ立毛可レ有レ之ト見ユル分多クアル時ハ致二步苅一、刈出シ不レ掛、相應ニ引戾可レ申、若隱シ田等爲レ無レ之、檢見繪圖內見帳ニ添差出置ニツキ、字限引合セ可レ申、右畫圖ハ村ヨリ圖墨引ニ寫サセ、田有レ之耕地ノ物陰等迄字限相記、內見帳寫ニ引合セ見可レ申、左無レバ落地有レ之者也、右ノ通委細ニ吟味イタストモ必穴ヲサガシ、意地惡ク掘リ穿ツ事不レ可レ有、諺ニモ可レ爲レ委不レ可レ掘ト申事アリ、唯正路ヲ元トシ、百姓私無レ之樣靜ニ申諭、不埒等無レ之樣案內イタサスベシ、理屈ニ拘リ百姓ヲ叱リ、餘リ吟味强ケレバ民心離レ、歸服イタサズ、上下無二和熟一、自然ト邑方困窮ノ根トナリ、上ノ御タメニモ不レ成、眞實ヲ以百姓ニ對スレバ、下ニテモ無レ僞、自カラ正路ニ行渡リ、上ノ德下ニ及ボシ、不直ノ儀モ無レ之者也

一　坪刈ヲスル田ハ、苗代田又ハ肥シ場等無レ之、肥ヲ積タル跡ハ別段ニ能ク出來ル者故、其場所近所ハ出來形宜敷、一枚ノ內不同アルモノナリ、出來形無二甲乙一田ヲ見立、此田ニテ竿ヲ入ベシト思ハヾ、畔ニテ場所ヲ見定、爰ニテ切ラント思フ處ヘ、スット入テ竿ヲ掛ベシ、田ノ中ヘ入レテ彼所此處ト見

比テハ、抑テ見分ラズ、村役人百姓共ノ思フ所モ見苦敷者也、扨又水場ニテ船檢見等ノ節、水深ク穗計見ユル田ヲツボ刈スル時、竿水上ヘ浮ミ不ㇾ落著ㇾ故、竿ノ内ノ稻計難シ、例様ノ所ハ竿ヲ上ヘニテ組立、四方離レザル様ニシテ、稻ノ植並ヲ穗ニテ考竿ヲ懸、竿ノ内ノ方四方ノ隅ヘ細キタケヲ眞直ニタテ、竿ノユレザル様ニシテ、竿ノ内ヘ入タル稻ヲ引タテレバ、可ㇾ入稻外ヘ出レバ、稻ト稻トノ間遠ク成、マタ入間敷稻外ヨリ内ヘ入ルトキハ、竿ニ押レテ屈ム故、何レトモサホノ所ヘ手ヲイレ、稻株ヲ探リ見テ、可ㇾ入分、不ㇾ入分ノ稻株ヲ能糺シ、クボ刈ヲ極ムベシ、ケ様ノ場所ニテハ、トリ譯村役人ヘヨク改メサセキハムベシ

一　竿ハ内法六尺一分、無曲竹四方切違ニテ釘ヲサシ用ユベシ、尤古檢ノ村方ハ六尺三寸ザホ、又上方筋達國ニハ六尺五寸四方ヲ一歩ト云所モアリ、其村々ニテ云習ハシ一歩ノ尺ヲ糺、尚マタ古檢新檢ノ訣、水帳等ヲ以糺ベシ、木ノサホハ水ニ入フラレテ惡シ、サテ歩ザホ入カタハ、稻株四方附ニナサヌヤウニ、二方附ニ入ル事大法也、然レドモ左様ニ行儀能入ル事無者ナレバ、右ノ心得ヲ以サホノ下ニ當タルイネ株ハ割テ入レ、其株ハ苅殘シ、ツボノ勘定ニ不ㇾ構ヤウニスベシ、餘リ明キ過タラバ半々ニモ入レ、見計ヒ可ㇾ有ㇾ之、全體正路ニ致スニハ、一所ニ並ベテ二ツボ苅、平均シテ一ツボノ籾ニ用ユルガ古法ナレドモ、當時ハ右體ノ儀不ㇾ致、ツボ數モ古法ハ上中下夫々ニテ、三坪宛位數ニ應ジ、九坪モ十二ツボモ刈テ目様ニイタシタレドモ、有毛檢見ニテハ上中下根取ノ差別無ㇾ之ニ付、一ケ村都合

三ツボカ四ツボ程刈レバ、上ニテモ下ニテモ貧者無レ之、ツボ刈稲ヲ百姓ニ不レ爲レ持、足輕小者ニ持タセ置、稲草ノ名、苅株ノ數等建札ニ書附稲ノ中ニ入、ムシロニ包、封印付、人足ニ立段々檢見イタシ、一ケ村相濟タル處ニテ致二舂法一也、稲ニ竿ヲ入刈上ルヲ、ツボ刈トモ歩カリトモ云、夫ヲコナシ籾ニイタスヲ舂法トイフ、右場所ニハムシロヲ三四枚敷モミヲコキ込、ムシロ一枚上ニシキコカセル也、藁ヲ諸方ヘ不レ散、穗先ヲ揃一處ニ集メ置、殘リ穗等無レ之樣吟味致、藁草履カ草鞋ヲ手ニハメ、野毛カケ股等能落ル樣、秕不熟ノ青籾等ヲ出シ、箕先ニ正籾不レ出樣心ヲ付ベシ、箕先ニムシロヲ敷、若正モミ出シタル時ハ、何篇モ仕直スベシ、コク時ヨリシテモミヒル迄ハ、別ニ心ヲ附ザレバ、必横着ノ百姓ハモミヲ盜、或ハ散スコトアリ、採セル者ニハ肌ヲ脱セザレバ、袂抔ヘモミヲ隱シ入ルモノ也、棹入ル田場ヘハ、百姓共ハ勿論、村役人モ寄セ不レ申、此方ニテ無二非道一、定法ノ通竿入濟タル上、名主ヘ得ト見セ、申分無レ之段申サバ、百姓ドモ兩人ニテカリ取スベシ、必兩人ヨリ大勢ツボノ内ヘ不レ可レ入、都テ檢見先ヘハ村役人・札讀・檢見道具持人足ノ外、不用ノ百姓決テ不二罷出一樣ニ可二申附一、大勢出レバ村方失墜モ相立、其上場所騷シク不レ宜、右舂法モミ計ルハ、重ニ手代イタス事ニテ、籾一粒丈升ノ縁ニ乘ル樣計ル也、田一枚ノ内ニテモ、少々宛稲ノ善惡不同有レ之、見平均シテ内見合毛ヲ附ル故、ツボカリ致ス田ハ出來形不同無レ之田竿入ベシ、無レ據不同相見ユルツボヘ入ル時ハ、善惡見平均、中分ノ處ヘ可レ入、餘小キ田ツボヘ不レ可レ入、苗代跡ヲ視田ト云テ、別段出來形宜キ、並人家前通、是マ

タ格別宜ク出來ル、ケ様ノ田場ニテハ不レ入者也、邑中多分ノ田數ニツキ、邑役人見違モ有レ之、八合毛モ有ベキ處ニ、二三合ノ札建ル儀モ風トアリ、又ハ田主ヘ札ヲ渡立サスル時、地主建違ヒモ有レ之、麁相ニテ見違ヒ建違ヒアル田ニテ、ツボカリ不レ可レ致、右體不束ノ立札有レ之バ、內見前ニ引合セ吟味イタシ、彌建違ヒニ決セバ立直サセ、若巧ニテ態トイタスニ於テハ、急度可レ遂ニ吟味一、ツボカリ合毛見立ノ儀立札讀合サセ、毛附鬮歩行內可レ竿入ニト思フツボニテ、稻一株引立見、秕靑籾等ノ有無、穗ノ長短、モミノ肥痩等ヲ見、一株ヘ凡モミ何勺可レ有レ之ト積リ、一步何十株ノ揃定ニテ、凡何合毛可レ有レ之ト見積テ竿イレルベシ、一穗ニ凡籾百粒平キンノ程アレバ、一步ニ一升ハアリ、穗毎ニ百ツボ平キンニ有レ之田ハ稀成者也、關東ニテモ能出來タル稻ハ、百七八十粒。二百ツブ位モ有レ之穗間ニハ有ドモ、後レボ等多ク、平キン百ツブト申ハマレナリ、土地ノ善惡ニヨリ、一步ノ株數殊ノ外多少アリ、一體關東ハ地面不レ宜故株數多ク、上方中國筋抔ハ土地宜ク、稻ノカブ張成長能キユヱカブ數少シ、關東ニテハ大方何レモ百二三十カブヨリ以上、薄地ノ村方抔ハ百七八十、二百カブ程アル處モアリ、尤地面宜水場等ハ、七八十カブモ有レ之モ稀ニハ相見ユル、上方攝河泉邊ハ六七十株、所ニ寄四五十カブノ場所モアリ、何レ其村其所々ノ植方ノ心得、籾ノ肥痩ニテ合毛見損ル事有レ之、其村々ニテ一步ニ凡何十カブ程植ルヤ、村役人等ニ尋ベシ、早損稻ハ見分ヨリ合毛有レ之、五合可レ有レ之ミエテモ、六七合モアル物有、水稻ハ五合トミレバ、三四合ナラデハナシ、關東筋ニテハ一步ニ一升以上アル田ハ甚少

ク、一升五六合モアルハ、誠ニマレ成事ナリ、五畿内。播州。近江邊ハ二升以上ノ田モ有レ之、惣テツボカリ合毛見立ルハ、數度檢見イタシ馴、其村々年々ノ有籾凡ニモ不レ覺シテハ見違アリ、又ハイネ草ニ依リ、見分ヨリ合毛多キモアリ、少キモアリ、能々功者ニ無レ之テハ見違ヒ多ク有レ之事也、右ニモ申如ク、檢見ハ立毛ノ善惡ノミニ泥ルハ、村方難儀ニ及ブ故、諸事ヲ考アハセ、或ハ此村ハ去年取箇強ク、年貢モ納リ兼、甚難儀致タルニ付、當年少シ緩メニ可レ致、マタ此村ハ去年ノ御取箇見損ニテ、甚緩ク有レ之タルユヱ、當年上ゲテモ可レ然ト。其村々ノ樣子前廣ニ了簡イタス、勿論檢見以前立毛見分モイタシ置コトニツキ、前年ノ出來形ト、當年ノ出來カタ善惡ヲ考、御取箇上ゲ下ゲノ儀檢見以前ニ心積リイタシ置、此村ニテハ去年ニ凡五石ハ取增トモ可レ然、マタ此村ハ去年ヨリ格別出來劣リ、其上去年ノ取ケ少々强過タルニツキ、去年ヨリ八石引下ゲ可レ申ト積リ、縱バ前年ノ取米五十石ナラバ八石引クツモリ四十二石トシ、マタ五石可レ增トオモフ村ニテハ、五十五石トシテ其米ヲ籾ニ直シ、其籾石數ヲ其村檢見田方ノ反別畝ヨリ上ニ、田法三ヲ乘ジテツボニイタシ、モミノ石數ヲ除キ、一ツボニ縱バ八合ト出ル、是ヲ當リ合ト云、扨村方ニテ致ニ下見一、合附ヲ以モミ仕出シ、內見帳元出スニ付、內見モミヲツボ數ニテ割レバ、譬バ五合ニ當リ、右仕出置タル當合ヨリ三合致ニ不足一ニツキ、內見ノ下ヘ三合カリ出セバ宜敷ト、其村方ニテ凡見當ヲツケ置、ツボカリノ合毛ヲ立ル事也、免村ナレバ定免取米極リ有レ之儀ニツキ、田方ノ定免取米ニ四ヲ乘ジ當合ヲ見置、ツボカリ致ス、尤三

分以下ノ損失ハ百姓内損ニテ、破免ニ不レ成定法ニツキ、若檢見請タルト、破免ニ不レ成シテハ、下見其外檢見入用、人夫等ノ費ヲ掛ケ、其上三分ノ損亡ニ不レ届、二分四五釐位ノ損亡ニテ、定免通リ納ルハ多分ノ辨納ニナリ、村方大ニ難儀ニ及事ニツキ、檢見以前立毛見分致シ、迚モ三分ニ及間敷トミウケタラバ、隨分利害申諭シ、破免不レ願樣取計ベシ、夫トモ丈夫ニ三分以上ノソン亡ト相ミエ、檢見ノ上勘定イタシ、二分八九釐ノソンニ當リ、僅ノコトニテ破免ニ不ニ相成一、檢見入用彼是村方失墜相立、旁定免ニ納テハ年貢米不ニ引足一、是非未進ニモ成、格別村方相痛末々困窮ノ基ニナリ候儀眼前ナレバ、作略ヲ以三分ニ當ル樣取計方有レ之ベシ、僅ニ一二釐ノ違ニテ無理ニ定免ニ爲レ納、未進等ニナリ、或ハ飢人抔出來、夫食貸等有レ之ヤウニテハ、却テ上ノ不益ニ相成、其一ケ年ノ痛ニテ、往々村方困窮ニナリ、果ハ公儀地頭大損ニ相ナリ候、斯樣ノ所勘定致ガ民ヲ撫育シ、末々上ノ不益モ不ニ相立一、上下ノ爲私ノ功ヲ捨、功者ノ取計方可レ有ニ心得一事專要也、勿論檢見以前當合仕立置テモ、全ク當試ノ儀ニ付、有合毛通リニ不レ當、縱バ八合ノ當合ニ刈出度存候テモ、思ノ外立毛不レ宜、五合ニモ六合ニモアタル儀有、其處ハ檢見坪刈ノ上ナラデハ相知レザレドモ、先大積リ檢見以前村々當合仕出シ置、檢見ノ時見當ニ致ス事ナリ、全體檢見ハ視・觀・察ノ三ツヲ以、村々ニ應ジ、取箇ノ增減心中ニ辨ヘ、右ニ申通其年ノ豐凶、並前年取箇ノ強弱等ヲ考、其外村々ノ模樣ニ隨ヒ、增減ヲ凡ニ極置、歩見致スベシ、尤坪カリハ用テ用ザル事ト、前々ヨリ申儀ナレドモ、古來ヨリ檢見第一ノ法トスルハ坪カリ也、地頭ハ是

ヲ以損益ヲ積リ、百姓ハ年貢ヲ可レ出程ヲ知リ、上下見當ニ致スハツボカリニ付、能々入念、何程カリ出セバ宜クト云當合ヲ以、入用丈ヨリ少シ餘計ニカリ出様、ツボ籾ノ員數見立ル事也、勿論カリ出シタル分不レ殘試テハ、百姓ドモ無慈悲ノヤウニ存ジ納得イタサズ、恨ヲ含ミ年貢取立等ノ害ニ相成故、タトヒ三ツボ歩カリイタシ、右平均四合五勺ノカリ出有レ之處ニ、三合カリ出セバ、前年ニ五石相增、是ニテ取ケハ餘ル位ニツキ、一合五勺ハ切捨、三合ノカリ出イタス、サスレバ百姓方ニテ一體ノ勘定ハ不レ存、先ヅ目前壹歩ニ籾壹合五勺ヅヽ、容赦ニ預リタルト悦ビ、氣請能ク年貢出精相納ル者ナリ、依レ之カリ出ノ儀、入用ノ籾數ヨリ壹二合モ餘計カリ出スヤウニ、ツボ籾見立ル儀肝要ナリ、餘リ餘計カリ出、三合モ四合モ切捨ルヤウニテハ用捨過ギ、不吟味ノヤウニ相聞、其上隣村ノ響惡シ、尤内見ノ儀村々同様ニ無レ之ニ付、刈出ノ多少ハ有レ之儀ナレドモ、村々切捨等格別不同ニテハ、依怙贔屓モ有レ之哉ト百姓仲ケ間申觸シ、不レ致ニ歸服一モノナレバ、隣村餘リ不同ナキ様ニ取計フベシ、檢見時節ノ晴雨ニテ籾ノ多少有レ之、晴天風立日ハツボ刈ノ合毛少ク、雨天ノセツ濡籾ハ野毛モ取レ、藁秕不レ離、其上籾フクレ、格別合毛多シ、ケ様ノセツハ切捨ノ勘辨有レ之、若大ヌレニテ春法出來兼ル時ハ、籾ヲ焙爐ニ懸、少シ乾シテコナスコトモアリ、右春法モミヲ先ヅ出合有丈野帳ニ附、春法場ニテ村役人假印取置、其夜取箇致ニ勘定一、何程ノ刈出モミニテ宜キト申儀相知レタル上、歩苅帳ニ内見モミ何合改何合ト書記、地主村役人印形ヲ取リ、前書ニモ村役人印形取ルベシ、村々申渡請書。歩苅帳。夫錢帳。其

外検見下組帳。內見帳等、御代官所分ハ、大概通法有レ之相知タル事ニ附、コトゴトク案文略レ之
但取米ニ四ヲ掛ル儀ハ、モミ五合ズリ五公五民ニテ、有米半分ハ公納、半分ハ百姓作德ニ成、縦バ十石ノ有籾ナレバ、五合摺ニシテ米五石、半分ハ年貢ニ成、取米二石五斗、半分二石五斗ハ地主作德也、田法三ト云ハ、一反三百歩、一畝ハ三十歩ニツキ、畝ヨリ上ヘ三ヲ乘ズレバツボ數ニナル、カリ出ト云ハ、內見籾平均合ノ上ヘ、ツボカリニテ增タルモミヲ、カリ出シトイフ、是ヲ總モミニ加ヘ、夫ヲ四ツニ割、其年ノ取米ニ相ナル、右當合ヲ見ル時、反取米ヲ七五ニテ除ケバ、二歩ニモミ何程出ル、七五ト申ガ検見ノ法也、是ハ一反ノ反取米七斗五升ナレバ、五合摺五公五民ニシテ、一反ノ籾數三石也、三百歩ノ積一歩ニ籾一升ニ當ル、取米ヲ七五ニテ除ケバ、一歩ノモミノ員數知ル、依レ之七五ヲ検見ノ法ト爲也

一　御料所ニテハ、大検見・小検見二通リニ致ス、小検見ト云ハ、手代兩人宛組合、三四組モ手分致シ差出、村々巨細ニ致ス検見、大検見トハ、御代官一ニ手テ相廻リ、村數多委見分難レ成ニ付、小検見ヲ出シ、立毛ノ善惡委細ニ見分ケ、其外村柄等ノ樣子、諸事巨細ニ相糺、無ニ洩落一御益不レ拔、百姓不レ痛樣正路ニ取箇ヲ可レ附爲也、困窮ノ村方鰥寡孤獨ノ類ヲ救ハ、小検見ニ依事、地方ノ古法也、依レ之一手ニ一人ヅヽハ、地方功者成者ヲ差出シ、能々入レ念ベシ、検見旬村々ヨリ申出次第ナリ、旬不レ後樣、村數ニ應ジ幾手モ差出シ、小検見相濟、大検見迄日數延ビ、カリ旬後レバ検見立ト云テ、田每

ノ眞中ニ二間四方程ノカリ殘シ札立置、御代官見分請ル、勿論大檢見ニテモツボ刈致、小檢見ト突合セ、評議ノ上御取箇相定ル、小檢見ノセツ荒地起返ノ儀モ糺スベシ、右ハ破免村方モ同然也、風水旱損虫附等訴出タラバ、手代差出シ見分可レ致、旱損稻ハ見分ヨリ取實有モノ也、水損ハ見掛ヨリ取實無レ之、米ニ成一向不ニ用立一、風損ノ儀同樣ニミエテモ、風ニヨリ痛輕重有レ之、西南風中リハ日ヲ經ル程次第ニ枯多ク成、北東風ハ當座ハ不レ殘枯タル樣ナレドモ、五六日過レバ大方ハ直ル、夫モ海抔ノ方角ニヨリ、一概ニモ難レ極、是等ノ考樣見樣有レ之、功者ノ入コトナリ、定免村方破免願出タル時、尚又得ト見分致シ、三分以上ノ損毛ニ可レ當ヤ、無ニ覺束一村ヲバ、隨分利害申聞、成丈教諭致シ、破免願爲ニ相止一可レ申、檢見ノ上損毛歩當リ三歩ニ不レ屆、切角入用ヲ掛檢見請、定免ニ納ル樣ニ成行テハ、殊ノ外村方痛モノ也、檢見取ノ村モ、檢見以前一巡立毛爲ニ見分一手代差出、前年ノ出來形等考合ヒ、追テ檢見ノセツノ勘辨ニ致スベシ、小檢見ノ儀先年一旦御停止ニ成シガ、享保四亥年ヨリ小檢見セズシテハ吟味行トドカズ、可レ出旨被ニ仰渡一、マタ小檢見出ルヤウニナリタリ

一　田ニ畑作仕付ルハ勝手ニ付、稻ノ上毛並ニ致ニ合附一定法也、莨・木綿・麻・藍・紅花・瓜・茄子、其外雜事畑トテ、野菜ニ遣フ品々作ルハ、上毛並ニ合附爲レ致、畠物ニテモ大豆・小豆・粟・稗・黍・蕎麥抔作ルハ、旱損場用水不足稻作難レ成、無ニ是非一畑作仕付ル儀ニツキ、勝手作ニハ無レ之、皆損ニハ少シ增ニツキ、其心得ヲ以合附可レ致、或ハ一旦稻作付、旱魃ニテカレ切タルユヱ、耕返シ蕎麥・稗等蒔ツケル

儀モ有レ之、是ラノ儀ハ籾種捨リ、其上仕附時セツモ後レ、作徳無レ之モノニツキ、取箇不二申付一、皆無ニ可二相立一、併一統ノ旱バツニテ、村中不レ殘ソバ等マキツケ、可成リ出來ナラバ、ミ計ヒ爲二冥加一少シ計ノ取箇申付ル儀モアリ、且又檢見不レ濟內ハ鎌留イタシ、一畝一歩モ刈取難レ成定法ナレバ、往來端馬等ニ被二喰荒一、或ハ夫食無レ之者少々ヅヽ、端カリ仕度相願ヘバ、畦際三尺通端カリ申付ル、然レドモ無レ願カリ取ル儀ハ成難シ、若心得違一間通リ其餘モ端カリ致カ、マタハ一坪不レ殘カリ上ル儀抔有レ之バ、稻作善惡ニ不レ拘、刈田ノ分ハ上毛並ニ合附致サスル定法也

一　畑方ノ儀モ往古ノ檢見有レ之、別テ麥檢見ハ仕法モ相立有レ之所、畠作ハ二毛三毛モ作リ、檢見ノ的當無レ之作徳モ有レ之者ニ付、畑方引ハ不二相立一、自今以後永定免ノツモリ、尤五畿內中國筋木綿作ハ、田畑トモ檢見取可レ致旨、御勘定奉行中ヘ相伺、享保十八丑年五月、松平左近將監殿・本多伊豫守殿伺ノ上被二仰渡一、右ニ付其以後檢見相止、皆畠村ニテモ破免願取上無レ之、乍レ去皆畠ニ無レ之テモ、夏秋兩作トモ皆無レ紛レバ、御代官依レ願引方相立ル儀モアリ、又ハ引方ハ不二相濟一、畠年貢永年賦ニ相成ル儀モ有レ之、然レドモ先ハ容易ニ伺不レ濟事ナリ

一　當時御取箇ノ儀、享保年中ヨリ有毛檢見ニ相成、籾五合ズリ五公五民ニテ、半々取ニ相極タル由、五合ズリナレバ春法籾無二干減一其儘計リ、六合ズリニテハ二割ノ干減立ル定法也、古來ハ六合ズリ二割ノ干減ヲ引、四公六民ニテ、一石ノ米四斗公納、六斗百姓作徳ニアヒ成、檢見モ畝引トテ、田方上

中下位限、根取米反當リアヒ定メ致ニ檢見一、籾不足ナレバ夫ダケ畝歩ニテ引、一反ノ當リハ定通ノ反取ヲ、殘反別ニ掛タル處有、毛取ニ成テハ上中下ノ無ニ差別一モ、上ノ有合ヲ見分致シ、內見籾數書出スヲ、檢見ノ上カリ出ヲ懸ケ、五合ズリ無ニ干減一、五公五民ニテ御取箇付ノ積、御料處ハ都テアヒ極タリ、尤甲州計ハ村ニヨリ五合ズリ、五合五勺、六合、又ハ四合五勺ズリ抔、其村々ニテ增減ノ替リ有レ之、依レ之免取帳ト云、帳面ニ附村ノ摺減書記、場所替最寄替ノ節ハ引渡ニ成、右免取帳ヲ以御取箇仕出ス、甲州村々ハ籾性不同有レ之、百姓及ニ難儀一由ニテ、先年甲州御代官吉田久左衛門勤役中相伺、免取極タル由也

一　檢見高引ノ儀、古來畝引檢見ノセツハ、損毛丈ノ高ヲ檢見引ト唱、高ニテ引タレドモ、有毛檢見ニテハ反取蔭取トモ根取ノ定無レ之ニ付、檢見減ノ分ハ取米ニテ引、高ニテハ不レ引、皆無高計リノヒク、皆無高ノ儀、田高ノ半分餘引レ、タカハ田五分以上損毛トテ、三役免除ノ御定法ニテ總村高ニ掛ル、三役不レ殘免許ニナル、取米五分以上ノ損毛ナレバ、諸拜借返納ハ一ケ年延ニ成御定法也、依テ皆無反別引戾毛附ニ致儀勘辨可レ有レ之事也

但三役ト云ハ、私領ニハ無レ之、御傳馬宿入用、六尺給米、御藏前入用、此三品ヲ御料所ニテハ三役トイフ、高掛ル物也

檢見出立以前、去年ノ割付扣ヲ以永引起返リ、又ハ當夏秋ノ損地有レ之バ、吟味ノ上伺候テ、引ニ可レ立

品ハ當年ノ割ツケ下ニ不ㇾ殘仕出シ、上中下反別引物差引、檢見當引組入ル計ニシテ、寄高迄一村限仕出、郡ハ國ハ高反別無ㇾ相違ㇾ樣下組帳仕立、廻村先へ持參スベシ、偖貮十ケ年、十ケ年、五ケ年取米平均、反取當合並前年ノ當合、上中下トモ仕出シ、一村限帳面ニ仕立、其外見合ニ可ㇾ成書物諸帳面無ㇾ洩落ㇾ樣取揃持參スベシ

一　出立五六日以前、定式ノ廻狀差出スベシ、人馬先觸ハ出立前日差出ス、廻狀認方ハ御代官心々ニテ達同可ㇾ有ナレドモ、大概左之通

當田方立毛ノ儀、村中ノ大小ノ百姓與頭年寄名主立會、所々ニテ致ㇾ目樣ハツボ苅無ㇾ依怙贔屓ㇾ有體ニ下見仕、立札帳面田毎ノ位、反別合附番附等無ㇾ間違ㇾ相認、銘々印形致サセ、內見帳面前夜ノ泊へサシ出、田毎ノ建札立違等無ㇾ之樣入念、其村々廻村ノセツ、村役人ドモ村境へ罷出可ㇾ致ㇾ案內ㇾ候、人馬先觸ハ前夜ノ泊々ヨリ、廻村順相シタヽシメ可ㇾ差出ㇾ候間、可ㇾ被ㇾ得ㇾ其意ㇾ候

一　村堺並御朱印地。除地、他領分鄉入會ノ田地境、銘々細見竹ヲ建、地所明白ニ相分候樣可ㇾ致候、且又場廣ナル耕地帳面引合紛敷處ハ、是マタ印建置、見分ノ節相分候樣可ㇾ致候

一　檢見繪圖相仕立、內見帳ニ添可ㇾ差出ㇾ候、尤村へ圖ヲ以墨引ニ相寫、田畑相分リ候樣、田方ハ帳面ニ引合字書記、尤半紙二三枚繼ニテ相納リ候樣、少ク仕立サシ出ベク候

一　檢見ノ時無用ノ人足等決テサシ出間敷候、名主年寄組頭百姓代罷出可ㇾ致ㇾ案內ㇾ候、田主ハ自分

ノ田ツボ刈ノ時立會可レ申候

一　ツボ刈稲舂法道具繩筵ナド持タセ、村境ヘサシ出シ候

一　耕地移リノ場所、幷檢見通リ筋堀溝等有レ之、通路差支候場所ハ、投渡橋等イタシ、差支無レ之樣イタシ置ベク候、大通道橋危場所ハ取繕置可レ申候、其外道橋修復掃除等堅仕間敷候

一　旅宿之儀行掛可二掛極一候間、得二其意一決テ用意等致ス間敷候

一　泊晝賄之儀、御定ノ木錢米代相渡候條、所有合ノ野菜類一汁一菜ニテ相賄、馳走ゲ間シキ儀堅仕間ジク候、勿論下々迄酒肴等一切サシ出シ申間ジク候

一　音物ノ儀如何樣輕キ品、所出產ノ品タリトモ堅可レ爲二無用一候、萬一心得違音物等致候カ、馳走ゲ間シキ儀等於レ有レ之ハ、急度咎可二申付一候

一　內見致方、村役人地主立會見落不埒等無レ之樣、入念有體可レ致候、案內致方等不束ノ儀無レ之樣正路ニ改請可レ申候、檢見ニ付少シタリトモ、巧ゲ間シキ儀等於レ有レ之ハ急度相糺、嚴ク科可二申付一候條、其旨相心得、村中末々ノ者迄申渡、麁末無レ之樣可レ致候

右之趣逸々得二其意一、小百姓迄得ト爲二申聞一、諸事間違無レ之可レ致候、此廻狀披見之上、村下ニ印形イタシ早々順達、留リ村ヨリ可二相返一者也

何月幾日

御代官名印

何國何郡

何村

何村

右村々

名主

年寄

與頭

右之通廻狀差出置、尚又其村ヘ參着之上村役人共相揃、隨分正路ニ可レ致ニ案內一旨申渡、尤檢見ニ付諸事申渡請書帳面ニ仕立置、文言ハ大法右廻狀之趣ニ致、增補申渡之次第急度相守可レ申候、檢見致方毛頭非分無レ之、召仕下々ニ至迄、無心ケ間敷儀ハ不レ及レ申、非分ノ儀曾テ無レ之、村入用等決テ不ニ相掛一、百姓難儀ノ筋無レ之、檢見勘定通御年貢無レ滯可レ致ニ上納皆濟一旨、御請申上候段書レ之、直泊々ニテ一村限名主年寄組頭百姓代名前書迄讀聞セ、坪苅帳一同印形可レ取レ之、尤古來ハ案內ノ村役人檢見前、爲レ致ニ神文一タル由ナレドモ、四五十年以來ハ誓詞ノ沙汰ナシ

一　村々耕地境等ニハ葉竹紙ヲ付、耕地際印ヲ建置候樣兼テ申付オキ、其耕地ニ至ラバ字ヲ聞、帳面ニ

引合セ、其耕地ト凡反別ヲ承屆、境ヲ間細見竹ヲ見當ニシテ、凡竪横可レ有ニ何程一ト、町歩ヲ心中ニ勘定スル

是ハ東西何百間、南北何百間ト虚眼ヲ以計リ、町歩ニクヽル也

名主ノ申所ト大數ヲ引合セ、耕地限帳面ニ覺ヲ致シオクベシ、其後耕地移ノ順ヲ聞、今見所何方ヨリ何方ヘミテ見終リ、次ノ耕地ヘ可レ移ト心掛足ヲ可レ入、無レ左シテ移ト大成耕地ヘウツシテ、初テノ場所抔ハ方角ヲ失ヒ、心迷ヒ有モノ也、一耕地限リニ由カ、土手林カ立木、或ハ川溝ニテモ、何ゾ目印ヲ心掛ベシ、横着成村方ハ態ト迷ハスル様ニ案内致ス事モアリ、必油斷スベカラズ、扨見分イタシタル町歩ヲ大積リシテ、帳面ノ町歩ニ引合セ、若不足ニミユル場所モ有バ、吟味スベシ

一　內見合毛ト出來形ノ立毛ト見合、何程增減有ヤト積リ見ルベシ、一升モ可レ有ト見込タル立毛、五合ノ建札ナレバ、五合ノ見違也、一體下見ハ立毛一盃ニハ附不レ出、二三割モ引付オクコトナレドモ、餘リ多分ノ引ト見請ハ吟味スベシ、又不馴ノ村役人抔ハ、立毛ノ見立不調法ニテ、田毎ノ毛附格別ノ不同モ有モノ也、刈出ハ村中一統ニ掛ル事ニテ、下見ニ不同アレバ小前ノ年貢ニ多少出來、百姓難儀ニ及ビ取立ノ害ニ成、マタ是ヨリ爭論等發ル事モ有バ、內見至テ不同アラバ檢見引上ゲ、內見ヲ仕直サセ、外村ヲ檢見シテ內見改リ、帳面仕立替タル上檢見スベシ、都テ檢見ヲスルニ當リ合ヨリ高キハ、格別不レ及ニ吟味一、縱バ當合八合ナラバ、八合ノ毛附ヨリ低キ合毛ノ分ハ、入念改ムベシ、前條ニモ述

シ如ク、低合毛ニテ村カタ不埒モイタスモノ也、隨分心附、横道ノ村カタニマヨハサレザル樣ニイタスベシトナリ

一　檢見ノ古法ハ朝露ノ乾タル比出、夕ハ七ツ過ニハ引上ル法ナリ、コレ稻ニ濕リヲ持テバ、坪刈正道ナラザルユヱ也、然ル所當時ハ村數ヲ多ク致ニ檢見ㇾ度、朝モ未明ヨリ出、仕廻ハ日ノ入迄モイタス者多シ、朝夕露氣アルトキ若檢見セバ、粗ノコナシ等格別ニ入念、無理ナル升目等無ㇾ之樣ニ可ㇾ致、總テ坪刈ハ朝出掛ニハ嚴敷、晝頃ヨリハ氣ノ草臥ニテ必緩ル者也、又夕方ハ却テ嚴ク成ニツキ

是ハ晝頃ヨリ氣草臥緩成ルニ付、夫ニ心ツキ夕方ハ俄ニ強クナル者也

初中終不同無ㇾ之樣致ニ覺悟一可ニ心附一、毛稻ハシメリ有テハ、尙サラ野毛折兼、合毛增正道ニ無ㇾ之ニ付、成丈毛ノナキ稻ヲ苅ル樣ニ可ニ心付一、檢見ノ強弱ニ寄リ、村方ノ豐窮ニ拘ルコトニテ、租稅ノ元ニナリ、ツボ刈ナレバ強キモ弱キモナク、正道ニシテ大事ノ上ニモ大事ヲ可ㇾ取事勿論也、必無理ナル檢見致ベカラズ、然ニ不仁狼戾成役人ハ、民ノ辛苦ヲモ不ㇾ辨、出來形ヨリ少モ餘計ニ取上、手柄出精ト上ニテ思ハレ、自分ノ功ニイタシ、褒詞ヲモ可ㇾ請ト心ガケル者、誠ニ聚斂ノ臣ナルベシ、農業ニハ年中民ノ辛苦イカ計カハ、寔ニ千辛萬苦シテ作リ出セル米穀ナレバ、一飯ヲ食ムトモ疎ニ可ㇾ思事ニ非ズ、中唐ノ李紳ガ農ヲ憐ム詩ニ、「鉏ㇾ禾日當ㇾ午、汗滴禾下土、誰知盤中餐、粒々皆辛苦」ト有誠、ナル哉一粒ノ米ニモ民ノ艱難掛リタレバ、曾テ麁略ニ思フ間敷事ナルニ、下ノ難儀ヲモ不ㇾ厭自ガ功ヲ立度、村役

人不調法ニテ見損ジ、高合毛ヲ低毛ニ附タルヲツボ、或ハ新田肥場等一枚ノ内、出來形宜キ場所ヲ總ツボノ見平均モナク、竿ヲ入レ抔致コト以ノ外ノ僻事也、然トイヘドモ村役人百姓ニモ、又不直横道ナル者多ク、殊ニ年々檢見馴タル村カタハ、合毛ノ附カタ案内ノ仕方等、マタハツボカリ春法ノ節、稻籾ヲ盜ム手段等致ス事多シ、決テ油斷難レ成、此方ヨリハ正路ヲ專トシテ、嘗テ無理ナル坪刈等不レ致、百姓ヨリ欺カレザル樣ニ、無二油斷一可二心掛一事肝要也

一　總テ田毎建札ノ反別ヲ、所々ニテ立札ト地面ノ廣狹トヲ引比べ見テ、一村田地ノ延縮ヲ知ルベシ、取箇仕出候節勘辨ノ入コト也、地廣地狹ニテハ、百姓ノ作德大ニ違フ事ナレバ、取箇付ノセツ其勘辨肝要ナリ、扨總毛ヲ見平均スルコト是又取箇付ノ肝要也、一耕地ノ内ニモ上毛・中毛・下毛アリ、マタ此三段ノ内ニ多少アリ、ツボカリ計ニ拘ルト、上毛多キ年ニハ年貢ニ損有、下毛多キ年ハ百姓ノ損多シ、依レ之一耕地限ニ上中下一體ニ見、平均何合程ニ可レ當ト考、内見帳耕地限ニ心覺書付置、檢見濟ノ上總村平均シミルベシ、無レ左シテツボガリ計ニ拘リテハ、上中下毛不同アルユヱ、損益有テ一統ノ平キンニハ成難シ、前條ニ申如ク、作德ノ外助成ノ有無ニテ、有テ難レ取村モアリ、又無テモ取レル所モアリ、コレ檢見ノ秘事也

一　畝引檢見之事

畝引檢見ハ古法ニテ、田方上中下共村々根取米究リ有レ之、縱令バ上田ハ一反ニ取米七斗五升、中ハ六斗

五升、下ハ五斗拆ト、右ニ記ス石盛ニイクツ取トシテ、一反歩ヨリ納ル取米定リ有レ之、コレヲ根取トイフ、右上田ノ根取米七斗五升ニ、五合摺五公五民ノ法四ツヲ懸、籾ニ直シ三石トナル、一反ノツボ數三百歩ニテ割レバ、一歩ノ籾一升ニ當ル、中田ハ八合六勺六才六、下田ハ六合六勺六才六、コレ根取ノ當合ナリ、右ノ籾丈アレバ檢見不足無レ之所、損失ニテ一歩ニ平均籾八合アリ、上田ノ根取ニ二合致ニ不足ハ、中下トモ夫々檢見歩刈致シ、何レモ不足ナレバ、總勘定ニテ取米何十何石ノ不足ニ成ニ付、右不足籾丈反別ニ直シ、親反別ノ內ヨリ檢見引ト記引レ之。殘反別ニ根取米ノ反當リヲ掛取米仕出ス、是ヲ畝引檢見ト唱、又ハ反取檢見トモ云、右檢見ノ仕樣ハ位限一筆限致、內見根取米二合毛不足ノ分ヲ畝歩ニ直シ、何畝何歩內何畝何歩引畝ト、內見帳ニモ建札ニモ記ス、尤中古以來ハ內見帳ニハ、色取檢見同樣合附ニテ記、取箇仕出勘定計畝引ノ法ニテイタス、古法ノ通下筆限畝引ニ仕立ルニハ、甚入組面倒ニテ、却テ算違等モ有ユヱ、畝引檢見ニテモ內見帳合附ニイタサセル樣ニ成タリ、右ノ通位限ニ取箇モツケルニ付、坪刈モ縱バ上田ニテ三ツボ、中田下田下下田ト、イヅレモ三ツボカ四ツボ宛苅、夫夫平均シテ位カギリニ取米ヲツケ、根取ニイタシ不レ申、足籾ヲ畝歩ニ直シ反別ニテ引、殘反別ニトリ米ヲ掛トリ簡ヲ仕出ス、元來檢地ノ節土地ノ位稱ノ出來形ヲ見定メ、石盛ヲツケテ根トリ米モ地位相應ニツケ置タルコトユヱ、畝引キニシテ夫々ニテトリ箇ヲ定ル古法タル所、往古檢地ノセツト、當時後世ニ成テハ致ニ變地ハ、土地ノ位モ違フニツケ、其田々ニ其年出來タル程ノ米ヲ、トリ方不同無

レ之由ニテ、中古ヨリ有毛檢見ト申儀始リ、上中下ノ無ニ差別一トリヲ潰シ、其田ニ實法リタル丈ノ年貢ヲトル仕法初リ、享保以來御料所ノ分ハ不レ殘有毛トリニ成、畝引檢見ハ無レ之、今モ私領方ニテハ上方關東遠國トモ畝ヒキ檢見モアリ、マタハ御料並色ドリモ有レ之、其家々ノ法ニテ致スコトト見エタリ

但右畝引ノ仕形、檢見不足米ヲ反別ニ直シ引ク法ハ、譬バ今上田一町五反歩有、根取反ニ米七斗五升ニテ、此トリ米十一石二斗五升、當合一歩ニ籾一升也、檢見致坪苅一歩ニ平均籾八合有レ之、二合不足ニナル、此不足米二石二斗五升分反別ニ直シ、畝引ニ致ス時ハ一町五反歩ノ内三反歩檢見引、殘一町二反歩毛附、反ニ七斗五升トリニテ取米九石也、此術ハ當合一升ノ内、當年ノ有籾八合引、ノコリ二合トナル、此二合ヲ當合一升ニテ除キ二ト成、是ヲ法ニシテ一町五反歩ニ乘ズレバ、畝引三段歩ト成、此三反歩ニ根トリ米七斗五升ヲ乘ジ、減米二石二斗五升トナル也、又同法ニ一町五反歩ニ田法三ヲ乘ズレバ、四千五百ツボトナル、コレヘ右不足籾二合ヲ乘ジ九百ツボトナル、三ニテ除キ三反歩トナル、何レニシテモ同然也、右畝引上方筋ハ反取無レ之、氂ドリニテ高百石ニ免幾ツ何分何氂何毛ト根取免極リ有レ之ニ付、畝歩ニテ引ヲ高ニテ引迄ニテ、仕形ハ同然、反別ニ石盛ヲ乘ジ高ニ直ス迄ノコトナリ

一　有毛檢見之事　附色取檢見

有毛檢見ハ、當時御料所一統取用ル檢見中古ヨリ有レ之法ノ由、前條ニ申如ク、古來ハ畝引檢見ニテ、往古檢地ノ節極タル上中下位カギリノ反取ヲ用ヒ、合不足丈反別ニテ引、ノコリ反別ニ根取米ヲ乘ジ取箇極タレドモ、數百年以前檢地ノ上定リタル上中下當時ニテハ變地致シ、上ノ田中ニモ成、中ノ土地上ニモ下ニモ地位違、古來ノ位通リニ收納無レ之所、イツニテモ上田ハ其位ノ高ヲ持、高掛リ物人足等モ多分出シ、根取タカク年貢米餘計ハカルニ付、上田持タル者タカ倒レシテ、却テ難儀イタスモ間間有レ之、仍レ之何レ上田ニテモ下田ニテモ、致二收納一所ノ米ニハ無レ違ニツキ、其年其田ニ出來タル丈ノ籾數ヲ改、丈夫ノ年貢ヲハカル方、不同無レ之道理ノ由、有德院樣御代享保年中、御勘定奉行、神尾若狹守被二相伺一、御料所ノ分不レ殘有毛檢見ニ成タリ、右仕法ハ田方根取米ヲ潰シ、上中下ノ無二差別一、一筆限其田々ノ有籾一歩ニ何合毛ト見立內見帳ニ記、上中下夫々ニ寄附籾數ヲ記、惣寄ニテハ位ニ不レ拘致二手摘一、縱令バ八反歩一升毛、此籾二十四石、一町二反歩九合毛、此籾三十二石四斗、一町五反歩八合五勺毛、此籾三十八石二斗五升抔ト、段々有合毛ニ隨ヒ合毛限リニ反別ヲ寄附、籾ツキ致スヲ毛摘ト云、皆無ノ分ハ何反何畝歩當、何年旱損カ水損皆無引ト、田反別ノ內ニテ引レ之、殘毛附反別、此內見籾何百何十石ト記、內見帳差出ニツキ、建札檢見坪苅ノ上、平均何合何勺刈出シタル分ヲ、毛附反別ニ掛ケ、刈出モミ仕出シ、內見籾ニサシ加、五合摺五公五民ノ法四ニテ割取米仕出シハ、コレヲ有毛檢見トトナフル也

一　往古色取檢見ト云法アリ、仕方當時ノ有毛取ニ似テ少違アリ、是ハ至テ古キ法ノ由、今不用ノコトユヱ、仕法知ル人ナシ、其後畝引檢見ニナリ、又六十年程以前享保年中ヨリ、古ノ色取ニ習テ今ノ有毛取始リタリ、大體色取同樣成ユヱ、有毛取ヲ都テ色取檢見ト唱フ、今ノ人ハ古ノイロドリヲ不レ知、有毛取ヲ色取ト覺エ、當時ハ一統イロドリト唱ヘ、有毛取ト云フコトヲ不レ知人多ケレバ、イロ取ト云テモ害ナカルベシ

一　請免居檢見之事

請免ト云ハ、御料所ニハ決テ無レ之、小給所等檢見ニ可レ遣役ノ人無レ之ニ付、名主呼出シ當年ノ出來形承リ、尙又外々ニテモ隣村ノ豐凶風聞等ヲ聞糺シ、去年ノ出來形ヨリ宜キ沙汰ナレバ、去年ニ何程相增可レ受旨名主ヘ申聞、マタ出來劣願筋アレバ承屆、押合ヒテ取箇ヲ究メ、或ハ五ケ年取米致二平均一其年ノ豐凶ニ隨ヒテ、平均取米ニ增減致シキハメル事モアリ、是ヲ請免ト唱、又ハ居檢見トモ云、併檢見ト申筋ニテハ無、本法ノコトニ無レ之、私領タリトモ大家抔ニハ無レ之儀、小給所遠國知行所等僅ノ高ニ役人遣ス失墜モアリ、少々トリ箇劣ルトモ、右ノ趣キニテ相極ル方、却テ勝手ノ筋モアリ、村カタニテモ地頭役人引ウケルヨリ勝手ニ付、旁請免ト名附仕來タル儀ト相ミユル、私領定免村凶作ノ節不レ致二破免一、手當引用捨引ナゾト名付、鄕帳割付ハ定免通リニ居置、內證ニテトリ箇引遣スモ、請免同樣ノ儀也、然是ハ立毛見分ノ上引カタ相立ルニツキ、請免トハ譯違フ、破免檢見人ニ成レバ、鄕

帳割付之書面ニトリ米不レ減シテ成難シ、鄕帳割ツケトリ米減ジテハ、右村替知行替等有レ之、五ケ年平均取米致ニ減少一、物成詰ノ節差支ルユヱ、手當引ニ致オクコト也、是又御料所ニハ曾テナキ事也
但請免マタハ手當引等ニテ取箇減ジテモ、割付鄕帳ハ定免通ニ居置故、村替等ノセツ五ケ年平均取米不レ減、物成詰ノ勝手ニモ能、其上破免ニナレバ取米モ減ジ、マタ國ニヨリ取箇ニテ差出、荏大豆等モ減ル處、手當引ナレバ取米計減ジ、外ノ品ハ不レ減、地頭勝手ニ成、勿論立毛相應ノ引方申附ルニツキ、非道ノ筋ニハ不ニ相當一、百姓カタニテモ検見ト違ヒ、内見等ノ手間モ不レ掛、刈旬モ不レ後、村カタ失墜少キユヱ、村カタニテモ勝手ノスヂ也

一　段免之事

是ハ譬バ田地上中下三段ノ位有レ之處、下ノ位ノ内至テ惡地有レ之、年々外ノ下々地所ヨリ作毛劣リ、下ノ年貢ニテハ不ニ引合一儀無ニ相違一バ、下ノ年貢ヨリ一段モ二段モ免ヲ下ゲ、取箇付ル儀也、往古検地ノセツ下々トモ可レ附處、如何ノ儀ニテ下一段ニ致置タルヤ、今更下々ノ位付ル儀ハ成難シ、右ノ場處計所持イタシ、百姓及ニ難儀一故、一ツモ二ツモ其地位ニ准ジ、免ニテ下ゲ遣ス、コレヲ段免ト申稀ニ有レ之コト、勿論検見ハ段免場トテ別ダンニハ不レ致、惣平キンノ色取検見ニツキ、總取締タル免ニテ、一ツニテモ八分ニテモ下ゲ遣ス、コレヲ段免トイフ、尤其年ノ出來形ニ由テ、段免場迚前々ヨリ場處反ベツトモ極リ有レ之事也

但段免ノ仕様、本免ニ一ツ劣リ段メン段成ハ、段免場ノ高ニオトル、丈ノ免一ツヲ乗ジ取米仕出シ、其米ヲ總トリ米ニ加ヘ、夫ヲ總高ニ割リ免ヲ極ル、是本免ニ成ル也、其内一ツ引段免ニナル、縦バ下田高二百石免三ツニテ、此トリ米六十石ノ所、右二百石ノ内高百七十石ハ本免、三十石ハ一ツヲトリノ段免場有レ之バ、先三十石ニ劣ノ一ツヲ乗ジ米三石トナル、コレヲ總トリ米ヘ加ヘ六十三石トナル、總高二百石ニテ除ケバ、免三ツ一分五釐ト出ル、コレ則本メン也、百七十石ヘ乗ジ、トリ米五十三石五斗五升トナル、此メンノ内一ツ引、二ツ一分五釐ダンメン也、是ヲダンメン場ノ高三十石ヘ乗ズレバ、トリ米六石四斗五升ト成、双方合六十石ノトリ米也、尤上中下平キン免ノ段免ナラバ、下田高ニ不レ拘、總高ニテ右ノ通ノ仕法ニイタス也

一　遠見檢見、投檢見准合之事

遠見檢見トイフハ、破免等ニハ難レ成コト也、檢見トリノ村一體ノ出來形、格ベツ不同モ無レ之處ハ、入込タル耕地等有レ之、悉見盡シテハ日數モ掛リ、マタハ暮ニ及見殘シタル分ハ、耕地ノ入口ヲミテトリ締、或ハ一ケ村遠方ニ離レテ、檢見小檢見引請テハ、人夫等入用掛リ、村カタ難儀イタスニツキ、内見帖ハ差出シ、檢見ハ遠見相願、トリ箇ハ去年通リトカ、又ハ何程相增可レ申トカ、吟味ノ上トリシマル、コレヲ遠見檢見ト云、然レドモ出來形不レ宜、取箇去年ヨリ減ル村ハ、遠見ニハ成難シ

一　投檢見ト云ハ、内見帳モ不二差出一、泊リ休抔ヘ名主百姓罷出、去年ニ何程相增可レ納ト願出ルヲ、

吟味致極ルヲ云、前條請免同樣ノ者ナレドモ、請免ハ知行所ヘ役人モ不レ遣、江戸屋敷ニテ相究メ、投免檢見ハ其村近邊ヘ參リタル上願出、吟味致シ相キハム、萬一心掛ノ儀モ有レ之バ、前年ヨリ取簡相增願フトモ不二承屆一、本檢見ニ致ス也

一　准合ト云ハ、村內離レ耕地カ、或ハ新田場等別ニ步刈可レ致所、本田步刈ノ合毛ニテ請取旨願ヒ、又ハ村々入組タル田畠一ケ村坪カリイタシ、外村モ其通リノ合毛ニテウケ度段相願ヒ、ベツ段ニ步カリ不レ致、隣村ノ合毛通步カリ帳ニ記スヲ准合ト云也

一　一々五檢見之事

上州之內高崎城附邑々檢見ノ法ハ、前々引付ニテ田別檢見ト唱、一々五ノ法四六ノ延ト申、餘國ニ無レ之、七合三勺ズリ、五公五民ノ仕法、至テ强キ取簡ナリ、內見ハ色取檢見同樣立毛見立、有籾一筆限致二合毛附一、紙札ニ認メ田每ニ建レ之、上中下ヲ分根取ヲ用ヒ、勘定ノ上增減相立ル、檢見ノ仕法ハ、田一枚限見分イタス、譬バ五合毛ノ建札アルヲ、檢見役人八合トミ立レバ、則地主ヘ八合ニ可レ致旨申達、地主ハ八合ニハ成ガタシ、六合ニ相願、檢見役人ハ八合ニイタスベシト、彼是押合七合ニモ取シマリ、紙札取上改七合ト書付、內見帳ニ引アハセ、一ツボ限地主ト押アヒ、合毛取キハメル、若無體ニ低合毛ヲ願、利害モ不二聞譯一百姓有レ之バ、ツボカリイタシ、有籾通リニ取シマル、尤田別檢見ニ付、其ツボ限ノ樣ニナ、外ノ田坪ニハ不レ用、右ノ通ノ檢見ニ付、悉手間取大槪ハ一ケ村二十日餘モ掛

ルコト也、扨總籾數極リタル上、取箇附方ハ扨石數ヲ一々五ニテ除ケバ、延米加リタル納米俵數直ニ出ル早算ナリ、ノベ米ハ本米一石ニ、四斗六升俵入ハ四斗二升ナリ、縱バ田一町三反十歩、一ツボ籾一升ノ積ニテ四十石アリ、七合三勺摺ヲ乘ジ米二十九石二斗ト成、五公五民ノ積、二ツニ割レバ取米十四石六斗、是ヲ四斗二升俵ニ除ケバ、納米三十四俵七分六厘二毛ト成、又法籾四十石ヲ早算一々五ニテ除テモ、米三十四俵七分八厘二毛六トナル、本算ト二ツ餘ノ違ヒアルハ、元來一々五ノ法、端シノ不盡ヲ捨タル法ニツキ、少々ノ違ヒアリ、世上一統ノ通五合ズリ五公五民ノ法、籾四十石ヲ四ニテノゾケバ取米十石トナリ、コレヘ延米四石六斗ヲ加ヘ米十四石六斗、則一々五ノ取米也、依レ之四六ノノベト云フ、根トリ米ニテ當合ヲ仕出ニハ、トリ米ヲ一四六ニテノゾケバ本米出ル、其本米ニ四ヲ乘ジ、籾ニシテ反別ノツボ數ニテ割レバ、當合一歩ニ籾何程ト出ル、譬バトリ米十四石六斗、反一町三反十歩、此當合ヲミル時、十四石六斗ヲ一四六ニテ除ケバ本米十石トナル、コレヘ四ヲ乘ジ、籾四十石、此籾ヲ一町三反十歩ノツボカズ四千ツボニテ除ケバ、一歩籾一升ニ出ル、則當合也、世間並ノトリ法ニテハ、一升ノ當合一町三反十歩ノトリ米ハ十石也、一ト五ニテ十四石六斗ナレバ、四石六斗トリ箇强シ

一　籾ズリノ儀、實入善惡ニヨリ、モミ一升ズリ立四合位ヨリ六七合位迄有レ之ニ付、平均五合ズリノ勘定、往古ヨリノ通法也、然ルニ高崎城附村ニ七合三勺スリノ勘定ニイタシタル發端ハ、中古安藤對州

領ノ節マデハ、往古ノ遺法年貢籾納ニテ、一苞五斗入ト極メ、掛ケ計リトテ升ノ縁ニモミ粒乘ル樣ニ計立、其外込籾有レ之、五斗入ト唱六斗入ノ由、折々城中於ニ藏庭ロ一スリ立候處、農業セハシキ時分人夫差出、百姓難儀ニツキ、米納ニ相願、スリ立試レバ、モミ一升米七合三四勺ニ成タル故、以後七合三勺ズリノ勘定ニテ、米納可レ致由被レ命、百姓納得ノ上七合三勺ズリニキハメタル由云傳フ、勿論古代ハ一統世柄モ宜ク、民力募リ肥養モ下直ニテ、田畑ノ修復行トヾキ、稻作實入能、七合餘ニモスリ立タレドモ、後世ハ民ノ風俗奢侈ニ移リ、農業モ自ラ怠惰イタシ、手入等麁略ニ成、殊更近年ハ肥養悉價貴ク、古ノ十倍ノアタヒニナリ行、田畑ノ養手薄ク、土地ノ位劣リ、實入惡ク、六合ズリニモ不ニ相成一ト雖、今サラ古法可レ改ニモ非ズ、代々引附トホリヲ相用ユル、高崎領ニ不レ限、羽州ニハ二斗ノヱン米アリ、コレハ六合ズリノ古法ニテ、御料處ニ成テモ引ツケ難レ改、今モ本米一石ニ、二斗宛出目米迚納ル事也、是ラノ類餘國ニモ可レ有事也

但俵直シ早算ニ、一々五ノ算法ハ、取米ニ四ヲ掛ケモミニシテ、其モミヲ一々五ニテ割レバ、四六ノノベ米加リタル米四斗二升入ノ苞數ニ直ニ成由ニテ、前々右之法有レ之、高崎領檢見ニ相用ル、元來一々五トイフ法ヲ拵ヘタルハ、四斗二升ヲ七合三勺ズリノ勘定七三ニテ除ケバ、モミ五斗七升五合三勺四才ト成、是ヲモミ一苞五斗入ノ積、又五ニテ除ケバモミ一俵一分五厘零六八トナル、然ドモ右モミヲ一々五ニテノゾケバモミノ苞數ニナルヲ、直ニ四斗二升入ノ米ノ苞數ニ用ルハ、本式ノ算

法ニハ無コト也、五斗ノモミヲ七合三勺ズリニシテ、米三斗六升五合ナラデハ無レ之處モミ五斗入一俵ヲ米四斗二升入一苞ニ直ニ用ルコト、旁算法ニ不レ當、然レドモ元來モミ五斗入ト云テ、込モミ掛ケ計リ等ニテ一苞凡六斗程入有レ之故　モミ一苞スリ立レバ米四斗二升餘有レ之、本米一石ニノベ米四斗六升ニ當リ、モミ五斗ニテ割出タル一苞一分五厘零六八、直グニ四斗二升入ノ米一俵一分五釐ニ相用ヒ、德勘定ニツキ、六八ノ不盡ハ捨テ、一々五ノ法ト云、早算始マリタルト見エタリ、勿論五斗入ノモミニテ俵ニナルヲ、四斗二升イリノ米ノ苞ニ直ニ用ユル儀、本算法ニハナキナレドモ、本米一石ニノベ米四斗六升ヲ掛ケ、出タル石數ヲ四斗二升イリノ俵ニ直シタル本算ト、一々五ノ割出シ同數ニ出、不盡ニシテ少シノチガヒ有レ之マデニ付、一々五ト申法ヲ立タル儀ト見エタリ

一　木綿檢見之事　附　同日本ヘ渡リシ濫觴

木綿本朝ヘ渡リシ始ハ、人皇五十代桓武天皇ノ御宇延曆年中、崐崙人三河國ニ木綿種ヲ持渡リ植サシムト云コト、類聚國史ニ見エタリ、然ニ此種中古久ク絕、日本ニ木綿無レ之處、秀吉公時代文祿年中、中華ヨリ木綿種九州ヘ渡リ、其後海内一圓ニ是ヲ作ル事ニ成タリ、按ニ、往古崑崙ヨリ渡リシ木綿ハ、今ノワタニハ有ベカラズ、奥島棧留ヲ織南蠻ノ諸國ニ有、大木ニ成テ幾年モ經ル木ノワタ成ベシ、近世寶曆年中、大木ニナルモメン種交趾國ヨリ紅毛人持ワタリシヲ、公儀ヨリ國々ヘ渡シマキツケルト雖、交趾國ハ至テ熱國故、日本ノ寒氣ニ負ケ、諸國トモ不レ生、適紀州熊野浦、勢州南濱邊、駿州九州

ノ内ニ少々生ヘタレドモ、冬ニ至リ不レ殘枯タリ、往古コンロンヨリ渡リシハ、此種ニモ有ベキヤ、今ノ草綿ニテハ有マジ

一　木綿檢見ハ五畿内中國ニ限ル、餘國ニハナシ、一體畠作ノ儀モ古代ハ檢見有レ之所、享保十八年有德院樣御代、畠作檢見御停止ニ成、永免ニ被ニ仰出一ノ所、モメン計五畿内中國ハ畑檢見被ニ仰付一、勿論田ニ畠物仕ツケルハ勝手作故、稻ノ上毛並ニ付ル定法ナレドモ、木綿計ハ田ニ作リテモ、畑ワタ同然致ニ檢見一、尤國々トモ畑ニモ田ニモワタ作アリト雖、五畿内中國ノ外ハワタ檢見ナク、餘國ノワタ作ハ外畑作同然也、七月頃ヨリワタ吹ク最中ニハ檢見難レ成、九月末十月頃迄吹仕廻タル跡ヲ檢見イタス事也、ワタ作見樣、秋ノ土用前後迄、青葉アルワタハ宜ク不レ立、枯テ少シ青キハ中ノ上也、木大キク能カレ、枝多キハ極上也、小クトモカレタル實多クツキタルハ宜シ、青葉賑々敷見ユル所ハ若返リ、青桃計ニテ一向實ナク、皆無同然也、又カラ澤山ニ付、宜ノ見エテモ腐リ多キ所アリ、腐タルカラハ三方ヘ開ケタル所、裏ノ方ヘ反リ返リ、或ハ欠落、全體小サク見ユル也、ワタノ實宜キカラハ、三方トモシッカリト堅ク見ユル也、ワタノ實青キ内ハモヽニ似タリ、依テワタノ實ヲ桃ト云、熟シテ三ツニサケワタ吹ナリ、雨年ハワタ腐リ不作シテ、旱魃ニモ桃ナラズ、田畠トモニ折々水ヲ懸ケ、日照年ニハ六七日目程ニ用水ヲ引入、暫クタヽヘ置切落ス、雨年ニハ用水掛ルニ不レ及、田ニワタヲ作ルハ稻作ワタ作隔年ニ仕付ル、年々ワタ計リ作テハ不レ宜、ワタ作ハ稻作ノ一倍肥シヲ入、水ヲ不レ溜地ヲ浮ス故、

翌年稻作至極ヨロシク出來ル也

一 ワタ檢見ノ仕法、往古ハ斤目計ニテ勘定致シ、取箇キハメタル處、中古ヨリ木ワタヲ籾ノ合毛ニ積リ、籾ノ勘定ヲ以テ取箇付致ス、九月末比ニナリ、ワタ吹仕廻、カラ木ニ附居ル處ヘ坪竿ヲ入ル、尤畠ノ畝ヲ筋違ニ、竿閤違ニ畝ニ當ル樣ニ入也、大概三畝餘入木數五六十本モアリ、一本ニ桃、四ツ五ツヨリ十四五二十モ有レ之、豐凶ニ由テ殊ノ外多少アリ、一ツボニモ、三百モアレバ豐作也、竿ハ田ノ檢見同樣、古檢新檢ノ村ニテ違フ也、竿ヲイレワタノ木ヲ拔、吹カラ青モ、トモ不レ殘取、三段ニ撰分ケモ、ヲ算ヘル也、吹カラヲ手ニ振潰レル八腐ル也、青モ、クサレバ勘定ニ不レ入、無難ノモモヲ何十ト勘定ニ相ナル、歩苅帳ニハモモ幾ツ、腐幾ツ、アヲ幾ツ、木何十本ト記ス、ツボ刈見立ノ儀右ニ述ル趣ヲ以見立ルトイヘドモ、檢見度度仕馴、功者ナクテハ、稻ト違ヒ善惡見分ケ難シ、大ニ刈込物也、能々可ニ心附一、尤傳計ニテハ決テ分リ難シ、度々ワタ檢見不ニ目馴一シテハ知レ難シ、扨吹ノ儀、モモ一ツ實トモニ、上々ハ六分五厘ヨリ七分位マデ、上ハ六分位、中ハ五分、下ハ四分位也、尤豐凶ニ由大ニフク目違ヒアリ、ワタ實ヲ去リ繰綿ニナレバ、凡モ、一ツ正味三匁ニ積レバ、大成違ハナシ、檢見籾積リノ勘定ハ豐凶ニ不レ拘、大和國ハモ、一ツ五分フキ、山城攝津和泉河內並中國筋ノ綿場ハ、四分フキノ勘定ニ致シ當合仕出ス、極上ノ出來ノ綿ハ、桃一ツノ實ノヱミ綿ヲ左右ヘ引延セバ、長六寸程ニ引ノビル、是ヲ六寸ブキト云、ケ樣ナル綿ハ稀ナリ、夫ヨリ五寸ブキ、四寸ブキ、二寸ブキ

ト段々出來、形ノ善惡ニ寄リノビ違フ、ヨク出來タルハ、實モ小サクテ數モ少ク綿多シ、出キノ不レ宜ハ、實大クテ多キユエ、引ノバシテモチギレ〳〵ニ成、ワタノビズ

一　田ニ木綿ヲ作ルハ淺ク畦ヲ立、一畝ニ二筋ヅヽマク也、イキレテハ虫ヲ生ズ、故五六日目ニ水ヲ掛イキレヲサマス、田畑トモ木綿ハ大抵二ツボニテ十畦アリ、一ツボ三畦餘宛、木數ハ大體一ツボニ六十本程、一畔二通ヅヽニテ凡十七八本ヅヽ、一本ニ付モヽ數平均二ツ半ニシテ、一坪二百五十程、夫ヨリ百六七十迄中ノ出來也、極上々出來ハ木一本ニモ、十五六モアリ、一ツボニテ五六百ヨリ八九百マデナリ、ケ樣ノ出キハマレ也、コレハ上モヽ計ノ勘定ナリ、下ナリハ土玉トテ、雨水ニテ土ヲ敲キ懸不二用立一、又末ナリハアヲ玉ニナル、是又ワタフガズ、土玉モヽヲ除キテノ積ナリ

一　木綿檢見取備附方ハ、大坂御代官ニ年番相立、平野日ト云テ二百二十日ヲ一斤トシテ、其年ノ相場相立、一斤代銀何匁何分、米相場何程ト相極メ、年番御代官ヨリ觸出シ、綿直段ト米直段ト割合、一斤ノ綿米何程ト積リ、夫ニ四ヲ乘ジ籾ニ直シ、綿ノフキ日大和ハ五分、其外ハ四分トシテ、モヽ一ツ籾何勺ト當合仕立、土玉青クサリヲ去リ、正桃數勘定ノ上、一ツボニ籾何合何勺ト積ル、勿論田畑トモ定免ノ村ハ根取免五ツト定リ有レ之、檢見取ハ五ケ年十ケ年平均、並ニ前年ノ取米ヲ以當合仕立置、ワタノ豐凶ニ隨ヒ、當合ヨリ多少有レ之事ニ付、ツボカリノ上モヽ算ヘ、掛ケ方ニ勘辨アリ、縦バ土玉青クサリ多テ、出來形ヨリ格別取箇下ルベキト見ヱタラバ、右三品ノ内少々宜ヲ正桃ノ内ヘカゾヘ入、

又青モヽ腐少ク正モヽ多過ギ、過半ニ取上リ不ニ引合一趣ナラバ、正モヽノ内不出キノ分ヲクサリノ内ヘイレ、ツボ刈ノ勘定宜キ樣ニ取計事口傳也、然ト雖年々出來形ノ豐凶ニ寄、吹カタノ多少有レ之事ナレバ、當合ニ不レ合トテ、無物ヲ可レ取ニモ非ズ、又有ヲ除ク筋ハ尙以無事ナレドモ、少ク勘辨取捨ニテ上下損益ナク、取箇ノ附方正道ニ行トヾク樣ニ取計肝要也

一　右之積リヲ以ツボカリ合毛ヲ仕出シ、其年ノ豐凶ニ隨ヒ、取箇增減アリ、取附方大意如レ左

根取毛五免、五ツ四分六釐一毛、此當リ合一升一合六勺五才

但木一本、平均モヽ四ツ二分

一　上々田一反步　　木綿作

此分米一石六斗　　但石盛十六

此木數二萬七百本　　但一ツボ六十九本立

此ワタ目十二貫四百二十目

但モヽ一ツ正味三分綿實除一坪綿目四十一匁四分

此斤目五十六斤四分五厘四毛　但平野目一斤二百二十目

此銀五十六匁四分五厘四毛

但一斤代平均一匁替

内二十匁肥代引

但十匁ニ付代凡三匁五分宛

是ハワタ作ハ稻作ト違ヒ、多分ノ養入候ニ付、定法ニテ肥代引事也

殘銀三十六匁四分五厘四毛

此取米九斗一升一合三勺五才

但一石ニツキ銀四十匁ガヘ

此籾一石八斗二升二合七勺

一ツ、ボニツキ、當リ合籾六合七勺五才

但五合摺積リ

大法右之通ニ仕出シ、根取當合ト差引、籾五合五勺七才不足、ワタ不作ニ付根取ニ不ㇾ引合、此不足分引方ニ立、殘高ヘ定厘ヲ掛取箇ヲ仕出ス、引方立樣ハ前ニ記、畝引檢見同然也、右ノ通木綿出來形ニテ取箇仕出

一　高一石六斗　　木綿作

此上々田反別一反歩

石盛十六、根取免五ツ四分六毫一毛

當何年木綿出來劣檢見引

内

高八斗九升七合

此反別五畝十七步

此減米四斗八升六合四勺

反ニ根取米八斗七升三合八勺

殘高七斗九合三勺　　　　　毛附

此反別四畝十三步

此取米三斗八升七合四勺

毛附免五ツ四分六厘、靑キ毛刈取米八斗七升三合八勺也

前書ノ通ニテ取箇仕出致事也、然ルニ木綿ハ如何程惡キ木ニテモ、蟲サヘ入ザレバ桃六ツ七ツ、マタハ極ノ不出來ニテモ、二ツ三ツ位ハナル物也、然ル所前々ヨリ前書ノ通、モヽ數少ク仕出コト、取箇勘辨ヨリ盛出シ、合毛鈞アヒ前々ヨリ勘辨シテ、年ノ豐凶ニ應ジ、モヽノ數ヲ增減スルト見エタリ、又正味ワタ計一斤一匁ト云代銀モ餘リ安シ、是マタ右ノ心ト聞ユ、勿論木綿ハ稻作ト違ヒ、養多分入リ、其上手間モ掛リ、人夫モ多ク入事故、上々田稻作場取箇ニ准ズル見當タルベシ、木ワタ一反ニ何斤吹

ニスル勘定、一坪ニ凡木數六十本、モヽ數吹ニ應ジ幾ツト極メ、其内土玉苛腐ヲ引、正味モヽ數ノ割合、前々ヨリ極リ有レ之處、大旨左ノ通、是又正桃ノ數格別減ジタル割ト見エタリ

右之通故木綿作無難ニ取レバ、稻作リヨリ拔群作徳多キ物也、併肥養稻作ト違多分入リ、隨分省略シテモ、一反ニ金一兩ヨリ以上掛ル、若風雨水旱蟲損ノ災ニ逢ヘバ、元入多キ事故、又損失甚ダ多シ、夫レユエ古人ノ勘辨ト見エタリ

木綿一ツボ當リ合附如レ左

一　綿十斤吹

但一ツボ木數凡六十本、一本モヽ一ツ四分半、一ツボモヽ二十五

此當合籾一ツボニ一合一勺

木綿十斤吹ハ、正桃二十五ト積ル定法ニテ、當合仕出方一反ニワタ十斤吹、一ツボニモヽ廿五、三百ツボニ七千五百、モヽ一ツ綿正味三分フキ、綿目二貫二百五十目、平野目十斤二合三勺也、一斤代銀一匁宛ニテ、十匁二分三厘ノ内、三匁五分肥代引、殘六匁七分三釐、米一石銀四十目ガヘニテ、此米一斗六升八合三勺、五合摺ニシテ籾三斗三升六合六勺、一反三百ツボニ割、一合一勺當ニアタルニ付、十斤フキ當合一合一勺ト立ル、何斤フキニテモ此割ヲ以勘定スルコトナリ

一　同廿斤吹　　木數、此末何レモ同然、一本ニツキ一ツ半、一ツボモヽ五十

此籾三合二勺

但綿十キンニ付、籾一合一勺ヅヽ上リ候積

一　同三十キン吹　一本ニテ二ツ二分半　同七十五

此ノ籾三合三勺

一　同五十キン吹　一本ニテ二ツ半　同百二十五

籾五合五勺

一　同六十キン吹　一本ニテ二ツ八分　百五十

籾六合六勺

一　同八十キンフキ　一本ニテ三ツ三分三厘　二百

籾八合八勺

一　百キンフキ　一本ニツキ四ツ一分六厘　二百五十

籾一升一合

右ノ通勘定ヲ見當トシテ、モミ積リ取箇仕出也、村方下覔ハ反別一筆限、稲ノ内見帳ノ様ニ認、一反何十キンフキト積リ、一筆限ニ幾斤フキト記、寄立何千何百キント書出ス、夫ヲ此方ニテ右ノアタリヲ以、モミノ石數ニ積リ立、何千何百キン、コノ内見モミ何程トモミニ直シ、坪刈ノ上カリ出シモミヲ

懸ケ、トリ箇掛定附方ハ稲檢見同様也、私領ニテモ其年ノ綿直段米相場ハ、大坂年番御代官ヘ問合、檢見掛定致事也

一　蠟檢見之事

是ハ奥州會津郡ニ有レ之コトニテ、漆ノ實致二檢見一、蠟ノ儀ハ蠟・實蠟・穂山蠟・里蠟・步蠟ナド品々有レ之內、檢見ノ仕方ハ其年實法ヲ見立、木數等ニテ積リ立ルコトニヤ、コノ儀ハ一向外々ニ無レ之儀ニテ、書留等モ無レ之、仕法難二相知一、會津御預所役人等其筋ノ者ニ相尋、追テ書記ベシ

一　五公五民之事

檢見ノ法ニ五公五民ト云事ハ、其年ノ出來米ヲ公儀地頭ヘ半分、百姓作德半分取ヲイフ、籾ハ五合ズリノ積ニ付、有籾ヲ四ツニ割レバ、則取箇辻ニナル、縱バ籾十石アリ、五合ズリニシテ米五石、是ヲ半分二石五斗ハ公納、二石五斗ハ地主作德ニナル、往古ハ四公六民ニテ、四分年貢ニ納メ、六分作德ニ成タリ、元來租稅ノ儀中華理代ハ不レ及レ申、唐朝ニ至リテモ租稅輕ク、本朝ニテモ上古ハ稲束數ヲ以納メ、僅ニ十分一ニモ及バザル朝貢成リシガ、保元平治ノ兵亂以後、上古ノ法ハ廢絶シ、國ニ守護、庄園ニ地頭ヲ置レ、兵農分レテヨリ、諸國租稅ノ法大ニ變ジ、上田ハ六分地頭ヘ納メ、四分百姓取、中田ハ四分年貢、六分作德、下田ハ二分地頭ヘ納メ八分百姓作德トス、平均シテ地頭四分、百姓六分ヲ取、地頭四分ノ內、一分ハ朝家ノ租稅トシテ國用ヲ足スト古書ニモ見エタリ、其諸後國分裂シテ、朝家

ノ租税モシカトナラザル様ニ成テ、國々一様ニハ非ザレドモ、大概ハ似タルベシ、四公六民ト云事、此時代ノ詞ヲ云傳フナルベシ、又秀吉公ノ時代、諸國一統ニ成テノ法ハ、地頭三分一、百姓三分二トアレバ、是モ大體四分六分ヨリ少シ年貢弱シ、今ノ五公五民ノ法ハ何比ヨリ始リシニヤ、イヅレノ書物ニモ不ニ見當一、モシ享保年中色取檢見ニ成タル以後、初リタル儀ニモ有レ之ヤ、又天和貞享ノ比追々御政事モ改リタル由、其砌ヨリ五公五民ノ法發リタルカ、其始不レ詳トイヘドモ、當時ハ天下一統御料私領トモ、五公五民ノ取箇ノ定法ニナル、併上方筋兩毛作ノ分ハ、五分取ニテモ宜シケレドモ、關東ハ土地不レ宜、其上片毛作多ク、麥田無レ之處、五分取ニテハ、百姓甚困窮ニ及ブニ付、四分取ノ心得、五公五民ニテモ、檢見ノセツ右ノ心トリヲ以テ、勘辨有レ之ベキコト也

一　定免之事

定免ハ孟子ノ言ル夏ノ代ノ貢法也、夏ノ代ニハ洪水而已ニテ、耕作スベキ田地少シ、故ニ一夫ニ五十畝ヲ與テ、別ニ公田モナク、其内ヨリ五畝ノ入トテ、十分一ヲ税シタリ

　中華ノ五十畝ハ、今日本ノ反別一反三百歩ニシテ、凡六反畝歩程ニ當ルベシ

夏ノ末ニ至リ貢法ヲ用テ數歳ノ耕作豐凶ヲ平均シ税法ヲ定メ、豐凶ニ不レ拘納ム、日本ノ定免ノ如ク取シユヱ、豐年ニハ民モヨケレドモ、凶年ニハ及難キ儀、元來田地少キ故、配當モ少ク取モ强シ、殷ノ代ニ至テ漸田地モ廣ク成リ、人モ多クナリタルニ依テ、始テ井田ノ制法ヲ定メ、夏ノ代ノ貢法ハ廢リ、

大ニ租税ノ僅カニナリ、一夫七十畝宛八夫ニ與ヘ、中七十畝ヲ公田トシ、八家力ヲ合セ耕作ス、其内十四畝ハ八夫ノ廬舍ニ引殘リ、五十六畝ヲ公田也、此方ノ作物ヲ公納ニス、是ヲ殷ノ助法トス、周ニ至テハ畿甸遠近ヲ應リ、一夫百畝ヅヽ與ヘ、九百畝ヲ一井トシテ、周圍ノ百分ニツケテ、王畿近キ縣皮十六分ニ中國トシテ貢法ヲ用ヒ、一夫ニ百畝ヲ與ヘテ、其年ノ豐凶ヲ檢見シテ、百畝ノ内ヨリ十畝ヲ税トシム、是ハ土地ニ廣狹、運漕ニ遠近有キ故、年ニ由テ重ケレドモ、百畝ノ内ニ公田ヲ別ニ定免ス、然レドモ夏ノ代ノ租税定免ニテ出シタルヨリハ輕シ、又王城遠キ都鄙ハ八十四分ハ助法ヲ用ヒ、九百畝ノ内百畝ヲ公田トシ、其内八十畝ノ廬舍二十畝ヲ引殘、八十畝ヲ公田ニシ、私田トモ八家一緒ニ耕作シ、豐凶トモ無甲乙ニ分ル故、天下ニ困窮飢寒ノ者ナシ、コレヲ周ノ徹法トス、則助法也、徹ノ字義通均也、八家互ニ合力シテ耕作スル故通也、秋ニ至テハ百八十歩無甲乙ニ分ルユヘ均也、井田ノ法大意如斯ナレドモニ高底ニシテ當時不用ノコトナレバ、委ク述ルニ及バズ、今日本ノ定免ハ、夏ノ代ノ貢法ニモトヅキ始リタルト見エタリ

一　定免ノ儀ハ、享保年中御代官評議ノ上相伺、三分以上ノ損毛ハ破免、三分以下ハ百姓内損ニテ、破免於無之成定免通相納ル定法ニ相極リ、川缺山崩岸崩ニ損地有之節、本高村高十分一以下ノ荒地定免年季内ハ百姓内損、同年季ノ節ニ至テ起返シ、切カヘノ時反別帳面ト相改、引ケニ相立、十分一以上荒地ハ、年季内タリトモ新出來荒相改引之、畑方ハ二三毛ニ三毛ニ付、取納一毛ノ故、檢見ノ的當無

レ之、其上田方ヨリハ作徳多キモノ故、何程損毛致ストモ、畠方ハ引不相成、永定免ニ相極リ、尤五畿内中國筋木綿作計リ檢見ノ積、享保十八丑年仰出サレ、其以前モ定免有タレドモ、諸事相極リタルハ、右年以來ノ儀也、右ノトホリ畑方引不相立定法タレドモ、若皆畑村夏秋皆損等ニテ、年貢ハ勿論夫喰モ無之體ナレバ、引方立事アリ、皆畑村ニ無之トモ、夏秋諸作トモ皆ソンニナレバ、御代官伺ヒニ依テ引方ニモ成、又畠年貢永年賦等ニナリタル儀モ有之ナリ

一　檢見取村々新規定免願出タル時ハ、能々吟味ヲ遂ゲベシ、大百姓田地多ク持タル者ハ、定免ヲ好ム儀ニ付、村役人百姓代等願出ルトモ、小百姓ノ方得ト相糺ベシ、定免ニ成難キ村ヲ無勘辨ニ定免ニ申付レバ、田地少ク持タル百姓甚痛ムモノ也、其譯ハ村中平準シテ三分以上ノ損毛ニ不當バ、百姓内損トナリ、破免成難シ、田地少キ小百姓損毛多クトモ、一統ノ損毛ニアラザレバ破免ナク、其者内損有トテ、外百姓助力モセズ、一人ノ難儀トナリ、大ニ痛ムコト也、又田地多持タル者ハ、一ケ所ソンモシテモ、外ノ場處豐作モアル故、大百姓ハ差テ難儀ニモナラズ、小百姓並鰥寡孤獨ノ類ノスクフハ、檢見取ニアラザレバ難成由、有徳院樣御世地主ノ聖ト唱シ辻六郎左衛門・小宮山杢之進モ申置タリ、不功者ノ檢見ハ、其年ノ立毛ヲ見テ、取箇ヲ虚丈進ルヲ忠義手柄ノ樣ニ心得ルハ、大成僻事也、上下ノ損益能々心ヲ用ヒ、諸事勘辨ノ付ク樣ニ糺ベシ、定免取米極ルニハ、先ヅ五ケ年、十ケ年、二十ケ年、前年ノ取米ヲ夫々平均シ免相ヲ見、右三平均ニ成タケ免相不劣樣ニ可取極、年上二十ケ年ノ内

ニ格別ノ豊年等有レ之、前後ニ無レ之高免アリ、近年ハ段々出來劣リ、右高免打込タル平均ニ引合ザレバ、二十ケ年ニ免相極、格別下ルトモ致方ナシ、併五ケ年、十ケ年前年ニ劣ル様ニテハ、トテモ新規定免難レ濟、勘辨可レ有事也、年季ハ先ヅ爲レ試三ケ年季程ニ究ル方然ルベケレドモ、體ニヨリ五ケ年ニモ可レ究、最初ヨリ長年季ニハ不レ極、切替ノセツ五ケ年ニモ、七ケ年ニモ致ベシ、村方ヨリハ長年季相願トモ、七年位ヨリ長クハ不レ致、尤十ケ年季位ニハイタス事モアリ、勿論無ニ年季一永定免ハ、一統不レ成事ノ由也、且又切カヘノセツハ、先定免並右三平キンニ少々モ相増ス様ニ吟味スベシ、然シ定免中何ゾ子細有レ之、先定免通リニテハ、村方及ニ難儀一筋有レ之バ、先一兩年檢見取ニ致シ試ミ、其上ニテ定免ニ可ニ相極一、是トテモ模様ニ寄、先免ヨリ引下ゲテ、定免ニイタス儀ニモ有レ之、其村ニヨリ其セツノ様子吟味次第、公儀地頭始終ソン失モナク、村方不レ痛様、能々相考可ニ取極一、勿論新規切替トモ請書申附、定免通リ急度上納仕、三分以下ノソン毛ハ破免不ニ相願一、荒地ノ儀百姓持高十分一ニ不レ當分、年季内ハ引カタ不ニ相立一趣、小前連印村役人奥判ニテ、請證文可ニ申附一コト

一　荒地並起返之事

荒地ノ儀右ニ如レ申定免村ナレバ、小前持高十分一以下ノアレ地ハ、年季内ハ引ケニ不ニ相立一、百姓内ソン也、切カヘノセツ迄不ニ起返一バ其時相改引ケニ相立、十分一以上ノアレ地ハ新出次第相改、年季內タリトモ引ケニ相立、檢地元村々ハ十分一內外ニ不レ拘、檢見序反別相改、其年ヨリ引ケニナル、ア

レ地有レ之段訴出レバ、小前帳差出サセ、場所建札イタシ、帳面ニ引合セ可二相改一、右改カタハ水帳カ、名前帳ニシテ突合セ、一筆限小前帳、字上中下ノ位付、持主名前印形爲レ致、尤一筆不レ殘アレ地ニ不二相成一、縱バ一反歩ノ内三畝四畝分、川缺カ山崩等ニ成リ、村カタニテ畝歩改、小前帳肩書ニ、元反別一反歩ノ内、三畝歩山崩トカ押堀トカ相記シ、總寄仕立、上田何程此分米何程、此取米何程ト、田畠トモ位限夫々ニ認差出サセ、小前帳ノ通坪々ニ附木カ竹ニ札ヲ書立サセ、反別竿ヲ入相改、譬バ村カタヨリ三畝歩ト書出シタル畝歩改、免二畝歩有レ之バ、野帳ニアラタメ二畝歩ト書記、川缺等向ニ境無レ之、驅込ノ反別難レ改分ハ、殘地ニ竿入相アラタムルナリ、又起返殘地トモ反別アラタムル儀ハ、其村々餘歩相不レ知シテハアラタメ難キニ付キ、古來檢地請タル砌ヨリ切廣ゲ、又ハ畔倒等無レ之、檢地ノ儘少モ形ノ不レ替田二三枚、試ニ竿入相アラタメ、餘歩ノ目樣ニイタシ、アレ地改之セツ、其トホリノ餘歩ヲ附、反別勘定可レ致、村カタ古檢カ新檢カ相糺、古檢ノ邑ガラハ六尺三寸竿、新檢ハ六尺一歩竿可二相用一也

一　起返場所アラタメカタモ右之通ニテ、最初アレ地アラタメ、引ケニ立タル時ノ小前ト、翌年ニテモ翌々年ニテモ、起カヘリタル時ノ小前帳突合セ、地所引合可二相糺一、尤起返リノ儀其年ヨリ本免ニハ致ガタク、作物ノ樣子、並起カヘシ手間等ヲ考、地所ニ寄五ツノ本免ナラバ、三ツニテモ二ツニテモ免下ゲ可レ致、又ハ芝地起カヘシ等ニ成ル場處ハ、五分七分ニモイタス、一兩年モ相立、地所ノ樣子再改

イタシ本免ニ直スベシ、アレ地アラタメノセツ、年季起カヘシ等相願候ハ、吟味ノ上年季ニモ申附ル、其セツハ泥砂入ノ厚薄地所ヲ掘セ寸尺ヲ當テ、扱砂石ノ取除場、遠近人夫手間相考、場所ニ應ジ三年トカ五年トカ、鍬下差ユルス事モアリ

一　改方ハ本法ナレドモ、アレ地起返トモ、檢地或ハ論處地改等ト違、當分ノコトニ付、右體巨細ニ地押同然ニアラタメ候テハ、檢見序抔ノ改ニハ不ニ相成一、改方ハ悉作略有レ之儀也、小前帳建札等紛敷儀無レ之樣嚴ク申付、場所引合見分イタシ、小前帳反別ト地所ノ廣狹見積ニテ、縱バ三畝歩ノアレ地ト小前帳ニ有レ之處見分イタシ、二畝歩トモ見請タラバ、村役人ト押合アラタメ、何畝歩ト野帳ニ記、又ハ起カヘシ場モ、右同樣ニ畝歩ノ起カヘリト書出シタル所、三畝歩モ可レ有レ之ト相ミエバ、是マタ押合畝歩相きハメル、然レドモ若不埒ノ仕方イタス邑カタモ有レ之、利害等及ニ難儀一事モ有レ之バ、縱ヘ手間取トモ本法ニ竿入、前書之通可ニ相改一事

一　田畑取箇檢取反取之事附免之發

關東方ハ年貢取カタ、田ハ米取、畑ハ永ドリ定法ニテ反ドリ也、譬バ上田一反歩ニ付取米七斗、中田六斗、下田五斗、下々田四斗抔ト、大概此當リニテ、村所ニ寄リ反ドリノ高下アリ、畑ハ上田一反永二百五十文、中二百三十文、下二百文ナド凡二十文下リ、位二百五十文ノ上畠ハ、隨分土地宜ク畑方也、野カタ土地悪キ邑カタハ、上ニテ永ハ十文百文位ノ所モアリ、屋敷ハ大方上畑並ノ物ナレドモ、

ムラニ寄上畠ヨリ一段高ク、上畑二百五十文ナレバ、屋敷ハ二百七八十文位ノ所モ有レ之、關東ニテモ私領方ニハ、前々ヨリ畑米取之場所モ稀ニハ有レ之、奥州白川郡邊ハ關東並畑永トリ、伊達・信夫・宇多・石川・田村・岩瀬郡邊ハ田畠米取ニテ、半石半永トテ、取米ノ半分安石代ニテ永納、半分ハ米納アレバ、大國ニ付郡々ニテ色々ノ違アリ、關東ニテモ私領ニハ前々仕來リニテ、釐ドリノ場所モ有レ之、釐ドリト云ハ、高ニ幾ツ何厘何毛ト免ヲ高ヘ掛、取箇附ルヲ厘ドリト云、上方筋ハ都テ田畑米取ニテ厘取ノ定法也、縦バ上田ノ石盛十五ニテ、一反ノ高一石五斗、免五ツニシテ取米七斗五升、中田石盛十三取米六斗五升、下田十一トリ米五斗五升抔ト、凡石盛二ツ下リ位ノ者也、併村々ニテ石盛取米トモ悉ク高下アリ、是又私領ハ上方ニモ反ドリノ村稀ニハ有レ之、永ト申ハ、御料ハ勿論私領ニモ、上方ニハ決シテ無レ之事也、上方ハ厘ドリ、關東ハ反取ト分レタル發リハ、往古貫高永高ヨリ石ダカニ成シ始ハ、石ダカト云フハ、元來籾百石ヲトル、二百石トルハ、籾二百石ト年貢ダカヲ直ニ籾ニテ納ルニツキ無造作成所、米納ニナツテ以後、摺ラセテトル故、年ノ豐凶籾性ニヨリ、是ヲスリ多少アリテ、籾ダカハ不レ替ト雖、スリ立テハ取米ノ員數違ヒアルニ寄リ、イツカ反取厘ドリト云事ハジマリタリ、石高ノ最初籾納ノ時分ハ、厘ヅキトイフコトナシ、然ルニ上方筋ハ元貫ダカヨリ石ダカニ移タル引ツケ厘取トナル、關東ニテハ永ダカニ成、反別ヲ用ヒ來ルニツキ反ダカトナル、是遺法今厘ドリ反取ト分ルニ依テ、關東ニテハ反別ヲ主トシ、小百姓抔ハ自分所持ノ高ヲ不レ知、反別計知リタルモノアリ、上方ハ高ヲ第一

トスル故、反別ハ不レ知百姓モ有レ之也

一　卷付ヲ免ト云事ハ、元來一反ノ石盛丈ケ可レ取モノナレドモ、左樣ニ取テハ百姓作徳少ク難ニ立行一ニ付、定リタル石盛當リヨリユルシテトルト云心ニテ免ト云、譬バ十五ノ石盛五ツノ厘ニテモ、七斗五升可レ取所二斗モ免シ、五斗五升取ニ致スニ付免ト云、當リ通七斗五升トレバ、免ト云ニ不レ及厘ナレドモ、當時ニテハ右ノ無ニ差別一厘トモ免トモ同樣ニ唱ヘ來タリ、厘附トイフ故、幾ツ何分何厘迄ニ可レ致法ナレドモ、大高ノ村方厘限ニテハ、取米多少過分ニ有レ之、郡限國限ノ寄附ニテハ、多分ノ過不足ニ成故毛迄ツケル、毛ヨリ末ハ五ト出レバ、五入ニテ一毛ニイタシ、縱令バ一毛五才ト出ル時ハ二毛內ト記シス、一毛四ナド出タル時ハ、捨テ一毛餘ト記シ、コレヲ四捨五入トイフテ、不盡ハ石附ケ毛ヨリ末ハ、高百石ニ取米合ノ當リニ成、五入ニイタシテ、高百石ニ米五合增、四捨ニシテ四合捨リ僅ノ儀ニツキ、毛限ニテ餘內ヲ記シ申事也

一　根取反取之事

根取ノ元ハ直ニ村高ノコトニシテ、石ダカノ始ニハ此名目ナシ、籾納止テ米納ニ成テ、籾ダカハ石ダカニ變ジ村ダカト成、取箇ハ籾ヲ摺立米納ニイタス故、籾ノ善惡ニ隨ヒ米ノ多少アリ、夫ヨリ厘附モハジマリ。取箇ノ目當ニセシヨリ、根取ノ名目始リシ也、今ノ根取トスルハ、田畠トモ檢地石盛極リタル時、一反ニトリ米何程ト極ルヲ根トリト云、縱バ上田石盛十五、是ヲ五ツ取ニテトリ米七斗五升

ノ極メ、中下下々トモ石盛二斗劣リニシテ、取米定メ置ヲ根トリト云、關東ハ上中下ヲ分ケ、反取キハマリ有レ之、畝引檢見ノ節ハ、損毛ハ畝ニテ引、根取米ハ動サズ、位限リ反當リノ根トリ米掛ケシカドモ、今色取ニ成テハ、根取ハ不用タリト雖、根取米村々ニ定リ有レ之、上方ハ釐取ニテ、今反當リノ根取ハ無レドモ、元來檢地イタシタル時ハ、先ヅ反別ヲキハメ石盛ヲ付、一反ノ取米何程ト、反取ニテ最初ハ極メ、夫ヲタカニ割厘ドリニナル、仍テ厘取ノ場所ニテハ、幾ツノ何分何厘何毛ノ免、則根取也、然ル處右ニ如レ申、享保以來色檢見ニ成、根取ハ入用ニナク潰タレドモ、元來根取ノナキ村トテハ無レ之處、一向居村ノ根取ヲ不レ知村役人共多シ、定免邑ニテハ縱三ツ五分ノ定免トキハムレバ、則三ツ五分ガ根取免也、根取ヲ計代ト唱ル所モアリ、又反取ト云ハ、檢見ニテ取米多少ニ隨ヒ、一反ノ當リヲ反取トイフ、根取ハ上中下ノ位ニ應ジ、古來ヨリキハマリ有レ之取米辻ヲ根取ト云、反ドリハ當座ノ反當ヲ申事ニテ譯違タル所、根取反取同樣心得タル者モアリ、間違ノ事也

一　虚厘實厘之事

上方ハ田畑米取ニテ、取米ヲ直ニ致二厘割一故實也、關東ハ田ハ米取ニ付實米ナレドモ、畑ハ永取故永一貫文二石五斗代ノ米ニ直シ、田ノ取米ヘ加レ之免割スルニ付虚厘也、都テ其年ノ厘ツキニ用ルハ、二石五斗代ニテ米ニ直ス定法ナレドモ、中古ト違ヒ穀ノ相場高直ニ成、ナニホド豐年タリトモ、金壹兩ニ二石五斗ノ直段ハ無レ之事ニ付、知行渡等ノ見合ニ致、取米五ケ年平均ニ用ル石代ハ、一石二斗五升代

ニ直シ致ス、厘附當時ノ相場ニ近キ方ニ付、一石二斗五升代ヲ實厘トシ、二石五斗代ヲ虛釐トス、然ルニ地方算法全書ニハ、二石五斗代ヲ實釐、一石二斗五升代ヲ虛厘タリト有レ之、是ハ二石五斗價ハ其年ノ厘ニ用ル故、實厘トシタルモノナレドモ、當時相場ニ近キ方實厘トシテ可ナルベシ、既ニ知行渡ノセツ見合ニナル厘ハ、一石二斗五升價ノ厘ヲ用ユレバ實厘タルコト顯然タリ、先吏小宮山氏モ當時ノ相場ニ近キ方實厘也ト、田圃類說ニモ書置レタリ

地方凡例錄卷三終

地方凡例錄卷四

目錄

一屋敷內新開建之事　一新地建立引寺之事
一地境川瀨南寄之事　一古今租稅之事
一夏成金發之事　一三分一銀納十分一大豆銀納之事　附　上方ハ從ニ關東ニ一割增
一諸國石代直段之事　附　貫代　甲州雜穀直段　石代御定書
一關東二石五斗代一石二斗五升發之事
一相場書之事　一種代之事
一甲州大切小切之事　一諸國俵入之事
一四ッ物成三ッ五分物成之事　一本石計立之事

地方凡例錄卷四

一　寄附地之事

百姓ヨリ寺社ヘ田地ヲ寄進致スハ、直ニ寄進地トカ、讓田地又ハ買附地トカ可レ唱、町人百姓ヨリ寄附ト云名目ハ、前々ヨリ御停止也、年貢諸役モ村方百姓並ニ勤レバ、志アル百姓寺社ヘ田地ヲ付ル儀ハ不レ苦、然共村役等不レ勤樣ニ致スハ、制禁ノ旨先年相極タル處、寶暦十二午年以來、都テ寄附地ハ不ニ相成ー段被ニ仰出ー、當時ハ寺社寄進等御停止也

一　御用地ニ上ル田畠之事

田畠御用地ニ上ル時、私領ナレバ地頭ヘハ代地被レ下共、御料私領トモ百姓ヘハ代地不レ被レ下舊例ナリトイヘドモ、然シ上リタル場所計所持ノ百姓ハ勿論、田畠少分持タル内御用地ニ被ニ召上ーテハ田畠ニ離レ、地主悉及ニ難儀ー故、土地相應ノ地金被レ下カ、御用地ノ品ニヨリ、代金國役割ニモ入レワタシ、或ハ用水川除ノ爲ニ潰レタル地所ハ、水下村々高割ニテ爲ニ差出ー度由、享保十九寅年、御代官辻六郎左衞門相伺、自今以後窺之趣ニテ、地主ヘハ地金トラスル樣ニ成タリ、右地代金積リ方、縱バ田一反歩潰レ、此取米五斗ナラバ、年貢又ハ高内引ニ成、年貢諸役トモ勤ザレドモ、五分取ト見テ、作德米五

斗宛年々地主損失ニナル故、十ヶ年分ノ作徳五石下サレ、此米ヲ一割ノ利付ニ貸シ付レバ、利米一ヶ年五斗宛永々取レ、作徳米損失ニ不レ成積リ、依テ田畠トモ其所ノ年貢辻ヲ以テ、右ノ割合ニテ可ニ相渡ニ通法也、尤右ノ通下サレ定法ト云ニハ非ズ、大數此當リヲ以下サル也、又ハ其村田畠質入直段ニ少少相増下サル儀モアリ、町屋敷ハ沽券證文ノ金高下サレ、國役割高割等ニテ差出ストモ、凡右ノ當ヲ以取締ル、若最寄ニ空地有レ之、新開ニモ可レ成地所有レ之バ地代相渡シ、鍬下年季ヲ以致ニ開發ニ儀モアリ、尤御用地ノ地代ニ付、願ニテノ新開ヨリ年季ヲ長ク可ニ取極ニ事ナリ

一　闕所田地　取上田地　上リ田地　潰百姓上ゲ田地之コト

缺所ノ田地ト云ハ、重罪ノ者ノ田畠家屋敷家財等迄一式、缺所ニ成、又ハ田地計缺所ニナル分ニテモ、入札ヲ以相拂、代金ハ公儀地頭へ相納ム

一　取上田地ト云ハ、田畠ノ儀ニツキ何ゾ謀計有レ之カ、公事出入等ノ品ニヨリテ、双方不埒ニテ何レトモ不ニ相分ニ地所、其田畠計取上ゲニナル、又ハ不埒ノ質地等、或ハ科ノ品ニヨリ、缺所ニハ無レ之田地取上ニナル儀何程モ有、是ヲ取上ゲ地ト云、是亦入札ヲ以テ相拂、價金公儀地頭へ相納ム、尤其時ノ樣子ニヨリ入札、質入無レ之村引請等ニ申ツケ、格別直段下直ニモ當レバ拂ニ不レ致總作ニ申ツケルコトモ有レ之ナリ

一　上リ田地ト云ハ、缺落逐電ノ百姓田地、古來ハ科有無ニ不レ拘都テ取上ニ致シ、村惣作ニナル法成

シニ、近年來ハ借金等相嵩ミ身上續キ難、無ニ是非ニ故致ニ缺落ニ、科ナケレバ田畠トリ上ニ不ニ相成ニ、子孫ノ者致ニ相續ニ、若獨身者カ、或ハ妻子引連出奔イタシ、跡株相續人無レ之節ハ、親類ノ内身近者引請、年貢諸役相勤、親類無レ之者ハ緣者好身ノ者、吟味ノ上引請サスルト雖、好身ノ者モナク、跡株引受人ナケレバ、無レ據上リ田地ニ致シ、年貢未進有レ之分ハ、田地入札ヲ以未進丈相拂、年貢償殘ノ田畠村總作ニ付オキ、後年ニ至本人立歸タル時、科無レ之者ニツキトラスル爲ニハ不レ致法也、乍レ去數十年相立總作村方及ニ難儀ニ於ニ願出ニハ、其節入札ヲ以相拂儀モ有レ之ナリ

一　年貢未進等有レ之、亦ハ連々作倒ニナリ潰百姓出來、上ゲ田地ニ相願、無レ據上リタル分、是又總作ニ申ツケ、亦ハ小作ニモ爲レ致、連々ト未進分トリ立相濟分ハ、元地主ヘ田地トラスル、然ドモ元地主方離散致シ百姓カブ無レ之、上リ切ニナリタル分ハ、入札申ツケ拂ニイタシ、地主相定メ、元地主ノ未進分ハ當地主ヨリ相納ル筈ナレドモ、夫ニテハ當年貢トモ二重ニ差出ス樣ナル物ニテ、望人モ無レ之故、先總作カ小作ニ申ツケ、未進分トリ立濟タル後入札申ツケル、亦ハ品ニヨリ其村水呑ニ人品吟味ノ上割トラスル儀モアリ、右總作地ノ分何レモ村並年貢諸役相勤、作德ノ内種肥シ代相渡シ、其餘分公儀地頭ヘ相納、作手間ハ村役ニイタス定法也

一　缺處トリアゲ田地上リ田畠共拂ニナル時、質物ニ入置タル分入札申ツケ、質金高ヨリ入札直段高直ナレバ、質地トリ主ヘ相返シ、田地ハ落札人ヘ相渡、殘金公儀地頭ヘ請トル、若札披之上質金高

コリ下直ナレバ、年季ノ無二差別一流地ニイタシ、質取主ヘ田地相渡ス定法也、尤質地證文定法ニ外レ、不埒證文ナレバ、質金ハ取主損失ニシテ、田地取上ルニ至テ不埒ナレバ、吟味ノ上取上ゲ、咎メ申ツクルモノ也

一　缺所田地トリ上田地ハ、作徳米トリ立ル定法ナリ、其年ノ收納相濟、年貢ハ皆濟イタシタル上、缺所トリ上ニナレバ、作徳ノ分勘定イタシ納サスレドモ、缺所ニ成身上限リトリ上ルコトニ付、手作ノ分ハ別段ニ作徳米可二相立一處無レ之、小作ニ入置タル分、小作人ヨリ年貢之外、餘米地主ヘ可二差出一分未ダ相渡サズニ於ハ、公儀地頭ヘ小作人ヨリトリ立ラル、缺處ニ無レ之科ノ品ニ寄、田畠許トリ上ニナル、家屋敷家財トモ無レ構、百姓カブ相立罷在候者ハ、手作分徳米モ爲二相納一候、然處右作徳米ノ分心得違、年貢同樣本石ニタテ、トリ立ル儀有レ之、年貢ハ本石ニ附、計立ヲ以可二取立一儀ナレドモ、百姓相對之米取遣リハ本石ト云儀ナク、都テ計立ニ附、別段計立可レ加樣無レ之、譬バ小作米ニテモ三斗七升入五俵ト極メ置ケバ、則三斗五升ヲ計立ニイタシ三斗七升ニ成、右ノ五俵ニハ計立加リ有レ之、賣米等ニテモ同樣、百姓相對ノトリ遣リハ、都テ計立ニツキ、作徳ニ別段出目ハ不二差加一法也、扨又右缺所トリ上ノ時節收納前ニテ、田地作物有レ之バ、作物トモニ取上ルニツキ、直ニ作徳モ加リ居ル事也、耕手入最中ノ時分取上ニ成時ハ、總作並村人足ニテ手入修理差加、實法ノ上收納申附ル、上リ田地ハ無レ之者、無レ據上ゲタル田地ニツキ、其年ノ作徳ハ不レ及二沙汰一事也

一　讓田之事

父兄ヨリ讓リ請タル田地、其家相續ノ子孫ノ外ヘ讓請ケタル分ハ、子弟ト雖ドモ相互ニ讓渡證文、村役人加印ニテ可ニ取置一、其外親類等由緒有テ讓渡ス時、禮金トリ讓ル儀御停止也、表向ハ讓田地ノ文言ニテ、內々金銀トリタルハ、永代賣同然ノ御仕置ニ相成定法也、親類緣者ニモ無レ之者ヘ、田畠可ニ讓渡一謂無レ之ニ付、若無緣ノ者讓地等有レ之、證文面禮金等ノ文言無レ之由及ニ出入一、吟味ニ成時ハ可ニ讓渡一子細能々可ニ相糺一、他人ヘ無ニ由緒一田地ユヅルベキ筋無レ之、尤家來筋ノ者ヘ呉ル儀ハ格別也、何レモユヅリ地、或ハ質流地、又ハ山林町家敷等買請タル時ハ、早速名主五人組ヘ斷、當時ノ持主ニ名前帳書改可レ申、若名前書改無レ之分出入等ニ成レバ、取上地ニ致ス定法ナリ

一　田地配分、幷遺狀之事

高ハ十石、反別ハ一町歩ヨリ內所持ノ百姓、子弟ヘ分地ヲ仕儀前々ヨリ御停止ニ付、殘置候分ト配分田畠トモ二十石二町歩所持ノ者ナラデハ、分地難レ成故、內證ニテ色々ノ致ニ手段一、密々配分イタス儀有レ之、猥相成、却テ不締ニ付、以來殘リ高十石反ハ一町歩有レ之ハ、分ケ遣分小高ニテ分配仕可レ然旨、享保七寅年御勘定奉行伺ノ上、書面ノ通相定メタリ

田畠屋敷山林共外ユヅリ渡ノ儀、存生ノ內遺狀ニ記置トモ、名主組頭加印無レ之、一分ノ心次第ニ認置シ遺狀ハ、死後ニ至リ立難シ、最一類加印有レ之分、其品ニ寄役人印形無レ之トモ相立事モアリ

一　越石之事

越石ト云ハ、知行ヲ割渡ス時、小分ノ高致ニ不足ニ、十石内外ノ儀ニ付分郷ニイタシ、地所百姓引分渡ス事難レ成ニ付、地所モ百姓モ不レ極、物成ト高計リ遣スヲ越石ト申ナリ、縱バ誰知行二百石相渡候所、百九十五石ノ村相渡シ、五石不足ノ分小高故、田畠百姓ヲワケ分郷ニハ難レ成ニ付キ、隣村御料ニテモ、又ハ私領ニテモ、三百石ノ村有レ之、此内五石誰知行ヘ越石ト、三百石ノ村ヨリ物成分計渡ス、依テ越石ヘハ諸懸リ物人足役等モ不ニ相掛一定法也、越石ハ知行ノ内ナガラ、地頭ヨリ取箇附ル儀モ難レ成、高役割合モ不ニ相成一、年貢モ越石ムラ並ノ取箇ニテ相納ル事也、夫レ故十石以上ノ越石十年ハ無レ之、最早廿石三十石ニモナレバ越石モイタサズ、高地所百姓共引分ケ致ニ分郷一、然處他村ヨリ入百姓ヲ心得違越石百姓ト唱ル事有レ之、是ハ不案内ノ儀ニテ、越石入作出作ハ悉譯違タル儀也、近來ハ越石ニ不レ成樣、知行割ニテ村方割ワタシニ付、先ハ越石ハ稀ナル事也、或ハ下村ノ芝地ヲ上邑ノ百姓新開致シ、兩邑共同ジ地頭故、役人心得違ニテ、地主ノ住所上邑ノタカニ結ブヲ、下ムラヨリハ越石高トイフ

一　出作入作持添之事

出作ト云ハ、當村ノ百姓他村ノ田地ヲ持、他村ヘ出デ耕作イタスヲ出作ト云ヒ、他郷ニテハ入作ト唱ル、畢竟出作モ入作モ同事ナレドモ、双方ノムラニテ唱違、百姓住居ノムラヨリハ出作ト申、田地ノ地元ムラニテハ外村ヨリ來リ作ルニ付入作ト唱フ、同ジ文字ニテモ入作ト云ハ又違フ、小作ノコトヲ

入作トモ、請作・下作・卸作・掟作抔トモ唱フ、何レモ小作ノ儀ナレドモ、國所ニ寄唱樣違迄也
一　持添ト云ハ、譬バ高百石ノ村ニテ五十石宛二給ヘ分ル時、三十石宛持タル百姓二人ヲワケ遣ハセバ、六十石ニナル故、十石ノ餘計有ㇾ之ニ付、內一人ハ他領ノ高十石持ヲ持添ト云、尤持高ノ多少ニヨラズ、其百姓トカ其身極リ有ㇾ之バ、高少キ方ニテモ其領內ノ百姓ニ付、他領ノ高多ク持テモ、他領ノ方持添也、右名目ノ外ニ抱田地、抱屋敷抔ノ名目アリ、其村ノ百姓ニアラズシテ、他ヨリ其村ノ田地屋敷ヲ所持スルヲ云、右出作百姓ヘモ、其年ノ年貢割付、幷諸役割帳等、本村百姓同樣ニ見屆サスベシ、村役人心得チガヒ、出作百姓ヘハ諸帳面モ不ㇾ爲ㇾ見、諸役等本邑並ヨリ多ク掛ル儀モマヽ有ㇾ之由ニツキ、急度帳面爲ㇾ見可ㇾ申事

一　質田地之事　附　小拾帖　貸金賣掛

田地ハ百姓永代ノ家督タリト雖、貧富常ナラズ、不ㇾ得ㇾ止事ニ質ニ入レ其用ヲ足ノ所ニ、動モスレバ地主金主出入ニ及ビ、喧キコト多シ、質地ノ品モ多ク出入ノ取捌甚繁多ナレバ、其アラ增ヲシルス、先ヅ質田畠價ノ儀、其村前々ヨリノ通法有ㇾ之、場所替・最寄替・知行渡等ニテ鄕村請取時、村々ヨリ田畠上中下ヲワケ、質入定直段帖面ニ仕立、役所ヘ差出サスルコト也、尤村々ノ貧福ニ隨ヒ、田地ノ勢不勢モカハルコトユヱ、古今質直段一定ナラズ、古來定リタル直段ヨリ當時ハ高下アリ、畢竟居村他邑トモ金主ノ存寄ニテ貸遣儀故、定直段ヲ以テ取ヤリ致儀ニモ無ㇾ之、時宜ニ隨ヒ置主金主相對ニテ極ル

コト也、併其村々ニ古來ヨリ定置直段ヲ以通法ニ立オキ、夫々見合高下ヲ論ジ、若又何ゾ請負願等有レ之、公儀地頭ヘ質田畠書上置ニハ、右定直段ヲ以積立金高ニ應ジ、反別書出ス事也

一　質地證文通法ハ、端書ニ質地證文ト書キ、字何之上中下田地何反何畝何歩何ヶ所、當何ノ年ヨリ來ル何ノ年迄、何ヶ年季ニ相定質地ニ入、金子幾許致二借用一候間、年貢諸役金主方ニテ相勤、年季明ケ元金致二返濟一候バ、田畠可二請戻一究ニテ、年號ヲ相認證人相立、名主加判致、宛所證文差出、金子借受ル、若反別多證文ニ一筆限難レ認ケレバ、證文面ハ合反別何町幾歩トイタシ、別帳ニ水帳カ名前帖通、一筆限字位反別相書、是又置主持主印形ニテ、證文ニソヘ差出、是ヲ小拾帖ト云、勿論證文ニ別紙小拾帳添候段認メル、右ノ外年季ニ不レ限、金子有合次第可二請戻一之證文モアリ、又年季アキ不二請戻一候ハヾ、可レ致二流地一旨之證文モ有レ之也

一　年季内質地請返度願之事

是ハ證文定ノ年季不レ明内受返度由、金主ヘ掛合ト雖不承知ニツキ、地主訴出ルニ於ハ、年季內可二受戻一法ハ無レ之ニツキ、年季明可二受戻一由申附ル

一　年季明質地取捌之事

是ハ十ヶ年ヨリ十五ヶ年迄ノ年季ニ相究タル分、年季明ヨリ十ヶ年迄ノ内ニ受返度段訴出ルハ、吟味ノ上地面爲二相返一、又十ヶ年內ノ年季ナレバ、年季ノ長短ニ應ジ、明タル年ヨリ二ヶ年五ヶ年迄ノ內訴出

ルハ及ニ沙汰一、右年限過訴出タル儀ハ何レモ無ニ取上一、流地タルベシ

一　年季無レ限金子有次第可ニ請返一證文之事

是ハ質入ノ年ヨリ十ケ年ノ間ニ請返度段於ニ訴出一ハ、ウケモドサセ、十ケ年過訴出タル分ハ、流地ニ申付ル

一　年限過不ニ請戻一候者、直ニ流地可レ致證文、幷年明候ハヾ子々孫々迄無レ構、金主可レ致ニ進退一、或ハ此證文ヲ以永ク支配可レ被レ致、又ハ名田ニ可レ致抔文言ノ事

是ハ年明ケ期月ヨリ二ケ月迄之内申出ニ於ハ、吟味ノ上爲ニ請返一、二ケ月過申出タル分ハ無ニ取上一、

字位無レ之、或ハ名主無ニ加印一、又ハ宛所無レ之、年號等無レ之分ハ、御定之外長年季證文之事

是ハ何レモ不レ埒證文ニ付、申出ル共無ニ取上一、質物ニ入ル儀名主乍レ存加印於レ無レ之ハ、名主ハ過料、於レ不レ存ハ不レ及レ咎、名主所持ノ田畠質入イタスハ相名主加印、同役無レ之ハ組頭可レ致ニ加印一、無レ之分ハ右同斷タリ

一　二重質之事

是ハ同所ヲ兩人ヘ質ニ入ル事制禁也、其品ニ寄リ地主トガメ申付、地所ハ先ニシチニトリタル者ヘ相渡ス

一　又質之事

右ハ質ニトリタル田地ヲ、取主ヨリマタ外ヘ質ニ置ヲ云、コレマタ制禁也、然レドモ元來地主承知ニテ加印於レ有レ之ハ、元地主ヘ濟方申附ル、マタ質地ノ節增金借ウケ候ハ、其分ハマタ地質置タル者ヘ濟方申ツケル

一 質地之年貢計金主差出、諸役ハ地主勤ル證文之事

是ハ通例之金高ヨリ餘計借ウケ、其代ニ地主ニテ諸役相勤不埒證文ニ付、年季內ナラバ定法通ノ證文ニ仕直サセ、雙方并加判名主共過料申付ル、年明申出ル時、二ヶ月內ナラバ地面請戾サセ、二ヶ月過ナレバ流地ニ申附、勿論双方掛合共過料申ツクル

一 質入ノ地面、半分直小作致シ、質地ノ高不レ殘年貢諸役トモ、地主勤ル證文之事

前ニ同ジ

一 證文端書ニハ質入ト認、文言之內可二請戾一儀モ年季等モ無レ之不埒證文之事

是ハ實ハ永代賣ナレドモ、御停止ノ儀ニ付、證文計質地ノ樣ニ紛ラカシ書タル儀ト相聞エ、不埒證文ニ付、吟味ノ上双方トモ永々賣同樣ノ科申附ル

一 質地受戾候樣吟味ノ上、濟方申付ル以後、元金滯候段金主訴出タル時ノ事

コレハ猶又吟味之上濟方申付、其上ニテモ於レ滯ハ、地面金主ヘ相渡サセ候事

御定之事

コレハ前々ハ年季ノ限リ無レ之、十五ヶ年ニテモ、二十ヶ年ニテモ、双方對談ニテ極タル所、享保六丑年以來ハ、年季十一ヶ年ニカギリ、夫ヨリ內ノ年季ハ勝手次第、十ヶ年以上ノ長年季御停止ニ相成、十ヶ年以上ノ年季證文差出訴出ルトモ無ニ取上一、尤其品ニ寄致ニ吟味一咎申ツケル

一　地主死後質地請返之事

是ハ地主死後質地受返ノ儀、地主ノ子歟孫ニ無レ之、外ノ親類受返シ度段願出ルトモ不レ爲ニ受戾一、吟味之品ニ寄流地ニ申付ル

一　質地證文水帳ニ不レ合節之事

是ハシチ證文字位反別等、水帖名寄帖等ニ引合セ相違致セバ、證文文言ハ宜敷共、質地ニハ不ニ相立一、借金ニ准ジ取計フ、尤致ニ加判一タル村役人過料モフシツケル

一　質地年季內致ニ內濟一、年季明ケ殘金滯タル節之事

是ハ地主金主對談ノ品ニ寄、年季內致ニ內濟一受返積、譬バ元金十兩ノ所、年季內五兩相濟殘金五兩年季明テモ不ニ相濟一旨、金方訴出ルニ於ハ、內濟ノ五兩ハ金方ヨリ地主ヘ相カヘシ、地面ハ流地ニ申附ル

一　御朱印地寺社田畠屋敷等質入、又ハ讓渡候時ノ事

是ハ御朱印地寺社領ノ田畠屋敷ヲ、其寺ノ住持其宮ノ神主致ニ質入一カ、又ハ禮金ヲトリ讓渡シタルト

キ、住持社人江戸十里四方追放、質ニトリ讓ツケタル者ハ地面相カヘサセ、重キ過料申附ル

一　質地置主身代潰レ、及ニ出入一タル節之事

コレハ田畠質ニ入タルモノ身上潰レ、及ニ訴出トキ、年季内ハ金方ヘ爲レ作、年季明タル上右ノ田畠公儀地頭ヘトリ上ル、若不埒證文ナレバ直ニトリ上ル

一　質地並ニ貸金ノ儀ニツキ、元文三午年評定一坐云合ノ書付、左ノ通

元文三午年被ニ仰渡一之書附

質地・貸金・賣掛等之儀、一座申合書附

覺

一　質地證文ニ年季明キ不ニ請返一候バ可レ致ニ流地一由之文言有レ之分、年季明ケ早速訴出候共、流地ノ由申聞、受返之儀申シ附間敷候

但期月前ニ至、前廣ニ訴出候者トリ上ゲ可レ申候

一　右流地證文ニ直小作滯訴出候節ハ、地面金主ヘ流地ニ爲ニ相渡一、小作滯リハ棄捐可ニ申附一候

但別小作トヾカフリハ、如ニ通例一日限可ニ申附一候

一　質地證文ニ宛所又ハ名主加判等無レ之候テモ、享保十四酉年以來之分ハ借金ニ准ジ、元金小作共三十日カギリ申付候間、別小作滯モコレ又借金ニ應ジ、小作人ニ濟方可ニ申付一候

但高利ニ當リ候ハヽ、直小作別小作トモ一割半ノ利足ニ直シ、濟カタモフシ附ル

一　名田小作ハ無判ノ帖ニ記有レ之候テモ、只今迄濟方モフシツケ候ヘドモ、證文又ハ帖面ニ印形無レ之ハ、地主無念候間、向後取上間ジク候

一　帖面附置候借金印形無レ之候ハヽ、日寄附込帖ニ書入有レ之候トモ、トリ上申マジク事

一　附込帳ハ一日ノ内大勢幾日モ賣掛候分、賣場ノ順ニ附込候コト故、印形無レ之候テモトリ上裁許仕來候、一日ニ一人二人ノ賣口又ハ日數隔リ記候樣成ハヽ、日寄附込帖ト云ニテハ無レ之候間、取上申間敷候

一　旅商等之帖面、其村々宿マタハ口入人之印形計取直賣掛之分ハヽ、向後取上間敷候

一　質地借金賣掛等證文不埒ニテトリ上無顧、又ハ享保十四酉年以前ノ分トモ、近年ハ貸金ノ樣ニ申出、裏判附候類有レ之候、右ハ訴出候時證文帖面等爲ニ差出一相改、吟味可レ成分ハ初判可レ出レ之候、只今迄モ右ノ樣ニ候ヘドモ、相談ノ上彌々右ノ通相極候事

右一座申合候、以上

元文二年午二月二十五日

三　奉　行

一　小作之事　附　直小作　別小作　永小作　名田 小作　家守 小作　入小作

一　小作ト云ハ自分所持ノ田畠ヲ、居村他村タリトモ他ノ百姓ヘ預ケ爲レ作、又ハ田畠質ニ取、元地主ニテモ別人ニテモ爲レ致、小作年貢ノ外ニ餘米入上米抔ト云テ、一反ニ何程ト作徳ヲ究メ作ラスルヲ云、元來佃トカ云モノナレドモ、世俗小作ト唱來ル、古ノ詞ニ、佃御正作ト云コト、佃ハ地頭ノ田ヲ百姓請テ作ルヲイフ、御正作ハ地頭ノ手作也、往古兵農不レ分時ノコトト聞ユ、小作ノ儀下作・入作・請作・掟作・御作ト唱、國所ノ俚語ニテ種々云習ハスト雖、何レモ小作ノコト也、直小作。別小作・永小作・名田小作抔色々定メカタニ違有レ之、則夫々左ニ記ス、證文通法ハ、一筆限字何田畠、何反何畝歩、何ケ所預リ小サク致、御年貢諸役勤ル上、小サク入上米・餘米何程可二差出一、若滯候ハヾ何時成トモ地主取上候樣、其節一言之儀申間敷旨、地主ヘ小作人ヨリ證文ヲ差出、年季ヲ極メ作ルモアリ、又ハ一ケ年限ニ致スモ有レ之、或ハ年貢諸役共地主方ニテ勤候樣究、年貢諸役米餘米共一反何ホド、俵數餘計ニ地主ヘ納ルキハメモ有レ之、是ヲ定メ米ト云、掟米トモ云

一　直小作トイフハ、田畠ヲ質ニ入レ、地主直ニ致二小作一ヲイフ、小作證文年季ハ質地年季ニ應ズ、尤直小作ハ別ニ小作證文コレナキカ、質地本證文ニ致二小作一段書入有レ之バ、出入等ノセツ申譯相立ツコトナリ

一　別小作ト云ハ、田畠質ニトリ、地主ニ無レ構、金方ヨリ他ノ者ヘ爲レ致小作ヲ云、證文ハ年季ニテモ、一ケ年ニテモ、勝手次第ニイタス

一　永小作トイフハ、質地ノ小作ニハ無レ之、自分所持ノ田畠年季無レ之、數十年小作致サセルヲイフ、永小作ハ地主ニテ無レ謂地面トリ上、外ノ者ヘ爲レ作儀ハ成難シ、モシ小作米滯地主ヨリ訴出レバ、小作米ハ吟味之上、定法通リ濟方申付、小作ハ前々之通リイタサセル、然ドモ年貢不埒ノセツ有レ之カ、又ハナンゾ格別不埒ノ子細有レ之バ、地面トリ上地主ヘ相渡ス、小作定米證文等ハ別ニ替ル事ナシ、尤永小作ノ田地作人方ニテ質ニ入、又ハ人ヘ小作ニ渡ス事禁制也、當時ハ永小作ト云儀少ク、十ケ年ヨリ長年季ニハイタサヾルナリ

一　名田小作ト云ハ、質地ノ小作ニハナク、田畠多所持イタシ手作ニ餘リ、小百姓ヘ數年爲レ作置ヲ名田小作ト云、二十ケ年以上ニナレバ永小作ニ准ズ、若シ及ニ出入一タル時證文有レ之カ、地主帖面ニ印形取置ケバ及ニ沙汰一、證文モ無レ之、帖面ニ印形無レ之バ、地主不念ニ付無ニ取上一

一　家守小作ト云ハ、田畠反別多ク小作ニ入ル時、地主世話届キ兼、小作ノ世話人ヲ立、入レ附ノ世話ヲ爲レ致、小作地ノ內何反歩トカ極メ、家守給ニ爲レ作、年貢諸役ハ地主相勤ル、尤請人爲レ立、家守請狀取レ之、家守給ノ外致ニ小作一ハ、外並小作證文差出サセル、若小作滯及ニ出入一タル時、證文ニ請人加印有レ之、家守請狀通ノ小作證文ナレバ、當人受人兩人ニ濟方申シツケ、於レ滯ハ兩人共身上限申附ル

一　入小作トイフハ、他村ヨリ致ニ小作一ヲ入小作トイフ、別ニ小作ノ仕法ハ替ル事ナシ

一　永代賣之事

田畠ヲ永タイニ賣渡シテハ、百姓家督ニ離レ、有德成百姓ハ次第ニ田地多クナリ、小百姓ハ段々潰レ、後ハ一村ノ田地一兩人ニテ所持イタシ、又ハ他村ノ百姓ノモノトナルニツキ、大猷院樣御世寛永二十未年、自今永年賣買嚴敷制禁被二仰出一、若密ニ田畠ナガク賣渡者有レ之、於レ及二露顯一ハ賣主牢舍ノ上所拂、本人相果ルトキハ子同罪、證人過料、本人相果レバ子無レ構、名主ノ役儀取放シ御定法也、又質物證文ニ無年季、或ハ子々孫々迄可レ致二名田一、マタハ可二請返一文言ナキ質地、扨マタ可二讓渡一由緒モナキモノヘ田畑讓リ渡シテ禮金トリタル分、何レモ長年賣ニ准ジ、御仕置ニ成事ナリ

一　田地永代賣買之事

御入國以來御停止ノ樣申セ共、寛永以前ハ御制禁モ無リシ事ト見エタリ、尤田地ヲ賣テ百姓ヲヤメ、町人ニナル事ハ、東照宮御代ニモ禁ジ玉フトカヤ、又上古ハ口分田・永業田ト田地ニ二樣アリ、口分田ト云ハ、古令ニ男子二十歲ニシテ口分田ヲ給ヒ、六十一歲ニナレバ是ヲカヘス、口分田トイフハ、朝廷ヘ返ス物ユヱ、賣買スル事ナラズ、永業田トイフハ、長ク其家々ニ持傳ヘタル田地ナリ、是ハ我物ナレバ勝手次第ニ賣買スル、田宅・家財・奴婢賣買スルハ、和漢トモ古法也、貧ケレバ右ノ品々不レ賣シテ不レ叶事ナリ、然レドモ上古ノ法令ハ廢絶シタレバ、寛永以後ナガク賣買堅ク御停止ナレバ、古ヲ論ズルニ不レ及コトナレドモ、古法ノコトモ知リテ、今世ノ法ヲ守ル事可ナランカト、古例ヲシルシ置者也

一　倍金質地之事

田地長年賣御制禁ニ付、內々倍金質ト名ヅケ、譬バ十兩相當ノ田畠金方相談ノ上、シチ地證文ニハ金二十兩トモ、三十兩トモ直段ヲ上ゲ、一倍又ハ二增バイニモ認メ、手トリハ十兩トリノ田畠ヲ金方へ相渡シ、年季明ケテモ難ニ請返一樣ニ致シ、モシ出入等ニ成シ時、質地トミユル樣ニ、賣主買主相對ニテ、謀計ヲ以長年ウリ渡候儀內々有レ之ヨシ、是ハ買主ノ方ヨリ重々望ミ、倍金手形ニ候バ可ニ買取一旨申事ト見エタリ、是又長年賣同然嚴敷御制禁也、ヶ樣ノ證文、大方ハ名主組頭加印ハ不レ致儀故、訴出ルトモ無ニ取上一ニテ相濟コトナレドモ、其村々田畑質入直段相應モ有レ之モノニ付、不相應ノ金高ナラバ吟味ヲトゲ、彌御法度ノ倍金ニ决スレバ、出入濟方不レ及ニ沙汰一、双方トモ重キ過料申附ル、賣主買主トモ過料員數ハ例ニ不レ拘、身代ニ應ジ重ク申ツケル、若名ヌシ加判有レ之カ、證文印形等有レ之バ、證人名ヌシ過料申ツケル

但其國ニ寄譯合ヲ不レ存、右願ノ取ヤリアリ、既ニ奥州伊達・信夫郡邊ハ、多分倍金手形ニテ質地トリヤリ致ス儀、古來ヨリ仕來ノヤウニナリ、御定法通トリ計ヒテハ郡中ノ障ニ成リ、不ニ相治一ニ附、取計方其筋へ內々伺タル所、遠國片部御法モ存ザル國柄、若質地及ニ出入一タルトキハ致ニ差略一、倍金ノスガタニテモ倍金ト顯サズ、證文書方等外ニ不ニ行屆一儀有レ之バ、其考ヲ以地所不ニ引渡一ヤウ吟味詰、外ノ障ニ不レ成ヤウトリ計ヒ可レ然哉ノ由、挨拶有レ之候事

一　年季賣本物返之事

關東方ニテ年季賣ノ田地ヲ、上方筋ニテハ本物返ト云テ、ヤハリ質地ノヤウ成物ナレドモ、利足ノ勘定ニテ作徳ノ上リ等ヲ考ヘ、金ダカモ質地トハ違ヒ、金子ヲ貸年季ヲ定メ田地ヲ買トリ、作徳ヲ金ノ利足ニイタシ、無利足ニテカシ、田地ハ金方ヘ受トリ、手作ニテモ、又ハ小作ニイレルトモ、勝手次第ニイタシ、年季明タルトキ元銀相カヘシ、田地取戻ユヱ、本物返ト云、地主ヘ田地返事ニ付、年季賣ハ御法度ニ無レ之ナリ

一　頼納之事　附　半頼納

田畑質入ノ節、通例ノ質金ヨリ金高餘計ニ借請、其代リ田畑ハ銀主手作イタシ、年貢諸役ハ地主相勤候ヲ頼納ト云、銀主ハ作取ニ致事ユヱ、貞享四夘年ヨリ御停止ニ成、モシ出入及タル時ハ地主重キ過料、質ニ取タル者ハ地面取上ゲ、過料加判ノ名主役儀取放、證人叱リノ御定法トイフ也

一　半頼納ト云ハ、田畑質入ノセツ、銀ダカ少クカリウケ、地主致ニ直小作一、年貢ハ銀方ヨリヲサメ、諸役ハ地ヌシ相勤ルヲ半頼ヲサメト云、頼ヲサメ同然御制禁ナリ、若及ニ出入一タルセツハ地ヌシ咎、銀方幷加判ノ名主過料、年季内ナレバ定法通證文仕直サセ、年季明レバ地面取戻サスル、尤年季アキ二ケ月内訴出レバ右ノ通、二ケ月スギナラバ流地ニ申附ル、受戻テモ、流地ニ成リテモ、咎ハ右ノ通也

一　殘地之事

是縱バ質入ノ地面一町歩、質金通例ヨリ餘計ニ借請、此内五反歩ハ地主方ニ殘置直小作イタシ、五反歩ハ金主自作イタシ、質イレダカ一町歩ノ年貢諸役地ヌシ相勤、或ハ一町歩相當ノ金高カリウケ、金主ヘハ五反歩相渡シ、五反歩ハ地主方ヘ殘置手作致シ、一町歩ノ年貢諸役地ヌシ相ツトメ、何レモ金主ハ五反歩作取ニイタスニ付、半頼納同然ノ御仕置也

一　切畝歩之事

是ハ水帳名寄帳ノ面、縱バ一反歩ト一筆ニ記シアル田地ヲ、五畝歩カ三畝歩地主方ニノコシ、其餘ノ地面ヲ質入致スヲ切畝歩ト唱フ御法度也、モシ流地ニ成タルセツ境不分明、水帳ノ面畝歩筆數致ニ相違、末々出入ノ基ニツキ、殘地同樣ノ御仕置ナリ

一　書入田地之事

右ハ質地トハ違ヒ、金子借用イタス時、金子何程借用イタシ、當何ノ何月ヨリ何月迄何ホドノ利足ニテ借用イタシ、元利無レ滯返濟可レ致爲二書入一、何村ニテ所持ノ田畠、字何上中下幾反何畝歩何ケ所差出置候、若返濟トヾカフリ候バ、書イレ田畑可二相渡一直證文差出置コトナリ、質地ニハ無レドモ田地書イレイタスニツキ、其村ノ名ヌシ加印致スコトナリ、尤田畑ハ地主方ニテ自作致トモ、小作ニイルル、トモ勝手次第ナリ、質イレ置タル田地カ、又ハ外ヘ書イレ致タル田地、二重ニ於二書入一ハ咎申ツケル、

金主方ニテ二重ニ書イレル儀乍レ存證文請取ハ、是又トガメ申シ附ル、書イレノ儀ハ質地ニハ不ニ相立一、
例ノ借金通取計コトナリ

一　卸山請山之事

オロシ山ト云ハ、外村ヨリ山手米ヲ出シ、場所ヲ定イリ來ルヲ云、永小作同法ニテ年季モ無レ之、前々
ヨリイリ來ルニツキ、地元村ニテモ取上ル儀不ニ相成一、請山ト云ハ、他村ノ山ニ年季ヲ限證文ヲイレ、
何年季ニモ極、山手米差出立入ルヲ云、常ノ小作同様ナリ

一　畑田成田畑成屋敷成之事

畑高之場所用水掛リ等有レ之、稻作仕附試、彌始終田ニ可レ成地所ナレバ、願出畑田成ニ致ス、然ル處田ト
畑トハ石盛違フニツキ、上畑ヨリ田ニナラバ、上田ノ石盛ヲ附ケ、中下共其位ヲ持タセ石盛違フ丈出高
ニ致シ、村高相增、畑田成石間出タカト記シ、年貢諸役相增事也、尤田成ノ地味格別劣、上田成ニテ
モ上田ノ位難レ附ケレバ、上畠ノ石盛ニテ差置事モアリ、取箇ハ先檢見取ニ致シ、總村定免ナラバ、追
テハ定免辻ニサシ加フル、乍レ去雨年或ハ用水掛潤澤ニテ、餘水等有レ之年ハ稻作仕ツケ、又旱魃年ハ
畑作イタス樣成場所ニテ、始終田ニナリガタキ趣ナラバ、田ノ石盛ニ不レ直、畑ダカニ致置、當毛田ト名
ヅケ、稻作仕ツケタル時ハ、出來方相應ノ米取ニ申ツクベシ、マタ田請ノ場所用水無レ之、畑作仕ツケ
タル分、是マタ同然畠ダカニ可レ直儀ト雖、煙艸・木綿、或ハ瓜・茄子・大根・野菜等作ルヲ雜事畠ト唱、

何レモ勝手作ニツキ、縦田ニ作ル共畠ダカニ可レ直謂無レ之、定免村ナラバ田方定免通ノ取箇相納、検見取ナラバ田ノ上毛並致ニ合附一定法也、然レドモ旱損場ニテ一向用水不レ懸、無ニ是非一粟・稗・黍・蕎麥等仕附ルハ、勝手作ニテハ無ユヱ、當毛畑ト名ヅケ、取箇ノ儀作毛相當ニ可レ致ニ勘辨一、彌始終用水無レ之、田ハタ成相願時ハ、遂ニ吟味一上田ハ上畑ノ石盛ニ直シ、中下トモ其位通ニ石盛相直シ、タカヲ減ジタル分ハ、田ハタ成石盛違ト、タカ内引ニ相立ベシ、又下田下々ハタケ抔屋敷成ニ願フトキハ、ヤシキノ石盛ニ直シ出タカニ致ス、併新屋敷ハサシ障リ等得ト相タダシ、縦障リ無レ之トモ、四壁引モ相立遣ス事故、検見以後ヤシキ成ハ、公儀ニテハ容易ニ難レ濟儀ニ付、可レ有ニ其心得一事ナリ

但畠田成出高ノ儀、譬バ上田五反歩、石盛十ニテタカ五石田ニ成、上田ハ十五ノ石盛ユヱ、五反歩ニテタカ七石五斗ニナリ、二石五斗ノ增ダカニ付、村ダカノ外ニ高二石五斗、畠田成出ダカト記、年貢タカ役トモ村並相掛リ、又田ヨリ畑ニナレバ、二石五斗ダカ懸ルニ付、村ダカノ内諸引物ノ所ニテ、タカ二石五斗田畠成石盛違引トシルシ、年貢幷タカニ懸ルタカ役ハヒクコトナリ

一 田方用水掛ナク、ハタケニ願タル節、上方ハ田ハタ米取故、取箇減ル迄ニテ、六ケ敷事モ無レ之、關東ハ畠方永取ニツキ、猥ニ永取ニハ不レ致事也、既ニ下總國行德領山野村ダカニ、百石餘ノ所御料私領分郷ニテ、私領ハ秋山十右衛門ト申仁、往古ヨリ知行所ノ所、前々田ハタ米ドリ、御料ノ方ハ外並畠永取也、然處元祿年中上知ニナリタルセツ、一村同樣ニ永取ニ被ニ仰附一、其後行德領ニ檢地有レ之、割

ツケハ一本ニナリタレドモ、御詮議ノ上十右衛門上知ノ分、往古ヨリ米ドリニツキ、先規ノ通又々米取ニ相直リタリ、如レ此儀モアレバ、本田ノ分サヘ米取ノ場所、容易ニ永取ニハナリガタシ、况ヤ前々田方米ドリノ分ナ、用水無レ之無レ據ハタケニイタストモ、トリ米減ルハ格別、永ドリニハイタシガタタ、私領タリトモ上知ニナル事モアレバ、容易ニ永取ニハイタス間敷コト也、然レドモ田ダカノ内ニ入、田ノ姿ヲ殘シオク、畑成ノ名目ニテ、私領ノ内其家々ノ仕來リヲ以永取ニイタスハ不レ苦由、尤若上知ニナリタル時其斷ヲ申立、可二引渡一事ナリ

一　石間出石之事

是レハ郷帳割付等ニコクマデコクト申テ、タカ相增名目記相見有レ之、又畑田成出タカトシルシ、タカマシ有レ之モアリ、一事兩名也、右ニシルス畑ノ石モリ、田ノ石盛ニ直ルニツケ、石モリ違丈タカ相マシ、石盛ト石モリトノ間ヨリ出ル石ユヱ、石間出石共唱ルコトナリ、ヒキ物ノ所ニテ、石間ヒキトシルスモ有レ之、是ハ則田成ニテ石モリ違タカ減ルヲ、タカ內ビキニイタシ、石間ヒキトモシルシモウスル事ナリ

一　新屋敷新宅取建之事

諸國在々百姓有來ル家居ノ外、自今新規ニ家作イタスベカラズ、一家ノ內子孫兄弟多ク、或ハ病身ノ者等有レ之、同居ナリ難ク譯アラバ、一家敷內小家掛等イタシサシ置儀ハ格別、田ハタ野方藪林等ヲ開

キ、新家シキ新宅トリ立候儀堅御停止ノ由、享保七寅年被ニ仰出一、尤無レ據子細有レ之、新屋シキ新宅、或ハ出茶屋等トリタテ、最寄差障等無レ之バ、願出可レ請ニ差圖一由相極メタル所、近年ハミダリニ相成、新ヤシキノ分ハ願出レドモ、有來ノヤシキ内新規ニ家作イタスハ、勝手次第不レ苦事ノ樣ニ相心得、百姓ハ勿論村役人共迄心得チガヒ、新宅建立ハ不ニ相願一、家作イタス事ニ成タリ、新屋敷ハ不レ及レ申、新宅取タテ候儀モ、無願ニハ决テ不相應ナル事也、勿論下畑・下々畑・見取場・野方・林等ニ屋敷ニ致セバ上畑並ニナリ、反取モ直リ、御益筋タレドモ、最寄ノ田畑日蔭ニナリ、作毛ニサシサハル段於ニ訴出一ハ、タトヒ、家作致シタルトモ、トリ拂ハセル筈ニ候、然レドモサハリ申出モノモ、家作不レ致以前差サハリ可ニ申出一所、無ニ其儀一他人ノ難儀ヲ不レ顧段不埒ニ付、双方トモ相當ノトガメ申ツケ、格別不埒ノ儀無レ之バ、家作トリ拂ニ不ニ相成一樣、吟味詰可レ然由其筋ヘ承合タル所、挨拶有レ之ニ付、若右體ノ出入等有レ之節、其心得ヲ以トリ計フベキ事也

一　往還道立替之事

五海道ハ不レ及レ申、外往還其ホカ村内道筋タリトモ、古來ヨリ有來ル古道ヲ潰シ、私トシテ道ヲツケル事御制禁ノ由、是又享保七寅年被ニ仰出一候、尤耕作ノ勝手家居往來ノ便利ニツキ、新道不レ立シテ成難筋モアラバ、願出サシ圖ヲウケ、古道ヲ止メ新道ツケベク、何レニモ無屆ニハ不ニ相成一事也

一　屋敷内祠建之事

新規ノ寺社トリ立ル儀ハ、前々ヨリ御停止ナリ、居屋敷内アラタニ小祠等建立ノ儀モ、表立テハ決テ不ニ相成一由、天明三卯年武州旛羅郡峯村名主長藏儀實父ノ廟所ヲ祠ニイタシ、靈號申請度望ニテ、手寄ヲ以吉田家ヘ相願、伊賀鎮靈神ト申神號、幷四組木綿手繦ノ許狀被レ下候ニ、支配御代官ヨリ其筋ヘ内々相伺タル所、右體ノ儀決シテ不ニ相成一、科ノ御法モ有レ之間、早々吟味ヲトゲ、御奉行所ヘ可ニ差出一旨挨拶ニ付、右長藏ヘ申渡タル所驚入、早速許狀京都ヘ返上致シ、祠及ニ破却一、表向ニ不ニ相成一相濟タリ、然ル上ハ自今ノ居屋敷内ニ致ニ勸請一、他ヘ一切不レ拘トモ、新規ノ祠等立ル儀堅不ニ相成一事、近例ニ付、可レ有ニ心得一事ナリ

一　新地建立引寺之事

寺社建立ノ儀、往古ハ歸依次第何程モ建立雖レ有レ之、御當家ニ成、新ニ寺社建立ノ儀、御料私領トモ前々ヨリ嚴敷御制禁ニ相ナリ、然レドモ引寺號ハ不レ苦、先年深川靈運院ハ、下總國印旛郡惣深新田ニ有レ之ケル寺號ヲ以、新地御建立有レ之、然ル處寶曆十三未年以來ハ、引寺號ニテモ新地取立ル儀、容易ニハ不レ被ニ仰付一、潰寺再興ハサシサハリナケレバ相濟ヨシ、小社ニテモアラタニ取立ル儀ハ致間敷事ト相聞エ、近年武州埼玉郡眞福寺村地内日光海道並木ノ下ニ、前々ヨリ小祠有レ之風ト流行出シ、松木大明神・松尾大權現抔ト勝手次第ノ神號ヲツケ幟等ヲタテ、參人群集致スニ付、異變ノ儀無ニ覺束一、支配御代官ヨリ御奉行所ヘ相窺タル所、左ノ通御附紙有レ之

御附紙　書面參詣之者有レ之バ、住所名前承糺可ニ申立一由申渡可レ被レ置候、其上押テ致ニ參詣一者有レ之、名前相知候バ、可レ被ニ申聞一候

子九月

右ノ趣ニツキ參詣モ相止、幟等取拂、前々有來ル小祠ノミ殘置、若心得違ノ者有レ之、新タニ寺社於レ致ニ寄附一ハ、地面公儀ヘ御取上ノ上御咎、其所ノ名主組頭ハ戶〆被ニ仰付一、於レ然ハ小社小菴タリトモ、有來リ再興ハ格別、新タニ取立ノ儀ハ决テ不ニ相成一事也

一　地境川瀨附寄之事

山境ハ嶺限・谷限・水落境川ハ水流中央堺ニ立ル古法タレドモ、併一概ニモ難レ極、古來ヨリ山兩側裾野迄地內堺相立タル場所モアリ、川モ中央境ニ無レ之、水面不レ殘此方ニテ、向フ水際境ノ場所モ稀ニハ有レ之、官庫ノ繪圖水帖、或ハ古キ證據書物等有レ之バ、其通ニ相定アレドモ、川附寄次第水流中央堺ト云ハ、大水等ニテ川瀨替リ、譬バ東ノ方ヲ流タル川筋西ノ方ヘ水押込、西村ノ地所ノ內川筋ニ成、東ノ方ノ川筋ハ陸地ト成、元ノ川床ハ勿論、西村ノ地同樣東村ヘ附寄トモ、西村ノ河原ハ不レ及レ申、見取場・小物成場・秣場・平地・野地等ニテモ、高外ノ分ハ附寄次第故、東村ノ地トナリ、水流中央ニ成定法也、尤西邑高內ノ地所ツケヨリタルハ、東邑ヘトル儀難レ成、川ヲ越東邑ノ內飛地ニ致ニ進退一、サナケレバ、西邑ノ古高減ズルユヱ、ツキ寄次第ニテ難レ成、右ノ通大水等ニテ自然ト川筋違タルハ、ツ

キヨリ次第ニナル、若人力手段ヲ以川除等ノ仕方ニテ、川瀬ニ逢フ樣アヒ巧川筋チガハセタルハ、ツキ寄次第ニ難レ成、吟味ノ上サカヒ相定ベシ、仍レ之川筋ノ内高大ノ新堤、或ハ川除大出シ木等アラタニ仕出ス儀ハ、制禁ナリ

一　古今租税之事

租税ハ俗ニ取箇・成箇・物成・年貢抔ト唱レ之、田畑ヨリ納ル貢物也、兩税ト云テ秋糧夏税迚、田畑ノ年貢、秋糧ハ秋成田ノ年貢、夏税ハ畑ノ年貢、關東ニテハ夏成上方ノ三分一限納、奥州ノ半石代、甲州ノ大切小切、何レモ畑年貢ナレドモ、關東計夏成ト唱ヘ夏取立ル、餘國ハ秋糧ト一ツニ取ル也、西國九州抔ニテハ、麥石トテ中古迄麥ニテトリ立ルモアリタルガ、今ハ日本國中御料私領共、麥ニテ取立ルハナシ、尤小給所等ニテ小物成同樣、蕎麥・胡麻・小豆等取箇ノ外ニ、員數定リ納ルモアリ、荏・大豆ハ御料私領トモ正荏大豆、又ハ永代ニテ小物成ノ外ニトリ立レドモ、定法有レ之代米相渡、買上モ同然也、倩又古ヘ先王ノ世ニハ、井田ノ法雖レ被レ行、中華モ不ニ連綿一、代々ノ租税違同アリ、本朝ニハ上古モ井田ノ法不レ被レ行、如何樣ノ租税ニヤ。上代ノ儀ハ不レ詳、人皇三十七代孝徳天皇大化年中ノ頃、唐朝ノ制租庸調ノ法ニ效ヒ、我國ニテモ租税ノ法定レリ、然レドモ後世ニ至リ、其法廢絶ス

一　租ハ年貢ノ事ニテ、令曰、一段租稻二束二把、町租稻二十二束、田賦爲レ租、段地穫ニ稻五十束一、東稻舂得ニ米五升一ニトアリ、此積ニテ三百六十歩一反稻五十束、一束米五升宛ニシテ二石五斗、其内二

東二把、此米一斗一升年貢ニ納ム、當世ノ積リニ引競ベ、先ヅ二反ニ米二石五斗ヲ四斗入ニ積リ、六俵餘ニ當ル、一反米六俵餘トレル田ハ當時稀ナリ、扨二石五斗ヲ籾ニ直シ五石也、元來石ダカハ籾ノ石數、直ニタカニシタル事ユヱ、當時五分ドリノタカニ比シテ、五石ヲ二ツニ割、タカ二石五斗ニ當レバ、石盛二十ニ成、五斗五升ノトリ米ニテハ、免四分四厘ニアタル、又假ニ當世一反十五ノ石盛ニシテ、七分三厘三毛餘也、勿論上古ハタカ石盛ノ沙汰ナク、稻束數ヲ以テ租稅モ積リタレバ、當代ニハヒキ不レ合ハズ也、尤古ヘ租ハ年貢、庸ハ夫役、調ハ布帛ヲヲサメ、年貢ノ外納物有レ之、今ハ租庸調トモ一ニシテ、米ニテヲサメルユヱ、年貢タカク成ハズナレドモ、古ハ小物成タカ掛リト云者ナシ、然バ古昔ノ租稅ハ當世ノ五分一ニモアタラズ、至テ緩カナルコト也、其後四十二代文武天皇ノ御宇、海內六十六州ニ分リ、國郡ノ名悉ク定リ、大寶年中律令ヲ被レ撰、庸調ノ法幷ニ度量衡定リタル、租稅ノ法ハ「慶雲三丙午九月、遣ニ使七道一、始定ニ賦法一、町租稻十五束、及點ニ役丁一」ト續日本紀ニ見エタレバ、町ノ二十二ソクヨリ又減省セリ、唐朝ニハ丁男一人田一頃渡、粟二斛今通用スル粟ノ字ハ、中華ニテハモミノ事ヲ云、ハタケニ作ルハ粱ノ字ナリ稻二斛出ストアル、頃ハ日本ノ町也、丁男ハ正丁トテ、二十一歲ヨリ五十九歲迄、盛成男也、粟籾ニテ一町四石ナレバ、凡此方ノ反ノ一斗一升ニ齊キモノ也、及宅地ノ租ハ田地ノ租ヨリ輕クヲサメルハ先王ノ制ナリ、本朝ニテハ上代ヨリ京師ノ民地租ヲ出ス事、五十二代嵯峨天皇ノ御宇弘仁式ニ、「上田一段地子十東、中田八東、下田六東、下々田三東、爲ニ地子一」トアリ、是ヲ平均シテ「稻六東七把半、一東米五升」ト

見テ、一反ノ地子三斗三升七合五勺ニアタレバ、古ハ田地ノ租一斗一升ヨリ却テ餘計也、然ニ天正十壬午年、逆臣明智日向守光秀、織田信長公ヲ京都於二本能寺一弑シ、京都ノ民ヲ爲レ令二歸服一、翌十一癸未年、洛中ノ地子ヲ免許ス、太閤秀吉公光秀ヲ誅シ玉ヒ、海内一統有シカドモ、光秀ガ政蹟ニ因循シテ、地租ハ其儘許シオキタマフ、其後大神君海内統御有レ之テモ、京都ハ元ヨリ江戸・大坂・奈良・左海・伏見等スベテ都會ノ地子ヲ許シタマフ、上古ヨリ保元平治ノコロマデハ兵農不レ分、國持トイフテ武士モ農民同然、常ハ耕作ヲ營、爲二大番一禁廷ヘ勤番シ、國々ハ爲二國司一、公家ヨリ任國アリ、當時ノ樣ニ諸侯國々ニ不二分裂一、郡縣ノ世ニテ、日本國中スベテ天子ノ國ナレバ、朝貢ハ前書ノ如ク少分ニテモ、事足リヌト見エタリ、保元平治ノ亂後、平相國淸盛ノ世ト成、平氏一族公家トハ成タレドモ、元武臣ヨリ出ル事ニテ、公家ノ勢微ニナリ、元曆ノ亂治リテ、八十二世後鳥羽院ノ御宇建久年中、右大將賴朝公後白川法皇仍二院宣一日本總追捕使ト成シタマヒ、國司ノ外ニハ守護目代ヲ置國司ノ權ヲ制シ、莊園ニハ地頭ヲ置、武家一統ノ世トナリ、國司ノ權次第ニ衰ヘ、既ニ足利家ノ世トナリ、國司ハ絶エ、守護計リニ成タリ、然レドモ今ノ諸侯ノ如ク國郡ヲ領スルニハ非ズ、鎌倉ノ時三浦・畠山・秩父等、又元弘建武ノコロ新田・足利等、何レモ田舍ニ住シ農業ヲ務、今世有德ナル百姓ノ武士タルモノナリ、是ヲ大名ト稱シ、大番ヲ勤メ軍兵ヲ出シタリ、今ノ諸侯ノ大名ノ通稱ト成リタリ、此コロノ租税ハ古トハ變ジ、凡地頭四分、百姓六分取レ之、地頭四分ノ内一分ハ朝家ノ貢ニヲサム、此トキヨリ四公六民ノ詞始リタ

ルト見エタリ、九十五代後醍醐天皇上古ノ如ク公家一統ノ世ニ復サントノ叡慮ニテ、元弘ノ亂起リ、海內戰國ト成リ、國々ノ大名國郡ヲ押領シ、朝家ノ租稅モシカ〳〵不レ成樣ニ成テ、國々一樣ニハ有間敷ケレドモ、大概ハ似タルベシ、戰國ノ內信長公時代ヨリ兵農分レ、諸侯分國ニ附、郡縣ノ政ハイツトナク廢絕シ、自然ト封建ノ國ト成、秀吉公日本一統ニ治メ給ヒシヨリ、諸侯ノ得替始リ、御當家ニ移リ、國初ヨリ國々ニ諸侯定リ、彌封建ノ世ト成、租稅ノ法モ段々大ニ變ゼリ、文祿四年、天下ノ賦稅三分一地頭取レ之、三分二耕民自可レ取レ之ト、豐臣家譜ニアレバ、秀吉公諸國一統アリテノ法ハ、四公六民ヨリ又少ク取箇緩シ、今五公五民ニナリタル其發端不レ詳ドモ、中古迄籾納米ニ直セバ、則五分取ニナルニ付、五分取ト云ハ傳來ノセツナルベシ、四公六民トイフモ、タシカナル書ニハミエズト云、享保年中有德院樣御世、色取檢見始リシヨリ、一統五公五民ノ法急度定リタルトミエタリ

一　和漢トモ古ヘハ兵農不レ分、武士ハ田舍ニ住テ農業ヲ務メ、軍事アレバ分限ニ應ジ軍兵ヲ出シタリ、唐ノ世ヨリ農ト兵トワカル事ハジマリ、明朝ニ至テ天下ノ民ヲ二ニワケ、兵ヲ業トスルヲ軍ト云、農ヲ務ルモノヲ民ト稱ス、民ヨリ軍ニ入ル事ナラズ、軍ヨリモ民ニ移ル事ヲ禁ズ、天下ノ人ノ種類ヲ二ニ別ケタリ、本朝ニテモ中古ノ武士皆農夫ニテ、今ノ世ノ鄕士也、元弘建武ノ戰國以後兵農ワカレ、地頭百姓ト成、租稅ノ法モ四公六民ト成タリ、今モ遠國ニハ兵農不レ分、以前ノ如クナル所モアリ、其荒增薩州ニハ外城トテ、四十八ケ所ノ城地アリ、一城ニ武士多キハ七八百騎、少キハ二三百騎、外城

附與力ノ侍アリ、代々其地ニ住テ常ハ農業ヲ務ム、又外城ヲ守ル守將ハ、三四千石ヨリ萬石以上、其所ヲ領地スルモ有、マタハ勤番モアリ、此侍ハ在所鹿子島ナレバ武士一通リ、外城附與力ノ侍ハ、何レモ其所ノ百姓同前也、肥後國ニモ一領一疋ト唱ヘ、一騎役ノ士數百騎、マタ地侍トテ歩卒數百人、無東ニテ在々ニ居住シ農事ヲ營ミ、軍ノ節軍役ヲ務ム、筑後國ニハ浪人ト唱、平士格ニテ、常ハ農業マタハ醫術商賣、或ハ諸藝師範等勝手家業ヲ營ミ、武事ヲ心懸、無東ニテ在々ニ居住シ、事アレバ分限相應一騎マタハ獨歩ニテモ出、大身ナル者ハ十騎二十騎ニテモ、軍役無レ定兵卒ヲ出ス、肥前國鍋島家ニテモ、千人足輕トテ城下ヲ離レ、背振山下ニ住テ、平日農業ヲ務メ、筑前堺ノ番手也、マタ赤司黨ト云フ鄕士數百人筑後境ニアリテ、耕作獵等ヲ營ミ、筑後押ヘノ番兵タリ、日向國ニモ浮世人ト稱スル農兵多クアリ、土佐國ニハ長曾我部ノ類葉四百人餘、ミナ鄕士ニテ領主ニ隨順ス、是ヲ一領具足トイフ、大和ノ國吉野宇陀郡邊、都テ鄕士其武術ヲ嗜ミ、ツネハ農事山稼等ニテ世話ヲ送ル、其外遠國片鄙ニハ此類多カルベシ、是ミナ古兵農不レ分以前ノ遺風也、關東ニテハ八王子十人同心ノ外、農兵有コトヲキカズ、漢ノ世ニ趙充國ト云者屯田ノ法ヲ初メ、邊塞ヲ守ル番手ノ兵ニ、常ハ耕作ヲ成シメ、事有時ハ兵トナシ用タリ、右ノ如ク今遠國ニテ在々ニ兵士ヲ置、耕作ヲ務サセ、隣國ノ押ヘ又ハ事有トキハ軍役ヲ勤ルハ、屯田ノ遺法ナルカ、本朝ノ律令ハ、文武天皇大寶年中、唐朝ノ律令ニ效ヒ淡海公撰玉フ、令ニ永業田・口分田ト云アリ、永業田ハ民家ニ持傳ル田地、是ヲ賜田ト云テ、子孫連綿シテ

持レ之、口分田ハ男子二十歳ニシテ口分田ヲ賜リ、六十歳迄作レ之、六十一歳ニシテ朝廷ヘ返ス、公田ヲ耕ス民ヲ良家トイフ、是則武士也、正税ヲ一町ノ田ヨリ米一石一斗ヲ出シテ、外ニ徭役ヲ勤ム、私田ハ奴婢耕シ、其田ノ米ハ不レ殘主人ノ者ト成、奴婢ハ口分米トイフモノヲ取テ、是ヨリハ租税ヲ出サズ、良家ノ口分田ハ其三分一也、兵農トワカレテハ、今ノ百姓ハスビノ類也、其ホカ位田・職田・蒔戸ノ石數等アレドモ、後世不用ノ事ノミ、既ニ律令モカハリ、古ノ法律ハ公家ノ世ニ用レ之、武家ノ世ト成テハ律令廢リ、鎌倉時代ニハ貞永ノ式目ヲ用ヒ、室町家ニ至リテハ又式目モ不レ用、別ニ一世ノ法令ヲタテ、戰國ニナリテハ、法律廢絶イタシ、御當代ニ移リ法令モ又カハリ、年貢夫役等ノ法悉違ヒ、右ニモシルス如ク、中古石高以前迄ハ年貢モ籾納、知行ダカモ籾ノ石數ヲ直ニ用ヒ、其頃マデハ砂金ノミニテ、民間ニ金銀ノ通用ナク、交易モ籾ト錢計リヲ用タル由、段々時代替リケレバ、古ヘノ年貢ノ事、今ニテハ何ノ見合ニモ成ガタクトイヘドモ、古ヘヲ知ラザレバ、今世行ガタキ事モアレバ、租税ノハジマリヲ荒マシシルスモノナリ

一　庸ハ夫役ノ事也、人夫ヲ田地ノ高ニ掛テ出サスル事、古ハ和漢トモ無事也、田地ヨリハ年貢ヲ出セバ、外ニ何モ出スベキ筋ニ非ズ、公役ハ人ノ數ニテ出ス、先王ノ制ハ男子二十歳ヨリ五十九歳迄、四十年ノ間一年ニ三十日ヅヽ人夫ヲ使フハ、聖人ノ法也、唐朝ニ至リ、租庸調ノ法モコレニ准ズ、本朝ノ古人云、天下ノ民二十一歳ヨリ六十歳迄ヲ正丁トイフテ、一年ニ夫役十日使ヲ正役トス、外ニ加役三

十日使ヲ加ヘ、一年一人ノ夫役四十日ノ定ナリ、何事ニテモ其身ヲ夫ニ遣フ、若人足ニ遣ハザレバ其代ニ布ヲ出ス、コレヲ庸布トイフ、一人前一日ニ布二尺六寸ト立、正役十日ニテ二丈六尺一端ヲ出ス、次丁ハ二人合セテ正丁一人役ヲ勤ル、勤ザル時ハ布モ其割ニテ出ス、次丁トイフハ男子六十歳以上ノ老人、或ハ壯年ノ男子ニテモ病氣アリテ、一人前無レ之者ヲ次丁トイフ、文武天皇ノ大寶ノ令ニハ、「歳役之庸布息ニ人民乏之ハ宜レ減レ半」トアレバ、此時ニハ二丈六尺ノ庸布ヲ、半分ニ減ゼラルヽト見エタリ、日カズハ古今ニ替ルコトナシ、右ノ定免ハ兵農不レ分以前、軍役歩卒ノ外、百姓ノ使方ト見エタリ、公家ノ世ニハ令ニヨリテ、國々夫役ノ使方モ定リ有シカドモ、武家ノ世ト成テハ、人足ノ定免モナク、増シテ戰國以來御當代ニ移リテハ、古ヘノ庸法ニ似モツカズ、人足ハツカヒ次第ニ成タリ、去ナガラ人足ヲツカフ事ハ、大切成儀ユヱ、無賃ノ人馬ヲツカフトキハ、一人一疋タリトモ御朱印御證文ヲ下サレ、コレヲ使フ、猥ニ使フ事ヲ禁ゼラル、近年ニ至リ在々堤川除用水普請等人足出方ハ、高百石五十人ハ村役ニ差出、五十人ハ御扶持米人足トテ、一日ニ米七合五勺ヅヽ下サレル、其餘ノ人數ハ幾千人ニテモ、賃米人足ト唱、一日一人前米一升七合ヅヽ賃米被レ下定法也、私領ニテハ其國々々ノ仕來リニテ、ツカヒカタ扶持米賃米等ノ員數不同有、其外公儀御臺所ニツカフ人足、前々ハ御賄方ヨリ人數ワリ有レ之、ソレニテサシ出シタル由、ソレニテハ不便利ニモアリ、又々村々難澁イタス故、タカ百石ニ米二斗ヅヽ掛ケ、在々ヨリ出サセ、コレヲ以人足ヲカヽヘ、六尺ト名ヅケ召ツカフ、コレヲ六尺

給米ト云、扨マタ領主地頭軍役アルカ、京大坂駿府在番等ニ當リ、或ハ屋敷燒失等ノ變事有レ之節、領地知行ノ人足ヲ呼ヨセツカフ代ニ、タカ百石金二兩ヅヽ臨時ニナシ出サセル、コレヲ夫金ト云、此ホカニ私領ニテハ六尺給米無レ之ユヘ、人米人金トテタカニ掛テ、米永ニテ定納ニ取立ルモアリ、尤前々ヨリ引ツケノ員サダマリ有、タカ當リハ國所村ニ寄、多少ノ不同アリ、右ノ員品ハ大數人足ノ勤ダカ定リ有ナレドモ、ソノホカノ公用ニテ遣フ人足ハ定數無レ之、尤往來ノ人馬助合人馬等ハ員數定モアリ、賃錢モ取ニツケ、百姓ノ失墜ハ格別、前ニ記ス庸役トハ違フナリ、上古ハ正役加役ニ不レ使トキサシ出ス庸布、イツノコロヨリ止ミタルヤ、マタ田地ノ石ダカニ掛ケ人足出ル發リ、コレマタイツ頃ヨリ、始リタルヤ、濫觴不レ詳、近世ハ公儀地頭ノ庸役ノ外、驛場近キ邑々ハ、助鄕人馬ニ使ハレ村用ニ遣ヒ、彼是古ヘ十倍ノ夫役ニナリ、農業可レ勤暇モナク、素ヨリ無人ノ百姓ハ、度々ヤクニ出テハ、耕作ノ勤ナリガタク、是非ナク日傭ヲ出シ、或ハ村役人ヘ價ヲ出シ、是ガタメニ在々ノ困窮カゾヘガタシ、加之自分稼穡ノ節モオクレ、耕作ノ修理疎ニナリ、作物出來劣リ、年貢モヘラシ、民ノ損失不レ少、果ハ退轉ニ及ブ百姓モ有、手餘リ荒地等出來、地頭ノ不益又不レ輕事ナレバ、人遣ヒカタハ心ヲモチユベキ事ハ、至テ專要ナリ

一 調ハ年貢ノ外ニ品物ニテ納ル課役、今ノ小物成ノ樣ナル物也、調ノコト令ニ云、「凡調絹絁絲綿布、並隨ニ鄕土所レ出、正丁一人、絹絁八尺五寸、六丁成レ疋、長五丈二尺、廣二尺二寸、美濃絁六尺五寸、

八丁成レ疋、長五丈二尺、廣同二絹絁一、絲八兩、綿一斤、布二丈六尺、並二丁成レ約、屯端、長五丈二尺、廣二尺四寸、其望陀布四丁成レ端、長五丈二尺、廣二尺八寸」トアリ、右ノ譯ハ本朝ノ古法天下ノ百姓二十一ヨリ六十迄、正丁ノ分ニハ年貢庸役ノ外、絹絁絲布等ヲ所々ノ出產ノ品ニ依テ取ル事也、是ヲ調ト云、絹ナケレバ、絁一人前八尺五寸ヅヽ出シテ、六人ニテ一疋ヲ成就ス、五丈二尺ナリ、美濃絁ハ八人ニテ、五丈二尺一疋ヲ成ス、絲ナケレバ一人前ニ八兩、二丁ニテ、十六兩、一約ヲナス、綿ナケレバ一人前一斤、二丁ニテ二斤一屯ト成、布ナレバ一人前ニ二丈六尺、二丁ニ五丈二尺一疋ト成、又次丁ハ二人ニテ正丁一人ニ准ズ、中男ハ四人ニテ正丁一人前ニ應ズ、中男ト云ハ十六歲ヨリ二十歲迄ノ男也、此ホカニマタ雜物ト云モノ有テ、鐵酒茶漆紙炭薪油蠟百菓藥種鳥獸魚鼈羽毛皮革ノ類、其國其土地ノ產物ヲ正丁一人ヨリ納ム、尤其出產ノ品十分一也、又調ノ副物海藻等ヲ出ス品々アリ、是ヲ合セテ倶ニ調ト云、是則大和漢トモ古法也、右謂庸ノ品ハ、每年八月中旬ニ其所々ヨリ起輸シテ近國ハ十月晦日ヲ限、中國ハ十一月三十日、遠國ハ十二月三十日迄ニ大藏省ニ納、調ハ家別ノ絹年貢也、ユヱニコレヲ戶課トイフ、然レドモオシナミ家ベツニ出スニアラズ、家々課戶不課戶トイフコトアリ、正丁以上課口有ヲ課戶トシ、無キヲ不課戶トス、調ハ課戶計出ス、不課戶ハ不レ出、令ニ曰、「戶內有二課口一者爲二課戶一、無二課口一者爲二不課戶一」義解ニ云、「不課口謂二皇親及八位以上、男年十六以下、幷蔭子耆癈疾妻妾女家人奴婢二」トアレバ、歷々ノ人マタハ病氣アルモノ、女奴婢ヲ不課口トイフ、此外正

課ノ分ヲ課口トイフテ、調物ヲ出ス也、貢物ノ事中華ニテハ、賦税ノ外ニアリ、禹貢ニ、諸州ニ厥貢ト記サル、唐朝ニテモ共通リト見エタリ、本朝ニテハ國々ノ貢物ヲ、直ニ調ノ內ニ入テ、租庸調ノ外別ニ貢ノ名ナシ、其內右ニ云雜物ヲ、其定リタル數程出セバ、絹布ノ類ハ許サルトミエタリ、調副物ハ調ノ絹布ノ外ニ數品ヲ出ストミエタリ、調布ヲテツクリト訓ズ、土地ノ產物也、調ノ品目令ニ詳ナレドモ、今世不用ノ事ユヱ其荒マシヲシルス、今小物成トイフテ、ソノ國々ノ產物代金銀ニ直シ、年貢ノ外ニヲサマルハ、調物ノ遺風トミエタリ

一　夏成金發之事

上古中華ニテモ兩税ト云テ、秋糧夏税トテ、田畑ノ租税夏秋ト分ケ、秋糧ハ田ノ年貢ニテ秋成、夏税ハ畑ノ年貢ニテ夏成金也、本朝夏税ノ始リハ、五十二代嵯峨天皇弘仁二辛卯年菅淸公同麻呂僧空海ニ勅シ玉ヒ、賦税徭役ノコトヲ改正シ玉フ、此時ヨリ夏ノ麥ヲ以テ正税ノ如ク納シム、上古ニ替リ税法重ク成、民ノ衰弊ヲ起ト云々、コレ夏成ノ始リ也、都テ關東ニ夏成、上方ノ三分一銀納・奥州ノ半石代、甲州ノ大切小切、何レモ畑年貢ナレドモ、關東計ナツ成トテ夏收ム、餘國ハ秋糧ト一ツニ收ム、九州等ニハ麥石トテ、元祿頃迄ムギニテ收ル所モ有タルヨシ、今ハナシ、尤關東ノ夏成モ、麥石トテ別ニハ不レ掛、畑取米ノ內ヲ夏收ルユヱ、夏成トイフ、餘國秋成ト一同ニ收ルニ遲速アル迄ニテ關東夏成有トテ、取箇ノ强キニハナシ、然レドモ麥石無レ之トモ、國々一體ノ取箇秋料ノ內ニ籠リ、古制トハ大

ニ達ヒツヨクナリタレバ、秋糧夏稅ト二季ニ收ルモ、關東夏收ルモ同然ナリ、弘仁ノ古ヘハ別ニ收タル様ナレドモ、上古ノ租稅ハ至テカロク、當世ノ取箇ニ比テハ半分ニモ不レ及コトナレバ、麥ヲ以夏稅ニヲサメタリトモ、民ノ煩ニナル程ノ事ハ有間敷、夫サヘソノ比ハ民ノ衰弊ヲ起ストソシリタルト見エタリ、然レバ今世賦稅庸調ノ重キハ、民ノ衰微トナル事多シ

一　三分一銀納、十分一大豆銀納之事　附　上方ハ關東ヨリ二割增

上方筋ハ田畑米取定免ハ不レ及レ申、檢見取ニテモ畑ハ定免ニテ、免居リ取米ノ數定リアリ、尤木綿畠ハ年々檢見有、然ル處畑ニハ米無レ之ユヱ、田畑總取米ヲ三ツニワリ、一ツハ石代銀納トナリ、是ヲ三分一銀納ト云、則畑年貢ナリ、シカシ畑トリ米ノ員數ニ不レ拘、總トリ米ノ三分一ヲ銀納トス、去ニ依テ畑米トイヘドモ、銀納ナレバ關東ノ畑米トリモ同然也、右石代直段、古來ハ米一石銀四十八匁替、定直段タル所、享保年中ヨリ外石代同様、其年ノ下米平均ニ何匁マシト定法改リ、其直段ヲ以テ御勘定所ヘ相伺、三分一直段極ル事也

一　右四十八匁ガヘニ極リタル發リハ、關東二石五斗代ニ對用ノ積リニテ始マリタリ、米一石銀四十八匁ノ直ダンハ、永一貫文ニ一石二斗五升ガヘニ當レバ、則チ畑永二石五斗代ニ對用スル、其ユヱハ二石五斗代ハ田畠同厘ヲ得ル假直段也、上方關東遠國トモ畠方六分違ノ定法ニテ、二石五斗ノ六分ハ一石五斗トナル、コレ關東畠永ノ定直ダンナリ、上方ノ土地ハ田畑トモ一統宜敷ユヱ、大概一割增トシ

テ、米直ダンモ上ガタハ關東ニ二ワリ増ノ積リ、一石二斗五升ハ一石五斗ニ二ワリ高ニテ、上ガタ江戸直ダン釣合ナリ、又出羽奧州ト上ガタハ一倍ノチガヒ、奧羽ノ二百石ハ上ガタノ百石ニ對用スルユエ、半石半永ノ安ワリ直ダンモ、右ノワリ合ニテ見レバ國ニ無二勝劣一、田畠何厘ト見テ過不足ナシ

一　上ガタトテモ元來二十貫百石ノ積リヨリ發リタリ、上方ハ田ハタ米ドリニテ、ソノ内三分一ハ畠年貢ノツモリ、銀納ニ成故、畠直段假取米二十五石ヲ三ツニワリ、其一部即八石三斗三升三合三勺三才ト成ヲ實ニ置、殘二ツ十六石六斗六升六合六勺六才ヲ法ニシテ除ケバ五ト成、是ヲ元米二十五石ヘ乘ジ十二石五斗ト出ル、畠高五十石ハ永タカ十貫文ノ地也、古十二石五斗ト永十貫文對用スルニ至リ、永一貫文ニ米一石二斗五升ニ當ル、是二分一銀納ノ濫觴ナリ、又直段四十八文目ガヘニ極シモ、畠取定相場一石二斗五升ヨリ發ル、公納銀相場六十目ヲ實ニオキ、一石二斗五升ヲ以除ケバ、一石代銀四十八匁ト出ル、上方ハ都テ銀遣ナレバ公納モ銀納ナリ、金ハ六十目ガヘノ定相場ヲ以銀納ニ成、古來ハ町相場六十目ノ餘ニテ、高直成ニ付、爲二御救一六十目ガヘニ究リ、民家悉潤シ處、今ハ通用銀六十目ノ内ニ多分入タル故、六十目ノ定直段却テ下々難儀トナル、其上享保年中以來、三分一銀納直ダン四十八匁ガヘ相止ミ、時相場ニ成タレバ、彌以下ノ難儀也、右三分一銀納ノ初リ、時世不二相知一ト雖、民間金銀通用ハ慶長元和頃ヨリノ事成バ、三分一納、十分一大豆銀納抔ト極リタルハ、其以後ノコトト見エタリ

一　右上方ハ關東ニ二ワリ増ノツモリ、關東永畑ノ代リニ三分一銀納ニ成タル、所謂マタ定直ダン四
十八匁ニキハマリハジメ、反取釣合左ノ如シ

上田一反歩　　　上方
此分米六斗　　　盛六ツ
此取米二斗四升　　　免四ツ
此代永百九十二文
但三分一直段米一石ニ付四十八匁、金六十匁替、上方ニ永ト云儀ハ無コトナレドモ、關東ヘ
ノ釣合ノ爲、假ニ永ヲ付タルモノ也

上畑一反歩　　　關東
此分米六斗　　　石盛同斷
此取米二斗四升　　　免同斷
但關東ニ田畑米取ハ無レドモ、田畑厘ヲ附ルニハ、根取米無テハ難儀成ユヱ、永ニ米ノ附ル
コト也
此代百六十文
但畠米實直段、金一兩ニ米一石五斗ガヘ

右上方反取二斗四升ニ三分一直段四十八匁ヲ乘ジ、代銀十一匁五分二厘ト成、公納銀相場六十目ニ除キ、永百九十二文ヲ得ル、又關東畠反取二斗四升ヲ、實直ダン一石五斗ニテ除ケバ、代百六十文ト成、此代百六十文ニ二割增二ヲ乘ズレバ百九十二文ト成ナリ、關東金相場六十目ヘ二ワリ減八ヲ乘ズレバ四十八匁ト成、イヅレモ關東ヨリ上方ハ二ワリダカノ勘定也

一　十分一大豆銀納ト云ハ、大豆ノ直ダン書出、伺ノ上キハムル所モ有、前々引附ニテ定直段ノ場所モアリ、總取米ノ十分一ヲ、大豆銀納ニハ石代ニテ收ル、尤ヒキツケニテ村ニ寄、正大豆收ルモアリ、大豆銀納正大豆收トモナキ村カタモ有、右十分一銀納、十分一大豆銀納、引殘リ米納ニ成ナリ、又村ニ依テ譯アリ、定石代銀ノ納ノ數定リ、米納ノ內銀納ニ成村モ有、或年ニ依不熟青米等多ク、上納米ニ難レ成、願石代トテ其數ヲ極メ、銀納ニナルモアリ、扨又廻米ナリガタキ場所カ、マタハ皆畑等ニテ、ミナ銀納ノ村方モ有、前々仕來ニテ、色々ノ收方有事也。右三分一銀納ト申ハ、上方筋中國西國トモ平均スレバ、大方田カタ三分二畠カタ三分一程有レ之積ヲ以テ、如レ斯キハメタル儀ト見エタリ、上ガタハ三分一銀納、關東ハ畠カタ永取ト云事年久シク、何ノ比ヨリ始リシヤ一向シレズ、古來相傳ノ事可レ成

一　諸國石代直段之事　附　貫代　甲州雜穀直段　石代御定書

國々租稅石代ノ儀ハ古キ事ニテ、其發リツマビラカナラズ、上ガタノ三分一銀納、關東畠カタ永取ニ

石九斗代、奥州羽州田高半石代、甲州貫代大切小切ナド、都テ古キ遺法ナルベシ、諸國古來ヨリキハマリ、今ニ用ル石代直段荒増シ覺タル、是ヲシルス、何レモ往古貫高永ダカ時代ノ遺法ト見エタリ、イツノコロヨリハジマリタル事ヤシレズ

下野國

宇都宮　　金一兩ニ米三石代、但ハタケ方永取
田畑六分違ニテ、實直段一石八斗ニナル

陸奥國

石川郡田村郡、金一兩ニ米三石七升二合代、右同斷
實直段一石八斗四升三合ニナル
長沼郡大沼郡、金一兩ニ米三石二斗代、右同斷
會津實直段一石九斗二升ニ成
白川郡、金一兩ニ米三石五斗代、但畑カタ永取
田畑六分違ニテ、實直段二石一斗ト成
仙臺領、金一兩ニ米五石代、右同ジ、實直段三石ニナル
伊達郡信夫郡宇多郡、金一兩ニ米七石代

福島領　右同ジ　實直段四石二斗ニナル

出羽國

置賜郡　金一兩ニ米六石代

米澤領　同斷　實直段三石六斗ニ成

右田畑米ドリニテ、半分ハ米收、半ブンハミギノ安直ニテ石代金納也、是ヲ半石半永ト云、何レモ半石米收ノ内、相場背ノ直ダンヲ以定、石代・願石代・不熟・青米等石代ノ金納モ有、尤前書ノ内會津大沼兩郡ニハ、半石半永ノムラモ有、又四分一五分金納、或ハミナ金納ノムラカタモアリ、都テ奥羽ハ至テ、土地廣大ニシテ、米穀多ク出來ル所ユヱ、片鄙遠境都會ノ地少キ故、國中ニテ米ノ捌カタ少ク、自ラ米ノ價甚賤シ。然リト雖石代直段ハ土地ノ相場ニ不ニ引合一、悉ク下直ニキハメタルヲ考フルニ、關東畑永一石五斗價ニ類シ、畑ハ田ニ六分チガヒ四分劣リナレバ、關東ノ二石五斗代モ、實直段ハ二石五斗ニアタル、是ト等シク奥羽モ右ノ石代直段ニ六分違ヲ乘ズレバ、實直段前書ノ通ニ成、大概所相場ニ近キモノ也、其上遠國片境運送モ惡敷故、御宥恕ヲ以テ安直ダンニテ、金納ニ成タルトミエタリ、書面國々ノ外遠國ニハ、往古引付ノ石代何ホドモ有ベクナレドモ、諸國ノ儀悉ク知ガタク、聞傳ヘシ所アラ增シルシ置モノ也

一　甲斐國モ田畑米取ニテ石代樣々アリ、國中四郡ノ内、山梨八代巨摩三郡ハ大切小切御帳紙直ダン

アリ、又右ノ三郡上米平均直段アリ、其內ニモ川內領ハ、金一兩米一石四斗四升替ノ定石代直段アリ、四郡ノ內都留郡郡內領モ田畠米取ナレドモ、石代ハ關東並御帳紙直ダン、併極山中ニテ船ノ運送難レ成場所ユエ、ミナ金納也、郡內ハ惣テ山畑薄地多、雜穀ノミ作ル所ナレバ、畑米直ダンハ御帳紙ニ三割安ト定リ、其上ニ其年ノ雜穀直ダンノ高下ヲ以テ、石代直段キハメルコト也、甲州四郡ト申內、篠子峠ヨリ上ヘ都留郡一郡ヲ郡內領ト唱ヘ、外二郡トハ別ニテ、諸事關東並ナリ、國役金等モ關東ニ屬ス、依テ大切小切上米平均ネダンモナシ、大切小切ノ譯ハ末ニシルス

但雜穀直段ノキハメ方、去年ノ雜穀直段ヘ當年ノ畠米直段御帳紙二割安ヲ乘ジ、去年ノ畑米直段ヲ以テ除レ之、當年ノ雜穀直段ニナル、尤大豆粟稗蕎麥等其品限リ、夫々ノ直段キハマリ金收ニ成、縱バ去年大豆石代直段十五ニ付十五兩ニ、當年ノ御帳紙四十兩ヲ二割安ニシテ、二十八兩トナル、コレヲ右ノ十五兩ニ乘ジテ四十一兩ト成、サテ去年ノ御帳紙卅五兩三割安二十四兩二分、則去年ノ畠米直段也、是ヲ以テ右ノ四十二兩ヲ除ケバ、十七兩永百四十三文ト成、コレ當年ノ大豆石代直段トキハマル、其ホカノ雜穀モ、其品限夫々ノ價仕出方ハ同斷ナリ

一關東ハ畠方永取ニテ米ニ直スハ、永一貫文米二石五斗代通法也、右二石五斗代其始不レ詳トイヘドモ、永高時代ノ遺法ト聞エ、古來ハ諸國一統籾遣ニテ、年貢モ籾收ナレバ、籾高ハ直ニ年貢ノ納辻ユエ、外ニ永ダカト云モノナク、其比ハ穀類ノ價賤ク、永一貫文ニハ籾五石ヲカヘタルト見エタリ、中

古米納ニ成、五合ノ積リ半減シテ、米二石五斗ノ石代當時、關東國々畠永ヲ米ニナホス通法ト成、
因レ茲今モ永高ニ結ブニハ、永一貫文高五石ガヘノ定法也、又覺書ニ秀吉公ノトキヨリ權現樣御世ヘ移
リ、文祿慶長ノ頃米穀價賤ク、金一兩ニツキ米五石ガヘ御定ナリ、其後大猷院樣御治世比、追々米ノ
價貴ク、半減シテ二石五斗代ト成、又貞享元祿ノ比常憲院樣御世ニハ彌タカク、其半減一石二斗五升
代ニ命ゼラレ、依レ之釐附ノ爲永ヲ米ニナホスハ、二石五斗代ヲ用ヒ、五ケ年平均等ニテ實壓ヲ見ルニ
ハ、一石二斗五升代ニイタスハ、此謂ナルヨシシルシタル書物モアレドモ、出處シレズ、前ニ云フ籾
高ヲ半減シテ、米二石五斗ニ定リタル事、據アルカト思ハル、イヅレ永高貫高時代ヨリ起リシ石代ト
ミエ、スデニ石代ヲ貫代トモトナフル事ナリ

一　關東米納ノ內、幷甲州郡內領田米定石代金納アリ、是ハ冬御張紙直段ヲ用ユ、又子細有テ、定石
代ノホカニ、願石代トテ金納イタスハ、御ハリガミ直段ノ上羅增アリ、口米等ハ御張紙ニ三兩ダカ也、
上方筋中國四國北國筋奧羽トモ石代金收ニ成バ、其國々ニテ米相場書出ス場所五ケ處三ケ所ヅヽ極リ
アリト、米平均直段ニ何斗何升ダカ、或ハ何兩增何匁增ト、是マタ定法アリ、伺ノ上石代直段相極リ
金收致スコト也、此御張紙直段、且國ノ相場書ヲ以テ石代直段究ル儀ハ、關東御入國以來初リシトミ
ユレドモ、羅增直段等ノ定格何レノ御世ヨリ發リタルト云事ヲ知ラズ、今御帖紙ヲ御城中ノ口ニハル
事ハ、江戶御城中御營築ノ節迄ハ、戰國ノ餘風ニテ、武士ハ武術ノミニ染、諸士ノ內算勘ヲ勤ル人

ナク、越後屋手代共ヲ御城ヘ召サレ、中ノ口ニ於テ國々御收納勘定等命ゼラレ、中ノ口ニ御長持アリ、其中ニ諸書物ヲイレ、其上ニソノ年々ノ直ダン書ヲハリタル由、其後治世ニナリ、士モ算術ヲ心懸、今ノ御勘定役ヲ撰出サレテ、御勘定所並ニ御役所モハジマリシ由、ソノ遺風ヲ以テ、イマモ三季御ハリガミ出レバ、中ノ口ノ向ニハル由申傳フ、然レドモ越後屋手代御城ニ出タル事不㆓詳成㆒說ナリ、按ズルニ、中ノ口ハ諸士尊卑出入ノ處ナレバ、諸人見ヤスカラン爲ニ、古來ヨリ張來リシ事ニモ有ンカ

一　諸石代ノ儀ニ付先年御定書左ノ通

御年貢米二條江戶大坂御藏收ノ節、船中ニ於テ大澤手・小澤手・フケ米・色カハリ・鼠喰ノ類、並ニ米症不㆑宜、御藏收ニ難㆑成分、買收等致スベクハズニ候ヘドモ、左樣ニテハ收名主等久敷逗留イタシ、品品入用モ掛リ候間、御米差支無㆑之節ハ、金納ニ可㆑被㆓申付㆒候、右金收ノ儀ハ米收國々ノ直段ニ構ハズ、二條大坂江戶トモ其時ノハリガミ直段、米三十五石ニツキ金四兩高、銀收ノ場所ハ右割合ヲ以テ、米一石ニツキ銀六匁ダカノ積可㆑被㆓相窺㆒候

一　惣而三分一並品々石代ノ外、津出難所ノ分、畑方米納ノ場所金納願、並年ニヨリ惡米石代、或ハ廻米殘端米等、惣而此類ノ金納ハ其トキハリガミ直段、三十五石ニツキ金三兩ダカ、並三分一金有㆑之國々ハ、三分一直段米三十五石ニツキ金三兩ダカ、銀納ノ場所ハ右割合ヲ以テ、三分一直段米一石ニツキ銀五匁高ノツモリタルベク候

但三分一金納無レ之、定石代有レ之國ハ、石サダメ石代ヲ元ニタテ、三分一直ダン割合ノ通ヲ以可レ被ニ相窺一候

一 御用ニツキ殘置候御物成ノ内段々渡、殘米金納ハ其時ノ張紙直段ヲ以可レ被レ窺候

寅七月

右御書附年號不分明ニテ、何ノ寅ト云コト相ワカラズ、併シ有徳院様御世享保年中、御勘定奉行神尾若狹守、色々御政事被ニ相改一候ニツキ、多分ハ享保十九寅年被ニ仰渡一タル御書付ナルベシ

一 關東二石五斗代、一石二斗五升代發之事

是モ貫代ト唱ベキモノ也、石代ノ儀ハ前條ニクハシク記如ク、往古ヨリ國々ノ貫代定リタル定法アリ、關東ノ二石五斗代・一石二斗五升代ト云モ、年々米相場ノ高下ニモ不レ拘、又右ノ石代ヲ以テ收ルニモアラズ、田畑ノ免何程ノ村ト見ルニ、米ハ其儘スガタアルモノ故、其員數ヲタカニ除キ免モ雖レ知、永ハ米ニ不レ直シテハ免割成ガタク、依テ田畠ノ永納ヲ假ニ米ニ直スニ用ル貫代也、一村ノ厘ヲツケルニハ二石五斗代ヲ用、〇五ケ年平均厘ノ高下ヲミルニハ、一石二斗五升代ヲ用ル、元來二石五斗代トイフハ、前ニシルス二十貫百石五ツ取ヨリ發ル、タカ五石ノ地田方五十石、畑方五十石ト見テ、イヅレモ五ツ取ニテ、元來廿五石ヅヽ也、然レドモ畑ノ取米二十五石ニハ難レ當、田畠六分違ヲ乘ジ、十五石ノ實米廿五石ヲ加ヘ、四十石ヿタカ百石ニテ、實ハ四ツ取ナレドモ、畑ノ假米二十五石ト立ルユヱ、五

ツ成トイフ、古ノ永ダカ二十貫文ヲタカ百石トシテ、田畠五分々々、畑永ダカ十貫文ノ米二十五石故、當時永一貫文ヲ米二石五斗代ト立タルモノナリ、永ダカノ時代ハ別ニ石ダカナク、年貢永ノ辻ヲ直ニタカニ用ヒタリ、今モ無高無反別ノ村ハ、遠國關東トモ取米辻ヲ直ニ高ニ用ヒ、人夫諸色タカ懸リノ品々取米ニ懸ル所モアリ、越後國新發田領ナドハ、當時村ダカヲ云ニハ取米ダカヲ云、高掛リ物モ此タカニ掛ル、本ダカハ草高ト唱ヘ、諸掛リ物等ニハ用ザル由也、又或書ニ、古代金銀拂底、砂金ノ外小判未ダ初ラザル以前、下民ニ金銀ノ通用ナク、錢ト籾トヲ以テ物ヲ交易シ、民間ノ諸用ヲ辯ジタレドモ、錢モ少ク分テ永樂錢ハ彌貴ク、米穀ハ潤澤ユヱ、籾ノ價至テ賤ク、永樂錢一貫文ニハ籾五石ヲカヘ、其比永納ノ代リニ地頭ヘ籾ヲ收レバ、永高一貫文ニ籾五石ヲ收タル由、其後石ダカ始リテ、收籾ノ石數ヲ直ニ村ダカニ用ヒ、五分取ニシテ米ニテ半分收タルユヱ、永一貫文ニ米二石五斗ト成タリ、段々時世カハリ、關東國々モ米ノ價貴ク成タレドモ、中古ノ遺法ヲ用ヒ、麁ヲ見ルタメノ直段ニハ、金一兩ニ米二石五斗代定法ト成、然レドモ百年來右體ノ安直段ナク、實ニ米ノ價凡ヲ見ルニモ、二石五斗ガヘノ勘定ニテハ、一向不ㇾ引合ㇾニツキ、米穀ノ價ニカヽハラズ、二石五斗ヲ半減シテ、金一兩ヘ一石二斗五升代ニテ米ニ直シ、田畑打込物成ノ收リタカヲミルニ、是ヲ用ユルニ依テ、當時鄉帳其年ノ畠リツケルニハ、畠永ヲ二石五斗代ノ米ニ直シ、正米ニ加ヘ厘ヲ割リ、又其年ヨリ前五箇年平均シテ、實ノ取箇ノ甔ヲ見合ニハ、一石二斗五升代ニテ米ニ直ス定法ナリ、因ㇾ茲私領渡ノ物成勘定ニハ、

一石二斗五升代ヲ以テ厘ヲミル事也、右二石五斗代ハ永ダカ時代ヨリノ事トミユレドモ、イツノ頃ヨリカ不レ詳ドモ、大猷院樣御治世ノ末、慶安二丑年鄕帳ハジマリタレバ、其比ヨリノ定直段、常憲院樣御治世貞享元祿ノ比ハ穀ノ價貴ク、二石五斗ノ半減一石二斗五升代ニ被レ命由、或書ニ見ヱレドモ、タシカ成出所不レ知、ソノ後享保二年ニイタリテ、イヨ〱タカクナルニ付、有德院樣御世享保七寅年ヨリ、永一貫文米一石代ニテ、五ケ年平均ノ釐附致スベク由被レ爲レ命、シバラク一石代ニ成シカドモ、程ナク元文元辰年ヨリ、又々古來ノ如ク一石二斗五升代ニ成タリ、右兩條異說ノヤウナレドモ、何レ永高ノ時代ヨリ石高ニ移リテ、永二十貫文タカ百石ニ替リ、則チ村高ハ籾ダカナレバ、永一貫文ニモミ五石モ、タカ五石モ同然也、ソレヲ五ツ取ニシテ米二石五斗ナレバ、元來二十貫百石ヨリ發リシ事トミエタリ

但鄕帖ヲ仕組時、永ヲ米ニ直ス早算二石五斗代ハ永ヲ四ニテワリ、一石二斗五升代八ニテワル、是ヲ四モミ八モミト云、二石五斗代ハ其ムラノ其年ノ厘附ナリ、故ニ是ヲ實リントイフ、一石二斗五升代ハ五ケ年平キンノ厘ニ用ルユヱ、虛厘トイフ說モアレドモ、先吏小宮山氏ノ說ニハ、當時ノ直段ニ近キ方實厘、遠キ方虛リン成リ、由ニ此說ニ相當ナル可、虛リン實リンノ儀ハ、前ニ委クシルス

一　相場書之事

上方筋諸國石代金納ニ相用ル相場書ノ儀、國々市店驛場湊河岸場等穀問屋共ヨリ相場書サシ出シ、

場所一國ニ五ヶ所三ヶ所ヅヽニ極リアリ、毎年十月十五日ヨリ晦日迄、毎日上中下米相場書穀屋共ヨリ、支配役所ヘ差出シ、御料ハ御代官元〆手代、私領ハ領主地頭役人奥印ニテ、其處々ヨリ御代官方ヘサシ出候ヘバ、右御役所ニ於テ十六日分上米平均シテ、其國ノ定法何斗ダカ、或ハ何兩何匁增ヲ加ヘ、國々御代官ヨリ御勘定所廻米方ヘ差出シ、吟味ノ上石代直段極リ、其直段ヲ以年々サダマリタル定石代金納致ス事也、又風水旱蟲ノ損毛等ニテ、米性惡ク米納ナリ難キ分、マタ何ゾ子細有テ願石代ト唱、石數吟味ノ上相伺、石代金收ニ成モ有、是ハ定穀代、直段ノ上ニ何程ダカト、直段糴增ノ定法アリ金收致ス、マタ小物成タカ掛米等米收モマレニハアレドモ、多分ハ石代金納ニ成、此ネダンハ定石代ネダンヲ用ユ、口米ハ定法ノ糴上有レ之、關東ハ帳紙ネダンニ三兩增也、尤國ニヨリ色々ノ納方モ有、一樣ナラザレドモ、大凡右ノ趣也

一　右石代ニ用ユル外ニ、關東筋上方筋トモ、毎年正月四月七月十月、一ヶ年ニ四度朔日ヨリ晦日迄、日々上中下米麥相場書ヲ御代官支配限リ書出ス場所、五ヶ處三ヶ處ヅヽサダマリアリ、穀屋ドモヨリ書出シ、御官ヨリ御勘定所ヘサシ出シ、右相場ヲ以テ御普請・扶持米・夫食・種貸・麥種貸等、代金ニテ御金藏ヨリ相渡ル節ノ直段ニ用ル、尤イヅレモ下米下麥ノ直段ナリ、是ヲ正四七十ノ相場ガキト云フナリ

一　一種代之事

一種代ト云モ、奥州伊達郡ノ内ニアル石代ナリ、田畠米取ニテ取リ、米不レ殘七石ガヘノ安石代ニテ、田畑惣取米金收ニ成ル村方アリ、コレヲ一種代村ト云、尤多クハ無レ之、置場トイフ村カタモアリ、コレハ元外村並半石半永ノ村カタナレドモ、譯有レ之一種代ニ成タル村ナリ、都テ伊達信夫宇田郡邊半石半永ニテ、田畑取米半分ハ金一兩米七石ガヘノ石代金納ナレドモ、一種代ハ米收無、不レ殘七石ガヘ金納也、一種代ト申名目如何ノ謂ヲ以テ唱ルヤ、古來ヨリ引付ニテ譯不ニ相知、安石代一種ニテヲサムルト申コトニモ可レ有哉

一　甲州大切小切之事

甲斐國四郡ノ內、巨摩山梨八代三郡ニ大切小切ト云石代アリ、信玄時分ヨリ始ル、右三郡モ田畠米取ニテ、本途見取惣トリ米三分一ヲ小切ト云、安石代金一兩ニ米四石一斗四升ガヘ、殘三分二ノ內又三分一大切ト唱、御帳紙直段ニテ金納、其外米納也、米納ノ內ニモ定金納トテ、張ガミ直ダンヲ以テ金納致村アル、小切ノ發、信玄領國ノ節ハ、戰國ノ砌、或ハ商賣ノ營モ薄ク、穀ノ價悉ク賤、永一貫文ニ米五石餘モ需ギ、石代ハ五石一斗餘ナル由、其節甲州ニ過怠金迚、年貢ノ內高直段ニテ收ルコトアリ、軍用金乏キニツキ、米納ノ內三分一小ギリト號ケ、過怠金ノ內ニシテ、石代直段ニ凡二割高四石一斗四升ガヘヲ以テ、九月中金納致サセルヨシ、其頃ハ籾收ニ付、甲州升（京升三升入）ニテ、二斗二升ヲ籾一俵トス、今京マスニテ六斗六升ニナル、五合四勺五才餘摺ニテ米三斗六升、則一俵也、今モ甲州ハ

三斗六升入、右ノ籾十一俵半ニテ、小切金一兩收タリ（此時代ハ小バン壹分バン等未ダ始ラズ、永樂錢一貫文ニ爲ベキカ）京升ニテ米四石一斗四升ニ當ル、其後勝頼沒落、甲州一國ニ大神君御手ニ入テモ、信玄ノ政事ヲ御正ナク、其儘今ニ武田家掟ヲ以御治世ニ付、小切モ古來ノ通四石一升替ノ金納也、信玄世ニハ高直段ニテ過怠金ナレドモ、時世押移リ、米穀ノ價貴ク成、當時ニテハ至テノ安直段、多分ノ御救ナリ、右說ハ松平濃州使甲斐領國ノ時、其家臣佐藤政右衛門恒佐ト云人糺タル由、或書記ニ見ユレドモ、天正文祿ノ比タリトモ、永一貫文ニ米五石賣タル事餘リ價安ク、不詳ナル說也、併其比ハ米五石餘、其後正保慶安ノ頃二石五斗、又天和貞享時分一石二斗五升ト、段々ニ半減ニ成タルコト古書ニミエタレバ、永祿元龜ノ頃ハ右ノ價タル哉モ不レ知、扨大切ヲ御張紙直段ニ極ル事、御當代ニナリテノ法ナレバ、古來武田家領國ノ時ハ、右五石一斗五升ノ直段ヲ用ヒタルヤ、申傳モナク、小切直段ノ外石代直段不二相知一、書物ニモ不レ見當一也

一　諸國俵入事

本朝米苞ノ量數、延喜式ニ、「凡公納運米五斗爲レ俵、依レ用二三俵一爲レ駄、自餘雜物又準レ此、甚違路國者、斛量減也」トアレバ、往古ハ五斗ニ定メタルトミエタリ、當時ハ國々ノ苞入悉ク異同アリ、關東ハ三斗五升入ナレドモ、苞入ハ一苞ニ二升ヅヽ、加三斗七升イリ也、出羽國村山郡三斗七升入、田川由利飽海郡ハ四斗五升入、甲州ハ三斗六升入、奧州岩城領、又美作國ハ三斗三升入、奧州白川郡福島領越後越

前三河遠江駿河美濃丹後但馬備後ハ四斗入、尾張攝津播磨豊前豊後肥後ハ五斗入也、御料ノ内ニモ如レ此苞イリ違アリ、此外ニモ御料ノ處、苞イリノ異同何ホドモ有ベク、私領方ニテハ、增テ國々ノ苞イリ區々可レ成、關東ノ私領ニテモ、上州ハ四斗二升・四斗三升イリ、下總ハ三斗九升・四斗イリ、筑後ハ三斗三升イリニテ、口米一升ヅヽ、一苞ニ加、三斗四升入也、其ホカ諸國違多カル可・荒々承傳タル分シルシ置モノ也

一　關東ノ國々一苞ヲ三斗五升イリト極ル始リハ、中昔日本國中御料ノ取箇ナリガタクテ、平年二三箇年致ニ平準一、免三ツ五六分ニ當リ、高百石ニ米三十五石ホド有、依テ一苞ヲ三斗五升イリトキハメ、御藏取ノ面々知行ダカ百石百苞ノ定法ニ成タリ、其後享保六丑年ヨリ同十五戌年迄、十ケ年ノ内中分ニ當ル年ヲ平均シテ、御料ダカ凡四百二十萬石餘、此本途取米百十九萬四千八百石餘、金十一萬千五百兩餘、此取百五十萬六百石餘、免三ツ五分七厘ニ當ル由、御代官辻六郎左衞門相樣シ、同人書シルストト見エタリ、年々作方ノ豐凶ハ有ベケレドモ、古今格別ノ違モナケレバ、一統三ツ五分ノ免ハ誠ニ適當ナルベシ

右苞入ノ儀、中古ハ御藏納米斗升山盛ニ計リシユヱ、三斗五升入一俵ハ四斗餘モ入、其後山盛ヲ升掻ニテカキ落シテ可レ收旨被レ爲レ命タル故、一二升入モ相減ジ、下民ノ御救トナル、尙又元和二辰年台德院樣御代、民家爲ニ御救一、三斗五升ニ二升ノ延米ヲ加ヘ、三斗七升イリ、七升目ヲ山計ニシテ收ム、其

以後イツノ頃カ三斗七升ノ上ニ延米二升加ヘ、三斗九升ニテ收タル事有レ之由、一兩年ニテ止ミ、マタ元ノ三斗七升山計リニ成タリ、今モ共通ノ收也

一　往古小知ノ面々ヘハ、爲ニ勝手ニ上田ノ場所被ニ宛行ハ、三斗五升イリニ二升延、其上ニマタ五升ヲ加、四斗二升ニシテ納メトナル、今御藏入ニテ五々ノ俵入有ハ、私領上地、マタハ國替村ガヘ等ニテ、御料所ニ成テモ、私領引附ヲ以古來ノ苞イリニテ收ル故、升目ノ差ヒアリ、關東ノ内ニモ、私領ニハ種ノ苞入アリ、既ニ當御領分武州新坐郡野火止領抔、升目ハ四斗一升イリニテ收メ、苞イリハ三斗五升ノ勘定ニ致スユヱ、一苞ニ七升ヅヽノ延米ニナル、是等則右ニ云往古ノ遺風トミヱタリ

一　甲斐ノ國ノ年貢、前々ハ籾收、苞入ハ一苞甲州升二斗二升イリ也、甲州升ハ武田信玄時代ヨリノ遺法ニテ、イマノ京升三升イリヲ甲州升一升ト云、當時モ都テ三升マスヲ用ル、尤京升モ用フト雖稀ノ事也、穀類ノ相場等モ三升升ニテ、何斗何升ト斷ラザレバ、甲州一國ノ者ハイマモ不承知ナリ、甲州升ハ御免ノ升坐甲府ニアリ、江戸升坐ヲ不レ用、京升三升入ヲ一升トイフ、一升五合イリヲ半(ナカラ)トイフ、七合五勺ヲ小半コナカラト云、諸色商賣等ニモ半・小半ト呼デ、升目ヲ云ズ、右籾二斗入京マス六斗六升也、五合摺ニシテ米三斗三升ニ可レ成處、籾性宜キユヱ米摺多、六斗六升イリノ籾米三斗六升ト立タル物ト見ユ、甲州米一苞ハ三斗六升イリ也、此割合ニテハ五合四勺五才餘ノ摺ニ當ル、往古モミ收ノ儀ハ日本一統ト雖、甲州ハ世上米納ニ成タル以後迄モ、モミ收ニ致シタル由、イマノ米納イツ

ノ頃ヨリ發リタルニヤ、時代知難シ

一　四ツ物成　三ツ五分物成之事

四ツ物成三ツ五分物成ト云コト、高百石トイフハ、元來モミ百石也、米ニシテ四十石有モアリ、三十五石有モアリテ、何レモモミズリヨリ起リ、四斗俵・三斗五升俵トイフ事出キタル由或書ニ見ユレドモ、何ホド不出キノ稻ニテモ、無難ノ稻ニ四合ズリ・二合五勺ズリトイフモミハ先ハ無事也、大概四合五六勺ヨリ五合六合トスルモノ也、高百石元來モミ百石ト云事ハ、往古モミ收ノ節モ、百姓作リ出シタルモミ、不レ殘地頭ヘ取ルニハアラズ、四分カ五分上納ノ積リ、石ダカ不レ始以前、永ダカ貫ダカ、或ハ町歩等ニテ、知行シタル籾ナニホドト收タルニヨリ、縱バモミ百石收レバ、地頭ニテ米ニシテ五十石有レ之ニ付、石ダカハジマリテ、則モミノ石數ヲ石ダカトナシ、五ツ取ノ積リニテ米十五石ナレバ、籾收メニテモ石ダカ發リ、米納ニ成テモ同樣ナリ、右ノ如クモミズリノ勘定ニテ、四ツ取ト不レ殘年貢ニ取テハ百姓ハ作徳無樣ニナリ、ナニヲ以テカ耕作ヲ營ムベキヤ、鈴錄ノ說ハ甚ダ不レ詳也、四ツ成・三ツ成トイフハ、イマノ厘付ノコトニテ、高百石取リ米四十石、三十五石、免ニシテ四ツ取・三ツ五分取ニ當リ、知行物成俵取ノ面々、俵入ノマス數ヲ以テ申ナリ、諸侯方ノ家中知行渡ノ節、右ノ免合ニ相當シテ、其家ニ寄四斗入百俵ヲ百石ト立ルモアリ、三斗五升入百苞ヲ百石トイフモアリ、前條ニ如申、公儀御藏米取ハ都テ三斗五升入、百石百苞也、私領モ多分ハ三ツ五分物成ナレドモ、四ツ物成ノ

家モ多シ、又ハ四斗二三升入百石百苞ニテ渡ルモアリ、或ハ三斗三升・四升・七升抔ノ入ニテ百石百俵ノ家モアリ、然レドモ領地知行替等物成詰ニ成ハ、三ツ五分ノ定法也

一　本石計立之事

本石計立ハ、上方筋關東筋一統ニハ非ズ、上方筋ハ都テ本石ヲ不ㇾ出、計立收也、關東ノ納米三斗五升ヲ三斗七升ニテ納ルヲ、本石計リ立トイフハ、元ハ關八州伊豆駿河三河遠江、此國々本石計立ニ候處、元祿十六未年ヨリ、右三ヶ國ハ本石計立相ヤミ、上方筋同樣ハカリ立收ニナリ、本石ハカリ立トイフハ、石數ニ三七ヲ掛、三五ニテ割レバ三斗五升ニ二升宛餘米加、三斗七升ニ成、帳面等仕組ニハ、縱バ年貢米本石百五十石、此計タテ百五十八石五斗七升一合、此苞四百五十三苞二升一合ト成、本石ハ百五十石ナレドモ、三斗五升ニ二升ヅヽノ餘米加ル、是ヲ計タテトイフ、餘米ノ加リタル米ヲ三斗五升入ノ苞ニ直シ致セドモ、收ノ俵入ハ三斗七升ヅヽ入ルニ付、本石百五十石ノ米納ト成テ、實ノ升目ハ百六十七石六斗三升一合ト成、三斗五升ニテ俵直シ致シ、苞入ハ三斗七升ヅヽイルニツキ、一苞ニ二升ヅヽハ帳面ニ顯ハサズ、空ニ增シ成ナリ、上方筋計立ト云ハ、元來本米ハカリ立ニ成タル貢數ヲ出スユヱ、本石ヲ不ㇾ出、譬バ三十七石トイフ米、則ハカリ立ニナリテノ三十七石也、此本石ヲ見ルニハ、三七ニテ割リテ三五ヲ掛レバ、本石三十五石トナル、然レバ本石ハ三十五石ニテ、勘定ニタテル所ハ三十七石ナレドモ、關東伊豆ノ外ハ都テ本石計タテノ名目帳面ニ出ザル故、計リタテニ成タル米トモ、

又ハ本石トモ、書面ニテハ不レ分、勿論上方筋ハカリ立ト唱ル事ナシ、總テ御勘定所ヨリノ割賦物モ、六尺給米宿入用米ハ本石、其外ノ割物ハ大方計リタテニナル、員數ヲ割出事也トテモハカリ立ニシタルト云斷ハナク、古來ノ關東モ本石ハカリ立ノ差別ハナカリシニ、イツノ比ナラン、三斗五升入一苞ニツキテ二升ヅヽノ餘米ヲ加ヘ、是ヲ土用欠ト名ヅケ、コレヨリ關東ハ通法トナリ、本石計立ノ名目タテシ由也、コノ餘米ヲ出目米共、延米トモ爲ニ心得ノ族モアレドモ、出目米トイフハ國々ニアリ、上州高崎領ニテハ一石ニ四斗六升出目、羽州ハ二斗出目ナド、國々所々ニテ員數違ヒ、本途ノ外別ニ年貢米ノ石數ニ懸リテ收ルヲイフ、何レモ元來籾ズリヨリ起リ、四斗六升ハ七合三勺摺、二斗ハ六合摺ヨリ此餘米出本途ノ外ニ收ル、關東ノ本石計立ハ年貢ノ内ニ籠リ、升目ノ增計ユヱ、外々ノ出目米ニ延米トハ格別也、右計立有レ之國々ニハ出目米ナク、計立ノ儀御料ハ右ノ通ナレドモ、關東ニテモ私領ハ三斗九升ノ納メモアリ、又四斗二升ノ納モ有テ、何モ本石ハ三斗五升ナレバ、三斗九升ノ納ノ時ハ、四升ノハカリ立出目ニ成、四斗二升ノ收ハ、七升ノ出目ニナレドモ、私領ニテハ大方計タテニハ不レ致故、石數ヲ不レ顯、石ヲ苞ニ直ス時、算用ニテハ三五ニ割苞數ヲ出シ、收ノ苞入ハ三斗九升、或ハ四斗二升入ルニ付書面ニ不レ出、石數ノ增有レ之也、然レドモ本石ト云ハ、三斗五升ト心得ルハ僻事ナリ、關東ノ本石ハ三斗五升ナレドモ、上方筋餘國ハ左ニ非ズ、四斗二升入ノ本石ハ四斗也、三斗六升入ノ本石三斗四升、五斗入ハ四斗八升ニテ、百姓ヨリ收ル所ハ何レモ二升宛ノ計リ立、出目ヲ加ヘ取タテレドモ、

本石ト云名目無ク、苞入ノ内ニ計タテノ出目ハ加リ居、其加ヘタル升ヲ何斗何升ト通用スル故、本石ハ不レ顯、關東計本石ヲタツルハ、三斗五升入百苞ヲ免三ツ五分ノ勘定ニテ、百石ノ物成トミル積故、本石ヲ見スル事也、依テ上方遠國ニハ本石ノ名目ナク、都テ計立也

一　御帳紙直段、計立三十五石ニ付何十幾兩トアルハ、計リ立タル米三十五石ニテ直段ヲ極ル故也、總テ公儀ヘ收ルハ三十五石ヲ本石トシテ、是ニ計立二升ヲ加ヘ俵ニ直シ收、又公儀ヨリ被レ下米ハ、計立ニ成タル何百何十石被レ下ニ付本石無、ハカリ立ノ米ナリ

一　荏大豆餅米等ハ品收物ヲ、本石員數ト云ハ心得違ナリ、是ハ色ナリ迚、何レモハカリタテノ物ナリ

一　六尺給米宿入用米ハ臨時タカ役故、前々ヨリ本石收メナリ、古來御勘定所ヨリ御割賦有レ之時、何十何石本石ト御書付有レ之、近年ハ御勘定所混雜故カ、間違ナル事モ有、享保十七子年餅米代金納ノ節、本石ト御書付有レ之、間違ノ由ニテ、其後御糺ノ上、計立ノ員數ニ決着ス

地方凡例錄卷四終

地方凡例録巻五

目録

茶役　漆年貢　楮　松山藪林　芦年貢　芦代　萱野銀　楮油荏役　御林下草錢　川岸　池役　池魚役　網代　鳥取　紙船等之役

一　酒株之事　付　近年造酒御觸書　一　鉾役之事

一　分一金銀之事

鯔　鯨　市賣　受山等之分一

一　突鯨寄クジラ流クジラ切クジラ分一定法之事　付　流クジラ有レ之時取計諸書物等

一　諸運上冥加金臨時納物之事

水車始　同市場　小漁　簗　池　鳥札之運上　高網役　鳥　鳥銃　問屋　油船之運上　醬油屋　質屋　旅店之運上永　砥石山　金銀銅錢鉛明礬硫黃山　帆別之運上　川船　小船　室屋　炭釜　大工桶屋　石屋　本屋　鍛冶之役　新田地代金　御材木幷往來並木立枯　御普請殘木　鐵物　取上田畠並缺所物之拂代

地方凡例錄卷五

一　出目米・延米之事　付　延大豆　延眞綿等

出目米ト云ハ、關東ノ御料所ニナシ、本石ハカリ立ナキ遠國ニハアリ、尤悉アルニハ非ズ、私領上地等、其外ニモ前々ノ引付ニテ、年貢米ノ石數ニ掛ケ相ヲサム、勿論員數ハ區々也、羽州ニハ本途米一石ニ二斗ヅヽノ出目アリ、奧州石川郡ハ本途見取米トモ、一石ニ二升、田村郡ハ本途並口米トモ、一石ニ二升ヅヽ出目カヽル、白川郡ハ本途見取三升五升ニ二斗ノ出目アリ、當郡ハ關東並本石計立ノ村モアリ、是ハ出目カヽラズ、此外諸國此類何ホドモアルベシ、駿遠參三ケ國古來ハ本石ヲサメナリシニ、元祿十六年ヨリ遠國並ハカリ立ヲサメニナリ、其後正德三巳年ヨリ計立ノ上ニ、一俵ニ二升出目ヲカケ、外物ニシテ取タテル樣ニナリ、農人難儀ナルコト也、私領ニテハ出目米ヲ延米トモ云、御料ニテモ昔ハノベ目ト云、員數ヲ極メズ、斗升ニ山盛ニ入次第ニハカリテヲサメシ故、二斗五升入ノ米四斗餘モアリタルヨシ、下ノ難儀ヲ思ヒヤラレ、其後ノベ米ト云ハ相ヤメ、今ハ御料ニノベノ名目ナシ、何レ出目米ノベ米一物二名也、前書ニモ云如ク、上州群馬郡ノ内高崎城付村ニハ、本途米一石ニ四斗六升ヅヽノ出目アリ、是ヲ四六ノノベト云、ケ樣ノコト關東遠國トモニアマリ聞ヌノベ米也、東

國ニテ私領上知ニナリタル村、三斗五升ニ二升出目ナドノ村方ハ、ウカヾヒノ上計立ニ直シ、出目米ノベ米ノ名目ヲノゾクモアリ、右上州四斗六升、羽州ノ二斗出目ナドハ、籾ズリ米ヨリ始リタルノベナレドモ、奧州駿遠參等ノ出目ノ米ハ、モミズリヨリ始リタルニアラズ、東國ノ本石ハカリ立ニ同フシタル出メ也、此如キハ上方筋遠國ニモアリ、何レモ年貢ノ石數ニカケ別ニヲサムル、出メハ定石代直段ニテ、多分金ヲサメナリ、間ニハ米ヲサメノ處モアリ、出目米ヲ石ト云所モアリ

但本文上州羽州ノベ米モミズリノ事、タトヘバ二石ノモミヲ世間並ニ五合ニスレバ、五ヲ乘ジ一石トナル、群馬郷ハ七合三勺ズリユヱ、二石ニ七三ヲ乘ズレバ、是一石四斗六升トナル、羽州ノ内六合ズリノ處ハ、六ヲ乘ジ一石二斗トナル、是ニヨッテ世上普通ノスリヨリ餘計ノ分、ノベ米ト云テ租税ノ外ニヲサム、總テモミズリノ事場所ノ善惡ヨリ、モミノ性モヨシアシアリ、高場ノ熟土兩毛作ノ所實入ヨロシク、モミハ皮ウスク米肥滿シテ、六合六七勺ヨリ七合餘ニモスル、亦庵田・深田・水腐所等水境ノ稻ナドハ、モミノ皮至テアツク、瘦靑米破死ナド多クテ、登リヨロシク見エテモ、ワヅカ三四合ナラデハスラレヌ者也、尤モ年ノ豐凶ニモヨル事ナリ、此甲乙ヲ平均シテ五合ズリノ定法ハ、古今官ト民ニ損得ナキ樣ニ、先賢ノ勘辨トミエタリ、能ク定メタル定法ナリ、然ルニ六合七合ノ外平均ズリニスレバ、八九合ズリノ籾モ無レ之テハ、村々ミナ六合ズリ、或ハ七合三勺ズリナドニハ不レ當、何ホドヨク出來タリトモ、七合五勺ニモスリ立ル米ハマレナルモノ也、甲州ハ土地ノ善惡格外ニチガ

フ村方多キニ付テ、モミズリニ多少アリ、四合ズリ位ヨリ六合四五勺マデ、村ニヨツテ定マリアリテ、檢見取付ノ時、其村ニモミズリノ勘定チガヒユヱ、オシナラシテ五合ズリニテ、農人ノ損得アル故ニ難儀ニオヨブニ付、免元帳トテ所々ノモミズリヲシルシタル帳面、御代官方引ワタシノ書物アリ、中古上州群馬郡羽州ノ內ナド、六合ズリ七合ズリノ平均ニキハメタル役人、如何ナル仕法ニヤイブカシ、租税ヲオモクスルハ不仁ノ至リナレドモ、他ノ國ニナキ右樣ノスリニキハメタルハ、必イハレアル事ナラン

上州綠野郡ノ內、延大豆・延眞綿ト云納物アリ、是ハ私領ノ筋、大豆眞綿ハ物成ツメニテ高ニムスビ、延ノ分ハ小モノナリノ樣ニナリ、外モノニテ納メタルト見エテ、今モノベ大豆ハ、元大豆一升一合二勺五才、ノベ眞ワタ、元マワタ百目ニ掛目五十三匁八分三釐五毛ヅツ金ヲサメニナル、元大豆・元マワタハ員數アルバカリニテ、ヲサメニハナラザルナリ

一　欠米・込米之事

欠米ト云ハ、遠國ヨリノ廻米ニテ、海上ハルカニ運送スルユヱ、處ニヨリテ年ヲコエテ江戸ヘ着スルコトモアリ、汐風ニアタリテフケ米ナド出來、或ハ澤手米ナドニテ欠ヘリ相立、御藏ヲサメノ時不足立故、一俵ニ五升三升ヅヽノ積、御城米ノ外ニ勝手次第ツミ來タリタル所、近來定法相立、本米一石缺米三升ヅヽノ勘定ニテ、御城米同然オクリ狀ニシルシ積マハシ、御倉底ヘイタシ水アゲ、御倉內ニ

シラヘ、御倉ヲサメ濟タル上、缺米ノコリタル分御藏役人ヘ相屆ケ、切手ヲ以テ上乘ノ者ノ方ヘ引トリヲサメ、宿引ウケ賣ハラヒ、ヲサメ入用清帳ヘシルシ勘定シ、御藏役所並支配役所ヘサシ出ス、近年ハ名清ノ帳面ヲ木札ニシルシ、村々名ヌシノ門口ヘ掛オクベキ旨命ジサセラレ、御年貢掛札同樣ニカケオキ、古來ノ如ク缺米餘計ニツミキタリ、百姓勝手次第ニトリハカラフ儀ハナラザルヤウノ常法ニナリタリ

一　込米ト云ハ、三斗七升入ニテモ、四斗二升入ニテモ、ハカリキリ入レテハ、御藏場ヘノマハシヲ出シタル時、不足立コトアルユヱ、一苞ニ一升餘ヅヽモ餘計ニ入ル、元來御藏ヲサメマハシノトキ、仕マハシノ一升ハ、コボレルホド山盛ニ無レ之テハ、一合缺ニ相立ニヨッテ、餘ケイヲ入ル事也、是ハ升目勘定ノ升ニテ農人ノ損也

一　口米・口永之事　附　御代官諸入用米金　甲州公納口　三升口

口米永ハ昔ヨリノ引ツケニテ、其始知レガタシトイヘドモ、鎌倉時代貞永ノ式目ニ、諸國守衛人奉行ノ條下ニシルシアレバ、近年ニイタリ分取二代官於郡鄕一、宛二課公事於莊保一トアルハ、口米永ノコトヽキコエ、其時代ヨリ始リタルニヤ、亦其以前ヨリアリタルヤ、始リ知レガタシ、勿論上古ニハ無事トミエテ、古書ニハミアタラズ、御當代ニナリテ、關東ノ口米一石ニ付二升八合五勺七才ニアタル、上方スヂハ本米一石ニ口米三升ヅヽ、遠州ヨリ西ノ國々ハ上方ニ付、三州ヨリ東出羽奥州マデ關東ニツ

ク、尤モ奥州ノ内村田石川兩郡ハ一石ニ六升、伊達信夫宇多三郡ハ一石ニ五升、白川岩瀨兩郡ハ三升、甲州ハ一石ニ四升五合四勺餘ヅヽカヽル、上州群馬郡ノ內本米一石ニ口米六升、亦ハ四升二合ヲサムル村カタモアリ、國々處々ニテ少ヅヽノ異同ハアルベキナレドモ、大カタハ上方ヨリ中國スヂ西國スヂマデ一石ニ三升、關東スヂ奥羽アタリマデ三斗五升ニ一升ナリ、元米口米永トテ租稅ノ外ニ取立ル事縣令代官鄕里ヲ支配スルニハ、下吏ヲカヽヘ宛行ヲワタシ、筆墨紙其外諸雜用アル事ユヱ、年貢米ノ高ニカケ取立、右ノ雜用ニアテル事、鎌倉時代ヨリ始リシト見エタリ、由テ御當代ニテモ諸國口米永ヲ御代官ヘ下サレ、手代並家來等ノ扶持切米、其外諸入用ニアテタルニ、有德院樣御世享保年中、御勘定奉行神尾若州ノ取ハカラヒニテ、口米永下サレ錢止テ、支配高ニヨリテ諸入用金員數ヲサダメ下サレ、口米永ハ公儀ヘ上納ニナリタリ、尤諸侯方御アヅカリノ所ノ分ハ、古來ノ通リ當時モ口米下サレ、甲州ノ口米ニ、公納口・三升口トテ分リアレバ、他國ヨリ口米多キユヱ、一石ニ三升分ハ三升口ト云テ、代官ヘ給ヒ殘一升五合四勺五才ハ、其コロヨリ公儀ヘヲサメルニ付、公納口ト云フ、今ハノコラズ公納ニナルトイヘドモ、昔ノ名目其マヽニテ、三升口ハ石代金納、公納口ハ米ヲサメナリ、奥州ノ五升口モ、三升ハ石代、二升ハ米ヲサメナリ

一　御代官諸入用ト云ハ

御代官所高五萬石

此諸入用

金百五十兩

此內五十兩ハ檢見入用

七十人扶持

但シ高一萬石ニ、金百十兩ニ十四人扶持

此米百三十六石

但六萬石以上ハ、右五萬石高諸入用米金ノ上ニ、一萬石ニ付五十兩ニ十八人扶持宛マシ

御代官方

御預所高二萬石ニ付

此諸入用

金五十兩

十人扶持

大名方

御領處之分ハ口米永下サル

高五萬石

此取凡
米萬石　　四ツ
金一萬兩　　田畠永小物成共
此口
米百石　　本米一石ニ口米三升
此金六百兩　　兩ニ一石ガヘ
金三百兩　　本永一貫文ニ口永卅文
〆九百兩
此諸入用
金五百五十兩　　七十八人扶持
米百三十六石　　兩ニ一石ガヘ
二口
〆六百八十六兩
差引
金二百十四兩　　口米永ノ方多シ

右御代官諸入用米金、享保十巳年九月仰出サレ候御定書左之通

山城　大和　攝津　河內　和泉　播磨

近江　美濃　伊勢　參河　駿州　遠江

信州　越前　相摸　下總　安房　武藏

常陸　上總　下野　上野　甲斐　陸奧

出羽　伊豆　飛驒　越後　加賀　能登

佐渡

右三十一ヶ國御代官之分

高五萬石諸入用

金六百二十兩

米七十七人扶持

一萬石ニ付、金二十兩、米十四人扶持

豐後　豐前　筑前　肥前　肥後　日向

右六ヶ國御代官所之分

高五十萬石諸入用

金七百兩
米七十人扶持
一萬石ニ付金百四十兩
米十四人扶持
右之割合ヲ以
高一萬石ヨリ內、三萬石之分御入用下サル
高三萬石餘ハ、四萬石分之御入用下サル
高四萬石餘ハ、五萬石分之御入用下サル
高五萬石餘ハ、一萬石ニ付金五十兩十八人扶持以增シ割、支配高ニヨリテ下サル
但シ五萬石以上ハ、九千九百石マデハ下サレ、六萬石ヨリハ右一萬石ノワリニテ入用下サル
一 一ケ年諸入用米金、二月七月十一月三度ニ下サル、尤銀ツカヒノ場所ハ、入用ワタシノ時ノ相場ニテ下サル、有難キ事ナリ
一 御代官御免、亦ハ死去ノトキハ、右入用永金以ニ月割ニ相ツトメタル日マデノ分ヲ下サルユエ、カネテ其心ヲ以テ諸雜用手代給分ワタサルベシ
一 跡御代官仰付ラレテ、已ニ先御役其年ノ御勘定仕上ナバ一ケ年ノ入用下サレ、跡御代官ヘハ來

一　上知證文亦ハ知行ワタシノ時、タトヘバ五萬五千石ノ御代官千石ワタル類ニテ、一萬石ノ入用ノ儀ハ、以二月割一增減可レ有事

年ノ分御入用下サル

享保十巳歲九月

右之通御定書差出サレ候、尤關東スヂ五萬石高六百兩ノワリニテ候處、一兩年過テ御入用減少ノ旨仰出ラレ、其時御代官衆ヨリ諸雜用金ノ内、五萬石ニテ五十兩ヅヽサシ上、當時書面ノ金高ニナリ、外國々准レ之

一　右諸雜用米金ニ相ナリシ積リハ、支配高五萬石ニ、凡元シメ手代二人、平手代八人、筆者三人、用人一人、侍三人、中間七人、此扶持切米何ホド、筆墨料何ホド、其外在出入用何ホドトツモリ立、神尾若州ノ了簡ニテ、右ノ員數ハ極リ、口米永ハノコラズ公納ニナリ、書付ノ御益相見ユル、勿論六萬石ヨリ以上ノ高ニナレバ、諸雜用一萬石アタリ、金六十兩ニ四人扶持ヅヽ減ズルユヱ、倘々御益多シ、其上支配ノ端高五千石以上ノ端ハ、一萬石ノ諸雜用下サレ、五千石以下ハ諸雜用下サレズ、持ソヘニテ勤ムルユヱ、御代官所高ワタシノ節、端タカ五千石ニ滿ザル樣ニ、四千七八百石ノ端ヲツケテワタリ、總御代官ニテ是ノ端ダカ諸雜用ワタラザル分、餘ホドノ御益見ユル、古來ノ如ク口米永下サラバ、御代官處ノ差別無レ之、亦ハシダカノ多少ニカギラズ、口米ハ何レニモカヽル事ユヱ、御代官ヘ

下サル事ノ止タルハ、大ナル御益ナリ、是全ク若州ノ功ナリ、去ナガラ御代官方近來皆々不勝手ニナリユキタル事、一己ノ不覺悟トハ云ナガラ、元來ハ口米等上諸入用掛タルニヨリテ、自然ト借財モカサムニ付テ、オノヅカラ不正ノスヂモ出來テ、數世ノ御旗本ナルニ、其ノ家亡ビタルモ少カラズ、是レ、悲シムベキ事ナリ、實ニ目前ノ利得ハ、國ヲ富マスベキノ本意ニハタガヘリ、孟子所レ謂「王何必曰レ利、亦有ニ仁義一而已」ト、梁ノ惠王ニ答玉ヒシモ宜ナル哉、國政ニアヅカル人ハ、必ラズ心得アルベキコトカ

但シ手板書役用人侍宛行、從ニ公儀一出ルツモリハ、凡元ジメ手代切米三十兩ニ二人扶持、平手代ハ二十兩ニ四人扶持ヨリ、十五兩ニ三人フチマデ、物カキハ六兩ニ二人フチ、用人ハ七兩ニ二人フチ侍ハ四兩ニ一人フチ等ノ割合ナリ、足輕中間ハ是ニ準ズ、檢見入用五十兩ニテ、致ニ大積一タル入用米金高ナリ

一　口永ハ上方關東諸國トモ、本永一貫文ニ口永三十文ヅヽカケ、尤モ遠國等ニハ仕來リニテ、間ニハカヽリ方チガヒモアリ、奧州石川郡ハ本永十六貫文ニ、口永一貫文ニテ、本永一貫文ニ、口永六十二文五分ニアタル、白川郡ハ本永六貫文ニ、口永三百五十文ヅヽ、本永一貫文ニ、口永四十一文六分六厘六毛ニアタル、ケ様ノ類國々ニモアルベキナレドモ、大カタハ三ノ口マデ、一貫文ニ三十文ヅツ、古來ヨリノ口永ナリ、然ルニ寬永新錢ノコロ錢一貫文ニ三十文ノ口永ヲ、九六ニ直シ三十一文二

分五リンヅヽ取立ルナリ、永ニモ九六錢ウツリ、永一貫文ニ口永三十一文二分五リンニナリ、本永八貫文ニ口永二百五十文ヅヽ取立ル、古來九六錢始マラザル以前、金一兩調錢四貫文ガヘノ時、口永調錢百廿文ヅヽ掛ケキタリシ所、九六錢始リシ後、四文ノ出目ヲ加ヘ、百廿四文亦二十四モンニ一文ノ目ヲ入テ百二十五文、是ヲ本ビタ四貫文ニ割レバ、ビタ三十一文二分五リントナリテ、是ヨリ三一二五ノ法トテ取アツカヒ、早算ニハ本永ヲ三二ニテ除テモ口永出ルナリ、餘ホド世隔タリ、享保五子年ヨリムカシノ如ク永ビタトモニ三十文ヅヽニ仰出ラレ、今ハ諸國トモ大方ハ三十文ヅヽナリ、然レドモ私領ナドハ中ゴロノ法ニ今改ザル處モアルヤ、當御料分武州野火止領ナドハ、今以テ本永八貫文ニ口永二百五十文ヅヽ掛ナリ、右奥州口永直ザル分モ、多分私領上知ト見エタリ

口米ノ勘定上方スヂ遠國ニハ、本米ニ三ヲ乘ジテ得レ之、關東ハ本米ヲ三五ニテ除口米出ル

一　甲州ノ公納口三升口トイフハ古代ノ籾納ニテ甲州升二十盃ノ外增減二盃ヲ入レ廿二盃ニテ口籾一盃ヲ取、其後京升三升二十二ハイノ籾ハ、京升六斗六升、米ニシテ三斗九升六合、口籾一ハイハ京升三升、米ニ直シ一升八合、然バ米一石ニ米四升五合四勺五才餘ニアタル、此内一升五合四勺五才餘ハ公納ニナリ、三升ニ他國並御代官ヘ下サレ、古來御代官ヘ口米永下サレシ時代、口米多キ分ハ公ノ有トス、此如キハ奥州ナドニモアリタレドモ、今ニテハ公ノ有口ト云フ分チモナク、石代金ヲヲサメモアラズ、米ノ有モ甲州バカリハ、今以テ公ノ有口ト名目分リ、公ノ有口ハ米ノ有、三升口ハ石代金ノ有

ナリ、口米ヲ仕出スニハ、本米ヲ二ニテ除ケバ、口米ノ員數出ルナリ

一　高掛物之事　附　米永銀蓙不盡限

高掛リノ儀、唐土ニテハ家口トテ家別ニ掛ケ、本朝ニテモ昔ハ人別ニ掛、中古ハ田地ノ反別ニカケ、今ハ村高ニカヽルナリ、小物成トハ別ニシテ、百姓役ユヱ知行ワタシ、物ナリツメノ高ニムスバズ、御料ニテハ三役、私領ニハ夫米夫金等、或ハ荏大豆其外前々ノ引付ニテ、高ニカヽリ納ルモアリ、村村ニテハ年中村カタニ入用米金、普請竹木人夫等スベテ高ニカヽル、尤關東スヂ村カタハアリテ、武家小前ニハ高ナシノ反別バカリノ村カタハ、反ベツ或ハ取米ダカニカヽルモアリ、亦宗門帳入用其外ニモ人ベツ不レ遁品、顔役トテ高持水呑ノワカチナク、人ベツ割ニテ出モアリ、東鑑ニ云、「文治元年十一月二十八日、補任、諸國平均守護地頭、不レ論ニ權門勢家庄公一、可レ宛ニ課兵粮米領別五升一」トアレバ、頼朝公始テ國々ニ守護、庄園ニ地頭ヲ置ク、權門勢家ノ領地タリトモ反ベツニカケ、兵糧米ヲ出サセ玉ヒシト見エタリ、亦北條時代弘長三年六月、頼朝公副將軍上洛ノ時、百姓等取役ノ事、反ベツ百文、五丁馬一匹、夫二人可ニ宛行一、畠以ニ二丁一可レ準ニ一丁一トアリ、鎌倉時代臨時ノ役トミエタリ、左スレバ高カヽリシ事、頼朝公時代ヨリ始リタルヤ、亦其以前公家一統ノ世ヨリ、國ダカニカヽル諸役モアリタルヤ、其始分リガタシ、御當代ニウツリテ國役タカガヽリ、御朱印寺社領除地公家門跡ノ領地、スベテ朱イン寺社領ニテモ、國ヤク金納ルナリ、其外定式ノタカガヽリハ、村ダカノ内ヤク免許ノ御證

文アルカ、亦前々ヨリタカ役免除ノ分ハ年貢計ヲサメ、タカ掛物ハ除クガ通法也
算法除乘ノ事、タカカヽリ物等割出シテモ、カケ出シテモ、員數ニヨリ不盡出ル事多シ、カギリ無テハ區々ナル故、地方ニテハ不盡ノカギリ四捨五入シテ、カギリヲ極メテオク事ナリ

米之端ハ　　才之位迄

但年貢米等ハ勺ヲ不レ付、合カギリニスベシ、タトヘバ一合五勺ト出レバ二合トシ、一合四勺九才ト出タラバ一合トス、是ヲ四捨五入ト云、石ダカハ尙以テ勺ヲ付ケヌ樣、檢地ノ節ハ三ニ足シ、合カギリニナル樣ニナシ置、タカニ勺才ハ決テ不レ付事ナリ、取米モ合カギリトハ云トモ、見トリ場等至テハ小歩ノ田地、反當リ低ケレバ、合カギリニナシ難キ事モアリ、高掛リ物ニハ勺才マデ付ル、是モ三役ナドハ多クハ合カギリニスレドモ、小キ新田高等新規ニ三ヤクカヽル時、付ズシテハ員數合難キ事モアリ、亦カヽリモノニ由テ才マデツケズシテ叶ハヌ事モアリ、勺ヲツケルホドナレバ、才マデツケルガ法ナリ

永之端ハ　　分之位迄

是モ掛リモノヽ品ニヨリ、高ノ多少餘ホドノチガヒアル時、分カギリニシテハ小高ニカヽルコトサシツカヘノコトアリ、其トキハ厘毛マデ付、畠取永並御藏前入用ナドハ、分カギリニスベシ、厘ヲツクルトキハ、毛マデツクト心得ベシ

銀之端ハ　釐迄

是モ時ニヨリ毛マデツケル事アリ

釐之端ハ　糸迄

是ハ田畠ノ免ニテ、幾ツ何分何毛トマデニカギリ、其末ハ餘内ヲツケルナリ

毛ヨリスヱノ小數ハ糸ナリ、五糸ニテ高百石ニ取米五合ニ當ルユヱ、四捨五入シテ何毛餘内トシルス、釐付ノ外ニハ員數ニ餘内ヲシルス事ナシ、尤見トリ米反アタリニモ才ノスヱニ餘内ヲシルス事モ、亦時ニヨリテアルアリ

一　三役之事　御傳馬宿入用米　六尺給米　御藏前入用

三役ト云ハ、私領ニハ無キ事ナリ、其始メ年暦定カナラズ、課ヤクノ人夫ナド出シ、庸調ノ法アレバ、三ヤクニ類シタル事ハアリケレドモ、三役ト名付定納ニナリタルハ、御當代ニテ始リタルコト、見エタリ、御料村々御傳馬宿入用米・六尺給米・御藏前入用、是ヲ三ヤクト云テ高掛リニテ納ム、前方ハ年々御勘定所ヨリ御割賦ニテ、年ニヨリ不同アリシガ、享保年中ノコロヨリシテ、タシカニ定納ノ員數定リタリ

一　御傳馬宿入用ハ、寛永四亥年ニ仰出ラレ、高百石ニ米六升ヅヽヲサム、是ハ五海道問屋本陣給米其外宿方御入用ナルユヱ、石代金納ニナリテ、道中カタ御除金ノ内ヘヲサムル事ナリ

一　六尺給米ハ、高百石ニ米二斗ヅヽヲサム、是ハ古來御臺所ニテ召使フ人夫、百姓役ニ村々ヨリサシ出タル所、不馴ニテ用ニ立難ク、其上農作モナシ難キユヱ、中古御臺所カタニテ日雇ヲツカヒ、御賄奉行ヨリ人數御勘定處ヘ書出ス、割賦アリテ年々ニ不同アリシユヱ、享保年中六尺ノ人數ヲ凡ニ積リ、扶持ヲ御料ダカニツモリ合セ、タカ百石米二斗ヅヽノヲサメニ定リタリ、是又石代金ヲサメナリ、尤引付ニテ米ヲサメノ所モアリ

一　御藏前入用、上ガタハ高百石銀十五匁、關東ハ永二百五十文ヅヽヲサム、是ハ淺草御藏諸入用ニ相ナリ、右三役私領ワタシニナル、村カタニテハ御傳馬宿入用・六尺給米、合タカ百石ニ二斗六升ヲ夫米ト名ク、御藏前入用金ハ糠藁代ト名目ヲツケカヘ、御料ノ時ノ如ク高ガケニテ取立ル、亦私領上知ノ村カタ、前々六尺給御免ナリ、尤前カタニ取リ來リタル夫米ノタカ二斗ヨリ内ナレバ、夫米御メン、御料並六尺給米カヽル、二斗ヨリ多キ夫米ナレバ、私領引ツケノ如ク夫米納サセ、六尺給ハカヽラズ、右三ヤクノコト、風水旱虫等ノ凶作ニテ、田ダカ五分以上ノ損毛ニアタレバ、三役免除ニナル定法ナリ、亦新田高イリアレバ、三役掛ル、私領上知前々ヨリ糠ワラ代納來リタル村方モアリ、御藏前入用ト名目付カヘル、糠ワラ代ニナケレバ、御料ニナリテ、糠藁ノ外ニ、御藏前入用掛ル事ナリ

一　夫米夫金役之事

夫米夫金御料ニハナク、私領ニアル事ナリ、昔ハ領地知行所ヨリ人足ヲヨビテ、地頭ニテツカヒタル

由、京都ツメニアルハ人足ヲ京ヘヨビテツカヒ、亦江戸ヤシキニテモ水夫トテツカヒシ所、遠方ノ村村京江戸ヘ長々人夫ニ相ツメテ農作差ツカヘ、人々入用モ掛リ、甚ナシ難キ事、亦頭方ニテモ在郷ノ人足用事ノ辨利モ宜カラザルユヱ、高ニ何ホドノ人足米ヲ納メサセ、人足ニテヨビツカフ事止タリ、高當ハ其家々ニテ不同アリ、タカ百石ニ二斗四五升掛ルモアリ、又一斗四五升其内カヽルモアリ、古格ノ通リ取立ル、其始何レノコロヨリト云事シレズ、御料ニナリテモ人足米ヲサメ來リタル村方ハ、私領引付通リニヲサム、人足米ヲサムル村カタハ、六尺ノ給米ニ少ケレバ、人足米御免ニテ、御料六尺給米取メテハ近例ナリ、私領村々統テ人足米掛ルニ非ズ前々仕キタリニテカケサル村カタモアリ、昔ヨリノ仕來リヲ用ユルナリ、又人足金トテ、永ニテヲサムル村モアリ

一　地頭京大坂駿府在番、或ハ屋シキ燒失等格別ノ臨時アル節ハ、人足金トテタカ百石ニ金三兩ヅヽ取タテル定法也

是ハ人足米人足金上納村カタニテモ、臨時金ハ軍役ナドハ別段ニ掛ル事

一　人足役ハ陣屋掃除人足、或ハ雪カキ人足等、又ハ臨時ノ水人足等ハヨビテツカフ、扨又城内普請等大分アル時、傭人足ノミニテハ多分入用掛ルニ付、手前ヨリ働役トシテ、高百石ニ何十人ト極メサシ出サセ、召使フニ員數定ナク、其家々仕キタリヲ相用ユル、右樣ノ役ハ人足米人足金納ル村カタモ、臨時ノ儀ハツカフコトナリ

右人足ツカヒ方ハ、先ニ云如ク昔ハ和漢トモヤトヒ法アリ、ツカヒ方ノ員數法律モ定リアリシカドモ、當世ニテハ一向定リモナク、國々家々勝手次第ノ使ヒカタニナリ、人足米人足銀納ル村カタ、除水普請等ニ人足ツカフ事ハ格別、地頭用ニ正人足當リ候事ハ一重ニナリ、又有マジキ事ナレドモ、先ヨリノ仕キタリナレバ、人足米ヲサムル村々ニテモ、火急ノ人足ハ出サズ、去ナガラ成タケ地頭諸役人心ヲ用ヒ、農作手ニ餘ル時ハ、民ノ難儀ニナラザル樣ニ容赦サレカシ

一　糠藁代之事

此高掛リ物、御料ニハナク、私領ニアルコトニテ、昔ハ馬飼ノ爲糠ワラ知行處ヨリ正納シタルニ、中古ヨリ代銀ヲ高割ニテヲサム、タカ當リハ其始家々ノヒキ付ヲ以テ、員數異同アレドモ、今定納ニナリタリ、何レノコロヨリ代永ヲサメ始リシヤ、其元ヲシラズ、今ノ世モ馬部屋ワラト云テ、苞數ヲ高ニカケ、正物ニテヲサムル所モマレニアリ、私領上地御料ニナリテモ、引付ニテ糠藁代永納ノ村方モ多ク、亦御料ノ節御藏前入用私領ワタリニナレバ、右ノ名目ナリ難クナルニ付、ヌカワラ代ト假ニ名目ヲ付カヘル、掛リタカハ御料ノ時ノ如ク、上方ハタカ百石銀十五匁、關東永二百十文ナリ、其村方ニモ前々ノ如クニ相掛ル、尤モ右ノ御藏前入用ヲヌカワラ代ト名目ヲ付カヘタルハ、タカ當リモ定リアリ、其村御料ヘ歸レバ、元ノ御藏前入用ニナルユヱ、有來リノ糠藁代トハ一ニハ打込レズ、御帳割何レニモ二口ニサシ出スナリ

一　小入用夫錢ノ事　附　百姓割合物御定法

是ハ村方ニテ年中公儀地頭ノ諸入用、並總村ニ掛ル小入用品々、又用惡水川除普請入用ノ人夫、且助郷村々ハ宿場ヘサシ出ス事定法ナリ、人足ハ面々罷出相勤ルコトナレドモ、鰥寡孤獨ノ類、タカハ持ナガラ、自身ノ働キナリ難キ者、或ハ人足當リ多ク、自身出テハ農作サシツカヘニナルユヱ、村役人ヘタノミ人足賃ニテ出ス、是ヲ夫錢ト云フ、年中ノ入用百姓高割ニシテ出スナリ

町場・山方・浦カタ・濱カタ等少高ニテ家カズ多キ村々ハ、家別ワリニ仕キタリタル村カタモアリ、亦田畑反別ワリモスル、何レ昔ヨリ郷例ニテ仕キタリ通リニスベシ、然レドモ公儀地頭ヘヲサムル役掛リ等、高割・家別ワリ・人別ワリナド、其村々ニ先格ニテ仕キタリ、出イリモ無ク濟キタル所、其通リモシ出イリニ及時ハ、以來高ガヽリニスベキ由、享保六丑年仰ワタシ、尤割合方ノコト御書付如レ左

田地ヘ不レ掛村入用祭禮、亦ハ寺社奉行等ノ類ハ、家別ワリニ可レ仕事

但雨乞等ノ入用地面ヘカヽリ候類ノ事ハ、高ワリニ可レ仕事

山林野高ノ類、前々ヨリ入會ノ地以ニ相對ニ割合候儀有レ之時ハ、本百姓ハ不レ及レ申、出作並水呑家抱等ノ者迄、人別ワリニ可レ仕事

丑正月

一　村々小入用夫錢ニ付テハ、間々公事出イリアル事ユヱ村役人私モナク、亦百姓共疑心モナク、年

中ノ村イリ用付立ベキホド紙カズヲ積リ、帳二冊ニシタテ、前ガキシテ、連印村イリ用ノコト此帳面ノ外決シテ相用ヒ申マジク、常式定リタルイリ用幷ニ聊ノ物ハ名主手前ヨリ差出シ置、此帳面ニシルス、モシ臨時ノイリ用村ワリニナルベキ物アラバ、組頭百姓代、幷ニ長百姓ノ内兩三人、名主元ヘ呼集メテ相談ノ上、無レ詮入用ハ不レ及レ申、里正我意ヲ以テ、百姓不得心ノ條決シテ割カケズ、少モ村入用減ズベキ樣申合セ、心ヲ付テ評議ノ上、此事ナキ品ハ此帳面ニシルシ置、盆ト暮兩度ニ割賦シ、此帳ニシルセシ物、假令米金タカ多クトモ、一統議論ノ上、カヽル入用ニ付、小前ノ者共一言モ不レ申、出入ナドニ及マジキ旨堅ク前文ニシルシ、年頭ニ支配地頭役所ヘサシ出シ、押切判ヲ取リ、二冊トモ村方ヘ持歸リ、年中ノ入用當時ノ二サツ同樣ニ付立ル、是ヲ白紙帳ト云、扨盆ト暮ニ至リ、村役人・長農人立合、一カド限僉議ノ上割賦、立合ノ者ドモ奧書名判ニテ、翌年始其年ノ白紙帳ニ、同割賦スミタル小入用夫錢帳二冊トモ役所ヘ出シ置、追テ改ノ上不審ノ事モアラバ、名主ヲヨビテ相糺シ、金ダカノ所ヘ役所押切判ヲシテ、一冊ハ役所ヘ取オキ、一冊ハ村カタヘワタスコト定法ナリ

小入用夫錢帳ヲ越後邊ニテハ萬雜小ヤク帳トモ云、右ノ通リニ取堅メオクハ、以後夫錢出入ナドノ口論オコリタルトキニ、小入用帳ヲ以テ證トス、前文ノ通リアラタメカタ手堅クセズ、名主組頭心マカセニシルシオキ、ワリ付ル小入用帳ハ、出入ナドアリシ時ノ證ニハ少シモナラヌ事ナリ

一　小役銀之事

最モ高カヽリノ物ニテ、美濃國郡上郡ニ限リ、他國ニハ聞及バズ、同郡ニ先年私領ノトキ、小ヤク金四十兩三分、永百五十四文五分七釐五ヤクトワリ付納タル由、其品ハ木錢・夫錢・京夫・江戸夫・牢ノ木・猿樂・塘銀、此七色ノヤク銀タカ、百石ニ百目ヅヽ取タテ來リ、其後タカ増減アル、タカハチガフトイヘドモ、ヤク銀ハ昔ノマヽタカワリニテ取タテ、當時御料ニナリテモ、右ノ七色ヤクヲ小ヤクト云テタカワリニ納ム、因之三ヤク並外タカ掛物ハ免許ニナリ、右發端ヲタヾセシ所、昔地頭京都ニテ御ヤクスヂ仰付ラレ、江戸家敷ヘモ水夫ヲヨビ、牢ノ木ハ牢屋シキ修復ノ材木ヲ出サセ、猿樂ハ配當米農民ヤクニ出サセ塘金ハ川除等ノ入用地頭ヘ取タテ、知行所堤川除等ノ普請ヲナシ來リタルヲ、何年ノコロヨリカ、代金ニ積リタテ員數ヲ極メ、小役金ト云テ小物ナリ同樣ニ、高ワリニテ取タテ來ル、タトヘ右ノ品々不足ニナリテモ、此外民家ヘカケズ、地頭入用ニ仕キタル由ナレバ、小ヤク銀納ムル村々ハ御料ニナリテモ外高カヽリ物ナシ、外ノ國々ニテモ是ノ如キタカ掛リ物納モノ等有ベキナレドモ、國々廣キ事ニテ細カニハ知レズ、右ノ高ガヽリハ先ヅ他國ニ希ナルヲサメモノユヱ、記シ置ナリ

一　荏大豆納之事

關東方荏大豆、納タカ百石ニ大豆二斗荏一斗掛ル、尤モ荏大豆トモ二斗ニ米一斗、代永ナレバ、荏大豆五石ニ代永一貫文ヅヽ下サレ、右納方正大豆ヲサメモアリ、又其年ノ石代金納ニナルモアリ、或ハ何分通

リハ正大豆、殘リハ石代ニナルモアリ、何レ前ノ引付ノ如取計フ、又越後國蒲原郡ハ取米カヽリシ大豆アリ、正ヲサメ並上振大豆ト云テ石代金納アリ、取米十石ニ大豆七斗掛ナリ、ヲサメ方ハ凡三分通リ正大豆、七分迄ノ内外上フリト分ル、上フリ六ツハ一石代銀四匁五分ヅヽ、六十目替ニテ金納ニナル、又正ヲサメノミノ村モアリ、上フリノミノ所モアリ、村々異同アリ、何故上フリト云、安石代ニテヲサムルト云事、地頭役人村方ヘ參リ洗足ヲ出セト云タルニ、村中ノ者洗足ト云事知ラズ、無レ據當村ニハ無レ之ユヱ、代錢ニテ上タキト云テ、役人ヘ鳥目ヲ出シタル引付ニテ、今御料所ニナリテモ、洗足代ト云鄕帳組ノ小物ナリアルヨシ、昔ハ片鄙ニテハケ樣ノヲカシキ事モアリシトミエタリ、右樣ノ不正ナル小物ナリノ類、奥羽二國ノ内ニハ間々アルユヱ、中古奥羽ノ御代官後藤庄左衛門下ノ難儀ヲ思ヒ、能々タダシノ上御免許申乞ハレシカドモ、昔ヨリヲサメ來ル事ユヱ、御免許無レ之ト云コトモアレバ、足前株木役等羽州ニモ有レ之ヤ不レ知、小物ナリノ名目不證ニテ、國々ニアル事ナリ、河内國ノ内ナドニモ、足下米ト云小物成アリ、村中取米掛リニ尋シ所、前々ノ引付ニテ取タテ來リ、何故足下米トテ取タテル事ヤシラズト答ユ、村方古老ノ農夫ニ問ドモ、其故ヲシル者ナシ、是等モ奥羽ノ足前等ノ類ニテ、昔私領ノ時人夫ノ代ニヲサメタル物カ、遠國ニテハケ樣ノ故モナキ小物ナリ、前々ノヒキ付ニテヲサムルト見エタリ、是百姓ノ難儀ニナル事ナリ

此如キノ無實ノ課ヤクハ、私領上知ノ時除キヒキツタスカ、亦ハ受トリタル御代官タヾシノ上、申上

免許アリタキナリ、上ニヲサマルハワヅカニテ、格別ノ御益ニモナラズ、村方ニテハ長々ノ難儀ニナル事ユヱ、仁政ヲ及ボス心ヨリシテハ、時ノ役人勘辨アル事ナリ
後藤庄左エ門ナドハ、仁心モアリテヨロシキ御役人ト云ベシ
一　柿木ヤクモ古ヘヨリ小物ナリニテ、カキノ木ノ有無ニモカヽハラズ、小物ナリノ名目トナリテヲサム、右ノ郡ハ山中多キユヱ、カキノ林多クシテ、民家ノ助ケニナリタル故始リシ事ニモ有ヤ、右色ヲサメ物始リシレ雖シ、是モ前文ノ如ク米ワタル上方ハ、田畑取米ノ十分一大豆銀ヲサメトテ、石代ニテヲサムル、亦前々ノ引付ニテ、十分一ノ内何ホドハ正大豆、何ホドハ銀ヲサメト分ルモアリ、正大豆計リ納ル村モアリ、上方スヂニハ荏ヲサメハナシ、石代ノ事ハ定式相場書出ス場所極リ、直段タヾシノ上、御勘定所得ニ御下知ニ直段相定ル、右ノ外高掛リ納物ノ事荏大豆ニカギラズ、私領上知等ハ春麥•胡麻•繩等其外ニモヒキ付ニテヲサメル村モアリ
一　夫錢足前柿木役之事
此夫錢ハ奥州伊達信夫宇多三郡ニアル、定ヲサメ高掛リ物ニテ、他國ノ夫錢トハ異リ、右三郡ニアリ四一高百石ニ永六百文ヅヽカケ、夫錢ト云取タテル、其故如何ナル事ヤシラズ、四一ダカノコトハ前條ニシルシタル如ク、其年ノ取米増減ニテ、四一ダカモ増減アリ、此夫錢他國ニナシ、トリ米掛リ大造ナル納モノナリ

一　足前柹木ヤクモ、右三所ニアル小物ナリノ定ヲサメモノナリ、此名目ニテモシル人ナシ、尤足前ノコト、或說ニ羽州大石田河岸ヨリ同國米澤城下マデ、行程三日路ホドノ所、米澤城附村々百姓ヤクニ、城ヅメノ鹽ヲ運送スルニ、人夫牛馬ノ費夥クカヽリ、農作ノ妨トナルユヱ、昔ヤク永ヲサメニネガヒ、一軒マヘニ（一軒マヘト云ハ、四一ダカ六十二石ツヅノ一軒マヘトス）一ケ年口數三百六十日ノ積リヲ以テ、一日永一文ヅヽ上納ニナリシト、古老ノ申タルヨシ記タル書物アリ、足ヤクノ代リニヲサムル役永ユヱ、足前ト云ニヤ、此說奧州ノヲサメ物ナレバ聞エタル樣ナレドモ、伊達信夫宇多三郡ヨリ米澤ヘヲサメタルコトモ有マジ、然ドモ昔出羽米澤領地ニテモ有シヤ、又足前柹木役等出羽國ニモアル小物ナリニヤ、同國山奧村方ニ洗足代ト云小物成アリ、昔私領ノ時始リ、右ニシルスモ後人ノ考ノミ、先吏モ色々糺サレシトイヘドモ其始シレズト云

一　七百文替出目之事

是モ右三郡ニアル高ガヽリノ名目ナリ、是ハ本途見取永ニ掛ル品ニ付、員數ハ年々增減アリ、此七百文ガヘ出目夫錢等ハ、他國ニナキ大造ナル掛リモノナリ、右郡々ニアルハ本途物ナリ、半石半永七百代ニテ、他國ニテハ希ナル安直段ユヱ、ケ樣ノ別ヲサメ始リタルニヤ、其發リシレズ、夫錢ニハ口永カヽラズ、足前カキノ木ヤ七百文ガヘ出目ニハ、口永モカヽルナリ

但右七百文ガヘ出目仕法ハ、其年々本途見取永ニ一零三ヲ乘ジ員數ヲ見、其掛出シタル辻ニ、夫錢・足

前・カキノ木ヤク三品ノ永一貫文ヲ、四一高百石ノ位ニ看テ、合永ノ内ヨリ四一高丈ノ永ヲ引キ、殘リ永七百文ガヘ出目ノ元永トナル、是ヲ七ニテ除キ三ヲ乘ジタル永、則出目ノ數ナリ、位ハ割出ノ位ヲ用ル、本途見取ニ一零三ヲ乘ズレバ、本永一貫文ニ三十文ヅヽ口永ヲ加ヘ、其内ヲ四一高丈引去ルハ、前ニ云四斗一升入一俵ヲ四一ダカ一石トミテ、此一石ニ永十貫文ヅヽ諸入用ヲ免ジテ是ヲ引、殘永ヲ出目ノ元永トス、此元永ヲ七ニテ除クハ、古ヘ此國金一兩ニハ永七百文替ニテ通用シタルニ付、七百文ニテ除キ古來ノ金高ヲ仕出ス、此金一兩ニ永三百文ヅヽノ出目ヲ掛テ納ル、其故ハ當時右ノ場所モ、他國並永一貫文金一兩タルニ由テ、古代納メシ金ダカヨリ相場チガヒ丈、當時ノ納金少ナナルユヱ、古來ノ納ダカニ直スニハ、一兩ニ永三百文ヅヽマシテ取立ズシテハ、一貫文ノ金ニナラズ、因テ三百文ヅヽ足レ之心ナリ、然レドモ永ノ員數ハ古モ今モカハル事ナキ所、合永ニ不足金ダケ餘計ニ金ヲ付ルコトハ成難キ故、七百文ガヘ出目ト名付、別納ニシテ古代ノ金ダカニ不足ナキ樣ニス、七百文ノ上端ノ出目ヲ取故、七百文ガヘ出目ト云トミエタリ、然ドモ永ハ形有者ニ非ズ、慶長ノコロ小判始リシ節、金一兩ヲビタ錢四貫文ニ當テ、四貫文ハ永樂一貫文ニカユルユヱ、永ノ名始リ、金ノ異名同樣ニ金ト永トノ相場有ベキ謂レナシ、奥羽タリトモ金一兩ハ永七百文ニ當タル事、出所不レ詳、恐ラクハ後人附會ノ說ナランカ、相場チガヒノ永高七百文ガヘ出目ト符合スルニ付テハ、若右ノ說正キ事ニモアリヤ、右仕出ノ算法左ニ記ス

右　元永四十九貫八百七十二文六分

一　永二十一貫三百七十四文　　七百文替出目

此算法タトヘバ本途見取永五十貫四十五文七分ニ一厺三ヲ乘ジ、五十一貫五百四十七文六分トナル、是一貫文ニ三十文ノ口永ヲ加ヘタル數ナリ、此永ニ夫錢足前柿木役ノ定ヲサノ永五十貫四百十四文三分ヲ加ヘ、小以永六十六貫九百六十一文四分トナル、四一高百石ヲ永一貫文ノ位ニ見テ、十七貫八十八文八分、右小以永ノ内ヨリ引レ之、殘永四十九貫八百七十二文六分、則出目元永ヲ昔ノ相場永七百文ニテ除キ、金七十一兩永二百四十六文六分トナル、此金一兩ニ永三百文ヲ乘ジ、出目永二十一貫三百七十四文ヲ得ル

右元仕出差引左之通

一　高二千石　　何村

本途

此トリ米七百石六斗六升　　見取

内六斗四升　　卯三ツ五分

見取米入

但見取米蘆付除

三百五十石三斗二升　半石　米納

内

三百五十石三斗二升　半石　金納

此永五十貫四十五文七分　金一両ニ米七石ガヘ

本永五十貫四十五文七分　本永一貫文ニ口永三十文ヅヽ

一　永一貫五百一文四分　口永

四一高千七百八石八斗七升八合　四一高仕出方前ニシルス

一　永十貫二百五十三文三分　夫錢

但四一高百石ニ付永六百文掛

一　永五貫九十八文　定納　足前

一　永六十三文　同斷　柹木役

五口小以永六十六貫九百九十一文四分

内十七貫八十八文八分　四一高百石ヲ永一貫文ノ位引レ之

殘永四十九貫八百七十二文六分　出目元永成

此金七十一両永二百四十六文六分

但昔相場金一兩永七百文替ノ積リ

此金四十九兩三分永百二十二文六分

但永一貫文ニ金一兩ノツモリ

永七百文ニテ金一兩納ル分ト

當時永一貫文金一兩分ト　　差引

金二十一兩一分永百二十四文　　昔金高多

是ハ取米辻ハ同タカニテ、昔納ノ金ダカト、當時納高サシ引書面ノ金、昔ヨリ不足ニ成故、前書ニ云七百文ガヘ出目ト云、別段ニ取立ル、此不足金ト七百文ガヘ出目仕出シ金高ト同員數ニナル也

一　小物成浮役之事　山年貢　漆年貢　山小物成　櫨年貢　山役　松山藪林年貢　山手米永　葭年貢葭代　野年貢　菅野錢　野役米　荏油荏役　野手米永　御林下草錢　草年貢　河岸役　草役米　池役　草代　池魚役　茶年貢　茶役　網役　鳥取役　網代役　紙船役

小物ナリウキ役ハ年貢ノ外ノヲサメ名ナリ、一様ニイヘドモ、小物ナリハ總名ニテ、ウキヤクハ其内ノ一ナリ、年貢ノ事ヲ物ナリト云ユヱニ、小年貢ト云意ニテ小物ナリト云、田畠ヨリヲサムル年貢ハ本途ト云、野錢・山錢・林永、又漁獵役・海ヤク、其外品々名目アリテ、古ヨリ郷帳ニ記シ定ヲサメモノナルヲ、總テ小物ナリト云、地所アル其地ヨリヲサムル小物ナリハ、持主モアリ、亦其職品アリ、ヲサメモアレドモ、古ヨリ名目ハアリテ、何故ヲサムルト云事村方ニテモシラズ、支配地頭モシラズ、

是等ハ村中タカ割、又本途年貢ノ取米タカニ掛ケヲサメモアリ、元來小物ナリノ始ハ、上古租庸調役ノ遺法トミエタリ、鄕帳ニシルシ定ヲサメニナリ、小モノナリハ知行ワタリノ節、小モノナリツメトテ、米無レバ一石ヲタカ二石、永ノ一貫文ヲ高五石ガヘト上方筋ハ銀ナレバ六十目、悪錢ハ四貫文ヲ五石ニ當テ高ニムスブ定法ナリ、亦何役・何永・何分一運上・冥加永ナド、云テ、鄕帳外書ニノセテモ、年季ヲ限リ或ハ年ニヨリテ増減アリ、又臨時モノニテ鄕帳ニノセザル品モアリ、是ヲウキヤクト云、此類ハ知行ワタリノタカニモムスバズ、尤モ小モノナリ名目ノ内年季モナク、何運上トシルシタルモアリ、實ハ運上モノニハナク、古ヨリ小モノナリノ名目ナレバ、小モノナリニ入レ、知行ワタシニモ組入ルナリ、總テ御料所ナレバ御勘定所ニテ夫々ノ掛リヤクアリ、小物成リハ浮役ノ間、何方ノカヽリ、運上冥加永ノ類ハ、運上方ノ掛リナリ、名目ノミノ運上トイヘバ、其筋ノヤクカヽリトナル、小モノナリハ國々所々ニテ其名目多クアリテ、其品盡シ難ケレドモ荒マシヲ記ス

上方關東トモ小物ナリヲ高ニムスビ、知行ワタシノ時、永一貫文ヲ高五石替ニ直シワタシ來リ、上方スヂニハ永ナク銀鐚錢ナレバ六十目、鐚錢ハ四貫文ヲ金一兩ニ當テ、五百石ガヘニナシ來ル所、五六十年以前間チガヒノ事アリ、夫ヨリ後誤ノマヽ、上方ノ分ハ二石五斗ガヘニナル、是ハ不吟味ノ通法ナリ、東海道スヂハ永高ノ村多シ、一貫文ノ高ニ直ス時、前々ヨリ五石代ナレバ、御代官所高ニ萬石ノ内ニ、永高十貫文アレバ五千石ノ切ニ直シ、五萬石ニシテ都合石代ダカノ村ヲ知行ニワ

タス時、本途ハ五石代ニ、小物ナリハ二石五斗代ニテワタシテハ一事兩樣ニナリ、如何ガナル者ナリ、然レバ古法ヲ改ムルハ能々吟味セズバ叶ハズ、ケ樣ノ村方萬一知行ワタリニナラバ、近例ニ限ラズ、是非得ト取調伺ヒノ上可二取計一事也

一　山年貢

是ハ百姓持山反別有レ之、面々地主極リ、年貢米金ノ員數モ出方定リ木柴ヲ取來ルアリ、又無反別モアリ、或ハ總村入會ニテ持主定ラザル山カタモアリ、鄕帳外書ニ記ス年貢サシ出ス事ナリ、同ジ山ニテモ、山ダカトテ高ニムスビ年貢ヲサムル山ハ、田畠同樣本途物ナリノ內ニ入、タカ外ノ山年貢ハ小物ナリノ內ナリ、勿論持主アル山ハ田畠同樣、質入ニモナシ賣買スル也

一　山小物成

是ハ山年貢同樣ニテ、名目替リタルノミ也

一　山役

是ハ山年貢同樣トイヘドモ、始ニ木ノ生シゲリシ時、米永ニテモサシ出サズシテハ刈難ク、村中總百姓入會仕來リ、山ヤクト名付米金納ル類ヲ云也、サスレバ木ヲ伐盡シタル時ハ、山役差免スベキ事ナレドモ、小物成ノ部ニ入定納ニナリテハ、木ノ有無ニカヽハラズ、引付物ニナリテ減ジ難ク、又一向ノ兀山不用ノ場所ニモ、山ヤクサシ出スコトアリ、是ハ隣鄕山堺等不分明ニテ、後々堺論等無レ之爲、

役永納置コトモアル也

一　山手米永

是ハ山中殘ラズ村持ニテ秣等刈取、山手米永納メ、又外村ヨリノゾム者アレバ山手米永出サセ、山札ワタシ木ヲ取ラス事ナリ

一　野年貢

是ハ原地等反別ノ請、他村入會ニテ秣カリ取、年貢納ムルヲ云、野カタハ多分持主ハナク、總村モチ也、但野ニテモ山ニテモ反別アリテ、反ニ米永何ホド取ト極リタルヲ年貢ト云、無反別ヨリヲサムル野手村ヤク米永ナドヽ云、何レモ小物成也、亦野高トテ村ダカノ内ニ入アル類ハ、田畑同樣本途物成ノ内也

一　野役米

是ハ反別モナク、芝艸等不二生立一、不用ノ場所ナレドモ、曠野原丘他村境等不分明ニテ、論所ニモナルベキ樣子ニヨリテ、境目ヲ明ラカニナシオキタク、後日證據ノ爲役米ヲ上納スルヲ云

一　野手米取

是ハ秣立ノ野原等總村持ニテ、野手ヲヲサムル村中入會馬艸カリ取、尤村中カリ餘ルホドノ大場ナレバ、他村ヘ草札ヲワタシ、野手米永ヲヲサメサセ、入合カリトルモアリ、又前々他郷他村數ケ村入合

ノ野分モアリ、總テ此如キ類ハ無反別ノ所多シ

一　草年貢

前條ニ有レ之野年貢同然、野方原地等檢地シテ、反別ヲツケ年貢ヲ納ルヲ云、草年貢ト云モ野年貢ト云モ、名目ノチガヒノミニテ同ジ事也

一　艸役米

是ハ反別モナキ曠野等、馬艸ヲカリ米ヲ出スヲ云、反別モシラズ、馬クサノ駄數モ積リ難ケレドモ、前々ヨリノ仕來リニテ役米員數ヲ極メ定納ス、亦新規役米永等申付ルニハ廣狹ヲ考ヘ、又ハ近處等ヲ見合セ、村方對談正糺ノ上可ニ申付一也

一　艸代

是モ艸ヤクコメノ類也、亦ハ他村ヘ芝クサヲ苅セ、代コメ何ホドヽキハメ上納サスルヲ云

一　茶年貢

是ハ高反別アル所ニ茶ヲ植エオクカ、亦ハ畠中茶ヲウヱ置キ、檢地ノ節茶園ノ分竿除ニナリ、茶年貢米金上納スルニ付、高内同樣ニ取アツカフ、去ナガラ高內ニテハ無キユヱ、本途年貢ニハ入レズ、小物ナリノ部也、尤茶畑ヲ高ニ入ルモアリ、夫ハ畠年貢米永ニ入レ、茶ノ年貢米役等ハ不レ納、茶年貢ハ外品トチガヒ、畠年貢ニテモ格別ニヨロシク附ベキ也

一　茶役

反別モナキ野方、亦ハ山ノフモト平地等ニ茶ヲウヱ、面々持分紛レヌ様、高内同様ニ役銀ヲ出ス、村ニヨリ入會ノ山方ナドニ茶役ヲ納メ、他村ノ場所ヲ限リ、茶ノ木ニテ賣ル所モアリ

一　漆年貢

是ハ山原地或ハ塘通ナド、空地ニ漆ノ木ウヱ立、年貢上納スル畠ニアリ、漆木高ニ入タル荒畑モアリ、是ハ上々畑ノ年貢高クトル、正漆ヲサムルモアリ、實ハ蠟年貢トテヲサムル蠟實蠟穗歩蠟ナド品々アリ、大和奥羽越後等ニ多シ、武州秩父甲州ナドニモアリ、其外國々ニ山寄ニハ何方ニモアリ、奥州會津領ハ蠟檢見アリ、漆木束數等ノ改方ハ前條ニ記セリ

一　櫨年貢

是ハ九州ニ多シ、上方關東ニハ蠟ノ實ハナク、蠟ニ似タル物ニテ、蠟燭鬢付等ニナルユヱ堤ナドニウヱル、山カタニモアレドモ、其性ヨロシカラズ、汐地ノ場所ハ大ニヨロシ、木數改年貢ヲヲサムルナリ、尤モ蠟年貢ヨリハ格別ニ劣ル也

一　松山藪林年貢

是ハ百姓持松林・雑木林・竹ヤブ等ノ年貢也、又屋敷前林ヤブ格別廣ケレバ屋シキ歩ニ入、屋シキ年貢納ルハ百姓難儀ニ付、屋シキ反別ニ入レズ、林ヤブ錢申付ルモノアリ、或ハ他村ト堺不分明ニテ、後

後爭論ニ成ヘキ場所、松竹ナド生立難キ所ニモ、年貢ヲ少々出置所モアリ、松山ヤブ林ハ面々地主アリ、亦新規ニ年貢役永ニ申付ルニハ、場所分間シ、大繩反別相極メ、反ニ何ホドヽキハメ、又無反別ニテ申付ル節ハ、竹木生育ノ樣子見計ヒ、隣郷等ノ見分考擧ヲ以申付ルコト也

一　芦年貢芦役

是ハ野方濱方ナドニテ、立毛仕付テモ水場作毛不生立場所芦植付、一反ニ米何ホドヽ上納スル也、高内ノ田地ニテモ、年々水腐リ作物成難キ所ハ申上、アシ植付年貢上納スルモアリ、是ハ本途年貢ニ入ル、高外ノ分ハ小物ナリ也、亦反ダカ流作場ナドニウエル、年貢モ本途ノ内ニ入、或ハ川通リノ地面水押強キ所、水除ノ爲アシヲ植エ圍ヒ、アシ代上納スルモアリ、アシハ水旱ノ難ナキ物ユエ、役永年貢モ外ノ物ヨリ反當ヨロシク付也

一　萱野錢

是ハ高外萱野反別アリ、反ニ何ホドヽ米永ニテヲサメル、カヤ野生タチ善惡ニカヽハラズ定ヲサメ也、尤高内ノカヤ野モアリ、是ハ本途畑年貢ニ入、カヤ畑ト云テ越後蒲原郡等ニ多シ

一　楮油荏役

是ハ山ノフモト亦野原ナド、土地ヨキ所ヲ見立、楮ヲ植テ年貢ヲ出ス、又畑周リニウエルモアリ、是モ畑ハ作物仕付本途ノ年貢ヲ出シ、周リハ空地ユエ楮ウエレバ、其年貢ヲ出ス也、油荏畑ニ仕付ルハ、

畑年貢出ルユヱ役永ハ出サズ、無年貢ノ山等切畠燒畑等ニナシ、荏ヲマキ付年貢役永ヲ出ス、タトヘ生立カネテモ、少々ナリトモ役米永納レバ、自分ノ控地ニナルユヱ、村方ヨリ願フコトアリ

一　御林下草錢

是ハ公儀地頭林ノ下草ヲ村カタニテ刈取ル役永也、地ノ廣狹ニ由テ前々ヨリ定納ニナリ、小物成ノ内也、又ハ其年ノカヤ立等ノ樣子ニテ、請負ニテ年々不同有事モアリ、是ハ定納物ニハ入レズ、臨時浮役物ノ内ニ入也、右モシ新田畑等開發スレバ、下草永定ヲサメニテモ、先例アレバ差免ス也

一　河岸役

是ハ川船着ノ河岸役永問屋アリ、運上ウカヾヒテモ、前々ノ引ツケニテ河岸役納メ來リタルハ、タトヘ川スヂノ變アリテ船着止テモ、小物成ノ名目ニテ常納ニナリタレバ、長々ニヲサムル也

一　池役

是ハ池ニテ水草等ヲ取リ肥シニナシ、亦ハ眞菰ヲ刈、其外ニモ村カタノ助ニナル池ナレバ、役米永ヲヲサムル事ヲ云

一　池魚役

是ハ池ニテ雜喉ヲ取ル役金ヲ總村ヨリ納ルモアリ、亦漁者極リアレバ、其者ヨリヲサムルモアリ、タトヘ魚取ヲ業ニセズトモ、一旦小物成ノ名目ニテ常納ニナレバ、其事ニカヽハラズ役金ヲ出ス也

一　網役

是ハ海邊亦ハ川通ニテ、魚ヲ取ル者共ヨリ役永ヲ出ス、漁獵場ノ事ハ前々仕來リナレバ、他村ノ地所ニテモ網ヲ入ル、海魚取ハ尙以ノ事也、他領ヨリ入會ニ働ク也、然レドモ海川トモ前々仕來ノ外新規ノコトハ成ラズ、若前々網役ハ納メシ者無レ之トモ、鄕帖ニ記シ小物成名目ナレバ、魚取ノ有無ニカヽハラズ

一　網代役

是ハ大川スヂ鯉鮒等取ルアジロヲ立ル役永、アジロ主定共者ノ持場極リ差出ス、明細帖ニモ場所シルシアリ、他領ノ下々モ昔ヨリ持來ル場所アリ、元村ヨリ障ル事決シテナラズ、勿論昔ヨリ持來リタル地所ハ、タトヘアジロ不レ立休株タリトモ、役永ハ上納スル、亦新規ニアジロ所ヲネガヘドモ、新規ノ事ハ相ナラズ、モシ故アリテ可二差許一スヂモアレドモ、前々持來者相障ニ於ハ許シ難シ、然ドモ双方糺ノ上、前後害ナク一村得心ノ上ハ申上、新ラタニ許スコトモアリ、去ナガラ他村下等新規ノ儀ハ決テ相ナラズ、尤役永ノ村々ハ不レ同也

一　鳥取役

是ハ里方ニアル事也、熱地水場鶴雁鴨等ノ付所ニテ、殺生ノ役金納ル、是亦狩人ヨリヲサムルモアリ、マタ村役ニテ出ス事モアリ、小物ナリノ名目ニナリタルハ、ミナ定ヲサメ也

一　紙船役

紙ノ漉箱ヲ云、紙スキノ役金也、是ハ村ヤクニ出スニ非ズ、紙スキ共ヨリ船一ツニ付何ホドト役金ヲ出ス、尤カミスキ渡世ノ甲乙アリ、大勢ニテスクハ船數ニ准ジ餘計納ル、左スレバ紙スキ仕事相止レバ、船ヤク免ズベキ事ナレドモ、外ノ仕事ニチガヒ、カミスキハ酒株同然ニテ、新タニハ容易ニハ許シ難キ事故、船カブアレバ仕事中絶シテモ、村割ニシテ役金相ヲサメオキ、追テ仕事始ル節ハ免除ハ申付ザル事

右ハ何國ニテモアリ、重立タル小物ナリノ品々荒マシ書記ス、此外國々村々小物ナリノ名目ハ夥シキコトニテ、中々書盡シ難シ、右ニシルス如ク、何故ヲサムルト村方ニテモシラザル小物ナリ、昔何ノ爲ニヲサメタルヤ、名目ニテハ一向其故分ラザル類ヒ間々アル事ナレドモ、郷帳外ニシルシ、定メ置ニ仕來リシ小物ナリハ、詰ニテ知行ワタシノ節高ニ結ビ入ルユヱ、免除等相ナラザルコト也、臨時物ハ不ニ申及ハ、浮ヤクハ年季物、マタハ運上永等ニ類スルモノ故、定納等物ナリトハ格別、知行ワタシノ高ニムスビ入レザルユヱ、其職品相止レバ、ソレニヨリテ運上役永等モマタ免許スル事也

一　酒株之事

酒カブノ儀ハ前々ノ引付ヲ以、カブ帖御料私帖トモ引ワタシニ相ナル物ナリ、カブト酒造高トハチガフ、カブ高ハ元ヅクリノ員數ニテ、タトヘバ十石ノカブニテ百石モ二百石モツクリ、高定マリタル員

數ハナク、カブ高ハ昔ヨリカブ帳ニ書ノセ増減ナシ、然ルニ近年米穀高直ニ付貧賤ノ者難儀ニ付、ツクリ高減ズルニ於テハ、世上米穀潤澤ニテ下直ニ成ベシト、御評議ノ上ニテ、天明六年御料私領トモ今迄ノ高ヨリ半石相止メ、半石ツクルベキ由、休カブノ分ハ以來可レ爲ニ無用ニ段仰出ラレタル所、翌年尚又三分二相止、三分一ツクリ仰出ラレ高計リ出シ、其後寛政元酉年日本國中ヲ御改アリテ、カブダカ並ニ當時ノツクリダカ書出シタル所、右ハ分ラヌモ有ニ付、以後タカト云名目止リ、此度御勘定所へ書出シタルツクリダカ永々ノカブニナリ、以來右石ダカヨリ増事成難ク、今迄借カブニテツクリシ分ハユヅリ受、自身保チナリトモ、又ハ元主へ返シツクリ休ムトモシテ、以後貸借御停止トナリタリ、且亦同五丑年酒カブ讓リ渡ノコト、一國一領ノ内ハ格別、他國他領へ讓リワタスコトハ相ナラヌ條御觸書出ル、前々ハ酒家運上國々ニアリシ所、享保年中關八州ハ酒家運上御免ニナリ、當時ハ無運上ニナク、他國ハ前々ノ通リ酒役銀等納ル所モアリ、尤モ新タニ酒ツクリノ事ハ、享保年中御禁制仰出ラレ、有キタリノカブノ外ハ酒ツクリ成難ク、休カブヲ讓リ受、又ハ借ウケ酒ツクリタル所、以來ハ借カブニテツクル事ハ不レ成樣ニナリタリ、遠國ニテハ酒ツクリ札トテ、役所ノ燒印札ワタシ置所モアリ、關東ハ酒ヤク銀無レ之ハズナレドモ、私領ナドニハ前々ノ引付ニテ、酒荷口金又ハ冥加金ナドト云テ、酒家ヨリ納ル所モアリ

天明六年九月二十二日、水野出羽守殿ヨリ大目附山田肥後守へ御ワタシ有レ之書附

大目附へ

諸國酒造米ノ儀、元祿十午年ノ定數迄ハ、新酒寒ツクリ勝手次第ニ致シ、休酒屋ノ儀モ酒造中度分ハ其所ノ奉行、且御料ハ御代官、私領ハ地頭へ相届酒作候儀可ㇾ爲二勝手次第一旨、寶曆四戌年相觸候所、近年米穀下直ノ年柄無ㇾ之、當年ノ儀モ米直段高直ニテ、末々ノ者難儀ニ候趣相聞候間、米穀下直ニ相成迄、追テ及二沙汰一候迄ハ、諸國共是迄ツクリ來リ候酒造米高ノ內、半石ハ半作リ相止メ、半石分ハ可ㇾ作候、且休來候株ノ分酒ツクリ候儀可ㇾ爲二無用一候、若隱作致候ニ於テハ、其者ハ勿論、其所ノ役人迄吟味ノ上、急度可二申付一候間、心得違無ㇾ之樣、御料ハ御代官並ニ御預所、私領ハ領主地頭ニテ、是迄ノ作リ高一々遂二吟味一、半石作ノ積リ可二申付一候

右之通、萬石以上以下領分知行在方町方へ不ㇾ洩樣可二申渡一旨、可ㇾ被二相觸一候

午九月

同七未年七月三日、水野出羽守殿御渡書付、大目附松浦和泉守ヨリ達有ㇾ之候御書付

大目付へ

諸國酒作ノ儀、近年米穀下直ノ年無ㇾ之、米直段高直ニテ、下々ノ者及二難儀一候趣相聞候間、諸國トモ是迄作リ來候酒作米高ノ內、半石ハ酒作相止、仕來候酒作株ノ分、酒作ノ儀可ㇾ爲二無用一旨、去年中相觸候所、當年ノ儀ハ別テ米穀拂底ニ付、追テ及二沙汰一候迄、酒作高ノ內三分二相止、三分一酒

作可レ致候、モシ於レ致ニ隱作一ハ、其當人ハ勿論、其所ノ役人迄吟味ノ上、急度可ニ申付一候條、心得違無レ之樣、御料ハ其所ノ奉行御代官並ニ御預所、私領ハ領主地頭ヨリ早々可ニ相觸一候

未六月

右之通可レ被ニ相觸一候

別紙觸書之通、酒造米高ノ内半石相止、半石分ハ可レ致ニ酒造一旨、去年相布令候所、内高仕入ハ夥シキ事ニ有レ之由ニ付、畢竟奉行御代官領主糺方不行屆等閑故ノ儀ト相聞候、當年ノ儀ハ別テ米穀拂底ニ付、尙更作高減少申布令候間、酒作ノ當人ハ勿論、其所ノ役人迄心得違無レ之樣、奉行御代官領主地頭ニテ一々遂ニ吟味一、作高相違無レ之樣可ニ申付一候

未六月

右之通可レ被ニ相布令一候

寛政元酉年八月、松平越中守殿御渡御書付

大目附へ

諸國酒造米高ノ儀、元祿十丑年ノ作米高ヲ定規ニ致シ、正德ノ頃ハ右ノ三分一、或ハ五分一ト相フレ、寶曆ノ度ハ右元祿ノ高迄ハ、勝手次第可レ致ニ作酒一旨相フレ置候所、近來米穀少キニ付、天明六午年以來減石相觸候、此節ハ前々ヨリ右午年以前迄、作來リ候高ノ三分一ニ可レ致ニ作酒一旨、去々未

年以後相フレ候所、此度諸國屆書殘候上ニテ、右三分一高元祿ノ作リ米高ト見競候テハ、元祿ノタカヨリ當時作リ候三分一ノタカ大ニ相增候、然ル上ハ諸國一統差ツカヘノ筋ハ有レ之間敷事ニ候間、追テ及ニ沙汰一候迄ハ、彌去年以前迄作リキタリ候タカノ三分一ツクルベシ、改方ハ先達テアヒフレ候通リニ心得、隱作增作等致マジク候、休酒屋ノ分ハ、是亦作酒不ニ相成一畢竟酒ツクリ米ノ多ク引ケ候テハ、米直段タカクナリ、下々ノ者難儀ノスヂニ付、前々ノ分量極リ有レ之事ニ候、其趣ヲ可レ存候

諸國酒屋ノ內株ダカ不分明モ多ク有レ之由ニ付、以後諸國一同株ダカト申名目相止メ、此度御勘定所ヘ相屆候造酒ダカノ分、永々ノ株ニ成候事ニテ、其カブ一軒前其マヽ讓リ渡シ候儀ハ、相對次第タルベシ、一軒ヲ何軒ニモ讓リ渡候儀ハ不ニ相成一候

只今迄借カブニテ酒作リ候分モ有レ之由相聞ニ候、右ハ讓リワタシ候トモ、亦ハ本カブノ方ヘ返シ候トモ、相對次第ニ可レ致候、モシ無レ據仔細有レ之候ハヾ、御料ハ其所ノ奉行御代官、私領ハ領主地頭ヘ其故ヲ申立指圖可レ受候、以來新借貸ノ儀ハ決テ致スマジク候、尤モ此方相トヾケ候酒屋ノ內、讓リワタシモ不レ致、以後相續ナリ難ク、止カブニナル儀モ有レ之時ハ、御料私領トモ其スヂヘ申立、聞トヾケノ上右止カブヲ引受、新造酒始候儀ハ可ニ相成一事ニ候、右ノ趣堅ク可ニ相守一候、モシ違犯之輩於レ有レ之ハ、可レ爲ニ曲事一候

右之通、御料ハ御代官御預所、私領ハ領主地頭ヨリ早々可ニ觸知ー者也

酉八月

寛政五丑年十月二十二日、松平伊豆守殿御渡、大目付三枝豐後守相渡候御書付

大目附

諸國ニテ酒作候者、以ニ相對ー酒造カブ讓ワタシノ儀、其國限リハ格別、タトヘ一領ノ内ニ候トモ、向後他國ノ者ヨリ讓リ請或ハ他國ノ者ヘ讓リワタシノ儀ハ、相ナリ難キ事ニ候、右之旨御料ハ御代官、私領ハ領主地頭ヨリ、不レ洩様可ニ觸知ー者也

丑十月

右之通可レ被ニ相觸ー候

一　釜役之事

釜役ト云ハ、古昔ハ總テ役ヲ掛ルニ物ノ譯定ラザルヲ、石高免狀ト云事モナク、年貢モ取レ次第ニ取リ、百姓住宅モ定ラズ萬事ニ不調ナル故、棟役ヲ掛テ家々役ヲ取ル、夫ヲ百姓難儀シ、家ヲ長屋ノ様ニ作リ、棟役ヲ掛ル様ニスルニヨリ門役ヲ掛テ取故、亦門ヤクヲ厭ヒテ、ロフサギ少クスルユエ、其後ハ内ノ竈ヲ數ヘテ、釜ヤクト名付役ヲ取立ル、釜ハ鍋釜ヲ掛ル自在鈎ノ事也、中古石高等定リテハ、村別ヤ釜クト云ハナシ、今モ越前ニテ小物成ノ名目ニナリテアル由也、其他山家ニテハ間々アル

事也、持高ニハカヽハラズ、家一軒ヨリ、錢何ホドヽ平等ニ割付集メ、村入用ニスル所モアリ、是ハ山内木艸ヲ取コト高ニカヽハラズ、家並ニ入會カリトル故也、亦塘切所水留、或ハ猪猿カリ出ス樣ニナリ、右人多ク入時、持高ニカヽハラズ、竈役ニ一人ヅヽ出スコトモアリ、是等モ此名目ニテ、遠國山中ニアル小物成ノ類也

一　分一金銀之事

是ハ魚獵其外ニモ、商ヒ物賣高ノ分一金銀、冥加ノ爲上納スルコトヲ云ナリ、分一ノ多少ハ其品ニヨリテ、段々アリテ一ナラズ

一　鰯分一金

イワシヲ取ルハ海中第一ノ大業也、網引上タル時、漁者ト五十集（イサバ）商人、（魚ヲバ五十集物、同商賣スル者ヲ五十集商人ト云）、其濱ノ役人立會、引上タルイワシヲ何百何十盃ト計リ、其日ノ相場ヲ極ル、是ヲ水名相場トス。（四斗樽ニテ山盛四盃入籠ヲ一盃ト云、是ニテ金何兩ト相場ヲ立ル）尤右ニハ限ラズ、總テ漁事ニテ取立相場ヲ立ルヲ云ナリ、此相場ノ二十分一ヲ、其浦方ノ支配御代官領主地頭ヘ運上トシテ取立ル也、イワシ網ハ大八手・中八手・小八手ト三段アリ、網一張ニ眞アミ船・逆アミ船・魚取場トテ三艘ヅヽニテ引ク、亦外ニ艘張ト云テ、船二艘ニテ引ク。イワシアミノ小獵モアリ、大八手アミハ長凡四十二ヒロ、幅上ニテ三十六ヒロ。下ニテ四十六ヒロ、船ハ凡長六七間、人數四十四五人ニ

テ引ク、其内ニ船頭沖合獵師水主色々ノ役アリ、年中此人數ヲカヽヘ置、風雨其外天氣アシク沖ヘ出難キ日ニハ、何十日モ休ミ居ル事故、大造ノ入用掛ル、亦新規ニ網船仕立、道具取ソロヘ、人數給銀飯料等一張ニ付凡金六七十兩モ掛ル、中八手一張三十四五人、小八手二十四五人餘モ乘リ組アミ仕立諸雜用多分ノ金高カヽリ、實ニ海中ノ大獵也、亦マカセト云アミアリ、一名舌アミト云、是ハ至テ大ナルアミニテ、船十餘艘モカヽリ、海上一里餘モ引廻シヽ其内ニテ八手アミヲ用ユ、當時房州上總九十九里邊ニアル由、近年迄銚子飯岡村ニアリシカドモ、今ハ斷テナシ

一　鯨分一金

鯨取ルハ同樣海中ノ大業也、突クジラ分一ハ、是モ水名相場二十分一ノ運上也、尤クジラ取ハ國々ニハナシ、重モニ紀州熊野浦•肥前五島•唐津•大村•松浦•筑前福岡領ナドニクジラ取ノ大身者アリ、此外ノ國々ニモ海ニヨリテクジラ取ル所モアレドモ、大造ナル獵ハナシ、關東ニテモ房州勝山ウラニクジラ取事アリ、是ハ土クジラト云テ、小クジラ肉ハ食セズ、肥シニナル油ヲトル、尤皮ノ小喰ハ食料ニシテ買商ス、突クジラハ一番ノモリヲ入タル者何分通リ、夫ヨリ二番三番ト割合、尤一番計リニテ留ルモアリ、又何番モ追々ニ打モアリ、其外掛合ノ物分方定法アリ、魚ノ大小ニモ由レドモ、世話ニモクジラ一本取レバ、七里浮ムト云ホドノ大キナ事也、クジラ取ノ頭大村ノ儀太夫、松浦ノ與五郎ナド云者、數千人ノ者ヲ手下ニ付ケ、領主ヨリ格式等許サレ、至テ大身ノ者也、此類クジラ取ノ頭ハ他國ニ

モアルベシ、其外流クジラ切クジラ等、此魚トラヌ濱ニモ希ニアル事ナリ、此定法ハ奥ニ記ス

一　市賣分一金

是ハ市場ニテ商ヒ物ノウリ高ニヨリテ、二十分一、三十分一、其市場前ノ仕來リヲ以立ル事モアリ、又ウリ高ニカヽハラズ、敷筵ノ員ニヨリ取立ル所モアリ、種々ノ事アレバ、其所々ニ無レ之テハ委ク記難シ

一　受山分一金

是ハ百姓持山大木等アル山ハ、持主自由ニ伐トルコト相不レ成、願ノ上キリトル故、其爲ニ冥加ニ伐木ノ內何十分一上納スル事アリ、是等ヲ受山分一ト云

右ノ外ニモ、分一ノ類何ホドモ有ベシ

一　突鯨・寄クジラ・流クジラ・切クジラ分一定法之事　附　流クジラ有レ之時　取計諸書付

一　突鯨　二十分一　一　寄魚　三分一　一　流鯨　十分一　一　切魚　二十分一

右ノクジラアル時、近村ニ入札申觸、落札金高ノ內、其場所御料ナレバ公儀ヘ分一相納メ、私領ハ領主地頭ヘ納ム、御料私領入會ノ村ナレバ、落札金高割賦其當ノ分一ヲ納ム、是ハ享保九辰年十二月、御代官原新六郎支配所分鄉ノ村方ニ、寄クジラアリシ節、伺ニテ定ル、近年安永五申年二月、常州鹿島浦ヘ寄クジラ有シ時、分一ノ儀御勘定組頭橫山孝之進ヘ御代官楯伺ヒ、尙又評定所組頭江坂孫三郎ヘ

御定法承リ合タル所、前文ノ通リ分一ニ相違無レ之由、兩人トモ申聞リ、亦嚴有院樣御代寛文九年、下總國銚子浦御料私領入會ノ所ヘ寄クジラ有シ時、御料私領ト割賦シ、御料ノ高ニ割タル内、半分ハ公納ニナリ、半分ハ御料ノ者ヘ下サレ、亦同斷立會ツキ留タルクジラ、御料ハ分割當五分一、公納ハ分一ニヲサメタルヨシ、又其後前書ノ通リニ御定法キハマリタル事ト見エタリ

一 突クジラトハ、生タルヲツキ止タルヲ云、元來クジラ獵ハ前條ニ云如ク漁場極リ、獵師ノ頭アリテ常式ニ出スクジラ獵分一等、其外濱法アリテ嚴重ニ取極有ルコト也、常ニクジラ取ル所ニテ無キ場所ニテ、突鯨可レ有故ハナク、勿論取ベキ道具等不調ニテ、獵師共寄合早船ヲ以テツキ止マジキ事ニモ非ズ、若ツキ留タル時ハ、外ノ漁トハ違ヒ、早々村役人ヘ達シ、御代官領主地頭ヘ申上見分ヲ受、近村ヘ入札申觸、落札ノ上賣ハラヒ、其直段ノ内二十分一役所ヘ運上ヲ納メ、漁者方ニ其浦仕來リシ定法モ可レ有レ之、爭論等ニ成ラヌ樣村役人ドモ取計ヒ、ツキ止タル時ノ働キニ由テ、夫々歩分スベシ

一 寄クジラト云ハ、手負ニテ苦シミ、或ハ死シタルクジラ流レ來タリ、自然ト地方ヘヨリタルヲ濱ヘ引アゲ、言上シテ入札シテ賣ハラヒ、代金三分二公儀、又ハ領主地頭ヘ分一ニ取、三分一寄タル村カタヘ下サル、是ハ沖ニアルクジラヲ人夫入用ヲ掛ケ引ヨセタルニ非ズ、自然岸ヘナガレヨリタルヲ引アゲタルノミ故、地頭ヘ三分二、村カタヘ三分一下サル定法ナリ

一 流鯨

是ハ死シテ海上ニ漂タルクジラヲ見付、大勢船ヲ出シテ繫トメ、濱ヘ引上タルヲ云也、十分一公納、其余ハ村カタヘ割賦ス

一　切鯨

是ハ海上ニ漂フクジラヲ見付、引アゲント思ヘドモ、火急ニ人數船等調ヒ難ク、彼是暇取ル内遠ク流ルヽユヱ、獵師ドモ走リ舟ヲ出シ、手ニ手ニ大刀ヲ以テ、魚ノ上ニ乘リテ切取ルヲ云、尤モ我劣ラジト舟ヲ乘付、長キ出刄ニテキリ取コト、實ニ戰場ノ如クニテ、其中ニハ怪我人等モアリ、其間ニハ次第次第ニ遠ク流レ、浪風荒ク思フマヽニキリトル事モ成ガタク、小舟ニテハ追掛切取難キユヱ、大方ニシテ乘歸ル、右取タル白肉赤肉ヲ人々集リ、五十集商人立會ニテ入札シ、落札直段二十分一ニ納メ、其餘ハキリ取タル獵師共ノ所得トナル、尤公納分一ノ外ニ、其浦々ニテ極メアリ、村カタヘモ運上ヲ出ス、勿論支配役人村役人モ立會フ事也、此キリクジラハ、下總銚子ナドニ度々アルコト也

右四品トモ、クジラ見掛レバ速ニ村役人ヘ相達シ、支配役所ヘ屆出、村役人並ニ其地御料私領役人トモ罷出、夫々見分シテ入札可ㇾ觸事

一　寄鯨、流クジラ等アル濱方ヘヒキ上タル上、御料ハ御代官ヨリ御勘定所ヘ屆書サシ出ス、其文言ノ内、數日漂流ノ趣ニ付、日間有ㇾ之ホド生魚次第ニ古ク相成、御拂直段下直ニ相成可ㇾ申ニ付、手代見分仕直シ、御ハラヒノ積リ入札相觸、落札ノ上錢增等手ヌカリ無ク遂ニ吟味ニ相ハラヒ、入札書圖相

流差出候樣可ㇾ仕旨、書附ニ記入候カタヨロシキヨシ也

一　見分致樣ノ儀ハ、總丈ケ巾シヤチ掛、其外疵ノ有無、或ハキリ取タル跡ノ有無巨細一々看合、疵口寸尺ヲ取リ、書圖ニ仕立ル、尤左右二マイ、腹ノカタ一マイ、圖二マイニカキ、創ノ所委シクシタタメ、其上ニテ御料所並ニ近村々入札觸出、落札ノ上錢增遂ニ吟味一、尚又二番フダ迄增錢ヲ糺シ、諸證文等取ㇾ之御ハラヒニ致シ、ヨクヨク念入御勘定所ヘウカヾフベシ

延享二丑年正月、御代官所並ニ私領分鄉常陸國鹿島郡下津村沖合流鯨有ㇾ之、同村濱ヘ引上候節ノ取計諸書物、爲ニ見合一左ニ記ス

常陸國鹿島郡

下津村

覺

一流疵鯨一本　長九尋程

右ハ私御代官所常州鹿島郡下津村沖合ヘ、當月廿四日流クジラ有ㇾ之、處ノ者見附漁船差出、右村岸ヘ爲ニ引寄一申候所、シヤチ掛ケ等モ相見エ、其上切跡等モ有ㇾ之、數日流候體ニ相見候由訴出申候、早々手代差出遂ニ檢分一爲ㇾ仕、追テ可ニ申上一候ヘ共、先御註進申上候、以上

丑正月

御勘定所　　何之誰

常陸國鹿島郡
下津村

覺

一流鯨一本　但九尋一尺五寸

右ハ私御代官所常州鹿島郡下津村ヘ引寄候流鯨ノ儀、先達テ御下知伺候處、入札吟味仕、一應伺ノ上ニテ相拂可レ申旨被二仰渡一候ニ付、其段見分ノ手代ヘ申遣候所、右飛脚夜中罷歸、手代方ヨリ申越候ハ、村々入札相觸候所、買人共相願候ハ、丸魚ニテ入札被二仰付一候ヘドモ、キズノホド得ト相知レ難ク、切分ケ入札被二仰付一候ヘバ、買請候ニ手間モ不二相掛一候間、右分見込ニテ入札仕度旨相願候由ニ付、願ノ通切分入札申付候所、全體魚古ク、其上春氣ノ儀時節惡ク候所、此上四五日モ御拂遲ク成候ハヾ、皮肉油滅、肉腐用立兼、迚モ入札難レ仕由申レ之候、左候ヘバ格別御不益ノ筋ニ罷成候故、御下知ニハ相違仕候ヘ共、直段ノ積入札申附、札數三十三枚ノ中、落札書面ノ通ニテ御坐候、增金高ノ儀再應吟味仕候ヘドモ、魚古ク此上增金難レ仕旨申候ニ付、漸金三歩增申付、都合代金三十三兩ニテ御ハラヒ申付候旨申越候、則入札三十三枚、外ニ書付三通、畫圖三枚相添差上申候、右十分一上

納、殘金村方ヘ被レ下候所、追テ伺書差出可レ申候、右爲ニ御屆ニ申上候、以上

丑二月

何之誰

御勘定所

覺

村高二十六石一斗三升五合

常陸國鹿島郡

下津村

一　流寄鯨一本　　但長九尋一尺五寸、橫一丈三尺

此代金三十三兩

內三分　吟味增　內二十九兩二步永二百文

取上候所ノ者ヘ下サレ候分

殘金二兩一分永五十文、十分一運上

高十七石四斗四升四合五勺　　御料分

金一分永二百六十文三分八厘

右松平清五郎ヘ被ㇾ下分

高百八石六斗九升五合

金二兩三分永九十三文六分二厘

右ハ先達テ御註進申上候、私御代官所松平清五郎知行所分鄕、常州鹿島郡下津村沖合ニテ流鯨有ㇾ之候ニ付、去月二十四日引寄訴出候ニ付、早速手代差遣見分吟味候所、シヤチ掛ニテ上下口先無ㇾ之其上數日海上ニ流候ト相見エ、切疵數ヶ所有ㇾ之、第一腹下不ㇾ殘切取、肉有ㇾ腐申候、右魚御拂ノ積ニ、御料私領ヘ入札相觸候所、札員三十三枚ノ內、書面ノ金高ニテ下津村半兵衛ト申者落札ニテ御坐候間、增金吟味仕候所、魚肉腐リ油トリ少キ故、增金難ㇾ仕旨申候ヘドモ、再應相糺金三分爲二相增一、合金三十一兩ニテ落札申付候、因ㇾ之流魚御定ノ通、右金高ノ內金三兩一分永五十文三分八厘上納仕、金二兩三分永九十三文六分二厘右村分鄕松平清五郎ヘ被ㇾ下候、殘金二十九兩二分永二百文御料私領ノ無二差別一、下津村一村ヘ被ㇾ下候樣仕度奉ㇾ存候、於ㇾ然ハ右運上永四百五十六文三分八厘御金藏ヘ上納仕、當丑年御勘定ニ組仕上ゲ候積リ、御證文可ㇾ被ㇾ下候、以上

延享二年丑二月

何之誰

御勘定所

御附紙　書面ノ其方御代官所松平清五郎分郷、常陸國鹿島郡下津村沖合ニ此度流鯨有レ之趣訟出候ニ付、手代サシ遣吟味ノ上入札申付、三十三兩御ハラヒ申付ラレ候間、右金高ノ内御定ノ通十分一運上ニ申付、此内以ニ高割ニ永四百五十六文三分八厘致ニ上納、金二兩三分永九十三文六分五厘ハ分郷松平清五郎ヘ相渡シ、殘金ノ儀下津村ヘ下サレ候樣相伺ハレ令ニ承知ニ候、於レ然ハ伺ノ通取計、御料分運上永四百五十文三分八厘取立上納致サレ、當丑御勘定ニ組仕上ゲ候、斷ハ本文ニ有レ之候、以上

丑五月

差上申證文之事

一　金二十九兩貳分　永二百文

魚御拂ノ内村方ヘ下サレ候分

右ハ先月二十四日、常州鹿島郡下津村ヘ引寄候流クジラ御拂仰付ラレ、都合金三十三兩ノ内、十分一運上金三兩一分永五十文上納仕、殘金書面ノ通御渡被レ下奉ニ請取ニ候、早々村方ヘ罷歸、御料私領ヘ無ニ相違ニ割賦仕、相ワタシ可レ申候、右割賦ノ儀ニ付、不正ノ條御坐候バ、後日ニ如何樣ニモ可レ被ニ仰付ニ候、依證文如レ件

延享二年丑二月

常州鹿島郡下津村

名主　誰

組頭　誰

百姓代　誰

何之何某樣

御役所

一　諸運上冥加金銀臨時納物之事　附　水車濫觴　水車運上　市場運上　小漁運上　簗運上　池運上　鳥札運上　高網役　鷺運上　鐵砲運上　問屋運上　油船運上　醬油屋冥加永　旅籠冥加永　砥石山運上　鉛明礬硫黄山運上　帆別運上　川船役　小船役　室屋役　炭竈役　大工役　桶屋役　石屋役　紺屋役　金銀銅鐵　鍛冶役　新田地代金　御林木幷往還並木立枯木拂代　御普請殘木鐵物等拂代　取上田畑幷闕所物拂代

諸運上冥加永ハ村方助成ノ爲、渡世諸商賣漁獵、或ハ水車等ノ類、其外何品ニテモ、請負人等アリテ年季ヲ限リ、其品ニ由テ運上米永ヲ納メ、亦職人共細工ノ內役錢ヲ出ス類也、運上ト云モ冥加ト云モ同樣トイヘドモ、急度定リタル物ヲ運上ト云、亦願ヒテスルコトユヱ斯云也、何ホド上納致スベシナド云類ハ、是トハ少シ意味チガフトイヘドモ、元來ハ同ジ事ニテ、何ト云テモ苦シカラヌ事也、然ドモ運上トハ云難物モアリ、其故ハ何ゾ所得ニナル物等新規ニネガフ時、金何ホド納メ申ベシト云樣ナル事ハ運上トハ云難シ、年貢ノ外是等ハ元來年季物ナレドモ、鄕帳外書ニ記ス

分一金ハ、漁獵ナド取上、商ヒ高廿分一、亦十分一等、商ノ品ニ由テ分一ノ分アリ、或ハ受山材木伐出シ等ノ分一モアリ、何レモ分一金ハ鄕帳ニハシルサズ、然ドモ夫モ分一ノ物ニヨリ前々ヨリ小物成

ノ名目ニナリ、常納ニナルモアリ、ケ様ノ類ハ分一名目アルモ、郷帳ニシルス臨時物ト云ハ、タトヘバ新田開發地代金、又ハ御材木往還並木立枯ハラヒ代銀、缺所物ナドニ限ラズ、御ハラヒ物等ハ入札相調、引受納ルモアリ、又村受ニテ納ルモアリ、何レ何品ニテモ、其年々臨時ニ納ル物ハ、其年カギリノ事故、郷帳ニノセズ取立ルヲ臨時物ト云、右運上等モ一統ニ云バ、總テ小物成ナレドモ、右ニモ云如ク、常ヲサメト浮役トノ違ヒアル段、郷帳外書ニノセタル物ニテモ、物成詰ノ高ニ結ブト不レ結トノチガヒアリ、運上冥加永浮役ノルイ、是亦種々多クテ數ヘ難シトイヘドモ、共一二ヲ左ニ記ス

一　水車運上

水車ノ事新規ニ願出取立ルニハ、水下ノ水サシツカヘ有無ニハ不レ及、水元隣村支障等得ト相糺、川ノ上下近處障リナクバ申付ベシ、運上冥加永、其村又ハ近處ニ例モ多カルベシ、勿論車ノ大小ニ由テ目ノ多少アリ、凡ワタリ七八尺位ノ水車、永二百文ヨリ二百五十文位、九尺ヨリ一丈一二尺ニ及ブクルマハ、永三百五十文ホドヨリ四百文位、夫ヨリ稼ノ大小ニヨリ不同アリ、私領ナドニハ無運上ノクルマモアレドモ、渡世ノ爲仕立タル水クルマハ、冥加永可レ爲レ納事也

一　水車ノ始リハ、魏志ニ曰、馬鈞京師ニ居レリ、城内ニ地有、園トスベシトイヘドモ、是ニソヽグベキ水ナシ、故ニ飜車ヲ作リ、童兒ヲシテ是ヲ轉ゼシメ、水ヲソヽグバ自カラメグル、今田家ニ水グルマアリ、天旱スル時水ヲ引テ田ニソヽグ器也、亦漢ノ靈帝畢嵐ヲシテ此クルマヲ作ラシメ、水ヲ引テ

南北ノ郊路ニソヽグトアレバ、同人始テ制スルナランカ、兩說未ㇾ詳本朝ニテハ水車ノ起リハ、人皇五十三代淳和天皇天長六年、桓武天皇ノ皇子大納言良岑安世卿始メテ水車ヲ工ミ出シ、宇治ノ里人ヲ召テ作ラシメ、農業ノ助トシ玉フト古書ニ見エタレバ、本朝ニテ工ミ出シタル樣ニモ聞ユ、安世卿唐土ノ昔ヲ看テ其法ヲ教ヘ給ヒシニヤ、又其造リカタ和漢異同アルニヤ、事實詳ナラズ、今水車ヲ以田畠ニ水ヲソヽグ器トハセズ、舂碓等ノ仕掛ニスルハ、後世ノコトト見エタリ、今モ田ニ水ヲソヽグ水車播州作州ニアリ、是ハクルマノワタリ五六尺ニシテ、羽子ニ箱ノ如ク緣ヲ付田頭ノ溝ニ仕掛、一人ニテ踏廻シ、水ヲ田ヘ引入ル農具也、唐土ノクルマ本朝ニテ安世卿作リ給ヒシハ是ナルベシ、後人是ニナラヒ、流勢ニテマハルクルマヲ仕出シタルト見エタリ

一　市場運上

市場運上ノ事ハ昔ヨリノ定リ、新規ノ市場願ヒ出トモ、容易ニ不差許、市ニモ色々アリ、樣々ノ雜物商賣スルモアリ、穀物ノミ、或ハ絹布糸綿農具馬魚食物、其外萬物遠方ヨリ其市ヲ心掛ルユヱ、其所所ノ仕來アリ、市場運上ノ事ハ町數ノ長短ニヨリ、運上多少モアリ、同樣ニハ極メ難シ、又商物店役トテ店々ヨリ取立ルハ、市毎ニ不同アリ、市場御益ト極ル所ヨリ納ル、御益ハ所ノ繁昌不繁昌ニカヽハラズ、小物成名目ノ樣ニナリ、不同ナクヲサムル、然レドモ昔ハイチアリシ町場ニテモ漸々オトロヘ、近年止タル場所御免ネガヒニ出レバ、吟味ノウヘ御益御免ニナル事モアル故、イチ運上ハ定ヲサメ小

物ナリトモ定ガタシ、先ハ浮役ノ類也

一　小漁運上

是ハ鰻鮒等ノ漁ハ定法ノ分一アリ、其外ノ魚釣職長縄網海川トモ、其所々ニ請負人年季ニテヒキウケ、是ヨリ是迄何ホドノ御益可二差出一ニ付小猟物賣出、猟師共ヨリ取立タク相ネガヒ、吟味ノウヘ運上高極メモアリ、亦國處ニヨリ小猟モ、公儀地頭ヘ直段相場分一取立ルモアリ、猟場ノ儀ハ、上方東國西國北國南國何レノ國々ニモ有事ニテ、其地ノ仕來アルコトニテ、運上分一等ノ取立方同樣ニハナキ事也

一　簗運上

是ハ大川筋鰻鮒、其外川魚取ルモノニテ、石積ニテ川ヲ瀬切、魚道ヲ一ト所ヘツボメ、其所ヘ簀ヲ當テ、落來ル魚ヲ取也、山川ニアルコトニテ、大川ニテハ行ヒ難シ、大川ニテ用ユルハ大竹ニテ編ミ、間數モ廣シ、又船通ノ川ナレバ片方ニ寄セ、通船ノ口ヲアケ、差ツカヘナキ樣ニス、場所モ昔ヨリ定リ、新タニ取立ル事ハ容易ニハ成ガタシ、御益ノ事ハ大小ニ由テ多少アリ、勿論年季モアリ、亦村持モアリ、請負人有モアリ、昔ヨリ持主極タルモアリ、何レヤナ仕タテタル者ヨリ御益サシ出ス、何レモ子細アリ、休ム年ハ御益サシユルス、然レドモ年季ヲカギリ、慥ナルウケオヒアレバ免サレス

一　池運上

是ハ池ニテ水草ヲ取、亦ハ鯉鮒其外魚取モ、其池一圓ニ支配シテ運上申付ル、大方イケ役同然ナレドモ、イケ役ハ定納小物ナリニテ、村役ニヲサメ、右御益ハ持主アルカ、又ハ受負人ナドアルユヱニ、浮役ノ類ニテ、イケ役トハ少シワケ違フ也

一　鳥札運上

是ハ鳥取役同様、熟地田方水附等ニテ鳥ヲ獵致タキ由願出ル者アル時ハ、御料私領共役所ヨリ燒印ノ木札ワタシ、一枚何ホドヽ相當ノ御益申付、此札ヲ下ゲ、居村ハ勿論、他村ニテモ一領ノ內ハ、心ノマヽニ獵ヲスル也、鳥取役ハ村役ヘ役金差出シ、定納メ小物ナリ也、鳥札御益ハ獵師ヘ札ヲワタシテ其業ヲナサセルユヱニ、是ハ外ノ事トチガヒ、浮役也

一　高綱役・鳥運上

高綱役ハ冬春ノ內鴨ノ類ヲ取、鷺運上ハ夏秋鷺ヲ取ル運上也、兩方共勢州長島本田新田付ニ重ニアリ、御料私領役人立合入札ヲ申付、双方村カタ高割ヲ以運上高キハマル、此子ガヒ勢州ニモカギル事ニアラズ、他國ニテモ多クアル事也

但高綱ニテ鳥ノ取樣ハ、長七尺ホドノ竹ヲ水タマリ、亦ハ田方等ヘ鳥ノ付所ヲ見立、十四五間ホドヘダテ、互違ニ六十本ホド立並ベ、糸ヲ右ノ竹ニ二重ニ卷付、月ノ出入ニ鳥ノサワグ時、糸ニ卷掛テ取也

一　鐵砲運上

是ハ鳥獸オドシト、亦鑿取ト兩用ノ運上也、オドシ筒ハ猪猿鹿ナド作物ヲ荒スユヱ、無主ニテオドスノミユヱ、御益ニモ及バザレドモ、鐵炮ミダリニウツ事成ラズ、由テ村役ニ少ノ御益ヲ差出サス也、尤無運上ノ處モアリ、獵師筒ハ渡世ノ爲ニ借ツケル事ユヱ、獵師共ヨリ御益ヲ上ル也、尤オドシ筒ヨリ格別多ク納ム、鐵炮ノ事ハ御料私領トモ御定法アリ、證文サシ出シ、畜生仕トメシ書付サシ出ス也、關東ハ別シテ六カシク、獵師モ四季ウチ・二季ウチノ分リアリ、村々新規ニネガヒ出ルモ聞屆無之

一　問屋運上

是ハ湊河岸場町場ニ、穀物問屋ヲ始メ種々ノ問屋アリ、其外諸商賣總テ問屋無ハナシ、ウリ物ノ品々取アツカヒノ大小ニヨリ、運上ノ高モ多少アリ、由テ新タニネガフトモ容易ニ許サレズ

一　油船運上

是ハ油シボリ渡世ノ者、油船一艘ニ何ホド上納ト云トイヘドモ、酒屋ノ如キ株ハナシ

一　醬油屋冥加永

是ハ作リ醬油屋冥加永納ル、其所ニヨリ上納ニ及バヌ所モアリ、右ハ急度株ト云ニアラネドモ、仲間事ユヱ、新タニ始ルニハ、其所ノ仲間ニ相談シ、一統得心ノ上ネガヒ出レバサシ許也

一　質屋冥加永

是ハ株アリテ仲間行司ナドヲ立テアリ、昔ハ御益ハ無之所、近年御府內モ運上始リ、國々ニテモ御益

納ル所モアリ、又タヾ勝手次第ニ質取モアリ、村方ノ小質屋ハネガフ事モナク、勿論御益永等ノ事モナク、其所ノ仕來ハ格別、左モナキ町場ニテハ、願フニ及バヌ事也

一　旅籠屋冥加永

是ハ五海道東海道、中山道、甲州海道、日光海道、水戶海道其外脇往還驛場旅籠屋等ハ、古來ヨリ飯盛女ヲ差置ク、之ハ願ノ上壹軒ニツキ飯盛女貳人充免除アリシ故ニ、冥加永ヲ納ルコトニ成タリ、賣女ト云ハ容易ニ成難キコトナレドモ、驛場ハ申スニ及バズ舟着ノ處ニハ、近年賣女ニ似セタルコト多クアル故、天明八申年官ヨリ國中ヲ改メ、七十年在來セシ分ハ格別、其外ハ都テ嚴止仰出サレ、私領方ニテモ能々吟味ヲ遂グ、又驛場飯盛女ハ府內ニ於テモ上納屋敷ニ准ズル故カ、宿場ニテモ飯盛女ヲ置カザル旅籠屋モアリ、是等ハ冥加永等モナシ

一　砥石山運上

砥石山ハ青砥大草砥上州鳴瀧名倉荒砥等品々アリ、又都テ髮剃刀砥ハ王城ノ國ナラデハ無キ物ノヨシ、大和・攝津・近江等ニ王城アリシトキハ、其國ニ砥石山出來シ、今平安城ニ於テハ山城國鳴瀧ニ限リタリ、其外ノ砥ハ其國々ニアリテ何レモ切出ス、請負人アリテ年季ヲ限リ運上冥加永金等ヲ出ス、尤モ砥石ニ限ラズ道ノ石ニテモ山ヲ見立テ願立、運上冥加永金ヲ納メ請負ニテ切出スコトアリ

一　金銀銅鐵鉛明礬石硫黄山運上

是等ノ類モ山ヲ見立テ稼ギ度旨ヲ願ヒ、年季ヲ限リ請負ニテ掘出ス、併シ是ハ砥石ナド、違ヒ格別ノ國益ニ成ル請負ユヱ、願出ズシテ領主地頭ノ手限ニハ成難キヨシ、依テ右ノ類ハ山成運上冥加永等モ官ヘ納ム、尤モ其國ニ依テ領主地頭ノ分ハ下サルコトモアリ、又國司ノ領分ニ右ノ類ノ出往古ヨリ在來リテ、國司持ニ成リ來リタル所モアリ、總テ金銀山ハ古來國々ニ餘程アリタル處、金銀ノ出方少ク費用多クシテ差引バ多分ノ不益ユヱ、諸侯方ニテモ在來タル山ヲ段々休山ニ成シ、官ノ金銀山モ右ノ趣ユヱ、次第ニ留山ニ成テ減少シ、佐州石州奥羽同上等ノ山ニ三四箇所ノ外ハ都テ休山ニ成タリ、廿四五年程以前國々ノ金銀山ヨリ掘出ス入用ノ金高ノ、五年平均ヲ以テ差引タル所、金銀ノ出方少ク入用多分掛リ不益ユヱ、留山ニ成タル場所多シ、今海内金銀拂底ニナルハ往古ト違ヒ世上華美ヲ好ミ、武具ヲ始メ諸道具ニ至迄多ク金銀ヲ用ヒ、又神社佛閣ノ莊嚴箔佛ノ建立多ク成リ、或ハ金蒔繪梨子地ノ器物夥ク流行シ、又ハ襖屏風金張附多ク成リ、箔ノ費モ夥シキコトユヱ、隨テ金銀モ少ク成リ、又山ヨリ掘出ス金銀ハ古ト違ヒ大ニ減少シタルニヨリ彌通用ノ金銀拂底ニ成タリ、假令バ拾兩ノ金銀ヲ掘出スニ入用五拾兩掛ルトモ五拾兩ハ掘ル、大工人足等ノ手ニ入リ、其外諸國買物等ノ價ト成テ世間ニ融通シ、何國ニテモ五拾兩ノ融通ヲナシ、決シテ國ノ不益ニナラズ、又掘出ス拾兩ノ金銀ハ世間ヘ出ルニ付、拾兩丈ノ國益ナリ、然レバ商賣ノ爲請負等ニテ掘出ス者ハ勿論、諸侯方ニテモ多分ノ損失ニナリ、出

方少クテハ休山ニ成ルベキ筈ナリ、政府ニテハ左ニアラズ五拾兩ノ入用ヲ以テ拾兩掘出セバ、四拾兩ノ不益ノ樣ナレドモ、日本國中ニテハ五拾兩ノ上ニ土中ヨリ拾兩出テ、總計六拾兩ノ通用アレバ、則チ拾兩ノ國益ナリ、若シ變事アルトキハ海內ノ金銀ハ都テ官ニテ自由ニ成ルコトナレバ、諸侯方トハ違ヒ假令入用多分ニ掛リテモ掘タキモノナリ、諸國休山多ク金銀ヲ土中ニ埋メ置クコトハ、實ニ惜ムベキコトニアラズヤ、其外ノ五品モ世上ニ拂底ニ成リ、價貴ク或ハ燒失スルモ多ケレドモ、先ハ休山多ク掘出シ方少キユヱ、益高直ニナリテ國中ノ不自由少ナカラザル由ナリ

一　帆別運上

是ハ廻船運上ニテ帆ノ員數ニ掛テ納ム、大阪堺其外灘目等ノ（攝州ヨリ中國筋海邊ノ湊々ヲ都テ灘目ト云）廻船ヨリ多分ノ運上ヲ出シ、又新船ヲ造リ立ルトキハ村役人ヘ屆ケ、支配地頭ヘ願出船數帳ニ記ス、尤モ支配地頭ヨリ燒印ヲ渡ス遠國モ皆同樣ナリ、又上方舟ハ勿論國々ノ廻船ニテモ、江戶大坂ヘ廻ス船方役所ノ燒印ヲ申請ルコトナリ

一　川船役

是ハ高瀨平駄鵜飼ホスクニタリ等ノ船、川筋ニテ荷物ヲ積出スニ都テ役錢ヲ納ム、尤モ府內ニテ川舟奉行アリテ、江戶ハ勿論國々ノ船ニテモ江戶ヘ廻ス船ハ、川舟役所ヘ運上ヲ出シ燒印ヲ請ル、又江戶ヘ廻ラザル舟ニハ川舟奉行ノ燒印ヲ受ズシテ、支配地頭ノ燒印ヲ請テ何レモ役錢ヲ納ム、又年々川舟役所

ヘ運上ヲ差出ス舟ニテモ、支配地頭ヘ役錢ハ差出スコトナレドモ、夫ハ國々所々ニテ多少ノ差別アリ

一　小舟役

是ハ漁舟作舟等ニシテ荷舟ニハアラズ、又舟役錢ハ納ルコトナレドモ是モ所ニ依テ異同アリ

一　室屋役

是ハ麴屋ノ運上ニテ一軒ニ付何程ト云極リアリ、又麴商賣ヲ止メテ室ヲ潰セバ、役錢ハ差免スコトナリ

一　炭竈役

是ハ炭ヲ燒出ス竈ノ運上ニシテ、竈一ツニ付何程ト云極アリテ之ヲ納ルコトナリ

一　大工役

是ハ大工ノ役錢ニテ其職ノ上中下ニ從テ差別ヲ付テ役錢ノ多少アリ、尤下ノ大工上達シテ中ノ大工ト成、又中ノ大工上達シテ上ノ大工ト成、是ハ村役人大工仲間ヲ吟味シテ上中下ヲ分ル、尤モ私領ニテハ役大工トテ城普請或ハ陣屋普請等ニ日數ヲ定メテ呼遣ヒ、役錢ハ別ニ取立ザル所モアリ、又料所私領トモ前々ヨリ役錢ナク、勝手次第ニ大工職ヲナス所モアリテ其國々ノ仕來リ區々ナリ

一　桶屋役

是ハ大工役同然ナレドモ、職ハ上中下ノ差別ナク壹人何程ト極テ役錢ヲ納ム、又桶屋ニハ棟梁ト云モノナタ、料所ニテハ御春屋敷ノ支配ナリ、私領ニテモ城下ノ春屋支配ノ所モアリ

一　石屋役

是ハ石工ノ役錢ナリ、尤モ上方筋御影村伊豆國ナドニ多クアリ、其外遠國ニテモ所々ヘ石ヲ伐出シニ廻ス場所アリテ、其村役ニ納ルモアリ、又石工ノ人數極リアリテ納ルモアリ、尤モ村々ニテ少シノ石工等ハ役錢幷ニ冥加永等ハナキ所モアリ

一　紺屋役

紺屋役ハ上方關東共藍瓶ノ數ヘ掛テ役錢ヲ出スコトユヱ、之ヲ藍瓶役トモ云、又國ニヨリ藍ヲ作リ出ス所ハ、紺屋ニハアラズシテ百姓銘々藍瓶ヲ持テ手染ヲナス所モアリ、是等ハ百姓ヨリ藍瓶役錢ヲ納ル所モアリ、又關東ニハ土屋五郎左衛門ト云者紺屋ノ頭役ヲ命ゼラレ、江戸ニ住居シ紺屋ドモノ支配ヲナシ、同人方ニテ役錢ヲ取立ル、尤モ遠國ハ五郎左衛門ノ支配ヲ請ケズ地頭ヘ納ム、又國所ニヨリテハ役錢ノナキ處モアリ、又土屋左衛門紺屋役ヲ命ゼラレタル由緒等ハ委ク知レ難シ、尙追考スベシ

一　鍛冶役

是ハ鍛冶壹人何程ト役錢ヲ差出スコトニテ、高井土佐ト云者鎌鍛冶ヲ命ゼラレ、江戸ニ住居シテ關東ノ方ノ役銀ヲ取立ル、併シ城附村々ハ城普請鐵物等ヲ勤ルユヱ、土佐ノ支配ヲ請ケズ其領主ヘ役錢ヲ納ム、尤モ鍛冶ハ別法ナリ、又土佐ノ由緒追テ考フベシ

一　新田地代金

是ハ新田畑ニ成ルヘキ地所ヲ見立テ、其村々ヨリ願ヒ出ルカ、又ハ他所ノ者ニテモ場所ヲ見立地方元村方ヘ談ジ、合障リナケレバ開發ヲ願フコトニテ、其地料所ナレバ料主ヘ私領ハ地頭ヘ地代金ヲ納ルコトナリ、尤モ反當リニ定法等モナク、開發地ノ善惡地起シノ手間人夫入用等ノ多少ニヨリ、地代金ノ多少アリト雖モ、大概一通リノ所ナレバ壹反歩金貳分位、開發致ス地ニ由テ手間ノ多分ニ掛ル上ニ土地宜シカラザレバ壹分位ニモ極ル、又若シ開發入用掛ラズ地面宜キ趣ナレバ、三分壹兩其上ヲ差出ス所アリ、畑方ナレバ田地ノ代金半分又ハ三分二位ニ極ル、又右納方ハ鍬下年季割合中ニ納ム、是等ヲ臨時納物ト云ナリ

一林木幷ニ往還並木立枯木拂代

御林ニテモ又ハ往還並木等ニテモ、立枯又ハ根返アル節ハ、村方ヨリ訴ヘ出役人ノ見分ノ上少分ノ木數ナラバ村々ヘ買請申付、直段吟味ノ上拂申付ル、若又大雪大風等ノ不時ノ變ニテ多分ノ枯木等アル節ハ、地元村方ハ申スニ及バズ料所私領近村ヘ入札ヲ申觸シ、高札ノ者ヘ拂フ、或ハ地面宜シキ原地ノ林等ニテ木代ヲ納メ、其跡ノ開發ヲ願出ルモノ有ラバ、吟味ノ上開發ヲ申付ル、又立木ヲ拂ヒ渡ス節ハ、別テ所々ヘ入札ヲ申觸レ、落札ノ上吟味糶増等ヲモ申付ケ、其上ニモ二番三番札ノ者ヲ呼出シ右落札糶増金ノ上尚又増買致ス間敷ヤ能々吟味ヲトゲ、若シ落札糶増ノ内少シニテモ相増スベクト二番三番ノ内ニテ申出レバ、又々落札ノ者ヘ増金銀ノコトヲ吟味イタシタリトモ、多分ノ方ヘ代金取締

拂申付ル、勿論落札ノ儀ニ付成ベキ丈ハ一番札ノ者ノ買請ル樣ニ取計フコトナリ、又私領往還並木ハ道中奉行支配ニテ五海道ノ並木タリトモ、領主地頭ノ心儘ニハ取計ヒ難シ、然レドモ立枯根返リ等ノ少分ノ儀ハ、道中奉行ヘ屆ニ及バズ拂申付跡ヘ木ヲ植付ケ置クベシ、若シ變事有テ多分ノ根返リ枯木等アルトキハ、吟味ヲ遂ゲ拂ノ儀ハ訴出テ差圖ヲ得、其上ニテ取計フベシ、領主タリトモ往還ノ並木ヲ勝手ヲ以テ猥リニ伐拂フコト曾テ成難キコトナリ

一　普請殘木鐵物等拂代

官ヨリノ御寄附幷ニ地頭寄附等御入用ヲ以テ普請アル所ノ寺社、幷ニ在方御入用ノ樋橋類懸替等ノ節ハ、古來ヨリ古鐵物等ノ用立分ハ撰ミ出シ、或ハ目論見ニ差加ヘ折腐レ不用ノ分ハ取集メ、入札ヲ以テ拂ヒ代金ヲ納メサスベシ、又用水川除普請等ニテ御林木ヲ下サレ候節ハ、末木枝葉ハ入札ヲ以テ拂ニイダス、尤モ根伐人足ハ入用ニ立テズ、又末木枝葉ヲ遣ハシ村役ニテ根伐ヲナスコトモアリ、御林木下サル節ハ末木枝葉ハ多分御林地元村方ヘ取ラセ村人足ニテ伐出スコト多シ

一　取上田畑幷闕所物拂代

料所私領トモ公事出入其外罪科アリテ追放ニ成タル者、所持ノ田畑家屋敷ハ取上家財欠所ニ成リ、其品々ハ入札ヲ申觸シ巨細吟味ノ上拂ニナルナリ、尤モ田畑代金ハ格別欠所金ノ儀ハ、地頭ニテモ別段ニイタシ置、道橋入用又ハ牢屋普請等ニ遣ヒ、他用ニハ遣ハザルコトナリ

右品々拂物代其外品々モ、其年限リ臨時ニ納ル米金ハ臨時物ト唱ヘ、鄕帳ニ組入レズシテ取上ルニ付知行渡ノ節ハ物成請ニ成ザルコトナリ

右分一諸運上冥加米金銀臨時納物ノ類ハ、上方ニハアリテ關東ニナク、或ハ關東國々ニアルノミニテ、上方西國筋ニナキモアリ、又上方關東トモナクシテ遠國ニ計リアルモアリ、國々所々ニ古來ヨリ引付ニテ納ル物ハ事繁クシテ書盡シ難ケレバ唯其大概ヲ擧ルノミ、又年貢小物成ノ類モ上古聖代ノ貢ハ更ナリ、本朝漢土トモ租庸調ノ法アリテ、民家ノ貢物規則定リ賦税ノ品々モ悉ク少カリシニ、末世ニ至リ次第ニ官物多クナリ、少分ノ地德貢德アルモノモ忽ニ穿鑿ヲトゲ、運上冥加米金銀ヲ掛ケ、或ハ分一落口ヲ取リ年ヲ累ネ日ヲ逐テ課役多ク成行所ノ品數ハ擧テ算ヘガタシ、是末世ニ至ルホド上下トモ華美ヲ好ミ奢侈ニ移リ、上古ノ質素節儉ヲ知ラズ、其任ニアル人モ其職分ヲ辨ヘザル類多キニ由ル故ナリ、苟モ國政ニ關ル人ハ其官職ノ高下ニヨラズ、古語ヲ慕ヒ當世ノ奢侈ヲ戒メ、己ガ躬ヲ省ミ分テ民ノ難儀ヲ辨明シ、眼前ノ利得ニ泥マズ、始終國家ノ損益ヲ考ヘ國益ノ洩ルヽ樣ニ心ヲ用ヒ、仁義道德ニ心ヲ委ネ政務ニ私曲ナク、上下安寧ニシテ上ノ德下ニ及ビ下ノ情上ニ通ズル樣、經濟ニ心ヲ用ユベキコトナリ

地方凡例錄卷五　終

地方凡例錄 卷六

目錄

一 非料米永代米之事　一 惡水落江代之事

一 見立新田十分一被下之事

一 田高五分以上損毛高掛物免除之事　附　取米五分以上損毛諸拜借一ヶ年免除

一 五里外馱賃之事　一 鄕藏詰米火災定法之事

一 夫食貸種貸之事　附　肥代貸方　延賣

一 町在出火取計並諸拜借之事　附　宿坊同斷拜借定法　村方同斷農具代並夫食種籾拜借　同斷咎並火元不決時取計

一 定助鄕大助鄕之事　附　加宿　掃除町場　一里塚之始

一 作德凡勘定之事　一 名主引負並未進不納譯之事

地方凡例錄卷六

一　高内年々引之事

高内引ニ年々引・連々引ト二樣アリ、年々引ト云ハ、人作ニテ拵タル引物、其土地入用ニテ縱バ陣屋敷・郷藏シキ・溝代・堤シキ・道代抔、無テ不レ叶品、作物不ニ仕付一、年貢諸役不ニ相勤一、古ヘ今來不ニ起返一潰レニナリタル地所ヲ年々引ダカニ不ニ相立一候分ト、御取箇帳其外諸帳面ニモ記ス、是ヲ年々引ト唱フ、尤右年々ニヒキダカニ立ツ品タリトモ、不ニ起返一ニ限リタルニモナク、縱バ海端川邊ニ塘築立置、新田仕立タル處、舊年ニ成又其堤外ニモ新開出來、最初ノ内ツヽミハ不用ニ附、其上ヲ外ニ運ビ新ツヽミ築立、古堤ノ蹟ハ田畠ニ成リ起返ルコトモ有、又ハ古來陣屋有レ之、當時ハ不用ニテ陣屋ヲ潰シ、敷地開發致ス儀モ有、サスレバ限テ不ニ起返一ト申筋ニハ無レ之ト雖、入用ニ附タカ内ノ地所人作ヲ以テ態トコシラヘタル引物改、先ヅ年々不ニ起返一分ト相立ル事也、此類ハ其品多ク悉書盡シ難シ、唯ソノ一二ヲ擧テ左ニシルス者ナリ

一　地不足引

是ハ山崩・又堤切又石砂利大分押込、一村變地致土地惡ク成、古檢ノ石盛ニテ年貢上納成ガタキニ附、

新檢願出檢地入石盛下レバ、古タカヨリ減ジ、縱バ古タカハ十五ノ石盛ニテ、十町歩ノ田地百五十石ニ當ル處、新檢ハ十二ノ盛ニナリ、百廿石トナレバ、反別ハ古タカノ通十町歩有レ之、三十石丈ノ地所無レ之ニ付、地不足ニナル、又古來ハ人モ少ク田畑肥等モ成難ク、遠處山方等荒シ作リニモ致シ、隣鄉山續ノ處抔ハ、他村ヘ被レ奪タルヲ幸ノ樣ニ致シ置、新檢相願檢地請レバオノヅカラ元來ノ地所ニ不足致ス類モ有、或ハ百年二百年以前ハ山境等不分明ノ所多キ故、作毛不二生立一場所モ、檢地ノ節致二繩請一タカニ結オキタル類、追々取箇モ進ミ、作毛不二仕附一場所迄、致二辨納一儀難儀ニ存、新檢請レバ丈夫ノ地所不足ニ成、勿論古タカノ內、海成・川成・池成等ニ成タル以後、檢地入レバ元ダカニ不足スル類、都テ地不足引ニ相立也、地不足ニ付テハ、色々ノ譯有レ之トイヘドモ、古ヘ如何樣ノ筋ニテ地不足ニ成タルヤ、後世ニテハ譯不二相知一、タカ內引ニ成居類間々有レ之也

一 無地高引

無地ダカノ儀ハ、前條ニ著ス如ク二樣アリ、古來四木其外小物成ノタグヒタカニ結ビ、本途ノ內ニ入タルモアリ、是ハタカ內引ニハ不レ立、割附等ノ村ダカ脇書ニ、何程無地ダカト記シ置、反別ニ石盛ヲ掛出タル高ニハ、丈夫ダカ餘計ニナル、此類無地ダカノ年貢トテ、別ニハ籠リ居ルニツケ、箇樣ノ村ハ土地ノ位ヨリ高免也、又古檢ノ村カタ新檢入何ゾ子細有レ之石盛下リ、反別格別增減モナク、タカハ減ズルニツキ、石盛違ヒ減ジタル丈ノタカヲ無地ダカト記シ、タカ內引ニ立ルモ有、此無地ダカハ

右ノ地不足同様一事兩名也

一　石盛違引

是ハ右同前ニテ、古檢ノ村方新檢入譯有レ之、石盛下レバ生高ハ沽高ヨリ減ズルニ附、減タル丈ノタカヲ石盛違ト唱、タカ内引ニ成ル、勿論地不足無地ダカ石盛違ノ分、古檢新檢石盛ノ差ヒニテ引ニ立タル分ハ、何レモ同然ナレドモ、名目其節附次第ニツケ、村ニ依リ名目ノ替リ有、又田畠成ノ場處、譬バ田ノ石盛ハ十二、畑ニ成テハ八ツノ盛ニナレバ、四ツ石モリ下リタル差ヒ丈ヲ、石モリ差ヒト云、タカ内ビキニイタスモ有レ之ヲ、石間ビキト唱、ヒキニシルスモアリ

一　石間引

コレハ前條ニ申如ク、田カタノ内變地イタシ用水不レ掛カ、又ハ古ヘ田請ノ場所ニテモ、當時田ニ成難ク、年々畠作仕附ル所、田ノタカヲ請、田ノ年貢納メテハ、位當ニ不ニ引合一田畑成願出ルトキ、能々遂ニ穿鑿一彌田ニ成ト雖、地所ニ決スレバ畠成ニ致シ、相應ノ石モリニ附、譬バ田ノモリハ十二、畑ニ成テハ八ツニナレバ、四ツ丈石モリ下リ、田ト畠ノ間ノ石モリ違ヒヨリ出テ引ニ立故、石間ビキト唱、タカ内引ニ立ル、尤田畑成石モリチガヒ引ト名目出スモ有、何レモ一事兩名也

一　甲州郡内領ハ、田畑米取ノ所、寶永年中富士山燒タルトキ、田ニ燒石埋リ畠ニ成タル處多シ、田畠石モリチガヒニナリタル分、石間ビキト云、此分ハ釐ヲ居テタカニテヒク法也、實ハ潰地ニナリ本

ダカ減ズベキ筈ヲ、古代ヨリ右ノ通リ仕來ニテ、タカヲ不レ捨タカ內ビキニ致置、尤外國々ノ田畑成トハチガヒ、引方ノ仕出如レ左

高一石五斗

上田一反歩　石盛十五釐五ツ取

內五畝歩　畑成

此分米五斗　石盛十六釐五ツ

外ニタカ二斗五升　石間引

殘五畝分　毛附

右之通ニ仕出、ヒキ方相立ル法也

一　田畠成引

是ハ古來田請ノ場所、用水乘兼稍作仕難キニツキ、年々畠作仕附タル處、齒取ノ村カタ田ハタ同免ニテ、石モリノタカヒクヲ以テ取米ノ多少アル村々、田ノ年貢納ル儀難儀ニツキ畑成ニ願出ル時、田作ハ決テ成ガタキ地所カ、得ト吟味ノ上彌稍作ナリ難キニ決セバ、畠成ニ申ツケ、石モリ下ゲ遣ス、縦バ上田ノ石モリ十二、上畑ノモノハ八ツニテ、四ツノ差ヒアリ、上田一反ダカ一石二斗五ツノ免ニテ、取米六斗、上畠ノタカ八斗、同免ニテ取米四斗、差ヒキ二斗ノチガヒ有、コノタカ四斗ヲタカ內ビキ

ニ立、殘リダカニ五ツノ免ヲ乘ズレバ、取米ノ内二斗減ズル、則田ハタ成ヒキノ減米也、關東反取ノ分ハ、田ハ米ドリ、ハタケハ永ドリニツキ、不及タカ内ビキニ、田ノ反別ヲ直ニハタケノ反別ニ直セバ永取ニナリ、自ラ取米下ルコトナリ、尤關東都テ反ドリノ内ニモ、私領等ニハ前々ヨリ厘ドリノムラカタモアリ、下總國海上郡銚子領ハ、厘ドリニテ田ハタ打込、上中下平均同免ノ米取、石盛ノ高下ニテ取米ノ多少アリ、依テ田畠成引ノアル村方多シ、又田ニ畑作仕附ルトモ、多葉粉・木綿・麻・紅花・藍ノ類、或ハ瓜・茄子等ノ野菜類ヲ作ルハ、勝手作故縱用水掛リ惡敷田ニ作ルトモ、不レ及ニ畑成ヒキニハ、大豆・小豆・粟・稗・黍・蕎麥抔ノルヒ作ルハ、誠ニ無レ據仕附ル畠作ニツキ、畠成ビキニ立ル、偖又國ニヨリ三四年目ニ一度ヅヽ畠ニ致サヾレバ、稻作出來惡クモ有テ、畠作仕附ル年モ有バ、勝手作同前ニ畠成ハ不ニ相成一、依レ之畑成願出トモ、作リ物土地ノ様子悉致ニ吟味一、容易ニハ不ニ申附一事也、前條石モリ差ヒ引ハ石間ビキト同然ナレドモ、村方ニヨリ其名目差モ別物ノ様ニ聞ル故、夫々名目ヲ出シ記ス者也

一　竿違引

是ハ大抵ニテハ無キ引ケモノ也、檢地ノ節縄ノ間數算ヘ違カ、竿ノ打チガヒカ、又ハ野帳附チガヒ等有レ之、不穿鑿ニテ其儘反別相極、免石モリ伺相濟、村ダカ締リ檢地帖渡リシ上、地主共銘々地所帖面ヒキ合セ見、帳面辻ヨリ格別狹キ田畠アリ、依テ致ニ内改一見ル所竪横間數反ベツ相違有ユヱ、其段願出致ニ

再改ニセバ差ヒニ相違ナシ、然レドモ最早一村ダカモ締リタル上ハ、檢地帖仕立直シモナリ難シ、是非ナク冠リダカニナリ、高內ビキニ立ルヲ竿チガヒヒキト云、年貢諸役ハ不ニ相勤一ト雖、國役金其他惣ダカニ掛ル品ハ難レ除、右體ノ田畑所持ノ百姓ハ、永々ノ不運也、勿論檢地ハ民家末代ノ豐窮ニ掛ルコトユエ、役人モ大勢出悉ク念入レバ、右體ノ儀ハ萬々一モ無事ナレドモ、適々ニハ有村方モアリ、又前條ニ著ス古檢ノ村方、新檢入リ子細有テ石盛下リ古高ヨリ減ズレバ、タカ內引ニ成、無地高或ハ石盛チカビ引ト記シタル村カタモ、間ニハアルコトナリ、併是ハ竿差ヒ引トハ申ガタカル事也

一　陣屋敷引

是ハ御代官・領主・地頭役人相詰、御用主用ヲ取捌役所也、始テ陣屋ヲ建ル時、御料所ハ公儀へ窺、タカ內引ニ成、領主・地頭ニテモ、タカ內引ニ改ズ、私領分ハ陣屋敷ニテモ、國役金ハ領主、地頭ヨリ納ム、尤初テ建ル時、田畑トモ地主アリ、其村並ノ地代金、地主ヘトラセ取立ル、若陣屋不用ニ成潰レタル時、敷地ハ元地主ヘ相應ノ地代金納サセ相返、村並ノ年貢ヲ附ル、若元地主退轉致シ、可ニ請取一者無レ之トキハ、其村百姓ノ內開發望ノ者ヘ地代金納サセ、鍬下年季ヲ極開發申付ル、又元來空地有レ之ヲ見立陣屋取立レバ、敷地引無レ之年貢也、扨又無城ノ諸侯ガタ、或ハ交替寄合等ノ館舍ヲモ陣屋トイヘドモ、コレハ城地同然元來除地ニ成居ルニ附、タカ內引ノ沙汰ニ不レ及、拜領ノ土地也、然レドモ在所無レ之旗本衆大名ニ成、新規ノ陣屋田畠ヲ潰シトリ立レバ、拜領ダカ減ルコトハ難レ成、タカ內引ニ

相立ル也、又關東御料ノ内ニハ、前々用水カタ等ニツキ、御普請役相詰ル陣屋モアリ、私領ニテモ普請所役人詰所等村方ニ建置、是ラモ陣屋ト唱ヘ、タカ内引ニナルモアリ、或ハ役屋敷ヒキナド唱ヘルモアリ

一　郷藏敷引

是ハ年貢米津出致ス迄詰置藏也、村々ニ在テ高内引ニ成、郷藏ハ村居ノ内ニ附、多分畑地ニ立ル明屋舗等アレバ、ヤシキニモ立ル事也、先ヅハ田方ニ郷藏ヤシキ引有レ之ハ稀也、新タニ立ルニハ、地代金ハ村中ヨリ出シ、家作入用御料ハ公儀、私領ハ領主・地頭ヨリ出ス、修復モ同然也、村ニヨリ前々郷藏敷ヒキ無レ之、名主土藏ニ入ル仕來リノムラモアリ、又郷藏ナク津出ノ節、名主ノ庭ニ取建、直ニ致二津出一ムラモ稀ニハ有レ之也

一　神田引

村々ノ鎮守ノ社地等ハ、大カタ雖レ爲二除地一、檢地以後古來譯有レ之社地ニ致シ、願ノ上タカ内ビキニ成、或ハ祭田迚田ハタヲ神社ニ附置、氏子ノ内名主幷頭百姓家柄ニテ、五六人十人程祭禮ニ携ル者、極リ有レ之ヲ神課ト唱ル所モアリ、其内ニテ一人ヅヽ黨本トテ、其年ノ祭禮等引請世話致ス者有レ之、右祭田共者ヒキ請耕作イタシ、祭事入用ニ遣フユヱ、地主ナク年々黨本ノ者交ル〳〵進退イタシ、年貢諸役ハタカ内引ニ相立ル也、又新田新開等ノ爲二成就一神社ヘ祈願ヲコメ、田地ヲ附檢地ノセツ竿除ニモ

可ㇾ願事ナレドモ、末世ニ至リ紛敷事等可ㇾ有ㇾ之ヤト檢地ヲ請、タカニ結ビタカ内引ニ相立ル類モ有ㇾ之也、右古田ノ社地祭田等ハ、古來ヨリ無ㇾ之儀ヲ新規ニ願、タカウチビキニイタスハ容易ニ成難キ事ナリ

一　神佛免引

是ハ除地ニ無ㇾ之村高ノウチ、縱バ八幡免・天神免・荒神免・觀音免・阿彌陀免・藥師免抔トテ、五畝三畝ヅツ社地堂下幷田畑、或ハ堂社ハ無クトモ佛神森等ノ地面、古來檢地ノ節ヨリ地所ハ寺、又ハヤシロ人持モアリ、惣ムラ持モ有テ、高内引ニ成、割付郷帳等ニ何免ト記ス

一　伊勢屋敷引

是ハマレニ有事ニテ、伊勢御師ノ家來御拔持參在廻ノ時、旅宿ノ爲家ヲ立置、敷地年貢ハ古來ヨリ高内引ニ成居ルムラモアリ、又村中ヨリ年貢致二辨納一、タカ内引ニ不二相成一所モアリ、或ハ空地ヲ見立ヤシキ取立置、檢地ノ見捨地ニ相成分モ有ㇾ之、尤伊勢ヤシキ有ㇾ之村先ヅハ少ク、多分ハ御師宿百姓家ニテ致スムラカタ多シ、右ノ類伊勢ヤシキニ不ㇾ限、前々ヒキ附ニテタカウチビキニ相立ル外ニモアルコト也

一　寺屋舖引

コレハ私領カタニテ、縱バ池川河原野池等、總ムラ申合新開ニ願、地頭ノ爲ニ成事ヲ擣、其ウチ三分一、

或五分一寺屋鋪被レ下候樣相願、一統ニ檢地ヲ請、寺屋シキ分タカ內引ニ相立、尤高內引ニスル事不レ宜トイヘドモ、由緒モナキ寺ニ黑印除地等遣ス事ハ難レ成、竿除ニ致置テモ後世如何樣ノ妨可レ有レ之モ難レ計、タカウチビキニ致コト也、右體ノ所御料ニ成テモ、古來ノヒキ付ニ任セテ引置コト也、マタハ地頭由緒アル寺ナド、田ハタ山林等寄附致シ、高內引ニ立ルモアリ、サテ又古跡同然ノ寺地有レ之、檢地ノ時分除地ニモイタスベキ所、除地ハ重キ事ユヱ、格別ノユカリナクテハ成ガタシ、村ダカニ入オキ、然レドモ古跡ノ事ナレバ、年貢附ルモ如何ニ付、タカ內ビキニシテ、寺ヤシキト云名目ニテ引置也、勿論古代ハ新地ノ寺院號等取立ル儀有シカドモ、元祿年中以來新寺ハ不レ及レ申、古キ寺號計有レ之ヲ、新地ニ取立ルコト前々有來ノ外、寺院ハ勿論庵地タリトモ、新規ニ取建ル儀御停止ニ成、近年ハヒキ寺モ容易ニハ成難ク、仍レ之私領ニテモ右體ノ寺ヤシキ引等、當時アラタニ建ルコトナド決テ相成ラザルコト也

一　堤敷引

是ハ古代檢地以前ノ堤成ハ、檢地ノセツ繩外ニ除置故、敷地ビキニハ不レ及トモ、檢地以後ノ新ツヽミ、タカ內ノ地所ニ築タテルニ附、タカ內ビキニ成、又ハ出水ナドニテ塘キレ込深堀ニ成、元ノ場所ヘ難レ築、ツヽミヲ內ヘヒキ、田畠ヲツブシツキ立、或ハ有來ノツヽミ小クテ危キ故、內腹ツキ致敷地廣ゲル時田畠潰、マタハ往古ハ川床深、岸タカク、ツヽミ無テモ相濟タル處、年々川床埋リ次第ニ淺クナ

リ、岸崩込、當時ツヽミ無テハ洪水ノセツ水溢レ、田ハタノ圍成難キ類ナド、何レ願ノ上吟味ヲ遂ゲ、堤築タテタカウチ引ニ相タテルコト也

一　道代引

コレハ檢地以前ノ道ハ、繩鋼キニ成不レ及ニ敷地引一、檢地以後記有レ之田ハ、タノウチ新道ヲタテ、マタハ有來ノ道幅狹クタテ添ナドイタストキ、願ノ上道代引相タテル、併古道ヲツブシ新ミチヲタテルニハ、差障有無ナド得ト糺ノ上ニ、無レ據筋ナレバ新道申附ル、容易ニハ成難キ事也、併又畠地新ヤシキ相願、ヤシキヘ通行ミチ立ル分ハ、タカ内ビキニハ不ニ相成一、道敷ノ潰レ地共、年貢ハ辨納イタス定例也

一　江桁敷引

是ハ川惡水堀溝兩緣、小土手ヲ不レ築シテハ、左右ノ田地水押込ム故、水除小土手ヲキヅク時、タカ内ノ地所ナレバ、シキ地ダケヒケニ立、是ヲ江ゲタ敷トモ、土手舗引トモ云、檢地以前ヨリ有レ之所ハ、繩外鋼地ノ場所モ有

一　溜井舗引

是ハ川水ダマリ池空地、山間ニハ大溜湖水同然　場處、三方山又ハ高丘ニテ、田地ノ方一方ツヽミヲツキ、谷ノ水落集川水ダマリニ成ハ、敷地引ニ可レ有様無、田地ノ内清水等ワキ出、地底ニテ水タマリ、又ハ處々田川水等落タマル場所、或山間ノ谷田ナド、何レモ水腐場ニテ田作モ出來兼、田方ヲ惣

村中合、四方小土手ツキ立、新タマリニ仕タテ、村中又ハ耕地限多分ノ用水ニ成儀ナレバ、年貢地タリトモ願ノ上溜池ニ仕タテルコト有テ、村カタ助成ノ筋ユヱ、田地ヲツブシ水タマリニ致ニ附、高内ビキニ相タテル、是ハ古來ニモ不レ限、當時村中勝手ヲ以相願ヘバ、見分吟味ノ上新規ニモ申附ル事也

一　地タメト云コトモ有レ之ハ、用水掛ケ少ク天水場同前ニテ、堰筋モナク田カタノ内ヒキ通シノ場所ハ、水元近キ田地水上ヨリ段々水ヲ留次第ニ植附ル、旱魃年ナドハ末水ノ分植附成ガタキ所有レ之、ケ様ノ土地ハ何レ片毛作ノ物成ニ附、稻作取揚後水ヲ落シ、用水入用ノ時節ニ至リ、右ノ趣ニ致ス故、兎角年々末水田ハ、水不足致シ百姓難儀ニ及ビ、右體ノ田地ハ惣百姓申合、中程ノ田方四方ノ畔普請イタシ、小土手同然ニキヅキ建、冬春右ノ田ニ水タメ置、ウヱ付時ニ至リ、其場處ヨリ水下ノカタヘ其タマリ水ヲ引、早クウヱツケ夫ヨリ上ハ用水掛リ有ニツケ、末水ノ田地ウヱツケ次第、タメ置タル水切落、其田ヲウヱ附レバ末水上用スイ無二不足一、ウヱ附無二差支一、箇樣ノ儀ハ村役人厚心ヲ用ヒ不レ致二世話一シテハ、百姓ドモ自分勝手ノミ申立難レ調著也、是ヲ地タマリト云、其土地ノ摸樣ニ寄仕立ル事也、是等ハ敷地引等無レ之ニ附、村柄ニヨリ普請入用等、公儀地頭ヨリ手當致可二仕立一事也

一　井堰溝敷引

是ハタメ井ヨリ用水ヒキ取、マタハ川々谷水等田地ヘ懸、用水溝堀筋ヲ井セキトモ、用水溝トモ、堀トモイフ、檢地以前ノ場所ナレバ繩除キナレドモ、檢地以後田地ノ内ヲ堀割仕立ル分ハ、高内引ニ立

ルナリ

一　溝代引

是ハ右同斷、用水溝他村ノ田畑ヲ不ニ掘割ーシテハ、用水難ニ引取ー場所有レ之、其ムラ相談ノ上年貢米幷作米等、掘割ニ成ムラカタヘ差遣ス、コレヲ井料米又ハ水代米ナド云、此分百姓内損ニ可レ致謂無レ之ニツキ、居村高ヲヒキカタ相願、タカ内ヒキニ立、マタ居村ニテモ新規ミゾ敷等、前條ノ通リヒクト雖、耶主作德米損失ニ成ニ附、其分ヲミゾシキノ外ニ引ニ立ル類有レ之、是等ヲ溝代引ト云、溝敷堰舖トハ少譯違フ故、名目モ違ヒ別口ニ出ル也、左右井料米永代米等、公儀地頭ヨリ下サレ、村方ハ溝代ヒキタテルニハ不レ及ナリ

一　惡水堀敷引

是ハ田地タマリ水深ク、水落兼作毛水腐ニナルカ、又ハ城下其外町場等水イカリ・水冠リ等ニ成儀有之ノ時、水吐キノ爲江堀ヲ立、惡水落シ水難ヲ遁ル堀敷也、前々有來ノ空地ハ格別、新規ニ仕立ル分高内ノ地所ナレバ、願吟味ノ上高内引ニ立ル也

一　堀田敷引

是ハ稀ニ有之儀ニテ、永田濕ノ類、田場一面ニ稻作仕付ケテハ、致ニ水腐ー作毛不ニ生立ー所、嶋畑ノ類（島バタケト云ハ、ハタケ場少キ村々、田方ノ内ノ堀上ニゲ、飛々ニハタケニイタシ、其間ニハ田方ニナルヲ云）田ノ内ヲホリ上、畔ヲ立堀上タル高ミニ稻作ヲ仕ツケ、掘

タルアトハ水タマリニ成仕ツケ成難シ、檢地ノ節田方一面ニ致シ繩請、ホリノ分反別改ダカ内外ニ立ル、右ノ類常陸邊ニ多シ、都テ深田天水場ノ内ニ稀ニアルコトナリ

右年々引ノ類、此外國々所々ニ何程モ名目可レ有ナレドモ、悉ク記スニ不レ遑、年々引・連々引ノ趣意ワカル爲、只其一二ヲ擧テ記スノミ

一 高内連々引之事　附　損地改方并定免内損地引

一 作引方

前ニ記ス如ク、タカ内ビキノ年々・連々二樣也、連々引ト云ハ、天變地妖ニテ山崩・川缺・池成・石砂入等ニ成リ、人力ヲ盡シ金銀ヲ用レバ可二起返一分、御取箇帳郷帖其外諸帖面等ニ、連々可二起返一引高ノ分ト記スヲ、連々ビキト云、右ノ内ニモ海成・大池成・大石入等、縱バ何程金銀ヲ入人夫ヲ掛タルモ、可二起返一仕カタ無レ之トイヘドモ、入用ノ爲拵タル引物ニ無レ之、天地自然ニ出來タル損地故、人力ニハ不レ及儀ナガラ、大變ヲ以テ又元ノ所地ニ可レ成事モ不レ知ニ附、可二起返一引物ノウチニ入レ、高内ニ致置事也

一 永荒場引

大雨洪水ニ付堤切、又岸崩、田畑屋シキトモ大石押入、大沼大池ニ成、石砂利深砂入、或ハ大地震等ニテ山クヅレ、汐洪水津浪等有レ之、地所致二變地一、人力ヲ以ハトテモ難二起返一分、永荒ノ名目ニテ高

內引ニ致候コト也

一　荒場引

是ハ其村開闢ノ時、又ハ新田開發抔ノ節、元來ノアレ場ヲ不吟味ニテ、土地ヲ大概ニ見ルユヘ、檢地ヲ請末々作毛不ニ生立一、仕附テモ肥代手間代ノ入用掛リタル程不ニ出來立一、年貢上納致シテハ百姓潰レニ成ニツキ、無ニ是非一連々アレ地ニ成タルヲ、願ノ上高內引ニ立ル地處也、永アレ場同樣タリトイヘドモ、少ノ意味違フユヘ、名モクヲカヘオクコトナリト云

一　荒地引

是モアレ場同樣ナレドモ、一旦ハ田畑仕附相應ニ取箇モ附タル處、種々ノ天變ニテ致ニ變地一、地味モ悪敷成、作毛難ニ仕付ケカ、或ハ村方連々困窮致シ、他所ヘ奉公等ニ出、又ハ流行病ニテ大勢死去ノ者有レ之、潰百姓多ク元來仕當ニ不レ合田地故小作人モナク、縱ヘ土地宜キ所ニテモ村中人少、他村ヨリハ最寄悪敷、作リ手無レ之時ハ、村居遠キ谷田等、猛獸ノ妨難レ及レ手、彼是自ラ芝地アレ等ニ成タル類ヲ、アレ地引ト云也

一　浪缺引

是ハ海邊ノ田地汐除堤、或ハ亂杭抔有レ之處、風雨タカ浪ニテ缺入、築立成難キ地處、內ノ方ヘ引入波圍ナドイタシ、反別減ジタル分、タカ內引ニ立ル也

一　川成引
是ハ洪水ノ時田地悉ノ押堀川ニナルカ、或ハ塘切入所ノ切所ノ方水勢强ク、本川ハ干上リ、切口深堀ニテ水田難レ可、田畠ト新川出来、川筋違ヒタル分、又ハ堤切所深ボリニテ、元ノ所ヘ塘難ニ築立、田畠ノ内ヘ堤ヲ引キ、堤外ノ田地川ニ成タル類、高内引ニ立ル也

一　池成引
是ハ出水ノ砌、堤切入田畠ノ內深ホリ池ニ成、急ニ埋立起返ナド難レ成分、池成ヒキニ相立ル也

一　淵成引
コレハ右同斷、大川筋水當强、タカ内ノ地所川成缺ニ成、數十丈ノ深堀、底モ不レ知自然ト淵ニ成タルヲ淵成ト云テ、タカ内ビキニナル也

一　川缺引
是ハ堤等缺込、或ハ田畑ノ畦岸、大雨ノセツ川筋堀筋等ヘ缺込タルヲ云、川成モ同樣ナレドモ、川ニ成タル程ノ事ニハナク、川內ヘ缺崩レ田畠ツブレタルヲ、川缺引ト云

一　石砂入引
是ハ大雨又ハ地震ナドニテ、山クヅレ落洞ヌケ抔有レ之、田畠ノ內ニ大石小石押入、砂押埋ツブレ地ニ成タル分、山クヅレヒキト云

コレハ大水ニテツヽミ切入、川々ノ砂石田地ヘオシ込、又ハ谷川山川ナド大雨ノトキ水アフレ、砂利走込潰レ地ニ成タルヲ云

一　石置引

コレハタニ川山澤連々スナ流レコミ、川床タカク成ニ附、兩縁ノ土手ヲ次第ニタカクシテ、田畠ハ地低ニテ屋ノムネ川ナド、唱フル類、大雨出水ノセツ大石流レ出、田畑ヘオシ込、人力ヲ以テハトリ除難ク、其儘差置敷地潰レニ成、又ハ石スナ入ノ田畠起返ス時、石スナノ除場近所ニ空地無レ之、田ハタノ内ニ積立、石塚ニイタシ置舗地ナド、石置ビキト唱、高内引ニナル

一　押堀引

是ハツヽミ口田地ノ内押ボリニ成、又ハ川筋溝スヂヨリ風雨ノトキ大水アフレ、水勢強ク所々ホレ入水溜リニ成、急ニ難二起返一分押ボリビキト申シ、タカウチビキニナルナリ

一　土取場引

是ハ堤普請・道普請ノ節、土取ノ儀成丈堤外附洲、又ハ原地・野地等空地ノ所ヨリ取事ナレドモ、箇様ノ空地遠方ニテハ人足掛リ多難レ取、近所ニハ空地無レ之、無レ據高内ノ地處ヲツブシ土トリ場ニ致タル跡、池ノ様ニ成作付難レ成分、年貢ヲ赦シタカ内引ニ致ス、勿論地主田畑ニ離レ難儀ナルユヱ、地代金等村中ヨリ償差出モ有レ之、又ハ其者田地ノ闕ニナリ、ツヽミ等ニ附地代ノ不レ及二沙汰一引高計ニテトルモ

アリ、何レ公儀地頭ニテハ年貢ヲ引遣ニ附、外ニ地代等渡事ニ無レ之、サテ又近所ニ地面タカク、用水乘兼ル田方等有レ之ハ、作リ土ヲ除キ置、底土タカ低ヨキ加減ニトリ置、其上ニ作リ土ヲ入、元ノ田ニ致シ、又ハ畠地水懸リニハ場所ヲモ右ノ通ニシテ田ナリニ致コトモアリ、カヤウニ地土勝手ニナリ土取場ニハ不レ立、村役人地主相對ニテトリ計フコナリ

一 土置場引

是ハ洪水ノセツ泥スナ田畠ヘ大分オシ込、不ニ取除一シテハ田作ナリ難キ處、近所ヘ可ニ出置一クウ地無レ之、泥土ヲ田畠ノ内ニ塚ノ様ニ積立オキ、敷地高内引ニ成、尤小泥スナ土ナドヲ、畑ニモナルベキ土ナラバ、田ノ内ニ並能積雙ベ、其場所ヲ畑ニ仕立、ツチ置場ノ分畠ニナラバ、高内引ニハ不レ及、鋤下年季ニテモ立、田畠ナリニ致事也

一 野地成引

是レハ田地ノ内低ミ通リ、少々雨天ニテモ水タマリ、又ハ近所ノ用水落集リ、或ハ大池ナドノ際地低ニテ、折々池水溢レ入、適々稲作仕附テモ水腐ニ成、地所年貢致ニ辨納一作徳モナク、自ラ作リ荒シニ成、芦・眞菰等生ヘ込田作ナリ難キ分ヲ、野地成ヒキニ立ル、尤芦・眞コモナド用立場所ナラバ、芦・眞コモ年貢少々申附、高内ビキニ不レ及也

一 冷水場引

是ハ田方ノ内冷水ワキ出、土地ヒエ稻作仕付テモ靑立ニ成、實法惡敷場所、年々種肥損ニ成耕作成ガタキ、願出候ニ於テハ、見分吟味ノ上高内ビキニ立ル。此箇樣ノ地處往古檢地ノセツ、タカニ可レ入謂無レ之、都テ土地ハ變地有レ之者ニツキ、往古ハカナリニモ作附相成場所ユヘ、タカニ結ビタルト見エ、後年ニ至リ水掛リモ變ジ、土地ノモヤウ違ヒ、上田モ下田ニナリ、薄地モ熟トナルコト、年久キウチニハ色々變地有ル事也

右連々ビキノ類、此外ハ國其處ニヨリテ種々有ベケレドモ、荒增ヲ擧テ著置者也

一　損地改方ノコト

都テ高ウチビキノ儀、年々ビキ・連々ビキトモ、村カタ願出タルトキ、能々吟味ヲ遂ヒキ物ニ立ベシ、別テ年々ビキニナルニハ、往々不ニ起返一儀ニツキ、容易ニハ難ニ赦免一、然トイヘドモ其譯相立、ヒキカタニ可レ成品ハ年貢可レ爲レ致ニ辨納一謂レカツテ無レ之ニ附、得ト吟味勘辨致シ、無レ據品ハ年貢ノ損失ヲ不レ厭、タカウチビキニ相立ベシ、連々ビキハ天變地妖ニテ年々有レ之事也、是以反別方等入レ念、川欠山崩・押埋・石砂入等ノソン地有レ之願出ル時、ソン地ノ形殘有レ之分ハ、其坪ニ竿ヲ入、ノコリ地ノ反ベツモ改、縱バ水帳名所帳ノ面一反歩ノツボ、兩方改ノ上一反三畝歩アレバ、三割ノ餘歩ナル附、損地ノツボ一畝十歩ナラバ、十歩ハ餘歩トシテ、一畝歩ノ引ニ立ル、是トテモ其損地ノ左右ニ山野・原續カ河添等ニテ、元反別ニ增減難レ計分ハ、近邊檢地ノ儘ノ田ツボヲ竿入改、其餘歩ヲ以テ損地ノ餘歩ニ

可レ准也、又川欠等ニテ向ニ當テナキ損地ハ、欠タル地所難レ改ユヱ、ノコリ地ヲ改、其反別ニ村並ノ餘歩ヲ加ヘ差引致シ、損地反別極ルコト也、先ヅ檢地願出ル時、村方ヨリ小前帖爲ニ差出一、水帳名寄帖等ニ突合セ、元反ベツヲ改、檢地場所ニ小前帖通リ建札爲レ致、帖面ト札ト引合セ改ル也、其村定免年季ノ内ノ損地ナレバ、小前持高十分一ニ當ル損地ハ、年季内タリトモ其年ヨリ引ケニ立チ、十分一ニ不レ當分ハ、年季内ハ百姓内ソンニ成、切替ノ節迄起返ザレバ、切替ノセツヒケニ立ル、又檢見村ナレバ檢見以前、ソン地改致シ、其年ヨリヒケニ立、檢見後ノソン地ハ、翌年ヨリヒケ定法也、年々ビキニ可レ立溜井敷・堰敷・道敷・ツヽミ敷等ハ、定免檢見ノ無ニ差別一願出タル時、譯合得ト吟味ヲ遂、場所見分ノ上無レ據筋ナレバ、其年ヨリヒケニ立ル、前書ノ通反ベツニ竿入餘歩等ヲ加改ルハ定法ニテ、格ベツノ大檢地カ、又ハ村小前帖ノ仕立方等、不直不埒ノ筋モ相見ユル時ハ、定法ドホリ無ニ手拔一嚴重ニ改ム、又少ノソン地カ、村役人アラタメ方正直ニテ、帖面建札仕タテカタ不埒ノ筋モ無レバ、小前帳ニ地所ヒキ合セ、廣狹目分量ニテ見積リ、縱バ三畝歩ノ川欠砂入ト書出タル分、地所狹ク見ユレバ、以ニ點檢一一畝十五歩ニモ可レ致旨、於ニ場所一村役人地主押合畝歩見積リ、損地反別相極ル事也

一　一作引ト云ハ風水旱蟲ノ難ニテ、立毛致ニ損毛一見分願出、見分ノ上皆無ナレバ、其年一ケ年引ニ立ルヲ、一作引トモ當引トモ云、右ノ外ニモ何ゾ大普請成普請等有レ之時ハ、小屋掛イタス空地ナク、無ニ是非一田畠ノ内ニ取立、其年一作難ニ仕付一潰コミ地ニナレバ、是又一作引ニイタス事モアリ、又洪水抔

ニテ三五寸ノ薄砂泥置及ニ損毛ハ、不ニ取除一シテハ作難レ附、或ハ猪鹿喰荒、マタ水田ノ所ハ雁鴨喰荒シタルヲ、見分吟味ノ上、其年ハ損毛無ニ相違一ハ、取箇難レ附一ケ年引ニ立、翌年ハ作毛仕ツケル分、是マタ一作引ニ相立ル也

一　井料米水代米之事

是ハ他村ノ田地ヲ、此方用水ノ爲相對ヲ以掘割、井筋堰溝等ヲ立、潰地ニ成タル節、潰地相應程、地代トシテ年々米ニテモ金銀ニテモ相タイ次第先キ村ヘ渡遣ス、コレヲ井料米トモ水代米トモ云、マタ新田等出來、爲ニ用水ニ古田ノ内ツブレ地ニ成タル分ハ、公儀地頭ヨリ米金ニテ被レ下、マタハ相應ノ代地渡ルコトモアリ、或ハ古田ノ用水百姓勝手ヲ以テ願出、ツブレ地ニ成タル分ハ、村カタヨリ代米金差出スコト也

一　惡水落江代之事

コレハ惡水落江筋ヲ立ルトキ、他村ノ地面ヲ不ニ掘通一シテ不レ叶時ハ、高内ノ田畠ハ勿論、タカ外ノ地所タリトモ、ムラ方相タヒノ上、地子年貢ヲ遣シ、掘トホス也、用惡水ノ遠迄ニテ、井料米水代米同樣也、若數箇村ニ懸ル大造ノ惡水落等ニテ、多分ノ潰地等有レ之節ハ、公儀地頭ヘ相願、敷地年貢引方被レ下儀モ有レ之也

一　見立新田十分一被レ下事

御代官支配所ノ內、又ハ支配外ニテモ、海川野原等新田畑ニ相成ベキ場所見立、古田障有無等遂ニ穿鑿一、外ノ障於レ無レ之ハ、新開發相窺鍬下年季明御年貢上納ノ年ヨリ、見タテタル御代官一生御物成十分一宛被レ下御定法ニ相成候、尤當時ハ御代官ニ不レ限、御勘定御普請役等、見タテ新田ニ致セバ、是又一生十分一被レ下レ之、御代官手代見タテ相願テモ、十分一被レ下タル例、先年倉田伊右衛門支配所ニテ、見立新田取タテ十分一被レ下タル近例有レ之、右御代官へ十分一被レ下候儀、何頃ヨリ始リタルヤ不ニ相知一、右享保八卯年新田十分一ノ儀ニ附、御勘定奉行ヨリ左ノトホリ伺書附有レ之、ソノ頃有德院樣御治世ノ初、御政道諸事改リタルニツケ、此比ヨリ初リタル儀ニモ可レ有レ之ヤ不レ詳、都テ新田畠取タテルハ宜コトヽイヘドモ、古田畑秣場抔ノ障リ能々不ニ相糺一、地方增ヲノミ功ノ樣ニ心得、不吟味ニテトリタテハ、後年甚害多シ、若秣場不足イタシ、古田畠ノ妨ニ成、或地味宜カラズ、新田高入ニイタシ、年貢作德モ無レ之、是非ナクアラシ冠高ト成、末世村カタノ煩ヲ引出スコトモアリ、十分一被レ下德分ヲ思ヒ、始終國益ノ可否不レ考シテ、容易ニ新田トリタテル儀ハ不レ宜コトナリ

享保五子年五月、御代官へ品々御書付出ル、箇條ノ內書抜

一 新田出來候儀ハ宜コトニ候ヘドモ、外ノ害ニ不レ成所ハ被ニ申附一可レ然候、大概古田畠或ハ秣場等ノ障ニ成候事度々有レ之儀ニ候條、左樣成處ハ可レ爲ニ無用一事

同八卯年十一月、御勘定奉行衆ヨリ申上候書附

一　新田開發爲レ仕候御代官ハ、御取箇ノ内分一被レ下候儀奉レ窺候處、其身一代十分一可レ被レ下旨、先達被二仰渡一候、就レ夫小宮山杢之進支配小金佐倉新田場ノ内、當卯年ヨリ少々御物成相納ル間、此納分ノ十分一、先ヅ當年ヨリ可レ被レ下筋ニ奉レ存候、總テ御代官見立相窺開發仕立候新田ノ分ハ、右ノ通御取箇附ル其年ヨリ、不レ限二多少一十分一可レ被レ下候儀ニ奉レ存候、外請負人ニ申ツケ候テ開發爲レ仕候新田ハ、御物成不レ殘上納仕、其所ノ御代官へ十分一ハ下サレ間敷儀ニ御座候、依レ之申上候以上

卯十一月

御代官申立致二開發一候新田ハ、十分一御代官へ被レ下候外、願人申立致二開發一候新田モ、十歩一御代官へ下サレ可レ然ヤ、存寄可二申上一旨奉二承知一候、外願人新田ノ儀申出候テモ、御代官サハリ不二申附一候爲ニハ可レ然モ御座候ヘドモ、願人共申出候テ開ホツ致シ候新田迄、悉十歩一御代官へ下サレ候ハ大分ノ儀ニ可レ有二御座一、其上自身見立窺旁骨折候テモ十歩一下サレ、外願人申立自身ニ少シモ無二世話一候テモ十分一下サレ候ハ、自身見立精出候儀薄ク可レ有二御坐一哉ト奉レ存候、新田致二成就一取立納箇仕候儀ハ、其代リ口米下サレ候間、支配所増地仰付ラレ候同意ニ御坐候、願人申出開發ノ新田ハ、御代官へ十分一下サラズシテ可レ然奉レ存候、以上

卯十一月

一　田高五歩以上損毛高懸物免除之事　附　取米五分以上損モウ諸拜借一ヶ年免除

檢見取ノ村幷ニ定免被レ免ノ時、皆無高多ク田高五歩以上ノ損毛ニ當レバ、三役免除ニ相成ル、古ヘハ引畝檢見ニ附、檢見合不足ノ分モ高ニ直シ、田タカニテ引ニ立ルニ附、田タカニ不レ拘取米五分以上ノ損毛ノトキハ、三役免除ニ成來ル所、色取檢見初リ、合不足ハ檢見引ニ不ニ相立ニ米ニテ減ジ、皆無ダカ計引ダカニ立來リシ處、以後ハ田ダカ五分以上ノ損毛ニ當リタル年ハ、三役免除ニナル、トリ米五分以上ノ損毛ナレバ、諸拜借ノ類一ヶ年ニ延免除仰附ラル定法也

明和元申年、御代官辻源五郎ヘ御問ヒニツキ、申上候書附左ニ

覺

水旱損毛ノ年、タカ懸リ物免除相窺候儀、前々ハ毛出來劣リ合不足ノトリ米五分以上ノ免引方相建ル村方、三役タカ掛リ物免除相窺候處、當時ノ田高ニテ五分以上ノ損毛、村方高懸リ物免除被ニ仰附ニ候儀ニ御坐候、以上

申九月　　辻源五郎

一　五里外駄賃之事

御年貢米津出ノ節、船積河岸迄村方ヨリ五里内ノ駄賃・船チンハ、百姓役ニ差出、五里外ノ駄賃ハ、一

里一俵附一駄錢廿四文ヅヽ、里數ニ掛ケ公儀地頭ヨリ下サル、定法ナリ

一　鄕藏詰米火災定法之事

御年貢米鄕藏詰ニ成有レ之時、若火災ニテ燒失ノ節、公儀地頭役人米改請取ノ封印有レ之米燒失致セバ、公儀地頭ノ損失ニ成、役人改不レ濟百姓ヨリ名主村役人請トリ納置、未改不レ請分ハ、百姓ノ損失ニ成、年貢ハ別段ニ納ル定法也、又鄕藏無レ之村方ニテ、名主藏庭等ニ積置コメタリトモ、右ニ准ジトリ計コト也

一　夫食貸種貸之事　附　肥代貸方　延賣

夫食貸・種貸ハ、常例ノコトニ非ズトイヘドモ、凶年飢歲ニハ不レ可レ棄ノ第一ナリ、古人變ヲ常ニ制スト云コトハ、平日豫備ノコトナリ、民ヲ移シ粟ヲ移スコト、和漢トモ有事ニテ、荒政ノ兼務心懸ズンバ有ベカラズ、凡飢饉ノ兆シアラバ、智アル人ハ夏ノ中ニ最早見及ブ、七八月ニハ極テ見ユルモノナレバ、農民ノ食ヲ儉約セシムベシ、愚夫愚婦ハ差懸リタルコトノミニ拘リ遠慮モ無、不虞ノ備不ニ心掛一ノモノナレバ、官吏心ヲ用ヒ饑饉ノ兆シ顯レバ、下吏庄官ヘ命ジ夏ノ內ヨリ夫食ノ備心懸ル儀、村々ヘ深切ニ世話致スコト役人タル者ノ要務タリ、扨蕪菁ヲ多ク蒔附サセ、夫食ノ足ニ致ベシ、夏ヨリ早ク出來スレバ、夏ニ取附テノ助トナリ、春ノ內木ノ若芽、草ノ內ニモ食スベキ品ヲ撰摘テ、夫々ニ製法シ苞ニ入圍置、又菜大根等手入ノセツ、拔捨ル類ヲモ集メ置、或ハ芋莖等多分ハ切捨ル事アリ、是

等ヲモ不レ棄シテ干立貯置バ、夫食不足ノ時大成助ト成ル事也、或年ノコトナルニ、關東ニテ饑饉ノトキ千石餘ノ邑方ニ、富家ナル百姓アリテ、此所ノ飢人可レ助由地頭へ申立、屋根替ヲ始メ、右家ノ萱葺下ノ方ハ不レ殘干芋柄ニテ夥ク邑中へ配リ、勿論穀モ相應ニ差出シ、一邑ノ饑ヲ助シ事、大百姓ユヱ芋モ多ク作リ、外百姓ハ芋ガラヲ畠ニ切ステル所、此者ハ手作ハ勿論ムラ中切ステタル芋柄ヲ取集メホシ立、數十年ノ内屋根ニ葺込置タルユヱ、數千人ノ餓ヲ救シ樣シ、近年ノコトナラバ役人厚世話致シ、饑饉ノ備無難ノ時ニ可ニ心掛一コト也、荒政要覽曰、「人非ニ五穀一不レ生、五穀盡而至ニ糠秕一、糠盡而及ニ草根木葉一、於レ此束レ手待レ斃耳、依食無レ害草根木葉錄レ之」云々

山牛房	ハコベ	夏枯草	金盞花	蕎麥苗	
黃豆苗	豇豆苗	百合	麥門冬	苧根	
セウ蒲	老鴉蒜	山蘿蔔	地參	草輪菜	
雀麥	燕麥	黃精	蒲筍	蘆筍	
芽茅根	瓜樓根	菊花	金銀花	薄荷	
木槿樹	自根樹	橡子樹	栢樹	皂莢樹	
楮木	柘榴	エン樹芽	楡錢樹	樫木	槲實

右ノ數品食シテ害ナク、飢ヲ凌グニ甚便アリ、此外ニモ多ク品有ベシ、委クハ救荒本草ヲ見ルベシ、又

何レノ草木ニテモ、若葉ヲ味噌ヲ以テ養テ食スレバ毒ナシ、饑饉ノ備ニ常々分限ニ應ジ、味噌ヲタクハフベシ、海草モ食物アリ、分テ荒布ノ類ハ、何年圍置テモ損スルコトナク、凶年ノ助ニ至テ重寶成モノ也、海邊近キ國ニハ求メ置ベシ、領主地頭ニテモ、年々圍テ民ヲ救フノ一助トモナシ、又軍用ニモ可レ備コト也、朝鮮國ニハ饑歲ノ蓄ニ國主ヨリ命ゼラレ、戶每ニタクハフル由ナリ

一　夫食貸ハ常例ノ事ニハアラザレドモ、一國一郡無レ隱損毛ニハ、夫食蓄ノ有無ヲ吟味セシメ、男女老幼ヲワケ、實ニ饑ニ及ブモノヲ撰テ、作毛ヘ取附迄ノ日數ヲツモリ、米ナラバ二合女一合ヅヽ、麥ナラバ男四合女二合、粟稗ニテモ米同數ノ積リヲ以救ベシ、返納ノ年季ハ其節ノ吟味ニヨル事ナレドモ、先ハ翌年ヨリ五箇年賦程也

一　飢夫食料願タル時ハ、役人差出其家々軒別ニ改、米穀家財等ノタクハヘ有無巨細ニ吟味ヲ遂ゲ、農具ノ外彌可レ賣代成レ品無レ之體ニ相ミエ、飢カツニセマルニ相違ナケレバカシ渡ス、尤親類緣者ノ助力有無是又相糺、可ニ助合一親好身等有者ハ除ク、吟味ノ仕形ハ總人數何程ノ內、村役人寺院等並取續可レ成高持百姓等除テ、饑人數ノ內何十何人ハ親類緣者ヨリ可ニ助合一分相省キ、殘人數ニカシ渡ス、尤六十歲以上十五歲以下ノ男ハ一合扶持ノ積、女ノ內ニ入レ、十六歲ヨリ五十九歲迄ノ男ハ一日玄米二合、女ハ一合、粟稗準レ之、麥ハ男四合、女ハ二合ノ積ニテ、先ヅ日カズ三十日分カシ渡シ、代金ハ正四七十ト四度ニ御勘定所ニ書上置、下米直段ヲ以冬夫食ハ十月ノ相庭、春夫食ハ正月ノ相場、夏ニ至レバ麥作

出來ニ附、カシ不レ渡、然レドモ若子細有レ之夏カシ渡セバ、四月ノ相場ヲ以致二代付一、御金藏ヨリ請トリノ村々ヘ相ワタス、私領ニテハ右ノ四ケ月書上相場無レ之ニツキ、其所ノ下米相場ヲ用カシワタスベク、三十日過レバ米夫食再ビ夫食三十日ヅヽ相願ヒ、カシ渡スコトナリ、續ケテ九十日トモ一同ニハカシワタサズ、過納ハ無利足ニテヨク年ヨリ五ケ年賦ニ上納ス、尤凶年ニテ取米五分以上ノ損毛ニ當レバ、返納一ケ年延ニ成先ニ迯ル也、夫食ハ先命ニ拘リ時刻ヲ爭フ急務ナレバ、自餘ノ吏務ト違ヒ速ナルヲ專要トス、油斷シテ萬一飢死等アラバ、後ニ臍ヲカムトモ詮ナシ、早々遂二吟味一無二手抜一樣可二取計一事也

拜借窺書振合大概如レ左

何國何郡何ケ村夫食拜借窺書

覺

總人數何千何百何十人

內何十人　　何十何人

村役人幷夫食才覺相成候者除レ之、夫食願人數ノ內可成可二取續一分、並親類助合有レ之者吟味ノ上除レ之

一　飢人何百何十人　　何國何郡何村

此譯

男何百何十人

此夫食米幾石幾斗何升何合

但當何十二月三日ヨリ何正月二日迄日カズ三十日分一日一人ニ附米二合ヅヽ

女何百何十人

內何十何人　　六十以上十五以下男入

此夫食米何石何斗何升何合

但日カズ右同斷一日一人米一合ヅヽ

合米何百何十何石何斗何升

此代金何百何十兩

但當何十月何國何郡何町下米直段金一兩ニ附石替

來何年ヨリ來何年マデ五ケ年賦何程ヅヽ返納ノ積リ

五ケ年ニ金高割合端永出ル時、端永ハ末年ニ加ベシ

右者私御代官所、何國何郡村々當何六月下旬ヨリ八月中マデ、度々ノ大雨川通滿水仕、所々堤押切或ハ總越等ニ罷成、田畑皆損其上家居迄數日水湛ヘ、蓄置候夫食押流シ及レ饑難儀仕候ニ付夫食拜借被ニ仰付一候樣仕度旨、出水ノ時ヨリ追々願出候間、親類好身ノ者共助合爲レ致、可成ニモ才覺手段罷成

候者吟味ノ上除レ之、實ニ及レ飢候者相糺、書面ノ通ニ御座候、尤當前ノ難儀相凌、勝手ニハ可ニ相成一候ヘドモ、拜借金相當往々返納難儀可レ仕候間、何分相働取續候樣利害申聞候ヘドモ、一統ノ水損ニ附才覺手段無ニ御座一、何分拜借被ニ仰附一不レ被レ下候而者、饑渇ニ迫農業ニモ差支、誠ニ難儀默止奉レ存候間、當何十二月三日ヨリ來ル何正月二日迄、日カズ三十日分夫食代金御貸渡被レ下候樣仕度奉レ存候、尤私御代官所何國何郡何町當何十月書上下米相場、尚又糶下ゲ代金積リ仕候、然ル上ハ右金何程私入手形ヲ以、御金藏ヨリ請ニ取之一貸ワタシ、當何年御金藏御勘定元拂ニ組仕上、返納ノ儀ハ來何ヨリ何迄五ケ年賦被ニ仰附一、書面割合ノ通リ立上納仕、皆濟ノ節納札ヲ以テ私入手形引出樣、御證文可レ被レ下候、以上

年號月日

何誰印

御勘定所

裏書定例ノ通

一種貸ハ籾種・麥種トモ、凶年ニテ種無レ之段願出候時、彌タネ不足ノ人數得ト遂ニ吟味一、反別相改一反ニ何程マキト極メ、種員ヲ調ベ米ニ直シ、代金ニテ貸ワタス、直段ハ夫食同樣也、又私領抔ニテハ籾麥トモ正穀ニテカス事モアリ、イヅレモ種貸ニハ三割ノ利足加ヘ、元金合翌年ヨリ三ケ年賦通法也、

尤金高多キ時ハ、五ケ年賦モ有、三割ノ利附ハ高利ノ様ナレドモ、三ケ年ニ返納スレバ一割ニ當、五箇年ニ納レバ六分ノ利ニ當ル、勿論夫食ト違種ハ一粒萬倍ノ物故、爲ニ冥加ニ利足差加ヘル、凡籾種ハ一反ニ六七升蒔、麥ハ一反ニ一斗マキ位ノ積リ也、吟味ノ致方ハ夫食同然、悉入念相糺シ、拜借伺書ノ振合大概如レ左

下總國香取郡村々種麥拜借覲書

覺

畠反別二百八十二町六反二畝九步

十二町二反二畝步　諸引

内十三町七反六畝二十六分　屋敷反別除レ之

二十五町一反三畝五分　麥種有レ之

持高除レ之　百姓

一　反別二百三十一町四反八畝八分　何村同

何村同

此種麥二百卅一石四斗八升三合

但一段ニ付種麥一斗

此代金七十七兩永百六十一文
　但穀麥所相場金一兩ニ三石替
外金二十三兩永百四十八文三分　三割利金
合金百兩一分永五十九文三分
　但來亥年ヨリ來卯年迄五ヶ年賦返納、一ヶ年金二十兩ヅヽ、未年ハ二十兩一分永六十一文八分六厘

右ハ私御代官所下總國香取村々、當亥六月下旬ヨリ八月中迄、度々ノ大雨ニテ何川通出水仕、所々圍塘押切又ハ塘惣越ニ相成、內鄉ノ分モ水揚田畑ハ勿論家居迄水下ニ相成、數日相溜貯置候夫食種麥迄被ニ押流ー、當然及レ飢候ニツキ、少々相殘候タネ麥等モ、當日ノ夫食ニ仕候ニツキ、蒔付ノ時節ニ差向候ヘドモ、仕ツケ可レ申手段無ニ御座ー、必至トサシツマリ種麥拜借被ニ仰付ー下サレ候樣、一同願出申候、依レ之一村限巨細吟味仕、種麥少々有レ之分ハ一々相除キ、其外種麥ハ所持不レ仕候トモ、高持百姓可成ニ取續、自身才覺相成候者モ相省キ、實々才覺等難レ成及レ飢候體ノ者、植タカ吟味仕書面ノトホリニ御座候、依レ之荒麥相場所直段、當七月中書上相場ノ上、五斗安ノ積リニ、羅下ゲ金一兩ニ荒麥三石替ノ積リヲ以、書面ノトホリ御座候間、早速御貸渡下サレ候樣仕度奉レ存候、然ル上ハ右金七十七兩永百六十一文、私入手形ヲ以御金藏ヨリ請ニ取之ーカシ渡シ、當戌御金藏御勘定元拂ニ組仕立上ゲ、返納ノ

儀ハ三割ノ利金サシ加ヘ、來亥ヨリ五ヶ年賦返納仰附ラレ、割合ノトホリ年々是ヲトリ立相納、皆濟ノセツ納札ヲ以私入手形引出候樣、御證文可ㇾ被ㇾ下候、依ㇾ之奉ㇾ窺候、以上

明和三戌年九月

何誰印

御勘定所

御裏書

表書ノ金七十七兩永百六十一文、其方入手形ヲ以御金藏ヨリ請ニ取之ニ、貸渡返納ノ儀ハ、三ワリノ利金差加、來亥ヨリ來卯迄五箇年賦、ワリ合ノトホリ、返納皆濟ノ節納札ヲ以、入手形引出シ可ㇾ被ㇾ申候、斷ハ本文有ㇾ之候、以上

戌九月

組頭連名印

吟味役連名印

御勘定奉行連名印

何之誰殿

困窮ノ村方肥代拜借願出ル時、カシ方其所ニ用ヒ來リタル肥、干鰯・大豆・小糠・油粕等、村ダカニ應

ジ代金銀ニテカシ渡ス、尤百姓持ダカ吟味ヲ遂ゲ、タカ二十石以上ノ百姓ヘハ不二貸渡一通法也、名主庄屋タリトモ二十石以下ニテ肥相求候力無レ之者ヘハカシ渡スベシ、吟味致カタハ右品々一反ニ用ル分量定法ハ無レ之ニツキ、村々願々カ承届、其内何程ハ百姓自分ニテ才覺致シ、ナニ程ハカシ渡シ返納ノ儀ハ、無利足ニテ翌年ヨリ凡三ケ年賦ニモ致スベシ、又品ニヨリ其ヨク年トモ豐作ニテ、民力モ慕リ返納致テモ村方痛ニモ不レ成程ナラバ、ヨク年一同ニトリ立ル事モアリ、定リタル法式ハ無故、其セツノ時宜ニ隨ヒ、百姓難儀ニ不レ成樣可二取計一、尤願出候時小名前帳サシ出サセ、銘々持ダカ書記サセ、例年其村々ニテナニ品ヲ一反ニナニ程ヅヽ入ルト云事、反別肥ノ員數等相タヾサセ、クハシクセンサクスルコトナリ

一 延賣貸ト云ハ、其年物成皆濟難レ成願出レバ、其暮ノ相場ヲ以代金銀ニ直シ、無利足ニテカシ附、ヨク年是ヲトリ立、又其年ニモカシ、先繰ニトリ立ル也、尤豐年成バ吟味ノ上攺切ニモ改ズ。右延賣先年ハ遠國所々ニ有レ之、其クレヨク年相場ノ高下ニテ、公儀地頭百姓共互ニ損德ハ無レ之トイヘドモ、困窮ノ百姓其暮ノ凌ニハ甚宜敷、大ニ救助ノ筋ニ成タル所、右延賣ノ分先年永年賦ニ被二仰付一ヨリ、其後延賣相止、今ハ御料所ニハ無レ之事也、尤米穀ノ相場無レ之極事トハ雖、春ヨリ夏ニ懸テハ先ツハタカ直ニナルユヱ、前冬ノ相場ニテ代金銀ニ直シ、ヨク年春夏ニ懸穀ノ價貴クナリタル時トリタラバ、公儀地頭損失タツコト多キユヱ、先年古法ヲ廢シノベ賣リ罷リ永年賦ニ成、其以後相ヤミタルコトト見エタリ、

古ヘ中華ニハ常平倉ノ法アリテ、上ノ損シツヲ不レ厭民ヲ救シコトモ有、僅ニ價ノ上下ヲ論ジ、ノベ賣ヤミタルハ自然ト下ノ難儀ト可レ成、勿論米穀價ノ上下ハ春夏ニ至リ長クナルニ極リタル事モ無レバ、困窮ノ百姓養ノ爲ノノベ賣ノ古法今モ有レ之、御仁政ノハシトモ成ベキコト也

一　町在出火取計幷諸拜借之事　附　宿場出火拜借定法　村方出火農具代拜借　並夫食種籾拜借
出火咎並火元不レ決時トリ計ヒ

宿場出火訴出ルトキ、軒數火元御高札場類燒、怪我人馬有無相タヅネ、御料處ハ御殿中ノ間組頭並道中奉行所御勘定所道中方懸リ組頭ヘトヾケベシ、村カタ進注書ノ魁ニテ燒場ノ麁繪圖於レ致ニ出來一ハ、麁畫圖相添トヾケベク、畫圖出來兼ル時ハ、先トヾケ計ニテ追テ見分吟味ノ上委細可ニ申上一旨可レ認、私領タリトモ五海道其外道中奉行支配ノ宿場ハ、道中奉行所ヘハトヾケルコト也、宿場ハ一軒ニテモトドケル定法也、村方ハ御殿クミ頭計ニテ道中方ヘハ不レ及レ屆、勿論在鄉ハ十軒以下ノ出火ハ、支配御代官聞トヾケ置、公儀ヘトヾケニ及ズ、尤十ケン以下爲トモ一村不レ殘ト申カ、又ハ大百姓ノ分ニテ農具諸色不レ殘燒失、耕作ニ差支拜借相願ホドノ儀ナレバ、十軒以下ニテモ共譯書入相トヾケ、何レ出火ノ時宜ニ寄ベシ、且寺社燒失ノトキ一ケンニテモ相トヾケ、勿論寺社奉行月番ヘモトヾケベキ也、御朱印寺社大地ハ爲ニ私領一トモ、寺社奉行ヘトヾケベク、上ガタ筋京大坂堺奉行支配ノ國々ハ、出火トドケカタ吟味ノ上、仕形モ振合違、是ハ其國支配致ス節、先シハイヨリ申送有レ之事也

一　出火有レ之段村カタ訴出タルトキ、宿場ナラバ縦一二ケンノ燒シツタリトモ、早々役人差出火元吟味ヲ遂ゲ、イカヤウノ麁末ユヱ及ニ出火一タルヤ糺ベク、其家ノ主ハ勿論女房子供召使男女等迄一人別出火ノセツノ様子、夫々吟味ヲトゲ口書可レ取レ之、自火ニ紛ナケレバ一通ノ吟味ニテ濟メドモ、萬一意趣遺恨等ヲウケ、又ハ盜賊ノ業ニテ附火ニテモ可レ有哉、胡亂成趣ニ相聞エバ能々念入吟味スベシ、自火ナラバ火元入寺申附、若アヤシキ筋ニ決シタラバ、其品ニヨリ火元村預又ハ手鎖ニモ申附オキ伺ベシ、宿役人ドモモ夫々口書取レ之、御高札類燒有無、怪我人馬有無可レ糺、並隣家風上風下トモ防方相タヾシ、是又書附取レ之燒失ノ畫圖可ニ仕立一、馬役歩行役ノ者軒數マギレザル様相タヾシ、宿場ニテモ農人ナラバ農具種籾等燒失有無相タヾシ置、若追テ拜借願出タル時ノ見合ニスベシ、宿中大火夫食等不レ殘燒失、當日ヨリ及ニ飢渇一程ノ大變ナラバ、吟味中モ飢ニ及バセテハ不ニ相濟一ニ附、宿役人へ申ツケ助合ノ手當致置、追テ急々ニ夫食拜借相窺ベシ、尤小火ノ節其者ハ夫食無レ之トモ、外類燒ナキ百姓多ケレバ、五軒三ゲンノ夫食窺儀ハ不ニ相成一、親類好身其外村中ヨリ助合、不レ及レ窺様宿役人へ申ツケトリ計フベシ、名主類燒ニテ水帳又古來ヨリノ割附等、及ニ燔失一バ員數相タヾシ書ツケ可レ取レ之、扨又村方十軒以上ノ出火訴出ル時、吟味致シ方モ右同斷、差シテ驛場ニ替ルコトナシ、燔主持高相タヾシ、百姓水呑ノ譯記スベシ、種籾農具代拜借相窺程ノ大火ナラバ、彌々籾種農具ヤケニ及タルヤ得ト可レ遂ニ吟味一、穀物等ノコラズヤケ當前ヨリ及レ飢饉マギレナク、夫食於ニ願出一ハ餓死人等無レ之様手當

申ツケ置、ハイ借ノ儀吟味スベシ、併出火ノ時セツニ寄、蓄ヘ置タル穀類ヤケウセタリトモ、田畑ニ作物有レ之トキナラバ不レ及ニ拝借一、願出ルトモトリ上無ク、都テ出火ニツキテ驛場ヤケ、拝借ハ定例モ有レ之トモ、仕方農具代ハ格別、夫食種籾等ノハイ借先ヅハ相濟ガタシ、隣國ニモ聞エシ程ノ大火、一村及ニ退轉ニモ一程ナラバ夫食等モ可レ窺、左モ無レ之一通ノ出火ニテハ、縦實ニ夫食無レ之及レ飢程タリトモ、親類好身ニテ助合、冬春ノ出火ニテ種籾燒盡シタル共、自身以ニ才覺一耕作無ニ差支一樣ニ取計セ、拝借願容易ニ取上ベカラズ、拝借定例荒マシ左ノ如シ

一　宿場出火拝借定法（御傳馬役一軒ニ附金三兩ヅヽ、歩行役一軒ニ附金一兩二分ヅヽ）

右拝借割方

一　百疋百人ノ宿場ハ

人數百人ヲ人足役屋敷ヘワリ、一軒ニ人足何分何釐ニ成、夫ヲ類燒家數ヘ乘ズレバ、何十何ケント成、此家數ニ金一兩二分、永ニシテ二貫五百文ヲ乘ジテ、拝借金高ニ成ル、御傳馬役屋敷モ算法右ニ同、尤馬役ハ金三兩ニ付、永ニシテ三貫文ヲ乘ジテ、拝借金高ニ成、人馬兩役勤ノ屋敷ハ兩方トモ致ニ拝借一也

右之通ニ附、宿繪圖爲ニ差出一、惣家カズ何百軒ノ内歩行役何十ケン、馬役屋敷何十ケン、人足馬兩役屋敷・無役屋敷何十ケント、四段ニ割、兩役勤屋敷ハ兩方ヘ入ル

但火元ハ拜借可レ除事

一 五十疋五十人ノ場モワリ方右ニ準ズ

一 宿場大火ノ時ハ、問屋本陣脇本陣其外旅籠屋トモ家作モ相窺、尤是ハ金高定法モ無レ之、又困窮ニモ無、小火ノ時ハ不ニ相窺一、出火ノ時宜ニ寄事也

近年拜借被ニ仰附一方如レ左

武州足立郡中山道鴻巣宿御傳馬役ノ者類燒拜借窺書

蔭山外記
宮村孫左衛門
鵜貝左十郎

覺

去亥四月廿八日出火、燒失家數三百四十三軒

内百五十七軒 御傳馬相勤候分 中山道

一 金百九十四兩一分 鴻巣宿

永百五十文五分

但來丑ヨリ未迄七ヶ年賦、一ヶ年金廿七兩三歩永十六文五分宛返納ノ積リ

內

人足役ニ十九人五分七釐七毛

此金四十四兩一分永百十五文五分

但人足役一人金壹兩二歩ヅヽ

馬役四十九ケン

此馬五十疋

此金百五十兩　　但一疋ニ附金三兩ヅヽ

外

百八十六ケン　　　　無役之分

右ハ私ドモ當分御預所武州足立郡中山道鴻巢宿除地、法要寺境內藥師堂ヨリ、去亥四月廿八日出火仕、書面ノ通類燒仕候、人馬役ノ者ドモ火急ノ儀ニツキ、漸無ㇾ怪我ㇾ立退候迄ニテ、家財衣類等迄不ㇾ殘燒失仕候、御傳馬役難ㇾ相勤ㇾ儀至極仕候間、小屋掛料拜借被ㇾ仰付ㇾ被ㇾ下置ㇾ候樣、川田玄蕃允御代官所之節願出候ニツキ、同人方ニテ吟味仕候所、取立候趣相違無ㇾ之段申述候間、尙又私共ニテ吟味仕候處、無ㇾ餘儀ㇾ相聞候間、人足役一人金一兩二歩、馬役一疋金三兩ヅヽノ積リニ割合仕、書面ノ通ニ御座候間、早速拜借被ㇾ仰付ㇾ候樣仕度奉ㇾ存候、於ㇾ然ハ道中方除金之內ヨリ請ニ取之ㇾ貸渡、當子年御金藏御

勘定元拂ニ組仕上、返納ノ儀ハ來丑ヨリ未迄七ケ年賦取ニ立之ニ相納、皆濟ノセツ私ドモ入手形引出候樣御證文可レ被レ下、依レ之奉レ伺候、以上

明和五子年正月

蔭山　外　記印
宮村　孫左衛門印
鵜貝　左十郎印

御勘定所

御附紙

書面中山道鴻巣宿燒失ニツキ、人馬役ノ者ハイ借被ニ相窺ニ令ニ承知ニ候、松平右近將監殿ヘ窺フ上、金百九十四兩一歩永百五十文五分、道中方御除金ノ内ヨリ請取貸渡シ、返納ノ儀ハ來ル丑ヨリ未迄七ケ年賦トリ立可ニ相納ニト被レ申候、斷ハ本文ニ有レ之候

子五月

長印 安後[illegible]正備後日向備前出雲與二郎源五郎次兵衛平七十郎兵衛彌一兵衛押切

無

道中方

中山道武州足立郡鴻巣宿類燒御救拜借窺書

覺

先般高金三千四百四兩一分永百五十文

內金八百二十兩二分永百五十文　私共吟味減

伺金高二千五百八十三兩三步

內金九百五十八兩三步　此度ギン味ニツキ減 中山道足立鴻巣驛

一　金千六百二十五兩　本陣 旅籠屋 問屋場 家作御救拜借

但當從レ子辰迄五ヶ年差延、翌從レ巳來子迄二十ヶ年

賦一ヶ年金八十一兩一步ヅヽ返納

金二百五十兩　本陣一軒拜借分

金百兩　脇本陣一軒拜借分

內金二十二兩二分　問屋場一軒拜借分

金千二百五十二兩二分　旅籠屋八十軒拜借分

外金千七百七十九兩二步永百五十文

御吟味ニ附減

右者私ドモ當分御預所中山道武州足立郡鴻巣宿ノ内除地、法要寺境内藥師堂ヨリ、去ル亥四月廿八日晝四ツ時致ニ出火一候ニツキ、驛内ノ者驅附相防候ヘドモ、折節西風烈敷所々ニ飛火仕、數ケ所一同ニ燃立候處、同宿持添田切損見切濱戸ヤ新田御傳馬御普請被ニ仰附一候ニツキ、驛内ノ者ドモ多分右御普請所ヘ罷越、當番驛役人其外女子ドモ計居殘候體ニ御座候處、右新田ヘハ道法一里餘有レ之、驛内人少旁可レ防樣無レ之、殊ニ急火ニテ四ツ時ヨリ八ツ時迄ノ內、別紙書圖面ノ通類燒仕、漸々人馬無ニ怪我一立退候ノミニテ、家財諸道具衣類等迄不レ殘燒失仕、大勢ノ者ドモ所々ヘ離散仕候間、諸往來可ニ繼送一樣無レ之、熊谷・桶川兩驛ヘ相賴、一兩日ハ繼越候ヘドモ、双方道法往還十二里餘ノ繼合ニテ、兩驛ノ人馬袮疲差支候ニ附、僅燔ノコリ候御馬役ノ者助鄉サシ加ヘ、五六日ノ間宿役相勤候ヘドモ、繼合迄人馬無レ數候テハサシツカヘニ附、燔シ御傳馬役ノ者サシ加ヘ、去亥五月十日ヨリ宿內幷鄉ニテ可レ成ダケツキ立候ヘドモ、家作不レ仕候テハ往來休泊無レ之、大勢ノ者渡世可レ仕樣無レ之、去々戌年出水ノ節、同宿古荒川横手堤押切、七分通損毛川缺砂入等ノアレ地ニ相成、皆損同然困窮仕罷在候處、此度ノ類燒八九分通ノ大火ニ御座候ヘバ、宿役ハ勿論百姓相續モ成ガタキ程ノ儀ニテ、家作等ハ別テ自身ニ難レ叶段申レ之、宿中一統御救拜借被ニ仰附一下サレ度旨頻ニ相願、尤諸往來ノ休泊請不レ申候テハ、彌宿場相續モ不ニ相成一、大勢ノ者及ニ渴命一難儀至極致候間、重キ御願ニ御座候ヘドモ、御救拜借金五千七百兩餘仰付ラレ下サレ度旨、先支配川田玄蕃允方ニテ相糺候所、一體御傳馬役ノ者近年困窮致、去々戌

年ハ水難モ强、其上ノ大火ニ御坐候間、右御助ケ拜借仰附ラレ家作不レ仕候テハ、元ノ如宿場難ニ相成一體相違無ニ御坐一候、然レドモ大造ノ銀高ニツキ、格別相減可レ申旨、同人吟味ノ上、金二千三百兩餘相減、三千兩餘ノ拜借金寛書先達テ玄蕃允方ヨリサシ出置候得ドモ、減方御吟味仰渡サレ候間、尙又相糺候樣右同人申達候間、私ドモ方ニテ段々吟味仕候所、書面ノ通申立候、尤坪數相減候テハ休泊差支候間、坪當金高相減、幷問屋場道具代入用ノ儀ハ、宿場入用ヲ以相仕立候樣、先達テ金八百二十兩餘相減、金二千五百八十三兩三分伺書サシ出候處、此度金千六百二十五兩仰附ラレ候間、道中方除金ノ內元方御金藏ヨリ請ニ取之一貸渡、當子年御金藏御勘定元拂組仕上ゲ、當子ヨリ辰迄五ケ年サシ延、來巳ヨリ子迄二十ケ年賦取ニ立之一相收、皆濟ノ時收札ヲ以私共入手形引出シ候樣御證文可レ被レ下候、以上

明和五子年五月　右三人印

御勘定所

御附紙

長印御列名前同斷

書面中山道鴻巣宿、去ル亥ノ四月類燒ニツキ、本陣脇本陣旅籠ヤ問ヤ場家作拜借ノ儀被ニ相寛一候旨逹ニ吟味一、松平右近將監殿ヘ寛ノ上、金千六百二十五兩拜借申ツケ候間、元カタ御金藏道中

略之　カタ御入用ノ内ヨリ請ニ取之ニ貸渡、返納ノ儀ハ當子ヨリ辰迄五ケ年相延來ル巳ヨリ子迄二十ケ年賦申シツケ、ソノ割合ノトホリ年々是ヲトリ立可レ被ニ相收一候、尤場所替最寄替ノ時ハ、御證文繼引渡候ヤウ可レ被ニ相窺一候、斷ハ本文ニ有レ之候。以上

子五月　　　　　　　　　　　　　　　　　　川崎平左衛門

石州粕淵村類燒農具代拜借伺書

覺

類燒家五十九軒ノ内風下七軒ノ分

一　銀百二十四匁一分一釐　　　石州邑智郡粕淵村

類燒百姓農具料拜借

但來午年ヨリ戌迄五ケ年賦、一ケ年銀二十四匁八分二釐二毛ヅヽ返納ノ積

外銀百六十三匁　　此譯

鋤十挺　　但一軒鋤一挺ヅヽ代六匁ヅヽ

此代銀四十二匁

鍬七挺　　但同鍬一挺宛代六匁九分ヅヽ

此代銀四十八匁三分

鎌七挺　　但同鎌一挺ヅヽ代一匁九分八厘

此代銀十三匁八分六厘

稻挽七挺　　但同稻挽一丁代二匁五分八厘

此代銀十九匁九分五厘

右ハ私御代官所、石州邑智郡糟淵村ノ儀、當二月中出火家數五十九軒ノ内五十軒ノ儀農具拜借願出、先ダッテ奉レ窺候處、拜借家數多御定法ニ不相當候間、得ト取調可ニ相納一旨被ニ仰渡一、窺書御下ゲニ成奉ニ承知一候、右出火ノ時至テ風烈ク急火ニテ、多分農具燒失ヒ候ニ附、五十軒ノ者共へ拜借相願候通相違無レ之、捨置候テハ農業差支、荒地出來御不益ニ附、五十ケンへ拜借被ニ仰附一候積リ相伺候へドモ、風下七軒ノ外ハ拜借不レ被ニ仰附一御定法ニテ、其上品々窺候へドモ、書面四品ノ外ハ願不ニ相立一旨被レ仰渡一候ニ附、尚又吟味仕品々爲ニ相減一、書面ノ通ニ御座候、於レ然者右銀御金藏ヨリ請ニ取之一貸渡、當巳年御金藏御勘定元拂組仕上ゲ、返納ノ儀ハ來午年ヨリ戌迄五ケ年賦、書面割合ノ如ク取ニ立之一相納、皆濟ノ時納札ヲ以私入手形引出候樣御證文可レ被レ下候、仍レ之奉レ窺候、以上

天明五巳年十月

川崎平左衛門

御勘定所

御列名裏書定例之事

一 類燒ノ者ドモ穀物不レ殘燒失、親類好身可ニ助合一者モ無レ之、及レ飢候儀無ニ相違一候節ハ、日數三十日程夫食拜借ヲ相窺候、窺書振合等、外夫食伺ニ差テ相替儀無レ之ニ附略レ之、種籾ヤケウセモ同斷、尤類燒ニツキ夫食種貸ハ先ハ不ニ相濟一事也、併實々及レ飢儀ニ無ニ相違一ニ於ハ、相ウカヾフベシ

一 出火咎之事

有德院樣御代、享保年中御府內出火ノセツ、火元ノ者咎ノ儀左ノトホリ仰出サル

一 平日出火火元類燒ノ多少ニ依テ、十日・二十日・三十日押込可ニ申附一候

間數十間ヨリ內ノ手過ハ不レ及ニ訴出一

一 大火ノ咎、火元五十日手鎖

一 同火元ノ地主屋敷沽劵十分一過料

一 同火元ノ家守三十日押込

一 風上二町風脇左右二町宛六町過料

御成ノ節出火トガメ、火元五十日手鎖

同火元ノ家守三十日手鎖

同月行事三十日押込

同名主十日押込

但所ノ者早速消留候ヘバ、火元ノ當人計五十日手鎖

一　寺社門前地トガメ　　右同斷

其所買請又ハ致二借地一町屋敷立置候當人ヘ過料等申附ル、又或書ノ内左ノ如ク有レ之、尤時代ハ不レ知

一　小間十間以下類燒ノ分火元三日

一　同十間以上五十軒以下ノ分十日

一　同五十間以上百軒以下ノ分二十日

一　同百間以上ノ分卅日

右ノトホリ火元トガメ可ニ申附一事

タヾシ小間十間以上江戸表ヘ御屆可レ遣コト

右ノ如ク御定法ト相見、在方出火モ右ニ准ジ、類燒ノ多少ニ仍テ相當ノトガメ申附ルトイヘドモ、急度御定法モ無レ之、御領所ニテハ大火ハ格別、少々ノ出火ハ火ノ元自分ニテ致ニ入寺一、御免ト申モナク、小屋掛等致ニ出來一ハ出寺致ス、御府内御トガメモ近來ハ區々ニ相成、右享保ノ御定法差テ御用モ無レ之

ト相見、時ノ奉行心得ニテ取計フトミエタリ、御代官所出火トガメノ儀ニツキ、御代官小野左太夫・萬年七郎右衛門窺有レ之、御附紙ノ趣御トガメ日數等御定法ニハ無レ之ト相聞ユレドモ、先當時ハ大概右ノ當リヲ以取計フコトナリ

寛保二戌十一月御代官小野左太夫伺書

私御代官所、村々百姓出火一ケンヤケノ分、手過自火ニ無レ紛、火元百姓直ニ入寺仕訴出候分、是迄ハ日カズ七日モ相立候ヘバ差免來候、類燒等有レ之時ハ、火元百姓トガメ等ノ儀前々ヨリ申送リ等モ無ニ御座一候、然ル所去ル比御トドケ申上置候、甲州道中武州多摩郡府中宿百姓茂七儀、早速入寺仕候ヘドモ、類燒五ケン御座候ヘバ、一ケンヤケ火元同樣入寺サシ免候筋ニモ御座有間敷奉レ存候、勿論私御代官所村々御拳場村々多御座候間、旁以テ以來火元百姓御トガメノ儀左ニ奉レ伺候

一 自火ニテ一ケンヤケノ分、火モト百姓入寺日數七日相立候バ、サシ免シ候樣可レ仕哉

曲淵豐後 印

御附紙

書面ノ自火ニテ一ケンヤケノ時ハ、百姓入寺致シ候バ早々可レ被ニ差免一候

右同斷八九ケンモ類燒有レ之分ハ、日數十五日モ入寺可ニ申付一ヤ

御附紙

書面八九ケン程類燒有レ之セツハ、見計可レ被ニ差免一候

右同斷十間以上類燒ハ、日數三十日モ入寺可ニ申附一候哉

御附紙

書面十軒以上ハ類燒、多少ニ寄火元百姓十四五日、又ハ三十日程押込可レ被ニ申附一候

一　御傳馬宿場ニテ二三十軒以上類燒有レ之分ハ、日數五十日モ入寺可ニ申附一ヤ

御附紙

書面二三十軒以上ノルキセウノ節ハ、火モトノ百姓手鎖申ツケ置可レ被ニ相窺一候

一　御成御當日自火一ケンヤケニ候トモ、御場一二里內ノ出火ニ御座候バ、火元百姓手鎖申ツケ、咎日カズ等ノ儀ハ其セツ相窺候樣可レ仕ヤ

御附紙

書面可レ爲ニ窺之通一候

右ノ通可ニ申附一ヤ、御下知奉レ窺候、以上

戌十一月　小野左太夫印

明和七寅七月御代官萬年七郎右衛門窺書

出火有レ之時火元共入寺仕相愼罷在候由ニ御座候間、吟味ノ上自火ニマギレ無ク、怪キ儀モ無ニ御座一、類燒無レ之候バ不レ及ニ早々入寺一サシ免シ、類燒有レ之トキハ入寺三十日ヲ限、是又不レ及レ伺差免候樣

可レ仕ヤ

下ゲ札

御差圖有レ之候迄入寺爲レ仕相愼置候テハ、遠國ノ儀格別日數相掛リ、農業渡世ノ差支ニ相成候ニツキ、本文之通申上候

御附紙

書面伺之通可レ被ニ取計一候

天明四辰年八月御代官鈴木新吉伺ノ内書拔

一　出火有レ之節火元ハ入寺仕相謹罷在候由ニ御坐候間、吟味ノ上自火ニマギレ無レ之、怪敷儀モ不ニ相聞一、類燒モ無ニ御座一候バ、不レ及レ窺早々入寺差免可レ申候、十ケン以上類燒有レ之候バ、多少ニ隨ヒ火元ノ者十日・二十日又ハ三十日迄モ押込申ツケ候樣可レ仕ヤニ存ジタテマツリ候

但御傳馬宿等ニテ二三間以上類燒有レ之分ハ、火元ノ者手鎖申付相伺候樣可レ仕ヤト奉レ存候

御附紙

書面可レ爲ニ窺之通一候

右出火咎ノ儀旋ト御定法ナク御觸流モ無レ之、火災ノ儀ハ町家百姓ニ限リタル事ニモコレ無、貴人高位ノ館舍ヨリ出火有レ之、多分ノ類燒モ有レ之事ニツキ、輕キ者計御咎可レ被ニ仰付一筋ハ無レ之、自火ハ大

名高家ニテモ不念ハ同樣ノコトニツキ、下々咎ノ御定法無レ之儀ト相聞ユル、既ニ先年御老中方御評議ニテ御府内度々ノ出火ニツキ、火元ノ者類燒多重キハ死罪、其次ハ遠島、ヤケ少キハ追放等、輕重ニ隨ヒ重科ノ御定法可レ被二仰出一ヤノ内評有レ之タルトキ、秋元但馬守殿其セツ御老中御末席ノ處、有無ノ御挨拶無レ之ニツキ、上座ノ御方ヨリ但馬守殿ニハ、自分ドモ評議ニ一向御口入無レ之、如何ノ思召ニ候ヤト御問ノトキ御答ニ、各樣御評議御尤ニ御座候、併火災ハ誠ニ變事ニ候ヘバ、町家ノミニカギリタルコトニ無レ之、各樣拙者ドモ居宅ヨリ致二出火一、多分ノ大燔ニ可二相成一モ計リガタク、然ルトキハ諸侯ノ面々切腹可レ被二仰附一ヤ、科ヲ犯候上ハ武家町人貴賤ノ差別ハ相成間敷候、此儀ハ如何御決議御座候ヤトノ御アイ拶ユヱ、何レモ御尤ニ思召、右ノ御評議モ相止タル由及レ承候、於レ然ハ出火ノ火元トガメノ儀、屹ト致タル御規定ハ無レ之コトト見ユル也

一　火元不レ決トキハ、双方トモニ牢舍ハ不二申附一、幾度モ呼出吟味ノ上ニテモ不レ決トキハ、双方同樣可二申付一旨、享保六丑年三月十六日、戸田山城守殿申渡有レ之

一　定助鄉大助鄉之事　附　加宿　掃除町場　一里塚ノ始

前々ハ定助鄉・大助鄉ト云テ、中山道・日光道中等ノ内ニハ、定助鄉ト云ハ稀ニ有レ之、東海道ノ内モ定助鄉ナキ宿場モ有レル由、其比定助ハ高百石ニ馬二疋・人足二人位ノ當リヲ以、驛場ニサシ出シ置相勤

ルユヱ、高懸リ物御免、大助トハ諸侯方參勤交代御番衆通行等、其外ニモ大トホリ有レ之時、百石ニ凡二疋・二人位ノ當リヲ以、呼出召仕、通行少キ時ハ不レ出、仍テ高掛リ物モ納ム、然ル處四五十年以前、年增ニ諸家ノ通行多、古來ト違ヒ夥ク人馬入用ニツキ、百疋百人ノ宿場、又ハ中山道・日光道中・水戸海道抔ノ類、五十人・五十疋ノ所ニテモ、宿人馬ノ上百石二疋・二人位ニテハ不足ニ附、悉人馬多ク差出シ、定助鄉村々勤リガタク成行、人馬ノ遲滯多通行差支ニ成、宿方村方ヨリ追々道中奉行所ヘ願出、御吟味ノ上其後定助・大助ノ名目相止ミ、古來極メル定助ノ上ニ宿場最寄村々差シ村致シ願出、被レ遂二御糺明一、當時ハ五海道スベテ助鄉相增、ノコラズ定スケ鄉ト成、尤定ノ字ヲ除キ助鄉ト唱、三役ノ高掛リ物御免也

一　大助鄉ノ儀ハ、日光御法會或ハ朝鮮人・琉球人來朝、其外ニモ稀ナル大トホリ有レ之、助鄉人馬計ニテハ難レ勤節、驛場ヨリ四五里位マデノ村カタ、時ニ望ミ御糺ノ上大スケ鄉人馬サシ出ス、常ニハ大スケ鄉ト云コト今ハナシ、助鄉村々ノ儀ハ五海道ノ外、國々脇往還ニモキハマリコレ有ルコト也

一　助鄉高、何驛ハ高何萬何千石トキハマリ、助鄉帳ト申アリテ、奉行所ヘモサシ出、驛場ニモ致二所持一、人馬割致シ觸ル事ナリ、助鄉村ハ其驛ヨリ數里近キ村方重ニ相勤ム、併村ニヨリ役村トテ、何ゾ地頭用村用其外公儀ヘ拘リ候定式ノ外ニ役ヲ勤ル村アリ、是ラハ助ゴウ勤テハ二重役ニ成ユヱ、宿場近村タリトモ前々助ゴウ不レ勤邑モアリ、勿論差邑ニ成增スケゴウ吟味ノセツ、種々ノ役ヲ申立ルトイヘドモ、

格別ノ譯アリテ彌大役ニテスケゴウ難レ勤ケレバ相除キ、定式外ノ役ニテモサシタル事ニナケレバ、邑役ニハ不レ立事也

一　近年次第ニスケゴウ人馬多ク當リ、村々及二困窮一、驛場勤ハ一日成トモ二里三里モ有遠所ハ、前日ノ晝ヨリモ村方ヲ出、其夜驛へ着、翌日ツトメ夕方迄モ役仕廻ヘバ、夜ドホシニモ歸レドモ、繼場遠キ宿夕七半時比ヨリ繼送リ、夜ニイリ宿場へ歸レバ、其夜ハムラ方へ歸ルト雖、又止宿致一日ノツトメニ前後三日ノ日ヲ潰シ、農業ニ後レ剩へ二夜泊リ食物ノ費多ク、其上終日折返シ等ニ遣ハルヽ故、途中ニテモ致二食事一小遣錢モ掛リ、其日取タル人馬賃錢ハ少モ不レ殘、却テ足シ錢入リ、村々ノ痛大カタナラズ、殊更二里餘モアル村カタハ、正人馬出シテハ右ノ費有レ之候テ、三日モ農作ニ後ルヽユヱ、名主村役人共縁ヲ求メ問屋共へ對談ニテ、當リ人馬ヲ代錢ニテ差出シ、此夫錢ノ嵩リ多キコトニテ、ムラ入用多相懸ル、右サシ出タル金銀ハ、問屋役人馬サシ物書等飲食ノ費用ニツカヒ捨、又ハ私用ニモ遣ヒ、人馬ハ近里ノ村々正人馬ヲ餘計ニ當遣フユヱ、取分ケ宿場近キ助郷村々ハ及二難儀一、其上近年ハ別テ、役人共人足ト馴合、御定ドホリノ人馬サシ出サズ、賣荷等錢賃相對ニテ利潤多キ荷物ヲ人馬ニハ附送ラセ、御傳馬ハスケゴウノミ重ニ遣フユヱ、一人ムラ人足多ク出、自ラ田畠モアレ作ニ成及二困窮一、潰レ百姓等出來、公儀地頭ノ不益モ不レ少コトナリ、去ル比中山道新町・倉加野・高崎・安中・板鼻助郷人馬ノ出高、享保年中ヨリ天明迄、凡六十年餘ノ年々ノツカヒ高、村々ヨリ爲二書出一引比ル所、繼

バ、享保年中高百石ニ五十人當リタルハ、安永・天明ニ至リテハ三四百人ノ當リニ成、頓テ八增倍程ノ遣ヒ高、誠ニ大造ナル違ヒナリ、近年諸家通行多トテ、夫程ニハ不レ違筈ナリ、畢竟六七十年以前迄ハ、往古ノ遺風有テ、人モ質朴故宿方ノ費用モ薄ク、驛人馬モ實體ニツトメ、役人共モ廉直ニ有レ之、人馬ノ遣カタ正直ユヱ、自然ト入用少ク、近年ニ至テハ上下奢侈ノ風俗ニ移リ、宿入用等相嵩、右ニ記ス如ク、遠所ノ助郷人馬賃錢等ハ無益ニ遣ヒステ、其人足ダケ近村ヨリサシ出ス様ニナレバ、自ラ老幼ノ弱人足ノミ多ク、一人ニテ可レ持ヲモ兩三人カヽル様ニ成行、自然ト人馬高モ相マシ、邑々ノ難儀云バカリナシ、依レ之時ノ役人心ヲ用ヒテ、國々助郷ノ人馬減カタ勘辨有レ之度コトドモナリ

一　加宿ト云ハ、譬バ何宿ト云名目有レ之處、人家少ク百疋・百人五十疋・五十人ノ宿人馬サシ出難キニ附、驛場續キノ村カタヲ加宿ト極メ、一ケ村ニテモ二ケムラニテモ、驛場等加ヘ置、二ケムラ三ケムラノタカヲ以、一ケ邑ノ役ヲ勤ム、是ヲ加宿ト云、右村ハ助郷不レ相勤、又驛場町並ニ他村有レ之、町續ニ旅籠屋モアリ驛役人モ有テ、二ケ村三ケ村ニテ一宿ニ立タル驛場アリ、是ハ加宿ニハナク本宿ナリ、ケ様ノ驛場ハ所々ニ多シ

一　往還掃除町場ノ儀、街道筋ヘ掛リタル村々、其地內ヲ掃除致スモアリ、又往還ノ內何十何町ハ何村ソウジ所ト、タカニ割付傍ニ示ヲ建テ、遠村ヨリ掃除イタスモ有、助郷村ハ多分ソウジ町場ハ相除ク、又助郷ニテモ邑方地內ノ往還ハ、ソウジ町場ニ持タルモ有テ、往還所ニ依テ一定ナラズ、是ハ前

前仕來リト相聞、公儀ニテモシカト規定モナキ事ト見ユ、然シ其筋ヘ伺ハ御定法有レ之哉、先ヅ往還筋ノ傍示抗等見請テハ、海内一列ニハ無レ之、區々ニ相聞エ、古來ヨリノ仕來リヲ相用ルコトトミエタリ

一　壹里塚始之事

上古ハ一リノ法不レ定、里ヨリ里迄ヲ一里ト云シトナリ、仍テ間數ニハ悉ク長短アリ、中華ハ六町ヲ以テ一里トス、本朝モ是ニ效ヒ、六町ヲ一里トサダメタル由申傳フト雖時代不レ詳、其遺風ニテ今モ奥州ハ六町一里、數モ六町ヲ以テ一里トス、中頃人皇百七代正親町院ノ御宇、天正年中三十六丁ヲ以テ一里ト究メラル、一歩六尺・一段六間・一丁六十間・一里六百間、此坪數六六ヲ伸テ、三十六丁ヲ一里トキハメタル由、其頃一里毎ニ塚ヲ築シメ、印ノ木ヲ植サセラル丶時、松杉ヲ可レ植ヤト時ノ武將信長公ヘ伺シニ、松杉ハ類多ケレバ餘ノ木ヲウヱ可ト有シヲ、役人聞違ヒ榎ヲウヱ可ヨシ處々ヘ申ツケニ寄、今一里塚ノ樹スベテエノ木ナル由、世事談ニミユレドモ、一里三十六町ニサダマリタルハ、信長公時代ニモ有ベケレドモ、一里塚初リ國々ヘ築立、エノ木ヲウヱタルコトハ台德院樣御治世、慶長十七壬子年、大久保石見守奉行トシテ、從二江戸一諸國ヘ道中筋一里ヅカヲ築セラル、下掛リハ江戸町年寄樽屋藤左衞門・奈良屋市右衞門兩人ヘ被二仰付一、同年二月初旬ハジメテ五月下旬迄ニ、諸國一里ヅカ悉ク成就ス、依テ塚上ニ印ノ木ヲ植テハ如何ト、石見守伺シ所、一段可レ然トノ嚴命ニ附、何ノ木ヲ可レ植ヤト重テ窺シニ、ヨキ木ヲウエヨトノ命ヲ、石見守エノ木ト聞違ヒ、續テエノ木ヲウヱタル由、或書ニモ見エ、

又樽屋・奈良屋ノ掛リタル事ハ、有徳院様御代、御府内其外國々諸事御糺明ノ節、享保十乙巳年八月、町奉行中山出雲守・大岡越前守ヘ、町年寄共由緒書差出シタル内ニ、一里ヅカ成就ノ上拜領物等迄アリ、委キハ江戸官鑰祕鑒ニ詳ナリ、信長公上方筋ハ一圓ニ雖レ被レ爲レ領、天正ノ頃ハ、關東ハ北條領ノ海道筋ニハ御當家今川、甲州ハ武田家等有レ之、戰國ノ時日本一統ニ一里ヅカヲ可レ被レ築様ナシ、世事談ノ說ハ、御當家ノ命ヲ信長公ノ時一里三十六丁ニ成タルニ附會シタル說成ベシ、海内國々ニアル一里家成ハ、御當家ニ成テ出來タルコト歴然也、一里三十六丁ト云モ未ニ行渡一國々有、伊勢國ハ五十丁一里多シ、紀伊國ニモ伊勢近キ所ハ五十丁一里有、九州ノ内肥後・肥前等ニモ、五十丁一里ノ所モアリ、併九州ハ多分三十六丁一里也、四國ノ内ニ四十丁里ノ所モアリ、奥州白川領ヨリ東ハ、總テ六丁一里也、一里ノ町區々成コト、其發不レ詳、案ニ天正年中、海内三十六丁ニ被レ命トイヘドモ、奥州九州四國等ノ片鄙、王命ノ行屆カザル故、古來ヨリ仕來リヲ改メズ、今モ區々ノマチ數有ハ、國々古來ノ儘差置タルコトトミエタリ、一里ノマチ數改リ、ツカニ榎ヲウユルコト前書ノ如ク記スト雖、慥成引書モ無、朱書等ニ相見エ、出ル處正カラザレドモ、申傳ニ任セ記置者也

一　作德凡勘定之事

一農夫作德之儀ハ、賦税ノ高下土地ノ善惡米穀并肥養價ノ上下、用水掛引ノ損益等ニテ、國々村々不ニ一定一、作德ノ多少悉ク違アリ、都テ百姓一人ニテ作ル反當リ、凡五六反ヨリ七八反程作ルモノナリ、田

作ハ人夫掛リ少ク、畑ハ悉手間懸ル故、田方多作レバ人夫手間掛リ少ク、畠多ケレバ手間夥ク懸ル、仍テ田畠ノ多少ニ隨ヒ、反當リノ多少アリ、又土地ノ淺深強弱ニテ耕シ、手間格別差ヒ、或ハ肥シ用水等ノ品ニ寄、作リ手間ノチガヒアル故、村々ニ依テ一人當リノ反別多少有、仍レ之作徳ノ儀モ其所其者ニ隨ヒ違目アレバ、一概ノ勘定ハ曾テ難レ成トイヘドモ、國政ニ携ル人大旨ヲ知ラズンバ有ベカラズ、譬バ小百姓一軒家内五人暮ト見テ、其内老幼不用ノ者二人、耕作ノ働等相成者三人トシテ、上州群馬郡邊兩毛作ノ場所ニ當テ、大積リノ勘定左ノ如シ

一　田畠反別五反五畝歩　百姓一軒　家内五人内（三人コウ作ハタラキ二人老若不用）

此譯　中田四反歩

此取米二石三斗二升　但反ニ五斗八升取

此延米一石六升七合二勺　本米一石ニ附延米四斗六升

此口米二斗三合二勺　本延一石ニ付口米六斗

三口〆米三石五斗九升四勺　年貢辻

此代金四兩一分永廿四文三分　兩ニ凡直段八斗四升替

右四反歩仕附入用積

人夫十三人　苗代地拵ウナヒ手間共

同六人　　肥持出シ

同六十五人　　肥大豆蒔入、並田ウヱ、地撫シ、ウヱ附、其外稲苅上、米コシラ
　ヘ手間トモ

同二十四人　　田草三度取手間

四口

〆百八人

　内十八人　　雇人

此賃銭一貫八百文　　但一人ニツキ百文ヅヽ

残九十人　　自身働

馬四匹　　荒耰ヨリウヱ附迄、三度掻平均シ手間

　此チン一貫二百文　　一疋ニツキ三百文ヅヽ

　　是ハ小百姓馬所持無レ之雇立ノ分

干鰯フスマノ類　　此代金一両

　肥大豆二斗餘　　此代金一分

水肥十二荷　　此代銭一貫廿六十四文　　一荷ニ附九十三文ヅヽ

小以金五兩一分永百卅四文 三分錢四貫百六十四文

右四反歩稻跡へ麥仕付入用積

人夫二十六人　稻アトウナヒ蒔ツケ迄

同　十八人　草取土搔刈上收納手間

二口

〆四十四人

内十一人　雇人夫

賃錢一貫百文

殘卅三人　自身働

馬一疋　ウナヒアト馬鍬ニテ平均シチン

コノ賃錢三百文

水肥並雜肥五十駄程　手前養ヲ用ル

小以錢一貫四百文

中畠一反五畝歩　コノ取米三斗六升　但反米二斗四升取

コノ延米一斗六升五合六勺　延口田トモ同斷

コノ口米三升三合五勺
三口〆　米五斗五升七合一勺　年貢辻
代金二歩二朱永三十八文二分　相場右同断
右一反五畝歩仕附入用
人夫十人　地ゴシラヘヨリ麦マキ附迄
同八人　作切土カキ刈上收納迄
〆十八人　自身働
右麦アトヘ粟稗芋大豆小豆ノ類仕付
人夫十二人　地ゴシラヘ蒔仕付作土搔一式手入
水肥雑肥トモ　五駄　十荷
内　三駄　附此代二百文
小以金二分二朱永三十八文二分　錢二百文
〆金六両永三十七文五分
内四両三歩一朱永六十二文五分　錢五貫七百六十四文　年貢
コノ金一両永二十九文六歩　但両ニ錢五貫六百文ガヘ

二口合金七兩永六十七文一分
是ハ御年貢並作手間肥代諸入用　右田畑五反五畝歩取揚之積
一　田四反歩
此取上米六石七斗二升　一反ニ付四斗二升入四升取ノ積
コノ代金八兩　兩ニ八斗四升ガヘ
コノ取上麥六石四斗　一段ニ附一石六斗取
代金四兩一分二朱　永四十一文七分　兩ニ一石五斗ガヘ
一　畠一段五畝歩
此取上麥二石四斗　一段ニ附一石六斗トリ
代金一兩二分永百文　相場右同斷
コノ雜事作取上金一兩三分二朱永二十二文五分
コノ譯
五畝歩　大豆作
此トリ上大豆五斗　反ニ一石トリ
代金二分　兩ニ一石ガヘ

三畝歩　稗作
此取上稗七斗　但段ニ二石三斗取
代金二朱永百八文三分　兩ニ二石ガヘ
三畝歩　粟作
此トリ上粟六斗　段ニ二石トリ
代金一分エイ五十文　兩ニ二石ガヘ
一畝歩　小豆作
取上小豆一斗二升　段一石二斗取
代金二朱永二十五文　兩ニ八斗ガヘ
二畝歩　芋作
此トリ上芋三石二斗　段ニ十六石トリ
此代錢四貫文　百文ニツキ八升ガヘ
コノ金二分二朱　永八十九文三分　兩ニ五貫六百文ガヘ
一畝歩　菜大根茄子大角豆ノ類
此取賣作リ手間見捨

〆金十五兩二分二朱永三十九文三分　作物トリ上辻

内金七兩永六十七文一分

御年貢並作方諸雜用引

殘金八兩三分永九十七文二分　作德ノ分

此遣方

金八兩一分永十文

此麥十二石三斗九升　但兩ニ一石五斗替

是ハ家内五人年中夫食老幼平均一日一人ニ附麥七合ヅヽノ積

金二兩

是ハ右同斷鹽味噌薪衣帶農具脩復其外諸雜用ノツモリ

小以金十兩三分エイ十文

差引　金一兩一歩二朱エイ三十七文八分不足

右作德勘定不足相立、百姓世話ニ雖レ難二引合一、夫食ノ儀麥計食スルニ非ズ、粟稗菜物木葉艸根等ヲモ加ヘ、又ハ米搗碎粃等ノ落溢モトリ集メ食スルコトナレバ、前書積リ通ノ夫食入用ハ不二相掛一、尤家内五人グラシノモノ諸雜用、金二兩ニテハ不足タレドモ、何國ニテモ農業ノ外少宛ノ稼ハ有モノ也、分

テ上州蠶飼有煙草作アリ、又何レノ村々ニテモ縞木綿ヲ織出シ、自分着用ニモナシ賣出ス所モアリ、或ハムシロ織、縄ヲナヒ、山方ハ材木ヲ伐出、炭薪ヲ出シ、海川附ノ村々ハ漁獵ヲモ致シ、都會ノ近里ハ菜園ヲ重ニ作リテ賣出シ、其外農業ノ男女共其所ニ仕馴タル相應ノ稼有ツテ、少々ノ助成ヲ以取續事也、然レドモ懶惰ノ百姓稼ニ疎キ輩、又ハ病難等不慮ノ物入等有ハ難ニ取續ニ者多シ、扨又片毛作品少ナル村々、水旱ノ難多キ場所抔ハ、作德前書ノ通ニハ不レ當、其村其國ニテ損益差アレドモ、兩毛作ノ場所高崎近所ヲ揚テ記ス、尤右勘定ハ一々五村故延口米多ク、年貢別テ高シ、三五村ナレバ年貢低ニ付、作德多シ

一　名主引負並ニ未進不納譯之事

名主一分ノ持田地ノ年貢未進、又ハ百姓ヨリ收タル年貢引負致セバ、科百姓トハ格別ニ重シ、名主役取上賣拂トモ又ハ小作ニ申付トモ致ス、若引負ノ上欠落等致セバ、尙更トリ上ル法ナリ、此トリ上田地ハ賣拂トモ、又地頭ノ抱田地ニ致ストモ勝手次第也、讓田地ノ由雖ニ申立ニ格別ノ譯無レ之テハ難レ立法也、平百姓ニハ未進不納ハアルトモ、引負ハ筋ナキナリ

一　未進ト云ハ、縦バ年貢米五俵可レ納百姓三俵收メ、二苞殘リ可レ爲ニ皆濟ニ期月越タルヲ未進ト云、五苞トモ前々ヨリ不レ殘不レ收ヲ不納ト唱ヘ、不埒ノ科重シ、當年ノ年貢ヲ來年五月迄不納致セバ、公儀地頭ヘ田畠トリ上ル法也、尤拂ニハ不レ致、村中ニ預ケ惣作ニ申付、人夫ハ村役ニ出サセ、種肥養ノ

償ハ公儀地頭ヨリ差出、年貢作德トモ不レ殘トリ上、年ヲ經タル上願出レバ、元地主ヘ取ラスル也、若讓渡タル田地ノ由申立、慥成證文等アリ、不埒ノ筋無レ之トモ、地頭ヘモ不レ屆村方水帳名寄帳不ニ書改一ハ、其者ノ名前於レ有レ之ハ取上ル、未進ニテハ田地トリ上ル法ナシ、夫トモ百姓ヨリ願上田地ニ致セバ、トリ上小作ニ申附、未進程速々ニ償、不レ殘相濟バ田地ハ元地主ヘ返ス、外ノ罪科ニテトリ上タル田ハタト違ヒ、未進ハ勿論不納候テモ田ハタヲ拂ニハ不レ致事也

但村々年貢皆濟ノ期月、關東上方諸國御料私領トモ十月中十一月中、又ハ十二月中日限抔、其所々ニテ極リ有、然レドモ十二月中皆濟致セバ、不ラチハ無レ之、期月越タリトモ不レ咎、翌春ニ越テ未進不納アレバ、不ラチ故前書ノ趣ニトリ計ラ、乍レ去極貧困窮ノ百姓、夏作ニテモ收納不レ致シテハ、可レ納品ナキニ依テ、ヨク年五月迄ハ致ニ容赦一事也

地方凡例錄卷六　終

地方凡例録巻七

目録

一　掛當舊離帖外之事　附　義絕

地方凡例録巻七

一　鄕帳發之事　附　地方三帖　御取箇帖　納拂明細書　御勘定帳　御證文並起合印調印　鄕帖
御取箇帖可ニ差出一月數　諸帳面寸法

鄕帳ノ濫觴ヲタヅヌルニ、古來ハ諸事大樣ニシテ租稅ノ法細密ナラズ、其年々御代官御取箇ヲ極メ相納、公儀ニテ多少ノ御穿鑿モナク、㩁割ト云モ無レ之濟來シ所、大猷院樣御代、慶安二己丑年、諸代官ヘ被レ爲レ命、年々御取箇幷小物成高掛リ物等可レ納分、帳面ニ仕立御勘定所ヘ可ニ差出一旨ニテ、御按文相渡リ、仕立ノ御成箇鄕帳ト名付、此時ヨリ差出スコトニ成タリ、尤其一村ノ土地ヨリ出ル品類ヲ記ス帖面タルニ由テ、是ヲ鄕帖ト云、租稅ノ元ニシテ可レ納品々、是ニ洩ルコトナク至テ大切ノ帳面也、則公儀御納所ノ根元タル故、萬一鄕帖ニ違算書損等有レバ、御代官サシ控窺定例也、右ニ載ルハ可レ納品々ノ元ニシテ、是ニ懸ル口米永或ハ出目米延米、又ハ年々增減アル諸運上、分一臨時物等ハ不レ載レ之、土地ヨリ發ル數品計ヲ記ルスユヱ、知行渡ノ時物成詰ニシテ、高ニ結ブハ鄕帳組ノ品々計也、鄕帳ニ不レ組品々ハ、物成詰ニハ不レ成、鄕帳ノ米永ヨリ起ル納物共外不時ニ差出ス品々等、一體金ノ納總辻ヲ記シタルハ、納拂明細書ト云モノニ有テ、淺草御藏御金藏ヘ納ルベキ數

品ノ事モ洩ル事ナシ、鄕チヤウ仕組カタ振合ノ雛形末ニ記ス

但鄕帳ニ若違アレバ、御代官差控寬程ノ大切成モノ故、違ヒ無モノニ決シ、以前ハ御勘定所ニ於テ改ルコト無リシニ、三十年程以前ヨリ御勘定ノ內鄕帳掛リ出來テ、當時ハ御勘定所へ手代サシ出、相手トシテ改ルコトニ成タリ

一　鄕帳ニハ五ケ年萶ノ上リ下リヲ記シ、五ケ年平均米ノリンヲ以、年貢ノ高トヲ知リ、知行渡ノ物成請モ、鄕帳五ケ年ノ米ヲ以致スコト也

但前編ニ記ス如ク、永方米ニ直シ惣取ニ加へ、萶ヲ割ニハ永一貫文ヲ永二石五斗替へニシテ、米ヲ出ス、又五ケ年平均取米ヲシルスニハ、一石二斗五升ガヘヲ以米ヲ附ケ萶ヲ割也、是ハ知行渡リ等ニ用ル實米ヲ見ル爲ナルニ依テ、當時ノ相場ニ近キヲ用ル、是ヲ實萶トス、五ケ年平均ノリンヲ見ルニハ、其ノ年ノリンニ五ヲ乘ジ、其ノ年ヨリアト四ケ年ノリンヲ上ゲタル分ヲ、其ノ內ヨリ引、下リタルハ加へ、アトニ殘リタルリン割五ニ除ク、割出シタル厘ワリ、五年平均ノリンナリ、是ヲ覺エノ爲メ歌アリ

其年ノ厘ニ五ヲ懸ケ上ヲ引キ、下ルヲ入テ五割五ケ年

一　地方三帳ト云ハ

一　御成箇鄕帳

前條ニ著ス通ナリ

御年貢可レ納割付

是ノ御年貢米金銀等、物成高掛口米金、其外其年可レ納品々ヲ書記シ、調印ノ上村方ヘ渡ス、委クハ末ノ條下ニアリ

一　御年貢米金皆濟目錄

是ハ御年貢米金皆濟致タル上、帳仕立御代官調印、御殿ニテ其掛リヘサシ出、國郡譯定免・檢見譯等不レ致、一支配惣纏リ高ニテ高ヲ記、本途・見取米永・高相小物成・口米・諸運上・分一米金等、米ヘ計立ヲ付、其外諸御拂物代金等迄、可レ納品々不レ殘、一日限元ニシルシ、石代ノ分ハ内譯致シ、代金ヲ附此拂ヲ立、元拂勘定合セタル帖面ナリ、コレ其懸リカタ差出地方、並ニ御金藏元拂トモ、追々取置タルヲ置證文、（是ハ年季有レ之類、或ハ其品ニヨリ永々元ニクムカ、ハラヒニ立カノセウ文、何年ニテモ用ルヲ云）當證文（是ハ其年限モトハラヒノセウ文ナリ、御勘定付上セウ文合濟メバ、上ゲセフ文ニ成御勘定所ニトマル也、）ヲサシ出セバ、證文合トテ皆濟目錄ノ廉々ニ突合セ有レ之、調濟タル上御勘定奉行ヘ皆濟屆書サシ出ス振合如レ左

私御代官所當分御預所、武藏・上野・下總國高六萬六千五百二十石九升八合八勺四才、反高二百三十九町二反九畝廿七分、新鹽濱反ダカ一町六反九畝十分、去ル丑御物成米五千二百四十六石一斗一升一合四勺五才、米二十四石七斗六升六合六勺、去々子置米殘トモ、去丑十二月廿九日ヨリ當寅二月

晦日迄、淺艸御藏ヘ上納仕金七千五百八十一兩二分永百八十三文七分五厘、去丑六月二十六日ヨリ當寅五月二十六日迄、江戸御金藏ヘ上納仕候

一小物成幷口米代・御藏米入用等、去丑年可二取立一分、米三石二斗九升八合、同年十二月二十九日ヨリ當寅二月晦日迄、淺草御藏ヘ上納仕金千百二十八兩一分永百三十九文四分九厘、同年六月二十六日ヨリ當寅五月二十六日迄、江戸御金藏ヘ上納皆濟仕候ニ附、御トゞケ申上候、以上

寅七月

何之誰

御代官役所ヨリ村方ヘ渡ス皆濟目錄ハ、村々御年貢米金銀役所ヘ納ル時、一村限ニ通ヒ帳村カタヘワタシ置、上納ノ度々當番ノ手代請取ノ役處元帳ト通ヒニシルシ、金銀ニ添元帳手代ヘサシ出セバ、元ノ請取之押切致二印形一、通ヒハ村カタヘ渡ス、又村カタヘ手代サシ出取立ル時ハ、手代姓名ニテ請取書ヲワタス、是ヲ小手形ト唱、米ハ淺草御藏ヘ納メ、御藏奉行ヨリ納札相ワタル

納札ト云ハ、其日納タル俵數ヲ、小直シ紙ニ書、右ハ何ノ御年貢米請取候段、御藏奉行連印御代官宛、貢數ニハ御藏カタ押切致シワタル、是ヲ納札ト云、御金藏ヘ納タル金ノ納札モ同樣、同所奉行連印ニテワタル

米金銀トモ皆濟ノ上、右ノカヨヒ小手形役所ヘサシ出セバ、皆濟目錄ニ引カヘ受トリ、證據トシテ村

方ヘワタシ置、右二帖トモ仕立カタノ振合、末ノヒナ形ニシルス
右三品ノ書物ヲ地カタノ三帳ト唱、タカトリ米金銀小物成高懸、其外諸納物タカ内引トモ、三帖ノ員數少モ不レ違樣相仕立、鄕皆濟目錄ハ御勘定所ヘ差出、割付並村方皆濟目錄ハ、御代官調印ノ上村方ヘ渡、後年若公事訴訟等有レ之時、證據ニ成大切ノ書物也

一　御取箇帖ハ租稅ノ元也、田方檢見致シ取箇ヲ極メコレヲシルシ、勿論定免村ニテ取箇增減無レ之分ハ下ゲ札ニシテ記レ之、都合十ケ年分取ケ高下ヲ見スル、尤一ケ村限ニ認ルニ非ズ、一郡限定免被免トモ載レ之、前年ノ取ケ增減ヲシルシ、並前年跡四ケ年トリ米永ト云、差引增減ヲシルス、其前六ケ年檢見トリト三口ニ分ケ、厘ヲ付田畑本途見トリトモ載レ之、外細物ハ不レ載、一支配限リ惣寄致シ御勘定所ヘサシ出ス、則御勘定所ニ於テ御取ケ方改レ之、取箇ノ高下ヲ論ジ、檢見トリ衼免ノ分前年ヨリ減ジ、多ケレバ、可ニ相增一旨再應御代官ヘ達シ、據ナケレバ引戾迚、少々取箇ヲマシサシ出、最初村方ハ御代官キハメ置タル取ケナレバ、多分ノマシハ成難シ、何程吟味强クトモ御代官目鑑ヲ以キハメタル取ケナレバ、マス可筋ハ少モ無レ之ト雖、マサゞレバ御勘定所吟味ノ詮モナク、御取箇帖イツ迄モ不レ濟故、無ニ是非一少々相マス事アリ、若村方ヘマシ難ケレバ、無レ據御代官辨納致ス儀モアリ、右吟味濟伺ノ通御取箇被ニ相極一旨、御勘定組頭ヨリ口達有レ之、受書サシ出事也、鄕帖ワリ附トモ都テ此御取ケ帖ヲ元ニシテ仕立、其年御納處ノ元ニナル事故至テ大切ナル物ナリ、公儀並ニ諸侯方其外諸旗本

ニテモ、家祿ノ元ニナリ地カタ第一ノ帖面ナレバ、聊疎ニスベカラザルコト也、帳面仕組方振合ハ末ニ記ス

但旗本ハ勿論諸侯方ニテモ、此チヤウ面無レ之トモ、年ノ取箇割付ヲ元トシテ、納リ高何程ト知ル家モアリ、是ハ甚不レ宜仕カタ也、家祿ノ根元ナレバ取箇帖ハ有度コト也、高崎領ハ右ニ似寄タル取ケノ元ヲシルスチヤウ面アリテ、是ヲ御考帖ト唱、其年ノトリケ究リタル上、年々ノ釐附帳ヲソヘ、於二會所一御年寄幷御勝手カタ列席ヘ差出シ一覽有、御取箇相濟候上、御勝手カタ地カタ掛リノ面々ヘ御料理被レ下舊例也、外諸侯方ニテモ取ケキハマレバ、免フル舞ト號掛リノ面々ヘ料理出ル家モコレアル由ナリ

一　納拂明細帳ト云ハ、右御取箇帳。鄉帳ニノセタル諸納物ハ勿論、年々增減ノ諸運上、分一或ハ御林立枯御普請古木古鐵物御ハラヒ代、又ハ缺處物過料金等都テ淺草御金藏ヘ可レ納品々、一事モ不レ洩樣組入、地カタ組ノ元ニ成、又村々ヘ可レ渡品々、是又無レ殘拂ニ立、諸拜借返納米金地カタニ不レ組分ハ、外書ニシテ御勘定仕上ノ元ハラヒニ成チヤウ面也、御殿皆濟カタヘサシ出シ證文合モアリ、仕クミカタハ下ニ出ス

一　御勘定帳ハ、御年貢米金其外諸納拂一品モ不レ洩樣、右納拂明細書ニノセタル分、淺草金藏ヘ上納皆濟、幷ニ諸渡カタモ相スミノ上、仕立ノ御勘定所ノチヤウ面カタ組頭ヘ出シ、掛リ御勘定所ノ改ヲ

受、證文合セ札合セアリ

是ハ淺草金藏ヘヲサムル米金、兩奉行ノ請取書ヲ納フダト云、御勘定帳ニ員數記レ之突合スルヲ云

其外突合物不レ殘濟シ置、證文並ニ納フダハ小直紙ニ寫シ、帳仕立差出シ置、證文ハ御代官ヘトリオキ、當證文納札ハ御勘定所ヘ上ル、右證文合セスミタル上、起印方調方ヘ御證文持參致シ突合セ、起合印調印トモ留チヤウヲ消ス、其後勘定奉行ヨリ御老中ヘ差出シ、御席ニ於テ御勘定奉行吟味役クミ頭侍座、御代官罷出御代官所地方御勘定合ト申儀アリ、チヤウ面奥ノ總寄ヲ御代官讀レ之

但御勘定帖寄ニテハ、御代官讀違雖レ計ニ付、元ハラヒトモ別ノ紙ニ書、總寄ノ處ヘ入ニ置之ニ、尤御役所ニ於テ下稽古有レ之、唯四五下リノ事也

御勘定方致ニ合算ニ、元ハラヒサシ引合スメバ、御勘定奉行吟味役クミ頭連名ニテ、御代官宛所ノ奥書致、尚其奥ニ老中方御連名ノ奥印、緘目印ハ御勝手カタ御老中御調印ニテ御代官ヘ渡ル、御金藏御勘定帖ハ、金藏ヨリ受トリタル金銀ヲ元ニ立、其ハラヒヲ廉々記レ之、是又證文合等有レ之改濟タル上、御勘定奉行ヨリクミ頭迄ノ奥印ニテワタル、御金藏並ニ地方御勘定帖モ、御預リ所ノ分ハ御老中奥印ナシ、チヤウ面仕立カタハ末ニ雛形アリ

但御勘定仕上ノ儀、御年貢未進等有レ之、年送リニ成三年迄仕上ゲ無レ之分ハ、其通ニテモ相スメドモ、若三年ヲ越皆濟無レ之、仕上ゲ於ニ延引ニハ御糺明ニ成、御代官役ニモ障リ、其時宜ニヨリテハ

家ニモ障ルコトアリ

一　御證文ト云ハ可レ納米金又拂ニ可レ立品々員數ヲ記、御代官ヨリ伺書差出、御勘定所御下知ノ趣裏書有レ之、或ハ員數計ニ印形有レ之モ有テ、裏書ハ口ノ所、員數判ハ員數ノ處ヘ御勘定奉行・吟味役・組頭印形計押レ之相渡ル、覺書差出セバ其掛リノ役人得ト吟味ヲ遂ゲ改濟タル上、廻シトテ右三役不レ殘相廻シ致ニ一覽一、存寄ナケレバ長印トテ吟味役ノ改印押レ之、夫ヨリ月番御勘定奉行初判ニテ、段々改調御代官ヘワタル、是ヲ御證文ト云、尤地方元ニ可レ組米金鄕帖、組ノ品ハ則鄕チヤウヲ員數證據ニ成不レ及、御セウ文鄕チヤウニクミ入レズ、年季諸運上臨時納物或ハ御拂物代等、都テ御セウ文ニ成年季物、又ハ何ゾ子細有レ之者ハ、下知ノ趣裏書ニ認右三役ノイン形イタス

但姓名ハ不レ書イン形計也、以前ハ附紙ニテモ下知シタリシ所、近來表書ニ成タリ

永々用ヒニ成ルセウ文、又年季內相用ル是ヲ置セウ文ト云、其年限リ元ハラヒニ立ヲ當セウ文ト唱フ、是ハ裏書ノ下知無レ之員數ノ處ヘ、右三役ノイン形押レ之、御勘定仕上證文合セノ時、置セウ文ハ小直紙チヤウニ寫シサシ出、御セウ文ハ御代官ヘトリ置、年季明ケノ節上ゲセウ文ニ致シ、當セウ文ハ合セ濟直ニ上ゲセウ文ニ致ス、御金藏御勘定ニ成ル御セウ文モ同然ナリ、御金藏元ニ立金銀ワタス可キカズ極リタル上　御代官入手形イタシ御金藏ヨリ是ヲトリ、御勘定元ニ立ハラヒノ儀ハ、總テ御セウ文ヲトリ是ヲハラズ、夫食種貸其外御拜借等ノ類ノハラヒハ置證文ニ成、其年渡切ノ品ハ當證文ニナル

一　起合印ト云ハ、地方元ニ可レ立米金ハ、起印トテ御勘定所起印方掛リ御勘定ヘ、伺書ノ寫帖ニ本紙添サシ出セバ、留帳ニ記シ員數ノ頭並見出ノ上ニ起ノ字ノ小サキ印形ヲ押、是ヲ起印ト云、是ヲ取リタル寛書ヲ其品ノ掛リ組頭ヘサシ出ス事也、合印ハ都テ起印有セウ文寛濟、三役ノ印形集タル上、又起印方ヘサシ出セバ、起印留帳ノ員數ニ讀合、○ニ合ノ字ノ小サキイン形ヲ起印ノ左ニ押、夫ヨリ右ノ證文調カタ懸リ御勘定ヘウツシ濟サシ出セバ、調留チヤウニカズヲ記シトメ、チヤウト御證文ニ割判致ス、是ヲ調カタト云、調インハ地カタ元ハラヒ御金藏トモ都テ取コトナリ、地カタ元組ノ證文起合印取ハ、起ルハ發ルト訓シ、其品ノ初テ御納所ノ元ニナル故起イン取ル事也、依レ之御金藏元並ニ地カタ御金藏トモハラヒノセウ文ハオキインナシ、併シ夫食種貸其外拜借ハ拂ナレドモ、オキイン合イン取レ之、是ハ返納ノ上本ニ返ル故成ベシ

　但寛政二年戊八月相改リ、オキインウツシサシ出スニ不レ及旨被二仰渡一タリ

一　御取箇帳前々ハ十一月限サシ出ス定法タレドモ、國所ニヨリ檢見旬遲ク、十一月中旬迄懸ルモ有テ、十二月中チヤウ面仕立出來兼ルニ附、享保年中ヨリ御代官檢見濟、歸府後三十日ヲ限、遠國ノ陣屋ヘ歸リ三十日限リサシ出スベク由ノ御定ニナル、若出來兼ル子細有レ之及二延引一時ハ、御取箇カタヘ日延ヲ申上ルコトナリ

一　鄕帳ハ關東遠國トモ、其年十二月限差出ス、是又御取箇チヤウ濟方遲ク、其外諸證文等不レ濟サシ

ツカヘ有ㇾ之、郷帖仕立ニサシツカエレバ、春ニ成サシ出スコトモ有、尤御勘定所ヨリ催促於ㇾ無ㇾ之ハ、御代官ヨリ延引ノ譯柄ニハ不ㇾ及、左無レバサシ出難キ譯申立ル事也、尤三月限サシ出スベキ事ナリ

一　諸帳面寸法之事

一　郷　帳　竪一尺五寸　横七寸五分
　　綴目外八分　紙中秤村苧繩双紙綴

一　御勘定帳　同一尺四分　同七寸六分
　　同外七分　紙厚程村袋綴
　　但トヂ目ニ御老中御調印有ㇾ之ニ付、平苧緘切ニシテ、トヂ目高カラヌ樣ニ致ス

一　勤方帖　同九寸五分　六寸七分
　　同外七分　紙大障子小口張

一　村鑑大概帖　郷帖　同寸　紙上西ノ内トシ同斷

右ノ外勘定所ヘ出ス諸帳面寸法定ナシ、御取箇帳紙モ西ノ内袋張ニ極リ有ドモ、寸法極ハ無シ

一　割付免狀之事　附掛札

割付免狀トモ百姓公納年貢ノ目錄也、上方關東ニテ名目違フ、關東ニテハ割付ト云、駿河ヨリ上方筋中國西國方ニテハ免狀ト唱、國ニヨリ下ゲ札ト云所モアリ、何レモ古來ヨリ其所ノ云習ハシニテ唱ノ

達ノノミ、別ノ物ニハ非ズ、割付ト云ハ、田畑上中下ノ反別ニ取永ヲ割附テ取立ルト云儀也、又免狀ト云ハ、古キ詞ニテ是程年貢ニ納ベシ、其餘ハ百姓ノ取分ニ免ジ遣ルト云コト成ベシ、前條ニモ記ス聲付ノ事ヲ免ト云同儀也、上ヨリ下サル丶免ヲシルシタル書附トイフ心ニテ、免狀ト唱ルトモイヘリ、下ゲ札トイフハ、御料所ニハ無事ナレドモ、遠國ノ私領等ニテ下ゲ札ト唱ル處モ有由、其謂解セズ、按ルニ御料ヲ割付免狀ノ樣ニ、高反別田畠ノ分ケ等巨細ニ不レ記、可レ納米金辻ヲ記免計ヲツケ村々ヘ渡處モ有、下ゲ札ノ樣ナル端書故下ゲ札トイフ成ベシ、又先官小宮山氏ノ案ニハ、免狀同意ニテ上ヨリ下サル丶、年貢ノ書ツケト云意ナルベシト有、御料ニテモ割ツケ免狀未出キザル以前、假免狀トイフテ檢見濟取箇究レバ、先ヅ可レ納米永辻計端紙ニ書ツケ役處押切ニテ渡シ、米拵ヘヲ一齊ニセズシテ追々ニ取立、ワリ附免狀ハ追テ出來次第春ニモ成ヲワタス、關東ニテモ是ハ假ワリツケトハイハズ假免狀トイフ也、右ノ下ゲフダ則假免狀同然也、遠國ノ私領ユヱ其年可レ納米金辻サヘ知ナレバ濟ム心得ニテ、地頭モ村方モ夫成ニ致置仕來トミエタリ、右ニモシルスゴトクワリツケ鄕帖ハ、後年他領佗村田地米金等ノ儀ニツキ、萬一公事出入等有レ之時ハ證據ニモナルベキ大切ノ品ナレバ、縱私領遠國タリトモワリツケ免狀ハ、急度委細ニ書分ケ、重役人調印ニテ渡オキタキコトナリ、右ワリ附免狀ノ認方及ビ振合不ニ一定ハ、其國其支配ノ引ツケニテ區々ナリ、シカレドモ其ノ荒增ヲ以テ末ノヒナガタニ出シ置タリ

但割付免狀共、檢見取ナレバ年々渡リ知、免相ハ切替ノ初年渡ス時奥文書ニ、高取米永於レ無ニ増減一ハ定免中此割付可レ用旨書入相ワタシ、相違無レバ年々ワタスニ及バズ、被免ハ勿論損地有カ起返有カ、或ハ小物成諸運上等増減有テ、少分ニテモ高取米永増減有レ之年ハ、定免中ニテモ割附相ワタス、都テ割附村方ヘワタレバ、村中長百姓五人組判頭等名主元ヘ呼出、割付爲レ致ニ拜見一、拜見證文トテ御割附得ト拜見承知仕候、然ル上ハ御割附通期月迄急度皆濟可レ仕旨相認、惣百姓連印ノ書附名主元ヘ取置、御代官役所ニモ寫ニ村役人ドモ奥印ヲ可ニ取置一也

一 掛札ト云ハ、享保ノ初頃ヨリ起リ、水百姓入作越石等ニ至迄年々、取箇ヲ能知テ免割ニ虚妄無ラシメンガ爲ニ、年貢高幷附反トリ委細ニ書分テ、其村ノ高札場カ又ハ名主庄屋ノ門或ハ戸口ノ上抔、諸人見安キ所板ニカキ掛置、是ヲ懸札ト云、此懸札下モ役所ニテ仕立邑々ヘワタス、御年貢納方等ニツキ、村役人ドモモ奸邪ノ筋ハ相成ラザルタメナリ

一 勘方帳始リ之事　附諸帳面仕立方改リ候御定書　勘方公事出入組入方

勘方帳ト云ハ、其年ノ高トリ米永ヲ記シ、定免檢見ヲ分ケ前年ニ増減ヲツケ、排ヲ立米金納カタ、其外諸運上・小物成等ノ員數、返納物・新田畠・開發荒田畠。民家損失・御普請御入用米金・夫食種貸・公事出入等、御代官所御預所ニテトリ計ヒタル儀ヲ相認、毎年御勘定所ヘ差出御老中方ヘ上ル、右帳面古來無キコト成シ、有德院樣御代、享保年中、御代官吉田久左衛門、自ニ御代官所一勤向ノ儀被ニ書上一タル

ル處、尤ニ被レ爲ニ思召上一以來、右ノ趣諸御代官所ヨリ可ニ書上一旨被ニ仰出一、其以後右チヤウ面差出ス事ニ成タリ、御前帳故紙ハ大障子ニシテ寸法極リ、一字宛相離シ續字略字等無レ之樣、手跡モ致ニ吟味一相シタタメ、尤勤方サシ出以前ニ、勤方明細書ト委細ノ帖面、御勘定處ヘサシ出相成リ、御勘定改ヲ請、其後勤方チヤウサシ出ス、御上リ一冊・御老中方御控一冊・御勘定所控共都合三サツ（御勘定所控ハ小直紙ナリ）サシ出ス讀合等モ御代官自身再三致シ、尙又懸リ御勘定讀合致ニ精撰一タル上、御勘定組頭讀合有テ悉ク六ケ敷帖面紙數ハ少ナケレドモ、御代官ガタニテモ入用手間等多分相掛リ、右ノ外ニ八ケ條迚堅紙返物相添サシ出大造成書物也、書面振合ハ末ニ有

但勤カタ帖書カタ、以前ハ至テ巨細ニテ六ケ敷有レ之タル處、寛政二戌年伺ノ上御勘定所ヨリ被ニ仰渡一、仕組方格別省略ニ成案紙相渡リ、當時ハ手安ク相成、其外村鑑大概帖鄕帖諸證文等、御代官方入用相嵩ミ手間モ掛ル故、御宥恕ヲ以悉御省略ノ御書附相渡ル、則左ニ記ス

申渡

年々被ニ差出一候御代官所御預所勤方ノ儀、以來別紙振合ノ通省略致シ取調可レ被ニ差出一候、尤案紙帳面可ニ相渡一候、右ノ段越中守殿ヘ伺ノ上申渡候

一　諸國村鑑帖ノ儀、是迄上リ並御勘定所控帳面共二通宛年々サシ出サレ候所、以來上リノ分一トホリサシ出サレ、御勘定所控ノ分ハ出スニ不レ及、場所ガヘ最寄替或ハ新田高入等、其外入狂ヒ等モ

無レ之候ハヽ、前年サシ出シ置レ候帳面、人數增減ノ處計掛紙致シ相直シ置候樣可レ致候

一元組證文ノ分ハヽ是迄起印掛リヘサシ出シ、改印トリ候儀ニ付、其節ノ證文寫相添サシ出サレ候所、以來ハ寫サシ出候ニ不レ及、尤證文ノ趣起印懸リ留帖ニ出役手代直ニ書ノセ候上、起印請候樣可レ致候

一高國郡譯ノ儀寛方諸入用方懸リヘ、是迄サシ出サレ候處、右チヤウ面以來諸入用カタヘ年々定式ニサシ出ニ不レ及候、若相糺候儀有レ之候ハヽ、其節々掛リヨリ可ニ申達一候間、其段相心得ラル可ク候

一鄉帳ノ儀是迄ノフリ合ヒニテモ紙カサモ餘計ニ相成、懸リニテモチヤウ面カサ候テハ取扱不レ宜候間、細字ニ認候樣去々年中相達候處、其後ニサシ出候鄉帖、以前ノ通ニ岌サニ書サシ出サレ候モ有レ之候間、此度別紙伊奈右近將監鄉帳ノ振合相渡候間、右ノ通間違無レ之樣以來認サシ出サレ候樣心得ラレ可ク候トナリ

右之通各役處向御用多相聞エ、ソノ上筆墨紙等モ多分相掛リ候趣ニ付、勘方帳省略ノ儀此度相窺、其外省略致シ御取締等ニモ不レ拘儀評議ノ上、右ノ通相極申ワタシ候間可レ得ニ其意一候

戊八月

右者寛政二戌年八月、御勘定所於ニ中ノ間一在府御代官並留守居元締手代御呼出、前書ノ通仰ワタサレ請書出タル由也

一　高國郡譯帖ト云ハ、御代官所御預所郡限高寄何國何郡何十ヶ村ト、西ノ内竪紙ニ書、毎年正月十一日後、御取箇カタ・寛カタ・諸入用カタ三掛リヘサシ出ス、場處替最寄ガヘ等アレバ、其節早速書カヘサシ出ス、尤諸入用カタヘハ以來サシ出ニ不レ及由、戊年仰渡サレ御取箇カタ伺方計ヘサシ出事ニ成タリ、御取箇カタノ帖面ハ、村名ヲ書並小直紙四半帖一サツ、外ニ手代姓名帖ト云物ヲソヘサシ出ス、面々扶持切米高帖名ヲ西ノ内帖ニ、小直紙ニテ短册張札ニ書一冊、小直紙四半帳一冊、高國郡譯帳ト一同ニサシ出置、手代抱入帖伺相濟、入カハリ增減有レ之節、短ザクニカキ張カユルコト也、右小直紙四半帳ノ分ハ御奉行カタヒカヘニ相成申也

一　勤方帖ニ組入ル公事出入、何々ノ出入ヲクミ入ルト云御定メモ無レドモ、御咎ノ御仕置不レ分附ハ勿論、御叱リ急度叱リノ類輕キ御咎附タル出入ハクミ入ルニ不レ及、手ツヾキ過料所拂位ヨリ可二組入一由、其筋ヘ聞合セタル處挨拶有レ之タル事

但訴訟方御料支配違ノ出入、双方申合差出分先官ノ御代官ニテ勤方帳ニ組入差出セバ、次席ノ方ニテハ入ニ不レ及由也

一　村鑑大概帳之事

村鑑帖ト云モ享保年中ヨリ始リ、上西ノ内打紙ニシテ一ヶ村一枚ニ書、表紙ヲ附綴寸法アリ、書方ハ邑高田畠反別石盛ヲ記シ、檢地時代姓名ヲ肩書ニシテ、用水引方水旱損有無等、物成諸運上ノ有無、

家數人數牛馬數農業ノ外、男女ノ稼御林百姓林秣場漁獵場御普請所、自普請所有無、米ノ津出場、江戶迄海陸里數村方出里並豐窮ノ譯、一ツ書ニカク、此チヤウ面ニテ、村方ノ樣子荒增相分ルニ付、村鑑大概帖ト唱、御上リ一冊御勘定所ニ一サツ也、是又御前帳故勤方帖ニツヾキ大切ニ仕立、掛リ御勘定ト手代讀合アリ、チヤウ面カキ樣ハ末ニ出ス

但寬政二年以來御上リ一サツニ御勘定所控ハ、年々不ㇾ及ニ差出ㇾ人數增減ノ處ヲ、前年ノ帖ニ掛紙ニテ可ニ直置ㇾ旨被ニ仰渡ㇾタリ

一　御勘定所役筋懸リ分ケ之事

一　御殿御勘定所

中之間　　組頭二人

是ハ御勘定奉行支配ノ面々、隱居家督養子婚姻其外諸願諸トヾケ、御切米御役料手形御關所通手形宗門人別改村々鐵炮證文、出火其外支配所變事難破船注進等ノ類、都テ中ノ間ノ懸リ也、尤勘定方ハ夫々ニ懸リ分ケ有ㇾ之也

一　御勝手方　　組頭二人

御年貢米金銀取上納一式納拂明細帳皆濟目錄、並屆書等取計、此懸リ御勘定ヲ皆濟方ト云、御城向諸御役所屋敷並寺社御普請、其他惣テ御府內御普請御用材木カタニ附タル儀一式、此掛リヲ御普請カ

タト云、此外御入用筋ニ拘リタルコトドモ何程モアリ、夫々掛リ分有レ之也

一 下御勘定所

中ノ間　　頭四人　　内貳人何方　　同帖面方

内懸リ譯

窺カタ

是ハ御勝手向在方凡定式臨時御入用筋一式、郷帖並諸式郷帳組除伺等、物成高掛リ御代官場所ガヘ最寄替諸引渡物郷村引渡受取トヾケ書、新田十分一渡破船其外流寄タル品取上トヾケ書取計、船人拜借類燒農具代拜借金•銀•銅•鐵•鉛•硫黄•明礬•炭薪山等ノ稼、夫食•種貸•年延•六尺給米•石代闕所御トリ上•田畑闕所物等、御拂高懸リ物免除御立野萱芦等御拂、在方地役人御拖入御暇同御扶持方手形御代官、幷手代在カタ御入用等ノ諸窺、惣テ御入用ニ拘リシ儀一式掛リ也

伺方ノ内　　證文調カタ

諸證文不レ殘御證印濟タル迄、調印御附紙物ハ寫添調印取、御代官所御預所引渡繼添伺、御代官幷手代在出定式御用ノ外御入用可レ被レ下分、出立歸着屆書出シ押切取レ之

窺方ノ内　　運上カタ

是ハ諸運上取立伺、併免除都テ運上分一冥加米金ト唱ル類一式掛リ也

御林カタ

伺カタノ內

是ハ御林帳同改風折根返リ雪折虫付枯等ノ類、御伐出其外御拂伺、同滅米伺林木並御買上木江戶大阪廻等ニ成タルセツ、川支海上浦觸等ノ類、運上木御奉行御添狀ウカヾヒ、都テ御林ニ付タル儀一式掛リ也

御鷹方

窺方ノ內

是レハ御タカ野一式、御タカ匠・御鳥見・同ク同心・御鐵炮カタ・御犬カタ野扶持渡窺、野廻・餌蒔・水夫フチウカヾヒ、御タカ御用野廻御添狀ウカヾヒ等、都テ御タカニ付タル儀一式掛リ也

諸入用カタ

是ハ口米金銀御勘定組ウカヾヒ、諸侯ガタ御預リ所口米永請取ウカヾヒ、御代官諸入用手形ナドノカヽリ也

鄉帳改カタ

コレハ以前無レ之所、近年掛リ御勘定出來鄉帳差出シタル上、御代官手代罷出前年突合增減アラタメ有レ之ナリ

帳面調カタ

コレハ鄉チヤウ其外チヤウ面シラベ、諸侯方旗本領地知行國譯分限調、隱居・家督・養子・婚姻・死失・

忌服等取シラベ、御代官場所替最寄ガヘ、國郡都テ分限ニ拘リタル儀一シキトリシラベ、仍テ分限掛リトモ大調トモ唱ル當用無レ之、諸帳面書物不レ殘トリシラベ預ル故、佗名ニハ反古シラベトモイフ、國役カタヘモ出張有レ之也

國役掛

是ハ川々御普請朝鮮人來朝、其外トモ國役割ニ成金銀割カタ納カタトリ調、上納トヾケ諸侯ガタ諸旗本寺社國役金御代官ヘ納タルカタヨリノ受トリ書差出、押切取レ之是ハ帳面シラベカタノ出張ニテ、其年ニ望ミ懸リ御勘定出勤也

帖面カタ

是ハ御勝手向御勘定仕上ゲ、御代官所御アヅカリ所地ガタ御金藏御勘定帖差出同斷仕上、其外帖面ノ懸リ也

同斷之內勤カタ帖掛

是ハ勤カタ明細書改八ケ條改讀合懸リナリ

同村鑑帖掛リ

是ハ村鑑大概帳調讀合懸也

起印カタ

コレハ地カタ御勘定元〆ミ證文起印トリ、御證印濟タル上起印有レ之分、合印トル以前ハ御殿御勝手ガタノ内、カヽリ有テ起印トリタル所、三四十年以前ヨリ下勘定所ヘ引ケ、チヤウ面カタ役所ニテ起印掛有レ之也

筆墨紙カタ

是ハ國々上紙納拂、其外御勘定所向々ヘ筆墨紙ヲ渡ス掛リ也

鍵番

コレハ御勘定ノ内爾人宛早朝出勤、下御勘定所口鎰ヲ明ケ、其日出勤ノ御勘定カタノ姓名印形取下勘定所火ノ番ヲ勤ム、晝過翌日ノ鎰番ヘ錠カギヲ渡退出ス、翌日ノ錠番組仕廻ニ下、御カン定所火ノ元改メ錠ヲシメ退出ス、尤總御カン定マハリニ勤ム

御取箇カタ　　組頭三人

內掛リ譯

差出カタ

是ハ御取箇帳サシ出、御取箇筋一式、定免ウカヾヒ、夫食・種貸ウカヾヒ、田畑損毛注進等、其外御取箇ニ付タル儀一式、カヽリ御カン定第一ノ役所也、外ニ御普請役抱入御暇ウカヾヒ、御代官手代抱入暇ウカヾヒ等カヽリ也

廻米カタ

コレハ國々石代相場書ウカヾヒ、諸石代ウカヾヒ、三分一直段ウカヾヒ、御物成米買納添狀ウカヾヒ、太細餅米糀三割增ウカヾヒ、詰米ウカヾヒ、同殘石代ウカヾヒ、御廻米船出帆着船御藏納トヾケ、五里外駄賃海川運賃窺、御城米難破船吟味一件、正四七十月米麥相場書ノ外、御廻米ニ屬タル諸ウカヾヒ諸トヾケ一式懸リ也

御普請カタ

是ハ村々用水川除道橋御圍糀米藏、其外御入用御普請一件、右ニ付タル古木古鐵物御拂伺、御普シン木ニ遣ヒタル御林木減木ウカヾヒ、惣テ在中御フシンニ拘リタル儀一シキ掛リ也

新田カタ

新田場開發並見取場高入窺、檢地ウカヾヒ、石盛窺、檢地帳新田石代ウカヾヒ、新田出作百姓引越女通手形願等、都テ新田カタ地カタニ屬タル類ヒハ一シキナリ

知行割掛

是ハ諸侯方得替領地村ガヘ、諸旗本知行渡シ新知御加增、御代官場ガヘ最寄替村割私領渡同上知高帳同渡障有無書附等、惣テ領地知行ニカヽハリタル儀一式懸リ也

道中カタ

但懸リ組頭取箇カタ一人中ノ間一人

五海道并道中奉行支配ノ宿場諸願トヾケ、宿々助成金拜借割賦寬ヒ、類燒困窮拜借御傳馬宿入用米石代ウカヾヒ、損毛五分以上ニ付免除ウカヾヒ、道中筋路橋御フシン一件廻リ路附候ウカヾヒ、宿宿出火注進書其外往還筋變事等都テ道中筋ニ屬シタル儀一式掛リ也

御林奉行詰所

是ハ前々御林奉行ハ宅勤ニテ、御林手代計下御勘定所中ノ間ノ方ニ詰處有レ之、一兩人宛相ツメ、滅木御林帳ニ書入、其外取調タル處近來ハ奉行モツメ所出勤有レ之、尤御林方トハ別段也

漆油方役所

是ハ下御勘定所內ニ役處アレドモ、御勘定方懸リニ無レ之、漆油奉行出席油方手代相ツメ、諸御番所其外油渡切手差出、ウルシ遣方是又切手出ス、御代官ニアハ掛リ合等無レ之也

御普請役三役所

是レハ御勘定所ヅメ。四川用水方・在方ト三役處有レ之、御フシン役三掛リニ分リ、夫々元締兩人宛有、御勘定ニツメハフシン計リニ無レ之、地方ノ儀モ間々掛リ重ニ御勘定所ヘ相勤ル、古來ハ無レ之處、寬保ノ頃吟味役堀口荒四郎新田懸リノ節、新田手代御カヽヘ入ニ成リ、役上下勤ニテ御勘定所ニ相ツメ、其後新田懸リ止メラル故、新田代ヲ直ニ御フシンヤクニ仰付ラレ、御カン定ツメフシンヤクト成タリ、四川用水方ハ江戸川・荒川・小見川・絹川此四川ニ附タル村方、用水ハ四川御作事役

引請ニテ、カヽリ場ニツメ陣屋等有、四川カタ御作事役定カヽリ場也、前々ハ四川奉行トテ川々用水ガヽリノ奉行アリ、其節々フシン役袴ツトメ成シニ、右奉行相止ミ、關東御代官方懸リニテ四川方兼帶トナル、御普請役ノ御代官手代ノ下席ニ附、關東御代官支配受タル處、右御勘定所ヅメ御普シン役上下勤故、同役ニテ上下袴ト分リ、格式モ違フ樣ニテハ成難ク、右御普シン役モ上下御免、御勘定奉行支配成、尤右用水ハ今以關東御代官年番ニ勤レ之、御フシン役目論見タル右定式御普シン帳、年番御代官奧印ニテ出ス、御金手形等モサシ出シ、受ニ取之一相渡ス、在方役所モ以前ハ甲府其外在方ニモ地役人ノ樣ナル御作事役有リテ、御代官支配袴ヅトメタル所、甲府ヅメ御作事役ハ江戶在方役所ヅメニ成ル、右同樣上下勉御勘定奉行支配ニ成タリ、濃州笠松地役人堤方ト云テ、今モ御代官支配手代ノ下席ニ附、木曾川其外川除用水御作事ニ相掛ル、是等モ以前ノ在方御造營役ノ類也、右三役所ツトメ方違ヒタレドモ、當時ハ四川用水定掛リノ外、關東遠國川除用水或ヒハ新田見分、其外御用向在出トモ、三ヤク所作事方打込ニテ相ツトム、四川筋御勘定ヅメ在方ヤク處ヨリモ出ヤク致シ、國々御普請等モ御勘定ヅメ四川方ヨリモ罷出、ツトメカタハ打込ニナリ、尤モ人數ハ三役處ニ分リ、元締モ夫々ニ有レ之、三役所トモ御取箇方組頭ノ支配也

一　村差出明細書之事

コレハ其ノ村田畑高反別上中下ヲ分ケ石盛ヲ記、山林・秣場・川々名川丈幅・船渡・步行ワタシノ譯ハ、古

城跡・古跡・用水・川除・道橋・樋・カケヒ・溜池・堰筋御普請所・自ブシン所箇所數・家數・人數・牛馬員數・寺社修驗諸職人有無・用水掛リノ譯・水旱損ノ有無・堂宮藪神等ノ員數・御朱印地除地ノ有無・農業ノ外男女稼漁獵場有無・御廻米津出シノ河岸場里數・四木三艸ノ有無等迄、其ノ村ニ有レ之程ノ儀一事モ不レ洩樣記レ之、村役人連印ニテ鄕村受取タル時、右帳面ニ村繪圖三十ケ年割付寫相添ヘ、役所差出サスル定例也、尤モ年々出スニハアラズ、扨又御代官處最寄有レ之セツハ、元支配ヨリ當シハイヘ引渡ニナル書面也、村カタヨリ出シタル帳面タリトイヘドモ、差出ハ公事出入ノ時取用ル書キカタ振合モ末ニ出ス

但出入有レ之双方ノ內、右書面ヲ證據ニ申爭フトキ、相當ノ儀ハ、トリ用證據ニ成ル、不相當ノ儀ハ何十ケ年以前ヨリ認置出スコトニモ、一體村カタ勝手ニサシ出ス書面ニ付、察當申聞トリ潰レテモ不レ苦由也、其吟味ノ次第ニ寄ルベシ

一　庄屋名主濫觴之事　附名主給米引高並供人足遣カタ　組頭　百姓代　村役人ト唱　大庄屋停止

村里ノ長ヲ庄屋名主ト唱ル始リハ、鎌倉將軍家ノ時ヨリ始リ、貞永ノ式目ニ名主職トアリ、又庄屋ト云モ式目ニ莊官ト云者アリ、何レモ一鄕ヲ奉行スル職分也、今イフトコロトハ異ナリ、士列ノ職掌タレドモ其引付ヲ以一邑ノ長タル者ヲ莊屋名主ト云ナルベシ、上代聖武天皇ノ御宇、吉備公・僧行基・秦澄三人ヘ勅シテ、則郡縣里ヲ撰定シ、田園ヲ檢按セシメ、士民五十戶ヲ一里トシ、里ゴトニ長一人ヲ擇

置、戸口ヲ檢校セシメラル、其ノ時代ハ農兵不レ分、武士土着ノコトナレバ、此ノ長ハ今ノ名主庄屋ニハ異リ、一邑五十戸ノ軍役ヲ勤ル將タリ、貞永ノコロマデモ農兵分ラザレバ、式目ニアル莊官名主職モ百姓ニハアラズ武官ナリ、其ノ後時代押移リ士農分裂シテ、村里ハ農家ノミニナリユキタルユヱ、一邑ノ内家柄正キ田園等多ク所持シタル百姓ヲ一村ノ長トシ、莊官名主ト定メ、村中致二支配一コトニナリタリ

一　上方筋遠國ノ庄屋ハ、家極リ數代連綿シ、若右ノ役可レ勤モノ幼若ナレバ、組頭ノ内カ又ハ親類ノ内ニテ後見相立、庄屋ノ名目ハ其家ノ主幼年タリトモ繼レ之一村ヲ治メ、縱大高持豊饒ナル百姓タリトモ、其家ニ非レバ名主役勤ルコトナラズ、依レ之庄屋ノ威光重ク村中能治リ、庄屋ノ下知ヲ負クコト少シ、尤世々連續シ勢有ニ任セ、我儘ナルコトモ多ク百姓ノ爲ニナラザル儀モアリ、關東モ昔ハ名主ノ家定リ有シ由ナレドモ、前書ノ趣ニテ百姓ノ爲ニ宜シカラザル事多キ由ニテ、享保ノ頃ヨリ一代勤又ハ年番名主トテ、一村ノ内名主役可レ勤家柄ヲ撰ミ、百姓ノ内ヨリ一年宛順番ニ名主役ヲ持、依テ百姓仲間ユヱ役威嘗テ無レ之トノ示シ不二行屆一、村中不取締ノ儀モ多シ、兩様ノ内何レカ是ナランヤ難レ分、關東名主病死カ又ハ退役シテ、跡ヤク極ノ儀前々其村々ノ郷例ニ任セ、惣百姓入札ニテ高札ノ者ニ申付ルモ有、或ハ惣百姓連印ヲ以願出ルモ有、勿論年番持ノ名主ハ願入札ニモ不レ及、順番ノ者勤レ之、年番ニ無レ之一代限ノ名主退役ノ時、其子ヤク儀可レ勤年齡人品ニテ、村中存付モ宜シケレバ、惣百姓相談

ノ上直ニ先名主ノ倅ヲ願フモ有、入札又ハ願出タル者ニテモ、其者ノモチ高平日ノ行狀算筆等ノ儀、於二役所一得ト遂二穿鑿一、彌々勤ルベキ者ナラバ可二申付一、高札タリトモツトメル間敷者ナラバ、入札ノ者共ヘ利害申諭シ、二番札ニ申附ルトモ、又ハ入札仕直ストモ致スベシ、都テ名主ハ百姓ノ心儘ニ立置事ノ樣ニ心得違タル百姓モアル故、ヤク威モ薄ク名主ノ申附ヲモ不レ用、一ムラ治リ兼ル事多ケレバ、上ノヤク人巨細ニ糺明シ、其ノ任ニ叶ヘル者ヲ申附ベシ、一ムラノ長タレバ隨分ノ念ダヾスベキ事ナリ

但近來邑々トモ名主百姓出入多、村方不法ナルハ名主ノツトメカタ不レ宜故ノ儀モ有、又畢竟百姓ヨリ立置名主ユエ、ヤク威薄ク百姓其非禮不敬ノ儀多、我意ヨリ發ルコト多シ、ナヌシハ百姓ヤクナガラ政事ニ拘リ、上ノヤク人ノ口眞似ヲモ致ス者ナレバ、一村ノ内其人柄見立家筋等ヲ糺シ、尚又村中ノ歸服有無ヲモ觀察シ、御料ハ御代官、私領ハ領主地頭ハヤク人ヨリ申ツケ、相應ノ宛行ヲモ爲レ取置タキ事也、サスレバ百姓ドモ我意モ不二相成一、村方取シマリモ宜キ年貢取立等ノ不埒モ有間敷、是古代ノナヌシ職庄官ノ勤勞ニモ可レ叶カ、モシ又庄屋ナヌシ心得違モ有レ之、上ヨリ被二仰付一タルヤク人迚、ヤク威ニツノリ我意等有ノ趣相聞エバ、其時ハ嚴重ニ制レ之、名主・庄屋不法等曾テ無レ之樣嚴密ニ致二裁斷一、名主ノ私ハ上ノ役人是ヲタヾシ、百姓ノ我意ハ名主之ヲ押ヘテ善道ニ敎諭セバ、村方平安ニ治リ、年貢未進公事出入等ノ煩モ可レ少乎、何程俊才ノ奉行代官タリトモ、大勢ノ百姓逸々敎導

ハ不二行届一ハ、名主ニアラズシテハ村中可レ治謂レナシ、於レ然ハ庄屋・名主ハ大切ノ役目也、併御料私領トモ名主給米百姓ヨリ出シ、入札等ヲ以テ百姓勝手ノ者ヲ名主ニ極ルコト近例タレバ、當時ノ仕カタ政務ノ便リ宜キニヤ、先吏ノ定法タレバ今更可レ改ニハ非ズ

一都テ何品ニテモ、致二入札一儀ハ、餘人ヘ相談不レ及二評議一、銘々一己ノ存寄ヲ以可レ入事通法ニテ、相談札ハ禁制ナリ、又無印ノ入札ハ刎札ニ致ス定例也、就中名主入フダハ政務ニ掛カリ、百姓面々ノ世話ニモ拘ル役人タレバ不二容易一コトニ付キ、最負偏頗ノ沙汰ナク、得實正路ニテ用ニモ可レ立人品ヲ撰ミ、勿論持高身代モ相應、算筆モ相成者ヲ可レ入事也、依テ入札以前村カタヘ可二申渡一ハ、私ノ懇意ヲ以テ名主役難レ勤者等猥ニ入フダ致間敷、勿論入サツハ一人別面々相書印封ニテ差出ベク、且高フダノ者ヘ被二仰附一儀、少フダ者申シ分無レ之ハ勿論、萬一高フダノ者御タヾシノ上、人柄等不レ宜カ、或ハ持ダカ等少ナク、名主役難レ被二仰附一節、二番三番フダノ内、御キウ明ニテ仰附ラレ候トモ、邑中一統少シモ申分無二御座一候旨、百姓連印ノ書ツケサシ出サセ、若又誰名ヌシニ成候テモ存寄無レ之ニツキ、入サツ致ス間敷ト存候者ハ、其ノ趣書附出シ候樣組頭百姓代ヘ申渡、入札以前ニ村中能取締候上、入サツ取集、組頭百姓代長百姓共立合致二札披一、一統評議ノ上名主ヲトリ締願出、勿論年々サシ出宗門帳五人組帳印形ニ、入サツノ封印引合、若相違モ有レ之バ如何樣ノ譯ニテ致二相違一スル段、見レ又組頭トモ名主其段書付可レ取レ之、左無レバ開札ノ上彼是出入等起事有ル者也、私領ニテハ陣屋役所抔ヘイ

レフダサシ出サセ、開札イタス事有レ之トテモ、取シマリ方右同樣タル可シ

一　名主給米先年御定有レ之如レ左

邑高從二百石一　百五十石迄　給米二苞
同從二二百石一　三百石マデ　同四苞
從二四百石一　六百石マデ　五苞
從二七百石一　千石マデ　八苞
從二千二百石一　千五百石マデ　十苞

是ヨリタカノ村方ハ右ニ准ジ可二相增一旨、先年仰觸ラレ、尤年貢ノ差引ニハイタサズ、小前ヨリ別段トリ立相渡、ナヌシ役引タカハ二十二石ニ限リ、其餘ハ外百姓並高役村勤モチダカ二十石以下ノナヌシハ、タカ有合タル可旨、是又仰觸ラレ有レ之、然ドモ村々色々引ツケノ仕來リ有テ、不二一樣一駄米計ニテ勤村モ有、又役引タカ計有、或モチダカ廿石ニ不レ滿名主ハ貢ダカ迚、惣ムラダカ内廿石引ダカニシテ、高代イタシムラ方ヨリ取レ之、自分モチダカハ高役勤村モ有、給米モ有ノ御定法ヨリ多少モアリ、先ハ鄕例引ツケノ仕來リヲ用ルコトナリ、然御定メハ前書ノ通ニツキ、萬一給米引高等ノ儀ニ付出入抔有レ之節ハ、御定法ヲ用ヒ取計フベシ

一　名主・組頭江戶表其外御用ニテ罷出ル時、百姓ヲ供ニ連、村方ヨリ五里七里ノ處、輕尻ヲ出サセ迄

卯致サセル類モアリ、多分ノ書物等持參スルカ、御年貢金銀抔持參ノ節、道中爲ニ手當ニ相連ルハ格別、無レ謂人馬差出サセ供ニ連ル儀ハ嘗テ不レ成、トモツレズシテ不レ稱時ハ、自分ノ家來可ニ相連ニ事也、萬一右體ノ儀ニ付、ナヌシ百姓出入等有レ之、先役仕來ノ旨申立ルト雖、曾テ取上間敷事也

一　組頭ト云ハ元來五人グミノ頭分ヲ致シ、今ハ百姓ノ內算筆等致シ人品宜高モ相應ニモチ、可ニ用立ニ者ヲ村ノ大小ニ由テ五人三人宛入札カ、又ハ惣百姓相談等ニテ極置、名主ノ下役ニシテ、公儀地頭ノ用幷邑用ヲ勤ム、病氣カ或ハ何ゾ子細有テ退役イタサセバ、又外ノ者ヲ見立勤サスル、組頭ハ給米無レ之村多シ、引ダカハ十石マタハ五石八石位アレドモ、組頭引ダカノ儀ハ、公儀御定御觸ナドシ、遠國ナドノ年寄長百姓モ組頭同然也、尤組頭役ハ不レ及レ願、ムラ方ニテ取締役所ヘハトヾケヲ出スコトナリ

一　百姓代ト云ハ、名主ノ外其ムラニテ大タカモチノ百姓一人宛置、尤ムラニヨリ二人三人有モアリ、是ハ名主・組頭ヘ百姓ヨリノ目附也、村入用其外諸割賦物ナドノ時立會、大ダカヲモチタル農家承知ノ上ハ、小ダカノ者申分無レ之爲也、百姓代ハタカモチノ役ニテ勉ル故、給米引ダカナシ、右ノキハメ成トモ、ムラニ寄テハ組頭同樣タカノ多少ニモ强テ不レ拘、其一人ヲ撰ビ惣農家ヨリ頼ミテ、百姓代ニイタスモアレドモ、是ハ當ラザルコト也、名主・組頭・百姓代ヲ村方三役ト唱ル

一　村役人ト唱ノ儀、關東ニテハ名主組頭ト云五人グミノ筆頭ヲ判頭ト云、上方遠國ハ庄屋年寄ト唱

ル、所ニヨリテハ、庄屋一人年寄一人有テ、組頭ハ其處ニ三四人アル所モアリ、又庄屋長百姓ト云所モアリ、甲州ナドハ名主長百姓トイフ、西國筋ニテハ庄屋ヲ別當トイフ所モアリ、尤在方ニハ少シ在中ニテモ、町場ニハ別當ト云處多シ、元來長百姓トイフハ、上方東國遠國トモ一村ノ內高モチ又ハ其村開發地ノセツヨリノ民家、當時零落シテ小ダカニ成リタル者ニテモ、重立タル農夫ヲ長百姓ト唱、村役人ニテハナシ、往古何ノ長ト云長ニハ非ズ、右百姓代多クハ此長百姓ノ內ヨリ勤ム、右ニ云所庄屋長百姓トイフ處ハ、總テイフ長百姓トハ違ヒ、ムラ役人ノ役名ナリ、此處ニテハ外ニテ唱ル長百姓ヲ頭百姓トイフ、右村役トナヘノ儀、江戶上方遠國何故役名差フニヤ、其謂不ㇾ詳、前々ヨリノイヒ習ハシ成ルベシ

一　私領ニハ大庄屋ト云テ、領主地頭ヨリ帶刀ヲ免ジ格式申付ル、過分ノ給米ヲクミ下ムラ方ヨリ差出シ、一領一郡ノ事ヲ取計フ村役人アリ、クミヲ分ケ何某クミ何十ケムラトシテ、支配ダカ七八千石ヨリ一萬四五千石位迄有テ、クミ下ヲ庄ヤ支配イタス、尤其家キハマリ子孫相續シテ勤ム、マタ諸侯方家ニヨリ知行或ハ扶持切米ヲ渡シ、家中ノ列ニシテ立置モ稀ニハアリ、其家々ニ寄リ大庄屋格式宛行尊卑格別違フ、去ナガラ何レ家中ニハ無、在方ノ者ニテ居邑ニ田畠屋敷等所持致住居也、國ニ依リ割本或ハ惣庄ヤ檢斷抔ト唱ル處モアリ、中古迄ハ御料ニモ有シニ、享保ノ頃神尾若州御勘定奉行ノ時、大莊家有テハ却テ村方ノ爲ニ不ㇾ宜由ニテ、御料ノ分ハ御廢止被ㇾ仰付、今ハ遠國タリトモ御料ニハ大

莊家ナシ、私領モ關東ハ其砌ヨリ多分大莊家止タリ、尤今關東ニテモタマニハ大莊家殘リタルモアリ

一　五人組濫觴之事　附　五人組帳前之事

五人グミ始リハ、齊ノ桓公ノ時管仲初テ是ヲ定ム、五人ヲ伍ト云、五伍ヲ兩ト云、二十五人也、四兩ヲ卒トイフ、百人、五卒ヲ旅ト云、五百人、五旅ヲ師ト云、二千五百人、五師ヲ軍ト云、一萬二千五百人也、伍・兩・卒・旅・師・軍トモ皆長アリ、伍・兩ノ長ハ組頭、卒・旅ノ長ハ者頭、師・軍ノ長ハ備頭、一方ノ大將也、是ヲ鄰伍ト云テ、士民トモ五人ヅヽクミ合、此五家ハ親戚ヨリモ睦ク、互ニ相救テ一人敵ニ下レバ四人トモ同罪也、依レ之相互ニ勵合、不忠懶惰ノ者ナク、管仲齊國ヲ治シハ此卒伍ヲ定メ、平日鄰五相離レザル様ニシタル故、五人ノ内不忠ノ志アル者ハ、四人制ノ村里ニモ是ヲ立、百姓五家ヅヽクミ合ヲ定メ、互ニ助合平日ノ行狀ヨリ歡哀患難相共ニセシユヱ、齊國治リ桓公ノ覇業ヲ立シ基モ、此鄰伍ヨリ始ル、本朝モ其法ニ習ヒ卒伍有シニ、今ハ武家ニハ此法ナク、民家ニハ其遺法有テ、今上方關東遠國御料私領トモ、五家ヅヽ組合ヲ定メ、其内一家ヲ長トシ、是ヲ判頭トイフ、帳面ニ御大法ノ制禁ヲ書記シ、名ヲ書調印シテ、毎年支配役所ヘ出ス、是ヲ五人グミ帳トイフ、古ノ伍法連綿トシテ、誠ニ古今ノ良法タリ、今ノ五人グミ帖初リシ時代不レ詳、追テ考フベシ

一　五人組帳前書ノ御條目、今世御代官所ヘ村々ヨリ差出ス文言、上方遠國關東支配々々ニテ、文談違有レ之區々ナリ、御當代ニナリ五人グミ初リシトキ、被二仰出一ノ御條目有ベケレドモ年歷不レ審故、

何レヲ是トモ可否難レ定、尤御法度ノ趣意ハ不レ違トモ、悉長文ナルモアリ、又易簡ナルモ有テ、何レカ被ニ仰出一ノ御條目ト云事ヲ知ラズ、今此處ニ記スハ悉ク委キ文也、御代官ニテ増補セシト見エタリ

條々

一　從ニ前々一被ニ仰出一御條目ノ趣彌々堅ク相守、御法度ノ儀不ニ相背一急度相愼可レ申候、五人グミノ儀最寄次第家五軒ヅヽ、大小ノ百姓地借水呑迄クミ合、萬端申合セ妻子召使ノ男女等ニ至ル迄、諸事吟味可レ仕候、自然不吟味ニテ惡事ナド出來候ハヽ、クミ中越度タルベク候、若申合セソムキ候者有レ之ニ於ハヽ、可ニ訴出一事

一　親ニ孝ヲ盡シ、主人ヲ尊敬シ、忠孝不レ忘儀ハ勿論ノコトニ候、其内ニモ勝レテ孝行成者ハ、又毎事正路實體ニ仕モノ有レ之ハ可ニ申出一事

一　組合ノ内平日身持不レ宜、農業家職ヲ不レ勤、懶惰成者有レ之バ、判頭ハ不レ及レ申、組合ヨリ重々異見差加ヘ、行跡相直リ候樣可レ致ニ教導一候、其上ニモ組合申聞候儀不ニ相用一、不埒ノ族有レ之バ、庄屋年寄ヘ可ニ申出一、惣テ親子兄弟ハ云ニ不レ及、諸親類睦敷百姓仲ケ間組合ハ勿論、他クミタリトモ相互ニ申合相親ミ、不束ノ儀等無レ之樣可レ仕候、別テ五人グミノ儀ハ親族ヨリモシタシク、吉凶トモ互ニ助合艱難相救可レ申候、五軒ノ内一人ニテモ不埒有レ之ニ於テハ、五人トモ同罪タルベキ事

一　毎年宗門帳三月迄ノ内サシ出、若御法度ノ宗門ノ者有レ之バ、早速可ニ申出一候、御高札ノ趣相守、

人別念ヲ入可二相改一、宗門改濟候以後召抱候下人等ハ、寺請證文別紙取置ベキ事ナリ

一切支丹轉類族有レ之バ、別ニ相記サシ出ベク候、他處ヨリ緣グミ抔ニテ、右ノ族當村ヘ來候者ハ勿論、又他領ヘ送リ遣候トモ、早速可レ致二注進一事

一庄屋役ノ儀ハ不レ及レ申、年寄等ニテモ內證相談ニテ引替不レ申、役所ヘ訟出サシ圖ヲ請ベキコト

一印形ノ儀ハ、宗門帳五人組帳ニ押置候テ相用可レ申候、子細有レ之印形替候バ、庄屋年寄ハ御代官役處ヘトヾケ、判鑑サシ出スベク、平百姓ハ庄屋年寄ヘ可二相斷一、名ヲ改ムベキ事ナリ

一御朱印地寺社領什物等、一切質ニ取間敷事

一衣類諸道具又ハ外シノ金物類、出所不レ知賣物買物取候儀ハ不レ及レ云、質ニトリ又ハ預リ候儀モ仕間敷、縱出所知レ候物ニテモ、請人等無レ之質物ハ堅クトリモフスマジキコトナリ

一百姓衣類庄屋絹紬木綿、妻子共ニ可レ着レ之、平百姓ハ布木綿ノ外不レ着、綸子紗綾縮緬ノ類、襟帶抔ニテモ用ヒマジク、家作等目立候普請奢ケ間敷儀致間敷事

一婿取嫁取ノ儀、相應ノ者ト取組、少モ奢ゲマシキ儀仕間ジク候、何事ニ不レ依輕ク可レ仕候、一代內度々無レ之祝儀振舞ニテモ、一汁三菜ニ限ベキ事

一風水旱蟲等ノ損毛ニテ御物成減候上、百姓ㇳモ願次第ニ爲二御救一、夫食・種貸等被二仰付一候ヘドモ、向後損毛ノ品ニヨリ吟味ノ上御救モ雖レ可レ有レ之、先ハ損毛ニ附年々願ノ通御救ハ難レ成候間、兼テ其心

得仕費等無レ之樣、常々致ニ勘辨一取續候樣能心懸可レ申事

一 家業ヲ第一ニ可ニ相勤一、遊藝ヲ好惡事ヲ企、或ハ出入ノ腰押ナドイタス間ジク、又ハ不孝ノ者有レ之バ不ニ隱置一申出、不レ依ニ何ゴト一相愼可レ申候

一 常々闘爭口論ヲ好、夜步行等仕、名主五人グミノ異見承引不レ致者有レ之バ可ニ申出一、左樣ノ不屆者ヲ隱シ、脇ヨリ及ニ露顯一候バ、其者ハ勿論庄屋名主五人グミ迄越度タルベキコト

一 御料處國々御取箇・並夫食・種貸等、其外願筋ノ儀ニツキ、御代官陣屋ヘ百姓ドモ大勢相集訴訟イタスコトモ有レ之由、不屆至極ニ付、自今以後嚴ク吟味ノ上重キ罪科ニ行ハレベキ條、御代官支配限百姓共ヘ、兼々急度申附置ベキ事

一 百姓ノ子供ヲ始、諸親類ノ內輕キ侍奉公ニ出シ、其後在處ニ引込候テモ、刀ヲ差候者有レ之由相聞候、自今以後如レ此ノ類、在所歸住仕候バ先主ヨリ少々合力請候トモ、刀サシ候コト停止ニ候、若詮議イタサズ候バ、庄屋年寄可レ爲ニ曲事一候、右ノ御書ツケ前々出候御フレ書ノトホリ、カタク守申ベキ事

一 博奕物テカケノ勝負三笠附ノ類不レ及レ云、商事ニ寄セ博奕ニ似タル儀一切仕間ジク、勿論宿ナド決テ仕間ジク候、若相背ニ於テハ、當人幷宿トモ嚴科ニ處セラレ、庄屋年寄五人グミハ過怠仰付ラレ候間、前々仰出サレ候通急度相守、每月五人グミ限ニ相改、庄屋方ヘ證文取置可レ申候、且又人賣買停

止ノ儀ハ不レ及レ云、男女奉公人年季ノ儀、十ケ年限ニ可レ仕候、譜代召使ニ候トモ一ケ年限リニ抱候トモ、慥成證文取置ベキ事

一 人請ノ儀猥ニイタス間ジク候、乍レ去緣者或ハ出所能存慥成者ニ候バ、庄屋五人グミヘ相斷、受人ニ可二相立一候、自然人ウケノ儀ニ付出入有レ之候バ、庄屋五人グミ立合、屹ト埒明申ベキコト

一 養子ハ身寄ヲ撰ビ、相應ノ養子可レ致、娘有レ之入婿取候トモ、親族ノ內婿養子イタスベク候、然レドモ其女ノ年不相應ニ候バ、他ニテモ人吟味ノ上緣者ニ其趣相達、其上ニテ養子イタスベシ、縱實子タリトモ親不孝又ハ不行跡ニテ、庄ヤ五人グミナド度々異見ヲ加候テモ不二相用一跡式相續イタサセ難ク候ハヽ、其譯莊家五人グミヘ申達、其上ニテ廢レ之他人養子可レ致候、父一人ノ了簡ヲ以養子不レ可レ致、又ハ二三男コレアリ、百姓惣領病身マタハ不行跡ニテアト式讓リ難ク、二三男ノ內ヘ讓候節、是マタ五人グミ立合取締候上讓渡ス事

一 田畠分ケ候儀、分知高十石反別一町ヨリ少ク當リ候ハヾ不レ可レ分、尤殘高モ右定ヨリ少ク殘スベカラズ、然ル上ハ高二十石地面二町ヨリ少キ田地持ハ、子供ヲ始メ諸親類ノ內ヘハ田地配分不二相成一候間、二三男有レ之バ在所ニテ何ゾ爲レ致二渡世一、或ハ相應ノ奉公ニ可二差出一事

一 村中申合晝夜火ノ用心第一ニ入レ念可レ申候、若非常有レ之バ火消道具ヲモチ早々缺附防グベシ、出火マタハ盜賊等有レ之節、聲立候バ村中ノ者不レ殘罷出相防グベシ、若其場ヘ不二出合一者有レ之バ、庄屋

年寄可レ遂ニ詮議一事

一 他所ヘ罷出一夜二夜モ泊候儀ハ、莊家年寄ヘ斷可ニ罷出一、尚又他國ヘ奉公等ニ出候カ、マタハ用事有レ之他國ヘ罷出候トモ、其子細莊家年寄ヘ可ニ相屆一コト

一 行衛不レ知者一夜ノ宿モ不レ貸、旅人其外何者ニテモ村方地內ニ行倒死等有レ之バ、見出候者早々莊家年寄ヘ可ニ相屆一、其上ニテ村役人立合、死體並雜物等相改、早々注進スベシ、他所ヨリ來リ候手負ノ儀ハ不レ及レ申、鄕中ニテ怪敷疵人ナド有レ之バ、急々醫者外科ニ相掛、其段注進可レ致、且マタ村中ニ怪敷モノ隱置候者有レ之バ、出處相タヅネ急度預オキ、其段申出可レ受ニ差圖一コト

一 他所ノ者當村住居仕度旨相賴候バ、出處家職抔得ト承糺、慥成諸人相立、手形幷寺ウケ證文取レ之差圖任スベシ、猥ニ他所ノ者不レ可ニサシ置一事

一 出家社人山伏行人道心者、其外非人體ノ者迄、常々吟味イタシ、怪キモノ村內不レ可ニ差置一事

一 盜賊惡人等有レ之バ、早々ニ可ニ訴出一、御褒美可レ被レ下、尤仇ヲ不レ成樣申附ベク事

一 往來ノ者村內ニテ煩候バ、醫者ヲ懸ケ保養イタスベシ、先ヘ參儀難レ成候バ、其者ノ住處承リ、其所ヘ遣トヾケ證文取オキ可レ申候、若可ニ相果一病體ニ候バ、即刻可ニ申出一事

一 歌舞妓繰相撲其外見セ物ノ類願無レ之、村中ニテ興行不レ可レ致、分鄕或ハ村隣當村境目紛敷地處ニテ、先方ヨリ致ニ興行一候ハ其段注進致ベク事

一　遊女野郎惣テ慰物ノルヰ、一切當邑ヘサシ置申マジク、一夜ノ宿モ爲レ仕間ジキコト

一　捨子堅イタスベカラズ、若捨子有レ之候バ村中ニテ養育イタシオキ訟ベキ事

一　捨牛馬固仕間ジク候、若他處ヨリ放牛馬來リ、持主相知候バ急々相返、庄屋持主ヨリ證文取オクベシ、何方ノ牛馬トモ相不レ知候バ、邑方ニテ畜オキ其段可ニ訟出一、若隱オキ後日ニ相シレ候バ、右ノ者ハ勿論邑役人マデ越度タルベク候、且又牛馬賣買ノ儀、出處聞トヾケ、タシカ成受人相立、賣買イタスベキコト

一　新地ノ寺社建立ノ儀堅制禁ニ候、惣テ祠・念佛題目塔・供養庚申塚・石地藏ノルヰ、一切新規建立イタスマジク候、神事祭禮等輕致ニ修行一、新規ノ神事等堅ク不レ可レ致、縱有來ル儀ニテモ、品ヲ替候カ中絕イタシ候儀取立ルコト堅ク仕間敷候、若無レ據子細有レ之バ相伺可ニ差圖請一事

一　寺社ノ住持・社人等相替候バ、早速注進可レ致事

一　佛神開帳イタシ候バ、支配ヘ相願開帳イタスベク、當村ノ佛神他國ヘ當分相移シ開帳仕儀有レ之候トモ、前方ニ注進仕サシ圖ヲ請可シ、又他所ヨリ佛神等送リ來候トモ決テ不ニ受取一、邑中ニ少々ノ內モ置申間敷事

一　獵師ノ外鳥獸一切取ベカラズ、獵師タリトモ鶴白鳥トリ候儀固ク禁制ニ候、モシ村中ニテ鶴白鳥賣買イタシ候者有レ之候バ、卽時ニ可ニ申出一事

一鐵炮ノ儀斷相立所持仕候獵師ノ外、隱鐵炮抔モシ所持イタス者有レ之バ、重キ御科ニ被ニ仰付一候、獵師タリトモ親子兄弟ヘモ鳥銃貸借仕間ジク候、斷ヲ立置候リヤウ師相果候節ハ、其段訴出サシ圖ヲ可レ受コト

一御林ノ竹木幷往還並木大切ニ可レ仕候、枝葉下草等迄御用ノ外刈トルマジク、尤下草錢等相納候場所ハ、前々ノ通可ニ心得一候、百姓林屋舖四壁タリトモ、大木ノ分ハ願ノ上得ニ差圖一可レ伐レ之、猥ニ伐取申マジクコト

一御林並往還並木、風折立枯根返リ有レ之節ハ、庄屋山守立會木數寸間木品相改、書附ヲ以注進致ベシ、且又御林ノ荒間有レ之カ、又ハ爲ニ御用一伐出候跡ハ不ニ申付一候トモ、庄屋山守心懸早々苗木植タテ、其段可ニ相屆一コト

一前々有來候酒株ノ外、新タニ酒造一切仕間ジキ事

一農業ノ儀隨分致ニ出精一、種物相撰植附蒔附等ノ時セツ後レニ不ニ相成一樣ニ心ヲ用ヒ、養・用水等ニ心ヲ配リ、百姓仲ケ間互ニ勵合相働可レ申候、勿論庄屋年寄時々村中相廻リ、百姓共耕作惰怠無レ之樣可ニ申附一候、萬一不精成者有レ之バ急度可レ遂ニ詮議一、モシ病人其外譯有レ之農業成兼候者有レ之バ、親類五人組ヨリ助合、田畑作リアラシ等ニナラザル樣ニ仕ルベキ事

一田畑永荒ノ場所、又ハ起返場處切添新開等有レ之バ早々可ニ申出一、隱置後日相知候バ、庄屋年寄可

レ爲ニ越度一コト

一　原地沼地河原附等村々、願ニ依テ新田ニ被ニ仰付一候場所、無ニ油斷一可レ致ニ開發一、原地ノ儀雪霜ノ內ヨリ餘寒過迄ニ開發不ニ致立一候ヘバ、柴根アレ格別人夫多ク掛リ候間、正月ヨリ鍬入初無ニ油斷一可ニ心掛一事

一　惡水吐用水堀小溝迄掘浚、年々正月ノ內ヨリ隣郷申合無レ滯樣可レ仕事

一　川筋村々大水ノ時、庄屋年寄惣百姓不レ殘罷出、堤川除不レ切樣相防可レ申候、道橋損候ハ往來ノ障田畑作物障等ニ不レ成、小破ノ時分急々イタスベク、修復自普請難レ成處ハ可ニ訟出一、遂ニ吟味一ヤウ可ニ申附一候、且又往還筋請取ノ町場有レ之バ、觸出無レ之トモ常々無ニ油斷一心掛、通橋修理ヲ加ベキ事

一　諸普請人足扶持米、公儀ヨリ下サレ候セツ相渡リ次第當座ニ割合、百姓ドモヘ相渡證文取置可レ申候、惣テ繼合勘定一切仕間敷事

一　御傳馬宿ノ儀御用早追等相廻候時、隨分大切ニ仕時刻不レ移、先宿ヘ繼送リ刻附ノウケ取書可ニ取置一候、惣テ助鄕村々ヘ人馬觸當ノ儀、問屋年寄致ニ吟味一妄ニ人馬フレ出ス間敷候、宿馬ヲ圍オキ勝手能荷物付候樣成儀一切仕ベカラズ、御朱印御證文人馬ハ不レ及レ申、御傳馬人足駄賃等ニ至ル迄無レ滯繼立、旅人難儀ニ不レ成樣可レ仕事

一　村方年中小入用、庄ヤ元筆墨紙代、村役人共支配所ニ罷越、又ハ御用ニツキ他所ヘ罷出候雜用等、

附立候小入用帳ノ儀二冊相仕立、前書ニ惣百姓連印イタシ候白紙帳、正月中役所ヘ差出押キリヲウケ、右品々ノ入用二冊同様ニ附立、勿論不時入用或ハ大造成入用等有レ之節々、村役人ノ外長百姓相集メ相談ヲ遂ゲ候上可レ致ニ割賦一候、年中入用相記候上、暮ニ及割賦ノ節モ、長百姓立合廉々相改、惣百姓得心ノ上高割イタシ、翌春二冊トモ支配役所ヘサシ出改ヲウケ、押キリ印形ニテ、一冊ハ村方ヘ相渡、一サツハ役所ニ留オキ可レ申候條、右帳面ノ外別チヤウヲ拵、小入用割賦等堅仕間敷事

一　檢見ノ時ハ不レ及レ申、平日トモ手代並妻子召仕ラニ至ルマデ、金銀米錢衣類諸道具其外輕キ品タリトモ、音物曾テ仕間敷候、勿論於ニ村方一貸借拵一切致マジク、萬一得心違無心ナド申掛、非分ノ儀有レ之バ早々可ニ申出一候、隱シオキ後日顯レ候バ、村役人トモ可レ爲ニ越度一事

一　御代官並手代ドモ御用ニツキ廻村ノセツ、休泊御定法ノ木錢米代是ヲウケトリ、一汁一菜ニテ相賄、馳走ゲマシキ儀決テ致スマジク候、モシ心得違ノ儀於レ有レ之ハ、急度越度ニ可ニ申付一事

一　御年貢免狀相渡候上、大小ノ百姓出作ノ者迄爲レ致ニ披見一、證文取オク可ク候、御年貢並小物成不時納物トモ、割賦相濟候バ、百姓一人別ニ寫取得心ノ上銘々印形取置可レ申、惣テ上納物庭帳入レ念納相濟、庄屋方ヨリ請トリ手形渡後日出入拵無レ之樣可レ仕候、御年貢村入用一處ニ割合申間ジク候、モシ庄屋年寄割賦イタシ方ナド不直ノ儀モ有レ之バ可ニ訴出一、且御年貢米金初納ヨリ出精イタシ相納、極月限急度皆濟イタスベク候、萬一不納イタシ欠落仕候百姓有レ之バ、親族五人組幷庄屋年寄辨納イタ

スベク、勿論皆濟不レ仕以前穀物一切他處ヘ不レ可レ出事

一　御年貢ノ儀隨分米症撰、荒碎粒青米等ノ分撰出、繩俵入念二重ゴモ、小口カヾリナド一領同樣ニ仕立、升目欠減無レ之ヤウ入レ念計立、中札ニ國郡村名年號月日、米主庄屋升取名印仕、改役人姓名印形イタシ、外札ハ竹ニテモ木ニテモ、表方ニ何年御年貢米何國何郡何村何某納、裏ノ方ニ貫目書記、荏大豆モ可レ爲ニ同然一、津出船積ノセツ苞不レ損隨分取扱可レ入レ念候、御廻米納庄屋並上乘ノ者吟味イタシ、鬮トリ順番等ニテ不ニ差出一、人柄ヲ擇船懸リ場ハ勿論、於ニ船中ニ一船頭水主不埒ナド無レ之急度可ニ相守一候、モシ右ノ者ドモ米ヲサシトリ候カ、不埒ノ筋有レ之バ悉相糺シ、書附是ヲトリ可レ申候、川船ノ儀數艘有レ之候トモ、一艘限上乘仕ベク候、御城米船頭又ハ他所ノ者ヘ渡納ニイタシ、無ニ上乘一ニ仕候樣成儀堅クイタス間敷候、御藏納内コシラヘ、其ホカ於ニ御藏庭一不束ノ儀等無レ之樣、納庄屋心ヲ用ヒ撰出、鼠食俵濡澤手米等、納手代納宿納名主立會相改、紛失等無レ之樣、其日限惣苞數致ニ揭定一書記サシ出ベキコト

附　納庄屋ノ納宿逗留中、惡所ハ勿論遊山ケ間敷場所ヘ決テ罷出間ジク候、御藏手代同番方小揚ノ者、納手代等ニ音信ナド堅ク仕間ジク、萬一心得違賄賂ゲ間シキ儀ナド有レ之、後日相顯候バ納莊家急度曲事可ニ申附一事

一　鄉藏番晝夜無ニ油斷一相守、別テ火ノ元可ニ念入一、火災ノ儀役人請取致鄉藏詰リ候上ハ、公儀ノ御損失

タリトモ、番人等閑カ或ハ村中防方疎ニテ燒失ニ相成候ヘバ、其譯吟味ノ上邑方辨納ニモ可ニ申付一候、若盜賊等ニテ納置候米致ニ不足一候バ、村方可レ爲ニ辨納一、番人不念ノ儀ナド有レ之ニ於テハ、遂ニ穿鑿一其者ハ不レ及レ申、村役人迄可レ爲ニ曲事一事

右御條目ノ趣、少モ違犯仕間ジク候、年々宗門改ノセツ、村中大小ノ百姓不レ殘寄合、村役人ドモ爲ニ讀聞一、五人組印形可レ仕候、萬一心得違仕被ニ仰渡一ノ趣一事タリトモ相背候者有レ之バ、組合一同邑役人迄、何分ノ御科ニモ可レ被ニ仰附一候、依レ之五人組合印イタシサシ上申處如レ件

年號月日

何國何郡何村

百姓

何右衛門印

何左衛門印

何兵衛印

何　八印

何　助印

一　私領ノ百姓御料ノ邑役勤ル例ノ事

御料ノ百姓ニテ、私領分郷等ノ名主組頭勤ル儀ハアレドモ、其處ノ百姓御料ヲ持添ニシテ、其所ノ村役勤メルコトハ曾テ不ニ相成一コトト聞エシ所、無レ據譯有レ之テ地頭添翰願出レバ、申付テモ不レ苦、近例天明元丑年武州ノ內御料反高場ノ名主組頭ハ、其所ノ百姓前々ヨリ相勤來リタルニ附、取計方ノ儀御代官ヨリ御勘定奉行山村信濃守ヘ相伺、下知ノ趣如レ左

津金孫之丞知行所武州榛澤郡田中村ノ流作場反高ハ、御代官所タル處、本村役人佐次右衛門・常右衛門、前々ヨリ右反高場ノ名主組頭相勤來リ、御料所ノ御用向申立ニ致シ、地頭用差支ユルニ付、村役差免呉ベキ旨、孫之丞方ヨリ御代官ヘ掛合有レ之相糺タル處、右兩人反高場名主組頭役勤メ來リシコト、何十ケ年以前誰支配ノ節申付タルヤ、右名主クミ頭先祖ヨリ勤來リ年暦不ニ相知一故、容易ニ村役サシ免儀モ難レ成、取計方御勘定奉行所ヘ窺シ處、左ノ通下知有レ之、但窺書面略レ之

御附紙　書面佐次右衛門・常右衛門儀、反高場ノ名主クミ頭役ハ、津金孫之丞以ニ添翰一其方役所ヘ改候テ可ニ願出一ハ格別、起立無レ之間願相濟迄ハ、反高場世話人ト心得、名主クミ頭ノ名目不ニ相觸一、尤地頭用向サシツカヘザル樣可レ致旨申渡、反高場惣百姓ヘモ申聞、證文取レ之可レ被ニ差出一候

右ノ趣ニテハ、私領ノ百姓御料所村役勉ル事、地頭ヨリ添翰ヲ以願出レバ爲ニ相勤一不レ苦儀ト相聞ユル、地頭添翰無レ之テハ不ニ申付一也

一　由緒百姓之事　附　百姓席順　無ニ由緒一者帶刀御仕置　同　苗字　同上下着用　町人帶刀竝町年

寄由緒奇特者御褒美苗字御免近例

御料所ニテハ何程由緒正シク、先祖ハ高貴ノ末葉ニ無㆑紛トモ、民間ニ落テハ苗字帶刀決シテ不㆓相成㆒、勿論何ゾ譯アリテ從㆓公儀㆒苗字帶刀永々御免除カ、或ハ其ノ身一代御免除ノ百姓ハ申ニ不㆑及、前々ヨリ正キ出處有㆑之、右ノ者有㆑之バ御代官引渡ノ節姓名相タヾシ帳面ニ仕立、何々ノ家筋ヲ以前々苗字帶刀仕、先支配ヨリ申送リ等モ有㆑之段演說書ヲ以テ引渡ス、鄕村請取タル上、其ノ段御勘定所ヘ相屆クル也、當時士官ノ者村方ヘサシ置コト不㆓相成㆒、又浪人ニテ村方ニ假ニ住居致ス者モ、宗門帳ニ加フレバ、武士ノ浪人タリトモ決シテ苗字帶刀ハ不㆓相成㆒コト也、元來宗門書ニ不㆑入者ヲ、村方ニ住居可㆑爲㆑致謂レナシ、私領タリトモ領主地頭ノ家來分ノ者ハ格別、他ノ家來縱宮方門跡堂上方ノ家臣タリトモ、村方ニ住居ハ不㆑爲㆑致也、若主人領主ヨリ地頭ヘ賴有㆑之、承知ノ上サシオケバ格別ナリ、御料所ニハ猶々不㆓相成㆒、甲州ニハ武田家ノ浪人、當時民間ニアル類、由緒アリテ古來ヨリロウ人相立、農業ヲ替、苗字帶刀ニテ住居イタス者多シ、其內ニハ御朱印或ハ除地等致㆓所持㆒家柄ノ者モアリ、箇樣ノ類美濃・近江等ニモアリ、和州吉野郡ニハ往古ヨリ有㆑之、其外國々ニモ稀ニハ有㆑之、尤關東ニハ少シ

一　百姓席順ノ儀、苗字帶刀御免ノ外由緒有㆑之百姓、前々ヨリ神事祭禮其外村方集會等ノ節、名主組頭ヨリ上座致ス百姓有㆑之、先年席順及㆓出入㆒、奉行所ヘ差出ニ成、調ノ上由緒有㆑之儀ハ雖㆑無㆑紛　苗

字帶刀御免ノ外ハ、支配ヲ請ル村役人ノ可レ致ニ上坐ニ謂無レ之、名主組頭ト次第ニ着座スベシ、其餘ノ百姓ハ其次席タルベシ、平百姓席順ノ儀、其邑ノ可レ任ニ鄕例ニ、尤上下ノ分リ無レ之者ハ、其セキヘ到着ノ先後ニ順ジ可ニ座附ニ旨御下知相濟タリ、然レバ百姓ニ次第無レ之トハ一圖ニ言難シ、右體ノ出入等有レ之バ其心得可レ有事也

一　百姓帶刀ノ儀ハ、ナンゾ規模成儀有レ之、苗字帶刀御免有レ之カ、又ハ先祖ヨリ由緒有レ之代々仕來リ、御料ハ公儀ヘ相伺、私領ハ領主地頭聞屆ノ上差免ハ格別、其外ノ百姓帶刀決テ不ニ相成ニ、若隱シテタイ刀致ス者有レ之、於レ顯ハ輕キ追放位ノ御仕置ニ相成事也

一　苗字ヲ名乘ル事モ右同然、由緒有レ之御免無テハ不ニ相成ニ故、猥ニ苗字名乘ル者有レ之ニ付、享保年中御代官辻六郎左衛門相窺、其節御タヾシノ上、以來一統無ニ筋目ニ百姓苗字相名乘儀、急度御停止被ニ仰出ニタリ

一　百姓上下着用ノ類、庄屋年寄又ハ村内ニテ譯有レ之長百姓ノ外、致ニ着用ニ間敷旨、享保年中是又御停止ニ相成タル事ナリ

一　江戸町人帶刀ノ儀、町年寄ハ大神君御代ヨリ帶刀御免、其外ハ御用達町人等古來ハタイ刀致モ有レ之タル處、常憲院樣御代、天和三亥年二月、町年寄並御扶持致ニ頂戴ニ御用達共一統町人タイ刀御廢止ニ被ニ仰出ニタリ、但有德院樣御代、諸事御タヾシ有レ之、享保五子年六月、町奉行中山出雲守・大岡越前守ヨ

リ、前書ノ趣書上タル儀、江戸官鑰秘鑑ニ見エタリ

一　江戸三年寄ノ内、樽屋藤左衛門先祖由緒ハ、水野右衛門大夫忠政七男、同苗彌平太夫忠頼嫡子、同苗彌吉康忠、後樽三四郎ト改ム、同人儀神祖御側御奉公仕、十六歳ニテ元服被ニ仰付一、御諱ノ字下シ置レ康忠ト改ル、元龜三年十二月、味方原合戰ノ時、彌吉廿歳ノ時、一日ノ内信玄麾下黑澤藤五郎・赤沼三左衛門ヲ始、敵十二人討取、首級奉レ入ニ實檢一御感ノ上、首ノ數ヲ以テ三四郎ト可レ改由被レ爲レ命相改、其後天正三亥年五月、長篠御陣ノ時、三四郎酒ダルヲ奉レ獻、信長公ヘモ進ゼラレ、御感ノ餘鈞命ニ依テ、苗字ヲ樽ト改、同九年五月、武田勝頼ト藤枝合戰ノ時、桔梗ノ花ヲ奉レ獻、是ヨリ澤瀉ノ定紋ヲ桔梗ニ改ム、此時三四郎遠江町々支配被ニ仰付一、其以後御入國以來、天正十八寅年八月十五日、江戸町年寄被ニ仰付一、同斷續キ三ヶ鄕御代官相勤、上水支配仰附ラル、大神君ヨリ青貝柄ノ御鎗拜領仰附ラレ、今以致ニ所持一、又慶長十七子年、東海道中仙道一里塚出來ニツキ、タル屋藤左衛門・奈良屋市右衛門兩人ヘ掛リ仰付ラレ相勤ム、其砌ヨリ東三十三ケ國升座仰付ラレ、其後右三ケ鄕支配モ相ヤミ、常憲院樣御代、天和三年ヨリ帶刀御停止ニ相ナリ、其後脇差計ニ成タリ

一　奈良屋市右衛門由緒、先祖ハ大館家ノ氏族ニテ、和州奈良ニ住居ノ處、大神君參河岡崎御在城ノ節、參河ヘ罷越、駿河方ノ御供仕、御入國ノ時江戸ヘ御供仕、天正十八年八月十五日、タル屋一同江戸町年寄仰付ラレ、御代官上水掛リ、奈良屋同然ニ仰付ラレ候事

一　喜多村彦右衛門由緒、先祖、喜多村彌兵衛ト申ス者、遠江ニ罷在候所、江戸表相應ノ御用仰付ラルベキ旨ニテ召連サセラレ、天正二十年町年寄タル屋・ナラ屋同然ニ仰付ラレタリ、有德院樣御代、諸事御糺明ノセツ、享保十巳年八月、町奉行中山出雲守・大岡越前守ヘ、町年寄共書上、官鑰秘鑑ニ有レ之、尤ナラ屋喜多村先祖、往古ヨリノ書物大火ノセツ類燒仕、御入國以前ノ由緒不ニ相知一旨書上有レ之、町年寄ドモ家筋地方ニ入用無レ之儀トイヘドモ、町人百姓帶刀ノ儀序ニ任セ記シ置モノ也

一　奇特者御褒美苗字帶刀御免有レ之シ近例

浚明院樣御代、安永八亥年岩出伊右衛門御代官所、信濃高井郡小見村百姓多右衛門ト申者、御代官相伺御褒美銀十枚下サレ、其身一代苗字帶刀御免、子孫迄苗字可ニ相名乘一旨命ゼラレタリ、先年伊勢坂下宿加左衛門ト申者モ、宿中近鄕手當等致シ、悉奇特ニ附苗字帶刀御免有レ之、又孝行者御美下サレタル類モ、所々ニ有レ之ナレドモ、前同人儀ハ代々奇特者ニテ、居村近鄕ヘモ手當イタシ、同人至テ孝行ニテ格別ノ儀、其上近年ノ事ユヱ一件クハシク記シオクモノナリ

御尋ニ附申上候覺

一　當村百姓多右衛門儀、親子兄弟夫婦諸親類ニ睦敷、召仕迄別段手當致シイタハリ、其上當邑ノ儀ハ千曲川端ニテ、ムラ高少々相殘リ、川欠荒地ニ罷成、ムラ方百姓取續難レ致候處、右同人蔭ヲ以テ年來相續仕罷在、誠ニ同人親子ノ儀ハ、郡中ニテモ存知候實體成者ニ附、右ノ段一通申上候處、仰聞サ

レ候ハヽ、同人親子平日ノ行跡、並ムラ方ニ手當イタシ爲ニ取續キ候趣意トモ、委細可二申上一由御沙汰ニ
御座候

此段多右衞門家ノ儀ハヽ、當時多右衞門迄七代ニナリ候ヘドモ、代々實體ニテ公事出入等仕候儀ハ一度モ無レ之、先年ヨリ身上モ相應ニテ酒造等商買ニ仕、同人親父愚跡代ヨリ別シテ實體ニテ、夜分臥リ候トキハ江戸ノ方並御支配御陣屋ノ方跡ニ不レ仕樣心懸、家內ノ者ニ至ル迄不レ殘右ノトホリ爲レ仕、其上多右衞門親子トモ村內御高札場ハ勿論、外村ノ御高札場ニテモ、其前歩行ノ時ハ何程ノ寒風大雨ニテモ、頭巾ヲ脫ギ敬ヒ候テ歩行仕、右ニ准ジ餘人ヨリ格別ニ御公儀ヲ重ジ、前ニ仰出サレ候御法度ノ趣堅相守、且又家內睦敷儀ハヽ、多右衞門親愚迹朝暮ノ食事等ハヽ、右同人夫婦手ヅカラ拵給仕致シタベサセ、夜ニ入愚迹ノセリ候節ハヽ、右兩人自身ニ床ヲ取臥ラセ、且夫婦並ニ子供迄臥リ候時ハヽ、銘々親ノ寢所ヘ來リ機嫌ヲウカヾヒ候テ臥リ、朝起候セツモ前ノ如ク致シ、扨親起出候トキハヽ、前夫婦兩人ニテ介抱イタシ、寢床等モ仕廻遣シ、又外ヘ罷越候トキハヽ、家來兩人程ヅヽ供ニツケツカハシ歸リ候セツモ是マタ家來二三人程モ追々迎ニ差出、先ノモノ走リ歸リ追付還候段注進致シ候ヘバ、直ニ同人儀途中マデ出テ、家內ノ者ドモ門ノ前マデ殘ラズ罷出、シタシク挨拶仕、勿論食事等ハ兼テ前兩人ノ者入念コシラヘ置タベサセ候樣仕候、マタ多右衞門他所ヘ出候トキモ、悴ノ者コレマタ前同人ノ親愚跡ヲ取扱フガ如クシテ、家來ノ者サシ出シ置、先ヘ出候迎ノ者走リカヘリ

只今多右衛門カヘリ候赴告知ラセ候ヘバ、家内ノ者ノコラズ門前迄出迎、愚跡モ家ノ入口マデ出、互ニシタシク挨サツ仕リ、食事ノ手當モ愚迹他出ノ時ニ應ジ候儀、其外家内ノ者餘所ニ參リ候トテモ、右ノ通ノ致方、親類ノ儀モ何ゾ珍敷品有レ之候ヘバ、一椀ノ内ヲ分ケ、遠方迄モ爲レ持遣給サセ候樣仕、勿論病人等有レ之時ハ、多右衛門多ク自身ニ罷越、晝夜付添深切ニ看病イタシ、其外ドモ萬事粗略ニ不レ仕候故、又親類ヨリモ同人方ヲ其通リ大切ニ仕リ、仍テ同人方ニテ召仕候男女、並心易ク出入イタシ候者迄モ、夫ヲ見習ヒ自然ト御公儀ヲ重ジ、親子兄弟夫婦諸親類ト睦ク、行狀格別宜ク相成候儀ニ御座候

一 當村ノ儀ハ千曲川附ニテ、元文三午年以來川瀨惡ク相成、村高四百三十八石四斗五合ノ内、三百六十一石九斗二升二合川欠荒地ニ相成、漸殘高七十六石四斗八升三合ナラデハ無レ之、持田畠不レ殘押流サレ候百姓多ク、右ノ者共ハ村方御百姓相ツヾキ難ク相ナリ、他所ヘ離散イタシ渡世仕候外無レ之罷ナリ候處、左樣ノ者ドモヘハ多右衛門方ニテ無利足ニ金子貸渡シ、隣村ノ田畑質地ニ取ラセ、右ノ外同人手前ニテモ隣郷中村・南鴨ケ原・北鴨ケ原・斗見四箇村ニテ、田畑質地ニ取、自分ノ利德ニハ一向不レ仕、内田畑ノコラズ押流サレ候百姓ヘ、御年貢諸役計ノ入上ニテ、小作致サセ候ニ付、右地所作候者ハ名田同樣ノ助成有レ之、取ツヾキ罷在候、其外村方百姓ノ内、子供ハ多右衛門方引トリ、酒造幷油シボリ等商賣ノ手傳爲レ仕置、年長ケ相片附候テモ、可レ然頃ニ相成候ヘバ、其者ノ親々ヘ申

間ヽ人方ニテ支度仕身分相應ノ所ヘカタヅケ遣シ申候ヽ右油シボリ等ノ儀ハヽ全村方百姓子供多キ者ノ手當ニ仕候儀ニテヽ同人德用ニハ曾テ不レ仕儀ヽ右ノトホリ彼是厚キ手當ニ依テヽ村方多分荒地ニ成ノコリ候田畠僅ナラデハ無レ之候ヘドモヽ他所ヘ離散仕候者モ無レ之ヽ村方御百姓相續仕罷在候右ノ通多右衛門手當ニ依テヽ一村相續仕居候段ヽ少モ相違無レ之候ヽ御問ニ附奉レ申上一候ヽ以上

信州高井郡小見村

亥九月

名主　庄右衛門　印

組頭　七左衛門　印

百姓代　平左衛門　印

長百姓　傳兵衛　印

同　七右衛門　印

同　小一兵衛印

同　勘右衛門印

同　勘兵衛印

同　常右衛門印

中野

御役處

下ゲ札

一　當多右衛門親ノ代、寳暦七丑年五月、幷當多右衛門代ニ罷成、明和二酉年四月、同五子五月千曲川滿水ニテ麥作不ㇾ殘押流、村内百姓可ㇾ及ㇾ饑體ニ罷成、急夫食拜借奉ㇾ願上ㇾ候節モ、御公儀樣ヨリ御拜借出候迄ノ内ハ、三度トモ右同人方ヨリ籾麥稗ノ類持出シ手當仕、可ㇾ及ㇾ饑體ノ者相救置候儀ニテ、是等ノ儀モ郡中ニテヨク存ジ知リ罷在候儀ニ御座候

下ゲ札

一籾　五十俵　寶暦七丑年

一稗　百俵

一籾　八十五俵　明和二酉年

一麥　百俵

一籾　六十五俵　同五子年

一麥　五十俵

一稗　八十俵

總計籾二百俵　五斗入

麥百五十苞　六斗入

百八十苞　六斗入

右之通三度共多右衛門方ニテ手當仕候、御尋ニ付下ゲ札ヲ以申上候

名主

庄右衛門印

組頭

七左衛門　印

百姓代

平左衛門　印

御問ニ附申上候覺

一　私共隣郷小見村百姓多右衛門儀、至テ實體成者ニテ、村方困窮ノ百姓ヘハ手當等致シ爲二取續一候由、私共儀ハ小見村最寄ニ候ヘバ、兼テ及二見聞一候趣可レ申旨御問ヒニ御座候、以上

此ノ段右多右衛門方ノ儀ハ、被二仰聞一候如ク代々實體ニテ、路中ニ於テ知人等ニ行逢候時ハ、下ニ居リ土ノ上ニ手ヲツキ、餘人ヨリ格別丁寧ニアイサツ抔致シ、是迄公事出入等仕候儀一度モ無レ之、身上モ相應ニテ酒造等商賣仕リ、別テ當多右衛門親ノ代ヨリ、御公儀ヲ重ジ夜分臥リ候時ハ、江戸並御支配御陣屋ノ方ハ跡ニ不レ仕候樣イタシ、御高札ノ前通候トキハ、笠頭巾ヲ脱ギ候テ罷リトホリ、且家内睦ジク、同人親愚跡朝夕ノ食事ナドモ人手ニ掛不レ申、自身夫婦シテイタシ、子供迄モ折々機嫌ヲ伺セ、又餘所ヘ參リ歸候時分ハ、追々迎サシ出同人儀モ道マデ家内ノ者モ殘ラズ門前マデ罷出、互ニ親シクアイサツ致シ、又同人餘所ヘ參リ候時モ、右ニ應ジ候イタシ方、緣者附合等モ深切ニ仕候故、先方ヨリモ麁略ニ不レ仕、互ニ睦ク仕、依レ之同人方心易ク出入ノ者マデモ、夫ヲ見習自然ト行狀宜ク成候由ニ御座候

一　小見村ノ儀ハ、千曲川端ニテ田畑多分川缺荒地ニ成、御百姓相續難ニ相成ニ候處、多右衛門儀無利足ニテ金子貸渡、他村ノ田畠質地ニ取ラセ、同人手前ニテモ質地取ノ田畠不レ殘押流サレ候、百姓ニ御年貢諸設計ノ入上ニテ爲レ作、其上村方百姓ノ内子供多ク扶助イタシ兼候者モ有レ之候ヘバ、同人方ヘ引取酒造並油シボリ等ノ手傳爲レ仕置、年長ケ相片付候テモ可レ然頃ニ相成候ヘバ、同人方ニテ支度仕相應ノ處ヘ片附遣シ候、右油手間等全ク村方子供多ク持候者ノ手當ニ仕、同人德用ニハ曾テ仕ラズ、右ノ外寶暦七丑年五月、明和二酉年四月、同五子年五月、千曲川滿水ニテ麥作ノコラズ押流レ、村カタ御百姓可レ及レ饑體ニ相成候時、三度トモ同人方ニテ籾麥稗等持出相救候儀ハ、私ドモ見請罷在相違無ニ御座ニ候

右ノ如ク同人方彼是ノ手當ニ依テ、小見村高多分川缺荒地ニナリ、ノコリ田畑僅ナラデハ無レ之候ヘドモ、御百姓村カタ離散モ不レ仕相續イタシ罷在候由、兼テ及レ承マカリアリ候、右御タヅネニツキ少シモ相違無ニ御座ニ候、以上

亥九月

信州高井郡
北鴨ケ原村
名主

順右衛門印
組頭
藤右衛門印
稻荷村
名主
組頭
三人印
百姓代
和栗村
犬飼村
三人印
中村
三人印
天神堂村
三人印

下木島村
三人印

南鴨ヶ原邑
三人印

二人印

坂井邑
二人印

中野

御役所

信州高井郡小見邑百姓多右衛門親孝行並奇特者ニ付御褒美被ㇾ下候樣仕度伺書

岩出

伊右衛門

岩出伊右衛門御代官所

信州高井郡小見邑

百姓

多右衛門

當亥四十二歳

右多右衛門儀、親子兄弟夫婦諸親類ニ睦敷、下人等ニモ情ヲ懸ケ勞リ、村方百姓困窮ノ者ドモヘハ手當仕爲ニ取續キ、奇特成者ニ候段、村役人訴出候ニ付、村方竝最寄村々相糺候所、田畑高二百八石七斗一升五合所持仕、生得實體成者ニテ、家内睦敷農業出精仕、當多右衛門迄七代相續仕候ヘドモ、代々實體ニテ公事出入等仕候儀一度モ無レ之、先年ヨリ身上相應ニテ酒造等商賣仕、別テ同人親愚迹代ヨリ篤實ニテ、夜分臥リ候節ハ、江戸ノ方幷ニ支配陣屋有レ之候方ハ跡ニ致サズ樣心懸、家内召仕ラニ至ル迄、右ノ如ク相愼マセ、同人親子トモ村方並他村高札ノ前通リ候時ハ、何程寒風大雨ニテモ笠頭巾ヲヌギ敬候テ罷通リ、右ニ准ジ餘人ヨリ格別ニ公儀ヲ重ジ奉リ、前々被二仰出一候御條目堅ク相守、且又父朝夕ノ食事ハ夫婦自拵給仕致シ遣シ、夜ニ入患跡臥リ候トキハ、多右衛門自身床ヲ取爲レ臥、朝起候トキモ又銘々同人側ヘ參リ機嫌ウカヾヒ、同人外ヘ罷越候時ハ、家來兩人程供ニ付遣シ、還リ候時分ハ召仕二三人モ追々迎ニ差出シ、多右衛門儀モ途中マデ出迎ヒ、家内ノ者ドモモ門前迄殘ラズ罷出、親シク挨拶仕、且親類ノ儀モ互ヒニ睦ク、何ゾ珍ラシキ物有レ之候ヘバ、一椀ノ内ヲモ分ケ遠方迄モ持タセ遣シ、勿論類葉ノ内病人等有レ之トキハ、同人自身ニ罷越、晝夜附添深切ニ看病等致シ、其外トモ萬端粗略ニ不レ仕候故、又親類ヨリモ同人カタヲ其如ク大切ニ仕候、依レ之向ノカタニテ召仕候男女並心易ク出入候者マデモ、夫ヲ見習ヒ自然ト村カタ行跡モヨロシク

相ナリ申候ト也

一　小見邑ノ儀ハ、千曲川附ニテ、元文三午年米川瀬悪ク相成、邑高四百三十八石四斗五合ノ內、三百六十一石九斗二升二合川欠荒地ニ相成、漸殘高七十六石四斗八升三合ナラデハ無レ之、持田畠不レ殘押流サレ候百姓相續相成難ク、離散可レ仕體ノ者ヘハ、多右衞門方ニテ無利足ニテ金子貸渡、隣村々ニテ田畑質地ニ取ラセ、其外同人手前ニテモ隣リ村中邑・南鴨ヶ原・斗見・北鴨ヶ原四ヶ邑ニテ、田畑質地ヲ取、尤自分利德ニハ一向不レ仕、村內田畑殘ラズ押流サレ百姓ヘ、御年貢諸役計ノ入上ニテ、小作候者ハモチ田畑同樣ノ助成有レ之候ニ付、心安續取罷在候、其外村方ノ百姓ノ內子供多ク年前ニテ扶助致シ兼候者ハ、多右衞門方ヘ引取、酒造油シボリ等商賣ノ手傳仕ラセ置、年頃ニ相成候ヘバ、其者ノ親々ヘ申聞、同人方ニテ支度仕、身分相應ノ處ヘ片附遣シ候、依テ村高多分荒地ニ成、殘候田畠僅ナラデハ無レ之候ヘドモ、離散致シ候者モ無レ之相續致罷在候

右ノ外當多右衞門親ノ代、寶暦七丑年五月、千曲川出水ニテ參作流レ、村內百姓可レ及レ饑候節、籾稗麥百五十俵差出相救、當多右衞門代、明和二酉年四月、出水ノ時籾麥百八十五俵差出ス、同五子年五月同斷ノ時籾麥稗百九十五俵サシ出、水難ノ百姓ドモ相救ヒ、當亥八月二十四日夕ヨリ同二十六日朝迄、大風雨ニテ隣鄉神天堂村・坂井村・下木島村百姓家床上マデ水押上潰家等有レ之、食物貧禁致シ候儀モ不レ叶及レ飢候處、同人方ヨリ粥握飯等致シ、船ニテ持運ビ、水干上リ候マデ救置申

候、右ノ如ク公儀ヲ重ジ奉リ、親ニ孝行仕、妻子兄弟諸親類ニ親シク、召仕等ヲ憐ミ、村方並近キ村々迄水難抔ノ時ハ、度々米穀ヲサシ出救ヒ候段、小見村並向寄村々一同申立候ニ付、猶又郡中不レ殘寄々相タヾシ候處、申立候趣少モ相違無ニ御座一候、萬事實體ニテ誠ニ遠國邊鄙ノ百姓ニハ、奇特成儀ニ奉レ存候、信州一國愚昧ナル百姓及ニ見聞一、向後手本ニ致シ候樣仕度奉レ存候間、何卒多右衛門儀、相應ノ御褒美被ニ下置一候樣仕度、偏ニ奉ニ願上一候、以上

安永八亥年十一月

岩出伊右衛門

御勘定所

岩出伊右衛門代官所

信州高井郡小見邑

百姓

多右衛門

銀十枚

右ノ者實體成者ニテ、親ニ孝行ニ有レ之、妻子其外ヘモシタシク、近キ村ヘモ奇特成取計ヒ致シ候ニ附、其身一代帶刀御免、幷子孫迄苗字名乘可レ申候、爲ニ御褒美一書面ノトホリ被レ下レ之候

右之通可ニ申渡一候

三　月

右御書付御殿ヘ御代官御呼出、御勘定奉行安藤彈正少弼御書附相渡、組頭宮川小十郎侍座、尤右ニ附御禮廻ハ無レ之也

一　分附家抱百姓之事

分附ト云ハ、祖父親ノ代田畑ヲ二男三男孫抔ヘ讓リ、其以後檢地入タル時、惣領式ノ名ヲ肩書ニ誰分トシテ、當主ノ名誰ト記ス、是ヲ分附ト云、二三男ヘ讓リ渡シ、分家百姓一軒ニ成レバ、分附ニハ非ズ本百姓也、是ヲ新屋ト唱ル處モアリ、又二三男ヲ親召連致ニ分家一タルヲ隱居ト云、本家ヲ表ト唱、永ク表隱居ト云所モアリ、何レモ本末家ニテ本百姓ナリ、分附ハ本百姓ニハ非ズ、又家抱ト云ハ、下人ヘ田畠ヲ讓リ、分附同然肩書ニ誰分ト記ヲ云、分附家抱共内附タルニ依テ、年貢諸役モ惣領式ヘ渡シ、本家ヨリ一緒ニ勤ム、永小作ト云モ、大概右ニ應ズ、家抱ハ百姓ノ譜代ノ下人也、門屋トイフ所モアリ、庭子トモ云フ、尤右トハ少シ譯替ルナリ、田畑讓リ渡サズトモ、譜代ノ下人夫婦トモ、屋敷内末ニサシ置、少ノ田地ヲ耕作致サスルヲ云、或ハ臺所ノ内部家ナド補理サシ置、子供出生シタルヲ庭子トイフ、西國方ニテハ名子ト云、町人ノ手代ヘ町屋敷等ヲ讓リ、家名ヲ名乘ラセオクヲ云、籬下ト譜代ノ召仕也、是ハ百姓ノ家抱同樣ニテ、子孫ニ至リ何程大身ニ成トモ、主從ノ

名ハノガレザル也トナリ

一　百姓新規商賣停止之事　附享保七寅年御觸書

百姓ハ農業ヲ專一ニ致二出精一、餘事ニ心ヲ不レ移、質素ニ世話ヲ可レ營コト第一也、然ルニ當前ノ利潤ニ心ヲ迷ハシ、農業ヲ麁略ニシ、商賣事ナドニ掛ル儀堅ク致間ジク、併在鄕ニテモ町場ハ格別也、縱市中ニ無レ之共、年久ク商賣仕來リタルモノハ、其如ク自今以後新タニ商賣相始ルコト堅ク可レ爲二停止一、尤山方ニテ材木炭薪等賣出シ、海邊川筋ノ漁獵ハ新タニ相始ルトモ不レ苦旨、享保七寅年被二仰出一有レ之ニ付、支配役ノ所領分知行處等新タニ商賣願出ルトモ、町方ノ外ハサシ免間敷、又不レ願シテ商賣事等ヘ掛リ耕作ヲ疎ニイタス者、及二見聞一バ利害申諭止サスベシ

享保七寅年御書附如レ左

覺

一　諸國在々所々百姓、有來家居ノ外自今新タニ家作イタスベカラズ候、一家ノ内ニ子孫兄弟多、或ハ病身ノ者有レ之候テ同居難レ成子細有レ之者、一屋敷ノ内ニ小屋ヲ造リ、或ハサシ掛ケ等致候儀ハ可レ爲二格別一事

一　百姓田畠ヲ配分定ノコト、高ハ十石反別ハ一町歩ヨリ内所持候モノハ、割分ベカラズ候、前々ヨリ十石内ノ田地モチ候者ハ、配分御制禁タリト雖、近年密々猥ニ相分候由相聞候、自今十石一

町歩ノ外餘分ヲ配分スベシ、是定ヨリ少ク殘ベカラズ、是ヨリ内所持候者ハ、配分一切御停止ニ候間厄介人有レ之者ハ同所ニテ耕作ノ働仕爲レ致、渡世又ハ相應ノ奉公ニ可ニ差出一候事

一　村中新規入作ノ者出來候時ハ、入作高ニ應ジ本高ノ百姓入作ノ百姓無ニ差別一高次第ニ諸役割可レ勤事

一　山林野原ノ類、新タニ割合有レ之時ハ、是又高次第ニ入作ノ百姓ヘモ可ニ割渡一事

一　右入作高二ヶ條定リタルコトタリト雖、百姓相對ヲ以極置候故、其品々區々ニテ宜カラズ候間、自今書面ノ通急度可ニ相守一候、但前々ヨリ入作ヲ對ニテ究メ置候儀ハ、只今迄ノトホリタルベシ

一　惣テ百姓農業ヲ麁略ニイタシ、商賣事ニ掛リ候儀可レ爲ニ禁制一候、但年久ク商ヒ事仕來候者ハ、其トホリニテ自今新タニ商賣事不レ可レ致、耕作專一ニ可ニ念入一事

但山方ニテ材木炭薪等、海邊ニテハ漁獵等イタシ、右ノ品々新タニ商賣候事ハ可レ爲ニ格別一事

右條々固ク可ニ相守一、此旨若違背ノ輩有バ可レ爲ニ曲事一者ナリ

享保七寅十一月

一　缺落百姓跡株之事　附缺落出奔逐電　同尋方　奉公人召仕男女缺落　於ニ同斷先一惡事有レ之召捕ラレシ時、先主掛合再欠落　同闕置　人ヲ殺立退タル者　其外科人同並不ニ訴出一役人咎同逃散舊離等ノ儀ニ付伺下知書留

一　缺落百姓有レ之段訴出ル時、家族有レ之モノハ家族並親類五人組村役人呼出、欠落致シタル始末巨細遂二吟味一、若不埒ノ筋等有レ之カ、或ハ喧嘩口論等ニテ人ヲ痛メ立退タルカ、其仔細ニ由テ懸リ合ノ者ドモ、夫々呼出遂二吟味一取計ハ、其時宜ニ隨ヒ口書等取締、御奉行所ヘ伺ベシ、左モ無レ之身上不如意ニテ、年貢等ニサシ詰ルカ、又ハ借金多ク返濟ノ方便無レ之、是非妻子田畑等ヲ捨欠落致シ、無罪ノ者カ得ト糺明イタシ、掛リ合ノ者口書取レ之、定例ノトホリ御勘定所ヘ相屆、何モ定法ノ如ク三十日ヅヽ六限ニタヅネ申付、百八十日相タヅネ不レ出時ハ、タヅネ方等閑ノ趣親類村役人叱置、請證文取レ之、永タヅネウカヾヒ出ス、右ノ上相續人無レ之者ノ跡株ハ、親類引請可レ致二相續一、親類無レ之ハ村中好身ノ者ニ吟味イタシ引請サスベシ、好身モ無レ之跡株相續人於レ無レ之ハ、建家家財ハ入札イタシ相拂、年貢未進有レ之バ、村役人方ヘ請取未進等無レ之節ハ、拂代金御取上ニイタシ田畑ハ村惣作ニ申附、年貢諸役爲二相勉一、種肥代拵作方ノ費用引レ之、餘分有レ之バ是又御料ハ御代官私領ハ領主地頭ヘウカヾヒ、後年ニ至リ欠落人立戻リ科無レ之ニ於テハ、元主人ヘ被レ下レ之、又ハ罪科有レ之者ハ勿論、上ヘ對シ罪科ハ無レ之トモ、村方ニテ不埒不屆有レ之居住難レ成欠落イタシタル赴、吟味ノ上於二露顯一ハ妻子トモ夫々相當ノ咎モ付候事ニテ、田畑闕所カ又ハ相續人無レ之ハ、取上御拂ニイタス事也

一　獨身者ナドニテ仕付置タル田畑有レ之バ、カケオチ當座ヨリ作リ荒シニ不レ成樣、親類五人組ニテ引請修理イタシ、手入年貢無レ滯爲レ致二上納一ベシ、若親類モ無レ之五人組モ鰥寡孤獨ノ類耕作等難成

ハ、相續人有レ之迄村役人引受、總作ニモ致サスベシ

一　跡株引ウケル者有トモ、一人ニテハ引ウケ難シ、持高ノ内一石二石ヅヽ引分ケ相續イタシ度段願出ル時、百姓モチ高十石以下ハ分地難レ成、雖レ爲ニ御定法一カケオチ跡株ハ二石三石宛分株ニイタシテモ不レ苦、併水田ニ引合切畝歩ニ不レ成様ニイタスベシ

一　無罪ノカケオチ人、跡カブ引ウケ相ゾク人有レ之百姓ハ、株相立ハ罷在候處、數年過元地主村方ヘ立戻リ、願ノ上歸住イタシ、先株取戻度旨申レ之トイヘドモ、相對ニテ取戻サバ格別於ニ願出一ハ、一旦村方カケオチシタル不埒有レ之ニ付、吟味ノ上ニテ取戻サスル筋ニハ無レ之也

一　他借ナドニテカケオチイタシ、迹株分散イタシ度段貸方ヨリ願出ルトモ、迹引ウケ人ト相對ハ格別、當人無レ之上借方ヘ分散ナド申附ル筋ニハ無レ之、可レ致ニ相對一旨利害申聞セ無ニ取上一、勿論無罪ノ者ニ附、公儀領主地頭ヘ取上ル儀ハナシ、尤古來ハ無罪ノ者ニテモカケオチイタシ、迹株相續人無レ之トキハ、田畠家屋敷トモ、公儀並領主地頭ヘ取上タル由ナレドモ、近例ニハカケオチノカブ式取上ル儀相止ミ、前條ノ趣ニトリ計フ、右何レモ其筋ヘ内々承合ヒ記シ置者ナリ

一　カケオチ出ポンノ逐電ノ譯ハ元來出ポンヲ漢文ニテハ亡命ト書、カケオチト云ハ和俗ノ里語成ベシ、然レドモ當時公儀ニテハ唱譯ノ違フニヤ、公事方吟味役江坂孫三郎ヘ内々承合タル所缺落ト云ハ、出奔ノ略語何レモ同樣也、逐電ハ少シ意味違大勢群集シタル中ヨリ、密ニ引外シ行衛不レ知成タルヲ云、

然レドモトバケ書等ハ都テカケオチト書可レ然由ノ挨拶也

一　缺落人タヅネ方ノ儀、無罪ノ者ハ親子兄弟其外ノ緣者一同ニタヅネ申附テモ不レ苦レドモ、科有レ之出ポンナド致タル者タヅネノ儀、親主人ヲ家來。オヤヲ子。兄ヲ弟。伯父ヲ甥。師匠ヲ弟子ニハ不ニ申附一定法也、扨又人殺其外事罪有レ之缺落者ハ、其者ノ親子兄弟女房ヲ身近者一人牢舍申附、若身寄親族無レ之ハ、親類ノ內近緣ノ者入牢イタサセ、タヅネノ儀ハ外親類五人組村役人へ申附ル、親類無レ之者ハ五人組ノ內判頭ノ者牢舍申附、三ケ月相タヅネ不レ出バ、猶又百日限リ申ツケ、其上ニテモ出ズバ右ノ者共過料又ハ手鎖申附、其罪ノ品ニヨリ緣者ノ內一人追放申ツケ、最初ヨリ入牢申ツケ置タルモノハ差免シ、永タヅネ申ツケ、勿論出ポン人見當リ次第召捕可ニ差出一、若見遁ニイタシ外ヨリ見出シ於ニ訴出一ハ重科ニ可レ被ニ仰付一由、一件ノ者證文取レ之、御仕置落着可レ致也

一　缺オチ人タヅネ申付ル時、他村タリトモ同支配同領ノ親族へ申ツケルハ不レ苦、同邑タリトモ分鄕又ハ他支配他領他村身近キ者有之、タヅネノ儀其者へモイタサセ度由、村役人幷身寄願出ルニ於テハ、其身寄爲ニ掛合一承知ノ上尋可由於レ申レ之ハ、右申附其支配マタハ領主地頭へ、右ノ趣一通掛合可レ置事

一　百姓町人ノ下人缺落致シタル時、タヅヌルトモ又ハ其分ニ捨置トモ、主人心次第タレドモ、人主受人方ニテタヅネベキ由、其主人ヨリ斷有レ之於ニ訴出一ハ、通例ノカケオチハ同樣ニ申附ル、尤給金勤日數ニ致ニ勘定一遣スハ、主人ノ了簡次第訟出、吟味ノ上ニテ裁許ナレバ本金濟方申附ル定法也、

主人ヨリタヅネ並給金等ノ儀、ウケ人主人ニ掛合居ル内、右ノ者ドモ若缺落イタシ、其アトニテ主人ヨリ申出ルトモ、ウケ人人主ノ家主ヘ吟味ハ不レ懸、主人ウツタヘ後ニツキトリ上ナシ

一　奉公人カケオチノ儀、訟ルトモ、三日ノ内ハ構等無レ之、其内カケオチニ於テ先惡事等有レ之バ、其主人モ無レ通、三日過レバ主人ヘハ不レ掛、取逃カケオチノ儀主人訴出レバ、給金計十日限濟方ウケ人ヘ云ツケ、取逃ノ品ハ濟方不ニ申附一、ウケ状ニ右品サシ出ス可由有レ之段申立ルトモ、相對ニ可レ致旨申渡ス、尤カケオチ人ハ三十日限タヅネ出シ主人ヘ可ニ引渡一段申ツケル、若ウケ人給金濟シ兼ル儀分明ナレバ、人主ヘモ申ツケルコト也、是ハ武家方奉公人ヲ人主ニ取オキテモ同斷也、給金十日ノ日限ニサシ不レ出バ、ウケ人身代限給金トリ上店ウケ人ヘ引渡シ、勿論タヅネモサシ免サズ、然シ給金半金モ納レバ殘金ハマタ十日カギリニ申付、二度目皆濟イタサヾル内身代カギリ申ツケル、尤カケオチ次第ニ寄リ、重罪於レ有レ之ハウケ人ヘ過料ノ品ニ寄リ重クモ申ツケル、併身代カギリトリ立タル上ハ、過料ハ不ニ申附一、サテ又欠オチ者タヅネ出相タヽシ、取逃ノ品賣拂タラバ、買主ヨリトリ返シ主人相渡ス、少分ノ金子等迄遣ヒ捨ル事分明ナラバ、主人可レ爲ニ損失一、金子ハ十兩以上雜物ハ代金ニ積リ十兩位ヨリ以上ノ取逃ハ、盜賊ニ准ジ死罪、並金子一兩以上爲レ持遣タル使ノ先ヨリ取逃、カケオチ致タル下人ハ死罪、是ハ内ニ有レ之品ヲトリニゲト違ヒ、其者ヲ便リニイタシ憐ニ存候處、トリ逃イタシタル故、金高少クトモ死罪ノ定法也、其外ノ科輕重ニ隨ヒ御仕置申付ル、右奉公人トリ

逃カケオチノ儀、公儀ヘ訴出ニ於テハ御定法有レ之、右ノ外ニモ夫々御仕置ノ次第有ドモ、御代官役所ニテ取計儀大旨右ノ趣ニ心得相伺可レ申事

一　召仕ノ下男下女一同ニ欠オチイタセバ、其主人ヨリ人主請人ヘ掛合可ニ尋出ー事ニ附、トヾケ等差出ストモ、御代官聞置ニイタシ、役所ヨリタヅネ申附ル筋ニハ無レ之、既ニ天明三卯年中山道深谷宿百姓喜兵衛女房下男一同カケオチ致、宿方ヨリ訟出ルニツキ、女房計タヅネ申ツケ、其段御勘定奉行所ヘトヾケ相濟シ趣如レ左

私御代官所武州榛澤郡深谷宿百姓喜兵衛妻直儀、當月十九日家出イタシ、同夜下男源助儀カケオチイタシ候旨申出候ニツキ、直儀ハ定例ノ通私方ニテ日限等申附、源助儀ハ喜兵衛方ニテ人主受人ヘ掛合タヅネ申附オキ候由ニツキ、承リトヾケ置申候、依レ之右ノ段御トヾケオキ申上候、以上

卯六月　　鈴木新吉

一　家來欠落致シ、主人手前ヘハ代人ヲ取相濟シタル以後、缺落人外ニテ惡事有レ之被ニ召捕ー人主請人御呼出過料等仰付ラレタル時、先主ノ名ヲ名乘ルトモ先主ヘハ無ニ御構ー併名ヲ申出タルニ付、若御呼出ニ成過料錢取立可ニ相納ー由仰渡サレ有レ之トモ、請人人主町方ナラバ名主方ヘ取立、村方ナラバ其村名主トリ立相納候様仰附下サレ度段、於ニ奉行所ー直ニ相願可レ申事也、爲ニ其代人ー請トリ欠落ノ下

人ハ、主人ノ手離レタルコト故不レ構道理也、勿論不埒ノ奉公人ニテカケオチノ先々又々不埒モ難レ計見請タラバ、代取人相濟ス時請人人主ヨリ一札取レ之、萬一右奉公人同斷先ニテ不ラチノ筋有レ之公訴等ニ成候トモ、少モ苦勞ヲ掛申間敷由トリ締置可レ申候

一　カケオチ永タヅネ申付タル以後、見當リ連歸ルカ、又ハ自分ニテ立歸、其段村方ヨリ申出ル時ハ、先ハ右ノ者急度村預申ツケ置、於ニ先々ニ惡事等ノ有無吟味ノ内、又々カケオチ致スニツキ、此度ハ親類村役人直ニ舊離帳外相願トモ不ニ聞屆一、奉行所へ相屆、又通例三十日ヅヽ六度ニタヅネ申ツケ、彌行衞不レ知時ハ、伺ノ上永タヅネ申ツケ、其上ニ舊離帳外相願バ承リトヾケ可ニ勿論一、村預ケ申ツケオキタル者等閑ニテ、再カケオチ致サセ不念ニツキ、右樣申ツケ候節、親類村役人迄過料手鎖等、其時ノ樣子ニ隨ヒ、是迄ノ永タヅネヨリ右ノ者ドモ各一同重ク可ニ申附一事

一　再カケオチ取計方、其筋へ内々ウケタマハリ合相記オク、科無レ之欠落者ノ譯不レ存シテ當分サシ置ハ格別、右樣ノ始末モ承リトヾケ、日限タヅネ有レ之者ヲ圍置、於ニ露顯一ハ圍オキタル者過料、又ハ手鎖等申付ル、マタ寺院へカケ込圍オキ、追テ添翰致サシ出タル寺院ハ、逼塞仰附ラレ御法也、依テカケオチ人歸住伺等致ス時同斷、以後何方ニ罷在候哉、惡事之有無等糺候セツ、縱惡事無レ之トモ何村誰方ニ罷在候ト申候テモ、其サシオキタル者御咎有レ之ニ附、カケオチ以後、所々渡リ奉公仕罷アルトカ、或ハ廻國マタハ所々日雇ヲ取今日ヲ營候トカ、住處不レ定樣吟味詰可レ獖事役人ノ差略也、併

惡事有レ之、カケオチ致タル者ヲ圍オキタル者ハ、先々得ト遂ニ穿鑿一タル上相當ノ咎可レ申事

一　事ヲ巧人ヲ殺カ、マタハ闇討其外人家ヘ忍入人ヲ殺、或ハ實ハ殺サズトモ巧ヲ以謀書謀判ナドイタシ、不慮ニ人ノ身代ヲ潰サセ、金子ヲ掠取カケオチ致シタル者、先身近キ親類一人入牢申ツケ、其外ノ親類五人組村役人ヘ嚴クタヅネツケ、三ケ月迄ニ不レ知ハ、猶マタ百日カギリ彌々タヅネ不レ出ハ身近キ緣者ノ内一人中追放、殘リノ者過料申ツケタル上、永タヅネ申ツケル定法也、サテ右體ノ罪有レ之カケオチ者ハ云ニ不レ及、右樣申立レバ闕所ニモ成べキ者ヲ押隱シオクニ於テハ、名主ハ江戸十里四方追放、家主ハ右同斷、五人組ハ過料ノ定法也

一　カケオチ逃散舊離ナドノ儀ニツキ、安永四未年公事方吟味役江坂孫三郎ヘ、御代官手代籠宮九八郎内々相ウカヾヒ、附紙取オキタル留書如レ左

覺

一　家出之事

是ハ家來共主人ニ不足有レ之、或ハ人ヲアヤメ又ハ意趣遺恨等有レ之、且百姓ハ御年貢引負他借等有レ之、總テ其所ニ難レ致ニ住居一田畑家屋敷等ヲ捨、其處ヲ立去候類ヲ立退ト唱候哉

附紙　不身上ニテ妻子養育難レ成、立退身ヲ隱シ候ヲ家出ト可レ申ヤ、都テ同居ノ者立ノキ候ハ欠落ニテ可レ有レ之候、立退トハ詞計ニテ、名目ニテハ有レ之間敷候ヤ

一　逃散之事

是ハ御取箇筋、其外諸拜借等ノ儀、總テ百姓ノ不レ任レ心儀有レ之、其村マタハ二ケ村三ケ邑モ申合、田畑家屋敷ヲ捨其處ヲ立退候ヲ、逃散ト唱候ヤ

附紙　邑中或ハ近村申合、妻子連大勢立ノキ候ヲ逃散ト申、頭取重キ御仕置ニ相成候

一　欠落出奔逐電之事

是ハ三品ノ趣意難二相分一、右ノ類有レ之節御トヾケ書ニハカケオチト認、同樣ノ儀ヲ出ポントモ認候ヘドモ、ソノ譯ヲタヾシ候テ書候儀ニハ無レ之候、逐テント云儀ハ別シテ趣意ヲ不二相辨一候故、先ハ不二相書一候ヘドモ、コレ迄右ノ內ニハチクテンノ者モ可レ有レ之ヤト奉レ存候

附紙　欠落ハ出ポンヲ略シテノ名目ニ可レ在レ之候、チクテンハ大勢群候中ヨリ引外シ、行方不レ知ヲ可レ申ヤ、當時ハ有レ之間敷事ニ候、右ノ通名目ハ品々有レ之候ヘドモ、奉行所拵ノ取計、或ハ屆書ハ都テ欠落ト書可レ然ヤ

一　勘當之事

是ハ師匠ハ弟子、父母ハ子供ヲ仕候ヤ

附紙　同居ノ悴難二見屆一追出遣候ヲ勘當ト可レ申ヤ、弟子迄出スモ同樣ニ可レ有レ之ヤ、尤同居ノ子息不埒有レ之カケオチ致シ候ハ、其時ニ勘當ニハ無レ之舊離ニテ可レ有レ之候、其餘ハ勘當不レ致內、

自分ヨリカケオチ致候ヘバ、最早後難爲レ不レ請計ニ付舊離ニ可レ有レ之ヤ

一　舊離之事

是ハ兄姉ハ弟妹、叔父母ハ甥姪ヲ舊離仕候ヤ

一　義絶之事

是ハ相互ニ從弟ヲ義絶仕候ヤ

附紙　カケオチイタシ行衛不ニ相知一者ヲ親類ヨリ相トヾケ候テ舊離ト申候、コレハ百姓町人ノコトニテ右ヲ侍ニテハ義絶ト可レ申候、勿論侍ハ相互ニ勤之身分ニテモ、義絶イタス事有レ之候

右ノ通奉レ窺候以上

安永四未年十二月　　籠宮九八郎

一　勘當舊離帳外之事　附義絶

勘當ノ親ヨリ子、師匠ヨリ弟子不行跡故、度々異見ヲ加ヘテモ不ニ相用一、難ニ見トヾケ一ニ付親子師弟ノ縁ヲ切、追出遣ヲ云、兄姉ヨリ弟妹・伯叔父母ヨリ甥姪ノ縁ヲ切ルヲ、下々ニテハ勘當ト雖、親師ノ外ハ勘當トハ云ベカラズ舊離也、子弟子ニテモ勘當不レ請以前、自分ヨリ出ポン致タルヲ、先々惡事ノ程無ニ心元一親師ノ縁ヲ切度願出ル時ハ、勘當トハ不レ可レ言、出家イタシタル跡ニテノコトナレバ、後難爲レ不レ請計ニ付舊離ト可レ窺事也

但勘當ノ儀、親勘當相願フ上ハ、不行跡ノ次第委窺出ニ不レ及、平日不行跡度々異見サシ加ヘ候ヘドモ不ニ相用一候間、致ニ勘當一度旨親誰申ス、外親類五人組村役人一同願出、吟味ノ上相違無レ之付相窺趣ニ書スベシ、勘當ノ儀前々ニハ村方願承トヾケ相窺、御下知濟ノ上帳外イタシ來、欠落者ト違帳外書替ハ不ニ相渡一所、安永元辰年ヨリ改申候、勘當ウカヾヒ御附紙ニ、願ノ如ク勘當承トヾケ、帳外相願候ハ別段可ニ申聞一旨ニ附、帳外申渡タリ、然ル處天明二寅年八月、御代官所武州埼玉郡增林勘當願有レ之例ノ如ク相ウカヾヒタル所、其節ノ御附紙ニ、願ノ如クニ勘當承トヾケ、人別帳相除候樣、可ニ申渡一由御下知ニテ、例ヨリ違タル御附紙ニツキ、猶又其筋ヘウカヾヒシ處、至テ不埒者故、村方追拂人別ヲ除度存、親モ勘當致セシ事ニツキ、宗門ハヅス儀ハ勿論ナレドモ、別段言聞候樣ニトノ下知ハ道理ニ不レ當趣、今般評議ノ上右ノ通改タル段挨拶有レ之ニ付、其以後ハ帳外トヾケ別段ニハ不レ致勘當伺ノ文言ニ勘當帳外相願候間トヾケ候樣可レ仕哉ノ旨相窺事也

一　舊離ハ兄姉伯叔父母目上ノ者ヨリ、弟甥等目下ノ者ヲ難ニ見屆一時、相願致ニ舊離一、目下ヨリ目上ヲ舊離ト云コトハ不レ成、又欠落致行衛不レ知者、先々ニテ恐事等仕出、親類ニ難儀ヲ可レ懸モ計ガタク舊離致ス時、親類ノ內目上ノ者一人加リ、夫々差添ル者弟甥從弟等モ一同ニ舊離仕度相願テモ不レ苦、若欠落者舊離帳外願フトキ、目上ノ親類無レ之バ帳外計可レ願也、久離トハ不ニ相成一從弟等ニテモ本家ヨリ分家ヲ勘當イタスハ不レ苦、分家ヨリ本家ヲ勘當イタス事ハ、目上タリトモ不ニ相成一コトナリ

親類不和ニテ中ヲ違フト云コトアリ、內證ニテ中タガヒ相互ヒニ因ヲ斷ルコトハ勝手次第、公儀領主地頭ヘネガヒ勘當イタスベキハ右ノ通也、勿論內證ニテ因ヲ切タリトモ、何ゾ親族ニ可レ掛罪科或ハ欠落者等、又ハ年貢未進等ノ償表向ニ成タル時ハ、內證ノキウリハ申立ニハ不二相成一外親族並違背ハ難レ成ナリ

一 帳外者ハ、不行跡親類ニテ村役人種々異見等ヲ相クハヘテモ惡事不レ止、外ヨリ度々難題申來候ニ附、村方宗門帳ニ加置テハ、如何樣ノ災難出來イタスベキモ計リガタキ故、身寄村役人申談地頭ヘネガヒ帖外ニイタシ、村方追出スコトアリ、是モ身寄承知ニ無レ之、村役人計ニテハネガヒ難シ、尤親族無レ之者ハ、五人組幷村役人申談相願事ナリ、サテ又欠落者ハ定法通リ六ケ月タヅネ、行衛不二相知一永タヅネウカヾヒ濟タル上、村方ヨリ帳外相願御代官聞トヾケ宗門帳ヲ除クナリ、永タヅネハ御代官手限ニテハ難二申付一奉行所ヘウカガヒノ上申附ル、帳外ハウカヾフニ不レ及、村方願出レバ手限ニテ申渡、奉行所ヘハ屆計ニテ相濟、尤町奉行ヘハ御勘定奉行ヨリ使者ヲ以テ相達、書替御代官ヘ相渡ル也

一 勘當舊離其餘モ帳外者ノ儀、御代官承トヾケ帳外申渡、其段御勘定奉行ヘ相達レバ、同所ヨリ町奉行ヘ以二使者一相屆、町奉行所ヨリ書カヘトテ、使者口上ヲ書ウツシ相渡ス、尤年號月日計ニテ名印等ナシ、町奉行所ノ口記ノ寫ト見エタリ、右書附ヲ御證文同樣ニ取置、モシ後年ニ至リ帳外者歸村願フ儀有レ之時、右書カヘ差出シ歸住仰付ラレ、モシ書カヘ無レ之帳外者ハ、歸村ウカヾヒ不レ成大切ナル書ツ

ケ也、依レ之場所ガヘ最寄ガヘニテ邑方引渡セバ、右書附モアト御代官ヘ引渡事也、私領ニテモ頭支配有レ之面々ハ、帳外申付タル趣頭支配ヘ相トヾケレバ、頭支配ヨリ町奉行ヘ遣シ書カヘ取置ク由ナリ、諸侯方ノ分ハ直ニ留守居ノ者書附ニテ町奉行ヘ持參サシ出書カヘ取置、歸住ノ節同然ナリ

一　村方ナドニテハ久離サヘ致セバ、其者惡事仕出シテモ難儀ハ不レ掛コトト心得居レドモ、一トホリノ事ハ爲レ致ニ舊離一帳外致タル方ヘハ掛ザレドモ、其者至テ重科有レ之時ハ、縱帖外致シタル者ニテモ、親類ヘタヅネ等仰附ラレ事有レ之、サスレバ帳外致シタルトモ血筋ハ難レ遁、サツバリト御構無レ之トハ申難シ、邑役人モ帳外イタシタル者故不レ構ト申儀ハ不ニ相成一、併御咎ノセツ過料ハ手鎖ト成リ、手鎖ハ急度叱リ抔一等輕クハ相成レドモ、役人一向構ヒナキニハ不ニ相成一由ナリ、無宿ノ者召捕ラレ御詮議ノ上、誰領分知行所何邑ノ出ト名乘リ、何村無宿ニナレバ其領主地頭ヘ御引渡ニ成ル、然ル處右ノ者ハ何年以前領分拂申附、其筋奉行所ヘ相トヾケ、頭支配有レ之面々ハ同處ヘ相トヾケ置候段申立、又欠落者ニテ帳外申ツケ、其セツトヾケ書カヘ致ニ所持一罷在ニツキ難ニ請取一旨申立書替ヲサシ出セバ引渡ニハ不ニ相成一、縱ヒ追放等イタシタル者ニテモ、其セツ御トヾケ無レ之テハ、右體ノ時領分知行所追放マタハ欠落帳外申ツケタル者ノ由申立テモ不ニ相立一事也

一　娘ヲ他所ヘ緣附、其親困窮カ又ハ何ゾ子細有レ之、家名潰シ婿ノ方ヘ引越、家族ニ成罷在內、婿欠落イタシ、其家ニハ親類無レ之、男ノ存寄ヲ以村役人申談舊離帳外願出タル類ヒ、先年有レ之餘リ無

レ之願ニツキ、其筋ヘ内々窺シ處、舅タリトモ婿ノ方厄介ニ成居者トシテ、舊離ト申儀決テ難レ成、其家ノ親類無レ之バ、五人組村役人ニテ帳外計相願、其段奉行所ヘ可二相屆一旨挨拶ニ附、其通ニ取計相濟タリ、又夫欠落致十二ヶ月過レバ、去狀無レ之トモ再緣不レ苦定法ニ附、右月以後ノコト成バ、入夫等ニテ相續致サセテモ、村役人無念ニハ不二相成一、然レドモ欠落致シタル夫ヨリ妻ノ方ヘ内々文通等有レ之カ、又ハ人ヲ以テモ音信抔有ハ、何ヶ年過テモ去狀無レ之テハ夫ハ相不レ成事也

一　義絶ト云ハ、百姓町人ニハ無、武家計也、百姓町人ニテハ舊離、武家ニテハ義絶ト云、仕方ハ前條久離同然、義絶モ目上ノ者且本家ヲ分家ヨリ義絶ハ不レ成、勿論他人ヲ義絶ト云コトナシ、隣家等親族同然心易致タル所、何ゾ子細有不和ニ成、互ニ出入等不レ致トモ、夫迄ニテ義ゼツト申筋ニ無レ之、舊離ハ目上ノ親族不レ加シテハ難レ成ケレドモ、義ゼツ從弟同士ニテモ本家末家ノ無二差別一義ゼツ致、相互ニ頭支配ヘ屆相濟、双方勤仕ノ身分ニテモ、義ゼツイタスコト有レ之也

地方凡例錄卷七　終

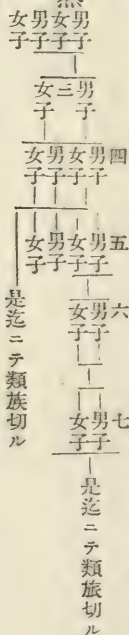
地方凡例錄卷八

目錄

地方凡例錄卷八

一切支丹類族一件之事　附　宗門改人別帳之初　切支丹奉行へ諸屆定法案文　幷村方ヨリ屆書　貞享年中御定書　切支丹取計覺書　享保年中御書付

切支丹宗門ハ耶蘇宗ト云、キリシンタンハ國號也、南蠻ノ屬國ニテ、紅毛ニ近キ國ノヨシ、此國ハ夷狄ノ中ニテモ大國ニテ、漢字モナク仁義五常ノ道モ知ラズ、至テ剛强ノ風土ニテ、唐土ヨリ行程大ニ遠ク、昔ヨリ王化ニ服セザル國ナレドモ、土地廣クシテ產物多ク、名物ヲ出ス國故、紅毛人渡リ產物ヲ買取、唐土本朝ニ交易ス、因テ彼徒若本朝へ渡海ノ赴キ聞ユレバ、早速注進スベキ役目也、此故ニ本朝へ通商御免ナルヨシ也、此宗ハ天帝ヲ尊信スレドモ大道ヲ知ラズ、佛法ヲ破シ幻術ヲ以テ愚人ヲ惑ハシ、刀劍ヲ以テ死スルヲ主意トシ、然モ自殺スル事ヲ禁ズ、實ニ蠻國ノ邪宗也、其國ハ總テ此宗門ナル故ニ唐土我國トモニ悉ク禁ジタリ、然ルニ何レノコロヨリカ、此宗我國へワタリ、蒼民是ヲ奉ズル者多シ、其初詳ナラネドモ、昔異國ト通船自由ノ時忍ビワタリテ弘メタルニヤ、西國北國筋ニハ今モ轉ノ族多シ、尤元龜天正ノコロ、信長公始ハ此宗ヲ信ジ、伴天連伊留滿ノ輩へ寺領等ヲ寄附セラレ、其時代ハ諸侯方ニモ信仰ノ人多カリシニ、豐臣家是ヲ停止ラレ、御當代ニ至リ益ス嚴ク御制禁ニ

成タリ、元來彼地ハ大國ユヱ金銀ヲモ多ク持ワタリ、此宗ニ歸依スル者ニハ金銀ヲアタヘ、又難病等ヲ療治スルニ奇妙ヲ顯ハシ、然モ其謝禮ヲモ受ザレバ、オロカナル下民ハ信ニオヨバズ、心アル者モ信仰セシハ隨分無理ナラヌコトナリ、其上色々ノ不思議ヲ見セ、種々ノ方便ヲ以テ諸人ヲナツケ、支黨ヲ集メ味方ヲ調ヘ、時節ヲ伺ヒ艨艟ニ大軍ヲ備ヘ、日本ヲ攻撃併呑セントスル萠現レタルユヱ、明君早ク其機ヲ察シ玉ヒ、嚴重ニ御制禁アリ、然レドモ今ニモ西國ニハ其殘族アリト見エテ、人別宗旨改ノ節、九州ニハ畫蹈ト云事アリ、本尊ヲ天主ト書テ、タイウスト云、是ハテイシユノ訛也、其像ハ異國人ノ手ヲ拱タル樣ナ形ニテ、唐金ヲ以テ鑄タルヲ板ニシハリ付タルヲ畫板ト云、是ヲ長崎奉行所ヨリ所々ヘ借受テ地ニ置一人ヅヽニ踏セル也、關東筋ニハ其族甚少シ、此宗門ヲ捨テ再ビ佛道ニ歸スル者ヲ轉ノ者ト云、コロバザル者ヲ本人ト云、其子父ノイマダコロビザル以前ニ出生ノ男女トモ、ホン人同然ト云、其子ホン人ノ孫ヨリ、類族ニ成リ、又父コロビタル以後出生ノ子モ同斷ナレドモ、男ハホン人ヨリ七世ノ孫マデ類族ニテ、八代目ヨリ素人ニナル、女ハ曾孫マデ四代ニテ類族切レ、五代目ヨリ素人ニ成也、當時キリシタン奉行ハ、大目付ヨリ一人、御作事奉行ヨリ一人勤メ、組下與力同心アリテ、キリシタンノ道具等入タル屋敷ヲ預リ、頭ヘモ勤番シテ御料私領宗門改ヲツトメ、諸屆諸伺書等差出ス時、宛所大目付ノ方ニテモ御作事奉行ニテモ、持參致所ノ奉行ヲ先ニ書ク定例也、キリシタン類族ノ方ニテハ、常ノ人ヲサシテ素人ト云通稱也

一切支丹類族御トヾケ方ハ、宗門改證文毎年七月ヨリ十二月マデ、キリシタン奉行へ差出ス、延引ノ子細アラバ十二月ニモ出ス、尤年ヲ越ル事ハ成難シ

是ハ御料私領トモ村々毎年宗旨改、男女人別疑シキモノ一人モナク、尤召遣等マデ吟味ノ上寺證文面々取置候旨、書付ヲ以テ相トヾケル也

宗門改ノ儀、日本中何方ニテモ人別帳ト云モノアリテ、旦那出生年ヲカキ、當歳子ヨリ相糺、妻嫁等ハ何村誰娘何年何月ニ娶リタルコト、是ハ書ニ記シ、奉公人男女トモ何方ノ者召カヽヘタル赴書キ記シ、家ノ主印形シテ寺判夫々ニ押テ、三月ゴロヨリ六月マデ、庄屋名主判元見トヾケ支配役へ差出ス尤國所ニヨリテ帳面ノ振合違アリ、就中九州ハ人別帳改格別念入、男女十五歳以上家族ハ勿論、下人下女マデ面々印判ヲ所持シ、人別アラタメノ節、村々へ御料ハ御代官手代、私領ハ其家ヨリ領主役人又ハ大庄屋等罷出、目通へ一人ヅヽ出テ印形ヲ差出ス、又前ニ云如ク毎年宗門改ノ節、書踏スル所モ

アリ、或ハ他領ノ者養子娶リナドシテ、其村ノ人ベツニ加時、並缺落者歸住ノ節ハ、一度書踏セシムル所モアリ、諸侯ガタナドニハ、其家々前々ヨリノ仕來リアリテ、改方色々アレドモ、何レニシテモ切支丹ノ類族多キユヱ、上方關東ナドヨリ宗門アラタメ方、キリシタン奉行ヘ毎年差出ス書付ハ、諸國同樣也

一　宗門改人別帳始之事

今人ベツ帳ト云ハ、唐土ニテハ板籍ト云テ、民ノ數ヲ記セル帳也、板籍ノ始ハ周禮ニ司民萬民ノ數ヲアグル事ヲ司ドル、歯ヲ生ズルヨリ以上皆枚ニ書ス、太宰ノ職閭里ノ民數ヲアラタムルニ、板圖ヲ以テス、今州縣ニ板籍ト云モノアリ是也ト、事物紀原ニ見エタリ、然レバ人ベツヲアラタムルハ、周ノ代ヨリ始レリトミユ、本朝ニテハ人皇三十七代孝德天皇、大化元年九月、諸國ヘ勅使ヲ立ラレ、民ノ數ヲ錄セシムト、日本紀ニミユレバ、是日本ニテ板籍ノ始リ、人ベツ帳ノ起リトミエタリ、人々宗旨アリテ菩提所ヲ極メ、宗門人ベツ帳ト名ヅケ、寺ノ印形ヲトル、人別改ル起リハ、何レノ代ヨリ初リタルニヤ、時世分明ナラザレドモ、慶長ノコロ御當代ニ至リ、キリシタン宗門御制禁嚴ク成タル以後、宗門ノ吟味嚴ク成シトミエタリ、日本ヘ佛像經文ワタリシハ、人皇三十代欽明帝ノ御宇、初テ唐土ヨリワタリタルニ、神國ノ餘光アリテ、夷狄ノ法未ダ弘マラザリシニ、用明帝ノ皇子聖德太子佛道ニ歸依シ玉ヒ、初テ四天王寺ヲ建立アリシヨリ、次第ニ佛道盛ンニ成シカドモ、俗家宗旨ヲ定ムルナド、云

事ハ聞エズ、今切支丹ノ御改キビシク、人別帳ニノセズシテハ、無宿者同様ニナリ、人中ノ交リモ成ガタキ故、國々トモ人ベツ宗旨ノコト嚴重ニナリ、年々出生ノ男女、當歳ヨリノセテ家ノ主印判シテ、面々旦那寺ノ判ヲトリ、前年ト人ベツノ増減ノ書付ヲソヘ差出ス、又七ヶ月目毎ニ、御代官所私領トモ男女僧俗年々ノ人員モシルシ、當年ノ人ベツ増減ヲ書キ記シ、宗門改奉行ヘ差出ス、尤村毎ニ書ニテハアラズ、一支配一領一口ニカク、年々ノ宗旨帳ハ、其支配其地頭ヘ取置也

一 轉切支丹本人並本人同然病死

始書判ノ伺書出ル後、兩判ノ取オキ證文出ス

是ハ右ノ者ドモ病死ノ節ハ、早々檢使差遣ハシ死體相改、病死ニ紛ナキ事見屆ノ上鹽詰申付、其旦那寺ニ假埋申付、寺ヨリ預リ證文ヲトリ、扨又死タル者ノ類族タル者ドモヨリモ證文ヲトリ、奉行所ヘ書判ノ書付ヲ以テ、伺ノ差圖ヲ請トリオキタル上、兩判ノ書付ヲ以テトリオキタル赴申達シ、前ニ差出シタル伺書ト引カヘル事

一 類族病死　兩判ノ證文但二季ノ屆

是ハ不レ及ニ檢使一親類ノ出シタル註進ノ赴ヲ以テ取置候樣申付本葬ニサセ、旦那寺ヨリ取置證文ヲトリ、七月十二月二季屆ノ節書判印形ニテ差出事

一 變死　兩判トゞケ但當時トゞケ無判成二季トゞケ内ヘ可ニ書入一事

是ハ類族變死有ル村方ヨリ註進申出ル時、早々檢使差ツカハシ、吟味ノ仕方ハ其村ノ樣子ニシタガヒ、平人ニカハル事ナシ、檢使ノ上委細ノ故由註進、其節無判ナラバ二季トヾケノ內へ書入、尤何ノ上取置事

一　出生　無判ノ書付ハ二季トヾケ

是ハ注進ノ度每元帳ニ書入、勿論覺書ニ記シオキ、二季ニ何人ニテモ書並ベ無判ニテ出ス、西ノ內紙一枚ニテ濟バ目錄ノ樣ニカキ、二枚モ入ラバ帳ニトヂテ差出スナリ

一　新緣　右同斷

是ハ本人並本人同樣ノ婿カ嫁ニ來ル者ノコト也、平人ニテ轉切支丹緣組スレバ類族ニナルユヱ、ホン人並ホン人同然ノ新緣ハトヾケイルヽ也

一　住居替　右同斷

是ハ只今マデ何國何村ニ罷在タル所、此度自分ノ住所何々ノ故ニテ、何方へ引越トカ、又奉公人ナラバ主人在所ガヘニ付罷越ナド、何レニモ住所カハレバトヾケル事也

一　歸居　右同斷

是ハ只今マデ何國何村ニ居タル者、此度自分ノ住所何村へ立歸タル者、是又同然也

一　缺落　當時屆兩判

是ハ缺落ノ注進、村方ヨリ申出タル時、平人ノカケオチ吟味ノ通リ、カケオチシタル子細惡事ノ有無等ヲ得ト吟味シテ、掛リ合ノモノトモニ口書ヲ取テ、早速兩判ニテトヾケル也、勿論日切尋定例ノ通リ申付、別テ類族ハ平人ヨリ急度相タヅネ、見出次第可ニ申出一旨堅ク申渡シ、其者ノ類族村役人ヨリ證文ヲ取ベシ

一 死罪 不レ及レ伺當時ノ屆兩判

是ハ其罪科有レ之故行ハル、事ナレバ、前方ノ伺ニハオヨバザル也、死罪ニ行ハレタル以後、早々兩判ニテトヾケル也、若私領ニテ死罪ニナリ、又本人並同然ノ者自然死罪アル時ハ、切支丹奉行所役人ヘ内意ヲ聞アハセテ取計ベシ

一 出家 二季無判トヾケ、他所ヘ行ニハ前方ニ伺ベシ

是ハ何ノ何某ト云者出家シテ、法名何ト云、二季トヾケ入、但他國ヘ行カ諸國ヘ修行ニ廻ルニハ、前廣ニ伺フベシ

一 遁世 當時ノトヾケ兩判

是ハ缺落ノ類ニテ、少シ輕キモノト聞ユ、其意味書付取候當時ノトヾケ也

一 剃髮

是ハ隱居等剃髮ス、出家ハ輕キ樣ナル者準レ之、尤本人並本人同然者前方伺也、然レドモ此類ハ書

判伺也

一　養子　右同斷
是ハ養子素人ニテモ、養父母ノ系次第ニテ類族ニナル、二季無判ノトヾケ也

一　義絶　二季兩ハンノトヾケ、類族不放ハ無ハントヾケ
是ハタトヘ親子兄弟ノ緣ヲ切タルトモ、元此族ナレバ其系ハ離レズ

一　離別　右同斷
是ハ新緣ノ離別スレバ、元ノ素人ニ成ルユヱ、類族不放無ハンノトヾケ也

一　他行　不レ及レ屆
是ハタトヘバ神佛參リ、又ハ養生ノ爲入湯ナド出立、五ヶ月七月ノ儀ハ開濟願ニ仕セ差免シ、奉行所ヘトヾケルニ及バズ、勿論長キコトニテ一年ヲ越レバ、二季トヾケ可レ有事也

一　不分明ノ者病死　二季屆兩判
是ハ系モ無ク只類族トバカリニテ、先年不ニ相闘ニヲバ不分明者ト別紙ニカキ、奉行所差出病死モ兩判ニテトヾケ有ナリ、勿論旦那寺取置證文等ノ事、類族病死ト同然ナリ

本人並本人同然ノ者何書

一　何國何郡何村百姓轉切支丹何右衛門忰、父不轉以前出生、本人同然、何兵衛何月幾日何歳ニテ致ニ

死去一候、仍レ之即刻檢死差遣シ死體相改候所別條無二御座一候、仍テ致二鹽詰一置候、御差圖次第可二申付一候、以上

年月日　　　　謹書判

苗字　守殿

苗字　守殿

但御代官所ヨリハ拙者御代官トカ、御領所何國ト書テ出ス

取置證文案紙

一何國何郡何村百姓轉切支丹何右衛門悴、父不轉以前出生、本人同然、何兵衛當月幾日何歳ニテ致二病死一候。依レ之即刻檢使差遣シ死體相改別條無二御座一候、依テ致二鹽詰一置相伺、任二御差圖一旦那寺何國何郡何村何宗何寺ニテ土葬ニ取置申候、為レ其如レ此御座候、以上

年月日　　　　謹兩判

當名

轉切支丹類族出生之覺

古轉　切支丹何右衛門曾孫

何兵衛悴
一何之助　何宗何國何郡何村何寺旦那　當何年何月出生　此者住居宗旨何旦那　父同然ニ御座候以上

年　月　日　　　　　　　　某　無　判

宛　所

本人同然病死村方言上書

一　何國何郡何村百姓本人同然

何兵衛當何年何月幾日何歳ニテ病死仕候、此者ノ父何左衛門儀何國何郡何村ノ百姓ニテ御座候所、切支丹宗門ノ由ニテ何年何月幾日御代官何ノ何樣ヨリ被ㇾ召捕ㇾ何方ヘ被ㇾ遣候所、切支丹宗門ヲコロビ翌何年何月何方御奉行樣ヨリ被ㇾ差戻ㇾ何村ニ罷在候所、何年以前何月何日何歳ニテ死去仕候ニ付、何右御奉行樣ヘ被ㇾ仰遣ㇾ旦那寺ニ於テ取オキ候者ノ悴、本人同然ノ者ニ御坐候、死體番人付オキ御註進申上候、右何兵衛儀宗旨ハ何宗何郡何村何寺旦那ニ御座候、以上

年　月　日

其國其郡其村
名　主
名

組頭

名

何兵衛悴

名

同人弟

名

何氏様　御役所

檢使手代へ取候寺院村役人證文之事

一　註進書同文言、病死仕候者悴何兵衛本人同然ノ者ニ御座候所、死體䰟詰被ニ仰付一、名主組頭并親類五人組拙僧立合預置申候、重テ被ニ仰付一次第取置可レ仕候、爲ニ後日一仍如レ件

年　月　日

何國何郡何村

何宗

何寺

何ノ誰様御手代

何ノ誰殿

一　前文同斷、取置ノ者忰本人同然何兵衞ニテ御座候間註進申上候所、死體御改ノ上鹽詰被二仰付一拙僧ドモヘ御預被ㇾ成慥ニアヅカリ置申候、此者何宗何郡何村何寺旦那ニ紛無二御座一候、死體ノ儀御下知次第取置可ㇾ仕候、其肉損不ㇾ申樣相守可ㇾ申候、若不念ノ儀御座候バ、此連印ノ者ドモ何樣ノ曲事ニテモ可ㇾ被二仰付一候、爲二後日一證文依如ㇾ件

何國何郡何村

年　月　日

何兵衞忰

同人弟　何右衞門

何助

五人組

組頭

名主

當所前同斷

貞享年中御觸書

一　前々切支丹宗門ノ儀ニテ、本人於ㇾ有ㇾ之ハ、何年以前何方ニテ僉議有ㇾ之候テ、幾年以前轉宗門ノ者ニテ候ヘ共、右宗旨ヲ依二訴人仕候一其科御免被ㇾ成在所ヘ罷歸居候乎、其故委細ニ書附可ㇾ被ㇾ申候事

一　轉候前ニ切支丹ノ者有レ之、只今マデモ預ニ差置候乎、又ハ何ニテモ面々職ヲ仕罷在候乎、其故一人宛別モ委細書付可レ被レ申事

一　最初切支丹ニテ轉不レ申以前ノ子ハ、男女トモ本人同然ノ儀ニ候間、本人ノ内ヘ書入可レ被レ申候、其以後ノ子ハ親族ノ内ヘ書入可レ被レ申事

一　前々切支丹轉候以後、旦那寺有レ之何宗ニテ、常々寺ヘ參リ候乎、其寺ヘ附屆常ノ樣ニ仕候乎、珠數等ヲ持父母ノ忌日ニ寺ヘモ參リ候乎、持佛ナドモ構ヘ香華ヲモ備ヘ候乎、其赴旦那寺得ト吟味イタシ、又下人等ヲモ召仕候者ニ有レ之候ヘバ、其下人マデモ念入可レ被レ致ニ吟味一事

一　切支丹ノ儀ハ不レ及レ申、宗門疑敷者於レ有レ之ハ、御料ハ御代官私領ハ地頭ヨリ可レ訴レ之候、勿論切支丹奉行ヘ早々可ニ申出一候、品ニヨリ急度御褒美可レ被レ下候、同類タリトモ其罪ヲ免シ、仇ヲ不レ成樣ニ可レ被ニ仰付一候、若隱置後日顯ルヽニ於ハ曲事可レ爲事

一　類族ノ者急掛リ候親類吟味有レ之、書付取可レ被レ申候、此外不レ及ニ書付一、尤親類等マデ他國ヘ放遣候儀可レ爲ニ無用一候、參リ不レ申シテ不レ叶儀有レ之ニ於ハ、切支丹子孫由所ヘ申トヾケ、御料ハ御代官私領ハ地頭ヘ可ニ相達一候、何年過候トモ其赴切支丹奉行ヘモ申達、帳面ヲモ書直候樣可レ仕事

一　前々キリシタン宗門ノ者果候ヘバ、死體ハ鹽詰ニイタシ差置、右奉行ノ差圖次第ニ可レ仕事

一　類族ノ者果候ヘバ、死體等吟味ノ上別條無レ之ハ、旦那寺ニテ取オキ、其赴キ帳面ニ記シ、毎年

七月十二月兩度右奉行へ差出。帳面ヲ除可ㇾ申事

右之趣早速相改帳面ニ記シ、キリシタン奉行へ可ニ差出一、帳面奥書ノ儀ハ、奉行中ヨリ前々ヨリ右宗門ノ者無ㇾ之方ヘモ心得ノ爲相觸候間、可ㇾ被ㇾ得ニ其意一候、以上

貞享四卯年六月

一　宗門改證文

例年七月ヨリ十一月切ニ可ニ差出一之候、但延引ノ子細有ㇾ之テ、十二月ニモ可ㇾ被ニ請取一候、年ヲ越候テハ不ㇾ可ㇾ有ニ請取一事、尤案紙引合可ㇾ被ニ請取一事

一　本人並本人同前伺ハ書判

一　同取置證文ハ書判印形

一　本人病死ノ節鹽詰ニ致シオキ、番人付オキ候儀ニテ、菩提所ノ墓所ナドニ、假ニ埋オキ相伺候事

一　本人類族ニ不ㇾ限、不圖他所へ罷越相果候節ハ、其所へ葬リ本領へ引取申儀ニテハ無ㇾ之候、證文ハ本領ヨリ出シ可ㇾ被ㇾ申候事

一　父キリシタン宗門不轉以前ノ子ハ、男女トモ本人ニ準ジ候、其改ハキリシタンノ子ハ、出生ノ節子細有ㇾ之テ行跡不當成時、轉ザル以前ノ子ヲ以テ、ホン人同然トス、忘掛リ其外トモホン人ニ準ジ、病死ノ節即時ニ檢使差ツカハシ、死體相改鹽詰取置ノ儀、伺ノ上差圖ニ任セ、葬リノ證文差出候節、

右屆證文引替候事

一　類族出生ノ者屆

但此トヾケハ、口上書ニテ判形無、二季ニトヾケベキヤト尋ラレタルニ、五人三人ニカギラズ留置、斷リ申越サレ尤ニ候、斷リヨリ前ニ病死致候ヘバトヾケニ不ㇾ及候、一人出生ニテカギリノ月ヲ越候ハヽ、一人ニテモ御斷、尤モ數五人三人モカギリタルニモ無ㇾ之ハ、御帳面ニ書ノセ候樣ニ答ラレ候

親類

七月十二月兩度ノ屆

變死ニテ無ㇾ之變死ノ者有ㇾ之時ハ、當座ノトヾケ書判印形ニハ、自然判形無ㇾ之候ヘバ、兩度ノトヾケニカキ入尤ニ候

一　本人又ハ親族、昔ヨリ他領住居ノ者ハ、其地頭ヘ付屆仕候ヤト伺ノ答ニ、前々ヨリ申入候通リ、以前ヨリ他領類族或ハ本人ニテモ、其地頭ヘ付トヾケニ不ㇾ及候、但類族ヲ以內々通ジ可ㇾ被ㇾ置事

一　キリシタン本人、並本人同前ノ者、忌掛リノ者ハ不ㇾ殘類族ニ成事　附　舅姑婿嫁モ同斷ニ相成候事

父宗門不轉以前ニ出生ノ男女トモニ、本人同然ニ相成候事、以上

巳十一月九日

一　本人並本人同然ノ者ヨリ玄孫マデ、類ゾク出ル也、尤伯叔父母甥姪從弟マデ右ニ出ル也、緣者ハ

本人同然ノ者婚嫁舅姑マデ出ル也、但女ハ本人同然ヨリ孫限リ類ゾクヲ離ル、勿論孫ヨリ末ハ女子ノ
悴ルイゾクヲ離ル

一　領内住居持新緣ハ、領主可レ被二申付一候間、以後無判ノ由二季ニ可レ被レ出レ之、又他國へ住居ガへ
新緣ハ、前方ニ伺ヒ差圖ノ上被二申附一、書判ノ證文可レ被二差出一事

一　同變死當時ノ斷リニ候ヘドモ、無判ノ書ツケヲ以テ申聞ケラレ候カ、又二季病死斷リ證文ノ內へ
書付出サレ、尤兩判ノ事

一　他領住居ノ者ルイゾクノ元へ引取候事、二季ノ屆ニ候間、前田伊豫守ナリ淺野式部少輔へ相違候
例有レ之候事

一　類族死罪有レ之バ、死罪仰付ラル以後、兩判ノ證文ヲ以テ當時御斷可レ有レ之候、尤前方御斷ニ不レ及
候、本人並本人同然ノ者ハ格別タルベシ、然共手延ニハ相成難首尾ニ有レ之ニ於ハ其筋ノ譯ニヨルベシ

一　類族ト云ドモ、證文ノ書出シニ、本人ヲ書ノセ可レ申、尤帳アリトイヘドモ書物不レ具故也

一　葬ノ儀ハ土火葬トモニ記サスベシ、類族ハ何葬ニテモ勝手次第、何寺ニ取置候ト計リ可レ有事

一　同一季居亦ハ渡奉公人主人ノ名モ帳面ニ不二書出一者ハ、出スハリ度々不レ及レ斷、タトへ書出候ト
モ帳面ニ記スニ不レ及、譜代又ハ長年季居ナドモ、奉公果テ百姓カ又ハ町人ニ歸リ、居所極リ候節ハ、
二季無判ノコトソリ可レ有レ之、本帳引合居所未住所ナラバ、是ハ可二張紙一事

一養子裁絶類族ヲ離候ヘバ、兩判ノ證文離ザレバ、不レ及ニ判形一、尤二季共ニ屆也、離別ノ者同斷ノ事

一領内ニ本人有レ之、他領ノ類族其所ヘ訴佔ノ儀、巳年ヨリ堅ク無用ノ由定法也、向後彌其通ニハ本人同然ノ者ハ取置ノ品替、格別ノ事ニ候間、前方ヨリ急度ナク其類族ヲ以内證ニテ其旨可ニ通置一事

一類族帳差出サレ候以後、斷出類族ノ者有レ之、如何可レ致乎ト伺ガハレ候方有レ之候、人數多ニ於ハ外帳ニ記シ可ニ差出一候、人數少分ハ帳面張紙致サセ可レ申由可ニ申入一事

一本人並同然ノ旦那寺院名若改候ハヽ、二季ニ無判ノトヾケ書付ヲ以御トヾケ可レ有候、借屋ニテ住居ノ者家主名改モ同斷

一本人同然他領ニ於テ病死鹽詰ノ儀、其者ヲ以テ其所ニテ沙汰イタスベシ、尤付トヾケハ元ノ方ヨリ有レ之儀ニ候、勿論不レ及ニ檢使一、但奉行所ヨリ急度觸ワタサセル事ニ非ズ

一妻平人夫本人同然ノ妻ノ父母ハ類族ニ出ルヿ但本人同前タルニヨリ子供同然也離別ノ母モ出ル也

一死罪ノ類族死體寺ニテ葬候者斷書ニ不レ及取捨ベシ只今迄何國何郡何村旦那ノ由斷ハ書載ベキ事

一ルイゾク他領ヘ罷越、五ヶ月七ヶ月又ハ一ヶ年ホドモ罷アリ候テモ不レ苦事

一宗門ガヘ候儀不レ得ニ止事ニ子細アラバ、前方ニ伺テ差圖ノ上可ニ申付一事

一他領ニアル類族其一枚ヘ右ノ段相通申候節、先ニテ不ニ取合一候ヘバ、其段役人マデ可レ被ニ屆置一事

一本人同然ノ婿、平人ニテ妻死後或妾出生ノ子、ルイゾクヲハナレ候ヤ、父ハ右死ワカレ故、ルイ

ゾク離レズ、但妻存命ナレバ妾ノ子タリトモルイゾクタルベキ事

一　他領ルイゾク元帳不分明ニテ、元ヨリノトヾケ仕出難ニ於ハ、住居ノ方ヨリ別紙無判ノ書付ヲ以テ、諸事御斷可レ有レ之、尤他領ノルイゾク帳前廣ニ書附出シ、奥ガキ等元不分明ユヱ、向後諸事ノ御トヾケ、無判ノ書ツケヲ以テ、申ツカハシ候ハヾノコト書加ヘ可レ置事

一　江戸ニ於テ本人並ホン人同然ノ客病死仕候節、死體鹽詰ニ不レ仕シテハ、當時ナドハ如何ト伺ニテモ鹽詰マデモ無レ之由答フベキニヤ、其時ニ至リ了簡タルベキ事

享保十八巳年七月、作州久米北條郡油木村ニ住居ノルイゾク九右衛門病死ニ附、御トヾケ方木下伊賀守用人岡田八左衛門・中島彌一右衛門ニ問合候赴、左ノ通

一　右九右衛門獨身者ニテ御座候ニ付、以後御代官所ルイゾク及ニ斷絶一候、御トヾケノ儀如何

是ハ九右衛門一人ニテ御代官所類族斷絶ノ譯別紙ニ記シ同人死去ノ書附相添御出候樣ニトノ事ナリ

一　右九右衛門獨身ノ者ニ付、田畑山林屋敷等所持不レ仕借地致シ、建家ハ所ノ者立取ラセ住居致サセオキ候、少々所持ノ衣服農具等有レ之候バ、其寺ヘ遣シ度ヨシ所ノ者ヨリ相願候事

是ハ田畠山林屋敷ナドモ所持不レ仕、建家ハ所ヨリ立取セ衣服等モワヅカノ事勿論、此方ヨリ御カマヒ無レ之コトニ候、所ノ者トムラヒ料ニ寺ヘツカハシ度由願候事ニ候ヘバ、其通可ニ申付一事

一　二季御屆ノ節可ニ申上一事

是ハ類族一季御トヾケノハズ也、然レドモ御代官所替等ノ時ノ爲、又ハ御安心ノ爲ニ候間、何時成トモ被仰達可然段答有之候事、以上

享保年中被仰出候御書附之事

覺

一 類族ノ者只今マデハ遣放ニモ可相成候ヘドモ、追放申附候テモ不苦事

一 離別又ハ養子ノ儀ニ付、類族ヲハナレ候者ハ二季ニ兩判證文ヲ以可相トヾケ候變死死體缺落遁世ニハ、二季無判ノ書附ヲ以テ可相トヾケ事

右之通向後可被相届候、以上

申十一月

先達テ御觸有之候類族遣放トヾケノ儀、二季兩判ノ證文ヲ以テ御トヾケ有之ハズノ事

覺

一 切支丹本人同然ノ内出家ハ格べツタルノ間、向後相果候節不及伺、鹽詰ニ不仕土葬ニ成トモ火葬ニナリトモ勝手次第取置候テ、以後二季ノトヾケノ節可被申聞候事

一 本人並本人同然ノ者、出家ノ外ハタヾ今マデノ通リ鹽詰ニ仕、伺ノ上可任差圖事

一 類族ノ儀ハタヾ今マデノ通替リ無有事

戊閏五月

一　沙彌鉦打頭取計方之事

沙彌鉦打ノ類、宗旨ハ多分時宗ニテ、僧俗トモ本寺有レ之、其身モ百姓ヨリヨロシキ者ノ樣ニ心得、百姓ヨリハ穢多同然ノ者ト賤シムル故、度々出入ナド有リテ、御代官所ニ於テモ百姓ト違ヒ、沙彌ハ出家ナレバ、百姓ヨリ下ニモ取計ヒ難ク、其差別分リガタキ故、公事方ノ御役人ヘ内々ニテ承合タルニ、此類ハ元來百姓並ノ者ニ無レ之、百姓トエタトノ間位ノ者ナレドモ、沙彌ナド寺社奉行所ヘ出レバ、下條ニ上ル事モアリ、尤急度定格モ無レ之故、御代官ノ計ヒニハ其差ベツニ及バズ、此輩ハ元來百姓ヨリ輕キ者ト心得、總テノ取アツカヒハ百姓ニ並ニスルモ可レ然由ノ答也、御公儀御法會ノ時、九品宗ノ出家調經ニ出座アル時、御布施物ノ外ニ施行下サル由、總テ施行ハ乞食非人ニ下サル事也、左スレバ九品時宗ナド踊念佛モ修行スル宗旨ハ、他宗ト違ヒ物モラヒニ近キ者トミエタリ、其末々ニ御影堂屆折九品寺ノ茶セン賣等、俗體ニテ衣ヲ着スル輩、平人ヨリハ一等輕キ者ナレバ、カネタヽキナド又其下ニモ置ベキニテ、百姓トハ緣組ナドモセヌ外物ニ立置事也、先ハ役者河原者ト云ベキ者、格式ハ輕ケレドモ平日歷々ニ附會シテ、クラシ方豐カナル故、カルキ商人ヨリハ却テヨロシクミエ、其身モ高ク思ヒ、又小商人ノ方ヨリモ尊敬スレドモ、元來河原者ナレバ、素性ヲ糺ス時ハ平人ヨリ下ダル事言マデモナシ、然レドモ堺町役者モ町並商賣屆ナド出シ、奉公人ナド常々人ヲカヽヘ、役者トテ一通

リノ町人等、下輩ニ取アツカフ事モナラズ、大方常ノ問ヒ答ヘハ同ハイナリ、沙彌鉦打ノ類モ、右ノ心得ニテ取計ヒ然ルベシ、百姓トモ云立ル様ニ、役者鉦打等ノ者ヲヱタ同然ニ心得ル事不レ可レ有

一　武州埼玉郡西方村百姓ト、同村カネウチ山右衛門出入ノ節、平日ノ勤方相尋シ所、本寺遊行派淺草新寺町日輪寺ヨリ沙彌職被二差免一、鉦打修行ノ旨申ワタシ有レ之上ハ、旦那ノ極メモ無レ之候ヘドモ、村方ノ最寄カネウチ修行可レ仕儀ニ候ヘドモ、村方ノ最寄カネウチ平日農業計リ致シ、一向手ヌキ無ク其職勤メ候儀無レ之百姓罷在候旨相答候事

一　世俗ノ言傳ニ、鎌倉ノ右右大將家ノ由、長吏彈左衛門手下ノ者二十八座迚、種々ノ商人職人等有レ之、其内ニハ平人モ何程モ相見ユル、昔ノ定メハ穢多ノ下タリ共、種姓平人商賣柄家職、常時ニハ穢多同然ニ取計フハナラズ、已ニ公儀ニ於テモ、右二十八座ノ内平人ノ御取扱何ホドモアル故、昔ノ定メ當時ハ用ヒ難シトミヱタリ、然レドモ又昔彈左衛門ト座頭トノ出入アリ、二十八座ノ書付ハ證據ニナリテ、座頭マケタルヨシ、其實否分ラザルヨシ言傳、此儀實事ナラバ昔ノ定免ヲ不レ用ニモ非ズ

一　穢多非人引上之事　附　穢多非人歸住　同呼出方　同煙亡類納米金　長吏彈左衛門故由並享保年中同人ヨリ品々書上　鎌倉右大將家ヨリ彈左衛門ヘ賜ル御朱印　二十八座並鶴ヶ岡別當ヨリ由井長吏ヘ下文　非人頭車ノ善七故由　同品川松右衛門故由　古跡新地差別ノ事　付　寺社地殺生　寺院呼出ス事　付　寺院ノ出入差出方

穢多非人ヲ平人ニ引上ル事、非人ハ元來非人ノ血筋ト云事無レ之、平人零落シテ非人ニ落タル故、非人頭ヘ證文ヲ入立歸レバ平人ニ成ヨシ、エタハ元來其血スヂ別ナル者ニテ、身分ノ清メ方無レ之、平人ニハ不レ成旨、世俗言傳フルト云ドモ、御定法不ニ相知一世俗ノ言習ハシハ取用ヒ難シ、然ルニ明和二酉年、武州、榛澤郡新戎村エタ醫道功者ニテ、村甚調法也、然レドモエタニテハ急度晴テ療治成リ難キ故、平人ニ引上醫師ニ取立度ヨシ、村方ハ勿論近郷ヨリモ御代官所ヘ願ヒタルニ、最寄ノ非人頭差障申シ出入ノ様ニナリタリ、元來エタ非人引上作法分リ難キ故、御勘定奉行ヘ內意伺候ニ、長吏彈左衞門方ヘ相糺シ、同人ヨリ差出シタル書相渡ル、依レ之右ノ趣村方ヘ申ワタス、元來エタ非人種姓ノ者ヲ、何程願フモ平人ニハ引上難キ作法ニテ、右ノ者モ元來エタノ身ユヱ平人ニハ成ザル也、以後エタ非人引上候事等有レ之ハ此例ヲ可レ用也

彈左衞門ヨリ奉行所ヘ差出タル證文之事

全體非人素性ノ者ハ、白人ニハ不レ仕、昔ヨリノ作法ニテ御座候、尤白人ヨリ一旦非人ニ相成候者モ、十ケ年不ニ相立一內ハ、其者ノ緣者ヨリ引上申度段、右小屋ヘ申キタリ候節、其赴非人頭ドモヨリ私ドモ方ヘ申出候間、證文ヲ取白人ニ致シ候様申付候、勿論十ケ年相過候者ハ、白人ニハ不レ仕作法ニ御座候、然ドモ非人ヨリ白人ニ罷成候儀ハ、出世ニ御座候間、近年ハ久敷非人ニテ候トモ、其者ノ緣者ヨリ引上申度段、非人頭ドモヘ相願候ヘバ、一應右作法ノ趣申聞、尙頻ニ引上申度段申

候ヘバ、證文取爲二引上一候ヘドモ、前書ニ申上候通、非人素性ノ者ハ白人ニハ不レ仕作法ニ御座候

右ノ趣御尋ニ付、乍レ恐以二書付一奉二申上一、以上

淺草　彈左衛門　印

酉五月四日

一　穢多非人缺落致シ、村方ヨリ訴出タル時ハ、御代官闕置ニハ難レ成、百姓缺落同樣奉行所ヘ申達候事也、依レ之歸住モ同然也、近年武州播羅郡日向村ニ罷在候、非人門助悴龜十郎欠落イタシ、永尋ノ上舊離帳外先支配ニテ承合候所、其後立歸タルユヱ歸住爲レ致度旨門助願出候ヨシ、村役人ドモネガヒ出候ニ附、奉行所ヘ相伺候所、龜十郎儀一旦家出致シ候段不屆ニ付、急度御呵リ可レ被レ置所、ヱタノ儀ニ付其最寄ヱタ頭ドモヘ右ノ趣申シ渡シ、證文ヲトリ可二差出一旨御下知相濟タリ、以來ヱタ非人カケオチ歸住等、村方ヨリ訴ヘ出ル時、右ノ心得ニテ取計フベシ

一　穢多非人類吟味事カ、其外何品ニテモ呼出ノ節、役所ヨリ直ニハ差紙等不レ遣、其所ノ村役人召ツレ可二罷出一旨申遣シ、白沙ヘ入ル時百姓ヲ筵ノ上ニ置ケバ、右ノ者ハ砂利ノ上ナリ、百姓砂利ノ上ナラバ、後ノ方ヘ引下ゲ差別分リ候樣ニ差置、其外ノ取計ヒハ替ル事ナシ、尤可レ取レ書附等モ申口ノ趣相記シ、奥ニ村役人聞書ニシテ、村役人ノ印形取タル方ヨロシ、左レドモ大切ノ吟味等、ヱタ非人自身印形無テハ如何成、罪科等ニハ自身ノ印形ヲトルベシ、一ト通タヅネ事ナド、彼者ドモ申上候赴一同罷出承知仕、相違無レ之趣村役人奥書ニ印形トリテ濟事也

穢多非人煙亡ノ類、納米金ノ儀、持高年貢ハケガレタル者ユヱ米納ニイタサズ、前々石代金納ニ成來リ候所、享保十九寅年ヨリ米納モ不レ苦、村並ニ米金ニテ可ニ相納一旨被ニ仰渡一、則御書付如レ左

覺

穢多煙亡持高御年貢、近年金納ニ成所、當寅年ヨリ米金ニテ納候ハスニ候間、外村並ニ諸役掛リ物ノ儀、當寅年ヨリ取立可レ被レ申候、以上

享保十九寅年四月

一　長吏彈左衛門由緒之事

有德院樣御代諸事御改糺ノ節、享保四亥年三月、中山出雲守。大岡越前守ヨリ相尋候ニ付、彈左衛門所持致候昔ヨリノ證文等差出、委細書付ヲ以申上候、又同人ノ先祖ノ儀官鑑秘鑒等ニ書記シ有レ之候儀爰ニ記スト云ヘドモ、彈左衛門ヨリノ故由書ニハ不ニ書出一故、虛實計リ難ケレドモ、彼者方ニテモ言傳ヘノミ、證據書物無レ之儀ヲ公儀ヘ書上ル事ヲ恐レ、先祖攝津國ヨリ鎌倉ヘ下リシト計リ書出タル儀ニモ可レ有レ之乎、彼先祖唐人タル事ハ書ニモミエズ、世俗ノ專ラ言傳フル事ナレバ、實事ニモ有ベキヤ、依テココニ記シ置者也

一　此者ノ先祖ハ唐土宋朝ニアリ、本朝七十四代鳥羽院ノ御宇、大永ノコロ、唐土ノ者日本ヘワタル、此者先祖ハ昔秦ノ國ノ者ナル故、日本ニテ秦ノ字ヲ姓ニ用ヒ、左衛門尉秦武虎ト名乘、萬夫不當

ノ強勇タリ、此ゴロノ武將但馬守平正盛ニ屬シ、屢武功ヲ顯シケル故、正盛モ又タノモシク思ヒ、専ラ戰場ノ事ヲモ任セケリ、正盛ノ娘ニ深ク心ヲ掛テ婚姻ノ事ヲオモヘドモ、主從ニヒトシキ中ナレバ父ノ許スベキニモ非ズ、所詮密ニ盗出サント計リシヲ、正盛聞知リテ武虎ヲ討手ノ評議アルヲ聞テ、所詮敵對シガタキ事ヲ知リ、夜ニ紛レ落ウセケレドモ、正モリノ威勢天下ニ高ク、上方筋ニハ忍ベキ所モナク、關東ハ源家ノ領國タル故、乞人ノ姿ト成テ關東ヘ下リ、鎌倉ニ住テ其難ヲノガル、斯テ年月オシウツリ、正モリモ卒シタレドモ、運拙ク一日タリトモ乞兒ト成ハ、再ビ平人ノ交リモ成ガタク、子孫トモ零落セリ、斯ル故由ヲ頼朝公聞召テ、鎌倉草創ノ時關東長吏ノ首領トシテ、二十八座ノ品ヲ定メ玉ヒ判物ヲアタヘラレ、長ク天下ノ乞兒頭タルベシト命ジ玉ヒシト云傳ヘタリ

乍レ恐以ニ書附一御願申上候

三御番所様ヘ罷上リ候格式役ノ者ト、私道ニマカリ成候儀ハ、渡邊大隅守様・村越長門守様御代相勤候、彈左衛門病身ニ付名代ニテ相勤候砌、段々不身上故、平日御用ノ節ハ召仕連申儀モ、名代ノ者誤リ來、略儀ニ仕候儀ニ御坐候、此儀自然ノ格式ノ様ニマカリ成申候、昔ヨリ大御老中様方奉レ始、諸御奉行様ヘ刀上下ニテ今以相勤候、御番所様ハ平日御用多御坐候故、自然略儀ニ仕候所、只今格式ノ様ニ相成候儀ハ、私方ヨリ誤リ來候儀ニ御坐候、此度奉ニ願上一候ハ、只今マデノ者差出御伺仕候儀モ、向後私直ニ相勤可レ申候間、何卒古來ノ通御門内マデ刀ニテ出勤仕候様、被レ爲ニ仰付一

被レ下候ハバ難レ有仕合可レ奉レ存候、以上

享保四亥年二月　　淺草　彈左衛門　印

右愁訴致タル故、奉行討議ノ上、從來ヨリノ舊家タルニ依テ、同月二十六日坪內能登守・小原六左衛門・中山出雲守組阿部彦太夫・大岡越前守組植竹藤右衛門三人ヲ以テ、彈左衛門儀御番所マデ帶刀ノ儀、奉行了簡ヲ以テ御免ノ旨申渡ス、尤上下着用ノ儀ハ無用ノ段、且美服用ヒ間敷旨申ワタス

但當時ハ上下着用致候

覺

一　私先祖攝津國池田ヨリ、鎌倉ヘ下リ相勤候所、長吏以下ノ者強勢タリト雖、私先祖ニ支配被ニ仰付一候

一　從ニ賴朝公一長吏以下支配可レ仕旨御證文、鎌倉八幡宮ヘ奉納ノ旨申候ヘドモ分明無ニ御座一候、然ドモ其證文ノ內、長吏ドモ御尋申儀御座候間、別當ヘ申達書拔寫貰、別當判形御座候ヘバ奉納ト相聞エ申候、往古ヨリ今ニ於テ同八幡宮御祭禮御神輿先立御供奉長吏仕候、京都男山八幡宮御祭禮モ、其所ノ長吏同斷相勤、其外御祭禮ニモ同供奉仕候所ニ御座候

一　禁中樣御召繭金剛、大和國長吏差上、御扶持物頂戴仕、幷御花畑ノ掃除長吏等仕、小法師ト申者八軒ニテ相勤、御扶持頂戴仕、其上樣々拜領物御座候ト承及申候

一　京都二條御城掃除、同所長吏下村庄助地方ニテ百五十石頂戴仕其上紺屋ノウハマヘ取申候、支配ノ長吏モ有レ之、御城同斷ノ役或ハ牢守相勤候者モ御座候

一　關東御入國ノ御時、私先祖武藏國府中マデ罷出、鎌倉時代ヨリ段々相勤候趣奉ニ申上一候ヘバ、御役並長吏以下支ハイ被レ爲ニ仰付一、其以後小田原北條氏直公御證文ヲ以テ、其所ノ長リ太郎左衛門長リ以下ノ支ハイ奉レ願候ヘドモ、無ニ御取上一其御證文被ニ召上一私先祖ヘ被ニ下置一候、其後元祿五申年、上州下新田村馬右衛門ト申者、長リト穢多ノ論仕、甲斐國武田信玄公御證文御評定所ヘ奉ニ差上一支ハイ可レ離ト公事仕候所、私祖父申上候ハ、古來ヨリ穢多ト申儀世話ニテ昔ノ御證文等ニハ長リト被レ遊候、或ハ御當家樣ニ於ハ、革作彈左衛門ト御書出被レ下置一候、其外書類モ于レ今所持仕候、依テ私祖父申分相立、右御證文御評定所ヘ被ニ召上一、私祖父ヘ被レ下、急度御仕置ノ上如ニ前々一支ハイ被レ爲ニ仰付一候

一　御入國ノ御時、御馬足痛沓摺革被レ爲ニ仰付一、且御祈禱トシテ猿引御尋ノ上、私先代支配ノ猿引メシツレ罷出候ヘバ、病馬快氣仕候、依テ爲ニ御褒美一鳥目頂戴仕候、其爲ニ引例一每年正月十一日御城樣御馬屋ヨリ御判頂戴仕、御臺所ニテ御酒イタヾキ候、中古ヨリ西御丸下御馬屋ヨリ御米鳥目等只今ニ至リ頂戴仕候

同斷ノ御時ノ格式ニテ、只今ニ至マデ御老中樣諸御役人樣ヘ相勤候節、私上下着用仕、組頭袴羽織帶

刀仕今マデ相勤來申候

一　所々御關所私支ハイノ女通リ申儀ハ、昔ヨリ直ニ御留主居樣ヘ申上、私一判ニテ通リ御手形頂戴仕候

一　私所持仕候代々ノ印形、濃州青野ケ原御合戰ノ時、首帳面ニ記シ候首、先祖ヘ御預リノ筋、集房ト申文字ノ判爲ニ割符ニ被二下置一候、其節ハ其マヽニ其判ヲ用ヒ候ヘドモ、其後ハ大切ニ仕廻置、別ニ集房ト申文字ニテ、判ニ大小相仕立仕候

一　九十七八年以前、御城樣御臺所ヘ召出サレ、燈心細工候節ハ御扶持頂戴仕候

一　時々御大鼓、御陣太鼓並ニ御陣御用ノ皮細工入用ハ下置レ、細工ノ儀ハ御役目ニ仕リ、ケ樣ノ時ハ御傳馬申請候儀ハ、御書付御座候

一　御役目相勤候儀ハ、御馬屋ヘ御用次第絆綱差上申候、並武藏國府中並下總國小倉村ノ御馬屋ヘモ、絆綱差上申候

一　御仕置一件ノ御役相勤申候

一　六十年程以前、石谷將監樣・神宅備前守樣ヨリ武州鴻巣宿ニ磔三人被レ行候節、御評定所ニテ被仰附レ御達書被二下置一、檢使マデ私先祖ニ被レ爲レ仰候間、御傳馬被レ下供鎗持セ御役相勤能歸申候

一　御公儀樣ヨリ頂戴仕候物ハ、堀越式部少輔樣ヨリ私先祖ヘ内御證文被レ下候

一 午未年飢饉ノ節、岩付町ノ御闕所物被ニ下置一候

一 大火ノ時御金御米被レ下候

一 丸橋忠彌品川ニテ磔ノ時ハ、場所ニ於テ石谷將監様ヨリ金子下シ置レ候

一 丹羽遠江守様ヨリ尋物仰付ラレ候間、兩三度召捕差上候ヘバ、爲ニ御褒美一金子下サレ候

一 下坂ト申傳候鎗一本、銘島田義祐ト御座候、外磔鎗一本下置レ候ヘドモ、一本ニテハ手支申候間、神尾備前守様御代ニ申上候ヘバ、兩御番所サマヨリ朱鎗ノ内下坂一本ヅヽ下サレ候

一 私支配在々長吏ハ、無年貢田地或ハ屋敷計リ無年貢ニテ、田地ハ年貢差上候者數多御坐候、御水帳竝一村ノ御年貢頂戴仕候者モ御座候

右之通御尋被レ遊候ニ付、奉ニ申上一候、以上

享保四亥年三月　　　淺草彈左衛門　印

一 頼朝公御朱印ノ寫

鎌倉長吏彈左衛門ヘ與レ之

長吏　座頭　舞々　猿樂　陰陽師

壁塗　土偶作　鑄物師　辻目暗　猿引

鉢扣　弦差　石切　土器師　放下師

笠縫　渡守　山守　青屋　坪立
筆結　疊師　關守　鉦打　獅子舞
簔作　傀儡師　傾城屋

右ノ外ノ者數多雖レ有レ之、是皆長吏ハ其上タルベシ、此內盜賊ノ輩ハ長吏トシテ刑罰可レ行レ之、湯屋風呂屋ハ傾城屋ノ下タルベシ、人形舞シハ二十八番ノ下タルベシ

治承四庚子九月日

賴朝公ノ御判

此右大將家ノ下文、本紙鎌倉鶴ヶ岡ニ奉納ト申傳、虛實不分明ノ由、並ニ別當方ニテウツシモラヒタル旨、彈左衛門書上ニ見ユレバ、實事ニモ可レ有レ之乎、去ナガラ治承四年ハ賴朝公伊豆國ニ義兵ヲ起シ玉ヒシ年ニテ、未ダ平家ハ亡ズ、亂世ノ始リナレバ、長吏等ノ支配ヲ仰付ラルヽ事甚不審也、又下文ノ字體モ慥ナラズ、恐ラクハ後人附會ノ說ニテモアランカ

賴朝公御黑印

長吏職員
法名
利阿

南代官　四郎兵衞

同　太郎兵衞

上內　五郎兵衞

右任ニ右大將家御判之旨一、相摸國鎌倉由井長吏賴久今利阿、東八ヶ國長吏可ニ進退一者也、仍而被御文書雖ㇾ奉ニ鶴岡御寶殿籠一、利阿深歎仰上直下シ畢、個爲ニ此同類一山內彥左衞門賴助・藤澤七郎左衞門賴通、何レモ八幡宮掃除以下役無ニ懈怠一可ニ相勤一狀如ㇾ件

大永二年未三月廿三日　鶴岡少別當

法眼良融判

下鎌倉由井長吏　賴久　法名利阿

右賴朝卿御判、於ニ鶴岡一申請ル時ノ官途也

御傳馬一疋、自ニ江戸一小田原迄無ニ相違一可ㇾ被ㇾ立候、鹿毛皮白革ニ抂ㇾ成候、御用ニ參ル者也、仍如ㇾ件

辰二月

青常陸判
內修理判
大石見判
長谷七左判
伊備前判

江戶
品川
神奈川
程ケ谷
藤澤
平塚
大磯
小田原迄

今度御陣爲御用板目革入申候間、方々へノ相尋矢部掃部殿へ可被相渡候、革參着次第代物ノ儀相渡可申候、爲其如此候、以上

五月十七日

內藤修理清道判

彈左衛門殿

尙々爲二御用一板目被二仰付一候間、可レ被レ入レ精候、以上

右之外武田信玄・北條氏直等ヨリノ證文下シ狀、其外御當家ノ下シ狀傳馬觸等數通有レ之ト雖略レ之、其一二ヲ擧テ記シ置者也

覺

一　此度私由緒御尋ニ付、先達差上置候古證文等ノ寫、竝由緒書一通差上候、其刻上候鎌倉太郎左衛門へ預置候書物、御差圖ハ無二御座一候得共、手下ノ儀勿論預置候得ドモ、所持仕候モ同樣ニ御座候間、爲二取寄一申候ニ付、御披見ノ上御書留奉レ願候、關八州私手下ノ者ドモ、國主領主ノ御朱印御墨附數通所持仕候間、御探題ノ上段々差上度奉レ存候

一　北條時頼公ノ時、於二由井濱一日蓮上人御刑罰ノ節、私先祖召連罷出候役ノ者ノ內、日蓮上人ヲ勞ハリ候ヘバ、眞筆法華經五ノ卷一卷被レ致二附屬一テ、于レ今私所持仕候、此儀ニ附緣起等有レ之候

一　御上洛ノセツハ、攝津國河邊郡池田領火打村長吏八左衛門・太兵衛ニ申ツケ、御絆綱差上諸事革類御用相勤申候、古來ノ御書附、御馬屋御別當、西御丸下諏訪部惣左衛門樣御請トリ所持仕候、御代替ノ節ハ罷下リ御馬屋へ御目見ニ召連罷登申候、幷ニ御上洛ノ於二御道筋一革類御川仰附サセラレ候時ハ、支配ノ外迄モ其邊ノ長吏トモへ私下知仕勤申候

一　先年日光御社參ノ砌、猿引召出サセラレ、御泊ニテ御上覽遊バサセラレ候刻、下ノ猿引十二人召連相勤申候此セツ御扶持頂戴仕、伊奈半左衛門樣ヨリ奉ニ請取一候、御上覽ノ上御持扇頂戴仕、今以テ所持仕候

右書上ノ由緒書御帳面ニ御書加奉ニ願上一候

享保十巳年九月　淺草彈左衛門

右書付追テ差上御書加ニナル

御役目相勤候覺

一　御入國以來西御丸御馬屋へ、今以御絆綱御用次第ニ差上申候

一　御陣太鼓御用次第張上申候

一　皮細御用ノ時何ニテモ差上相勤申候

一　御尋者ノ御用在邊ニ不レ限仰付サセラレ次第相勤メ申候

一　御牢屋敷燒失ノセツ、囚人脇へ御移シ遊バサセラレ候セツ、外側へ晝夜番人大勢差出申候

一　御召ノ斃馬埋申候人足差出申候

一　御旅行ノセツ、木戸々々へ杖突人足大勢サシ出相勉申候

一　御仕置者御役一件相勤申候

一　同御傳馬役相勤申候

一　御入用ノ諸色買上相勤申候

一　關八州惣支配ノ出入等、私方ニテ裁許仕候

一　御公儀樣ヘサシ出候出入ノ儀、平日支配仕候者ノ外ニテモ、御當地ヘ罷リ上リ候出入ノセツハ、私方ニ仰附サセラレ諸事サシ引仕候

右之通從二往古一相勤申候、以上

享保十巳年九月　　　淺草　彈左衛門

一　非人頭車善七由緒ノ儀ニモ、享保年中御糺ノセツハ同人ヨリ書上候ヘドモ、先祖ノ氏性歷然タリト雖、證據ノ書物無レ之難二書上一故不二書出一ヤ、又自身ニモ其由緒實ニ不レ知ニヤ、明暦ノ頃ヨリ御用被二仰付一、其後溜地等被レ下品々御奉公相勤候事ノミ、享保十巳年八月三日、町奉行中山出雲守・大岡越前守ヘ書上及二言上一タル趣、略左ニ記ス、又官鑰祕鑑ニ善七家筋ヲ委ク記シアリ、然レドモ御糺ノ砌同人ヨリ書出サゞレバ、虛實ハ不分明トイヘドモ、先祖一旦御當家ヲ恨奉リシ儀ニ付、中立ルコトヲ恐レテ先祖ノ氏姓ヲアラハサズ、御用相勤タル事ノミ態ト書上タルニヤ、其程難レ計ケレバ善七不二書上一儀ハ、虛談トモ雖レ極ニ附、江都官鑰祕鑑ニ由緒ヲ著シアル趣、世俗ノ中傳ト符合スル故ニ、今爰ニ記シ置モノ也

車善七由緒ハ、慶長ノ頃佐竹常陸介義宣ノ家老、車野丹波守ハ石田三成ニ組シ、主人義宣ヲ勸メ御當家ニ叛カシメ、關ヶ原裏切ノ事ヲ勸メシニ、義宣疑惑シテ不レ決、兩端ヲ見合スル内、關東方勝利トナルニツキ、義宣ハ降ヲ乞、御當家ニ仕ヘ奉リシニ、丹波守ガ虐意ヲ御憤リ、深ク被二召捕一磔ニ行ハレケリ、然ルニ一子善七郎父ノ讐ヲ深ク恨ミ、何卒大神君ヲ殺シ奉ント、數年來心懸ヶ庭作リト變ジテ、江城ノ御庭ニ立入、折ヲ窺ヒシニ、或時神祖御庭ヘ入ラセラレ、能折柄ト善七郎ネラヒ寄テ、御顏ヲ目懸持タル木剪ヲ打ツケタルニ、御前ヨリ三尺計モ前ニ落テ當ラズ、御近習ノ面々大ニ驚キ、忽チ捕ヘ切殺サントシケルヲ、神祖ハ制シ給ヒ下郎何トテ我ニウラミアラン、誤リテトリ落シ我前ニ落タルモノ也ト御咎モナカリシカバ、危キ命ヲ遁レタリ、其後モ御庭ヘ忍入テヒタスラネラヒケレドモ、弑スル折モナク、空ク月日ヲ過ケル處、或夜閑所ヘ入ラセラルヽ所ヲバ害シ奉ラント、立石ノ影ニカクレ居心懸ケシカドモ、大勢附添御燭臺キラメキ、容易ニ出ガタク見合スル内、御小性ヘ被レ命イブカシヤ、忍ノ者アラン改メ見ヨト上意ニテ、御庭ヲカシコヽト搜シケルニ、善七郎今ハ遁ルヽ方ナク、一太刀ウラミ奉ラント、カハヤノ方ヘ飛出シ、御前ヲ目懸ケ飛カヽルヲ、有合面々ニ搦捕タリ、直ニ御小性衆ヲ以テ御糺明アルニ、善七郎今ハツヽムベキ樣ナク丹波守ガ子父ノ讎ヲ報イ奉ラント、年來心懸ケシニ、運命拙ク本望ヲモ不レ達被二召捕一タリ今ハ死ヲ絶ベキ旨アリ、タマ〳〵白狀シケルニ、其孝義勇壯ヲ感ジ玉ヒ、一命ヲ助ケラレ、古主佐竹ニ仕ヘ忠義ヲ盡スベシトノ嚴命ナルニ、善七郎

ノ申上ケルハ、父ノ讎ハ俱不戴天、嚴命ナレバトテ助命成シ下サレ、武名ヲ立ルニ忍ンヤ、死ヲ給ハズンバ自殺セント申ケルニ、神君甚ハダ怒ラセ、予ガ令ヲ拒ハ汝ガ九族ヲ市ニ切ラント仰ケレバ、善七郎恐入、孝ヲ立ントスレバ存在ノ母ガ命ヲ落サントスル、又是不孝ノ甚シキナリ、此上ハ君ノ御仁慈ニ隨ヒ奉リ、イカデ背キ奉ン、サリナガラ一度害シ奉ラント計リシ、我活命シテ人中ニ交リ難ケレバ、人界ヲ辭シテ永ク乞児癩從ノ群ニ入リ、生涯ヲ送ラント願ケレバ、神君大ニ其志ヲ憐ミ給ヒ、乞丐ノ首領ニ成セラレタリ、夫ヨリ非人頭トナリテ、于レ今連綿ス

一　明暦三酉年大火事、燒死人九千七百三十七人ノ取片付、彈左衛門方ヨリ申渡、人足三千二百八十五人、善七ヨリ差出、其後種々御用被ニ仰付ハ、度々人足差出相勤ル、元祿十二卯年七月十一日、松平兵部少輔揚畑屋敷二十間ニ四十五間溜敷地ニ下サレ、一ノ溜三間梁二十間、二ノ溜三間梁二十間、善七自分入用ヲ以テ取立ル、同年同月十六日、保田越前守申渡、御預ケ無宿者男一人一日米二合、女一人一合五勺、十歳以下男女一日一合二勺五才ヅヽ、溜御扶持方相定リ、善七方ヘ相渡ル、同年九月八日ヨリ辰十二月晦日迄、溜藥代金三百二十四兩一分銀九匁九釐相渡ル

一　其以後溜破損ノ節ハ、御修覆金遣度々善七方ヨリ町奉行ヘ願出レバ、御吟味ノ上被レ下レ之、溜ニ敷疊代モコレヲ下サルヽ

右ハ享保十巳年八月、町奉行中山出雲守・大岡越前守ヘ善七ヨリ書上候内書ヌキ、右ノ外御藥園人足

出火缺ツケ人足、或ハ捕者御用等仰附ラレ、例書數ヶ條有レ之故略レ之、其一二ヲ擧テ記置モノ也

一　品川松右衛門家筋ハ、前同年御糺ノ時書上ニモ、最初貞享年中始テ御預物有レ之タルヨリ初リ、其後タメ地等下サレ、追々御用等勤シコトノミヲ記シ、先祖ノ家筋不ニ相知一、松右衛門元祖ハ知レズ、又世俗ノ說モ無レ之、元來乞丐ノ大臣ナルニヤ、其氏姓ヲ知ラズ

一　貞享四卯年九月廿六日、御代官井戸新右衛門支配所ノ四人同人方へ可ニ差置一所ナク、始テ松右衛門へアヅケ申付タリ、其後諸奉行所盜賊方ナドヨリモアヅケ有レ之、イツトナク善七ニ等シク溜同然ニ成リ、追々男女數百人ノ預リ下リ、松右衛門屋敷手狹ニツキ、元祿十三辰年七月十一日、町奉行松前伊豆守・保田越前守へ相願、松右衛門居小屋續へ溜地五百二十三坪被レ下レ之、溜家取立ル、最初ハ同人自分入用ヲ以取立タル所、同十五午年二月一日ノ大火ニ溜地類燒シ、兩御番所へ相願、三月八日普請金百兩下シオカレ、其餘ハ松右衛門入用ヲ以テ再溜トリ立ル、尤同十二年ヨリ溜御扶持米藥代等善七方同樣下サレ、右享保十巳年八月三日町奉行中山出雲守・大岡越前守へ、松右衛門書上品々御用相勉メタリシ趣キ書上ノ內、ソノ一二ヲ擧テ記オク者ナリ

一　前書穢多非人頭等ノ濫觴、地方ニ屬シタルコトニハアラズト雖、彼等ニツキテハ御年貢或ハ變事損馬等ノ儀ニ附、御代官所ニテ及ニ懸合一事間々有レ之故、彼トリ計方知ラズンバ有ベカラズ、仍テ其元ヲ糺シ記置者也

一　古跡新地差別之事　附寺社地殺生

古跡ハ寬永八辛未年ヨリ以前建候寺ヲ、古蹟ト云、古蹟竝ハ同年ヨリ寬文八戊申年迄、三十八年ノ間建立ノ寺ヲ新寺ト唱ヘ、古跡竝ナリ、其以後ノ寺ハ新地ナリ、右古蹟竝新地ノ差別ハ、元祿四辛未年御渡サレ、此年初メテ寺改役被ニ仰付一、元祿以後ハ新地建立堅ク御停止ニ成タリ、尤モ寬文以後ノ寺モ、願筋ノ譯格別ニ相立候ハ、古跡並被ニ仰付一事モ有

一　寺地寺號有來リノ所ニ、庵室建立古セキ願時、往古寺院有レ之節、先住俗ノ墳墓ニ二三代モ續有レ之カ、墓ハナクトモ往古ノ過去帳有レ之、本末ノ譯慥ニテ申立ノ譯分明ナレバ、今トテモ古セキノ願相立コトモ有レ之ナリ

一　寺社堂鳩御用ニ附、天明四年町奉行ヨリ寺社奉行ヘノ達書、左ノ通

此セツ御鷹餌鳥堂鳩入用ノ時ニ候處、大坂表ヨリ鳩荷物不レ致ニ參着一、別テ御用差支候間、前々餌鳥請負人トモヘ申渡扣書ノ通

上　野　　增上寺　　傳通院　　山　王　　愛　宕　　氷　川

右六ケ所ハ相除、其外寺社境內ニテ鳩取申度旨、請負人ドモ願出候、尤先規ノ通社塔廻リハ差除候ニ御坐候間、ガサツゲ間敷儀無レ之鳩殺生致候樣可ニ申附一候

右ノ通同所境內ヘ立入、殺生致候儀ニ御坐候間、申谷候儀モ有レ之候テハ差支ニ相成候ニ附、其筋々

へ仰渡サレ候樣仕度候

辰五月

山村信濃守

一　寺院呼出之事　附寺院出入差出方　同處ヨリ御料百姓直呼出　自身葬

支配所ノ寺院、御代官役所ヘヨビ出ノ儀、百姓ヘノ差紙ハ、若於ニ相背一ハ可レ爲ニ越度一者ナリト認事通例ニ付、寺院モ同樣ニ書可レ然ヤノ旨、其筋ヘ承合タル處、御代官ヨリ寺院ヨビ出シハ、可レ爲ニ越度一ノ文言ハ除キ可レ罷出一者ナリト計書、可レ然由挨拶有レ之、又手代廻村先ニテ吟味引合有レ之カ、或ハ御年貢等ノ儀ニ付、寺院ヨビ出シノ時遲參イタスカ、又ハ不束ノ返答ナド申越トモ、大概ノコトハ出家丈ケ其分ニモ可レ致ニ置一ナレドモ、不參致シ御用サシツカヘニナリ、支配人ヘ對シ不法ノ致方等有レ之ハ、縦御朱印地ノ寺院タリトモ、其分ニ難ニ捨置一急度可ニ相糺一儀トイヘドモ、其寺ヘ懸リ彼是取合トモ、有體不法ノ寺トテモ承知致間敷ニ附、不埒ノ始末御代官ヘ達、御勘定奉行ヘ申立、支配ヨリ寺社奉行所ヘ懸合候樣イタシ可レ然候、都テ出家社人等寺社奉行ヘヨビ出シ候時ハ、其格合ニテ疊ノ上ニモ上ゲ、又ハ椽ノ上ニモ被ニ差置一トモ、吟味ノ仕方ハ百姓ニ替ル事ナク、寺院トテ丁寧ノトリ扱ハ無レ之、併出家丈ケ少シハ言葉等心ヲツケル事モアリ、勿論吟味役人ノ身分ニモヨル事ナレバ、同ジ御用ナリトモ手代等ノトリアツカヒハ、先丁寧ノ方可レ然、サレドモ公事出入ハ格別ノ事ニツキ敢テ口上向ネ

ソゴロニトリアツカフ筋ニハ無レ之由ノ挨拶也

一　寺院ノ出入寺社奉行所ヘサシ出ス時、御代官ヨリ直ニサシ出候テハ宜シカラズ、御勘定奉行ヘ相伺、下知ノ上サシ出コトナリ、中山道深谷宿ノ寺出入サシ出シノ節、左ノ通

私御代官所、武州榛澤郡深谷宿一月寺派福正寺弟子春道ヲ、誰知行所同郡押切村金次郎方ニ隱シ置生死疑敷旨右福正寺願出候添翰ヲ以テ、月番ノ寺社奉行衆ヘ差出候筋ニ御座可レ有ヤ、トリ計ヒ方奉レ伺候、以上

月　日

右之通相伺候所、寺社奉行衆ヘ懸合ノ上、月番誰殿ヘ來ル幾日可ニ差出一由下知有レ之候事

一　御代官所ノ寺院奉行所ヘ願有レ之候時、支配所ヘ相願添狀ヲ以罷出候筋ノ處、イツノ頃ヨリカ支配ニ不レ構本寺ノ添簡計ニテ罷出、奉行所ニテモ共頓着ニ不レ及、訴狀取上吟味有レ之處、天明二寅年、左ノ通御觸ニ付、以來若添簡不ニ相願一者有レ之バ、申立可ニ相糺一事

是迄ハ寺院ノ出訴ハ、本寺觸頭ノソヘ簡ヲ以テ奉行所ヘ罷出、祠官ハソヘ簡無レ之罷出候トモ、以來ハ地頭有レ之寺院ハ、御代官領主地頭ト同斷、觸頭トノ兩ソヘ簡ヲモツテ出、社人ノ出訴ハ御代官領主地頭ノソヘ簡ニテ可ニ罷出一旨。寺社ヘ申フレ置候、御代官領主地頭ニテモ共由可レ被ニ相心得一候

右ノ通萬石以上以下ノ輩ヘ、不レ洩樣相フレラルベク候、以上

一　御代官所內寺院ノ出入ハ、吟味取掛ルセツ可ニ相屆一ヤノ旨、其筋ヘ承合候所、百姓ヨリ懸リタル出入ハトヾケニ不レ及、寺院ヨリ百姓ヘ懸リシ出入ノ一トホリトヾケ置キ、吟味トリ懸可レ然由、一體右ノ出訴ハ寺社奉行ヘ差出ニ可ニ相成一儀トイヘドモ、双方一支配內一領內ノ寺院ハ、先ヅ支配地頭ニテ一通吟味致シ、不ニ相濟一節差出ニ致ス方然ルベシ、尤支配內寺院ヨリ同所ヘ掛リタル出入ハ、支配役所ヘ願出タリトモ、不レ致ニ吟味一窺ヒノ上、寺社奉行所ヘ差出スベシ、奉行ニテモ月番手限ノ掛リニハ不ニ相成一內、寄合公事ニ成由ノ挨拶也

一　御料ノ百姓ヲ寺院ヨリ直呼出シニイタスコト有レ之、其支配役所ヘトヾケ無クバ決テ出間敷事ナリ、都テ御料ノ百姓ヲ役所ヘ無レ斷他ヨリ呼出儀ハ、縱堂上方ニテモ不ニ相成一事ナルニ、寺格宜シキ御朱印地抔ヨリ、度々直ヨビダシ致スモ有レ之、右等ノ儀有レ之バ、早速役處ヘ申出差圖ヲ請候樣兼テ村々ヘ申渡オキ訟候ハヾ、其段奉行所ヘ相窺候方可レ然ヨシ也、先年御代官所、奥州伊達郡五十津村百姓ヲ、羽州米澤林泉寺ヨリ直ヨビ出有レ之旨、村方ヨリ相達ニ付差留不ニ差出一處、林泉寺ヨリ領主役處ヘ申出、領主役人ヨリ掛合有レ之ニ附、御料百姓ヲ支配ヘ不ニ相達一寺院ヨリ直ニ呼出謂無レ之候、尋儀有レ之バ其筋ヘ申立候樣可レ被ニ仰渡一候、奉行所ヨリ申達無レ之內ハ、差出儀難レ成ヨシ返答ニ及候處、彼是懸合有レ之トモ終ニ不ニ差出一、夫ナリニ相濟タリ、又上州吾妻郡山田村百姓ヲ、右村善福寺本堂建

立ノ儀ニツキ、增上寺役僧ヨリ直ヨビ出呉候樣、他所ノ本寺ヨリ掛合有レ之バ、其ヨリ村方ヘ申渡サシ出ス所、寺格申立支配役所ヘモ無レ斷御料ノ百姓ヲ權柄ニヨビ出ス事アリテハ決テ不レ差出、其段御奉行所ヘ相トヾケベキ也、尤直ヨビ出タリトモ役所ヘ不ニ訴出一、村方得心ニテ罷出候類ハ、開流シニイタシオキ可レ然也

一 自身葬ノ儀、自分滅罪ノ免許受タリトモ、自分並惣領計ノ儀ニテ、妻二男三男娘等ハ檀那寺ニテ取オク儀定法ノ由、然レドモ旦那寺熟談ノ上、承知連印ニテ相願候バ、妻子迄自身葬ニ相成儀ト、其近例有レ之、如レ左

御代官所、上州利根郡下津村修驗三寶院儀、前々ヨリ自分並ニ弟子トモ手前滅罪イタシ、妻子ハ私領同郡月夜野邑眞言宗壽命院引導請來リタル所、川越ノ場所ニテサシツカヘ多ク、以來家內不レ殘自分葬ニ致シ、宗門帳ニモ壽命院印形除キ、自分一判ヲ以テサシ出度由、壽命院加印イタシ願出、御勘定奉行山村信濃守ヘ相伺、下知ノ趣左ノ通

御附紙　書面三寶院家內滅罪、並宗門帳自分印形ノ儀、雙方得心ノ上連印ヲ以相願上ハ願ノ通可レ被ニ申附一候、尤寺社奉行中ヘ懸合ノ上申達候、以上

寅四月

信濃印

一　社家修驗者前々ヨリ自分滅罪仕來リ候トモ、代替ノセツ本人又ハ吉田家白河家ヘ相願、許狀無レ之テハ不ニ相成一、其セツ支配役所ヘソヘ狀ヲガヒ出、旦那寺ヘ懸合相濟タルヤ得ト相糺シ、ソヘ簡可ニ相渡一先年旦那寺ヘ無沙汰ニテ取レ之、上京イタシ許狀相濟タルト、賴ミ寺ヨリ訟出社家モ役所モ無念ニナリタル事有ニ心得一ベキ事也

一　宮芝居幷辻駕籠廢止之事

江府宮芝居ハ、御入國以後御府內繁昌ニ隨ヒテ、堺町・葺屋町・木挽町ノ外、芝神明ニ宮芝居免許アリ、其後所々ノ社地ニ有レ之タル所、享保ノ始頃ヨリ宮戲場御停止ニナル、辻駕籠モ往古ハ無レ之所、元祿ノ末迄駕籠百挺免許ニ成、其比武士ハ格別、平人ハ老人・婦人・病人ノ外乘事ナラズ、其以後年曆立ニ隨ヒ、定數ノ制禁モユルマリ、イツトナク增長致シ、數百挺ノ駕籠トナレリ、卑賤ノ者迄乘樣ニナリタルニ付、是又享保ノ始員數ワヅカニ定マリ、其節二挺立ノ船ハ全ク御停止ニ成リタリ、然ルニ宮芝居駕籠二挺立ノ船等ニテ渡世致シ、妻子ヲ養ヒタルモノ幾千人トイフ事ナカリシニ、俄ニ相ヤミタルコトユヱ、下々ノ者渡世ニハナレ、饑渴ニセマリ、自然ト菰カムリ乞食等ニナリ、御府內及ニ困窮一盜賊ノ災モ間々有レ之ニ付、世上下々寬ニ可レ成存寄申上旨、同辰年評定所一坐ノ面々ヘ仰付サラレ、一統評議ノ上品々存寄モ有レ之內、宮芝居駕籠二挺立ノ船前々ノ通免許アラバ、無宿體ノモノ渡世ニ取ツキ、格別下々甘キ世上自然ト寬ニ可レ成趣申上、何レモ御免許ニナリ于レ今連綿セリ、誠ニ御府內繁昌

ノ甚キナルベシ

評定所一坐品々書上ノ内ヌキ書

一 宮芝居御免許有レ之候テモ、一統ノ甘キニナル事ニテ無レ之候、其上此儀被ニ差免一候テモ、惡事仕候者可ニ相止一筋ニモ無レ之候事

此段ハ戯場被ニ差免一候テ、一統ノ甘ニ可ニ相成一事トハ不レ奉レ存、私共申上候所ハ近年無宿モノ多ク罷成候事、渡世仕カネ候故、此類ノ者相增可レ申間、如ニ前々一宮戯場小見セ物等差免シ、此事ニ付下下家業ニ成候儀ドモ多キ故、自然ト無宿體ノ者少ク罷成、當時行詰リ候者ドモ甘キニ罷ナリ、非人無宿等ノ者ニ相成可レ申ト存寄コトニ御座候、且又右之通リニテ無宿等ノ者減候譯ニ相ナリ候バ、惡事仕族モ渡世ニ取ツキ候様相ナリ、自然惡事致候者モ相減ジ可レ申ト奉レ存候

一 宮芝居差ユルサレ候バ、彼役者ノ類役々相增可レ申候、然ル時ハ御免ニツキ無宿等ノ者可ニ相減一筋ニモ無レ之コト、此儀ハ差ユルシ候ハ、役者ノ類相增可レ申候ヘドモ、シバキ有レ之候ヘバ無宿體ノ者ニテ渡世仕兼候トモ、渡世ノ品多ク罷ナリ候間、サシ免候方可レ然ト奉レ存候

一 宮シバキ十ケ年以來相止、其者ドモハ相應ニ渡世モ可レ致、相止候テ一兩年ノ内ニモ候バ、シバキ御免ニテ家業ニモ可レ成候ヘドモ、右之通ニテ今更御免ニテ下ノ甘ギニ可レ成コトニモ無レ之候コト

此段ハ十ケ年以來相ヤミ、其者モ相應ノ渡世ニハ取ツキニモ可レ有レ之候ヘドモ、惣テ近來非人無宿ニ

悪事致候コトハ、渡世仕兼候ユヱノコトノ趣ニ候、芝居見セ物等サシ免候ヘバ、此儀ニツキ家業ノ品多クナリ候ユヱ、無宿體ノ者モ家業ニトリツキ可レ申ニ附、サシ當リ下々御救ニモナリ申ベキ、續ヒ他國ヨリ無宿モノ集リ候トモ、右ノ通ニ付テハ、今迄ノ通無宿ニハ罷成申間敷奉レ存候

一　辻駕籠ハ員數定リ、二挺立船ハ御停止ニナリ候儀、奉公人拂底ニ付、先年右之通被二仰付一候ヘドモ、其節ヨリ奉公人多クナル儀モ無二御座一、右二品トモ以前ノ如クナリ候テモ、差障リモ無レ之、下々渡世ニハ成候、老若トモ辻駕籠ニ乘候儀モ何ノ障リト申儀ハ無二御座一候

右ケ條ノ儀近來世上端々困窮仕、無宿者非人多候ユヱ、渡世ニ可レ成儀何レモ僉議仕申上候樣仰聞ラレ候ニツキ、何レモ遂二吟味一候所、惣テ奉公人ノ並諸職人商賣農事等勤兼候モノハ、自カラ無宿非人ニナリ候ユヱ、此者ドモノ渡世ニナリ候儀相考候所、右之通御座候、就レ中宮芝居ノ儀ハ、其下ニテ其日グラシ體ノ者迄渡世仕候ヘバ、無宿非人等段々減可レ申ト奉レ存候、其下ゲ樣ノ儀御免御座候ヘバ、世上自然ト寛カニ可レ成、十ケ年以來芝居無レ之候テモ、サシテ相替ル儀モ無二御座一候ヘバ、所々芝居有レ之候トモ、是ニテ渡世仕候儀數多有レ之候、神明ノ芝居ハ前々ヨリ年久ク有レ之候ヘドモ、世間ノサハリニナル事不二相見一候間、神明ノ外四五ケ所戯場並駕籠二挺立船ノ儀モ、如二以前一サシ免下々家業ノ品多有レ之候樣ニ致可レ然奉レ存候

享保九辰年閏四月

評定所一座

右芝居駕籠等ノ儀、地方ニ不レ入事ナガラ、村々ノ政務ヲ取扱フニモ心得可レ有コト故記レ之、都テ聖代天下ノ政務ヲ行フニモ、禮樂ヲ以テ治メ玉フ、一圖ノ了簡ニテ云バ天下ヲ治ルニ禮バカリニテ可レ濟、糸竹管絃ノ樂、耳目ヲ悦バシメ心ヲ樂シムノミニテ、國政ニハ入マジキ事ノ様ニ思ハルヽナレドモ、都テ天地ノ事陰陽ヲ離ルヽコトナシ、タトヘバ禮ハ陽樂ハ陰ニ類ス、又禮ノ用ハ和ヲ爲レ貴トテ、禮バカリニテハ片寄スギテ、和ナケレバ禮不レ立シテ萬人ノ歸伏ナク、人和ナキ故ニ天下ヲ治ルニハ禮樂兼備セズシテハ曾テ治ラザルコトナリ、天時不レ如ニ地利ニ、地利不レ如ニ人和ニ、人和ナクテハ治國平天下ノ基ニハナラズ、増テ軍事等人和ノミ専要ナリ、亂舞ハ云ニ及ズ、芝居見セ物ノルヰ、或ハ遊里等天下不用ノモノニテ、政事ニ害ナクバ免許ニテ立置ルベキ様ナシ、宮戯場駕籠等不用ノヤウナレドモ、數萬人ノ耳目ヲ樂シメ、養生ノ一助トモナリ、駕籠ハ勞ヲ休メ急務ヲ達シ、又夫ニカヽリテ卑賤ノ輩世話ヲ營ミ、大勢ノ妻子ヲ扶助スルハ莫大ノコト也、シバヰ見セ物駕籠ニ乘モノ、其一人ノ費ハ費スヤウナレドモ、シバヰヲ見乘輿スル者ハ、夫丈ケノ有餘モアリ、殊ニ其金銀ノ棄リニハナラズ、世上融通ニナルハ無益ハ費トモ云ガタシ、夫ニカヽリテ末々ノ者今日ヲ送ルハ幾許ナランヤ、費ハ一人ノ費ニアラズ、都テ世上融通ノ者也、天下國家ヲ可レ治モノハ、偏屈ナルセマキ了簡ノミニテハナラズ、神祖ノ御政務ハ升ヲ搯木ニテ洗フヤウニスベシトノ御遺戒ト申傳フ、然ルトテ忽ニセヨトニアラズ、委

クスベシ不レ可レ穿ノ意ナルベシ、誠ニ評定一座ノ存寄宜ナル哉、然トイヘドモ諸事ヲ許セバ、不法ニ慕リ法ヲ越ルコトノミ多ク、芝居モ心ヲ樂シメ駕籠モ勞ヲ休メ、其分限相應ニ用ユルハ害ナケレドモ、人々奢ニ長ジ分限ヲ忘レ、數代ノ身上モ潰シ士官ハ勉ヲモカギ、其身ノ教モ守ラズ放蕩ニナリ行者間々多ケレバ、許スモ締ルトモ其程アリテ、片寄ザルノ樣取計ヒ肝要ナリ、此處ノ政務ニ拘ル人人々、其身ヲ守リ上下ニ私ナク法令ヲ正シ、諸萬人歸伏スルヤウニナサヾレバ、天下萬民ハ治リガタシ、縱令バ僅ノ一鄉一邑ヲ治ルトモ、此心得アルベキ事也

地方凡例錄卷八終

地方凡例錄卷九

目錄

一 杭打人足定法之事　一 橋角杭震込人足定法之事

一 同丸杭震込人足定法之事　一 橋懸渡座崩一式人足定法之事

一 材木根伐人足定法之事　一 鹿朶根伐持運人足定法之事

一 唐竹根伐持運人足定法之事　一 明俵繩持運送定法之事

一 椢竹搔人足定法之事　一 堤筋鹿朶定法之事

一 立竹定法之事

一 釘鎹其外橋鐵物類寸尺目方定法之事

平　落　釘　家釘正鎹　橋高欄笠木ヨリ　クヒニ巻板鐵物

男柱笠木地覆ヘ繋ル板鐵物　板鐵物　地覆繼手繋板鐵物

大丸頭鐵釘　小鋲釘　兜甲頭鐵物　木口包升鐵物

土石貫目積

一 杣一人ニテ長二間一人角一本角取定法之事　一 大工坪懸定法之事

一 末口物太之事　一 石籠坪詰之事

地方凡例錄卷九

一 普請方之事

堤・用除・用水・道橋等ヲ修補スルハ、國ノ大本ニシテ等閑ノコトニ非ズ、禹司空タリシ時、疏ニ九河一注レ海、決レ漢排レ洄、溝洫・堤防ヲ修理シ、水ヲ治ル八年、外ニ在シモ三度門ヲ過レドモ不レ入、其功德ヲ以中國食ヲ得タリ、後舜ノ禪ヲ受天子ト成給ヒテモ、天下ニ巡狩シ自ラ水土ヲ治メ給ヒシモ、土地ノ寶タル故也、孟子ノ言ニ諸侯ノ寶三ト云、第一土地也、園圃ハ不レ及レ云、山林・原丘トイヘドモ、空ク水質ノ為ニ破ルヽハ可レ惜事ニ非ズヤ、禮記月令ニ、「季春之月也、命ニ司空ニ曰、時雨將レ降、下水上騰、循ニ行國邑一、周ニ視原野一、循ニ利堤防一、道ニ達溝瀆一、開ニ通道路一、毋レ有ニ障塞一」ト有バ國政ニ預ル人ハ心ヲ委ネ其任ニ堪タル者ヲ擇ミ村里ニ出シ、兼テ用水・川除・道橋ノ普請、辨利得失ヲ考、溝瀆・塘防ヲ修理セシメ、土地不減田圃ノ損傷モナク、用水巡流シ耕稼ノ時ヲ失ハザル樣ニシテ、上ハ國ニ益シ下萬民ノ愁苦ヲ助ルコト、吏事ノ肝要也、周禮ニ「洫深廣各八尺、溝半レ之」ト有レ之也、時世隔絕國萬里ヲ異ニストイヘドモ、聖人ノ規矩深廣萬世不易ノ定數ナリ、洫ハ大井路溝ヨリ引分ル、小井路是ナリ、是ヲ井堰トイフ所モアリ、堰ト計リ唱ル所モ有、都テ用水路ノ事也、元來セキト云ハ、川ヲセキ留、又ハ大用水路ヨ

リ方々ヘ引分ルニ用ル、上ケ岩或ハ土俵杭カヽリ等ヲ以、水ヲ關溜分水致シ、關溜メル所ヲセキト云、然レドモ堰ハ則塞也、水ノ通流スル溝ハセキニハ非ズ、井筋・井路・井セキ等、何レニモ井ノ字ヲ不レ付シテハ字義ニハ當ラザレドモ、都テ關東ニテハ大概用水堀筋ヲ關筋ト唱ル里諺也、上州ニテハ致二分水一セキ上ゲ口ヲ小田ト云、近世溝洫トモ浚、其外修造ニ不二一力致一故水上ハ水溢レ、及二水腐一、下ハ水至ラズ旱ク旱損ス、又川除水刎等モ費用ヲ厭ヒ、修復麁略成ユヱ、少シノ水ニテ切所・缺所等出來テ水溢レ、自ヲ成セル災多シ、堯ニ九年ノ洪水、湯ニ三年ノ旱リ、天災ハ聖人モ難レ免ト雖、人力ノ可レ及トハ吏ノ勸辨ト民ノ精力トニテ、水旱ノ災害免ルヽ儀モ可レ有事也、用水ハ耕作ノ第一ナレバ言ニ不レ及、川除ハ洪水ノ防可レ缺コトニ非ズ、然ニ薄田・粗圖等租税ニモシカト不レ納地所ヲ惜ミ、川除等ノ修理ニ貨財ノ費スハ、無益地ト等閑ニ心得、租税ノ納ヲ修復ノ費用ト心得、費ヲ論ジ當前ノ利ニ走リ土地ヲ捨ルハ有間敷コトナリ、貨財ノ利益ノミニ心ヲ用ルハ、商賣ノ素ニシテ政事ニ預ル者ノ心ニアラズ、加レ之圖書ニテハ僅ノ土地ノ潰レナレドモ、國中ニ若シ潰レタル地所ノミ所持ノ民ハ、家業ニ放レ身代ヲツブシテ、居屋敷等缺崩レルハ、下民居所亭宅ニ迷ヒ、實ニ不仁是ヨリ甚キハナシ、古人ノ土地ヲ惜ミ玉フハ聊利益ノ爲ニモアラズ、土地ハ天下ノ至寶タル上、民ノ愁苦ヲ憐ミ仁術ノ至也、此理ヲ辨ヘ、川除・用水等ノ修理ニ心ヲ用ヒ、大切ニスベキコト也、道橋ヲ修理スルモ、是又天下諸民ノ助ナレバ、曾テ疎ニスベキコトニアラズ

一堤・川除・用水・道橋等普請ノ儀、其年夏秋出水ノ樣子ニ隨ヒ、季秋ニ至リ其場所破損ノ輕重ヲ見合セ、村々ヨリ缺處附ヲ以願出タル村役人差出、巨細ニ見分吟味致シ目論ムベシ、川除ノ儀ハ大河・小河・石川・砂川・泥河・谷川、或ハ川幅廣狹、川瀬ノ遲速、水勢ノ强弱、川上ノ山澤・嶮岨等考夫々ニ應ジ普請ノ仕方勘辨アリ、又前々其國其河々ノ仕來有テ、同ジ石砂川ニテモ、水刎・川除ノ仕方違ヒ有、同樣ノコトナレドモ上州利根川・烏河抔ト・甲州駿遠ノ川筋・水刎・岸圍・地留ノ仕立大ニ違ヒアリ、泥川ニテモ縱ヘバ、關東ノ川々ハ土出・萱習等ニテ水ハネ・岸圍仕立、越後國信濃川モ泥川ニテ、幅ノ摸樣モ大抵利根河同樣ノ物成レドモ、是ニハ土出シ・萱習等ナシ、何レモ伐出シ根杭ナリ、夫レモ餘國ノトハ仕立方違ヒ、三角ニ杭ヲ打、梁木ヲ引、眞中大木ニテ牛ヲ引家組ニ仕立、大成杭出シハ杭木ニ穴ヲ彫、貫ヲ通ズ、關東ニ無レ之杭出シ也、勿論近所ニ石澤山ニ有レ之川ハ泥川タリトモ、石籠普請仕立レバ丈夫ナレドモ、泥川ニハ兎角近所ニ石無ト云フモノ也、石籠普請難レ成ニ付、土出シ杭出等色々ニシテ水防グコトナリ、上方・關東・奥羽・越後・信濃・海道筋・中國・西國・其所々ニテノ仕形不レ知シテハ、普請功者トハ云難シ、杭出立竹木ノ仕法モ、川ニヨリ色々アリ、杭出シハ五貫目打鉢卷竹ニ掛ルモノアリ、又小川ノ杭出ハ屛風出シトイフテ杭ヲ四五本間ニ迯リ、三本位並テ打、柵ヲカキ、水ヨケ致モ有ド、立竹モ岸圍・根杭ノ內側立竹等ノ杭ニ上下押フチヲ當、立竹ヲ垣根ノ樣ニ結ビ附ルモアリ、コレハ小川・小垣ニテ大水タリトモ水當リ、薄キ川ノ岸圍也、大カハニハ難レ用、又江戸川・中川邊ノ立

竹ヲ葉附ニシテ切トガラシ、一坪ニ三本程泥中ニ五ノ目ニ差込、數ノ様ニ致シ、岸附ニスルモ有、尤是ハ海口汐除ニ用ル上川ニハ無レ之コト也、汐除迚モ磯邊・岩石等アリテ、汐差引强ク當ル所ニハ不レ用、遠淺ニテ大汐ノセツトテモ和ラカニ汐ノ當ル場所ニ用ル、川除・用水トモ名目ノ唱ハ同様ニテモ、仕立方ニハ川々ニ應ジ品々違有、既ニ上州烏川ニ結倉ト云普請有、笈牛ニ似タル物ニテ、川底水不レ通シテ、〆切等ニハ利方普請ナレドモ、餘國ノ河々ニテ曾テ無レ之、大川ノ〆切等笈牛ニテ難レ保モノハ、都テ枠ヲ用ル、結倉ハ枠ヲ省略シタル様成モノ也、烏川附ノ村々ハ、結倉ノ外笈牛棚牛等ノ普請ヲ不レ知、又同川用水取上口ニ月ノ輪ト云普請前々仕來リ有、土俵ヲ以川瀬切、浮水有レ之バ筵菰等ヲ强ク用、水路水ヲ引、會其外々ニテ用ル洗堰也、尤少々仕方ハ違ヘドモ先ハ右ノコト也、上方關東遠國ニモ月ノ輪ト唱ル普請、所ノ名目ヲ不レ聞、筑後ノ國ニテハ堤ヲ土居ト云フ、石出シ・籠出シ等ヲ荒籠ト云、在方普請奉行、役名ヲ荒籠奉行ト云、肥後國ニテハ堤ヲ塘トイフ、在方普請奉行ヲ堤奉行ト唱、堤塘トモツヽミナレドモ、餘國ニテ塘ト云處ヲ不レ聞、是高崎ニテ云堰奉行ノ事也、海內廣キ事ナレバ普請名目等ノ事ハ、色々ノ唱多カルベシ、マタ大籠出・大聖牛ト云川除、甲州釜無川・管吹川流・富士川末・遠州ノ天龍川・大井川ナドニ有、至テ大造ナル川除也、右體ノ大川ハ上方ニテモ淀・宇治川・木津川、關東ノ利根川、海道ニハ矢作川・吉田川、奥州ニハ阿武隈川・羽州ノ最上・筑摩川・越後ノ信濃河・九州ノ筑後河ナド、日本ニ響タル大河ニシテ、何レモ上ノ方ハ石、中ハ砂川ノ逢瀬、其外國ニテ右體ノ大河ハアレドモ、大

聖牛ハ上方關東遠國トモ餘國ニハナシ、又大井川・天龍川・富士川ノ逢瀨ニハ大聖牛ヲ不レ用シテ、外ノ川除水刎ニテハ難レ保、然ドモ其國々其所々ニテ仕來ノ普請、往古ヨリ樣シ置タル事ニ附、一概ニ心得其所ニテ不ニ仕付一普請致テハ、大ニ間違フ、此所ノ勘考ハ數年國々ノ普請ヲ見聞シ、又ハ自分ニモ仕立功者ノ入ル事也、勿論水當リヲ考、常水ト出水ニテ水ノ當所大ニ間違ヒ、年々目論見ハ濁水ノ節致事故、平水ノ流レヲ見テ川除水刎等仕立テハ、大水ノ砌一向不ニ用立一コト多シ、夫故功者成モノヽ水刎仕立タルハ大水ニテモ破損セズ、不功者ノ普請ハ大水ノトキ破損强ク仕立ノ儘ニテ川除ノ多足ニハナラズ、却テ外ノ所及ニ大破一、是ハ平水ノ水行ニナラヒ、普請仕立、大水ノ水行ヲ不レ知不鍛錬故ノコト也、右ノ趣ニテ川除ノ仕方ハ色々アレドモ、其アラ增ヲ上ゲテ左ニ記ス、尤目論見方ノ仕カタハ、公儀御定法書・川々川除普請格式帳等有レ之、入用竹木人足等ノ儀ハコト長ケレバ略ス

一　堤築立算法之事

新堤ハ先馬踏（是ハツヽミノ上ノ事也）ノ寸間ヲ極メ、土堤ナラバ法一割、砂ハ一割五分、石塘ハ五分ニテヨシ、尤ツヽミヲ丈夫ニスルニハ、土堤一割ニ三分スナツヽミハ一割ニ七八分、石ツヽミ一割ナレドモ、夫ニテハ坪數多ク、人足多分ニ掛ルユヱ、大抵當時ハ前條積ニイタス、去ナガラ至テ大ツヽミ大川等ニテ、洪水ノトキ水勢强ク、川筋ノツヽミハ土ツヽミタリトモ一割ノ方ニテハ危シ、一割二三分五分ニモ可レ致、古塘築足シハ、高馬踏法ニモ古堤ニ准ズ、新塘ノ繩張ハ川筋ニ水繩ヲ引堤ノ曲リ目ニハ町張致シ

貝形ヲ取ル、町張ト云フハ竹四本ノ內、二本ハ敷ノ端ニ立、二本ハ馬踏ノ角ニ建ル、假令バ馬踏一間タカサ一間一割五分ノ法ナレバ、タカ一間ニ一ワリ五分ヲ掛ケ、內法一間半宛二本立レバ同斷一間トナル、敷ノ竹ノ土降繩ヲ結附、タカサ一間馬踏ノ隅ノ竹ニカラミ附、ツヽミノ形ヲ繩ニテ張ヲ云フ、右ノ形出來タルヲ見目トイフ、川ノ形ニヨリツヽミ曲ラバ、曲リメ〳〵ニ町張致ス、直ニテモ十間目程ニ町張イタシ、其繩並ニ土ヲ持ナリ、堤トハ元來紀州流川表一ワリ內ノ方同三分積ノ大ツヽミナレバ、川面一割二分內ノ方同四五分ニシテ、大水ノ時保方丈夫ヲ肝要ニ仕立ルコト成シニ、當時ニハ保方ノ考モナク、少モ入用減ルヲ巧トシ、又目論見ノ時算法六ケ敷カラズ、帳面仕立ヨク委シク手廻シヲ第一ニイタスユエ、イツトナク紀州流目論ムモノナク、兩法同勾倍致スコトニ成タリ、扨マタ蒲鉾形ト云事有、馬踏モ法リモ少シ丸ミヲ付ケ、蒲鉾ガタノ樣ニ築立ル、是又保方格別宜ケレドモ、土坪ノ積方モ六ケ敷、入用モ增スユエ、今モケ樣丁寧ナル儀知リシ人モ少シ

土堤ハ法高一間ニ送リ、五筋程ヅヽモ芝ヲ引、馬踏緣ニ是ヲ引芝切人足土取人足丁數積リ込、併若シ築立ル堤ノ近邊芝無レ之、遙遠方ヨリ芝ヲ運ニハ、土取人足ニハ積不レ入、芝ノ員數ヲ積リ、道法遠近ニ應ジ、シバ切持運ビノ定法ヲ以、シバ切人足別段ニ立ル、芝ハ長二尺・幅五寸・厚二寸ニシテ、一坪十八枚、是ヲ堤ノ法高間數幾條引トナシテ、惣ツボ數何ツボト積ル、砂塘ハ筋麁朶ヲ引ク、不二根付一先ニ苔落テ用立ズ、コレハ柳・宇津木ノ類ヲ長一尺餘ニ伐、小口ヘ少シ出シ敷込、柳・宇津木ハ一兩二兩

ニテ直ニ根付、塘丈夫ニ堅マル也、然ドモ右ノ木品等無レバ無レ據外ノ柴ヲ用ユ、是ハ根付トハ無レドモ、砂塘ハ柴ヲ一筋モ敷テハ築立テ致ネバ、築上候内崩ル丶也、土堤ハ築立済テ繩ヲ張芝ノ埋ル丈デ土ヲ切明、小口ニ芝ヲ入ル、筋芝・筋麁朶トモ筋ノ間一尺何寸ト堤ノ法高ニ應ジ極置、繩ヲ張ザレバ筋ニ寛ミ付筋トノ間不ソロヒニ成也、又堤ノ法リ疊迚往古丈夫ヲ重ニ致ス時ハ、土ノ不レ出樣ニテモ疊上タルツ丶ミモアリ、當地ハ上方關東トモ圦樋ノ前後土抱板ノ上ナド、或ハ城壘等ノ土手抔疊芝ニ致セドモ、外ノツ丶ミハ嘗テナシ

一　堤所築立水深ケレバ下埋ハ、土俵ニテ埋立、内外ノ切口杭打柵ヲ掻、堤ノ地形ヲ拵テ築立ル、至テ深堀水勢强キ所ハ、諸色トテ木ノ枝柴ヲ圓ケ、土俵ニ交テ打込、水中ヲ埋ム、尤數百間ノ切口ナレバ内外ノ水勢至テ强ク、中々何ヲ入テモ保チ難ク、流レ散ル物也、ケ樣ノ場所ハ眞中ニ溢筋ヲ明ケ水ヲ通ジ、左右ノ切口段々埋テ眞中ニテシメ切也、此留メ切ノ所餘程人足ノ働手廻シ能致サネバ、何篇モ押シ切ラル丶モノ也、ケ樣難所ハ近處モ水深ニテ土諸色土俵等モ都テ船ニテ運故、人足モ仕馴奉行人功者無テハシメ切難ク、下ウメ積方切口ノ長・幅・深三ケ所モ、切カタニ應ジ間ヲ取、勿論丈ノ相違モ有、縦バ一ケ所ハ敷五間深サ一丈長十五間、一ケ所ハ敷四間半同一丈二尺長五間、一ケ所ハ敷四間同七尺長十八間抔ト、所々ニテ長短深敷ノ間數ヲ取、夫ヲ平均シテ、土坪・土俵・麁朶・人足等積ル、埋ツボ無レ之キレ處堤地形同樣ナレバ、其上ハ敷高馬踏トモ古堤ニ准ジ築立也、堤内水一盃タ丶ヘ入、切

口水强キハ無功者ニテハ築留難シ、又水中無レ之切處ハ下埋ニ及ズ古塘ノ敷ヨリ下ヘ掘入有レ之ハ、丈夫ノ土ヅホ餘計ニ積リ、地形不平高低見極肝要也、不鍛練ニテハ土ヅホ違人足ノ者費有、又ハ不足有レ之目論見通リニテハ、出來不レ上コトモアリ、依テ地方見馴シ大事ナリ、堤腹欠ノ目論見モ同樣縱バ欠口ノ横六尺欠込處モアリ、タカサモ地形ノ不陸ニ少シ宛ノ違ヒ有モノ也、是マタ間數改方前ト同然也

一　埋坪屛風返シト云仕形有、關東ニテハ下利根川・小見川・絹川・江戸川・中川・戸田川等ニ致コトナリ、餘國ニモ泥河ニハ有レ之、是ハ切口欠目深堀ニテ、下埋ナクテハ堤モ不レ被レ築、岸圍ヒモ難ニ出來一所切レ口、欠目際岡ノ方ニ葉唐竹横一間ニ五六本ヅツ立並ベ、夫ニ山萱一把宛ヲナラベ押縁ヲ三ケ所程當テ垣ノヤウ結立、其押縁ヘ葉唐竹ヲ横一間凡ニ三本ヅヽ、繫竹シテ立タル竹垣ヲ、土際ヨリ踏タハメ、岸ヨリ水中ヘ倒シ懸、其上ニ土ヲ持ハ段々重モリ、土際ヨリ竹折ルヤウニ成リ、土トモ水中ヘ入ル、右ノ繫竹ヲ岡ニ留メ竹垣ノスリ落タルヤウニシテ、マタ其竹垣ノ上右之通竹ヲ立初、斯何篇モ押倒シ、段々掘タル深ミヘウヅミ立、川中ヘウヅメ出、五間ニテモ七間ニテモ、地形丈ウヅメ立、其上ニ土ヲ持、地形ヲナラシ塘築立ル、新規ニ土出仕成ハ有來ノ土出打崩、下ウメノ時モ岸ヨリ段々屛風返シニテ、土出ノ間數丈水中ヲ埋立、地形ヲシテ其上ニ出シヲ仕立、萱羽口篚朶口等ヲ付、是ヲ屛風返ノ埋坪ト云、又久根倒トモ云、泥川有埋坪也、此形奉行人足ドモ不馴ニテハ不ニ出來一、功者ノ入ルコト也

一　堤根籠壹本通リ三本重位迄、水當リニ應、川表堤根返リ引、同外地形ノ高下アレバ、根龍曲ル故

根石ヲ置、水中無レ之ハ土芝搏等ニテ地形ヲ直シテ是ヲ引、勿論五間籠一本三ケ所程留杭ヲ打ベシ、竪籠ハ尚マタ地形不陸ナレバ、籠スリ落ル故、横ニ二通リ程貫材ヲ通スベシ

一　石塘ノ仕法モ土ツヽミニ替ルコトナク、併石ノ積ミ方不功者ニテハ、石疊ム事モ有、マタ一ツ二ツ宛抜出テ、其所ヨリ及二大破一、石塘ハ石ノ表ヲ能置、奥ニ深ク成ヤウニシテ面石ノ奥ノ方ヲ外ノ石ニテシメ候ヤウニ控石ヲ置、積立ネバ崩レ安シ、角ニハ大石ヲ可レ遣、石堤ハ別テ人足仕ナレ功者ナラデハ石積成難シ、右ハ何レ根籠不レ引バクヅル、者ナリ

一　石積ト云水刎有、川原マタ岸上等ニ堤ノ如ク石ヲ川形ニ長ク積立ル、是ハ塘ト違ヒツリモナク、五十間ニテモ三十間ニテモ大水ノ節水溢レ岸崩場處ニツム也、コレトテモ石ノ積ヤウハ石堤同然也

一　堤上置腹附ハ右ノ法ダカニ習ヒ仕立ル也、川面ノ方ヘ腹附スルヲ外腹附ト云、堤内ノ方ニツケルヲ内腹附ト云、上置ハ垂トモ云、譬ヘバ土塘法一割馬踏一間腹ツキ三尺ナレバ、中數一間半ニ成ル、高一尺五寸ノ上置ニテ馬踏一間ニナル、勿論上置ノ馬踏ヲキハメ、古堤ノ法リニ隨ヒ腹附ノ厚ヲキメル、又夫ヲ薄クシテ馬踏計廣クスレバ古堤ノ法ニ不レ合笠被タル様ニナリ、縦バ上オキ高一尺五寸ニ一割ヲ乘ジ、兩法三尺古塘ノ馬踏一間ヲ加ヘ、中敷一間半ニ成、腹附ノ厚ハ三尺也、馬踏狹キ堤ニ上オキ附シテハ上オキノ馬フミ至テ狹成、マタ馬フミ廣クシテ古堤ノ法ニ取合ヤウ、中ヨリ上計、腹ツキノヤウニシテハ、堤ノ法少ナク成テ、保方甚ダ惡シ、馬フミ狹キ堤ヲ高クスルハ、是ヲ腹敷ヨリ廣ゲズシテハ保方アシヽ

一　大雨洪水ノ節ハ、村役人ドモ惣堤見廻リ、危品有レ之バ杭土俵等ニテ不レ切ヤウ、豫メ防方ノ手當不レ可レ怠、切レ掛テハ難レ留、土龍蛇蟹ノ穴ナドヨリ少ノ水漏テモ、大雨ニテ土和ラギ居ルニ附、忽チ切ルモノ也、能々見廻リ漏穴ヲ早ク塞グベシ、川筋八九分通リノ出水ナラバ、土俵杭木等覺悟致シ堤ノ通川表ノ方壹俵ナラベオキ、杭留メシテ河防塘ヲ水越テハ必ズ所々切レル者也、惣越ナレバ防方ヨケレドモ、馬フミニ何レ高卑有モノナレバ、卑ヨリ越水無レ之樣隨分手當致スベシ

一　石出

是ハ石川ノ荒川仕立ル水刎也、小石ニテ保タズ、石ヲ以仕立ル、石ノ積方ハ石堤石積同ジ法五分ノモノナレバ、二三分ノ法ニテヨシ、水中ヨリツミ上ゲ、鼻ヨリ兩脇根籠ヲ二重ニモ三重ニモ出シ、之ニ應ジテ大河ノ雨水勢強キ所ハ卷籠迚、石出シヲ石籠ニテ殘ラズ包モ有、右石無レ之所ハ籠出シハ致サズ、出シ場所淺ケレバ、下タ二間續沈木出シノ間數ニ應ジ入ルモノ也、沈木ト云ハ高一間横二間四方一方ニ柱三本宛建、上下二通リ貫ヲ彫込、眞中ニモ柱一本立、十文字貫ヲ入、敷成木ヲ敷、立成木ヲ四方ニ建、貫木ニ搔付水中ヘ沈メ石ヲ詰ル、格別深ケレバ二ツモ重ル、又横間數モ石出幅ニ隨ヒ、二間ニモ九尺ニモ一間ニモ致ス、地形木ハ出シノ敷ヨリ外ニ兩方二尺ヅヽモ廣メ、ヤバネハ石出崩レ落ル出シノ幅長、其川其場所ニ隨ヒ仕立ル、勿論石出シ高岸根ヨリ川中ヘ眞直ニ仕立出シテハ、流水ニ逆シテ難レ保、水ノ流ニ從ヒ川下ノ方ヘナゾヒニ水ニ不レ逆樣ニ仕出ス也

一　石籠出

是モ石川・砂川ノ水刎也、地形不陸無所ハ、直ニ五間カゴ二繼ニテモ三繼ニテモ間數ニ應ジ仕立、又地形不陸ナラバ平均籠トテ、二間二間モ其所ニ准ジ、大小取交ゼ、地形ヲナラシテ平ラカニシテ、其土ニ籠出仕立ル、至テ深場ナレバ地形籠トテ出敷ノ數ニ准ジ、二間籠ニテモ三間籠ニテモ、横ニ地形籠ヲ二重モ三重モ双ベ、其上少カゴヲ仕立ル、是又川庭不陸ナラバ、二ツ重ル所モ有、マタ三重ニ致所モアリ、何レ出シノ下タ平カ成樣ニシテ仕立ル也、尤敷差渡一尺七寸、カゴ七寸双ベナラバ、地形籠長二間半ニシテ出也、地方少廣クスル也、籠出塘ノ取附處、ヨコ一本引ヲ襟ト云、繼手ニ二本宛引ヲ雪籠トモ、〆籠トモ云、石カゴハ出シ大小ニ憑、差渡二尺籠モ一尺五寸籠ニモ出ス、長ハ何レモ一本五間ヅヽ也、又出シ卷籠ト云ハ下地ヲ石積ニシテ、長籠ニテ横一本ヅヽ雙ベ、卷タル樣ニ致ス、是モ河原抔仕立ルハ下地ヲ地形シ、卷籠ニイタスモ有、何レ川々ノ大小水勢ノ强弱ニ依テノ事也、石出卷カゴシタルハ至テ丈夫ナル川除ナリ

一　大籠出

是駿州富士川・安部川・遠州大井川仕立ル水刎ナリ、長二三十間ヨリ、段々其場所ニヨリ何程モ永ク出ス、尤川下ヘナゾヒ、水ニ不レ逆樣ニ仕立ル大出シ也、右川々ハ大河ニテ水勢强ク、一通ノ籠出等ニテハ決テ難レ保、此大籠出シ仕方ハ、水中沈木ヲ地形堤付方ハ土出シヽテ根籠ヲ丈夫ニ引キ、先ヲ本

出シニイタス、大出鼻ヨリヨコ長キコト三四間ヅヽ水請前関瘤出シ、三四ヶ所外ニ棚牛ヲ出シノ間數ニ從ヒ、一間所モカヽル水請、前関ノ仕形色々功者有レ之テ至テ大造成普請也、地形沈木ハ水深ノ品故、岡ニテ組立石ヲ入ル計リニシテ、川上ヨリ水中ヘ浮メ出シノ地形ニ成處ヘ繫置、枠四方ノハシラニ笹竹ヲ結附、岡ヨリ石ヲ打込、マタハ岡ヲ放レ在レ之處ハ、船ニ石ヲ積投込、若水勢早ケレバ木流ルヽ故、川上河原ノ内石籠カヽ大概ニ綱ヲ付テ地形ノ處ヘ居ヱ、枠ヲ結附流シテ枠ヲ居ヱ、石ヲ入ル、此入レカタハ水練ノ人足ヲ入テ見スベシ、出敷差渡一尺七寸籠十二本ナラバ、地形枠ヨコ四間餘リニイタスニ附二間枠二組双ベテヨロシ、大出シノ間數ニ取ベシ、幾組モ可レ入、岡ト違ヒ續キ枠□續枠ト云フハヨコ六尺シテ、長ハ五間ニテモ十間ニテモ一續組立、裏表ト兩小口計立成木ヲ建、中ハ表ノ柱ヨリ裏ノハシラヘ貫ヲ通シテ石ヲ詰ルヲ續枠ト云水中ニ一組ヅヽ入ルユヱ、枠トワクトノ間透所ハ落シ籠ニテ取合ス、帶籠。襟籠土出シノ根籠等通例ノ通リ也、此普請ハ餘國ニ無レ之、人足不馴ニテハ骨テ出來ズ、村役人人足奉行人トモ功者無テハ出來ザルコト也、上ニテ木曾川抔ニ大出シ有、仕形大抵同様ナレドモ、其國々ノ仕來リニテ少少ハ違フ事モアリ

一　棚牛

是ハ砂石川ニ用ル川除也、枝瀨本瀨トモ取請惡敷コトハ破損早シ、外ノ木刎ト違ヒ、横ニ水ヲ眞直ニ請テヨシ、依テ堤根ヨリ河口眞直ニ懸、棚牛ノ並ビノ能キハ保チ方至テヨク、地形ヘメリ下リ、淵瀨

向ヘカハル功者ニ伏込セネバ出來ズ、甲州無釜川・管吹川・駿州富士川・安部川・由井川・奥州藥利川・朝比奈川・瀬戸川、遠州天龍河・谷河・相州酒匂川・上州利根川・其外國々石川ニ用ル、元來棚牛・大聖牛・尺木牛・棚木牛・菱牛・尺木垣等ハ、甲斐國ニ古ヨリ之アリ、信玄工夫ノ川除ノ由、享保年中以前ハ餘國ニナシ、享保以來國々右ノ類ノ川除ヲ用ル樣ニ成タリ、棚牛ノ仕立方切破風家根ヲミル樣成物也、合掌木長二間末口四寸位ノ雜木ヲ二本ヅヽクミ合、凡四尺小間位ニシテ幾クミモ立ル、牛長ハ其川々ノ場所ニ應ジ極リ無シ、棟木長二間、末口四寸、合掌木ノムネ二小間ニ一本ヅヽ引ㇾ之、梁木同寸間合掌一クミ一本宛、桁木同寸間一小間一本ヅヽ、砂拂木ノ長ハ二間半末口三寸一小間ニ一本ヅヽ棚釣木長八尺末口二寸五分、合掌木一クミ一本宛、釣木長六尺末口一寸五分、二クミ一本宛、タナ敷木長一丈、末口二寸五分位ニ、一小間五ホンヅツ、棟挾竹七寸廻リ唐竹二ホンヅヽ、ムナ木兩脇合掌木ノ下ヲ挾ム、又枌結竹（六寸マハリ唐竹六ツワリタガ竹ノ樣ニシテ使フ）ニテ、入念縛立、枌竹ハ細カニ遣フ程堅ク成テヨシ、水深ケレバ合掌木二間半ニモ三間ニモ致シ、タナヲ高クツリ、棚敷木ノ上ニ空籠一小間ニ石籠二本差渡ニテ、尺七寸長二間ニシテ横ニ置、大川ニテ棚牛横幅廣ケレバ、材木モ長大ニシテ重ク、籠モ二尺籠三四間ニモ致ス也、但締方入方等ハ功者ナラデハ、出來ザル事ナリト云

一　笈牛

是ハ山伏等ノオヒノ形ニ似タルユヱ名付クルナラン、仕立方合掌木三本、雜木長二間末口四寸頭ヲ一

所ニ寄也、猛竹ニテ結合シ、ケタ木三本同寸間合掌木ニ結付ル、眞中ケタ木ノ上鑑請木同寸間一本引、棚敷木長八尺口二寸五分七本ゲタ上ニ引、其上重籠サシ渡一尺七寸長二間ノ石籠二本ヅヽ置、前ノ方合掌木ノ元ニ砂拂木長二間口三寸一本ヨコニムスビ附ル、砂拂木ヨリ前ノケタ長六尺スヱ口一寸五分前立木五本位、何レモタケニテムスビ附、水刎ニ入ル、シメ切ニハイクヽミモ繋入、尤合掌ノ間ケタ木ノ下ハ水通レドモ、覆牛居スハレバ自然砂利溜、淵付シメ切ハ枠ナクテハ難レ留、覆牛ハ大川荒川ノ川除ニハ益ナシ、大水ニテハ早速押返ス、谷川小川ハ大道具難レ遣、欠留抔専覆牛ヲ用ル、川違堀河等ニ水ヲ還ス枝川ヲ締切、用水堰込ニハ覆牛第一也、一側ニテ水堰カタキ時ハ二側モ入ル、又假シメ切抔ニ入ルヽ時ハ重リ籠ナシ、一組ニ土俵三俵カ五俵ト乗スル土俵ハ合掌木ノ頭ヘ乗セネバ重ク利セズ

一　大聖牛

此川除ハ上方關東遠國トモ餘國ニテハナシ、駿州富士川・遠州大井川・天龍川ニ有、甲州ノ内モ益無川ノ流、富士川ノ上ニハアリ、至テ荒川大石流ル程ノ石川ニテ、本瀬一圓ニ突當堤石出シ等、難レ保場所、川上ニテアラ水ヲ切、或ハ籠出ノ前圍、本瀬第一ノ川除也。大造成物故、通例ノ川ニハ難レ用、信玄時代ヨリ始シ川除、元ハ甲州ノ大河計リ用タル由、享保比ヨリ大井川・天龍川ノ上ニ用テ悉ク利益アリ、マタ大聖牛トテ右ノ道具ヨリ格別ノ大木ヲ以仕立、夥敷入用相懸故、大聖牛ハ容易ニハ不レ仕、立先ハ右ニテ保チ難キ程ノ場所ニナシ、右ノ形ハ前廣ク路ノ方細ク、低クシテ三角ナル形ノ者ナリ、

一組牛長五間前合掌木梁木砂拂木長三間末口五寸、中合掌木前立木長二間半、末口五寸、跡合掌木長二間末口五寸、棚敷木水切木鈎木長二間半末口五寸、棟木長五間末口六寸、棚敷木長五間末口五寸、都テ材木ハ松ニテモ雜木ニテモ用ル、合掌木一クミ前中跡三クミ立ル、棟挾竹八寸廻リ枌結竹六寸廻リ重リ籠長三間サシ渡一尺七寸十二本、合掌木ノ間六本ヅヽ二ケ處横ニ置、尻押籠二間半サシ渡一尺七寸、ムネト桁木ヲ一ケ處結寄タル上ニヨコニ懸ル、尻ノ方堤シキ通リニシテ前ノ方河中ニ成様ニ出ス、大場ニハ二組モ懸ル川除第一番ノ大道具也、大聖ハ餘國ニ無レ之普請故、切組大工枌竹結立方川入職人幷人足宰領トモ仕ナレ功者ニナクテハ、決シテ出來ザル普請ナリ

一　枠出

是ハ重ニ甲州ニテ用ル川除也、堤缺所前又ハ水刎ニ仕出ス石出シノ様ナルモノ也、詰石ハ成丈大石ヲ用ヒ、木根掘ル所ハ石籠ヲ川表ニ引、隨分地形ヲ均シテ仕立ベシ、谷川水ノ强キ所ニ用ヒテ、悉ク利益有、仕立方ハ常同様ニシテ大道具寸間違計也、枠長三間横二間高四尺五寸、立ヨコトモ一間間枠掛長六尺末口一尺、竪ヨコ〆木口徑五寸大石遣ニ付敷成木末口三寸立成木二寸ヨリ二寸五分迄、都テ大材木ヲ遣フ、〆切スル間枠ハ續枠宜シヨコ二間高サ六尺、長ハ二十間ニテモ三十間ニテモ、川幅〆キリノ長ニ准ジ仕立ル、マタ小河枝河等〆切笈牛ニテ保難キ場處ハ、ヨコ一間高一間ノ續枠ヲ用ル、四方ニ同柱四本立貫穴彫貫四方上下ニ通柱ニホリ込、下貫ノ上ニ敷成木ヲ雙ベ、四方ニ立成木ヲ建、上下トモ

貫口繩ニテ搔附ル、キリ組ハ大工ヲ遣フ材木ハ松ニテモ雜木ニテモヨシ、積枠川除岸圍ニモ用ル、是ハ多分・片枠ニイタス、片枠ハ三方計リ貫ヲ入、成木ヲ立表一方ハ岸ヲ用ヒ石ヲ詰ル、ハシラハ表裏トモ一間ニ一本ヅヽ建一間ニ中貫ヲ通、又ヨコ三尺位ニテ杭構同然ニイタス、岸圍片枠ハ裏ニハ一間間ゴトニハシラヲ不レ建俗枠木三十間モ有レ之、岸圍ハ五六間ノウラニハシラ一本ヅヽ繫ギニ建中ヌキヲ通ス、其外ハ中貫無レ之岸ヨリ川面ノ柱ノ頭ニ控木ヲアテヽ、岸ノカタハ掘コミテ繫ギニイタシ省略モアル事也

一　菱牛

是ハ大聖牛・棚牛抔ニテハ大造成、マタ寝牛ニテハ中水ニテモ打返シ保難ク、然所未制ニ用ル繫菱牛積クミモ入レバ能川除也、大河ニモ小川ニモヨシ、甲州ニテ專ラ用ル也、餘國ニモ有、仕立方ハ寝牛ヲ四角ニシタル樣ナル者也、二間四方ニシテ合掌木長二間スヱ口四寸四方ニ建、繫竹ヲ以四本一處ニ上ニテ結ビ合セ、ケタ木四本寸間同斷四方ニ合掌ニ結付ル、梁木一本寸間同斷前ノカケタ木ノ上合掌木ニ結付、砂拂木長ケ二間末口三寸前ノカタ合掌木元ニムスビ附、棚敷長一丈スヱ口二寸五分、ケタノ上ニハ敷並ベ前立木六本長立尺口一寸五分、砂拂木ヨリ梁木ヘ立ニムスビ附、何レモ繫竹ニテ不レ殘搔付ルナリ、又籠長二間差渡シ一尺七寸一クミ二本ナラベニテ、コレヲ遣フコトナリ

一　尺木牛

コレハ甲州ニテ用ル、餘國ニ少シ、谷川小川ニテ大道具難レ遣、棚牛ヒシ牛等難レ用場處仕立能水ヲ制

淵ヲ付ル其益アリ、大川ニシテハ用立難シ、仕方ハ石籠長四間、差渡シ一尺七寸、籠三本並ニテ各合掌木間迄リ四本、長六尺スヱ口二寸五分、籠ニトホシ二本宛ヲミ合セ、上下ヘ横竹ニテトホシ、木長六尺スヱ口一寸五分、二間ニ三本宛石籠横ニトホス、右割合ニテ長何間ニテモ籠編台也、合掌木ノ上横竹一本渡シ、合掌木毎ニ結付ケ、横渡竹二本鈎縁竹二本合掌木ノ内方ニ結附ル

一　尺木垣

是ハ右同断至極也、小川用水堀同然ノ處、欠所繕抔ニ用ユ、下ニ五間籠一本置、長一尺末口二寸五分位ノ杭木間ニ造リ、四本ヅヽ籠ノ目ニ通シ、右上三尺程出シ打込、石ヲ詰メ横ニ二トホリ竹縁ヲ當、折竹ニテムスビ附ル、石川ニハ流根入無之花構様ニ仕立、所水ハネ川除ニ用ル、杭カヾリノ丈夫ナル者也

一　棚木牛

是ハ谷澤口掘下リ段々石砂土田畠ヘ押込、谷口深ク流程山岸下タ、大石等押出ス場所等ニ据居レバ、牛ノ處丈夫ニテ高ク成リ淵留ニ成、谷川長ク古堤ノ場所有テハ、何ヶ所モ居込ベシ、仕組方横一間長ハ川幅ニ應ズ、合掌木長一間スヱ口四寸ニ造リ、スヱノ方二本寄入ニテ組合セ元ノ方両方トモ土臺寄入散ニ為シ梁木同四寸間、合掌毎ニ土臺ヘ仕込、両側土臺長二間末口四寸穴彫合掌木梁等ヲ差込ム、ムネ木一本同寸間合掌木ノ上ニ置中鈎木合掌毎ニナシ込、中押同寸両合掌木両側ニ中梁ヲ仕込、此中梁木長五尺スヱ口四寸台掌毎ニ遣、跡先寄附両カハ中押木ニマシコム、鈎木長一間スヱ口三寸ホド先帯

附合掌木毎一本ツヾ上ハムナ木下ハ敷梁ヘサシコミ、成木掻ツキ木長二間末口二寸五分、兩傍小口トモ合掌木内ノ方ヨコ引、立成木ヲカキ附ル立成木竪六尺スヱクチ二寸五分、合掌木ノ間々四方ニ建カキ付、右ノ通仕立三角内法横四尺五寸高棟下四尺、此内ヨリ石ヲ詰ル、仕立タル形ハ家作梁上小屋組ノ樣成形ナリ谷川ノ砂利ヲ掘割、流出ザル樣居込淵留致スナリ

一　杭出並杭柵

杭出ハ亂杭トモ云泥川ニ用ル水刎也、石川ニハ根入惡シクシテ難レ成、ヨコノ並ハ五七本ニテモ、三四本ニテモ、長ハ間迯五本ニシテ長サ川ニ應ジ、五ノ目打尤水逆テハ惡シ、川下ノ方ヘナゾヒニ打、鉢マキ竹ヲ直ヨコニカケ鉢巻ニテモ挾カケクサリ懸トテ二樣有、挾懸ハ杭ノ頭ヲ兩方ヨリ唐竹ニテ挾枌竹ニテ結ツケル、クサリ懸ハ唐竹ヲ四割ニシテ杭ヨリ杭ト互ヒ違ヒニ鎖ノ樣ニカラミツケ、タケノ端ヲ直竹ニシテ卷トメル、末口七八寸モ有、大概根入深キハ打放ニテ鉢巻竹掛ニテモ有、或ハ小川等ハ屏風出トテ杭ヲ間迯リ三四本、長ハ川ノ樣子ニ隨ヒ、川下ナゾヒニ打、根柵ヲカキ、水ハネニモ岸圍ニモイタス、泥川ノ大川ハ都テ岸圍ハ萱羽口麁朶羽口等ニテイタシタル方ヨケレドモ、數里有レ之所ハ不レ殘羽口ニハ不レ成、尤羽口ノトマリニモ根杭ヲ打、ヨッテ肝要水當强場所ハ端口ニイタシ、其餘ハ亂グヒヲ打岸圍ニイタシ、小川ノ砂利等石籠ヲ遣フニハ、近邊石無レ之石スナニ端ハ難レ成、無レ據クヒ出イタス、砂川ハ根入惡ク保チ難ケレドモ、川除木ハネノ仕形無レ之ユヱ、クヒ出ニイタス事也、石川ニ

ハ決テクヒ出ハ成難シ

一　杭柵ト云ハ長六七尺位ノ小クヒ間ニ迯リ、三本根入二尺程打コミ、葉穀竹ニテ杭ヨリ杭組違ニ柵ヲ掻、高ハ三四尺ニテモ水當ニ應ジ仕立、用水堀等岸圍ノ柵ハ長四五尺ノ小杭ニ柵高二尺位ノ唐タケヲ二ツ割ニシテカク、小川ノ〆切等モ杭柵ニテ〆切モ致ス事也

一　根杭並置杭

根杭モ置杭モ一事兩名也、塘切所欠處岸圍間迯リ三四本宛キシノ方ニ付テ打並ベル、尤水當强キハ二通リ三トホリトウツ事有、小杭ニハ根柵掻又ハ大クヒニテカヾリカキ難キハ鉢巻掛事有、或根杭内ノ方立竹ヲ致スモ有、是ハ立竹持ノ杭ヲ一間一本宛立、根ノ替様ニ葉唐竹ヲ立、上下二通リ押縁ヲ立竹持杭ニカラミ付岸圍致モ有、立竹ヲ矢來ダケトモ云、マタ大川ノ大杭等ハウチ放シニモ致ス也

一　土出并羽口

土出ハ關東第一ノ水刎ニテ、下利根川・戸田・江戸川・中川・小見川・絹川等ノ泥川ニ仕立ル、餘國モ泥川ニハアリ、泥川ハ近邊ニ石無レ之故、石籠普請等出來ズ、土出杭ニテ水刎ヲイタス、土出仕立方水深キ所ハ下埋ヲ屏風返（此致方ハ別條ニ記ス）ニテ埋立テ、ソノ上ニ土ヲ持丸ク出シ、河表ノ方三方ハ萱羽口ニテツヽム、出シノ幅長ハ河ノ大小水當リノ場所ニヨリ仕立ル事故極ナシ、多ハ横立丸ク出樣ニイタサネバ損ジ早シ、尤出シノ造方兩ワキニ岸圍ニ羽口ヲ致サネバ出シ元切レスルコトユヱ、都テ羽口ノ表ニハ間ニ迯

三本位ニ双べ杭ヲウツ、是ハ鉢卷ニハ不ㇾ及並クヒナケレバ羽口ノリ出ス事アリ

一 羽口ハ萱ニテモ麁朶ニテモ水際ヨリ屋根ヲ葺ク樣ニ、厚一尺餘宛一平萱ヲ置双べ、葉直竹元ノ方切リ尖ラシ一間ニ六本ヅヽ立並べ、一本飛ニ飛放シ代リ組違、順々ニ送リ跡ニモ一通リ跡先ニホコニ縫立ル、尤一平毎ニ込土ヲ置、隨分踏堅メ込、土ノ仕形惡ケレバ割レ下ガル、又其上ニ一平ヅヽ萱ヲ置、逐立テ段々上迄逐上ゲ、葺ハ芦ヲ双べ留縫ヲイタシ、土際ヨリ凡一尺二三寸位外ニ出ス、殘ラズ仕立上ゲ、小口ハ鎌ニテ苅リ、ノコル縫タケ一間々々ニ一ケ所宛跡へ葉唐竹ニテ繫ギヲ取、乘リ出ザル樣ニスル、維ギ取方惡シケレバ、羽口割レ下リ、又ハ乘出候事モアリ、縫方功者口傳有、度々仕馴タル者ニ非ズシテハ出來ズ、不鍛錬ノ人足ニ縫セテハ其馴染アシク、水當リニテ拔出テ忽チニ土出大崩ニ成ル、其上手際悉ク見苦敷、埋坪ハ山カヤヲ用ユ、一ツボ五尺、繩〆十束ヅヽ、羽口ハ焚カヤ一ツボニ七束ヅツ二三寸廻リノ葉カラ竹埋同四十二本葉直三十本維ギ、タケ十二本羽口一ツボ葉唐竹十一本、同直竹二十本ヅヽ、繩埋一ツボ二房ヅヽ積ル、麁朶羽口モ積方同斷也、是マタ同一坪拵麁ダ五尺繩〆七束積、同羽口ハカヤ羽口ヨリ入用餘計懸ドモ水當强場處、或ハ川瀨ノ突當等、カヤ羽口ニテハ保難キ場所ヲ、麁ダ羽口イタス、カヤ麁ダトモハ口ハ別シテ上手ナラデハ出來難ク、依テ羽口普請仕付ザル村方ニテハ、常州下總邊有仕タテ方功者ヲ雇ヒテヨクイタサセルコトナリ

一 立竹

立竹ハ海口等ノ浪際ニ用ル水刎也、五六寸通リノ唐竹葉付ニシテ、元ノ方切トガラシ平一ツボ三十四五本ヅヽ五ノ目ニ立、藪ノ樣ニシテ海除水刎ニ致ス、泥川ニテモ上川ニハ無レ之事也、砂川・泥川トモ小川ニイタス立竹ハ、同ジ名目ニテモ仕方大ニ違ヒ、前條ニ記如ク根杭ノ内ノ岸圍凡一間ニ一本ヅヽ杭ヲタテ、葉唐竹ヲ墻ノ上下二ケ所、横ニ押縁ヲ當栈ニ結付、河除ニモ岸崩レタル地留ニモ致ス、杭ガヽリニテハ難レ保場所ノ川除也

一 浪除石垣

是ハ海邊波當强ク岸クヅレ有レ之、町屋敷ノ裏ドホリ其外濱ドホリノ田畑、波欠强キ場所亂クヒ等ニテ難レ保海表ノ分、マタハ船入・波戸場等石ガキニ仕立ル事有、高サハ其場所ニ隨ヒ高一間ニモ二間ニモイタス、仕立方ハ土臺松木長一丈三尺幅一尺厚六寸、續手一尺ヅヽ入違ヒ、續ニシテ大抵當縮挾クヒ栗丸太五尺末口三寸間迯リ、三十本ヅヽ内外ヨリハサミ内ノ圓多土臺ニイタスコトモ有、地形平均シ土臺ニ不平無樣能居エ其上ニ石ガキヲ致ス、表石ハ面一尺五寸、控二尺五寸、平一坪十六本ヅヽ表ドホリニ積、内ノ方割石石垣面明リイハリ裏ヲモテ込ニ遣フ、小割小石取交間ニ一坪ヅヽ裏込石ニシテ、其内ノ方砂利詰間ニ五合ヅヽ石ガキ裏埋立、土ニテ築タテ候石墻ハ人計ニテハ出來ズ、石工ヲ入、功者成人足手傳ニテ仕タテル、石工平一ツボ、三人掛リ、土臺ハ大工ニテ切組、至テ荒浪當ノ場所ハ石垣ノ外、面長二間半三間位末口六七寸ノ大杭間迯リ、三四本ヅヽ波除杭モ打、尤切石ノ石墻ハ石代石工手間

等間數等長ケレバ、大造ノ入用ニ付容易ニ出來ルコトニ非ズ、誠ニ至テ大切ノ場所無レ據事ナレバ、仕立ル先ハ石積亂杭等ヲ丈夫ニ引浪除致事也

一　用水ハ河ト堰上ゲ井路筋ヘ引取ハ、其井路ヨリ又枝堰有レ之、夫々ヘ引分ケ、古來ヨリノ仕來リ引付ヲ以村々ヘ引ル也、仕來致ニ相違一、末ノ村方水不足等ニ相成時ハ必及ニ水論一、往古ヨリノ引付ヲ相守儀肝要也、マタ用水川無レ之、溜池有レ之圦・樋・埋樋、又ハ樋繰樋等ニテ水ヲ引、用水ニイタス處モ多シ、或ハ山岡ノ漏水ニテ仕附ル處モ有レ是ヲ根水ト云、國ニヨリ引水可レ致川無レ之、田頭々ニ堀有レ之時ハ、桶ニテ汲上ゲ用水ニスル場處モ有、マタ田頭ニ凡幅一間長九尺ニモ二間ニモ井戸ヲ掘、井戸水ヲ以田用水掛ル所モ、江州邊ニハ間有リ、井戸一ツヲ百姓何人モ催合テ持來、近邊ノ田ヘ懸ル樣ニナス引水無レ之處ハ、多分ノ田作甚骨折テ、難ニ出來一先ハ畑勝也、乍レ去筑後國三潴郡高十五萬石程ノ所一圓ノ平地ニテ、山ハ勿論草刈所モ無レ之、田一面ニテ屋敷内瓜茄子等作ル、雜事品少々有レ之計、土地ニ高下無、用水可ニ引取一小川モナク、適々川有レ之所モ潮差引イタシ、勿論岸高ク用水ニハ不レ成、地面ニ高低無レ之ニツキ、水流ル事ナシ、越後蒲原郡抔モ畠無レ之、田一面ノ處ナレドモ、是ハ用水有テ引水也、筑後國ノ用水堀ハ幅廣キハ十間餘、狹キハ五六間位、長ハ一里モ二里モ續キ、邑中竪横ニイク筋モアリ、他村堀ニモ續ク、夫ヲ其田々ノ田頭ニツケタル分、田主ノ持分ニシテ、水底ニ堰ヲ立、堀ヲキハメ置、田毎ニ水口トテ汲上ル所ヲ拵置、水一斗六七升入ル薄板ノ底小キ桶口、上下綱ヲ二筋宛兩方ニ付、二人

水口ノ左右へ分リ、兩方ヨリ堀へ打込、水ヲ一盃入レ田へ刎上ル、不二仕馴一シテハ出來ザル所作也、士用前ナレバ夜水トテ九ツ時ヨリ起出、日ノ出頃迄ニ酌上ル、溜水ニ成ルハ堀下水面ヨリ田迄一丈餘モ有、夫ヲ一度ニ三百桶モ汲上ル事ニテ、甚骨折ルコト也、夫ヨリ朝飯ヲ食シ、田草ヲ晝ノ内一時餘休、又夕方ミヅヲクム、肥前國ニモ同樣ノ場所夥ク見ユル、是ハ大國ニ付、二十萬石程モ有ベキヤ、筑前ニ隣リタル所ハ、汲水ノ場所見ユル、右體ノ處何レ屋敷内ニ裏畠ノ外、粟・稗・黍・蕎麥・芋等可レ作畑地一向ナク、夫食ハ米ト麥計也、尤田ハ兩毛作附、稻跡麥菜種田ニ仕ツケル、因テ享保十七子年、西國蝗附饑饉ノ節、稻作早晩トモ不レ殘喰盡シ、一粒モ不レ致二收納一、故夫食無レ之、領主ノ救モ難レ及レ手、大造ノ餓死人有レ之タリ、上方中國筋田地際ニ井戸夥ク有ドモ是ハ田ノ用水ニハ無レ之、畠水ヲ懸ル用水也、中國ノ内ハ筑後肥前等ノ樣ニ引水無レ之、堀水ヲクミ上ル所モ有レ之、是ハ多分踏車トテ小キ水車ノ樣ニシテ羽ヲ柄杓口ニ入、田ノ水口へ移ス、城州淀川ノ水ヲ水車ニテ城内へ刎込ムヤウ成モノ也、先年右之踏車人夫ノ懸モ少ク利方宜シク見ユルニ付、久留米侯ニテ共仕方馴タル中國浪人ヲ被レ抱、領主入用ヲ以車ヲ多クコシラへ、村々へ渡踏方等右ノ者廻邑シテ敎導致シ、田毎ニ仕カケタル所水ハ柄杓ニ入、田ニモ移レドモ桶ニテクミ上ルニハ遙ニ劣リ、悉ク田方湯水ニ成旱損致ニ付、百姓ドモ擧テ願上、踏車止元ノ汲水ニ成タリ、又其翌年ハ右ノ浪人者世話ニテ、播州ノ籾種取ヨセ、此稻悉石多ク作リテ德用ノ由、邑々へ籾二三斗宛相渡シ植付シニ、草生ジテ宜敷盛長シタル所、實入ゴロヨリ、何レノムラ方ニ

仕ツケノルモ穗枯致シ、都テ白枯ニ成種モ不レ取、領主地主トモ損失ニ成、是マタ夫限リ止ニ成タリ、
農事ハ古來ヨリ其國其所ニテ仕來ルコトニ無レ之、眞似ヲシテハ決テ出來ザル者ト見エタリ、コレニ似
タル事有、用水ニ不レ拘儀ナガラ爲ニ心得ニ其一二ヲ擧テ記レ之、二ケ年程以前甲州ニテ或御代官勤役中、
田ヲ耕ヤスニ馬牽スルヨリ牛ノ方宜ク、其上馬ト違ヒ犢ハ飼ノ入用少ク、求ルニ直安ク、馬ハ女カ子
供ニテモ口取致サネバ、耕手計ニテハ不レ行、故兩人懸ル牛ハ耕手計ニテ口トリモ不レ入方百姓勝手宜
ク、ソレユヱ上方筋ハ田畑ヲ耕ニ馬ヲ遣フ事ナク、牛バカリニテ牽スルニツキ、甲州モ一圓牛ニ可レ致
由支配ムラ〳〵へ申渡、右御代官古郷上方筋へ申遣、牛五疋自己ノ入用ヲ以買イレベキ也、庄屋ノ内
働有レ之者ヲ見立、五ケムラ預リ牛ツカヒ方ヲ敎へ、田ヲ耕サスル百姓ドモ支配御代官申附ニ任セ、
犢ニ牽スル所成程口取モ不レ入飼ノ雜費モ少ク、勝手ノ樣ニ聞ユレドモ、馬ハ田ノ角ミ迄歩行四隅トモ
トヾク故、耕タル儘ニテ人手ニ不レ懸、犢ハ角ノカタニ行掛ルト早々廻ルユヱ、角々へ犂トドカズ、三
四尺四方角ノ方殘ニ付、貸鍬ヲ以テ以四角ヲウナヒ其上歩行遲ク、縱バ馬ニテ一日一反耕ハ、犢ニテ
ハ漸三四畝ナテデハ不レ耕、マタ甲州ハ山稼有驛場モ有レ之ニ附、農隙ニハ駄賃馬ニテハ、出山ヨリ柴薪
等附出ルモ馬ノ方宜ク、古へヨリ馬ヲ遣ヒ來リ、彼是差引致セバ馬ヨリ牛ハ利方ニ不レ宜由申立、御
免ノ儀村々相願ニ付、御代官モ致方ナク、右ヲ遠國ノ上方ニ還ス事ハ難レ成、江戸へ出セシニ車牛ハ少
シモ間ニ合ズ、無レ據信州へ下直ニ賣懸タル由、右體ノ損益農民自身手ニ懸試タル者ニ無レ之テハ分難

ク、理屈ニテハ間違コト多シ、勿論上方・中國利勘成國柄、田畑ヲ耕ニ牛ヲ用ヒ、損失ナラバ可レ用様ナケレドモ、甲州ハ往古ヨリ不ニ仕馴一事故、百姓ドモ曾テ心服不レ致、又土地ノ違ニテ上方中國ニ利カタナルコト、甲州・關東ニテハ利カタ少キニヤ、種々障リヲ申立ウシハ相止タリ、マタ越後縮・奈良晒等、織出スカラムクト云草、羽州ヨリ出ル、右所ニテカラムクヲ作ル土地、甲州ニ似タル由、右之所ニテモ作出ハ利益多カルベシトテ、右御代官同國ニテカラムシノ種ヲ求メ、邑々作ル様ニ成タリ、勿論カラムシハ甲州ニモ野カタ原地等ニ自然生多シ、江戸ノ駿河臺土堤抔ニモ有レ之、マタ百姓トモ不心得ナガラ御代官ノ申付難ニ默止一畠ヲ潰シ作立、勿論羽州ニテノ作カタ肥シ等ノ仕カタモ聞糺致ニ差圖一作ルニ、隨分致ニ成長一能出來タリ、夫ヲ羽州ニテイタス如ク皮ヲ剝、製法シテ青苧ニ成タルヲ布ニ織セタル處性甚不レ宜、下々ノ麻ニテ織タル布ヨリモ至テ弱ク、ヘラ〱トシテ一向不ニ用立一、依テ致カタ無ク繩ニナヒ、馬具等ニ使ヒタレドモ、是マタ苧ハ不ニ申及一、補背ヨリモ弱ク、藁繩ニ少シ强ケレドモ、畠ヲ潰シ手間養ヲカケ作出シ、曾テ利益無レ之故、一年ニテ止タリ、同ジ草木タリトモ、水土ニ寄モノナレバ理詰ヲ以テ押タリトモ、決テ難レ用、江南ノ橘江北ニ植レバ枳ト成ト云事、古今歴然タリ、カラムシ何處ヘ植テモ用立バ、越後・大和ニ可レ藝コト成ニ、羽州ノ土産ナラデハ越後ノ奈良曝ノ糸ニハナラズ、爰ヲモ可レ知、扨又甲州ニテハ蠶飼置ノ所ニテ桑ヲ刈取、葉ハ餌ニ用ヒ、木ハ薪ニ成所、桑モ紙ニ成由右御代官聞出シ、葉ヲ取タル跡ノ木皮ヲムキ、紙漉ヘ賣、眞木ヲ薪ニスレバ三ツノ徳ニ成ヨシ

致ルニ付、一年百姓ドモ教ノ如ク取タル跡ヲ水ニ浸シカハヲムキ立、市川大河ノ紙漉ヘ持運ビタル所、紙スキドモハクハノ紙ニナル事能在居、隨分紙ニナレドモ少シ黄色故買手少ク、其上楮三叉等ト違ヒカハ剛ク、スクニ大分ノ手間掛リ、仕當ニ不レ合故、銘々所持ノクハモ紙ニスカズ直ニ薪ニ致ニ附、カツテ望無レ之旨申、折角遠方持運タルクハ、皮空クモチ歸リシコトヲ、御代官聞レ之氣ノ毒ニ存、自分ヨリ價ヲ少々村々ヘ遣シ入用ヲ掛ケ、紙ニスキ立サセ、中症ノ藥タルヲ以テ紙子ニ仕立、江戸表所所ヘ寒氣見廻ニ遣シタル由、是モ一通リ聞テハ葉ハ蠶ニツカヒ、カハハ紙ニスキ、眞中ハ薪ニシテ費ル所少シモナク、利方ニテ甚ダ益ト聞ユレドモ、紙スキニ非レバスキ手間賣捌方ノ利ヲ知ラズ故、切角手間ヲ掛カハヲムキ、遠方持ハコビタル失費幾許ナラン、都テノコト其職其身ニ成テ見ズシテ利ヲ取コト多ハ間違モノ也、下民ヲ教導スルニモ心得可レ有事也、既ニ樊遲稼圃ヲ學事ヲ孔子ニ問ヒタル時、我不レ如二老農圃一ト對給ヒキ、聖人スラ其職ニ非ザルコトハ其職ノ者ニハ不レ如ト宣ヘリ、増テ凡俗ヲヤ、都テ農事・作物等ノ儀ハ心情ノ理屈ニ拘リ、國所ノ土風ニ戻リ、自己ノ才智ニ誇リ、大勢並ニ下民ノ心服無事ヲ取行フテモ、末遂ザル物ナレバ水土ノ譯モ不案内ニシテ、餘リ世話ヤキ立モ不レ入コト也、然ト雖民ハ教導ナラザレバ只仕來ノミニ泥ミ、否ノ辨ナキモノナレバ、農事タリトモ自己ニ能仕覺知テ國々水土ノ樣子モ委ク知タル上ハ、損益ヲ考ヘ教導スベキ事、右ノ數條ハ用水ニ不レ拘事ナガラ、用水ノ川付末々ノ仕方、其國其所々ニテ古來ヨリノ損失ヲ考ヘ古人ノ仕置タルコト、眼前一事ノ辨

利ノミニ拘リ相改候コトハ不ニ容易一、惣テ民ノ取扱ハ其土地風ヲ致ニ勘辨一、下民ノ歸服ヲ第一ニ心掛ザレバ、下モ兎角不レ治、權威ニ押レ一旦用ル樣ナレ共、其役人退役スルカ死亡等ニナレバ元ニ返リ、末不レ遂シテ政道不レ立、下ノ心服シタルコハ返ズ、法令ハ自他ノ障ヲ勘味シテ萬古不易ヲ考、取行事勿論也
此目當ハ和漢經濟ノ道ニ委ク、又諸國ノ水土人氣ヲモ知、地方功者ナラデハ分リ難キ所ナランカ

一　圦樋

是ハ川ヨリ井路筋ヘ用水ヲ引入、又惡水落堀ヨリ川ヘ入落口ニ板ニテサシ廻シ、堤ニ伏込戸ヲ明ケ立致モノ也、是紀州流・關東流迚、圦樋ト仕立カタ道具遣方名目等少々違有、仕カタハ御普請御定法ニクハシク、大成樋ハ二枚マタ三枚戸ニ致ス、大概栂・槻等ヲ用ル、土臺杭木ハ松ヲ用ル、道具名目ハ此ニ記レ之、枕土臺長土臺ノ前後ニ一本ヅヽ大木ヲ遣ヒ、長土臺立二三本引、跡先枕土臺ニ仕込、大圦樋ハ四本モツカヒ、横土臺ハ横ニツカヒ、長土臺ニ帶入戸前ハシラ、是ハ樋前ノ方枕土臺ニ仕入、扉ヲ引クハシラ也、笠木戸前ハシラノ上ニ仕込テ竿ヲ通ス、戸板横板ニ矧グ、戸竿コレハ戸板ヲ打付笠木ニトホス立掛也、小笠木戸竿ノカサ木ヲ云、小貫コレハ戸竿ノ木下方ニトホス貫也、敷イタノ圦樋ノ底横ニツカヒ、尤内法一尺四方位ノ少キ樋ハ、布板ニテ立ニツカフモ有、兩側板樋ノ兩側立イタニツカフ、兩ガハ短木樋ノ內ニ立上下ヘ帶ヲ入レ、兩ガハニ板ヲ打附ル、中短木コレハ少キ板ニハナシ、內法四尺以上ノ樋ハ眞中ニ右木ヲ立、下ハ地覆等仕込、上ハ中桁ニ帶ヲ入、早苙ヲ持スル中ケタ木ノ中短木

ノ頭ヲ仕込眞中ニ立引、早萱ハ板樋ノ上蓋也、ヨコイタニツカフ、是モ小サキトコハ竪イタニモツカフ、敷イタ•兩ガハイタ早萱イタニテ四角ニ差廻ス、中地覆コレハ樋ノ内敷、イタノ上眞中ニ竪ニ引キ、中短木ヲ仕コミ、樋尻柱後ノ方ニ立杭土臺ニ仕込、同カサ木組ハ尻柱ノ笠木也、上土抱イタ是ハトヒヲ伏コミ、上ニ土手ヲ築タテル、土留板ハトヒ前後ハシラノ内ノ方ニツカフ、兩袖土抱等ハ前後ノ左右土持ニツカケ抱杭兩袖ノ土抱イタヲ打付ル杭ナリ、同控木ハ抱杭ノ頭切組アトノ方カセ杭ニテ留ル也、杭木ハ控木ノ元ノ方兩方ヨリ挾レ之、中ニ小貫ヲトホシ留ル杭ナリ

カセハ三味線ニカセ掛タル如ク、ヒカヘ木ノ兩方杭ヲ二本打、杭ノ頭ニ穴ヲホリヒカヘ木ニシテ穴ホリ、•ヒカヘ木カセ杭ニ通シ留ル也

土金版ハ前後マクラ土臺ノ土ヲ留ル、檀トメ板トモ云、拘杭ハ土金版ノ兩グヒ也、右仕立四寸•五寸•六寸、皆折釘ヲツカフ

皆折釘ト云ハ平カ成大釘、折クギノ様ニ曲タルモノナリ

右ハ内法横六尺•高四五尺位ノ圦樋ノ道具也、小キ樋ハ材木寸間釘ノ寸等小キ迄ニテ、道具ニハサシテ替ルコトナシ、サリナガラ板ノツカヒ方、立横トモ違ヒ有、中ゲタ中短木モ不レ入、其外ノ道具モ少シハ省略有、樋橋ノ類ハヒナ形無レ之シテハ、道具遣方等難ニ書出一、イタ材木尺〆ヲ積立ル掘割伏込方等難ニ書取一、伏替ニハ掘埋ツボ人足ニ、樋ツボ倍引ト云コト有、惣テツボノ内ヨリ圦樋外法ノツボヲ

倍ニシテ引キ、其残リニ土取人足ヲ掛ル、是ハ掘埋ノ圦樋ノツボ丈ハ土無レ之故也、新規ノ所ヘ伏込ハ樋ツボ計引キ、俵ニハ不レ引、是ヲ掘ニハ人足手間掛リ、埋ツボニハ不レ入ユヱ也、委クハ用水普請格式帳ヲ見ズバ難レ分

一　繰樋

コレハ溜池ノ堤ニ伏込ミ用水ヲ引也、松ノ木凡長三間・末口一尺四五寸位ノ大木ヲ片平挽落、其片平大ナル方小口一分残シ、中八寸四分程ニクリヌキヒキ落シヲ蓋ニシテ、元ノ様ニ合スナリ、四方皆ヲリ釘ニテ打付長ハ堤ノ敷ニ應ジ、二繼三繼ニモシテ、(但繼手一尺ヅヽクリ込ニ繼グ、小口一方クリ残タルカタニ穴ヲ明ケ上ニナシ、溜池ノカタニ伏込樋頭ノ方穴ノ左右ニテ鳥居ハシラヲ掘コミ立栓木ヲカサ木ニ通シ用水入用ノ時センヲヌケバ水トホリテ井路筋ヘ落ル、不用ノ節ハセンヲトメ置、又フタヲ釘附ニ不レ致、樋輪ヲ入ル如ク鐵ノ輪ニテメルモ有、入用道具捨土臺繰〆樋ノ下横間ニ送リ二本位敷、其上ニクリヒヲ不レ動様ニ切組入ル、鳥居ハシラ樋ニテアナノ左右掘コミ有、カサ木鳥居バシラノ上ニ蔕入セン木ヲトホス、トヒアナセン栗木ヲ用ユ、是ハ大用水ニテ不レ用、田地水反別小キ用水ニ仕立ル事也

一　埋樋立トヒ

是ハ内法八九寸四方、仕立方常ノ圦樋ノト木リ、溜池ノ堤ニフセ樋頭溜池ノ方ニテ、竪樋内法八九寸四方埋ヒニ仕コム、右ハ土中ヘ横ニナシ、竪樋ハタテニ成ス、又此竪樋三四寸程ノアナ四ツ五ツアケテ、栗

木ニテセンヲ打・アナ數多彫ル、溜池ノ水多キ時ハ上ノアナノセンヲヌキ、水ヲ引タメ水ニ及程下ノセンヲヌキ、又水澤山ニ入用ノトキハ、一同ニアナ二ツ三ツモアケテ、水取ノタメ水トホシアナ五ツモアケルコト也、道具ヨコ土臺、埋ヒ下捨土臺、埋ヒノ間數ニ應ジ、間ニ迯リ二本遣・敷イタ兩カハ板ヲ竪ニ遣、早蓋イタハ横板ニ遣フ、布早蓋、コレハタメイケノカタ立ヒヲ仕コミ、小口ヲ塞ギ早蓋尺八板立ヒノ板也、立イタニテ差コミスル鳥居ハシラ立横ノ左右ニ掘コミニ建、笠木ヲ仕込ケタ木笠木兩カハニ帶入、元ノカタカセトメ下控木鳥居ハシラニ帶入、元ノカタカセドメ也、カセドメ桁木控木ヲ挾ミ留杭ヲ打ツ

一　掛渡井　筧トモ云

是ハ用水、井路筋川ノ上ヲ横ニ掛越ニシテ用水ヲ通ス、早蓋樑ノ樋也、カケヒノ幅ニ准ジ、柱二本並べニモ三本並べニモシテ、河幅次第三四ケ所モ柱ヲ下ゲ、梁ヲハシラ毎ニ引、ケタ木ヲ引、其上ニカケヒヲ載ル、道具建ハシラ是ハ川中ニ立ル梁木、ハシラノ上横ニ渡シ帶入貫木ハシラヲ通ス、ケタ木下梁ノ上ニ二三本ニテモ、カケヒ幅ニ應ジ引、枕土臺前後ニ二本ヅヽケタノ跡先ヲ仕込、上ノハリ木ヲカケヒノ上ニ引、下ノ梁ト上ノハリニテカケヒヲ挾ミ、カケヒノ外ニ短木ヲ立、上下ノ梁ヘ帶入敷板ヲヨコ板ニ遣、兩側立板ニツカヒ、内短木カケヒ内ノ方兩側ニ立、カハ板縫付ル土金板カケヒニ前後掩土臺トカケヒノ間ニハメル、關イタノ兩爪ヲ、カケヒノ右左土留ニツカフ、抱杭カセ留梁木ヨリ短木建イタヨ

リハリ木ケタ木ヨリ敷ハリヘ鎹ニテ繋ギ、マタ小掛渡井幅一二尺位川ハヾセマキ間數モ短ケレバ、川中ニハシラ二本並建テ、ハリヲ引、ハシラ帶入ニシテ行ケタ無ニ掛渡井ヲ乘也、建ハシラニテハサミハシラノ頭ニハリヲ引懸、樋ヲ留ル前後枕土臺ハ引ク敷兩傍トモ布イタニ遣、內短木等打付ル外道具ハナシ

一　關枠

是ハカケヒノ短ク横ノ廣樣成者也、用水井路分水等ノ處ニ懸ケ、二枚開戸ニシテ水ヲ量リ引分處ニ用ル、此外門樋柄トテ堰內水門ノ樣ニシテ落シ蓋等ノ樋ヲアケ、其所ノ有來ニ隨ヒ可ㇾ積、切組方品々有、京・大坂・江戸樋屋ニアリ、仕立方功者也、圦樋類ハ大小ニ應ジ、道具ノ遣方樣々有ㇾ之、仕立方ニ悉ク功者ノ入ルコト也、不鍛錬ニテ切組テハ格別保方惡シ、樋屋無ㇾ之所ハ船大工ニ仕立サスベシ、家大工ハ出來方不ㇾ宜伏方モ功者ニナクテハ不ㇾ成、內大人足ト云者有、仕馴タルモノモノ也、鳶人足トモ云、江戸ニテハ仕事師ノコト也、圦樋橋掛等ハ、常ノ人足計ニテハ仕立方惡敷、保方不ㇾ宜、何レ右ノ人足ヲ不ㇾ遣シテハ出來ズ、樋上土堤ノ築立・抱板・關板ノ類、疊芝ノ仕方、土ノ詰堅メカタ宜カラザレバ、蛇土龍穴等出來損ジモ早シ、能念ヲ入ザレバ保惡シ

一　新溜池仕立方

是ヲ仕タツルニ、兩方山間等ニテ谷水清水抔有ㇾ之場所ヘ、堤ヲ築タテ水ヲタヽヘルハ、堤ヲ丈夫ニ仕タテレバ自然ト水溜ル故、格別仕タタニ六ケ敷コトモナシ、山モ無場所ヘ池ヲ仕立ルハ一通ニテハ

水漏レ不ニ用立、コレハ溜井地形平均シ、千本突ニテ下地ヲ能突張、池ノ廻リハハセネリトテ、性宜キ眞土ヲ能々練立、土藏ノ荒打練塀抔ノ如ク高サ二三尺ニ築タテ堅メ、破レ目出來レバ、又ハセ土ヲ込能堅メタテレバ水持漏ズ、根水有レ之場所ハ冬ノ内根水ヲタメ天水ヲタメ、夏ニ至リ用水ニ致也

一　土橋

橋長幅ハ其川ニ准ジ無レ極、土橋ノ仕タテハ大小ニヨリ色々アリ、橋杭タテカタ石川原ナラバ根入レ悪キニ付、アナヲ掘震込モ有、土橋ノ杭ヲ震込ニハ杭ノ頭ニ横木ヲ十文字ニ結付、砂利土俵ヲ何俵モ不レ落樣ニ結付、其上ニ人足四五人登リ震込ザレバ入ズ、尤丈夫成綱ヲツケ四方ヨリ引張居ザレバ、怪我有者也、小橋ノ杭ハ大概ニテユリ込蛸

是ハ欅槻ノ類、欅木差渡一尺五寸、長サ一尺四五寸ニシテ、長七尺位ノ木四本外ヘ反也、足ノ控ニシ夫ヲ四人ニテ差上打也

ト云者ニテ打コム也、都テ長キ杭懸ヤニテ打難ハ蛸ニテ打コミ、又泥川ハ何程モ念入故、貫木ヲ地形際ニ下ゲ、又ハ横土臺ヲ河底ヘ入、杭ヲ建モ有ハ、ド三間以上ノ橋ハ、ハシラ四本立、五間位迄ハ三本、一間位ハ二本建ニテヨシ、大川ニテ出水ノ節材木抔流出ル川ハ、橋杭ノ川上ニ芥トテ大水ノ捨クヒニ控ヲ丈夫ニシテ可ニ仕立、行桁モハヾ廣ハ四本並ニスル也、橋ノ上眞土ニテ重ミ有レ之處ナラバ、鎹ヲ除目論事モ有、併大橋ニハ何レ是無ニハ不レ成、小橋ハ鎹ニ不レ及、間數長キハ行ケタニ繽ニハ不レ成、三

繼四繼モ致ス、繼樣色々有、横鎌續ト云ハ續三味線ノ繼ギノヤウニ切組中ヲセン留スル、落鎌續ハ一方蒂ノ方頭ヲ大クシテ、元方筋違ニ眞中ニ割込ヤウニ接グ、ソギ續トイフハ兩方筋違ニシテ切、其所ヲセンニテ止ル、又芋接トイフハ行ケタノ先切欠等モ無、梁ノ上ニ入違ニ乘也、トメニケタト不續合ナリ、ハリヒニテ行違フヤウニ成、是第一ノ略也、尤イヅレノ續手モハリノ上ニ當ルヤウニスル、右ノ上ニケタヲ引、太蒂トイフテ栗木ニテ四角ニセンノヤウ成モノヲ拵ヘ、ウツハリニモケタニモ、穴ヲ彫打コム也、太蒂ナケレバ洪水等ニテ行ケタ動クコト有、土橋ハ少シ勾倍高方水走リ能、出水ノ時水乘リ遲ク保方宜シ、高ク懸ケレバ仕立タル當分ハ人馬通路ノセツ震フ者ナリ、其心得可レ有、洪水橋ノ上ヲ越セバ橋落ル仕立方、麁朶末ナレバ別テ流失早シ、置土中高ニ蒲鉾形ニ置、能平均シ上ニモ砂利ヲ厚ク敷、能々踏カタメ緣芝手ニテ小口ヨリ打堅メ、竹ニテ目串ヲ細カニ遣フベシ、行ゲタノ上ヘ木ヲ置、其上ニシキ麁ダヲナラベ、兩ノ口ニハ麁朶ノ枝三ツ股有ヲ能切ソロヘ並ル也、双木曲リ等有テ、木ト木トノ間スキテハ橋弱シ、隨分双ベ木不レ透樣ニスベシ、道具ハシクヒ根入深ク丈夫成クヒヲ用ヒ、ヌキ木ハ柱ニ一通入レル、又幅廣ク間數長キハ、貫ヲ上下ニ二通リ入モ有リ、大抵ハ一トホリ也、小ハシハ貫ナシニモ致ス、ハリ木マクラノ頭ニ蒂付ハリニ仕込、行ケタ太蒂ヲ付ウツハリノ上ニ引渡シ、ハシノ大小ニヨリ三四通リモ引ク、並木末口三寸程ノ木ヲ不レ違樣ニ双ベ、其上ニ敷麁ダヲ厚ク双ル正鎹ハウツハリヨリハシラヘ繫グ手違、鎹ハケタヨリウツハリニツナギ、附爪ヲ左右ヘ手違ニ致ス、

土橋ヲ町々入口抔入念タルニハ高欄附ルモ有、是ハ兩端ノ行ゲタアナヲホリ高ラン柱入下ヲ蒂入ニシ、上ハ笠木ヲ仕込ム、中ニ一通貫ヲトホス、高欄ツキナレバ兩柱爪ノ男柱袖柱ヲ掘コミニシテ立ル、高ランハ無レ之トモ、男柱袖柱計立タルモ稀ニハアレドモ、先ハ土橋ニハコレナシ、橋臺兩爪トモ片枠ニ致ス、石無レ之所ハ枠ハ成難シ、片枠ノ樣ニ仕立成木、太クシテ丈夫成ル木透間ナク建並ベ、成木ノ際幅一尺餘疊芝ニシテ、內ノ方ハ土ニテツメルモ有、又山川等ニテ兩爪橋臺岩抔ナレバ、枠ニ及バズ岩ノ出入ヲ切平均シ、直ニ巖ノ際ニ杭ヲ立、ケタノ並ヲ岩ニスルモ有、扨又橋ノ下ナド川淵押流杭ノ所掘レ下リタル場所ニハ、淵留籠トテ川中ニ蛇籠ヲ敷キ淵ヲ留ル事モ有、若川床深ク淵留籠難レ成時ハ深ミニ沈メ、枠ヲ入レ、其上ニ右ノ籠ヲ引葉モアリ、併是ハ通例ノ川ニハナシ、格別ノ大河荒河ナラデハ無コト也

一　板橋

板橋大小長短高ラン付、猿頭色々仕立方道具トモ違ヒ有、目論見方常ノ土普請ト違ヒ、仕立カタ不馴シテハ出來ズ、大工タリトモ橋掛ナレザル者ハ積カタ出來兼ル、勾倍高過テハ杭モ永ク入、夫レニ準ジ諸道具寸間モ長ク、無益ノ費モ有、荷付馬等ノ通路ニモ成難シ、又コウバイ低キハ雨走リ惡ク、板腐ク早ク弱ル、右ハ長サニモヨル事ナレドモ、大概八寸九寸位ノコウバイヨシ、江戸兩國橋ハ八寸コフバイノヨシ、勿論山川ノ洪水度々出ル處ハ少シコウバイタカキ方ヨロシ、左ナケレバ橋板爪ハ水越

トモ橋ノ上ニ水不レ乘、下ニ計水通レバ大概ニテハ不レ落者也、掛替ノ節ハ古來ヨリ其河々ノ樣子ヲ考、掛來ノ仕來ヲ可レ用也、場所ノ樣子等不案內ニテ功者立ヲ以、新規ノ仕方ハセヌコト也、往還橋等ハ入用等ノ品寸間ヲ記シ、御料私領近村々入札申觸望者モ有レ之バ、功者成大工ニ積立サセ可ニ取極一、若入札望者無レ之バ手前ニテ可レ積、材木板杭其外大抵ノ橋ハ栂ニテ可レ然、念入ナレバ高ラン等ノ上具ハ鹽瀨柱等ヲ用ル、兩爪土臺水ト抱板杭木等松ニテヨシ、小板橋ハ樫松木等ニテ仕立ル、江戶大坂ノ道中筋ニ有レ之、又遠州岡崎橋三州吉田橋江州勢田橋等ハ格別、凡十間位ヨリ二十間前後幅モ三間位ヨリ四間位迄ノハシ杭ハ八九寸角丸木ナラバ、末口一尺位ヨリ一尺一二寸、梁木一尺一寸位敷板厚モ削立寸以上其外ノ道具是ニ應ジテ積、入用ノ道具抗ノ根入三尺モユリ込、建立方ハ土橋ニ同貫木杭ニ通ス、大懸リハ上下二側通例ハ一側ナリ、又格別入念ハ筋違貫トテ間ニ筋違十文字ヌキヲ入、十文字ヌキ格別ニ强ミニ成者也、梁木ハシラノ上ニ仕込行桁太蔕ヲイレ、梁ノ上引繼方ハ土橋ノ所ニ委ク記シタル如クシテヨシ、又板中ノ押イタ是ハ敷イタノ眞中ニテ繼付、竪ニ押ユルイタ也、蹴込ハ敷イタノ留リ左右男柱ノ間ニハメル大造ナル板也、踏込ハ石ニテ致ス、男柱ハ橋ノ兩爪根イレ三尺位振コミ高ランヲ仕コミ袖柱ハ橋ノ兩ヅメ男柱ノサキニ掘コミ、ソレヨリ上下ニ貫ヲトホス、高ラン兩側ノ端木間一本ヅヽ上ハ笠木仕コミ、同貫木ノ中ヘトホス、カサ木ヲ將棊頭ニシテソノ上ニ當ル、跡先前後側男柱ニ仕コミ、擬寶珠付クラン干ハ丸木ノ竿木ヲ丸ク致ス、男柱袖柱トモ丸也、地覆木ハ短木ヲ彫ヌキ行ケタニ

蒂イレ、端木ノ間ノ地覆木ノ下イタ附ノ所ニ水トホシヲ明ケ、下臺ヲツケ頭巾イタ四角ヲ將棊頭ニシテ、袖ハシラノ頭ヘカブセ、大丸頭釿ニテ打ツケル、前後土臺木是松木ヲ橋臺ノ上ニ横ニ引、ケタ下土臺ニ遣フ釘ハ四寸五寸六寸ニ、皆打次イタ鐵物凡長三尺幅二尺厚サ二分、端木二本ニ二挺宛裏表打込ミ端木卷釿トシテ繋グ、鐵物長二尺三寸幅二寸、アツサ二分袖柱ヨリ、貫木横衣繋ギドメ袖柱無レ之ハ男柱ヨリ卷維ハ八寸、正錄繋木ヨリ橋杭裏表杭一本ニ四挺ヅヽ七寸、手違行ケタヨリ梁ヘツナギ、凡梁一本ニ二十挺ヅヽ手違板ヨリケタヘ維ギ、二間一枚ニ六挺ヅヽ鐵物打ビヤウ釘頭二分半位、大工ハ敷板平一坪ニ四人掛リ、鳶人足三人懸リ、兩橋臺關イタ、是ハ橋下並左右トモトシテ板幌ヲ云、抱杭關板ヲ打ツケル控木抱杭ノ節ニ仕込、元ノ方掘込カセトメ普請中假橋入用、諸道具損料ニテ相濟分ハ借用ニテ用ル、都テ角物ニテノ普請ハ尺日ニシテ、直段積リ致也、依テ道具ノ廉々ニ尺〆ヲツケル、釘鐵物類ハ掛目鐵目、一〆目代永何程ト積ル、鐵目定法ハ御普請定法書ニクハシ、但尺〆ハ長二間一尺角ヲ尺〆一本トイフ、一寸四方ノ才ニシテ百才ナリト云

但道具ノ寸間懸合也、寸坪何百何十分何釐ト成、夫ヲ二間一尺角懸合タル法ニテ割、尺〆何本何分何釐何毛ト付タル、丸太尺〆ハ末口合セ二ヅヽ割長ヲ懸、圓法七九ヲ懸、才ツボニ成シヲ尺〆ニスル也

一 小板橋

コレハ長三四間以下幅二間以下ノ小板材木ハ松木ヲ用ル、道具ハ小キ迄ニテ差テ替ルコトナシ、橋杭六寸角位梁木八寸角行ケタ七寸位ヲ用ヒ、敷イタアツサ四寸ケコミ地、覆木跡先男柱ヘ滯入、猿頭木是ハ間ニ一本ヅヽ五寸角頭ヲ四方ヨリ將棊頭ニシテ、頭ノ長五六寸ニテ切地覆木ヲ彫、ヌキヲケタ木ヘ滯入、高ランノ代リニ男柱橋兩爪ニ掘込、小橋ハ袖柱中押木ナシ、橋土臺抱板同抗扣カセ留メ仕立方大橋ニ替ルコトナシ、手違ノ遣方同斷、繫鐵物ナシニ小板橋ハ多分上材木ニテ積ル、普請ハ根代ノ管切ヲ附ル、縱バ長一間幅八寸アツ二寸ノイタ二十四枚、此管切長二間末口一尺一寸三本、此根代長二間目通三尺八寸通リ三本ト記ス、角物モ同斷材木ノ長短ニ隨ヒ、長二間木ニモ三間木ニモ積リ、管切ヲ付末口太リヲ入レ

　太リハ長一間ニ一寸也、目ドホリニテハ三寸ヨリ定法也

目通ヲ記、根伐ノ木數ヲ極メ、御普請目論見帳ニ記ス、橋杭梁桁貫等丸木或ハソマ取ニテ遣フニ付、管切ノ儘ニテヨシ、敷板高ラン道具等ハ角取致ニ付、御林木ニテノ目論見ハ返リ挽ヲ附ル、返ヒキト云ハ木ビキ手間也、若樋方抔御林木ニテ仕立ル時ハ、都テ通リ挽ヲツケル、去ナガラ樋ハ御林木ヲ遣フハ稀也、多分角物仕立ナリ、コノ仕形ハ丸尺〆ニシテ、何匁何分何釐何毛ト成タル木ヲ通リ挽ノ定法二間一尺角　木挽一人三通リヒキヲ乘ズレバ、幾通何分何厘何毛ト出ル也

一　小石橋

往還ニテモ谷川ニテモ、長二三間位ノ石橋切石ニテ仕立ル、此道具ハシラ石ハ七寸、カク長ハ川丈ニ應ジ、併材ト違ヒ石ニ附六七尺ヨリ長ク、一本石ニテハ難ニ出來一ハシラハ繼石ニハ不ㇾ成、勿論石橋掛ル位ノ川ハ格別深クハナシ、梁ハ長六尺ハヾ八寸厚七寸ニ繼、尤中程ニ建ル柱上ニテ切違ヒ繼、ケタ石同寸間、長ハ橋ノ長サニ應ジ、二續ニスル橋臺ヘ跡先一尺宛掛ル、土臺石兩爪ニ敷板ノ木ヲホリ込敷石幅一尺厚七寸位ケタ石ノ上横ニ遣フ、緣石ハシキ石ノ兩緣ニ引、イタ架ノ地覆木ノヒカヘ也、橋臺石垣表ハ切石面デ一尺五寸位ニシテ遣フ、裏込ハ割リ石ヲ遣フ、梁ケタ敷石モ繼目ハ不ㇾ及ㇾ申、都テ切合也、不ㇾ動樣ニ仕立、石工積リ凡切石二本摺合、仕立トモ一人石垣ハ平一坪一人五分掛位ニ積ル、投渡ノ石架、是ハ河内狹ク、投渡ニ相成川筋堅ニ柱石三本川ノ眞中ニ立、梁ヲ引其上一本石兩岸ヨリ掛申ハ梁ニ持タセ、投渡ニスルカ、又神前等ノ欄干ヲ付ル反橋抔ハ道具モ多ク仕立方六ケシク、在方等ニ入用無ㇾ之ニ附略ㇾ之

一　刎橋

是ハ石川ノ荒川ニテ、洪水ノ節ハ大石モ流レ、又山々ヨリ木根重テ流出ハシ杙立テハ決テ不ㇾ保、又ハ深谷川等往來ヨリ川底迄ハ數丈有ㇾ之柱難立場所ニ懸ルナリ、甲州郡內猿橋・大月橋・上州吾妻川通原町浦萬年橋。牧ヶ橋・原町中ノ條ノ間佐渡川ノハシ・島川上本庄バシ・泥田奥片品河上追貝バシ、其外飛州等所々山川ニ立リ、此仕方兩橋臺山ニ敷石有バ岩石ニ刎木ヲ掘リ込、マタ土ナレバ石垣ヲ仕

立テヽ仕コミ留ルモ有、或ハ石垣成難ケレバ、橋幅ノ長サハ其川ニ准ズ、幅三間位ナレバ刎木四通間ニ一ハネヅヽ長二間餘、末口一尺五寸以上ノ木向上リニテ、一ハネ四本並ベ元一間程石垣ニ掘込、刎木元枕木壹本帶入ニシテ横ニ引、其上二ノ刎長三間餘、末口同斷、是モ元ノ方一間程掘込、先ニ又枕木ヲ引ク、三ノハネ長四間半程仕方同ジ、其先ニ梁ニ引キ兩方ヨリ右ノ通刎出、行桁長十間ニテモ十五間ニテモ無レ繼ニテ、行ゲタニ可レ成木ヲ兩方ノ梁ヘ渡シ、ハヾ三間位ノ橋ハ四本渡シ、羽根木ノ上ヨリ敷板ヲ張ル、行ゲタニハ勾倍難レ付、尤削立相成程ニ至ル大木ナレバ、少ハコウ倍モ付、川ハバモ廣ク、行ゲタ難レ屆ハ四ハネニモ致、先大概三羽根ニテ可レ濟樣ニ可レ積、ハネ數多程橋弱五刎トハ不レ成、高欄・男柱・袖柱・中押木等、上具ノ仕方ハ、常ノ板橋ニ違コトナシ、淺谷川等莫大川ハヾ廣ケレバ、行ゲタト成木品十五六間ヨリ長キ木ハ容易ニ無レ之、中柱ハ難レ建、サレバ刎橋モ出來ズ、烏川上、又片品川等ハ谷川ニ無レ之石砂川ニテ、大水ノセツハ石材木等流レ出、橋杭ハ難レ立、平水ノセツハ歩行渡ニ成程ニ淺瀨ニツキ、川バヾ廣ケレドモケ樣ノ河ハ眞中ニ枠ヲ入、兩方ヨリ行ゲタヲ引故、ハネトハネトノ間三十間餘ニテモ、中枠ニ持スルニ附橋出來ル、追貝橋ノ行ゲタハ二十一間有レ之、壹本木ニテケ樣ノ木ハ甚ダ少シ、有レ之テモ價貴ク御入用嵩ムユヱ、容易ニハ難レ求、右ノ仕形ハ格別丈夫ニ成ザレバ大水ノ時押流ス、押ハヾハ橋幅ニ應ジ、幅三間ノ橋ナラバ、ハヾ三間ノ木ヲ柱ニシテ續ヲ仕立ル、常ノト違ヒ下貫ヨリ下ノ方柱ヲ長クシテ、成丈ケ掘込立成木モ太ク丈夫成木ヲ立、川下ノ方柱ニ帶入レシテ控

ヲ立大石ヲ詰ル、サナケレバ大水ニ水ニテ押流ス、此中枠丈夫ニ無レ之テハ行ゲタ流レテ橋落ル、扨中枠ノ川上ニ爲ニ水切ニ鱗枠迚三角枠ヲ長二間横九尺位ニ仕立、川上ニ三角ノ角ト枠ノ内水切木大木ヲ壹本成タケ深ク掘入、後ノ方ニ控帯入シテ立ル、泄水ノ時河上ヨリ大石大木流レ來リ、此水切木角ニ當リ中枠ニ不レ當、行ゲタノ下ヘナガレ通ル樣ニ仕立、水キリ木ナケレバ、大石大木直ニナガレ懸ルユヱ、忽チ破損ニ及ブ、此中枠モ谷河等兩崖ニ高ク、甲州猿橋ノ樣成河ニハ成ガタシ、刎橋ニ難レ成山奥ノタニ河往來無テ叶ハザル場所ハ、釣橋ヲ懸ルコト也

但シ鱗枠ノ詰石積リ方長二間横一間半ヲ三角ニスレバ一間半ニ二間乘三坪ト成、是ヲ半減シテ一ツボ五合トナレドモ、本法ニ三角鱗形ニスレバ三方トモ二間ヅヽニスル故、二間四方ヲ自乘シテ四ツボホドトナル、是ニ三カクノ法四三ヲ乘ジテ一ツボ七合三勺二才トナル、四三ノ法ト云ハ、六尺三方三角ナレバ、壹ツボノ内四合三勺三才有ニ付、四三三ヲ三カクノ法ト云

一　釣橋　藤橋トモ云、附籠渡

是ハ大抵ノ所ニハナシ、甲州藤川ノ上ニ壹ケ所有、飛州ニアリ、濃州郡上郡ノ山奥ニアリ、谷幅廣ク崖ハ嚴壁ニテ、通路モ不レ叶バ千尋ノ深谷ニテ、刎橋等掛べキ事モナラザル所ニ、道ヲツケルハ釣橋也、仕方ハ藤蔓ノ大ナルヲ幾條モヨリ合セ、一尺四五寸廻リニシテ谷川ノ兩岸岩カドヨリ岩カドヘカ、又ハ大木ニ繋ツケテ兩側ニ二條、幅五六尺位ニシテ引渡シ、子ト子ノ間七八寸位ニシテ其藤綱階子ノ

如ク、丸木ノ丈夫成ルヲ動カヌ様ニ、藤ニテ能カラゲ付、兩方ニ張リ下ノ藤綱ヲツナギ付ケ、手スリニシテ往來スル長綱橋故、中程ニ行ト、綱タルミフラ〳〵震ヒ、渡リ不レ馴シテハ一向渡ラレザル橋也、又極山中深谷ニ籠渡トテ、數百間ノ谷ヲ越シ、向ノ岸ヨリ此方岩ヘ數百丈ノ藤綱ヲ張、其綱ニ籠ヲ結ビ付、夫レニ乘リ右ノ綱ヲ持チ、ソロ〳〵ト亦ムカフノ岸ヨリ綱ヲ傳ニ下リ、眞中頃ニ行トマタ向高ニナル故、ムカフノ岩角ヨリ籠ニ附タル綱ヲ手繰、段々上リ附コト也、ケ様ノ谷向ニモ山畠等有レ之ニ附、右ノ籠ワタシニ農具等モ持乘、一人シテ上リ下リ致由、實ニ所ニ仕馴タルコトトハ云ナガラ危往來也

一 棚橋 棧トモ棚橋トモ云

是ハ極山中ニ有、木曾ノ掛橋、中華ニテハ蜀ノ棧道抔ト云者也、上ハ大山巖石ニテ、道作等營テ不レ成、下ハ山川深ク、其山裾ヲ不レ通シテハ外ニ往來無レ之處ニ、棚道迚山川ト岸通リニ柱ヲ立、片山ハ山根ノ巖石ニ持セ、或ハ岩ニ穴ヲ掘リ梁木ヲ引、其上ニ行ケタヲ渡シ、上ニ並ベ木ヲ置、麁ダヲ敷土ヲ掛ケ緣芝引川ノ方ハ丸木等ニテ手摺ヲツケ往來ス、間數ハ其場處次第ハヾハ九尺カ二間程ニ仕立ル、山ノ方梁ノ留惡ケレバ川ノ方ニ張出ス事アリ、石橋・棧梁・桁等不丈夫ニテ行懸リタル時、破損等有バ數百尋ノタニ底ヘ落入、人命ニ拘ル事故、ケ様ノ場處ニテ普請ハ入用等ノ省略ナク、道具モ吟味丈夫ニ仕立ベキ事也、右ノ外川除用水普請等ノコトハ前ニ記レ之、材木遣様積リ方並普請所形ハ、繪圖ナクテハ委ク難レ分、御普請御定法書、幷川付用水・普請格式帳等ノ諸書ヲ見テ知ルベシ

一・在々用水普請人足出方、古來ハ高百石十人ヅツ村役ニ差出ス、其餘ハ扶持米相渡候處、中頃ニ成田畠養ノ爲仕立普請ニ成、百石ニ付人足百人、百姓役ニ差出、フシン品ニ因テハ百人餘モサシ出ス、其餘フチ方相渡候由、近來モ用水ノ分自ブシン多シ、其代リ川除ノ分古來ハ皆御入用タリシ由、然レドモ往古ハ急度致タル定法モ無レ之所、享保年中普請事御改正ノ節御勘定奉行評議ノ上、吟味役井澤彌三兵衞掛リニテ、川除用水トモ右ノ通御勘定相極、品々事多故、差當入用ノ分荒增相記

一　村高百石　　五十人村役人足

一　同　　五十人御扶持米人足

但壹人一日玄米七合五勺宛

一　右百石百人ノ外不レ殘賃錢人足

但壹人玄米一升七合

一　右米ハ其國其處ノ下米直段ヲ以代金ニテ相渡候、尤年々正・四・七・十月四度、國々米麥錢相場書之出場處極有レ之、御代官ヨリ御勘定所ヘ書出置、春普請ハ前年十月相場、夏ブシンハ正月、秋ブシンハ四月、冬ブシンハ七月書上之下米直段相庭ヲ以御金相渡ル、近年ハ御入用御造作ノ内モ御手當ニ成タ處多シ、御手當ハ造作米・金高ノ内何割ト定法有レ之、御手當下サレ、其餘ノ入用ハ村方ヨリ差出フシン仕立ル也

一　杭木ノ儀長九尺末口三寸以下ノ木ハ、何木ニテモ村役ニ差出ス、尤九尺以下タリトモ末口三寸五分以上ハ代永被レ下、末口三寸以下ニテモ長九尺以上ハ代永下サル定法也、竹縄明俵筵朶木ノ類、何レモ代永下サル也

一　土取人足定法之事

壹坪ニ付土取場通法

一町三人内一人ハ鍬取二人ハ土持仕立トモ

一町半四人　二町五人　二町半六人　三町七人

三町半八人　四町九人　四町半十人　五町十一人

十町廿一人

但都テ一ツボニ附鍬取一人宛相定土モチ運仕立ハ一町二人宛土取場町數ニ應ジ、右ノ割合ニテ一町二人ヅヽノ積ニ相定、鍬取ハ遠近ニ不レ拘一ツボ一人ヅヽ

一　石取人足定法之事

一ツボニ付石取場道法

一町四人内　一人石拾ヒ　三人石モチ運送仕立トモ

一町五人半　二丁七人　同半八人半　三丁十人

同十一人半　四丁十八人　同半十四人
五町十六人　十町三十六人
但都テ一ツボニ石拾ヒ一人ヅヽ土持運ヽ三人ヅヽ町數遠近ニ應ジ馴合、右同斷

一　芝取人足定法之事
芝一ツボニ付
此芝數二千百六十枚　但長一尺幅五寸厚二寸
一町七人内五人芝切三人持運ビ仕立トモ
一町半八人　二町九人　二町半十人　三町十一人
三町半十二人　四丁十三人　四丁半十四人　五丁十五人　十丁廿五人
但一ツボ芝切五人ヅヽ、一丁持ハコビ二人ヅヽ、町數遠近ニ准ジ、人足掛リ右割合ニテ積リ、尤堤筋・芝縁・芝樋橋・疊芝等土取場最寄シバ有レ之分ハ、別段シバ切持ハコビ人足掛ルニ不レ及、土取人足ヲ、シバ切持運トモ目論見帳ニ可レ記、若近邊ニシバ無レ之、遠方ヨリシバ取時ハシバ數積立、人足掛前書ノ割合ヲ以別段シバ取人足ヲ可レ積

一　土堀浚人足定法之事
一ツボニ付

幅三尺ヨリ一間迄　深壹尺ヨリ二尺迄　一人、幅九尺ヨリ三間迄　深同二人、幅三間半ヨリ五間迄
深同三人、巾五間ヨリ七間迄　深同四人、巾七間半ヨリ十間迄　深同五人、巾三四尺ヨリ壹間マ
デ　深二尺五寸ヨリ三尺迄　二人、巾三尺ヨリ二間マデ　同深同三人ハン、巾三間ハンヨリ五間迄
フカサ同四人、巾五間ハンヨリ七間マデ　フカサ同一人、巾七間ハンヨリ十間マデ　フカサ同六人
タヾシ土捨場・掘揚、左右モチ運分ハ、書面之浚人足計ニテ土捨場隔レバ、遠近丁數ニ從ヒ一ツ
ボ一丁土モチ人足二人宛可レ加

一 石砂利浚人足定法之事

一 坪ニ付

幅三尺ヨリ一間迄　深一尺ヨリ二尺迄　二人、幅九尺ヨリ三間迄　深同三人、ハヾ三間半ヨリ五間迄
同四人、幅五間半ヨリ七間迄　深同五人、ハヾ七間半ヨリ十間迄　フカサ同ク六人半、ハヾ三四尺ヨ
リ一間マデ　フカサ二尺五寸ヨリ三尺マデ　三人、ハヾ九尺ヨリ二間迄　深サ同四人半、幅三間ハン
ヨリ五間マテ　深同五人、幅五間ヨリ七ケン迄　深サ六人、幅七ケン半ヨリ十ケンマデ　深同七人
但石砂利捨場右同斷遠所ハ一坪一町石持人足三人ヅヽノ積可レ加

一 溜井浚人足定法之事

一ツボニ附　フカサ一尺以下　一人五分　フカサ一尺五寸ヨリ二尺マデ　二人、深二尺五寸ヨリ三

尺マデ三人

タヾシ場所ニヨリ廣狹有レ之、横ハヾ難レ極、土捨場右同斷、遠近ニ隨ヒ土モチ人足壹ツボ一丁二人ヅヽ可レ加、若深三尺以上掘浚ルトキハフカサニ應ジ人足可レ增、勿論三人以上ノフカサナレバ掘上持運ビ格別手マ相掛ルニ附其心得ヲ以可レ積

一　杭打人足定法之事

長六七尺スヱ口二三寸一人、廿本打組、沼・池等地和ラカナル場所ハ廿五本、又ハ卅本打ニモ可レ積

右同斷、十八本位長八九尺末口同斷一人十五本打組

長二間末口三寸一人四本打、右五六本迄

長二間半末口同斷一人二本半打、長三間末口四寸　一人一本打、長三間半末口同斷一人二人掛、長四間末口　同一本三人掛、長四間半末口四五寸一本五人掛、長五間末口五六寸口一本八人掛

タヾシ場所沼池泥場等和ラカナルト、又砂利場等土地ノ堅和ニ依、人足懸可レ有二增減一、三間木ヨリ末口四寸以上也、三寸ニテハフレテ打難シ、御定法ハ前書ノ通ナレドモ、土地和カ成所格別若堅處石交リ砂利地等二間半末口四寸以上ノ杭ハウチ込デハ觸テ決テウチ難シ震込ニ積ベシ

一　橋角杭震込人足定法之事

長二間ヨリ二間餘マデ、五六寸角根入五六尺一本三人懸

長三間ヨリ三間餘マデ六七寸角根入六七尺一本八人懸
長四間ヨリ四間餘マデ七八寸角根入七八尺十二人懸
長五間ヨリ五間餘マデ八九寸角根入八九尺一本六人懸
但人足大小長短トモ右懸割合ニ付可ㇾ積、尤震込土地堅和右同ジ
一　橋丸杭震込人足定法之事
長九尺餘ヨリ二間迄末口五六寸根入四五尺一本一人懸
長二間半ヨリ三間マデ、スヱ口五六寸根入五六尺一本二人懸
長三間半ヨリ四間マデスヱ口六七寸根入六七尺一本三人懸
長四間半ヨリ五間マデ末口七八寸根入七八尺一本十人掛
長五間半ヨリ六間マデ末口八九寸根入八九尺一本二人懸
但　右　同　斷
一　橋掛渡取崩一式人足定法之事
長九尺ヨリ三間マデ幅六尺ヨリ八尺迄、橋平一坪四人懸
長三間半ヨリ五間マデ、幅九尺ヨリ二間マデ、同斷五人掛
長五間半ヨリ七間マデ、幅二間半ヨリ三間迄同斷六人掛

長七間半ヨリ十ケンマデ、幅三間半ヨリ四間マデ同七人掛

但土橋直シ芝付人足ハ土芝取ノ遠近ニ隨ヒ、書面坪掛リノ外ニ積ルベシ、又橋杭震込人足モ別段ナリ

一　材木根伐人足定法之事

長六尺ヨリ八尺マデ

スヱ口二寸一人ニ付四十五本伐、同〻三寸同二十四本伐、同四寸同十五本伐同五寸、同十一本伐同六寸、同八本切、同七寸六本伐、同八スン、四ホン伐、同九寸、同三本四分伐、同一尺同二本九分、同一尺一スン、二本四分、同一尺二スン、同二本一分、一尺三ズン、同一本八分、同一尺四スン、同一本六分、同一尺五スン同一ホン四分

長九尺ヨリ一丈一尺マデ

スヱ口二寸一人ニ付三十一本伐、同三スン同十九本、四寸十一本、同五寸同九本、同六寸同七ホン、七スン同五本、同八寸同四ホン、同九寸同三本四分、同一尺同二ホン九分、同一尺一寸同二ホン四分、同一尺二寸同二ホン一分、同一尺三寸同一ボン、同一尺四寸同一ボン六分、同一尺五寸同一本四分

長二間ヨリ二間二尺マデ

末口二寸一人十二本五分伐、同三寸同九本、同四寸同五本、同五寸同四本、同六寸同三本二分、同七寸同三本六分、同八寸二本二分、同九寸同一本九分、同一尺同一本七分、同一尺一寸同一本四分、同一尺二寸同一本二分、同一尺三寸一本一分、同一尺四寸同一本、同一尺五寸同九分、

長二間半ヨリ二間五尺迄

末口三寸一人七本八分、同四寸同五本、同五寸同四本七分、同六寸同三本三分、同七寸同二本七分、同八寸同二本、同九寸同一本八分、同一尺同一ボン五分、同一尺一寸同一ボン三分、同一尺二寸同一ボン一分、同一尺三寸同一ボン、同一尺四寸同九分、同一尺五寸同八分

長三間ヨリ三間二尺迄

末口三寸一人七ホン伐、四寸同五ホン五分、同五寸同四ホン、同六スン同三ボン三分、同七スン二ホン五分、同八スン同二ホン一分、同九スン同一ボン八分、同一尺同一ポン五分、同一尺同四スン、同八分同一尺五寸同八分

長三間ヨリ三間五尺迄

末口四スン一人ニ付七ポン五分伐、同五スン同五ホン五分、同六スン同二ホン八分、同七スン同二ホン六分、同八スン同一ボン九分、同九スン一ボン六分、同一尺同一ボン四分、同一尺一スン同一ボン二分、同一尺二スン同一ポン一分、同一尺三ズン同九分、同一尺四スンオナジク八分、同一シ

ヤク五スンオナジク七分

　長四間ヨリ四間二尺迄

末口四寸一人ニ付三本、同五寸同二本三分、同六寸同一本九分、同七寸同一本六分、同八寸同一ホン三分、同九寸同一ホン一分、同一尺同一本、同一尺一寸同八分、同一尺二寸同七分、同一尺三寸同七分、同一尺四寸六分、同一尺五寸同二分

　長四間半ヨリ四間五尺迄

末口四寸一人ニ付二本六分、同五寸同二本一分、同六寸同一本七分、同七寸同一本四分、同八寸同一本二分、同九スン同一ホン、同一尺同九分、同一尺一寸同八分、同一尺二寸同七分、同一尺三寸同六分、同一尺四寸同五分、同一尺五寸オナジク五分

　但長六尺ヨリ九尺マデ一寸才一人三百才伐

　一寸四方ヲ一才ト云、末口ノ差渡シニテ元口ヲミルニハ長一間ニ壹寸ヅヽ太リヲ入ル是丸木太サノ定法也

一丈ヨリ二間迄二百五十才ヲ伐ル、二間半ヨリ三間マテ二百才ヲ伐、四間ヨリ五間マデ百五十才伐、五間以上ノ大木ハ右割合ヲ以元口才ヲ懸ケ何十人伐ト積ルベシ、大木程切手間掛故立木ノ人ニ長短ニ隨ヒ根伐人足ノ積多少有レ之也、根切人足積ルニハ立木ニ付末口不レ知、元口何尺廻リヲ三一六ニテ

除

三一六ノ法ハ差渡一尺ノ木ハ三尺一寸六分廻リ有レ之ニツキ、三一六ニテワレバ、小口ノサシワタシナリ

差渡ヲ見夫ニ圓法七九ヲ乘ジ、角ニシテ掛アハセ元目才數ヲ見、一人何百才キリニテ除キ、人數ヲ知、元口差渡ニテ末口ヲミルハ壹間一寸劣ニシテ末口ヲシルベシ

一 材木持運人足定法之事

長九尺ヨリ一丈壹尺迄

末口二寸三本一人　三寸二本一人　四寸六本五人　五寸三本四人　六スン二ホン九人　七スン三本八人、八スン一本三人　九スン四本十三人　一尺二本九人　一尺七寸二本十一人　一尺二スン一本六人　一尺三スン一本七人　一尺四スン二ホン十七人　一尺五スン一ホン十人

長二間ヨリ二間二尺マデ

末口三スン一本一人　四スン一本二人　五スン一ホン三人　六スン一ホン四人　七スン一ホン五人八スン一ホン六人　九スン一ホン七人　一尺一ホン八人　一尺一寸一本十一人　一尺二寸一ホン十二人　一尺三寸一本十三人　一尺四寸一本十四人　一尺五寸一本十八人

長二間半ヨリ二間五尺迄

末口三寸二本三人　四寸二本五人　同五寸一ホン四人　同六寸一本五人　同七寸二本十三人　同八寸一本八人　同九寸一本十人　同一尺一ホン十二人　同一尺一寸一ホン十五人　一尺二寸一ホン十七人　同一尺二寸一ホン十二人　同一尺四寸一ホン二十三人　同一尺五寸一ホン二十六人

長三間ヨリ三間二尺マテ

末口二寸一ホン六人　四寸一ホン五人　同五寸一本七人　同六寸一本九人　七寸一ホン十二人　同八寸一ホン十五人　同九寸一ホン十八人　同壹尺一ホン二十二人　同壹尺一寸一ホン二十六人　同壹尺五寸一本四十六人

長三間半ヨリ三間五尺迄

末口四寸一本六人　同五寸一本八人　同六寸壹本十三人　同七寸一本十五人　同八寸一本九人　同九寸一本二十三人　同一尺一本二十七人　同一尺一寸一本三十二人　同一尺三寸一本四十三人　同一尺四寸一本四十五人　同一尺五寸一本五十五人

長四間ヨリ四間二尺迄

末口四寸一本十一人　同五寸一本十五人　同六寸一本二十人　七寸一本二十五人　八寸一本三十七人　九寸一本三十八人　一尺一本四十五人　一尺一寸一本五十三人　一尺二寸一本六十一人　一尺三寸一ボン七十一人　一尺四寸一ホン八十人　一尺六寸一ボン九十一人

長四間半ヨリ四間五尺迄

末口四スン一本十四人　五スン一ポン十八人　六スン一ポン二十四人　七スン一ポン三十人　八寸一ポン三十七人　九スン一ポン四十五人　一尺一ポン六十六人　一尺二スン一本七十三人　一尺三スン一ポン八十二人　一尺四スン一ポン九十八人　一尺五スン一ポン百五人

但持運人足百姓通六里歩行定法也、道法里ノ處ハ三返持一人一本持ノ木ハ一日ニ一人ニテ三ボン持積ナリ、右ハ松・杉・雜木等ノ人懸リ、樫・梅等ノ重メノ木ハ一本一人五分持ノ割合ニテ可レ積、凡末口物長サ一尺ヨリ一丈三尺迄、丸太元末平均尺〆ニシテ一寸木一人十才モチ、二間半ヨリ三間半迄一人七才持、四間ヨリ以上一人五才モチ、六間以上ノ木ハ右ニ應ジ、人足カヽルベキニ積ル

一　右御林木根ヲ持運ビ人足ハ、一人玄米七合五勺宛下サレ、運送御普請仕立人足ニハ別段ニ可レ積、尤御林在ノ村方或ハ御普請村方ニテ、末木枝葉下サレル者根伐人足ハ目論見ニ不レ入、御林木根伐致事有、其時ハ持運人足許下サレ、根伐人足ハ末木枝葉相渡、人足積リ不レ致事也、橋等ノ材木ハ御林木被レ下時ハ大木ヲ出事ユヱ延モ宜ク、木木モ其外御用ニ相立分ハ目論見ニ差加ヘ、不用ノ末木枝葉ヲ下サル事也

一　角物持運人足定法之事

長二間一人一本十人持

但板貫等長短大小平均尺〆ニシテ一本十人モチノツモリ人足懸積ベシ、是ハ槻・栂等重キ材木ノ積、松・杉・雜木ノ怪木ハ人足懸リ減ル船積時ハ一水貫メ十一石目ツモリニシテ、船ヅミ木數ヲ可レ積、尤壹石四十貫目ノツモリ也

一　鹿朶根伐運人足定法之事

日通二三本廻一人二百五十本伐　但伐樹枝打トモ右同斷　一人三十本持長四尺打違五尺繩二人

一束一人持　但伐樹束結共

一　唐竹根切持運人足定法之事

唐竹四五寸廻一人百本キリ、同十二本持　右同

同六七寸廻　一人五本同六本モチ　右同

一　明俵繩モチ運送定法之事

明俵　但四斗入掛俵　一人二十俵モチ　繩　一房二十尋曲　一人ニ百房モチ

一　柵竹搔人足定法之事

柵平壹坪ニ付　唐竹目通三四寸廻五十本　搔人足　同二三寸廻四十本、一人平五坪搔

一　堤筋鹿朶定法之事

一　通十房ニ付鹿タ三本但四尺打　五尺懸二分〆

一　立竹定法之事

平一ツボ

葉唐竹三四寸マハリ三十六本立一人百五十本立、但キリ尖リトモ

右人足懸其外諸色目論見方定法、享保年中御勘定吟味役井澤彌惣兵衛相極タル定法ナル處、其後寶暦五亥年御普請積方御定法取捨増減有レ之、尚又改リ御定法書出今右ノ定法ヲ以テ目論ムト雖モ、人足懸リ其外トモ定法ニテハ何モ致不定故、請負等ヲ難ニ仕立一依テ普請仕立方手抜アリ、保方惡ケレドモ目論見帳仕立尺諸式ノ懸リ御定法ニ外レタル儀ハ成難ク、然保方眼前不丈夫ニテハ却テ御無益相立候儀故、功者ナル者ノ目論見ハ此心ヲ以諸式掛リ作略有レ之、普請所丈夫ニタモチ軍立勿論、其國其所其川々ニヨリテ所ノ仕來アリ、又ハ水行ノ強弱平水洪水ノ流レアタリ、悉ク川ニヨリ違ヒアリ、何レモ溜水ノ積ル事ユヱ、水當ノ模様ニヨリ、彼是ノ功者ナラデハ目論見ガタシ、能々心得テ目論ムベシ

一　釘鎹其外橋鐵物類寸尺法方之事

皆折釘

長三寸中膳太　二十二分半二分　鐵目九匁　厚板一寸五分打

長四寸右同　鐵目十二匁同二寸打

長五寸右同　鐵目十五匁二寸五分三寸打

長六寸右同　　二十二匁同三寸五分打

長七寸右同　　二十二匁四寸ウチ

長八寸同　　二十六匁四寸五分ウチ

長九寸同　　四十八匁五寸ウチ

長一尺同　　五十四匁六寸打

但樋橋ニ遣フ釘也、鐵目ヲ積ルニハ長ノ寸ヲ半分ニシテ鐵目ヲ積リ、頭ノ鐵目ヲ加ル也

一　平落釘

長四寸中膸太　幅三分厚一分半　鐵目十一匁

長五寸右同　　鐵目十四匁

長六寸幅三分半厚一分半　　鐵目二十二匁

但平打釘ハ板ヲ横ニ彫打込クキノ上ヲ木ニテ埋メバ板ノ割目ニ遣フ釘也、頭ロマキ皮ヲ卷打事アリ俗ニ云船釘也

一　家　釘

長一寸五分　鐵目四分　長四寸　鐵目四匁三分

長二寸　鐵目三分長五寸　鐵目五匁五分

長三寸　鐵目二匁七分　長六寸　鐵目六匁五分
長七寸　鐵目七匁五分
但常ノ鐵釘ニ大成モノ也、普請ニ仍是ヲ遣フ、都テ何クギニテモ長ハ厚板一倍ト見テ積ルベシ
一　正　鎹
手下
長四寸片爪　一寸五分入三分半　鐵目三十二匁
長五寸右同片爪二寸　鐵目三十五匁
長六寸太サ四寸三分同二寸　同四十三匁
長七寸幅三分厚三分右同　同六十三匁
長八寸片爪石同前四分厚サ三分　七十九匁
長九寸同八寸五分厚右同斷　九十匁
但手違下ハ片爪表裏ニ成迄ニテ鐵目正下ニ無ニ相違ニ手下ノ鐵目積ルニハ長ノ寸ニ片爪ノ長ヲ加、
太サ一寸ヲ懸合スル也
橋高欄笠木ヨリ杭二巻
一　板鐵物

長二尺　幅一寸五分厚一分半鋲穴共　鐵目百七十匁

長三尺五寸同二寸厚一分半　同二十四鐵目四百五十匁

長三尺同二寸厚二分　同二十八鐵目七百二十匁

男柱ヨリ笠木地覆ヘ繋ル

一　板鐵物

長一尺四寸幅一寸五分厚一分半鋲穴十二鐵目

百九十五匁

長一尺八寸同二寸厚一分半　同十五鐵目三百二十四匁

長二尺二寸同二寸厚二分　十八鐵目五百二十八匁

一　板鐵物

長一尺幅一寸五分厚一分半鋲穴鐵目百三十五匁

長一尺二寸同二寸アッサ一分半鋲穴同八鐵目二百六十匁

一尺五寸　二寸アッサ二分　十鐵目三百六十匁

地覆繼手繋

一　板鐵物

長一尺二寸巾一寸五分厚一分半　目百六十二匁

長一尺四寸　一寸五分アツ一分半　目百八十九匁

長一尺八寸　二寸アツ二分　目四百三十五匁

一　大丸頭鐵釘

長一尺頭差渡八分島平均七分　山下九十三分中腰同七十一匁

長八寸頭差渡六分島平均四分　山下七寸四分中腰四十匁

長六寸頭差渡五分島平均　山下五寸五匁太二寸二十目

但橋男柱ノ頭兜巾控ハ打付鋲ナリ

一　小鋲釘

長一寸差渡二分島一分　山下一寸五分鐵目三匁

長三寸頭差渡二分半島同　山下二寸九分中腰太同目四匁七分

但金物ノ幅アツサ大小ニ隨ヒ鐵釘寸長短有木道具ヲ鐵留ニスル事アリ

一　兜巾頭鐵物

內法六寸四分　島二寸二分五釐コシ中一寸五分

鋲穴三十六鐵目一貫八百四十五目

内法八寸四方島三寸腰計二寸厚一分半鋲穴右同

鐵目一貫八百四十五目

内法一尺四分島一寸七分五釐中コシ二寸厚二分

同四十四匁

鐵目三貫八百四十四匁

但橋男柱袖柱ノ頭ニ被セル金物也、往還橋等ハ金物ヲ略シ、兜巾十ヲ打

一 木口包升鐵物

内法三寸四方コシ中三寸アツ一分半鋲孔十一

鐵目三百二十四匁

内法五寸四方コシ中五寸アツサ二分　同二十

鐵目一貫三百匁

但門乘木其外木口ヲ包ム鐵物也

右金物類鐵目積方一寸四方六面、掛目六十目ノ割ニテ、何レモ丈幅厚掛合ノ積リ也

一 土石貫目積

土尺六面十貫目程　砂目十一貫目程

石同　十七貫目程　水同七貫六百目程

栗石六寸六面三千貫目程

但升目一斗四貫五百匁ノ積リ

但土石砂水トモ其土地其處ニ依テ悉ク貫目輕重アリ、土モ眞土靑土泥土山土海土等ノ違有石モ堅石山石海石岩石ナド色々有レ之、輕重餘リ貫目違アレドモ右ハ土普請等ニ用ル處ノ土石ヲ揚テ凡ニ積リタル者也

一　材木尺〆一本ト云ハ長二間一尺角ヲ云、一寸才ニシテ百才也、尺〆ヲ付ルニハ幅厚ヲ懸合長ノ尺乘ヲジ、尺〆法十二ニテ除ケバ何本何匁何釐何毛ト出ル、十二ノ法トイフハ二間ハ一尺二寸ナレバ、角一尺四方ヲ掛合セ一ト成、夫ニ長一丈二尺ヲ乘ズレバ十二トナル、夫ヲ十二ニテ除ケバ元ノ一トナル、則尺〆一本ナリ、依テ十二ヲ尺〆ノ法トス

一　通挽木挽一人ニテ三通挽定法之事

タヾシ長二間巾一尺板ヲトホリ引ト云、厚ニハ構ズトホリ挽ノ仕法、縦バ丸太長三間末口一尺コシニ一間一寸太リヲ入本口一尺三寸元末平均二尺五分ト成、コレニ内法七九ヲ乘ジ九寸八厘五毛ト角ニナル、コレヲ五枚割ニ引時ハ四筋トホル、巾九寸八釐五毛ニ長一丈八尺ヲ乘ジ、十二ニテ除キ尺〆一本三分六釐二毛七五ニ成、コレ二口通ヲ乘ズレバ五通四分五釐五毛トナリ、一人三通引ノ定法ニ

テ木引一人八分手間也

但通リ引ノ儀通例ハ鋸代五分引定數也、入念板ハ一寸引ナリ、角物何故割ニ積トモ鋸代五分宛引板數可レ積、尤在々御林木抔引割ハ木太リ品木取故、ノコギリ代引ニ及バズ

一 杣一人ニテ長二間一尺角一本角取定法之事

但何寸角ニテモ巾厚掛合也、長ヲ懸十二ニテ割尺ニシテ一本ヲ乘ズレバ、ソマ人何人ナニト知ルベキナリ

一 大工ツボ掛定法之事

板一ツボ大工四人懸リ、大圦樋・大板橋ハ同三人懸

小圦樋橋ハ、但江戸切組・在切組・圦樋モ二枚戸マヒ戸橋二十間、以上以下夫々大工懸リ少々ヅヽ多少有レドモ、大數書面ノ當リヲ以可レ積、委キコトハ御普請御定法書ニアリ

一 鳶人足右同ジ、大ハ三人小ハ二人懸リニ可レ積、コレ又在切組鳶人足無レ之所平人足ナレバ、トビ三人ノ處平四人ニモ四人半ニモ可レ積、トビ人足トイフハ江戸ニテ常ニ云仕事師ノコト也

一 御林木ヲ以樋橋等ノ普請致ニハ木道具尺ベヲ付、板貫木ハトホリ引ヲツケ、樋橋等材木クミハ長二間一尺角三本入用ノ處ニ御林木根伐スルハ、長六間目トホリ六尺トホリノ木一本根伐シテ、二間一尺角三本ニ成、此仕法ハ角一尺ニ四一二ヲ乘ジ、差渡二尺四寸一分四釐二毛ノ丸太トナル

一四一四二ヲ乘ズレバ、一尺四方ノ角隅違法ハ一尺四寸一分四厘二毛有レ之、裏尺ノ法也、丸木差度一尺四寸一分四厘二毛ノ木ヲ四方角取ニ致セバ、一尺角ニナル、依テ何寸カクニテ一四一四二ヲ乘ズレバ、丸木ノ差渡ニ成ユヱ、一四一四二ヲ丸木ノ法トス

長六間末口一尺四寸ナレバ、一間一寸太リヲ入目違ニテ差渡一尺九寸トナル、コレニ三一六ヲ乘ジ、六尺廻リニナル、御林木ニテ積ル時ハ二間一尺カク三本、此根伐長六間目ドホリ六尺廻リ一本、此管切三本ハ

管切ト云ハ二間木三本ノ遣方ニ付、六間ノ木ヲ三ツキリ二間木、三本成チキ木ハ入用次第何本ニモキルヲイフ

目論見帳ニ記ス、勿論長ハ六間ニ限事ナク、二三間ノ木ニテモマタハ四五間ノ木ニテモ御林木ノ延次第ニ應ジ、何本ニモ根伐ニスル也、併一尺カクニモ成木ハ何レ長四五間位ヨリ六七間程ノ延ハ有モノ也、樋貫短木等ノ小木迄、此積リニテ御林木何百本ト積リ、木挽杣并根伐持運人足木ヲ積ル、尤右體ノ大木ヲネキリスルニハ、譬バ元ノ方四間ハ二間一尺カク二本取末本短木等ハ一尺カクニ不レ及、道具木ニ遣ニ御林木費ニ不レ成樣ニ積ル也

一　末口太リ之事

末口ヨリ一間毎ニ一寸太リヲ伐入定法也

五六尺ヨリ一丈一寸マデ一寸フトリ、一丈二尺ヨリ同七寸マデ二寸太リ、一丈八尺ヨリ二丈三尺
迄三寸フトリ、二丈四尺ヨリ同九尺迄四寸太リ
但右割合ニテフトリヲ入ル、九尺ヲ一寸五分迄ハ不入、長三四尺迄ハ本末フトリナシ

一　石籠ツボ詰之事
長五間　差渡一尺五寸　此石二合四勺七才
唐竹十五本　目通四五寸廻　籠作一人七間作リ
長五間　差渡一寸六分　石三合一勺七才
唐竹十八本　目通同斷籠作一人二間作リ
長五間差渡貮尺　此石四合三勺九才

一　唐竹二十三本　目通右同籠作一人四間作
但粉并幅一寸五分ヨリ二寸迄籠目四寸五分ニ作立重籠並籠等、寶暦年中ヨリ二尺籠相止、又一
尺七寸カギリ谷川小川ニハ一尺五寸籠モチユ可キ方ノ定法也
右籠詰石積リ算法差渡ヲ自乘シテ圓法七九ヲ乘ジ、長ノ間ヲ乘ジ三十六ニテ除ケバ一本何合何
勺ノ石ノツボ出ル也
三十六ニテ除ケバ差渡ノ寸尺也、コレヲ自乘スルユヱ夫ノ物二ツアリ、間ノ法六ニテ二度除

カザレバ間ノ前ニ不レ成、因テ六々三十六ニテ除也、六二一ニ二度除モ良シ

一　石籠歩當ノ儀一本ト云ハ長五間ニ定タル者也、依テ二間三間籠、或ハ四間籠抔遣フ事有時ハ、一本何分ト目論帳ニ出スナリ

長二間ハ四分長二間半、五分長一間、籠二分

長一間半ハ三分、長三間六分、長三間半七分

長四間八分、長四間半九分

但長間ヲ石籠ノ法五ニテ除ケバ、歩當出ル也

一　公儀御普請定式目論見帳差出ス期月、翌春普請用水ハ前年十月限ニ御代官ヨリ目論見帳御勘定所ヘ差出定例也、近年御普請ノ儀御吟味強ク、少分ノフシンタリトモ御フシン御差出再見有レ之、大造成御フシンハ御勘定方ヘ差出見分有レ之ニ付、御代官ヨリ目論見帳サシ出スヲ延引ニテハサシツカヘニ成ユヱ、用水ハ九月カギリ川除ハ十月カギリニ急度可ニ差出一旨、近年被ニ仰渡一有レ之タリ

一　御國役割普請古來ハ　御朱印地ヨケ地寺社領公家門跡方領地ハ相ノゾク御作法ナリシニ、近年ハ右ノ高ヘモ國役割相州ハ除テナシ、右古法ヲ廢シ高掛リサシ出來高年號等シカト相不レ知トイヘドモ、享保年中ノ事ト聞ユル也

一　國役普請出金割方目論見金高ノ内フシン願ノ村方ハ高百石、金拾兩ノ當リハ私領出金、殘金ノ内

一分通リ村方五百石、公儀御入用下サレ九分通リ國役割ニナル、タトヘバ私領普請願ノ村方

一　普請金百兩

此　譯

村高百石十兩當リ

五十兩　私領出金

殘金廿兩ノ三分通

五兩　公儀御入用

同斷九分通リ

四十五兩　國役割

右普請金國役割ニ成分トモ、先御金藏ヨリ御取替ニテ追々相渡リ、フシン皆出來勘定相濟タル上、國役割ニナル、尤私領出金ノ方御取替無レ之、領主地頭ヨリ差出トモ又村カタヨリ出ストモ、御金差ノ度々差出領主地頭ノ願ニテ御トリカヘニナリタル例ハ無レ之、前年ノ通其邑高百石十兩ノ出金有レ之事故、大郷ニテ邑カタ高多、フシン金少キ時ハ其ノ村當リ多分ナリ居ル村タカ、フシン金高ヨリ出金ノタカ多ク成國役普請加リ、却テ迷惑致事ユエ、因テ私領ヨリ國役造作願フニハ、村高金トミ勘辨イタシ願ハザレバ、及ニ難儀一事也

一　御入用國役割御造作トモ、金子渡方御造作取掛、注進有レ之時金高二分トホリヲ相渡、フシン五分トホリ出來ノセツ注進申出、マタ六七分トホリ渡九分出來ノ上皆渡ニ成、尤モ少々端金等相殘、皆出來ノ上渡事也、御作事並附添居御フシンハ村役人受トリ、手形掛役人奧印イタシ、御金渡ノ御代官役所、又ハ金渡場出張有レ之バ、右役所ヘ邑役人手形持參受ニ取之一、マタ御普請役相懸リ、・支配限手代ニ付添有レ之御普請ハ、村役人手形等懸リ、手代奧印支配役所ヘ持參、役人受取事也

一　御手傳御普請積リ方人足扶持米無レ之、竹木諸色人足モ都テ代永附ル由ニ積ル、竹木諸色ハ定直段無レ之、其時ニ入札ヲ以相定、人足ハ一人永十七文五分宛ノ賃、永定直段ハ勿論、御入用並ニ國役普請違仕立方、竹木諸色入用遣方モ潤澤ニ目論ムコトナリ、入用金高ノ內十分ハ公儀御入用下サレ、九分通御手傳カタヨリ出金也、都テ諸侯方御手傳ト申ハ、其邑其場處百姓御救トシテ仰附ラル事ニテ、近比迄ハ御手傳場處ノ內元小屋相懸リ外ニモ處々小屋有レ之、私領役人相詰諸色モ買上人足遣カタモタ潤澤ニ成タリ、然ルニ廿四五年以前ヨリ御手傳御作事目論見立、御入用御作事同樣公儀御役人計ニ致シ、縱バ金三萬兩目論見高ニハ、其村其場所ヘ落ル金高ハ五萬兩落ル樣ニ成、誠ノ御救ニテ甚村カテ仕立、御造作金モ御金藏ヨリ御取替ニテ、掛リ御代官ヘ御渡、御金渡、場出張役所ニテ御造作役御代官手代立會、追々相渡皆出來其上、小屋場極リ元小屋計建、私領役人兩三人罷越、三四日モ逗留、殘金願御代官御造作役立會ニテ村カタヘ相渡シ、御金藏ヨリ御トリ替分追ノ御手傳方ヨリ上納ニ成相濟、

目論見金高モ少モ不ニ相增ヿ御手傳方爲ニハ至極ナレ共、村々御救ニ成儀以前ト違ヒ甚少シ

但御手傳御普請目論見ハ御普請役ニテ積立ルユヱ、御代官方ニテハ悉ク知レガタシ、諸侯カタ

高一万石ニ御手傳金凡ソ三千兩ホドノ當リニテ、御手傳高極ル由也

一　美濃國笠松ニ堤方トイフ地役人ハ從ニ公儀ニ扶持切米ヲトリ、笠松御郡代支配ヲウケ手代次席ニテ勤方ハ御普請役同樣ナリ、木曾川・揖斐川・長良川抔ノ大川普請、其外用水普請等ニ相カヽル然ル所堤方ニテ用ル間竿ハ、一間六尺五寸竿ヲ以テ間數ヲツモル舊例ナリ、如何ナルユヱゾトイフ事ヲ知ラズ、今更六尺サホニイタスベキニモアラザレバ、當時モ六尺五寸ヲ一間トスル事ナリ

右フシン方一件前書ノ通リ相記入ストイヘドモ、品數多キフシン、其上國々所々ノ樣子ニヨリ、仕立カタモ違ヒ、マタ前々ヨリ其場處ノ仕來リモ有テ、其川ニ應ジ仕立御普請故定法ニ泥ミ一概ニハ云難シ、目論見立ル時ニ至テハ御定法書用水川除普請格式帳、其外諸書物不ニ取調ニシテハ目論見ガタシ、勿論國々處々ノ普請仕立功者無バ悉ク損失有事ナレバ、其筋功者ノ人ニ能々尋ヌベシ

地方凡例錄卷九終

地方凡例錄卷十

目錄

地方凡例錄卷十

一　鄕村請取渡之事

新規御代官被ニ仰付一、並場所替最寄替ニテ鄕村諸書物請取渡ノ儀、御高帳ワタシ濟タル上、引ワタシ日限申合セ、陣屋最寄等ハ引ワタシ方手代村々名主一人、年寄組頭ノ內一兩人ヅヽ伴ヒ、先方陣屋ヘ行キ引ワタスベシ、若双方陣遠方ナレバ、御代官所ノ內便宜ノ村ニテ兩方立會村々呼出シ、請取ワタシヲナス、尤諸書物引ワタシニ可ニ相成一品々ノミ、諸書物取調ベ御代官役所ヘ持參シ、何レモ目錄ヲ以テ引合ス也、請取目錄モワタシ方ニテ記シ持參ナシ、請取方ニテハ印形スルノミニテ、請取ガキ差出ス也、尤先方ニテハ品々申置、文ヲ以テ申オクルトイヘドモ、請取カタニテ、問合カキ付仕立引ワタシ以前右ノカタヘ差ツカハシオキ、先方ニテ取調ベ、夫々有無下ゲ札ニシルシ返スベシ、諸書物引合セスミタル上ニテ、幾日鄕村引ワタスベキ旨日ヲ極メ言合セ、鄕村請取ノ其段兩方ヨリ御勘定所其外屆書差出候事

御代官所御預所村里受取候御屆書

但引ワタシノ分ハ右ノカタニテモ同然ニ差出候事

一　高何程　　何國何郡

是ハ何ノ誰御代官所ヨリ受取

一　高何程　　同國同郡

是ハ同人御預所ヨリ請取

一　高何程　　同國同郡

是ハ何ノ誰御代官所ヨリ請取

高合何程

右ハ此度場所替最寄替ニ付、誰御代官所御預所某御代官所ヨリ書面ノ通、昨幾日鄕村諸書物請取申候、依レ之御屆申上候、以上

年月日

右之通御取箇方　伺方　知行割　諸入用方　御殿中之間　御勝手方御勘定奉行ヘ差出

一　私領上知請取、又ハ御料ヨリ私領ヘ引渡シタル村々トモ右同然也、併私領ハ不案內ニ付諸事請取渡ノ作法、御代官ヨリ差圖可レ有事

一　鄕村請トリ濟タル上村々ヨリ早速爲ニ差出ー可ニ請取ー書物如レ左

一　田畑高反別帳

一　村差出明細帳

但田畠高反別石盛等巨細ニ相記シ有レ之バ別段高反別帳不レ及ニ請取一

一　村書圖

但居村ノ山林田畑色分シテ可ニ仕立一、尤字夫々可ニ相記一

一　三十ケ年割付寫

但本紙相ソヘ爲ニ差出一、追テ讀合濟タル上、本紙ハ村方ヘ返スベシ

一　田畑質入直段並竹木直段

一　前年皆濟目錄寫

右之通可ニ請取一尤私領上知等ニテ、右ノ物無レ之村方不案内ナラバ案紙仕立、組カタ指圖致シ可レ爲ニサシ出一事

御代官所替ノ節渡カタヨリ受トルベキ諸書

一　御取箇帳　　一　御成箇鄕帳

一　三十ケ年取米永籠附帳　　一　御代官所書圖

一　檢地本帳寫　　一　御勘定仕上目ロクウツシ

一　御傳馬宿證文　　一　小物成浮役運上等取立帳

一十分一類取立帳　　一渡船有レ之バ御修覆仕樣帳
一船頭住所等ノ書付　　一酒株帳
一切支丹類族帳　　一獻上物有レ之節引付帳
一廻狀願帳　　一小入用改並人馬割帖
一陣屋書圖並諸證文留公事訴訟留帳　　一村鑑帳
一村書圖
一金銀銅鉄明礬硫黃山并休山帳　　一御殿跡書圖
一堤川除用水橋御普請帳　　一御休泊并書圖
一宗門五人組帳　　一御朱印寺社帳
一河岸市場帳　　一鳥銃改帳
一陣屋小役村村割掛帳　　一村高役引帳
一私領入組有レ之村付帳　　一村村立毛名田分書並坪刈帳
一牢屋有レ之バ書圖又ハ修覆入用屋敷ノ步引付等之書付
一御建立地寺社書付　　一御取箇下組帳
右之通可ニ請取一尤鄉帳御取箇帳御林帳等、其外ノ書物ハ御代官直印ニテ請取渡可レ致、其外ハ手代印形

ニテ可引渡、尤書物ノ内引渡不相成書物ハ借受可寫取、書面ノ外ニモ其場ニテ品品書物可有之也

一　鄕村受取タル上村方ヘ申ワタス書付如左

一　從所々御公儀被仰渡ノ趣ハ不及申、先御代官申付置候諸法度固可相守事

付、浦方有之村村ハ浦御高札ノ趣、海邊御制法ノ儀固可相守申事

一　耶宗門僉議被仰出候通、彌以無油斷可相改事

一　御林竹木ノ儀ハ不申及、百姓持山タリト云トモ、無斷猥ニ伐取申マジキ事

一　御法度ノ田地永代並賴納質買仕マジク候、田畑質物取引仕候トモ、年季定法庄屋五人組加判ニテ相渡可申候

一　借地店借ノ者ハ不申及召仕ノ男女トモ體成請人等請狀無之候バ差置申マジク候、總テ不詳ナル者有之候バ可申進致事

付、歌舞妓繰リ其外見セ物等留置候儀固可爲停止、其外胡亂ナル者ハ勿論無宿體ノ者一夜ノ宿モ貸申マジキ事

一　御拳場御捉飼場ハ最寄村村ニモ前々被仰出候通相心得、御成ノ節火ノ元隨分入念飼犬野犬等不相散様繫置萬事急度相愼候樣、大小ノ百姓水呑店借召仕ノ者等ニ至迄、常々申渡麁末無之樣可仕事

一　御年貢納方ノ儀日限割賦申觸次第無遲滯納、其期月前可令皆濟候、若延引候バ手鎖宿預等

申付、村方ノ痛ニモ候條、其心得急度可ニ上納仕一事

一　火ノ元常常可レ入レ念、若出火有レ之バ近郷ハ不ニ申及一、最寄ノ村村ヨリ早速走付可レ消レ之、近火ニ不ニ罷出一輩ハ品ニヨリ可レ爲ニ越度一事

一　盗賊有レ之假聲立候バ早々出合搦レ之可ニ註進一事

一　博奕三笠付其外賭ノ諸勝負一切仕マジキ事

一　喧嘩口論等無レ之様平日急度申付置可ニ相愼一候、若右等ノ節ハ手負死人等有レ之候バ押ヘ置可ニ註進仕一事

附、手負又ハ怪我人宿借候バ留オキ、早々致ニ註進一可レ受ニ差圖一事

一　往來ノ旅人ハ不レ及レ申、乞食・非人ニ至ルマデ、途中ニ行倒候者有レ之バ介抱イタシ出所糺シ、病氣ニ候バ醫師ニ掛ケ手當イタシ、註進ノ上可レ受ニ差圖一事

百姓水呑ニ至マデ農業無ニ油斷一相勵ミ、遊興ガマシキ事、幷ニ大酒等決シテ仕マジク候、若百姓ニ不ニ似合一行跡有レ之、農事疎ニイタシ、身持ヨロシカラヌ者於レ有レ之ハ、急度曲事可ニ申付一事

一　徒黨強訴ノ儀堅御停止ニ候、若黨ヲムスビ無ニ筋目一儀申立候者有レ之候バ不ニ隱置一可レ申事

附、百姓ドモ願筋有候バ名主組頭ヘ申出、奥印ヲ以テ願出候、村役人加印無レ之ネガヒハ曾テ不レ取上一、品ニヨリ咎可ニ申付一事

一神事・祭禮・佛事・婚禮・祝言ニモ、總テ分限不相應ノ奢ガマシキ儀不レ仕、隨分物入等無レ之様手輕ニ可レ仕事

附、仕來ノ神事ハ格別、新規ノ祭禮等取立申間敷、他所ヨリ迯リ來候流行神文等、決テ請取申間敷事

一百姓帶刀ハ不レ申及、浪人者等帶刀ノ者村內ニ差置申マジク候、前々ニ故由有レ之、帶刀致候者ハカネテ先支配ヨリ申オクリ有レ之、公儀ヘ御屆申置候ニ付、其外ノ者固ク帶刀仕マジキ事

一新開・切添・立出・新見取等有レ之バ、少分ノ場所タリトモ速可レ申、其外起返シ地所無レ隱可ニ申出一候、萬一カクシオキ後日及ニ露顯一候バ、地主ハ勿論村役人マデモ、重キ可レ爲ニ越度一事

一公事出入有レ之候バ村方困窮ノ基候間、常々申合出入無レ之様可レ仕候、若無レ據儀ニテ及ニ出入一候バ、村役人ドモ双方ヘ異見差加ヘ、成タケ內々ニテ相濟候様可ニ取計一候、其上ニモ難ニ相スミ一候バ可ニ訴出一事

一御取箇伺相濟村々割付相渡シ候バ、惣百姓披見ノ上銘々得ト承知仕、拜見證文印致シ可ニ差出一事

一御取箇掛札村々ヘ渡シ候間、名主宅カ高札場等ニ掛置、百姓一覽可レ仕事

一村入用ノ儀能々遂ニ吟味一成タケ省略イタシ、不ニ相掛一様可ニ取計一候、聊ノ品タリトモ惣百姓承知ノ上、可レ致ニ割賦一候、小入用ノ儀ニ付、後日出入無レ之様村役人ドモ兼々可ニ相心得一事

付、村役人江戸表其外他所ヘ御用ニ付罷出候節、御用スミ次第早々歸村イタシ、無益ノ入用不レ掛樣可レ仕事

一御廻米ノ儀米ゴシラヘ、並俵ゴシラヘ等入念仕立、升目缺減等無レ之樣改メ、船中危々無レ之樣可レ仕事

付、名主江戸滯留中、無益ノ入用等不レ掛樣可レ仕候、積帳ノ外入用等、内々ニテ村割ニ仕マジキ事

一自分並手代御用ニ付、巡村ノ節先觸ノ通人馬差出、其外餘計ノ人馬差出マジク候、休泊ノ儀ハ御定法ノ通リ米代請ニ取レ之、所有合ノ野菜ヲ以一汁一菜ノ外、馳走ガマシキ儀曾テ仕マジキ事

附、檢見ノ節村役人禮讀(マヽ)春法道具等持候人足ノ外、無益ノ人足差出マジキ事

一手代並家來召仕等ニ至迄、金銀米錢衣服諸器物等ハ不ニ申及一、輕キ品タリトモ音信一切仕マジク、萬一心得違等仕、賄賂ガマシキ儀有レ之候バ、急度曲事可ニ申付一事

右ノ條々一事モ無ニ違犯一急度可ニ相守一者也

年月　　何ノ誰

右被ニ仰渡一候御法度ノ趣一々承知仕奉レ畏候、若心得違ノ者有レ之、爲ニ一事一モ於ニ違背仕一ハ、如何樣ノ曲事ニモ可レ被ニ仰付一候、爲ニ後日一惣百姓連印仕、御請書差上申候所仍如レ件

年月日　　其國其郡其村

名主
組頭
惣百姓

一 平日村方ヘ可ニ申渡置一書付、享保六丑年二月御代官伺ノ上村方ヘ御渡候書付如レ左

村々大小ノ百姓前々ノ通五人組ヲ極メ置、組合ニ外レ候者無レ之樣ニ致シ、諸事御法度ノ儀固ク相守リ、モシ人柄惡ク家業不レ勤放埒ノ者有レ之バ、無レ隱名主・組頭申合可ニ訴出一事

一 惣百姓諸事ニ付、大勢集リ神水ヲノミテ、一味同志徒黨ガマシキ儀堅ク制禁ノ事

一 百姓持高ニテハ十石以下、反畝ニテハ一町歩以下ノ田畑ハ、子供并兄弟ヘ割掛申マジキ事

一 田畑山林等ユヅリ候儀存生ノ内遺狀ニ記シオキ、名主組頭ノ内立合サセ、加印致サセ置、後日ノ出入無レ之樣可レ仕候、一分ノ心次第ニ書置候遺狀ハ、死後ニ至リテ立ガタク候事

一 村中百姓有來ノ家作ノ外、猥ニ家作ノ外仕マジク候、無レ據子細有レ之バ御代官ノ可レ請ニ差圖一事

一 永荒場ノ內起返シノ田畠有レ之バ、無レ隱書付ヲ以可ニ申出一候、總テ新開ノ田畠ハ切ソヘ、或ハ水アレ場等ノ立カヘリ、又ハ高外ノ見取場等可レ成地所有レ之候、只今マデ年貢不ニ納來一候地所有レ之バ、無レ隱可ニ申出一候、萬一外ヨリ相知レ候バ地主ハ不ニ申及一、名主・組頭等マデ可レ爲ニ越度一事

一 新規ヲ企テ神佛ヲコシラヘ、惟シキ儀ヲ申觸ラシ、物取ノ爲人集仕マジク、タトヘ物取ニテハ無

レ之候トモ、只今マデ不ニ仕來一事ヲコシラへ、神佛ノ類村迄ニイタシ入ヨセ仕ルマジキ事

一 田畑屋シキ山林等ニ至マデ、永代ノ賣買一切カタク停止ノ事

但年季限ノ賣買ニテモ、其村並ノ直段ヨリ倍銀ニテウリカヒ不レ可レ仕事

一 賴納ト名ヅケ、田畑屋シキ山林等直段ヨリ倍銀ヲ以質入、又ハ年季賣買ノ積リイタシ質ニ取、年季ニウリ、銀主ハ年貢役ヲ不ニ相勤一候テ、右質ニ入亦ハウリ候地主ヨリ年貢役等勤候儀、堅停止ノ事

一 質ニ入候田畑屋シキ山林等、十ケ年ヨリ十五ケ年マデノ年季ニ極置候バ、年季アキ五ケ年ノ内ニテモ可ニ訴出一、又二三ケ年ノ年季ニテ年季アキ三ケ年ノ内ニ訴出候モ可レ及ニ沙汰一候、右ノ年數ヨリ過候バ取上マジク候、證文ニ年季ノ限リ無レ之、金子有合次第可ニ請返一由ノ質地ハ其年號十ケ年ノ内ニ訴出候ハ可レ及ニ沙汰一候、但自今以後ハ質地ノ年季十ケ年ニ可ニ相限一事

附、質地ノ證文ニ名主・加判可ニ取置一候、置主名主ニ候バ組頭・年寄加判可レ仕候、右加判無レ之質地ハ取上マジキ事

一 質地ノ儀、再質ニ入候節、銀高ヲ增質ニ取マジク候、總テ質地ハ其並ノ直段ヨリ倍金ノ手形ニテ貸渡仕マジキ事

一 田畑・山林・ヤシキ・ウリカヒト不レ申ユヅルト名付、金銀取候テユヅリ渡シ候儀、永代ウリカヒ

ト、是又同然タルヘキ事

一 質地請返ノ願地主死後ニ至リ、地ヌシノ子カ孫ニテ無レ之外ノ親族ヨリ申出候バ、請カヘサセ申マジキ事

但地ヌシノ子孫タリトモ、存生ノ内分家イタシ別株ニ相ナリ居候カ、亦ハ養子ニツカハシ他家相續ノ子孫願出候トモ、本家跡式相立有レ之テ、タトヘ血筋ハウスクナリ候トモ、他家ノ子孫ヘ請カヘサセ候儀ハ不ニ相成一事

一 毎年御貢割付免定出候バ、村中大小ノ百姓出作ノ者マデ披見仕ラセ年貢割合隨分入念無ニ相違一様ニ可レ仕候、右定免本書無ニ違亂一様ニ寫レ之、名主組頭立合ニテ郷帳藏戸前ニ張置可レ申候事

一 總テ田畑野方林等開發候テ新規屋シキニ仕候儀停止ノ事

但村中ニ有レ之古道ヲ止メ、私トシテ新ミチヲ付候事仕マジク候、新田畑ノ外前々ヨリ家無レ之場所ヘ家作イタシ、又ハ出茶家等不レ可レ作候、若子細有レ之候テ新家作ノ事ネガヒ出候ハ、御代官可レ請ニ差圖一事

一 父兄又ハ親方分ノ者ヨリユヅリ受候テ、或ハ質流レ田畠ヤシキ山林等、又ハ町場ノヤシキ買受候バ、早速其所ノ名主五人組ヘ斷リ、當然持主ノ名前ニ書替可レ申候、若名前書替不レ置出入ニナリ候バ、其地所公儀ヘ可ニ取上一事

一　水帳名前帳ノ反別、歩付ヨリ若歩廣ナル田畑ヤシキ山林等ヲ前カタヨリ持來リ候テ、右本歩ヨリ増ノ餘歩ヲ村分ニ候カ、質ニ入又ハ年季ウリニ致シ候事、一切イタスマジキ事

一　意趣遺恨有レ之候テ、人ノ門ヘ張紙亦ハ落書致シ、總テ人ヲ罪ニオトスベキ事巧ナル僞リヲカマヘ候事仕マジキ事

一　前々ヨリ村中入會ニ致シ來リ山林・秣場等ヲ、相對ヲ以テ分モチ切ニ割合申マジキ事

一　小作田畠ノ事二十ケ年ヲ過作來リ候バ、可レ爲ニ永小作一ノ事

右之通村々百姓水呑等ニ至ルマデ、少モ無ニ違背一急度可レ守者也

享保六年丑二月

御政事向ノ儀同五子年御代官ヘ被ニ仰渡一ノ趣、村々ヘ申渡置タル御書付如レ左

覺

一　米穀ノ類損失無レ之能出來候樣、常々ニ無ニ油斷一可ニ申付一候事

一　有キタリ候田畑損毛無レ之樣節々心掛、普請申付亦ハ川除等ノ惡ク成タル所ハ、ヨク爲レ致候事專要ノ事

一　新田出來候事ハヨロシキ事ニ候ヘドモ、外ノ害ニナラザレバ申付可レ然、大方古田畠或ハ秣場等ノ障ニナル事度々有レ之ニ付、左樣ナル所ハ可レ爲ニ無用一事

一差當リ入用モ無レ之ニ山林伐出シ、交易イタシ候儀堅可レ爲ニ無用一事

一食物ハ勿論其外諸色潤澤ニ候トモ、猥ニ遣ヒステ不レ申樣、酒・菓子等ムザト多ク作リ出シ申サヌ樣、可レ被ニ相心得一事

一當時賣買ノ諸品、別テ不足ナル物モ無レ之所、此上物數多ク仕出候トモ、人ノ分限ヲ越テ物ヲツカヒ候ヘバ、事足リ不レ申、畢竟國ノ害トナリ、無益ノ事ニテ米穀幷藥種ノ外ハ金銀衣服諸器物ニ至マデモ、新規ノ品ハ勿論、有キタリ候物ニテモ相增シ仕出シ候分ハ、ミダリニ申付ラレマジキ事

一有キタリ候外、遊所見世物幷商賣(マヽ)テニ人多ク集候樣ニイタシ候儀、其所ノ縣ヒト申立ルト云トモ、ミダリニ被ニ申付一マジキ事

一故ナクシテ商物猥ニ高直ニウリ出候バ、過分ノ利得ヲ貪リテノ儀ニ候條被レ遂ニ吟味一、右樣ノ非法爲レ致申マジキ事

　但商物一所ニ請込、下直ニ可ニ賣出一ナド、申候ヘドモ、是又取上被レ申マジキ事

一國々所々ヨリ出シ候諸色、運送不自由ニ候カ、途中ノ妨ニテ損失無レ之樣、心ヲ付可レ被レ申事

右近年諸願事取上申サレズ候所、去年以來承屆候樣被ニ仰出一候、夫ニ付諸人一同ノ御救ニ可レ成儀ハ可レ被ニ申付一、左モ無レ之品ハ、人々分限ヲ守リ、費イタサヌ樣ノ御仕置ヲ專ニ相心得ラレ申付ラレベク候、此外色々ノ儀ヲ申立候トモ、其事ヲ取アツカヒ候者ノ得用ニハナリ候ヘドモ、諸方ニ行渡

リ命ヲツナギ候事ニハ不ニ相成一、却テ悪事等ノ出來可レ申候條件ノ趣、能々相考へ可レ被ニ申付一候、以
上

享保五子年五月

右御書付町奉行・御勘定奉行へ相渡シ、御代官へモ命渡サレ、村々心得ノ爲觸置候樣可レ被レ渡候事

一　御傳馬宿請取タル上、地方ニ付タル諸書物ハ外村々同然タルベシ、宿場ハ出火亦ハ捕者尋者等アリ、或ハ不時ノ變事等アル時、外在郷トハ違ヒ、吟味六カシク委細ニ糺明シテ、其上ニテ往來筋武家平人ノ通ル事モ多ク、不意ノ變事モアルユヱ、手當ノ爲宿書圖クハシク仕立サセ、小間表口裏行屋シキ、一軒家別毎ニ是ヲ記シ、本陣・問屋・茶屋・旅籠屋、亦ハ外商人・百姓・馬役・歩行役、夫々名前ヲ記シ、家居ノ坪數・土藏・物置・隱居・別宅・裏店其外明屋シキ、亦ハ明地・堀・溝・路並裏町ハヅレノ田畠マデ、分間書圖同然ニ仕立、早速請取ベシ、遠國ノ宿場ナラバ二枚出サセ、一マイハ陣屋ニ差置、一マイハ江戸役所へ差出シオクベシ、變事計ヒノ爲ニモアラズ、朝鮮人來朝休泊ニ相ナル節ノ爲ニモナリ、若又御上洛ノ時ノ爲ニシテ、クハシク書圖・書付ヲソヘ、差出サセ取オクベキ事

一　郷村ノ儀、常々心掛、諸事吟味ニ心得オクベキ事村々ニアリ、御高札場・築地・石垣破損セヌ爲、常々掃除申付ベシ、御高札古ク文字見エ難クバ、其段支配役所へ申出、書直シ亦ハ墨入可レ仕事

一　御飼附場・御鷹野場、或ハ往返御傳馬場・船場、又ハ御建山御關所國境村境等吟味シテ書圖仕立、

夫々ノ番人年日附置、村々浦々上中下見分シテ、十ヶ年以後取簡割賦帳寫取、是又先役ヨリ郷村引ツタシノ節、反別郷帖村方覺記ノ書物、並ニ百姓町人ノ風俗、思入マデタヅネオキ、萬事ニ念ヲ入ベシ

一 廻村ノ節、先公儀御法度ノ趣申渡シ、其外仕置言付ルハ知レタル事ナレドモ、諸事クハシク云聞カシ、百姓・町人家業油斷ナク、身持正シキ様ニ御仕置帳ヲ、名主方ニテ小百姓ドモヘ毎月讀キカセル様可ニ申付ニ事

一 郷村見分帳仕立オクベキ事

田畑反歩位付・家居・海川・山林・竹木・芝野・艸刈場・山方・野方ノ品、總テ運上物、或ハ穀物賣出シ所、紙・漆・蠟・油・菜種、此外總テ有様ノ類、其外魚鳥・乾物等商賣ノ品、男女トモ働ノ有無、金銀ノ動キ等クハシク記シ、尤先年ヨリ仕ナレザル事ニテモ、百姓ノ爲ニナル事ハ仕習フ様ニ言付、諸職人・獵師・漁者マデ改オキ、又此所ニ無キ物ニテ不自由ナラバ取ヨセ、或寺社・神子・山伏・座頭・猿樂・船子・乞食ドモノ族、其所ノ餘力ニテ世ヲワタル者ノ多少ヲ考ヘ、又右ノ輩他所ヨリ其地ニ金銀取集メ助力ニナルカシルシオキ、取簡ノ節可ニ考合ニ事

一 村方ヘ言ツタヘヌ儀、若心得違ニテ其理ニ通ゼヌ者アラバ、ヨク呑込様ニクハシク言諭シ、其上ニモ違背ノ者アラバ、其身ニ應ジ日數ヲ定メ、科トシテ堀川除、或ハ竹木植立、其外所ノ爲ニ成ベキ普請等申付、罪ナキモノハ御大法通リ可ニ申付、又諸事信義ニテ出精スル者ニハ、相當ニ褒美ヲ與ヘ、勿論他

村ニテモ聞ツタヘ、自他トモ行跡ヨクナル樣ニ取計フベシ
但褒美ノ儀ハ大切ナルヿ也、村役人或ハ下役小者等ノ申立タルヲ取上、ヨク〳〵吟味モセズ褒美ヲ與ヘ、又ハ科ナド申付タル上、若間違等アリテハ諸民歸服セズ、却テ政事ノ妨ニナルモノ也、褒貶ノ儀ハ其身ハ勿論外々ノ者モ尤ト思ノ樣ニ、間チガヒ又ハ贔屓ノ沙汰ナキ樣ニ取計フベシ

一 村中ノ賣物其所ニ不似合上好ノ衣服・諸器物、其外何ニテモ不審ナル物賣ニ出ルハ、盜モノカ何ゾ故アル物ニテ、何レノ道ニシテモ其地ニテ商ヒサセマジキ事也、祭禮等ハウリモノヲ飾リ、人ヨセスル所、喧嘩口論等セザル樣、名主役人へ云渡スベシ

一 農業ノ節耕シ耘リ、夫々ノ手入時ニ後レザル樣ニ毎度云ワタシ、亦役人村方へ出ヨク吟味シテ、自然一人百姓病氣ノ者アラバ、親類五人組ヨリ助合耕作仕付、空地等無キ樣急度申付、少シニテモ荒畑ナキヤフニ兼々云付オクベキ事也

一 百姓ハ耕シ培ヒ、耘リ稼シテ、奢ヲ止メ費ヲ省テ、力ヲ付足ヲ强クスル時ハ、己ガ子孫マデ恐愼ミ制法ヲ重クシ、收納ヨロシクナル者也、貧民ハ禮儀ヲシラズ、貢納モ後レル者アリ、是以テ公禮民服ト心得、民ノ力强ケレバ、自然ト公儀地頭ノ御爲ニナル、疲レ百姓ヲ不扶シテ、取立キビシケレバ、下々困窮ニオヨビ、色々種々ノ凶事起リ、終ニハ一國ノ災ト成也

一 正月早々ヨリ繩ヲナヒ、俵ヲアミ、筵ヲ織リ、又農具ヲ修理シ、麥作ノ手入、田地へ掛ル井溜ノ

普請、或ハ家ノ修覆モ冬ノ中ヨリ手クバリシテ、ヨク心ガケルベシト云渡シ、正月ハ月待日待等ノ席ニテ、當座ノナグサミニテ双六寳引等、始ハ事輕ク次第ニ大キクナリ、錢ヲ失フノミナラズ、暇ヲ費シ家職ノワスレ、正月過テ二三月マデモ勝負事ニ掛リ、種々惡事出來リ、取分ケ若キ者不行跡ノ甚ニナリ、後ニハ其身ヲ損ヒ、至終ハ一村ノ害トナリ、耕作時ニ作物出來ズシテ、年貢不足シ、ヨロシカラザル訴訟モ多シ、ケ様ノ法立過テ申渡ト云トモ、村役人ノ目ヲシノビ、始ハ一錢二錢ノ小事ヨリ起リ、段々增長シテ右ノ如キ不埒ニ至リ、正月早々ヨリ家職ニ取付、二月ヨリ次第々々ニ暇ナキヤフニナラバ、自然ト遊ブ事モナク、冬中初春ヨリ名主•組頭油斷ナク申付、農事ニ取掛ルヤフニ計フベシ一身上ヨキ百姓ハ田畠ヲ買トリ、彌々ヨロシクナリ、身上ワルキ者ハ田畑ヲウリ益々難儀ニナル、地面次第ニアシク成モノ故、永代ウリ嚴ク停止タリ、亦質地ニ入、終ニハ流地ニナリ、或ハ田畑書入ニシテ高利ノ金ヲカリ、返濟ニ差支ヘ、利足倍ニシテ年季モ切ルユヱ、借金ノ方ヘ書入〻、田畠ヲワタシ、先祖ヨリ傳リシ地所ニハナルヽ事、畢竟永代ウリ同然ナリ、或ハ家業ノ筋違ヒタル町人ノ手ニワタシ、其年限小作サセルユヱ、預高ノ餘分ヲ得用ト見テ作ルニ付、末々地面ノ爲トテ耕シ肥シモ力モ入レズ、生レ附タル地位ヨリ格別力オトロヘヨロシカラヌ事故、質地ニ入ルトモ直ニ地主モ精出シテ耕作シ、流地ニ成ヌ樣可二心掛一旨、双方ヘ申附、何トゾ流地ニセズ、先祖ヨリノ地面減サヌ樣諸事了簡可レ有事也

一　村中ニ富有ナル者ハ村中ノ助ニモナリ、亦衰微ニモナルベシ、貧窮ナル者ノ田畑ヲ書入サセ、高利ノ金銀ヲ貸付、居村ユヱ年貢上納ナキ以前、貸方ヘ引取、彌年貢不足スベシ、尤借金銀米錢年貢、皆濟ナキ前ニ一切返濟仕マジキ旨兼テ申渡シ置タルユヱ、又年貢不足ノ儀カシツカハセドモ、高利ノ分利倍等ニテハ、彌小百姓痛ニナルユヱ、一割半ヨリ上ノ高利ハ樣自然ト相對ノ筋出來ル樣、兼テ仕置ノ了簡モアリタキ事也、總テ富有ナル者、百姓ヘ役人目見セヨケレバ、益奢リテ惡ク、又惡ムベキニモアラズ、強テ近ヨルベカラズ、貧賤ナル者、耕地取ツヾク樣ニ意ヲ用ユベキ事ナリ、困窮ノ村々ニハ醫師・出家・山伏・浪人ノ類少シ、夫婦イサカヒ多キモノナリ、富有ノ村ニハ諸勸進多ク、遊民アリ、總テ寺社ノ修覆・家作、或ハ祝言、年着ノ仕樣、衣服マデ心ヲ付、奢ヲ止ルベシ

一　麥畑多ク、木綿・菜・雜穀・藥種、又四木・三草ノ多少、何レモ事缺ル者無カ、商人多キ村カ、代物取村カ、亦往來筋ニテ旅人ノ金銀落ル所カ、諸事考合シ取箇ノ勘辨ニスベシ

一　上田上地ニテ、滿作ニテモ外ニ稼ナク、作得計ノ村ハ了簡有ベシ、亦ハ古檢・新檢・反別・延繩・山畑・砂畑・切ソヘノ場所、役夫掛リ物ノ大小、五ケ年ホドノ小割帳ヲ寫シ取、諸事可ニ考合ニ事

一　昔ヨリノ空地芝原ナド田畑ニ開發シ、可レ然地所ノ者ニ相タヅネ、前々ニ子細アリテ新田ニ成ガタキ分、其原付ノ秣場カ田畠肥ノ爲草間ニテ差オクカ、左ノミ妨ニモナラヌ場所ナラバ新開仕立ベキハ勿論、開發地所樣子ニヨリ三年カ五年、鍬下年季ヲツカハシ、作リ取ニサセ、其上町歩相改、道代畑

界筆ノ引、反別極ムベキ儀晶リタルハ、所ノ貴微久取箇ノサハリニナル故、ユルユル打取モ、四五ヶ年ノ内ハ輕ク申付、追々新開切ノベモ百姓出精シ仕立ル樣ニ計フベシ、扨高ヲ付ル儀地面ノ位ヲ考ヘ、近邊田畑ノ並ヲ見合セ、水旱ノ損、糞場ノ樣子等品々考合セ、石盛可レ極、石盛極ルニハ、其村ノ上田ト見立タル一坪ニ籾一升アレバ、一反步ニ三石五合ズリニシテ米一石五斗トナル、則十五ノ盛ト定メ、又一ツボニ籾一升一合アラバ米ニシテ一石六斗五升アリ、此五升ノ端ハステ、十六ノモリト定メ、然モ新開地性定リナキ内ハ、年々寄升目不同有べキ平地・山路日受ノヨシアシ、其外色々地味ヲ考ヘ、ツボ刈ニテハ十五ノモリニ當ル所モ、右ノ心得ヲ以テ或ハ十三四モ十六七モ土地相應ニ定ムベシ、中田・下田、大凡二斗下リ三斗下リ、亦一斗下リニテモ、上中下ノ位ニ准ジテ定ムベシ、段取ハ六段九段ニモ地味ニ由テ定ムベシ、畠境ハ所ニ合ベキ木ヲ考テ植ベシ

一　地面ヨロシキ所々、村居アラバ、其村ノ第一ニ高キ所カ、又山アラバ山ソヒニ村居ヲ引、村居跡ハ田畠ニ開クベシ、ケ樣ノ所ハ村中ノ下水惣田ヘ落込、肥シニ成也、家シキ跡ハ作物ヨク出來取箇モス、ミ、百姓ノ爲ニモヨロシク、實ニ可レ然也

一　在鄕ハ野山ナク、草苅場モナク、薪ナケレバ、下畑ヲツブシ萩種ヲ植、年々シゲリタル時刈取、雜穀ノカラニマゼ薪ニシ、或ハ秣モ出來、田畑納物コロシ、少シニテモ畑ヲツブス事ハ停止ナリト云ドモ、又其代リ女童モ蓮ヲオリ習ハセ、其外ノ手業ヲ教ヘ賣出シ、夏成ノ多足ニスベシ、必一ガイニ泥

ムベカラズ

一　年貢其外勘定ノ儀、役人・庄屋・小百姓立合ニテ相キハメ置、或ハ廉限リニ立合、百姓ニ印形サセ、名主ヨリ小百姓方ヘ手形ヲ出シ、帳ノ結目ニ役人押切判ヲシテ、以後庄屋・小百姓ト非分ノアラソヒナキ様、重テ吟味ノ爲ヨロシ

一　鄕中ニテ諸役人入用ノ外、無筋ノ掛リ物ナキ様ニ帳ヲ拵ラヘ、其場ニテ付立、重テ出入ノ無キヤフニ萬事ニ氣ヲ附ルベシ

一　鄕村鑑帳一村限リニクハシク記シ、未ダ役鳥銃、幷武具・馬具、或ハ侍筋ノ覺アル者、大力ノ者、其外品々、池川ノ淺深マデ記シ置ベシ

一　男女人別改ニテ其分限ヲシリ、大小明細ニ付立、宗門吟味シテ牛馬數家數、幷ニ間尺物置、又ハ樹木何ホド、山林・竹林等、又職人品々改オクベシ、若他所ヨリ來リ田畑モ作ラズ、定リタル家業モナキ者ハ、シバラクノ間トテモ決テ差オクマジキ事

一　巡村ノ節土地ヲ考ヘ、川上川下ニテ地形ノ高下土砂取バノ様子、輕重淺深杖ヲ以テ考ヘ知ベシ、草木ノ生立ニ心ヲ付、土地ニ合フ竹木ヲ仕立、總テ是等ノ儀ヲヨクヨク考テ敎ユベシ

一　家シキ周リノ堀、竝冬田ニ水ヲ入オクベシ、堀水ハ火事ノ節ニヨシ、冬水アル所ハ夏モ水保ヨシ、亦雪久シクアレバ夏モヨシ

一　田畑名寄帳ニ、上田・中田・下田モ同斷、並家シキモ銘々ニ反歩ヲ記シ、此分米何ホドノ高何ホド誰ト人別ニ記シ、一村惣寄ニ田方何ホド畠方何ホド、並麥田・大豆田肩書ニシテ、他村ヘ越石・出作等マデニ、巨細ニ帳面ニ仕立サセ取オクベシ

一　親ノ田地高下十石、内反別一丁歩ヨリ内ハ、兄弟ニ分ケユヅラセマジ、弟ハ奉公ニ出ルカ養子ニツカハスカ、兄ト一所ニ居テ田畑ヲ作リ、萬テハタラキ亦ハ職人ニモスベシ、十石一町ヨリ少ク分ル時ハ段々小高ニナリ、末々ニテハ水ノミ同然ニ成テ互ニ苦ム、是ヲ分ルヲ昔ヨリ田分ト云テ馬鹿ニタトヘタリ

一　村々ニアル御高札並浦高札如レ左

　村々ニ有レ之高札之寫

切支丹宗門累年御制禁也、自然不審ナル者有レ之バ可二申出一、御褒美トシテ

バテレンノ訴人	銀五百枚
イルマンノ訴人	銀三百枚
立歸リ者ノ訴人	同斷
同宿並宗門訴人	同百枚

右之通可レ被レ下、同宿宗門ノ内タリトモ申出候品ニ寄、銀五百枚可レ被レ下、隱置他所ヨリ於レ顯ハ、

其所ノ名主並五人組一類共、罪科ニ可レ被レ行者也

正德元年五月日

右之通被ニ仰出一ノ趣領内ノ輩堅可ニ相守一者也

領主名

在々ニテ若鳥銃ヲ打候者有レ之バ可ニ申出一候、幷御止場ノ内ニテ鳥ヲ取候者捕候カ見出候バ、早々可ニ申出一急度御褒美可レ被ニ下置一者也

享保六年二月

右御高札御料・私領トモ、村別ニ二枚ヅヽ有レ之、尤遠國私領ニハ高札無レ之村方モ多シ、町場・市場・河岸・宿場等ハ、江戸日本橋ニ有レ之通ノ大御高札有レ之也

浦高札之寫

條々

一 公儀ノ船ハ不レ及レ申、諸廻船トモ難風ニアフ時ハ助船ヲ出シ、船破損セザル様成丈可ニ精入一事

一 船破損ノ時ハ其所近浦ノ者共入レ精、荷物・船具等可ニ取上一、其場所ヘ荷物ノ内浮物ハ二十分一、沈物ハ十分一、川舟ハウキ物ハ三十分一、荷物ハ二十分一、取上候者ヘ可レ遣事

一 沖ニテ荷物刎ル時ハ、着船湊ニ於テ其所ノ代官・手代・庄屋出合遂ニ吟味一、船ニ相ノコル諸品・船

具等ノ分、證文可ㇾ出事

附、船頭浦々ノ者ト申合、盜之例者拾タル由於㆓僞申㆒ハ、後日ニ聞ト云ドモ、船頭ハ勿論申合セル輩、悉ク可ㇾ被ㇾ行㆓死罪㆒事

一　港ニ長ク船ヲツナグ者アラバ、其子細ヲタヅネ、日和次第早々可ㇾ爲ㇾ致㆓出帆㆒、其上ニモ令㆓難ㇾ澁㆒バ何方ノ船カ聞届ケ、其所ノ地頭・代官ヘ急度可㆓申達㆒事

一　御藏米廻船ノ船具等水主不足ノ惡船ニ不ㇾ可㆓積立㆒、幷日和ヨキ節、船令㆓破損㆒バ船主沖船頭可ㇾ爲㆓曲事㆒、惣テ理不盡ノ儀申掛、又ハ私曲有ㇾ之バ申出、雖㆓同類㆒其科ヲ免ジ、御褒美可ㇾ被ㇾ下ㇾ之、且亦仇ヲ不ㇾ成樣可ㇾ被㆓仰付㆒事

一　自然寄舟並荷物於㆓流來㆒ハ上ゲ置ベシ、半年過其主無ㇾ之ハ、上ゲオキ候者可ㇾ取ㇾ之、若右ノ日數過出來ルト云トモ不ㇾ可ㇾ返ㇾ之、然ト云ヘドモ、其所ノ地頭・代官ヨリ可㆓差圖請㆒事

一　博奕總テ賭ノ諸勝負、彌堅ク可ㇾ爲㆓停止㆒事

右之條々可㆓相守㆒、若惡仕候者ニ於ハ可㆓申出㆒、急度御褒美可ㇾ被ㇾ下ㇾ之、科人ハ罪ノ輕重ニ隨ヒ可ㇾ爲㆓御沙汰㆒者也

正德元年卯五月

一　前々ヨリ浦々ニ高札相立、公儀ノ舟ハ不㆓申及㆒、諸船頭モ猥ナル儀無ㇾ之樣被㆓仰付㆒候所、難風ニ

アヒ候節モ所ノ者ドモ助ニモ不ニ相成一、却テ破損候様イタシ掛テ荷物ヲ爲レ刎、或ハ上乘船頭ト申合セ、不法ノ儀モ有レ之様相聞不屆候、御料ハ御代官、私領ハ地頭ヨリ遂ニ吟味一、毛頭不埒不レ仕様急度可ニ申付一候、若此上不正ノ儀於レ有レ之ハ後日ニ相聞候トモ、其者ハ不ニ申及一、其所ノ者マデモ可ニ重科ニ行ハル一、其上御代官地頭マデ可レ爲ニ越度一事

一　御城米船、近年破損多ニ付、今般諸事相改、別テ大切ニ可レ仕旨申渡、船足ノ儀モ深ク不レ入様、大坂奉行其外國々ノフネハ其所支配ノ御代官ヨリフネ足定ノ所ニ極印ヲ打、船頭水主人數不レ減少レ様急度申付、令ニ運送一ルハズニ候、因レ之湊ニ寄ルフネノ分ハ、右ノ人數並ニフネ足極印ノ通リ無ニ相違一ヤ、送狀ト引合セ急度相改帖面ニ記オキ、上乘船頭印形爲レ取、右書物其所ニ留オキ、御料ハ御代官、私領ハ地頭へ差出シ、又同斷役所ヨリ御勘定奉行マデ可ニ差出一候、且又極印ヨリフネ足深ク入候フネ有レ之バ、積俵數ヲアラタメ、御城米ノ外船頭私ニ運チンヲトリ、他ノ米穀或ハ諸荷物等積入候カ、亦ハ水主人數不足ノ分ハ、其所ニテ慥成者雇ハセ、水主ヲ爲レ致出船候上ニテ、此故早速御勘定奉行可レ訴之事

一　破損有レ之節ハ其浦ヨリ有體早速可レ訴事

右ノ條々急度可ニ相守一、若違犯ノ者於レ有レ之ハ詮議ノ上可レ被レ行ニ罪科一、不吟味ノ子細モ候バ、其所支配ノ御代官亦ハ地頭可レ爲ニ越度一者也

右浦御高札船着湊ニ有レ之、私領ノ分ハ領主地頭奥印有レ之也

一　御料ニテモ私領ニテモ郷村諸書物請取スミタル上、廻村狀致サレ、早々役人差出シ廻村致サレ、村差出明細帳ニ引合セ、諸事相尋ネ村差出帳ニ洩タル儀可レ有レ之ニ付、悉ク吟味イタシ、手帳ニ記ベシ、檢見巡村等ノ時見合サセ、耕地ニテモ一巡殘ラズ見分イタサセオキ申ベシ、別シテ山附等ノ村方ハ隱耕地モ有レ之モノ故、村書圖ニテ字引合セテマハリ用ヒ、惡水路川除等ノ普請場所クハシク見分スベシ、其外他村境或ハ御朱印地等有レ之バ、是又田畑山林境等タヅネ見覺エオクベシ、元來地廣繩ノビノ村方ハ、又地セマ繩ツマリカ見分イタシ、其外秣場萱場作場ノ手都合ノ善惡、村柄ノ豐窮人米ノヨシアシ、作物ノ品々、男女稼ノ有無等マデ巨細ニ相糺シ、手帖ニ記シ置ベシ、勿論廻村ノ節、村役人幷長百姓ノ内ヨリ五六人モ呼出シ、申渡タル法度ノ趣彌相守リ、實貞ニ農業出精シ、家職大切ニ相勵ミ、年貢其外諸納物遲滯無レ之納メ、其外ニモ百姓心得ニ可レ成儀、一トトホリ申渡シ受書可レ取レ之事付、巡村休泊ノ節、御定法ノ木錢米代ヲハラヒ、所有合ノ野菜ヲ以、一汁一菜ノ外、馳走ガマシキ儀ハ決無レ之樣、精々申付、可爲(マヽ)無其外賄賂ガマシキ儀ハ不レ申及、土産ノ類何ホド輕キ品ニテモ、音物一切不レ請レ之、下役小身等心得チガヒ無レ之樣、ヨクヨク廉直ニ可レ取計、他ノ支配ヨリ聽取タル村方ハ、最初ハ支配役人ノ心得モ不レ知故、音物亦ハ馳走ナド致シ、諸願事等ノ爲ニモ成ヤイナヤ、必爲レ試進物等モイタシ、酒・肴ナドモ出シ、馳走ガマシキ儀モイタス者也、最初ヨリ手緩ク村方看及テ

ハ、始終甚ダ不締ノ基ニ成事故、郷村メグリ候節ハ、随分手堅クイタスベシ、然モ村方困ル樣ナル心取、諸事六ヶ敷權威强クイタシテハ、村役人始メ百姓ドモ氣受アシクナリ、始終ノ害ニモ成事故、物和カニ只コヽロ安立無レ之樣ニイタスベキ事肝要也

一 分鄕之事

知行渡ノ節、村方割合出來兼ルニ付、一村ノ内分鄕ニナリ相渡ル事度々ナリ、村高ハ御勘定所知行割掛リニテ分リ、御高帳渡レドモ田畑其外諸色引分ケハ、御代官ニテイタシ候事也、分鄕高ニ應ジ年貢小物成、其外山林諸色百姓數マデ分ル、此割ヲタトヘバ、惣村高五百石ノ内二百石分鄕ニ私領ニワタル、三百石ハ御料所ニ殘ル時、五百石ヲ法トシテ二百石ヲ鐲ケバ四トナル、則四分ノ年貢小物成山林百姓員、其品何品ニテモ其品々ノ惣辻、此四歩ヲ乘ジテ掛出タル員、分鄕ノ當リニナル、ノコル分ハ十ト置、右四ヲ引六トナル、左レドモ百姓ノ法ノ如ク分テバ、一村ノ百姓ノ持高一人毎ニ出作入作トナルユヘニ、持高一軒ヅヽニ片寄セ、二百石ノ高ニ合セ、百姓ノ軒員ハ右四分六分ニ不レ分トモ苦シカラズ、右ノ通ニシテ端高マデ分ル樣ニハ成ザル故、百姓ノ内二三軒ノ持高ヲ分ニシテ、御料ニテモ私領ニテモ一方ヲ持ソヘニスベシ、勿論百姓モ成タケ四分六分ニナル樣百姓持高ノ多少ヲ割合大テイニ分ベシ、百姓片附ズシテハ萬一闕所等有ル時ハ甚差ツカヘニナル、前書ノ通リ分ルト云ドモ、町場カ又ハ在鄕ニテモ上宿・中宿・下宿ナドニヤト、幷ビワカリ家居ナラバ町立タル所ヲ御料私領入マゼリニ分

テヨロシカラズ、上宿トカ下宿トカ亦ハ南側トカ北町トカ一方付ニ片寄テワケルベシ、然ドモ町場上中下ノ宿、並ニ百姓ノ豐窮アリ、タトヘバ上宿・下宿ハ總テ貧乏ノ小百姓、中宿ハ何レモ相應ノ百姓ナルユヱ、片付ヲ引ワケテハ、御料カ私領ニヨロシキ物バカリ方付樣ニナリテヨロシカラズ、ケ樣ノ所ハタトヘ隣リハ御料ノ百姓、其トナリハ私領ノ百姓ニナリ居家入マゼリテモ仕方ナシ、貧富善惡ノ不ニ片寄ニ樣ニ分ベシ、左レドモ軒別ニ入マゼテハヨロシカラズ、其事ハ分ケ方ノ人ノ了簡臨機應變ノ取計タルベシ

一　山崩・川欠・ツブレ地等多クアル村、山ノビ川附ニテ田畑所持ノ百姓ハ、保高ノ内引ダカ多シ、亦沖ニ通リ田面中ノ田畑所持ノ者ハ、引ダカナキ樣ニ百姓ヲ片寄トテ、引ダカナキ者ハ御料ニノコリ、引ダカ多キ者ハ分鄕ニシテ、私領ヘワタシテハ片ヨリテアシク、是等モ双方格別勝劣ナキ樣ニ分ルベシ、惣百姓ノ内御料ヨリ私領ニナルヲ難儀ニ思フ者多シ、又人ニヨリテ喜ブ者モ希ニハアリ、由テ是ヲワケルニ、大凡右ノ如クニテ引ワケ鬮ヲ以テ役人村役人立合ノ上ニテ引ワケルガヨシ、夫モ村ダカ半分ニモワクレバ、双方何レカ片ヨリ鬮取モノナレドモ、千石ノ村ノ内ヤウヤク八十石カ百石餘、私領ニワタル村五百石ト五百石ノフリワケニハナラズ、如此時ハ千石ノ内私領ワタリ百石ノ者幾ツモ割合コシラヘオキ、此內クジニ當リタル者私領ヘワタスベシト、承知サセ置テ事ヲ定ムベシ、左スレバワタシカタノヨシアシニヨリテモ、皆得心シテ恨ル者ナシ

一　越石モチソヘニナル者、野田ノタカヲ何ホド多ク私領ノカタヘモチタリトモ、假居ノ屋シキ御料ナレバ、此所ノ者トテ私領ノ分モチソヘタリ、又御料ノタカ多クアリトモ、居家シキ私領ナラバ御料ノモチソヘニスベシ、萬一分郷ノ品ニヨリ家地下ヲ私領トニツニワケル時、家作七分通リ私領ノ地ニ掛リ、殘三分ハ御料ニテ、其三分ハ御料ニテ竈アレバ、御料ノ百姓ニ極ル法也、何レ御領・私領トモ竈アル方ヲ本百姓家作多ク掛リタリトモ、竈ナキ方ヲモチソヘニスル也、是ハ家内一命ヲツナグ竈ナル故、如レ此極タル事ト見エタリ、去ナガラ家居下ヲ二給ニワケル事ハ、先ハナキ事ナルベシ

一　林ヲワケルニ大場ナドハ木立一樣ナラズ、亦山林ノ内口ノカタ地面ナダラカニシテヨロシケレドモ、木立少シ平地ノ樣ナルモアリ、山奥ノ木立シゲク、或ハ良材モアレドモ嶮阻ニテ道モナク、伐出シ難キ場所アリ、山方ハ田畑ト違ヒ切々ニハワケ難ク、何レ一方付ノワケニハナラズ、是モ成タケ地面木數等格別不同ナキ樣ニワケタキ事ナレドモ、場所ニヨリ右樣甲乙ナク、ワケ難キ所モアリ、右體ノ山ハ少々不同ナレドモ、仕カタナキ故東ノカタトカ、西ノカタトカ二ツニフリワケ、御料・私領ノ鬮取ニシテワケル事ナリ、是モ前條ニ記ス百姓ワケ法ノ如ク、八分ハ御料ニノコシ、二分ハ私領ヘ渡スナラバ、東西南北ノ内モ片寄タル場所二三所二分通リノ反別ニコシラヘオキ、木立其外ヨシアシアレドモ鬮ニシテワケベシ、尤御林立野等ニヨリ知行渡ニナラズ、御料計リニノコル事モアリ、何レニシテモ御下知次第也

但御林分郷ニナル事アラバ、ワカラザル以前御林カタ、幷ニ奉行ヘモ其段相屆ケオキ、引ワケタル上私領ヘ渡リタル分ノ木數・減木證文ヲ取リ林帳減木スベシ、勿論御料ニ殘リタル御林反別品、員數・寸尺・節相改、御林帳引合減木伺ヒ出スベシ

一　市場ニ河岸場、或ハ格別ノ役村カ必分郷ニナス樣、何モナキ平安ノ村ヲ分郷ニ致タキ事ナレドモ、知行割掛リニテモ渡方ニ差支、無レ據右體ノ品々有テ六ケシク村分郷ニナル事モアレバ、ワケカタハ御代官ニテ取計フ事故功者ナラデハ仕ワケ難シ、何レ分郷ヲスルニモ其村々ヘ手代差出シ、田畑山林、或ハ普請所ノ多少、百姓ノ豐窮、總テ村中ノ事明細ニ相糺シ、双方ニ不同ナク、末々差支ニ成ザル樣、ヨクヨク勘辨シテ引分ベシ

但、田畑・山林・原野等ニ至マデ、如レ法ワケテ場所ハ有タキモノ也、大方ノ分量ニテ知行場所其品々ニヨリ了簡ヲ加ヘユヅリ合セ、分カタハ作略有事也

一　市場之事

是ハ昔ヨリ場所定リ、其所ニ幾日幾日ト日限極リ、同町ノ内ニテモ市立ノ場所定リ、昔ヨリ定リタル所ノ外ハ禁ズ、勿論前々ヨリ村鑑帳ニ昔ノセアリ、萬一市場ノ儀ニ付公事出入等アル時ハ、村鑑帳次第也

一　市場近所ニ新規ニ町家取立ル事成ガタシ、願出ルトモ最寄ノ市場相糺シナクバ、品ニヨリ新規ニ

町家免ス事モアリ、元市ヨリ拒障アラバ不レ免也

一　年久ク中絶ノ土地、外ニ子細ナクバ願ノ上ニテ免ズ、サハリアレバ叶ハズ、尤昔ノ故由アリトモ、年久ク斷シ上ハ證據ヲ以テネガヘバ吟味ノ上免ベシ、昔有シトテネガハズ私ニ取立ル事ナラズ

一　市ナキ町方新規ニ市立ル事堅ク停止也、市立ハ不ニ容易一ノ事ニテ、昔ヨリノ市ハ格別、今新タニ取立ネガヒ出ルトモ取上ナシ、左レドモ近所ニ市ナクバ、萬事ニ付其利害ヲヨクタダシタル上差免スモ可也

一　市運上ノ儀、昔ヨリノ引付ニテ、取タテ來リシ所ハ格別、左モナキ所ハ、領主・地頭ノ勝手ヲ以テ新タニ運上申付ル事ハ不レ成也

一　河岸場之事

是ハ湊ニ類シタル事ニテ、昔ヨリ着船ノ地極リ旅人ノ賣荷等積付ノ地ナリ、昔ヨリ其地キハマリアリ、代官所ガヘ最寄ガヘ等ノ節ハ引ワタシニ成リ、船着ヨロシキ所ニテモ新タニ是ヲ取立ル事停止也、若內々船ツキヲコシラヘ、荷物積付テ古場所ヨリ彼是申出ルニ於ハ船ツキヲ止サセ、品ニヨリテハ相應ノ科モ申付也

但是等ノ地不ニ表立一シテ、前々ヨリ荷物積來タル所モ、右帳面ニノセザル分、其地頭用并ニ村用ノ荷物ノ外、他ノ運送ハ禁ル定法也、若河岸場ノ儀ニ付、公事出入等有レ之バ御勘定所次第也

一 御巣鷹山之事

此山アル村ノ支配ノ内ニアル代官所ガヘノ節、先代官ヨリ演説書ニ取計カタ悉ク書ノセ云オクル也、年々正月初旬ノ頃、羽ブリ（雌鷹巣ニコモレバ雄鷹餌ヲハコビテ巣ノ上ヲ舞フ、山テスゴモリヲ知ル也、是ヲ羽ブリト云）有無ヲ吟味シ、羽ブリアレバスゴモリノ場所ヲヨクヨク見屆ケオキ、村方ヨリ註進シテ其時手代差出シ見分致サセ、其旨御代官ヨリ御勘定所御鷹方ヘ屆ケ、御下知ヲ伺フナリ

一 巣鷹成長シテ居上前ニナレバ、又伺ヒ村方ヨリ註進ノ趣トヾケ書差出セバ、居上見分ノ爲御鷹匠ヲツカハサレ居上ニナル、尤御巣鷹山アル村カタニテ、前々ノ仕キタリアル村ノ功者ナル御巣鷹山ノ有無ハ、村鑑帳ニノセテサシ出ス也

但御巣鷹山アル村ニテハ、御タカ匠扶持御物成ノ内ニテ置米ニ致シオク也、尤御タカ匠人數、逗留ノ日數等、御タカ方ヘ承リ合セ、大積リニテ置米ウカヾヒ差加ル也

一 鳥銃村方ヘ貸渡證文、並屆方之事 附、鳥銃ノ儀享保二酉年御書附村並御代官ヨリ書上 同讓リ渡 同關所通手形 並ニ船積隱鳥銃所持ノ者御仕置

一 村々ヘ鳥銃貸ソタシノ儀、昔ヨリ關八州ハ百姓鳥銃所持ノ儀御法度ニテ、猪・猿・猯等多ク出、田畑ヲアラシ、防ウヽ手ニ及ガタキ時ハ、其段御斷申上、鳥銃カシワタシ、無玉オドシ打ニテ、鹿・狐・兎等ヲ追ハラヒ、鳥銃返上致シ、亦出タル時ハ右ノ趣ニシタルニ、享保二酉年以來月限日限ヲ以證文ヲ取

カシワタシ、玉込鳥銃打セ、此段御断申上タリ、亦候其後同十四年ヨリ改リ、百姓ドモヘカシワタシ、四季トモ獸打ベキ旨被ニ仰出一、尤場所ニヨリ二季打モアリ、何レ鑿始ノ時、鳥銃改役ヘ證文差出ス、取上ノ證文ハ二季ウチ七月、四季ウチ明年正月鳥銃改ヘ證文差出ス、ウチ留獲物ノ書付ハ十二月ニ出ス也

一 關八州ノ外、國々ニ是又昔ヨリ鳥銃改ヘ例年證文ヲサシ出シタル所、享保二年ヨリ其儀ニ不レ及、猥ニ無レ之樣被ニ仰出一タリ、勿論鳥銃ノ儀ハ、私領・寺社領トモ證文差出スコト御領同樣、領主・地頭ノ心マカセニハ不レ成、何ニテモ公儀御定法ノ通取計事也

四季ウチ證文如レ左

武藏 上野 村々四季ウチ鳥銃證文　　何ノ誰

武藏國榛澤郡之内

一 鳥銃三丁　内二ッ三匁五分　一ッ三匁

高三百七十六石三斗五升七合　　末野村

同國那賀郡之内

一 同一丁　三匁五分

高三百二十石四斗四升八合　　圓長田村

上野國緑野郡之内

同國同郡之内

一同一丁　三匁五分
高四百四十石五斗二升一合　淨法寺村

一同一丁　三匁
高六百十八石二斗八升六合　同村

一同五丁　内
高三百九十四石七斗六升一合　鬼石村

一同二丁　三匁
高百二石九斗二升七合五勺　三本木村

一同二丁　三匁
高九十二石一斗七升四合二勺　上栗井村

右七ヶ村鳥銃合十五丁

但御拳場并御鷹提御場ニテハ無ニ御座一候

右者私御代官所當分御預所武藏上野國村々、猪鹿多出田畑ヲ荒シ、百姓及ニ難儀一候、就レ夫書面之

通、玉込鳥銃十五丁百姓ニ預、四季共爲レ打申候、若右ノ鳥銃ニテ惡事仕出申候カ、又ハ荒候畜類打殺候ヨリ外ノ殺生等仕候ヘバ、本人不ニ申及一、名主・五人組迄可レ爲ニ曲事一旨、急度申付置候、此鳥銃ノ儀、他人ハ不ニ申及一、縱親子兄弟ニテ御座候トモ、鳥銃預主ノ外、餘人ニ貸申儀曾テ仕間敷旨堅申付候、右之趣相背候バ、何樣ノ曲事ニモ可ニ申付一旨、村限名主・五人組鳥銃預主方ヨリ手形取置申候、爲レ其如レ斯御座候、以上

寛政四子年閏二月　簑笠之助印

安藤大和守殿

前書之通相違無ニ御座一候簑笠之助儀、拙者共支配ニ付如レ斯御座候、以上

子閏二月

佐橋長門守印
曲淵甲斐守印
根岸肥前守印
久世丹後守印
柳生主膳正印

御勘定奉行證文

右同文言手形取置申候、此段鳥銃奉行中へ御斷可ㇾ被ㇾ下候、爲ㇾ其如ㇾ斯御座候、以上

寛政四子年閏二月　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　簔笠印

柳生主膳正殿

久世丹後守殿

根岸肥前守殿

曲淵甲斐守殿

佐橋長門守殿

但右證文小直紙ニ下書仕立、鳥銃改奉行へ持参差出加筆ヲ請、本紙差出ス時、下書添出ス

武藏　上野　村々四季打鳥銃打留御屆書

覺

一　鳥銃三丁　　　　　　　　　　　　　　　　　　武藏國榛澤郡

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　末野村

一　同一丁　　　　　　　　　　　　　　　　　　　同國那賀郡

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　間長田村

一　同一丁　　　　　　　　　　　　　　　　　　　上野國綠野郡

淨法寺村

一　同一丁　　同國同郡
　　　　　　　　同村

一　同五丁　　同國同郡
　　　　　　　　鬼石村

一　同二丁　　同國同郡
　　　　　　　　三本木村

一　同二丁　　同國同郡
　　　　　　　　上栗井村

右者私御代官所當分御預所、武州上野國村々、鹿猪爲ニ防留一子正月四季打鳥銃書面之通伺之上、貸渡置爲レ打候所、同□□一月晦日迄爲ニ打留一取上置申候、由レ之打留候獲物員數書面相添、御屆申上候、

以上

子十二月　　　　簑　笠之助印

安藤大和守殿

但糊入半切無印

當子四季鑿鳥銃擊留獲物御屆書

覺

一　猪三疋　　武州榛澤郡
　　　　　　　　末野村
一　鹿五疋
一　猪一疋　　同國那賀郡
一　鹿二疋　　　　圓長田村
一　猪三疋　　上野綠野郡
一　鹿四疋　　　　鬼取村
一　猪一疋　　同國同郡
一　鹿二疋　　　　淨法寺村
一　猪二疋　　同國同郡
一　鹿一疋　　　　三本木村
一　猪二疋　　同國同郡
一　鹿三疋　　　　上栗井村

合猪十一疋

又鹿十八疋

右者當子正月ヨリ同十一月晦日迄貸渡候、四季ウチ鳥銃ニテウチトメ候、猪鹿數書面之通ニ御座候、以上

子十二月　　　　簑　笠之助印

右同文言、小直紙帳面ニ記ス

右之通安藤大和守ヘ相届候ニ付、御届申上候、以上

子十二月

御勘定所　　　　江川太郎左衞門

二季ウチ鳥銃證文如レ左

武藏久良岐郡・相州鎌倉郡

村々、二季打鳥銃證文

武藏國久良岐郡之内

高四百七石七合

一　鳥銃一丁　三匁　　川石村

江戸ヨリ十二里

相模國鎌倉郡內

高四百七石七合

永田村

一 鳥銃一丁　三匁

同　九里

高四百七石七合

笛田村

一 鳥銃一丁　三匁

同　九里

右三ヶ村鳥銃三丁

但御拳場ニテハ無レ之候ヘドモ御鷹捉飼場所ニテ御坐候、內山七兵衛承合候所、四月七月マデ鳥銃爲レ打候テモ差サハリ無レ之旨挨拶ニ及候

右者私御代官所當分御預所、武藏國久良岐郡一ヶ村、相摸國鎌倉郡二ヶ村、猪鹿多出田畠ヲ荒シ百姓及二難儀一候、就レ夫書面之通玉込鳥銃三丁、四月ヨリ七月マデ一季爲レ打申候、若此鳥銃ニテ惡事仕候カ、亦ハ荒候畜類打候外ノ殺生等仕候バ、本人ハ不二申及一、名主・五人組マデ可レ爲二曲事一旨、急度申付置候、此鳥銃ノ儀ハ他人ハ不二申及一親子兄弟ニテ候共、鳥銃預主ノ外他人ヘ貸申儀曾テ仕間

敷段、村依ニ申付ケ候、右ノ旨相背候ハヽ何様ノ曲事ニモ可ニ申付ケ旨、名主五人組並ニ鳥銃預主ヨリ手形
取置申候、爲レ其如レ斯御坐候、以上

天明八戊年正月　　　　江川太郎左衛門印

牧野大隅守殿

御勘定奉行奥書、其外取計方文言等四季打同然也

糊入半切無印小直紙折掛

覺

御代官所

武州久良岐郡

川石村

右同斷

相州鎌倉郡

永田村

當分御預所

同國同郡

笛田村

右ハ私御代官所當分御預所、武州相州書面三ヶ村猪鹿多出田畠ヲ荒シ候ニ付、當申正月ヨリ二季打玉込鳥銃爲レ打申候、當正月二十五日限リウチ止鳥銃取上申候ニ付、右之爲ニ御屆ケ如レ斯御坐候、以上

申四月　　江川太郎左衛門印

前書之通四季ウチ、二季ウチトモニ、御代官ヨリ鳥銃改役人ヘノ證文書、同斷御勘定奉行ヘモ一通差出シ、則鳥銃改役ヘ可二差出一候、本紙ハ御勘定奉行奥印致シ相渡候ニ付、御代官ヨリ鳥銃改役ヘ差出ス、尤小直紙ニテ下書相仕立、鳥銃改屋シキヘ持參シテ用人ヘ差出シ、アラタメヲ請、其上ニテ本紙相仕立ル、鳥銃アラタメ役ハ必大目附タル人ノ兼役ナリ

但下書仕立差出シタル上、何レニモ少シ加筆ナクテハ相スミ難キ趣ニ付、手術業ナリトモ少シ計直候樣ニ書テ差出事、口傳也

鳥銃ノ儀享保年中被二仰出一候御書附如レ左

一　鳥銃ノ儀ハ向後關八州ハ貞享四年被二仰出一ノ趣ニ相心得、改役ヘ相伺可レ請二差圖一事

但、猪鹿多出、田畠ヲ荒候節ハ、不レ及二相伺一御料・私領・寺社領共月限日限ヲ極メ、玉込鳥銃ニテ爲レ打、其段早速鳥銃改メヘ可レ被二相屆一候、右仕廻候ハヾ鳥銃取二上之一、是又其旨改役ヘ可レ被二相

届ニ候事

一　江戸ヨリ十里四方ハ獵師タリトモ一切鳥銃ウチ申マジキ事

但、猪・鹿多出、田畠ヲアラシ人手ニカヽリ、難儀ニ候バ鳥銃アラタメヘ可レ請ニ差圖一事

一　關八州ノ外國々ヘ、鳥銃改役ヘ例年證文等サシ出シ候事、以來其儀不レ及候、尤猥ニ無レ之樣、御料・私領・寺社領トモ、急度可ニ申付一事

一　先規ヨリ百姓ヘ貸置候免許無玉鳥銃、向後無用ニ可レ被レ致事

享保二酉年五月

鳥銃ノ儀ニ付元文五申年御勘定奉行ヨリ御代官ヘ問合候趣書上如レ左

一　鳥銃ノ儀關八州百姓ドモ、鳥銃所持仕候儀御法度ニテ、猪・鹿多出田畑ヲアラシ候ヘバ御斷申上、享保二酉年マデハ玉込不レ申、威鳥銃ニ御座候、同年御觸ニ付、其以後ハ月限リ日カギリヲ以、玉込鳥銃爲レ打、尤御斷申上候所、又同十四酉年ヨリ其儀不レ及、猪・鹿打候鳥銃百姓ヘ預ケ、四季トモニウタセ、尤ウチ始候節鳥銃アラタメヘ證文差出シ、明年ヨリ正月中一度ヅヽ、鳥銃アラタメヘ證文サシ出スベキ旨、御觸ニ御座候

但、江戸十里四方ハ、一切鳥銃ウタセ候儀御停止ニテ御座候、御鷹場・御鷹匠頭ヘ承リ合、二月中旬ヨリ十月十五日迄、月カギリニ貸渡鳥銃ウタセ申候

一　關八州ノ國々ハ、以來鳥銃アラタメヘ證文等不レ及ニサシ出一候、ミダリニ無レ之樣、急度可ニ申付一旨、享保二年御觸ニ付以來鳥銃改ヘ證文差出不レ申候バ鳥銃所持ノ者ドモ前々ノ通帳面有レ之、鳥銃持主・名主・組頭・五人組ヨリ證文取置所持爲レ仕候、無レ斷候テ鳥銃所持不レ仕樣堅ク相改候儀ニ御座候、以上

申十二月

一　鳥銃讓リ渡ノ儀、一村ノ內ニテ双方願出レバ不レ及レ伺、御代官吟味ノ上、ユヅリ渡ス、勿論双方幷ニ村役人ヨリ嚴キ證文取候上引ワタス、他國不レ申及一、他村ヘノ讓リワタシ等、同支配一領タリトモ伺無レ之候テハ、決シテ相成リガタキ事也

一　鐵砲御關所通證文ノ儀、江戶ヘ入ルニハ玉目大小ニカヽハラズ、小筒一丁ニテモ御老中方ノ證文ヲ以出入、鐵砲ハ玉目十匁以上ノ大筒ハ一丁タリトモ、御老中證文九匁以下九丁マデハ、御代官證文、私領ハ留主居證文ニテ通ス、十丁以上ナラバ、玉目大小ニカヽハラズ、御老中ガタノ證文ナリ

近來市川御關所鐵砲差通リタル時聞合左ノ如シ

一　天明七未年六月、銚子表ヘ鐵砲差遣候節、市川關所通ルニ付、伊奈半左衞門家來永田九郎兵衞ヘ問合候所、左ノ如ク申聞、證文案紙相渡候

一　玉目十匁以上ハ一丁ニテモ御老中證文也

右ハ出鐵砲ニテ御座候、入鳥銃ハ玉目少クトモ、一丁ニテモ御老中ガタノ證文無レ之テハ不レ入事

一　鳥銃五丁

内　二丁玉目七匁五分

二丁玉目三匁五分

右者領分何國何郡何村迄、猪・鹿爲レ防書面ノ鳥銃差越申候御關所無ニ相違一御通可レ被レ下候、以上

年月日

何ノ誰家來

何ノ誰印

小岩市川御關所

御番衆中

右程村堅紙書レ之、削字ナシ、右ノ通手形御セキ所ヘ差出シ、鳥銃ツヽミ置バ筒口ヲ解キ、玉目ノ大小員數等改メヲ請テトホル也

一　鳥銃船積ノ儀、江戸ヨリ鳥銃五十丁マデハ浦賀奉行、並中川御番ヘ出、所ニ由テ兩方ノ内ヘ證文差出シ、切手ヲ取リ浦賀中川ヘトホル、尤以前ハ兩方トモ屋シキヘ罷出、證文下書持參用人マデ聞合、

差圖ヲ請、本紙ニ仕立テトホル也、五十丁以上ハ、御老中ノ證文無テハトホラズ、鳥銃ハ小筒一丁タリトモ證文ニテトホル、何レモ玉目ハ關所ト同然也

一　隱鳥銃嚴ク御停止也、若隱鳥銃所持ノ者、府內十里四方ノ內ニテ打タル者ハ流罪也、右ノ外東八州ノ內ハ中追放、八州ノ外他國ハ所バラヒ、カクシ鳥銃所持ノ者アル村、並ニ他所ヘ參リ打タルヲ見ノガシタル村、御府內十里ノ內御留場ノ內村役人重キ過料、八州ハ急度叱リ、惣百姓十里內ハ輕キ過料、御留場ノウチハ過代トシテ、一ケ年鳥番申付ル也

一　隱鳥銃所持シタル者ノ五人組、十里ウチ並ニ御トメノ永(マヽ)ノウチハ、過代被二仰付一定法也

但同斷所持之者召捕差出セバ、御褒美銀十枚下サレ、訴人シタル者ハ五枚下サル

一　右鳥銃賣買セシ者兩人トモ田畑取上、口入ノ者過代、名主・組頭ハ不念ニ付鳥番申付ル

一　鳥銃ノ始リハ蠻國ノウチ、孛密國ニ始テ作ルヨシ、和漢事始ニ見ユレドモ、其初詳ナラズ、日本ヘワタリシ時ハ、人皇百六代後奈良院ノ御宇、天文十二年癸卯年八月二十五日、南蠻國ノ商船漂流シ、大隅國種ケ島ヘ着シタル所、言詞通ゼズ、何國ノ者ナルヤ知レザリシニ、船中ニ大明ノ儒生五峰ト云者、便船筆談セシ故、南蠻タル事ヲ知ル、島津兵庫頭時堯、是ヲイタハル故ニ、船長牟良叔舍・喜利支多孟太ト云二人者、報恩ノ爲ニ船中ノ諸品ヲ時堯ニオクル、其內ニ鳥銃有、打法ヲ敎ヘ、藥法ヲ傳フ、則今ノ短筒、所謂種ケ島是也、時堯是ヲ島津義久ニオクル、義久鍛冶ノ工ミナル者ニ命ジテ此器

ヲ作ラシメ、是ヲ足利義輝公ニ獻ズ、其時紀州根來寺杉ノ坊ニ命ゼラレ、其術ヲ義久ニ受シヲ初トス、夫ヨリ次第ニ妙用ヲ工夫シ、長短太細、其外大炮・石火矢等ヲ作出シ、諸國ニ弘マリ、軍器ノ第一ニ成タリ、天正年中宗對馬守幾智、其國ニテ炮銕火並ニ火矢ヲ工夫シ作リ出セシトカヤ、日本ヘ渡リシ初ハ足利將軍ノ時代、弘治元卯年南バン國ヨリ宇志具知ト云者琉球ヘ渡リ、夫ヨリ種ケ島ヘ鐵炮ヲワタシ、同年三月京都ヘ持參シタルヲ、義輝公ヨリ江州ノ佐々木義秀ニ命、同國國友村ニ住居サセ、專ラ是ヲ諸國ニ弘ルトアリ、弘治元年ハ天文十二年ヨリ十三年隔リ、前ノ說ト異リ、十二支同ジキ故、何レ一方ハ誤ナルベケレドモ、其是非ヲ知ラズ、考ルニ大隅ヘワタリシハ天文年中ニテ、其中ニ宇志具知ト云者、此道ニ功者ナル故、薩州ニ留置、諸人ニ調練セシメ、其後此者ト鐵炮ヲ差上タリシニ、將軍家又杉ノ坊ニモ修行セシメ、是ヲ佐々木家ヘ屬セシメタルモノナランカ、今モ國友村ニ鐵炮工師多クアリ、公儀ヨリ御扶持下サレ、專ラ是ヲ作ル、泉州ニ鐵炮ノ職人多シ、紀州根來ヨリ程近ケレバ杉ノ坊ヨリ傳ヘ、今ニ連綿タルモノナランカ

一　諸國御關所女通リ手形之事　附御關所地名並關守　通形手出所御關所破御仕置四人差通候節通證文

御關所女通手形願出スニハ、定例ノ文言ニ下書ヲ小直紙ニ記シ、月番ノ御留守居屋シキヘ持參シ、用人ヘ差出シ、加筆ヲ請本紙ニ記ベシ、本紙ハ厚程村紙ニ書ス、御殿御勘定所ヘ、御代官ヨリ外ニ御勘定

奉行ヘ裏印願ノ手形モカキ、二ツトモ組頭ヲ以差出ス、御留主居宛所月番ノ姓名ヲ初ニカキ、夫ヨリ末ヘ先官ヨリ順序ニカク也

但、下書差出候時、月番ニテ何レ少シニテモ添削セズシテハ相濟ザル趣ニ付兼テ心得、手爾葉等少シ直シ請候樣ニ、下書仕立サシ出ス事ハ秘事也

一　本紙御勘定奉行裏書相濟、御留主居ヘサシ出セバ用人受取、追テ可二相伺一旨申候間、其後罷出相伺、容易ニハ濟ズ、度々罷出ウカヾヒノ時、通手紙カキ初判ワタル故、墨付ヨゴレスレメ判ニシミ等無レ之ヤ、得ト改メ請取テ、段々名順ノ屋シキヘ持參シ判申請ル、尤右手形取アツカヒノ者ヘ差出候節、ウラ表相改メ墨付ヨゴレ等無レ之趣相斷リワタス也、判スミテ受取時モ、ヨクヨク改メ、若心本ナキ所モ有バ、其段取次ノ者ヘ斷リ、返答ニ由テ受取ベシ、勿論取次者ノ姓名等承リ可レ取レ判故ニ參ル儀、御留主居在宿ノ時ヲ考ヘ行ズシテハ手判不レ出、退出ノ後ヨロシ、登城前ニハトカク判スミ難キ多シ、右ハ私領ニテモ頭支配等アル面々ハ、其人ノ裏書ヲ以差出ス、諸侯ガタハ勿論、御旗本ニテモ頭支配ナキ面々ハ直ニ差出ス、下書ニテ聞合ス仕カタハ是モ同然也

一　乘物ハ何丁ト手形ニ書ノセル、戸無キ打上ハ駕ナリ、其積ニテ書入、總テ角棒ハ乘物、丸棒ハ駕ニナル、辻駕ニテモ引戸ハ丸棒タリトモ乘物ニナル、打上ニテモ角棒ハ乘物ナリ、鋲打ハ輿乘物、トカク乘物ニ無レバ、タトヘカゴニ乘タリトモ、乘カケ同然ナレバ、女何人トバカリ記ス、カゴ乘カケ

ト云事ハ、文言ニ書ザル法也

振袖ハ小女トカク、白歯ノ女留袖着用ニテ御關所トホル事ナラズ、振袖着用致サスベシ、鐵漿付タル者ハ歯黒小女トシルス、同斷着用致ス、又眉毛アルモ留ソデナレバ大女ニナル、髮ノ中ニ挾ミアレバ、其ワケヲ手形ニカク、惣ガミノ先少ニテモ切アレバ、カミ切ニナル、尤前ガミバカリ切タルハカミ切ニアラズ、頭ノ内面部等ニ切疵ノアトハ勿論、腫物ノアトアラバ、其趣書入ル、亦カミノ中ニ鉤穴等アレバ、是モカキ入ル也

但、關所ヘ行カヽリ、若小女フリソデノ用意ナクバ、前ノ宿ニテ借用イタシ、御關所ヲ通ウチ着用イタサスベシ

一　當月取タル手形、來月晦日マデニ御關所通レバ用ヒニ成、三ケ月越タル手形ハ通ラヌ故、滯ル子細アレバ其故申立、手形取直ス、尤年月ハ右ノ如ク、十二月ニ取タル手形ハ年越ニ成ユヱ、明正月二十日限也、二十日越テハ用ニ成ザル御定法故、取直スベシ

一　御手判願書樣如㆑左

女上下五人、内髮切一人、小女二人、乘物二丁、從㆓江戸㆒奥州梁川マデ差遣申候、房川渡、中田御關所無㆓相違㆒罷通候樣、御留主居宛所ノ私手判御裏判可㆑被㆑下候、右ハ私手代何ノ何兵衛ト申者ノ母、同娘、幷ニ下女ニ御坐候、若此女ニ付以來出入ノ儀出來仕候ハヾ、私申開可㆑仕候、爲㆓後日㆒證文仍

如レ件

安永四乙未年八月　　　　　　　　何ノ何某印

石谷　備後守殿

安藤彈正少弼殿

川井　越前守殿

太田　播磨守殿

女上下五人、內髮切一人、小女二人、乘物二丁、從二江戶一奧州梁川マデ差遣申候、房川渡中田御關所無二相違一罷通候樣、御手判可レ被レ下候、右ハ私手代何ノ何右衞門ト申者ノ妻、同娘、誰ノ母、同娘、並ニ下女ニ御坐候、若此者共ノ儀ニ付、以來出入ノ儀出來仕候バ、私申開可レ仕候、爲ニ後日一證文仍如レ件

安永四乙未年八月　　　　　　　　誰　印

石川　土佐守殿

神保　和泉守殿

河野　豊前守殿
駒木根大内記殿
表書ノ女五人、内髮切一人、小女二人、乘物二丁、無紛候間、御手判被遣可被下候、何ノ誰儀
拙者ドモ支配ニ付、如斯ニ御座候、以上
未八月
石谷　備後守印
安藤彈正少弼印
川井　越前守印
太田　播磨守印

未八月
女上下五人、内髮切一人、小女二人、乘物二丁、從江戶奧州梁川マデ罷越候、房川渡中田御關所無相違可被相通候、何ノ何某手代何ノ何之助ト申者ノ妻、同娘、何ノ誰ト申者ノ母、同娘、並ニ下女ノ由、何某致書物、其上石谷備後守殿・安藤彈正少弼殿・川井越前守殿・太田播磨守殿
斷ニ付、如此候、以上
安永四乙未年八月

土佐印
內記印
豐前印
和泉印
房川渡
田中
人改中

右手判、栗橋御關所へ持參、御關所圍ノ外ニテ駕ヲ下シ、戸ヲ開キ、御番所ノ向フへ居ヱ置キ、女ヲ召ツレ誰手代何某御證文持參致候旨申達シ、縁ノ上ニ上リ、女ハ下ニ置證文ヲ出ス、番人罷出手判ヲ請取、改テ女ノ髮ヲ解カセ見ルマデ改濟也

御關所通ル女ハ髮ヲ解ク覺悟ニテ、髮ヲ下ゲ笄ニテモ置、御改ノ時直ニホドケルヤウニシテオクベシ

女ハ先へ船場へ遣ハス、番人帳面ヲ出シ、手代名バカリヲ書トメ、印ヲ取テ通ス、定式ノ文言ハ跡ニテ書ノセルヨシ、道中手マハシノ爲印バカリ取事也、箱根横川等ニテハ女ヲアラタムル姥アレバ、駕ノ中へ顏ヲ差入テ髮ヲ改メ、駕ヨリ下ル事ナシ、姥ナクバ何レノ御關所ニテモ、下リテ縁側へツレ行、番人改也

一　男御關所ヲ通ルニハ、鎗ヲ持タセタル者ハ手形ニ及バズ、鎗ナキ者ハ手代ナレバ、元締ノ證文、私領ハ用人等其節ノ者ノ證文、百姓・町人ハ名主・庄屋ノ手形、修行者等ハ旦那寺ノ手形ヲ差出シテ通ル、是モ箱根・根府川・氣賀・今切・横川・福島・松ヶ橋・川股房川渡・中田・松戸・市川・小佛・關宿・梁ヶ瀨等ノ外ハ、手形ナク口上ノ斷ニテ通ル、武士ハ斷ニ及バズトホル所モアリ、御目見エ以上ハ下乘ナシ、平人ニテモ病氣ナレバ其旨ヲ申上、テカゴヨリ下リテ通ル事也、私領ニテモ奥羽・北國・九州ナドハ、其家ニヨリ、私分境ニ口留番所アル往還ノ旅人、往來證文ヲアラタメテトホス所モ所々ニアリ、是トテモ鎗ヲ持タセタル者ハ、手形ノ沙汰ニハ及バザル事也

一　遠州氣賀ノ御關所ハ、御老中ノ證文ナクテハ女ノ通行御留主居ノ手形ニテハトホリ難ク、此御關所ハ今切ノ裏番所ニテ御要害第一ノヨシナル故ナランカ、又ハ別ニ何ゾ子細アリテ、御老中御手判ニテトホルニヤ

御關所地名、幷關守之事

相州

箱根東海道上方筋へ　相模小田原城主

根府川伊豆ヨリ同斷　三河吉田城主

遠州

今切上方筋ハ船渡　城代寄合氣賀住

氣賀上方筋ハ今切ノ上陸路　近藤石見守

上州

横川碓氷峠上方へ　上野安中城主

松ヶ橋中山道北國　信濃へ　同高崎城主

川股越後筋下野筋へ　武藏忍城主

信州

木曾上方スヂ美濃飛驒へ　尾張中福嶋住　山村甚兵衛

武州

小佛甲斐信濃へ　御代官持

下總

房川渡中田陸奥へ　右同斷

松戸常陸へ　右同斷

市川上總へ　下總

關宿安房へ
常陸へ
下總へ
越後
越後加賀スヂへ
佐渡下總スヂへ
江州
梁ケ瀨
上方スヂヨリ
此國スヂへ
右十ケ所ハ重立タル御關所也
相州
仙石原　矢倉澤　川村

關宿城主
越後
高田城主
近江
彥根城主
相摸
小田原城主

谷ヶ村　上方スヂヘ

上州

五井　福嶋　實政　　上州

大渡　越後スヂヘ　　廐橋城主

同

南牧　信濃スヂヘ　　御代官持

戸倉　甲斐スヂヘ　　右同斷

同

祖母島　猿ヶ濱　　右同斷

大笹　狩宿　大戸　　千村平右衛門

木曾　熱川　上方スヂヘ　　山村甚兵衛

信州

浪合　帶川　心川

小野川　　知久監物

江州

清内路　　信濃飯田城主

剣ノ熊　　大和松平甲斐守

山中　　江州朽木兵庫助

越後

鉢崎　越後　　越後高田城主

蟲川　會(マヽ)スチヘ

山口　加賀　　松平日向守

市振　上方スチヘ　　御代官持

右御關所ノ御留主居手判、右國々ヨリノ出女ハ所々ヨリ出所極アリ

一　御關所通手形出所如レ左

從二京都並山形・大和・丹波一出女通手形　所司代

從二大阪・攝津・河内・和泉・中國・四國・西國スヂ一出女、同大阪町奉行

境ヨリ出ル女、同斷　　境奉行

近江ヨリ出ル女同　　彦根城主

伊勢・伊賀ヨリ出ル女同　　津城主

美濃ヨリ出ル女同　大垣城主
三河ヨリ出ル女同　田原城主
　　　　　　　　　刈谷城主
越後ヨリ出ル女同　高田城主
甲斐ヨリ出ル女同　甲府勤番頭
　同國留番所ハ御代官ヨリ手形ヲ出ス

一　關所御仕置ノ儀、御關所脇道ヲシノビ越タル者於ニ其所一獄門被レ行、女ヲ勾引シテシノビ越タル頭取ハ、於ニ其所一礫ニ被レ行、差續タル者、引廻ノ上獄門、婦モ吟味ノ上品ニ寄テハ獄門、セキ所ト知ラズ勾引サレテ通リ、罪ナキ者ハ元ヘ御返ニナル定法也

一　御關所諸事取計ノ儀、先通手形取ル時、御代官所其外私領ガタニテモ、御セキ所ノ作法ヲ知ザレバ、支合等ニ間違アル事也、國々御セキ所取計御議定アルベキナレドモ、其事ハ御留主居ガタ、並ニ御セキ所預ノ人ニ非レバ、クハシキ事ハ知レズ、尤所々ノ御關所預リアル番人ハ、關所附ワタシノ定番人ニテ、公儀ヨリ御扶持米被レ下、代々其關所ノ村々ニ住居イタシ、勤番ニテツトムルモアリ、同心ノ輕キ様ナル者也

御代官ニテノ取アツカヒハ、手代書役ノ下ニ附、足輕ヨリ少シヨロシキ方ニテ、御セキ所預リ主御代

官支配ニテ、御扶持米モ御代官所置米ニテ相ワタシ、家來同然ノ取アツカヒ也

一　御關所ノ儀、何方モ同樣ニ有ベキ事ナレドモ、其御セキ所々々ノ前々ヨリノ仕來アリテ、女改方、其外囚人・手負・首死體・亂心者等出入ノ改方一樣ナラズ、少々ヅヽ違アリテ、已ニ箱根・今切・松ヶ橋・市川等、女人幷ニ前條ノ品々、諸侯方ハ其家ノ家老證文、旗本御代官ハ直證文ニテ通ル所、越後鉢崎關川・碓氷ハ入ハ、越後ノ分ハ高田城主ノ手判、其外國々モ手判ナクテハ入難キ御セキ所モアリ、御セキ所ニ由テ區々ナル故、若支配所ノ婦、並ニ四人等差通時ハ、其場所ヘ承合テ、取計ズシテ外々ノ例ヲ用ヰテハ違事也、尤出ハ何レ御留主居ノ手判也

一　御關所近所、關外村ヨリ、關内ノ村ヘ、緣付シタル娘出入ハ、里通ヒト云テ三四里四方ノ村ニ極マル、其村ノ名主ヨリ御セキ所ヘ印鑑差出シ置、名主ノ手形ヲ差出セバ、其印カヾミト引合ス所モアリ、又セキ所ニヨリ里ガヨヒト云事ナク、近鄕村數ヲ定メ印カヾミ差出置、人ノ娘ハ名主手形ニテトホル、出嫁ハモドリタリトモ、手判ナクテハ決シテトホサヌ所モアリテ、一樣ナラズ、其地ニヨリテ少々ノ異アリ

一　御關所外ニ農作場アリテ、日々男妻通行セズシテハ叶ヒガタキ分ハ、其村ヨリ兼テ願ヒオキ、御料ハ御代官、私領ハ領主・地頭ヨリ、作場札ト云フ燒印ノ札ヲ、何マイト數テ極メテ渡シオキ、御關所ヘモ印カヾミ出シオキ、婦ハ右ノ札ヲ以テ其日限リニシ、往返勿論セキ所外ニ止宿ハナラズ、夫モセ

キ所ツヾキノ村バカリ也、間ニ他村ハサミタル村ハ、此札ヲネガヒテモ叶ハズ

一　姙娠ノ者、セキ所內ニテ出生ノ子、若娘ナレバ、手判ノ女數一人殖ルユヱ、手判取直サズシテハトホリ難シ、是モ其地ニヨリテ宿シタル所ノ宿主・村役人、並ニ差ソヘノ者ヨリ證文差出シテトホスセキ所モアリ、左レドモ手判ヨリ人數減ル分ハトホスベシ、增タラバトホサヌ定法故、臨月ハ云ニ及バズ、前月ヨリセキ所ヘ掛ラヌ樣ニシテ、手判ヲ取オクベキ事也

一　此以前右樣ノ事アリテ決シテトホサヌセキ所モアリ、又右ノ斷リ證文ニテトホル地モアリ、昔ヨリ其セキノ仕來リト見エタリ、姙娠ノ者手形ニ斷リ書ノセ、是マデ先例ハナシ

一　國替處ガヘニテ、懷胎ノ者大勢トホル時ハ、御關所ヘ其斷リ申上テトホル事モアリ

一　今切ヲ出ルハ、箱根ヨリノ書カヘ、福島ノセキハ碓氷ヨリノ書カヘ手形ニテトホル、其外松ケ橋等ニ行カヽリ橋ナキカ、亦ハ大水ニテ往來成ガタキ時ハ、祖母島ノセキヲトホル、松ケ橋ヨリ祖母島ヘ書カヘテ通ル、右ノ外ニモ御關所二重ニナリ居候所ハ、江戶御關所ヘ手判差出シ、先々ノ御關所ハ書カヘニテ通ル也

一　貞享・元祿相渡リタル御書附如レ左

御關所手形ニ可二書入一事

覺

一　乗物何丁

一　禪尼　是ハヨキ人ノ後室カ、又ハ其人ノ姉カ妹等髮ヲソリタルヲ云フ

一　女僧　是ハ並通ノ女ノ髮ソリタルヲ云

一　比丘尼　是ハ伊勢上人カ、善光寺上人ナドノ弟子、又ハ貴人ノ召使ヒ、熊野比丘尼等也

一　髮切　是ハ髮ノ長短ニカヽハラズ、切タルモ又ハ中ハサミタルモ、カミキリ迚髮ヌケカミ生ヘ、カミヲ切リシト見ユルハ、カミ切也

一　少女　當才ヨリ振袖ノ内ハ、小女タルベシ、併シ振袖不審體アラバ改ムベシ、但小娘尼禿カミキリ等ハ改ムルニ及バズ

一　亂心　男女

一　手負　同

一　四人　同

一　切首　同

一　死體　同

右之通證文可二書入一、若不審ノ體於レ有レ之ハ可レ改、此外ハ改ニ不レ及、但欠落等ノ者有レ之節ハ、此方ヨリ書付可レ遣旨、隨二其趣一可レ改レ之、次ニ當月日付ニテ來月晦日マデハ可レ通レ之、日限ヨリ及二延

引ニバ不ニ相通一、歸路次ニテ病氣カ、又ハ相果、證文ヨリ數不足ノ分、其斷聞屆可レ通、勿論多ク不レ可レ通者也

能登守
壹岐守
出羽守
內藏允

人改中

元祿年中御改如レ左

御關所手形ノ內相改ノ事

覺

一　髮切　是ハカミノ長短ニカヽハラズ、ノコラズソロヘキリタルハカミキリ也、病氣ニテ生ソロハズ、少シキリタル樣ニ見エ、又ハ中ハサミ腫物ノ上等ハサミシハ、カミキリニテハ無レ之候間、以後ハアラタルムルニ不レ及也

右之通髮切ヶ條今相改ノ條、來月朔日ノ日付手形ヨリ、此書面ヲ用ヒ可レ改レ之、其外先規ノ趣ニ候、

以上

元祿十四年十月廿四日

伊豫守
長門守
主計正
玄蕃頭
人改中

右御條目ノトホリ、出ノ女、并ニ乘物・亂心・手負・囚人・首死體ハ、手寄ニテトホル也

覺

一 入女也

城主・家老證文、御料ハ御代官ノ證文、亦ハ手形ニテモトホス

一 入鐵砲ハ

玉目十匁以上、鐵砲數十丁ヨリ御老中證文、御裏印ノ證文、玉目九匁筒九丁マデハ、其家ノ家老ノ證文ニテトホル、御代官ハ御代官直證文、尤先達テ印鑑御關所ヘ差出置、鐵砲相通候節ハ、右印カヾミニ引合セテ通ル也

一 出鐵砲ハ

玉目五十匁以上、五十丁ヨリ諸侯方ハ御直判ノ證文、二十丁・三十丁・四十九丁ノ小筒ハ、家老證文、御代官所ハ御代官證文ニテトホス、尤印カヾミヲ御關所ヘ差出置、鳥銃トホス時引合ス也

一　武器ハ

出入トモ家老證文、御代官所ハ御代官證文ニテトホス、尤武器モ數ノ多少定リアリ

一　入死體・入首ハ

諸侯方ハ家老ノ證文、御代官所ハ御代官直證文ニテトホス

一　入囚人ハ

是モ右同斷ナリ、尤モ御代官所ハ手代ノ證文ニテトホル也

右何レモ御關所ヘ前廣ニ印鑑差出シ置、引合シテトホルナリ

右ノ通ニ定メアリト云ドモ、前條ニモ云如ク、碓氷御關所入女、並ニ囚人ノ類手形ナクテハ叶ヒ難ク、此外ニモ御關所ニヨリ手形ナクテハ入難キ場所モアリヤ、何レ入女並囚人等アル時ハトホスベシ、關所ヘ前廣ニ申入オキテ、法式ヲ承合セ取計ベシ

一　寶曆六子年三月上旬、千種淸左衛門御代官所、越後國淺郡ヨリ囚人三人、三國路ヨリ江戶ヘ差出ス時、猿ケ濱ハ伊奈半左衛門支配、松ケ橋ハ松平大和守持、各所松ケ橋ニハ手代證文ニテトホリタル先例ナク、御留主居河野豐前守ヘ被ニ相伺ー候所、入ノ女・囚人・亂心・手負・死體ハ、諸侯方ハ直證文

ニテトホルベシ、去ナガラ前々仕來ノ儀、伊奈半左衛門へ問合セアリシ所、直證文ニテモ手代證文ニテモトホス先例ノヨシ故、此度モトホシテ可レ然トノ答ヘ故、手代證文ニテ越タリ、然レドモ御旗本・御代官ハ證文ノ積リ可レ然ト、豐後守被レ申タルヨシ也、然ドモ手代證文ニテトホス御關所モアリ、是又急度御議定無レ之ト聞エタリ

國々ヨリ入ノ女・擒者類手判ニテトホル御關所モアリ、手判被二差出一諸侯方在府ノ時ハ、證文ヲ書、使者ヲ以其旨役人ヘ掛合、手判ヲトル、尤是トテモ御留主居方へ同文證文ノ下書ヲ仕立差出スベシ、加筆ヲ請タル上、本紙差出ス也、若在府ニ非ザル時ハ、書狀ニ證文相ソヘ差出ス、御料・私領トモ同然也、但前書ノ如ク諸侯ガタハ、出鳥銃・玉目五十匁以下、筒五十丁以下ハ、家老證文トアリシ所、去ル天明七年當領分銚子表ヘ鳥銃差出、市川ノ關所通ル時、證文等ノ事伊奈家ヘ聞合シタルニ、玉目十匁以上ハ一丁ニテモ御老中方ノ證文九匁、以下九丁マデハ留主居證文ニテ出ル、十丁以上ハ大小ニカヽハラズ、總テ御老中ノ證文ノヨシ、右家來永田九郎兵衛被レ申タリ、其節ハ七匁五分以下ノ鳥銃五丁取ル故、留主居證文ニテ通リタリ、然バ本文ノ定メ入ノ書トハ少シ違フ樣ニ見ユル、是ハ市川ノ關所ニ限リタルニヤ、左スレバ關所ニヨリ家老ノ證文ニモカギラズ、留主居ノ證文ニテモ濟事ト見エタリ、勿論玉目筒數等モ相違アリ、然バ其關所ニテ作法違フト見エシハ、鳥銃・鎗等武具ノ出入、又ハ女擒者ノ類アル時ハ、其道路ノ關所ニテ其地ノ作法ヲ問合スベシ

越後國ハ女囚人等ハ、高田ノ城主ノ手判ヲ取リテトホルトアレドモ、已ニ寶暦年中千種清左衛門御代官所へ、越後國猿ケ京・松ケ橋人ノ囚人ハ、手代ノ證文ニテトホリタリ、臼井ニ限リ手判ナクテハトホリ難シト思ヒシニ、此度當領分越後ノ一ノ木戸村罪人二人、高サキヘ差出スニ付、鉢崎又宇須井ノセキ所ヲトホリ、又外三ケ所モ高田侯ノ手判ニテトホリタリ、ウスヰハ格別、ハチ崎ノセキ所ハ高田侯ノ持ニテ、定番足輕體ノ者番ヲ勤メテ、サルガ京位ノ關所ト見エ、松ケ橋等ヨリハ格別輕ク見ユル所ニ、手判ナクテハ通リガタシト云事、御關所ノ輕重ニ應ジ、急度御議定アル事トモ聞エズ、其セキ所ノ昔ヨリノ仕來リト見エタリ、後年見合ノ爲、此度高田侯ノ手判取タル通リ、振合等ヲ記シ置者也

一筆致㆓啓上㆒候、彌御堅固御在邑、珍重ノ御事ニ候、然バ拙者領分、同國同郡一ノ木戸村、上州高崎マデ差遣候、依㆑之證文差遣候間、鉢崎・關川・碓氷御關所無㆓相違㆒罷通候樣、御手判可㆑被㆑下候、此段爲㆑可㆓御意得㆒如㆑斯御坐候、以上

三月十五日　　　　　　　　　　御名

　　　　　　　　　　　　　　　御名乘　印

榊原式部大輔殿

長髮男囚人二人、銘々手鎖・腰繩付、宿駕ニテ領分從㆓越後國蒲原郡一ノ木戸村㆒、上州高崎マデ差出

申候、依レ之鉢崎・關川宇須井御關所無ニ相違一罷通リ候樣御手判可レ被レ下候、右ハ領分越後國蒲原郡大曲村百姓七郞右衛門傳吉ト申者共ニ御座候、今度吟味ノ筋有レ之、召呼申候節、拙者ドモ儀ニ付、若出入ノ儀致ニ出來一候バ、拙者へ可レ被ニ仰聞一候、爲ニ後日一證文仍如レ件

寬政六甲寅年三月　　御名兩判

榊原式部大輔殿

長髮四人二人、手鎖打、腰繩付從ニ越後國蒲原郡一ノ木戶村一上州高崎迄相越候、鉢崎御關所無ニ相違一可レ通候、是ハ松平右京亮殿領分越後國蒲原郡大曲村百姓七郞右衛門傳吉ト申者、吟味ノ筋有レ之、召呼候由、右京亮殿依レ斷如レ斯候、以上

寬政六寅年三月廿一日　　式部印

鉢崎

人改中

右ノ外關川臼井ノ分モ同文言故略レ之

地方凡例錄卷十終

地方凡例錄卷十一

目錄

地方凡例錄卷十一

一 民間金銀通用之事　付　金銀本朝出初　佐渡金山初　信長金並甲金　但馬南鐐　銀札通用金銀兩用初　金百疋ト云事　金銀座始並包歩金

本朝金銀通用ノ儀、昔如何ナル制ニテ用ヒタリシヤ古書ニモ見エズ、中古以來ハ砂金ヲ用ヒ、又竿金モアリ、タガネニテ切ツカヒナリ、銀ヲ用ル事何レノ世ヨリハジマリシヤ知ラズ、今ノ制ノ小判歩判ハ、人皇百八代後陽成院ノ御時、豐臣太閤ノ代、慶長元丙申年ハジメラル、小判歩判ヲ制セラレシカドモ、イマダ民間ニ行渡ラズ、又自由ナラザル所、神君御代ニナリ、慶長年中精金銀ヲ以大判小判歩判幷ニ丁銀豆板等多分吹セラレ、民間ニ通用スベキ旨ノ台命ニテ、金銀座ハジマリ海内用便自由ニナリ、金一兩ノ價六十目、上方ハ時ノ相場アリテハ、六十目ヨリ内ニ成時モ外ニ成時モアリ、錢ハ金一兩ニ凡四貫文、其後相場ニテ四貫五六百文・五貫文ニ成事モアリ、金ハ日本國中便用スルトイヘドモ、重ニ關東ニ行用スル也、銀ハ上方ヨリ西國スヂニ弘マル、勢州ヨリ東用方自由ナラズ、慶長年中ヨリ嚴有院樣御代マデ、御四世年數凡百年ニ及、其間ノ新金ヲ用ヒラレタル所、常憲樣御代、元祿八亥年金銀ノ數ヲ增シ、銅錫鉛等ヲマゼテ吹セラレ、大小歩判ノ外ニ二朱金モ鑄ル、何レモ元ノ字ノ極印アリ、金ノ位大ニ

劣リ、眞金ノ色ヲウシナヒ鍮石ノ如ク、元祿ノ新金ト唱ヘテ海內ニ行フ、銀錢碎金ニモ銅鉛ヲ加ヘ數多吹出、是又文ノ字アリテ通用ス、慶長ノ純金銀ヲ停止セラレ、銀ハ亦寶永三年銅鉛ヲ多ク加ヘ、銀ノ位大ニ劣リ、寶ノ字ノ印ヲ打、是ヲ寶永新銀ト云、其色黑ノシテ彌イヤシクナリ、其後又雜物多ク交テ、寶字二ツ打テ用ユ、程ナク又其上雜物ヲクハヘ、右ノ文字ヲ三ツ打、シバラク用ヒタリシニ、尙又雜物夥ク入テ製シ、此ノ字四ツ打、是ヲ四ツ寶銀ト云、其色ハ鉛ノサビタル樣ナ物也、其頃錢ト替ルニ、一錢目價十八九文二十文ヲ限リトス、國土ノ至寶如レ此次第々々ニ位イヤシクナリ、若シ異國ヘワタリナバ日本ノ耻辱甚シキ也、然ニ寶永六己丑年、文昭院樣御代ニナリ、金ギンノ位イヤシク成タルヲ歎カセラレ、元祿ノ惡財ヲ止、慶長ノ精金ニ復シタキ御旨ト云ドモ、其員數夥ク減ル故、中々急ニ改テハ、却テ世上ノ差支ニ成ベシトノ御旨ニテ、先ヅシバラク小判步判ノ形ヲ小薄シテ、重目半減ノ積リ、小判二錢目四分一步六分ニ吹立、乾ノ字ノ極印ヲ打、二朱金ハ停止セラレ、是ヲ乾金ト云、文字金ト並行フ、其後正德二壬辰年、文廟御他界ノ節、元祿金ヲ止ラレ、慶長金ニ可レ復古ノ旨御遺命ニテ、乾金益イヤシクナリ、一兩ノ錢二貫五六百文ニナリ、同ク四甲午年、有章院樣御代ニナリ、昔ノ如ク慶長金通用ヲ命ゼラレ、尙新タニ小判步判ヲ作ラセレ、金ノ位重目トモ慶長同樣ノ小判、一兩重目四錢目八分一分一錢目二分ニ吹立、慶長金ニ並ベ行ヒ、元乾ノ字金堅ク禁ゼラレ、是ヲ新金ト云、此節金一兩錢四貫九百匁ニ替ル、大判ハイマダ作ラズ、元祿ノ大判ヲ用ユ、其後有德院樣御代ニ、新金ヲ吹

増アリテ、享保七壬寅年、元乾金停止サセラレ、新金バカリ通用トナリ、同十二年新大判目方三十六錢目ニ作リ、元祿ノ大判ヲキビシク禁ジサセラレ、銀ハ文廟御代、正徳二年精銀ヲ以テ作ラシメ、昔銀同様ニ成ル、然ドモ海内ヘ行ワタルベキホドイマダ成就セザルユヱ、文祿銀寳永四字等ノ下品モ廢セズ、新銀ト並ビ通用ス、由レ之善悪六等ノ品、夫々ニ相場ノ高下アリ、士民トモ甚ダ是ニ苦ム、新銀一錢目ニ四ツ字銀四錢目ヲ替、有徳院様御代、享保三年精銀ヲ以テ新銀ヲ作増、同七年ニ至リ、新銀海内ニ行ワタルホドニ成タル故、元祿以來右等ノ悪銀嚴ク停止サセラレ、新銀一品ノ通用ニナリ、世上穏成タルニ、同御代元文元年亦吹カヘヲ命ゼラレシニ、又候ヤ銅等ヲ多ク打込、剰ヘ小バン歩バンモ小薄ニシテ、小バンノ目方新金ニ一匁三分減ジ三匁五分、歩判九匁ニナリ、銀モ亦雜物ヲ合セテ其品類多ク出來、位格別ニオトリ、文ノ字ノ極印ヲウチ、文金銀ト云テ通用ヲ命ゼラレ、新金銀ヲ古ト唱ヘ通用ヲ禁ジラレ、凡古金ト文金ハ五割違ニテ引カユル、銀モ格別價違トイヘドモ五割マデハチガハズ、當分ハ古金銀モ世上ニ流布セシニ、近來ニ至リテハ何方ニ隠レシヤ、一向當時ノ者ハ見タル事モナシ、其後ハシバラクノ間吹カヘナシ、浚明院様御代、明和五戊子年、五匁銀ヲ造ラル、長サ凡一寸幅五分ホドニテ、四方ノ端ニ雨龍アリ、金一分ニ三片ヅヽカユル、關東ニハ銀通用ナク、歩割ノミ故、一分ノ代ハリニ用ユル事故、下ノ便利ノ爲トテ命ゼラルヽ所、元來錫鉛等ヲ多ク入シ故、五匁ニカユルホドノ位ナキユヱ、江戸市中サヘ忌キラヘバ、マシテ遠國等ハ用行セザルユヱ、諸人大ニ難

催セシ故、一兩年ニテ罷メリ、安永元年精銀ヲ以テ二朱銀吹カヘシ南鐐ト云テ大ニ用ヒラレ、四方ノ端ニ星形アリ

表　以南鐐八片
　　換小判一兩

裏　銀座
　　常是

如レ此銘文アリ、是ハ五匁銀ト違ヒ、正銀ユヱ色モ美ニシテ、目二匁七分アリ、通例立銀七匁五分ヨリ八匁マデニ替テ田舍マデモ用行セリ

一　本朝金銀始之事

人皇四十五代聖武天皇、天平二十一己丑年二月、陸奧國百濟王敬福ヨリ始テ黃金ヲ獻ズ、其時ノ詔ニ我國ハ開闢ヨリ以來、黃金ハ他ノ國ヨリ貢グ事ハアレドモ、我地ニハ無モノナリシニ、此度黃金ヲ貢事、叡感淺カラズトノ勅命也、是ヨリ歷代陸奧國ヨリ黃金ヲ貢事絶ズト、日本紀ニ見エタリ、其後大平二十一年、孝謙天皇御受禪、勝寶ト改元アリ、其時中納言家持ノ和歌ニ云

　須女呂木ノ御代サカエント吾妻ナル、陸奧山ニ黃金花サク

如レ此詠ゼラレシニヨリ、其金ノ出タル所ヲ金華山ト名ク、此山金多クアリトテ、山師是ヲ願ヘドモ、辨財天ノヲシミ玉フトテ掘事ヲ許サズ、國益ニナル金ヲ空ク地中ニウヅメオク事、ヲシムベキ事也、亦四十一代文武天皇五年辛丑年三月、對馬ヨリ金ヲ奉ル、故ニ大寶元年改元アリ、是又日本紀ニ見ユレド

モ、聖武帝ノ宣旨ヲ思ヘバ、對馬ノ地ヨリ金ノ出タルニハ有マジク、外國ヨリ來リシヲ奉リシナラン
カ、扨又白銀ハ四十代天武帝、白鳳三甲戌年三月、對馬ノ國司忍海造大國、白銀初テ當國ニ出ルトテ貢
上スト、日本紀ニ見エタリ、是和國ニ白銀ノ出タル初也、是ヨリ昔ハ本朝ニ出タル事ナク、金銀ヲ用
ヒザリシニヤ、左レドモ日本紀ニ、二十四代顯宗天皇二年、稻一石ヲ銀錢一文ニ易ルトアレバ、外國ヨ
リ金銀渡リ、本朝ニテ銀錢ヲ吹タルニヤ、昔ノ事ハ詳ナラズ、銀錢一文ニ稻一石替ルト云ハ、其頃穀
物ノ價至テ賤クトモ、何トヤラン餘リ下直過ル樣ナレドモ、其節ノ銀錢大小目方モ知レズ、一文錢今
世ノ金銀ニクラベ、何程ニアタルヤ知レザレバ、其評ニハ及難シ、四十一代持統天皇八年春三月二日
直廣肆大宅朝臣丸・勤大貳臺忌寸八島・黃文連本實等ヲ以テ、鑄錢司ニ拜スト、日本紀ニミエタリ、續日
本紀ニハ、四十二代文武帝三年、初テ鑄錢ノ司ヲ置ル、直大肆ノ中原朝臣意美丸ヲ以テ長官トスルトア
リ、左スレバ御國ニテ錢ヲ鑄タル初メハ、持統・文武ノ御時ヨリ初リシトミユレバ、顯宗帝ノ頃ヨリ、
銀鑄ハ外國ヨリ渡リシモノトミエタリ、唐土ハ江漢ヨリ金銀起レリト、管子ニ出、亦禹ノ時五年ノ洪、
湯ノ時七年ノ旱アリシニ、禹王ハ歷山、湯王ハ莊山ニ金ヲ得テ民ヲ救フト、事物紀原ニ出タレバ、唐
土ハ三代ノ頃ヨリ有シトミユル、金幣ノ制通用ノ事ハ知ラズ

一　佐渡ノ金山ハ神君御代慶長年中ヨリ初ル、其外諸國金山連年ニ起リシカドモ、費用多ク休山ニナ
リ、今ニ存スルハ佐渡ノミ也、銀山モ段々休山ニナリ、石見幷ニ奧州ノ半田山ノ外、今ニ存ルハナシ

一　信長金ハ今ハ斷テナシ、寶永ノコロ美濃ノ關邑ノ農家ノ地中ヨリ板金ヲホリ出セリ、形モ大サモ大判ノ如ナレドモ、銘文モナク、兩面ニアラキ刻アリ、如何ナル金ト云事ヲ知ザル故、京都ヘツカハシ、金座ヘ見セタルニ、信長公ノ代通用ノ金也トテ、タガネヲ以テ切テ秤ニ掛テ遣フ、精金故極印ハナシト云、考ルニ今ノ大判ノ如ク民間ノ通用ハナク、公用ノミニツカヒタルナルベシ、亦此時分甲州武田信玄ノ制金アリ、丸キ一歩判ナリ、一分十二匁・一兩ハ四十八匁、尤小判ハナク、至テ精金ニテ正德ノ新金ヨリモ又上品ニテ、二朱判六匁・一朱判五分、是ハ四角也、其下ニ糸目七分五釐・小糸目三分七釐五毛、今一朱中迄ハアレ共、朱中ハ甚ダマレ也、糸目、小イト目ハタエテナシ、今時ニ甲州ノ通用ノ金ハ常憲院樣御代、松平甲斐侯甲州ノ國主タリシ時、一歩判二朱判吹立ラレ、幸定幸重ノ銘文アリ、今ニ甲州ニ通用ス、是ハ小判ナク銀鉛等ヲ入テ吹タルユエ、信玄時代ノ古甲金ヨリ位劣リタレドモ、正德金ヨリハ勝ルベシ、今ノ文金一歩ト、甲州金一歩ノ價錢二百文餘、尤三百文ホド直段ヨロシ、甲州ノ民ハ印金ヲ貴ミ、文金ヲ賤ム、甲金ノ座松木ト云フ御朱印ヲ賜リ甲府ニ住居ス、古甲金今ハ少ク用行ナキ故、相場モ知レズ、去ナガラ所持ノ者ニ所望スレバ、古金一歩ト文金二歩ニモカユルベシ、又但馬ニ南鐐銀アリ、昔ハ彼國ニ通用シタル由形金一歩ノ如ク、精銀ニテ四方ノハシニ屋形アリ、片面ニ但馬、片面ニ南鐐ト云文アリ、昔用行シタル節ハ、一片銀一兩ニカヘタルヨシ、今ハ斷テナシ、稀ニ持タル者モアリ

一　紙錢ト云ハ銀札ノ事也、唐土ニテハ寶鈔ト云、紙ヲ厚クシテ、裏表ニ印ヲオシテ、五釐一分ヨリ次第ニ一匁十匁百匁ト、札ニ大小アリ、印モ亦違フ、其カヽリノ役人印形數多クアリ、其一國限リ錢ノカハリニ用ユ、本朝ニ紙錢始リシハ、九十五代後醍醐天皇元弘三亥正月、大內裏造營有ベキトテ、イマダ御國ニナキ紙錢ヲ作リ、諸國ノ地頭御家人ノ所領課役ヲカケラレシト、太平記ニ見エタリ、是本朝ニ銀札ノ初メナルベシ、御當代ニ成テハ、常憲院樣御代、元祿年中、諸侯ノ國々ニ銀札ヲ作リ、金銀錢ニ引カヘ、其領內限リノ通用ニテ、民家損失多ク難儀ニ及ベリ、銀札ハ唐土日本民ニ大害アル惡政ノ第一也、因テ寬永ノ初、文昭院樣御代ニナリ、諸國ヘ令シテ嚴ク是ヲ禁止セラル、實ニ難レ有キ御仁政也、其後ニモ賄方不如意ノ諸侯、又是ヲ行ハレ、近年ニテハ江州ノ彥根、四國ニテ阿波・土佐、九州ニ豐前中津領・小倉ナド夥ク振出ス、元文ノコロ筑後久留米・柳川ナドニモ用ユ、其外ノ國々ニモ又有ベシ、五七年或ハ十年餘ニテ、金銀上ニ集レバ札會所ノ引替延引及ブ、後ハ三枚重五枚重トテ、タトヘバ銀サツ五匁三匁差出セバ、玉銀一匁ワタス樣ニナリ、次第々々ニ位劣リ、其上殘ラズ引上濟ザル內、火急停止申觸ラレ、諸人所持シタル物忽チ反古ニナリ、實ニ民ノ難儀言ヤフナク、伊勢神領ノ銀サツハ、享保年中ヨリ通用アリ、是ヲ端書ト云テ、引替差別ナク、神領ハ云フニ及バズ、近頃マデモ滯リナク通用シ、諸人ノ難儀モ少キユヱ今ニ用ユ、國々銀サツノ制ノ券、並ニ多少等夫々ニ違有ベケレドモ、大方城下ニ札會所ヲ建テ役人ヲ出シオキ、金銀錢ヲ請取テ是ヲワタシ、亦金銀ニ引カヘ

ル度、札ヲ出シ請取テ其數ホド金錢ヲワタス、市中兩替店ニテモ銀サツヲ以テ金錢ニ引カヘタク思ヘバ、速カニ引カヘツカハス、尤時々相場アルハ、金錢ノ相場ニ準ズベシ、會所ニテ引カヘハ、銀サツ一匁ハ銀一匁ニ引カハリ、通用自由ナル所、後ニ成テハ會所引カヘニ怠リ、前條ニ云如ク、銀高三匁差出シ正銀一匁請取樣ニ成テ、次第々々ニ銀サツ衰ル故、兩替屋ナドニテハ斷リ言テカヘザル樣ニナリ、商賣物ニテモ印紙ハ否ト云テ、終ニハ賣買モ成ラズ、果ハ下民ノ痛ミトナル事、實ニ惡政ノ甚シキ者也、海内廣キ者ナレバ、定テ今時モ是ヲ行フ國々モ尙有ベシ、唐土ニテハ元ノ世祖ノ時初リ、紙ヲ以テ印章ヲ記シ寶鈔ト名ケ、金錢ノ代リニ用ヒシト、古今原始ニ見エタリ、元ノ代ヨリ以前ニハ彼地ニモ無キ事也

一　金銀兩目之事

地方落穗集ニ曰、金銀ハ世界ノ至寶タリ、形雞卵ノ如タルニヨリ、其緣ヲ取リ益ス世界通用ノ儀ヲ以テ、玉子ノ白ミノ目方ヲ銀ノ量目トシ、一兩四匁三分、黃ミノ目方金一兩ノ量目四匁八分ト極リタルヨシナレドモ、此說信ジガタシ、已ニ雞卵ニモ大小アレバ、必ズ輕重モ有ベシ、試ニ中分ノ玉子二ツ掛改ルニ一ツハ八匁七分、一ツハ九匁五分アリ、金銀一兩ノ量目ニテ九匁一分ニ付、黃ミ白ミトワケ、世界ノ形ニ准ジ玉子ノ重目ヲ取、金銀ノ目方ヲ極メタリト云事、目方似寄多ケレドモ、度量ノ事ハ和漢トモ故人モ論辨アル事ニテ、雞卵ノ量目ナド云ハ取所ナシ、秤ニテカケル斤兩ノ事ヲ衡ト云、總テ

萬物五音十二律ヨリ起リ、黄鐘ノ律ヨリ出ル、是ハ吹物ニテ十二月ノ調子也、此ノ調子ノ管ノ圖ト、九
分長サ九寸、此内ニ秬黍ノ中ナル物千二百粒入ル、此重サ十二朱、是ヲ倍シテ二十四朱ヲ一兩トス、
十六兩ヲ斤トス、一朱ノ重目經濟錄ニハ、三分三釐三毛三糸三忽三微不盡トアリ、今時唐土ニテハ一
朱四分一釐六毛六糸六忽六微ニシテ、一兩十匁一匁百六十目、是亦經濟錄ニ見ユ、又前漢ノ武帝ノ元狩
五年鑄錢アリ、重目五朱アル故ニ、五朱錢ト云、此量目六分一匣七毛二糸八忽不盡アリ、一朱一分二匣
三毛四糸五忽六微不盡ニアタリ、二十四朱ニテ一兩二匁九分六厘二毛九糸六忽二微不盡ニアタル、然
ルニ於ハ諸書ニ出タル一朱ノ目方、世ニ不同アリトミエ、元來秬黍千二百ツブノ重サ十二朱、一朱ノ
目方ノ何レヲ用ヒタルヤ詳ナラズ、本朝ノ一兩銀ハ四匁三分、金ハ四匁八分、其外藥種ニ類スル品々
大方一兩四匁三分也、物ニヨリ五匁一兩ノ品モアリ、一斤百六十目ハ通法也、是モ二百目。二百二十目。
三百目一斤トスル物モアリ、右ノアタリニテハ、十六兩ヲ一斤トシテハ、一兩五匁一斤八十目也、倍
シテ一斤ヲ百六十目ニ極メタルモアルヤ、本朝ノ兩目ハ一朱ヨリ二十四朱ヲ一兩、十六匁ヲ一斤ト極
タル事トハ見エズ、其始リワカリガタシ、前條雞卵ノ緣ヲ以テ金銀ノ兩目ヲ極メタルト、心ニ慥ナル
樣ナシ、タヾ玉子ノ掛目凡ニ符合スルマデニテ、古金ニモ見ズ、中古如何ナル故ヲ以テ四匁三分ヲ銀
一兩ト定メタルヤ、出所詳ナラズ、金一兩ノ兩目ヲ古金四匁八分。文金三匁五分。乾金二匁四分、其時
時ニ鑄立、形ノ大小厚薄、替物ノ多少ニ由テ目方違ヘバ。尙又玉子ノ黄ミノ目カタニカヽハリタル事ト

ミエズ、本朝ニテ一朱ノ目方極リモナク、掛目ニテ改通用品、兩ノ下ハ何匁何分ニテ通用シ、何朱ト云事ナケレバ、強テ此論ニモ及バザル事也、今金一分ノ半ヲ二朱ト云事ハ、外國ヘハ通ゼズ、我國一時ノ通稱ノミ也

一　金一歩ヲ百疋ト云事

是ハ元來永錢ヨリ起リシコト也、慶長年中小判歩判始リタル時、金一兩凡四貫文ホドノ價ニテ、一歩ハ一貫文ニアタル、本朝鑄錢初リシ後、何レノコロニヤ、駒引錢ト云ヲ吹テ、一錢ヲ十文ニ替ル故、十文ハ十疋也、由テ錢百文ヲ一疋ト云、金一歩ハ錢一貫文ニアタル故、百疋ト云ヨシ、地方落穗集ニミエタリ

一　金銀座初リ之事

京都ノ町人後藤庄三郎ト云者、神君ニ昵近シ奉リ、御軍中ニモ御側ヲハナレズ、慶長御一統ノ後江戶ニ住シ御宛行被下金座被命、公納ニナル小判歩判ハ總テ庄三郎改メツヽム、此改料金百兩ニ付銀五匁ヅヽ取ル、是ヲツヽムト云、大判改座ハ庄三郎分家ノ者勤ム、銀座モ同人分家ヨリツトム、公納丁銀豆イタ包ミハ、大黑常是（本名ハ長左衞門ト云）此者國初ヨリツトメ、上方ニモ公納銀改ムル大黑アリ、當時二朱判ハ銀座ニテ改メツヽム也

但色分銀算法納金ヲ十二ニテ調ケバ、歩銀永ニテ出ル、兩百兩ニ永八十三匁三分三釐三毛也

一　錢初之事　附　本朝鑄錢初　九六錢始リ　錢ヲ鳥目ト云何疋ト云始リ

夫錢ノ起リハ、古今原始ニ曰、女媧氏ノ時棘幣ヲ作ル、外圓ナルハ天ニ象ドリ、內方ナルハ地ニカタドル也、輕重ヲ以テ定メ有無ヲ通ズ、銅ヲ集テ作ル、是錢ノ起也、又馮鑒ガ積事始ニハ、帝堯ヨリ起ルト云、女媧氏ト堯トハ時代餘程違フ也、何レカ是ナルヤ知ラズ、事物紀原ニ曰、夏ノ代五年ノ洪水、殷ノ代七年ノ旱、禹ハ歷山ニ金ヲ取リ、湯ハ莊山ニ金ヲ得テ、並ニ幣ヲ鑄テ民ヲ救フトアリ、錢ト名ル事ハ周ノ太公ニ至テ初リシト管子ニ見エタリ、錢ヲ貨幣ト云、錢ニ三種アリ、金銀銅也、金ハ大判小判銀錠ニ類シ、銅ハ今ノ錢也、昔ハ錢ノ文字泉ノ字ヲ用ユルハ、世間ヲ通ズル事水ノ地中ヨリワキ出ル如ク、世界ヘ流レ廻ル物故、泉ノ字ヲ用ヒ、後世ニ至リ錢ノ字ニ改メシ也、然レバ今ノ銅錢ノミニカギラズ、金銀錢トモ昔ハ泉ト云シナルベシ

婦人ノ詞ニ錢ヲ御足ト云モ昔ノ泉ノ意ニ似テ足ハ千萬里モ行モノ故斯云也

勿論大判小判步判丁銀等ハ、末世ノ物ニテ昔ハ其形有ベキモノニアラズ、如何ナル制ニテ通用シタルヤ知ラズ、外國ノ昔ハ革幣ト云テ、獸ノカハヲ以テ錢ヲ作リ用ヒタリシニ、其後金銀銅錢ニナリ、又銀錢モ用ヒタリト、經濟錄ニ見エタリ、何レノ代ノコトナルヤ、已ニ女媧氏ノ時銅ヲ集メテ錢ヲ鑄ルトアレバ、其ヨリモ尙以前ノ事ニヤ、孔方圖鑑錢譜等ニハミエズ、當國國語ニ周ノ景王ノ時、錢ノ輕キヲ歎キテ大錢ヲ作ル、ワタリ一寸二分重サ十二朱トアリ、是ヲ見レバ大錢ハ周ノ時ニ初リシトミエタ

リ、今古錢ヲモテアソブ者、半兩五朱大錢貨錢等ヲ最上トス、半兩ハ秦ノ始皇帝アカヾネヲ以テ作ル
アカヾネト云ハ今ノ唐カネ赤銅ノ類也、今日本ニ有アカヾネニ非ズ、和錢トイヘドモアカヾネニテ
ハナシ、總テ唐カネ也、此性ニ善惡アリ、日本元文以後ハ、カラカネニテハナク、アカヾネ亦ハ鐵
也、五朱半兩ハ云ニ及バズ、昔ノ錢ハ上品和漢トモ亦銅ナリ

形質日ノ如クナリ、重サ十二朱一兩ハ二十四朱故、十二朱ハ半兩ナリ、由之銘文トス、十二朱ノ日方
一匁四分八釐一毛四糸八忽、今本朝ノ秤ニテ一匁三分ノ内外ナリ、新古秤ノ違ヒ、又始皇ヨリ我ガ寛
政六寅年マデ年數凡二千四十年餘ニナレバ磨滅モアルベシ、前漢ニ至リ文帝五年又半兩ヲキル、半兩
錢ハ形容厚大也、五朱ハ前漢ノ武帝元狩五年ニキル也

唐土ノ年號ハ、武帝ノ建元ヲ初トス

寛政六年マデニ千九百年餘ニナル、五朱重目方六分一釐七毛二糸八忽アリ、重目ヲ以テ銘トス、始皇
ヨリ武帝マデ年數百三十年餘、高祖ヨリ五代ノ間ハ半兩ヲ用ヒ、其後五百七十年餘代々鑄錢アリ、何レ
モ大小輕重アレドモ、五朱ヲ以テ銘文トス、隋ノ帝開皇元年ニ五朱ヲキルマデ前漢ノ文帝ヨリ七百五
十年ノ間キタルヲ、古文錢ト云テ珍寳トス、秦ノ半兩ハ最上ノ貨幣ニテ、又別段ノ上品也、希ニ我國
ニ存在スルトイヘドモ甚ダ少シ、周以前ノ品ハ尙サラメヅラシケレド聞テナシ、故ニ孔方圖鑑●錢譜等
ニモノセザルナリ、如何ナル形、如何ナル文トモ知レズ、亦大昔ノ錢ニ鳥布トテ、鳥ノカタチニ等シク

目ヨリ下ニ烏布ト云字アリ、其目ニ穴アリテ、是ニ糸ヲ貫キ結タルヨシ、上品ノカラ金ニテ、或人ノ所持セシヲ見タル事ハアレドモ、何レノ代ト云事ヲ知ラズ、古書ニモミエズ、何レ三代ノ内ノ物トオボシク、秦ノ半兩カタチ重目モ大方等シケレバ、周ノ末ノ物ニテハアラズ、必周以前ノ物ニテモヤ有ベク、地方落穗集ニ烏ノ字ノカタチニ似タル錢、神功皇后三韓征罰ノ節、彼國ニテ得玉ヒシト云說アルヨシヲノセタリ、然ラバ右ニ記セシ如ク、今所持シタル人ノ烏布ト符合スレバ、大昔アリシ物ト思ハル、

隋ノ文帝ノ代ニヰタル五朱ノ後、唐ノ高祖武德四年ニヰタル開元通寶ヨリ以後ノ錢ヲ平錢ト云、武德ヨリ寛政六年マデ年數千百七十年餘ニ成、錢ノ文ニ年號ヲヰルハ、後魏ノ孝文帝大和十九年ヨリ初ル、夫ヨリ以前ハ時ノ儒者ニ命ジ、文字ノヨロシキヲエランデ錢文トシ、能書ヲ以テ是ヲ書シム、開元通寳ハ平錢ノ初ニテ、和漢事始ニ、唐會要ニ曰、武德四年七月十日、開元通寶ノ錢ヲ行フ、是ヨリ通寳ノ字ヲ以テ錢ノ文トス、又譚賓錄ニ、武德ノ初開元通寶ノ錢ヲヰル、其始テ鑄鎔ヲ進ル日、文德皇后一甲痕ヲ指、因テ又改メズト云、世俗玄宗帝ノ開元中此文ノ錢ヲヰル時、揚貴妃ノ甲痕ヲ留ト云ハ誤也トアリ、亦丘瓊山世史綱ニ、唐ノ開元通寶ハ高祖武德四年ニヰル也、開通元寳ト可レ稱也、錢ノ名及其文字モ歐陽徇ガ書スル所、俗ニ是ヲ開元通寶トイヘドモ、玄宗ノ時ヰルニ非ト記セリ、然レドモ通鑑綱目、並孔方圖鑒ニモ、武德四年初テ此錢ヲヰルトアリ、近來山田氏ノアラハシタル權量撥記ニ古書ヲアゲテ記ス、武德ニヰル所ノ錢ハ背ニ甲痕アリ、重サ八分五厘五毛、武德年中ニ始テヰル、三百年

ノ間鑄治タエズ、何レモ多ク開元通寶ノ文ヲ以テス、是ヲ以其錢彌多シ、末ニ至テハ京洛挂搨等ノ文一字ヅヽヲヰル、厚薄輕重同カラズ、銅ノ性モ劣レリ、背ニ甲跡アルヲ上品トス、尤唐三世高宗帝乾封元年、乾封泉寶ヲヰル、肅宗帝乾元元年乾元重寶、同二年重輪乾元、代宗帝大曆四年大曆重寶ヲヰルトイヘドモ、何レモ其數少ク、因之普ク世ニ行フ所ハ、開元錢ヲ以テス、唐ノ六典ニ曰、聖朝武德中悉除ニ五朱ニ鑄開通元寶ニトアリ、モロコシニ開通元寶トアレバ、此讀方是ナランカ、然ドモ開元通寶ト諸書ニモ出、已ニ圖鑑綱目ニモ開元通寶ト記シ、唐會要ニハ錢文ニ通寶ノ唱方ハ開元ヨリ起ルトアリ、世人モ開元錢ト覺エ居レバ、開元通寶ト唱ル方カ是ナランカ知ラズ、和漢事始ニモ是非ヲ分タズ、玄宗初ノ年號開元タル故、其文字ニ合シテ世俗玄宗ノ代ニハジメテヰタルト思フナルベシ、今有ル所ノ開元錢目方ヲ量リシニ、八匁五厘六毛ヨリ九匁五六厘マデアリ、代々ヰタル錢、追々日本ヘワタリシト見エ、開元錢ハ世上ニ多シ、去ナガラ背ニ甲痕アルハ稀ナリ、錢ノ文ニ草書ヲ用ルハ、宋ノ大宗ノ淳化元年淳化元寶ヲヰル、大宗自筆ヲ以テ書シ玉ヒシヨリ起レリト、候鯖錄ニ見エタリ、宋朝以前ノ錢ハ、八分・篆字・眞書ニテ草書ハナシ、古錢ヲモテアソブ事、異國ニハ六朝ノコロヨリハジマリ、梁ノ顧煩ハジメテ錢書ヲアラハシ、和漢トモ古錢ヲ好ム人多シ、錢ハ萬代不朽ノ至財ニテ、古キ品ヲ持人ハ長壽ヲ保チ、狐狸モ近付コト能ハズト錢神論ニ出タリ、朽セザルヲ壽ニカタドル、實ニ古錢ハ尊信スベキ物也、周ノ景王ノ寶貨ト云大錢、二千四百年餘ニ及デ今尚存セリ、始皇ノ半兩モ二千四百年餘

ニオヨブ、和銭モ和銅開珍ハ千八十年ニナレドモ今ニアリテ尊ム人アリ、金銀至寶トイヘドモ、時々變ジテ昔ノ形ノマヽニテ存セズ、萬代不朽ノ寶也

一　本朝鑄錢起之事

人皇四十代天武天皇白鳳十二癸未年四月、銀錢ヲ停止テ銅錢ヲ用ユ、又其後銀錢ヲ用ヒシト日本紀ニ出レドモ、銀錢ヲ吹シコトハ見エズ、考ルニ、白鳳三年對馬ヨリ白銀初テ出タル時、銀錢ヲ吹シト見エタリ、昔ハ大判・小判・歩判等ナケレバ、沙金ヲ用ヒ、或ハ金銀モ錢ノ形ニシテ、價ヲ定メテ用行シタル成ベシ、四十一代持統帝八年甲午三月二日、直廣肆大宅朝臣丸・勤大貳臺忌寸八島・黃文連本實等ヲ以テ鑄錢司ニ任ズトアリ、錢ヲキル事ノ國史ニ見エタルハ是初也、二十四代顯宗帝二年、稻一斛ヲ銀錢一文ニ替ルト日本紀ニ出レバ、錢ヲ吹司ヲ置レシ事ナシ、其上天武ノ御時ニ至リ、本朝ニ初テ白銀出レバ、顯宗ノ頃、銀錢ハ唐土ヨリワタリシモノナランカ、續日本紀ニ、四十二代文武帝三己亥年鑄錢司ヲ置レ、直大肆中原朝臣意美丸ヲ以テ長官トストアリ、左スレバ我國ニテ錢ヲ吹事ノ初リシハ、天武・持統・文武ノ三朝ノ頃ヨリ初リシト見エタリ、又五十三代元明帝ノ元年戊申正月十一日、武藏國秩父郡ヨリ和銅ヲ獻ズ、是日本ニテ銅ノ出タル始也、因レ之年號ヲ和銅ト改元アリテ、鑄錢司ヲ置レ、七月近江國ニ令シテ、アカガネノ錢ヲキサセラレ、和銅開珍ト銘文アリ、八月初テ銅錢通用ス、是御國ニ錢ノ始リ也、續日本紀ニ出タリ、此時ハジメテ出タラバ、天武ノ御時、銀錢ヲ止テ銅錢ヲ用ヒラレシト云ハ

心得難シ、然レドモ昔ハ異國ノ通商自由ナレバ、銅外國ヨリ渡リシニテヰタルカ、今和錢ノ形ノ殘リシハ此錢也、天武ノ御時ノ銅錢如何ナル事ニヤ、古今錢譜等ニモ見エズ、昔ハ日本錢唐ヘ渡リシトミエテ、三才圖繪ニ和錢六品ヲノセタリ

和銅開珍　元明天皇和銅元年ニヰル、寛政六年マデ千八十七年ニナル、以下同斷

萬年通寶　淡路廢帝天平寶字四年ニヰル、千三十五年

神功開寶　稱德帝天平神護元年ニヰル　千三十年

隆平永寶　桓武帝延曆十五年ニヰル　九百九十年

延喜通寶　醍醐帝延喜七年ニヰル　八百八十八年

乾元大寶　村上帝天德二年ニヰル　八百三十七年

右六品ハ唐土ヘワタリシトミエタリ、此外ニ

富壽神寶　嵯峨帝弘仁九年ニヰル　九百七十年

承和昌寶　仁明帝承和二年ニヰル　九百六十年

長年大寶　同御時嘉祥元年ニヰル　九百四十七年

饒益神寶　清和帝貞觀元年ニヰル　九百三十六年

貞觀永寶　同御時同十二年ニヰル　九百六十五年

寛平大寳　宇多帝寛平二年ニキル　九百五十年

右六品唐土ヘハ渡ラズトミエテ、三才圖繪ニモルヽト云ドモ、以上十二品ノ錢ハ銅性製法モヨロシク、文字ハ能書ヲエランデカキ、唐宋ノ錢ニ劣ラザル貨財也、今本朝ニ稱スル物少シ、別シテ和銅開珍・萬年通寳ノ錢ハ稀也、此外ノ古錢・開基勝寳・太平元寳・長平永寳・天平寳字頃ノ錢ハ、メヅラシケレドモ鑄出少キニヤ、今ハナシ、村上帝天德年中鑄錢有シ後、天正年中マデ凡六百年ノ間兵亂ニテ、鑄錢司ノ官モ絶エ、異國ヘ金ヲ渡シ交易シテ通用ス、唐朝ノ開元錢多クワタリ、其後宋元ノ錢益々多ク來タリ、又明ノ太祖洪武通寳、並ニ二世成宗帝永樂錢、近代故ニ多ク來リシ故、本朝ニ鑄錢無テモ乏カラズ、數百年其マヽ成シニ、秀吉公代天正・文祿ノ兩通寳ヲキル、神君統御ノ後、慶長・元和ノ兩通寳ヲキルト云ドモ、天正以來ノ錢ハ少ク、世ニ用行スルニ足ラズ、御當代ニ成テハ異國交商ヲ停止ラル故商船來ラズ、後唐ハ尙嚴禁故、外國ノ錢彌無キユヱ、大猷院様御代寛永十三年、カラ金ヲ以テ多ク錢ヲキテ寛永通寳ヲ銘文トス、是ヲ多ク吹出ス、昔ヨリノ有來ル外國錢日本錢ニ銅性モ劣ラズ、其後寛文ノコロ淸朝聖祖康熙元年眞鍮ニテキタル康熙通寳多ク來リ、今ノ用行錢ニ交テ用ユル事、百卅年餘ニ成、其後外國ヨリ來ル事ナシ、扨亦文錢ハ、嚴有院様御代寛文四年、執政松平伊豆守殿京都ノ大佛ヲ潰シキラル、裏ニ文ノ字アリ、近年日本錢ノ最上也、漢土ニテ晩唐ノ武宗會昌五年、銅佛ヲ破シテ錢ヲキテ、世界ニ用行セシト同事也、常憲院様御代、元祿ノ末ヨリ寛文ヘ掛テ、東都ニ於テ新錢ヲキラル、御勘定

奉行荻原近江守奉ㇾ之、アカヾネニ雜物ヲ加ヘ、其形寛永ノ新錢ヨリ小薄クシテ位大ニ劣レリ、寛永寛文ノ錢トハ目方大ニ輕シ、銘ハ寛永通寳トアリ、寳永五年新タニ大錢ヲキル、徑リ一寸五分面ニ寳永通寳、背ニ永久世用トアリ、鐚十文ニ替ル故ニ十文錢ト云、士民大ニ不便利ニテ服セズ、故ニ止ル、文昭院樣御代直ニ是ヲ止ラル、有章院樣御代、正德五年新錢ヲキル、形容銘文トモ寛永錢ト同然タルベキ旨命ゼラルト云ドモ、地ガネ大ニ劣レリ、然ドモ寛永ノ新錢ニハ勝レリ、有德公御代、享保年中又新錢ヲキラル、正德錢ト同品也、此頃金一兩ニ錢四貫文ニ定ラルト云ドモ、用行ハ四貫八百文ヨリ五貫文ニ至ル、其以後元文四年初テアカヾネニ鉄雜物ヲ加ヘテキル、甚小薄也、背ニ文ノ字アレドモ、其質至テ賤シク、目方五分程アリ、以前佐州ニ於テモ錢ヲキタルコトアリ、是ハ背ニ佐ノ字ノ印アリ、元文ノ鐵錢ヨリハワタリ少々大キク、地ガネモ聊ヨロシ、又羽州足尾ノ銅山ニテモ錢ヲキタル事アリ、裏ニ足ノ字アリ、何レモ文ハ寛永通寳ニテ、東都ノ鐚同樣也、寛永寛文正德享保ノ外ニモ、錢ヲキタル事アリシニヤ、寛永通寳錢ノ内小ウスニシテ、地ガネアシク、目方モ相違ノ物多クアリ、何レモ寳ノ寛永錢ニクラベテ皆オトレリ、元文ノ錢ハ尙又賤シク、其後正享ヨリ天明マデノ間、淳信公・浚明公御代數十年ノ間、江戸深川錢座、大阪鍋地ニ於テ鐵ノ錢ヲ年々吹出ス、是ヲズク錢ト云、唐金銅ハ少モ入レズ、鍋釜ニスル地ガネニテキル、磨モカケズ、文字モ能書ヲエラムト云事モナク、只錢ノカタチ有ノミニテ、位次第ニオトリ、昔ノ錢ニクラベテハ實ニ天地ノ相違也、左レドモ寛永年中ノ眞

錢、又ハ開元・洪武・永樂等ノ上品ニ交ル故、惡錢ニテモ一文ハ一文トテ通用ハスレドモ、破レ碎ケ費ルコト夥ク、第一ハ萬代不朽ノ貨財トシテ、周・秦・漢ノ錢二千年ニ及ビ今ニ存ス、開元通寶ハ歐陽徇ノ筆跡、淳化元寶ハ太宗帝ノ直筆、如レ斯世界ノ重幣ユヱ、和錢モ昔ハ銅性モヨロシク、銘文モ公卿能筆ヲエラミテ書シメラレ、唐土ヘ渡リ彼國ニテモ尊ムヨシ、若今ノ錢唐土異國ヘワタリナバ、日本ノ恥辱也、浚明公御代明和五年御勘定奉行松平伊豆守奉行トシテ鑄錢アリ、四文錢トテ眞鍮ニテキテ、ワタリ八歩裏ニ靑海波アリ、年々キテ當時通用ノ四文錢段々小薄ニナリ、其銅性モアシク成テ、波ノ錢モ一筋減ジテ三スヂニナリ、ワタリ七歩五釐目方一匁三分アリ、始ニキタルハ波モ四筋也、此錢今ハ一向ナク、定テ追々錢座ヘ集リ、斯小分ニ吹替ル成ベシ、鑄錢ハ請負人有テ、己レガ家業ノ爲ニ吹事ユヱ其者ノ私ニテ目方モ輕ク、形モ小ク成タル也、奉行ノ差圖ヲ以テ初ニキタル時ハ、平錢四文ノ替リニ成程ノ價ニシテ、是ヲ行ヒ世上通用ヨロシク成シ頃、銅錫ニ交物シテ性モオトリ、目方モ減ジタルヲ四文ニシタルハ、一旦萬民ヲ欺キタルニ當レバ、ヨモヤ奉行ノ下知ニテハ有マジ、然レバ請負人ドモノ私ニテ、日本通用ノ貨幣ヲ輕ンズル事不屆此上ナシ、其カヽリノ役人急度糺シモ可レ有コト也、如何ニテ四文ノ用行タル精錢、初ニ吹出シヲノ時ト目方替リタルヤ審シ、尤四文ハ遠國マデモ通用シテ今ニテハ吹止ニ成タリ、先年水戸侯御願ニ由テ、水戸城下ニテ寛永通寶ヲキタリ、近年天明四年松平陸奥守侯領分用行ノ爲、願ニ由テ鑄錢アリ、馴角ニシテ仙臺通寶ノ銘アリ、領内ノミノ用行シテ

他國へ通用ヲ禁ゼラル

日本ニ繪錢ト云テ、大黑・戎・駒引・念佛・題目・福壽、其外種々ノ物アリ、何レノ世ヰタリシヤ通用錢ニハ有マジ、鑄冶ノ者ノタハムレ成ベシ、其中ニモ駒引錢ハ、中古平錢十文ノ間ニ一文ヅヽ界ニ入タルト云說アレドモ、實否分ラズ、此錢一文ハ平錢十文ニカヘルト云、是ノ外和漢トモニ如レ此、僞品ト云物アリ、是ハ天子將軍ノ免許ナク、密カニ作リタル品、異國ニ多シ、本朝ニモ中古ハ有ト見エテ、年號モナク何レノ世ノ物トモ知レザルガアリ、天文ノコロ鐚ト云惡錢ヲ密カニヰテ、永樂通寳ニ交テツカヒ、其後慶長・寛永ノコロニモ、內々ニテ鐚ヲ新錢ニマゼテツカヒ、其コロ禁制ノ嚴令モアリ、百年以來ハ無事トミエタリ

一　明朝ノ永樂錢ハ關東ニ別シテ多シ、其故ハ中古治亂記ニ曰、應永十年八月二日未ノ刻ヨリ大風吹起リ、堂社民家ミナ倒レ、翌三日巳ノ刻ニ至リ漸ク風シヅマリ、其日申ノコクニ唐船一艘相州三崎浦へ漂着ス、其時鎌倉ノ管領足利左兵衛督滿兼下知有テ、印東二郎左衛門貞次・梶原能登守景宗・三浦豐前守高義奉行トシテ詮議アリケルニ、惡風ニ由漂泊ノヨシニ付、船中ヲ檢スルニ、唐金ノ永樂錢ヲ數千貫文積タリ、則船ヲ留置、使者ヲ京都へ登セ、將軍義持公へ訴ヘシニ、關東着岸ノ上ハ滿兼得分タルベシトノ嚴命ニ付、船中ノ財寶殘ラズ止メ、其價品々ヲ賜リ、船ハ歸國ス、其後滿兼評議有テ、若干ノ永樂錢徒ニ費スベカラズトテ、法ヲ定メ、關東ノ諸民鐚ト云惡錢ヲ鑄出シ、永樂錢ニ交テ同直段

ニ用ヒシカバ、商賣人錢ヲ論ジテ穩ナラズ、然ニ天文ノ末、北條氏康關八州ヲ治シ時ニ日、夫鳥目ハ品々アレドモ永樂錢ニ及バズ、自今關東ハ此錢ヲ用ヒ其他ハ禁ズベシ、一ニハ錢ノ位ノ高下ヲ分、二ニハ民ノ爭ヲ止、三ニハ賣買ニ暇ヲ費サヾル爲也トテ、家臣山角信濃守定信・笠原越前守貞康ニ命ジテ、在郷村里ノ辻々ニ右ノ趣ヲ書タル札ヲ立ケル故ニ、自然ト他錢ハ廢リ、上方ヘノボリ、永樂バカリ關東ニ殘ル、此時ヨリ昔ヨリ有來ル錢ニ並ベツカヒ、鐚ヲ京錢ト云、其後天正八年秀吉公北條ヲ攻亡ボシテ、日本ヲ一統シ、關八州ハ神君ヘ進ジラレシガ、其後慶長八年關ヶ原合戰ノ後、ホドナク神君將軍宣下有テ、同九年正月ヨリコトゴトク永樂通寶ヲ用ユ、然レドモ一向ニ鐚ヲ捨ルニモ非ズ、他錢四文ヲ以テ永ニ替ベシトノ命令ナリシニ、其後又商人ノ難儀ノヨシ聞召、同十一年十二月八日、大久保相摸守・本多佐渡守ニ命ゼラレ、永ヲ停止シテ鐚バカリヲ用ユベシト、江戸日本橋ヘ高札ヲ立ラレ、此節天正・文祿・慶長ノ鑄錢世ニ行ハルヽユヱニ、其後ハ永モ諸錢ト等クツカヒシトミエタリ、永ハ天文十九年ニハ諸錢ニ勝リ、慶長十一年マデ五十七年目又惡錢秀タリ、其後ハ今ニ至リ和漢新古善惡ニカヽハラズ通用セリ、此故ニ永ハ今ニテモ關東ニハ多クシテ、他國ニハ少シ

但右應永十八年八月二日、唐船漂着ノ時此錢多クツミ來リシ事、本文ノ旨諸書ニモ出、其外里人談ニモミエタリ、又御代小宮山杢之進アラハシタル田園類説ニモ同樣ニアリ、然ルニ永錢ハ明ノ二世成宗帝永樂九卯年ニキル、本朝百一代後小松院應永十八年ニ當ル、義持公ヘ訴シト云ハ年暦合ハズ若

二十年八月二日ナルヲ、十年ト書誤リタルニハアラヌカ

一　九六錢初之事

和漢事始ニ、錢九十六文ヲ百文トスル事、本朝古ヘ其沙汰ナシ、中華ニハ其代々ニシタガヒ、錢ノ目拔ヲ百文トスルコトアリ、我國ニテハ京都將軍家ノ時代、天文ノ頃、鎌倉ノ管領上杉憲政ノ家老長緒某其制ヲ立シヨリ初ル、長緒曰、敵國ニハ町人地下人逃去テ、其所ニ居ルサヘ少ノ物ヲモ可レ買樣ナク、然バ取シヅメテ世ノ中豐ナラネバ、代物ハ遣レザル者也、豐ナル御代ニ道ナキ事長久ノ政ナレバ、百文四文ヅヽ缺遣然ルベシ、其上錢ヲツカフニ調ノ數ハ半トナリ、端ハ不レ掛不レ出通用シ、九十六文ヲ百トシ、九百六十文ヲ一貫文ト極メタリトアリ、田園類說ニモ、上杉ノ家臣領分ノ錢ヲ他國ヘ持行テ、百文ノ所ヘ四文ヅヽ省キテ渡セシヨリ始ル、又一說ニ信玄ノ家臣不算ノ人ニ初リシト云、百ヲ目ヌケニスル事、異國ニハ前々ヨリ有事也、元ハ俗ニ云仕カケト云樣ナル者ニテ、百文ニ直段セシ物ヲ九十六文ニテワタス也、上杉・武田等ノ事ヲ云ハ後人ノ附會ナルベシ、寬永新錢ノコロヨリ算數ノ爲ニ九六ニ成タルベシト、小宮山ノ說也、勿論諸國一統ノ事ニモナク、上方關東ノミニテ、東國・西國・北國スヂ、田舍ハ大方調百ヲ用ヒ、奧州白川領ヨリ東モ同斷也、北國モ越後モ高田城下ヨリ北ハ調百、九州モ肥前、長崎ハ市中、並豐後・日向ハ御代官所バカリ九六、其外ハ總テ調百也、又或說ニ慶長ノコロ永樂錢ヲ惡錢四文ノ通用ニ命ゼラレ、永ト他錢トカユルニ、永錢百文ヲ同四百文トカヘル時、永錢百ノ内

一文ヅヽ口錢ニ除キテアタシタルヨシ、其遺風鐚ニモウツリ、百文ノ内永一文ノ價四文ヲ除キ、九十六文ヲ以テ百文ノ勘定ニ通用スルトモ云、今遠國ニ九六ヲ不レ用調百タルヲミテハ、此説正ク聞ユ、又端錢勘定不盡不出仕安カラン爲、九六ヲ以テ百ニ立タリト云モ理アリ、小宮山氏ノ寛文ノコロヨリ初リタル成ベシト云事、慥ナル證據モナク、是以推量ノ說也、地方落穗集ニ時代ハ不レ知、百ノ錢ヲ三ツ六ツ八ツ十二十六二十四等ニ割時ノ、何レ端上ノ不盡出ル、九十六ニシテ割バ十不盡ナク自由ナルユヘ、右ノ數ニ極メ、又天地ノ數滿レバ缺道理、物ノ滿ルヲ忌テ百ニ四ヲ去テ九十六ヲ百ニ立タリトモアリ、其說論區々ニシテ其初詳ナラズ、詮ズル所算勘ノ爲ニ九六ニシタリト云ガ可ナランカ、唐土ニテハ梁ノ武帝ノ時、破嶺ヨリ東ノ方ハ八十文ヲ以テ百トス、是ヲ東錢ト云、江郡ヨリ上ノ方ハ七十文ヲ百トス、是ヲ西錢ト云、京師ハ九十文ヲ百トシテ、是ヲ長錢ト云、唐ノ昭帝ノ時、京師ハ八百五十ヲ一貫トシ、河南府ハ八百ヲ一貫トス、亦後漢ノ隱帝ノ時、三司使王章官錢ヲ出ス每ニ、七十七錢ヲ百トス、是ヲ省百ト云、此法五代ノ時ヨリ始ルト筆談ニ出タリト、和漢事始ニアリ、然レバ百ノ數ヲ調百ニセズ、其內ヲ減ズル事唐土ヨリ初リ、本朝ニモ其風ウツリシモノナルベキカ

一　錢ヲ鳥目ト云事

神功皇后ノ御代ハ漢末ニ當レバ、上古殷ノ箕子其國亡ル後、周ノ武王箕子ヲ朝鮮侯ニ封タル時、人民器財朝鮮ヘ持行シ事アリ、其時殷ノ錢ヲ持ワタリ、漢末マデモ彼國ニ傳ハリ有シヲ、皇后持來リ玉フ

トミエタリ、去ナガラ前條ニモ記ス如ク、鳥ノ形ノ錢何レノ代ニ用ヒタルヤ、古錢ノ圖書ニモ見當ラズ、尙又皇后三韓ニテ得玉ヒシト云事國史ニモ見アタラズ、左レバ落穂集ニ云所出所正カラズ、勿論鳥ノカタチニテ鳥布ト云銘、篆字ニテ書タルハ、上古ノ錢ノヨシ云フ人アレバ一向無事トモ云ハレズ、然ドモ鳥目ト名付タルハ、錢ノカタチ圓ク內ニ穴有テ、其形鳥ノ目ニ似タル故、昔ヨリ名付タルコトニテ、左マデ謂レ有コトニハ非ヌ樣ニ思レドモ、前條ノ赴キ正シキ出所モアル事ニヤ、又錢百文ヲ十疋ト云コト、昔駒引錢通用ノ眨、一錢ヲ鐚十文ニ替ル、鐚十文ヅヽノ界ニ駒引一錢ヲ入、鐚百文ニ駒引十錢ヲ加ヘテ、一筋ニ二百文ヅヽ、ツナグ馬故ニ、一文ヲ一疋ト云、惡錢百文ハ馬引十疋ニ易ル故、百文ヲ十疋一貫文ヲ百疋ト云ヨシ、是モ又落穂集ニミエタリ

但本文ニ記シタル仕掛ト云コトハ、關東ニハナク上方ニアル事也、タトヘバ物ヲ買取時上方ハ銀ヅカヒ故ナレバ、銀百五十匁ニ五分ニ買テ、金子ヲ渡ス時相場六十一匁ナレバ、二匁二分ワタスベキ所ヲ、仕掛トテ無理ニ六十二匁ノ相場ニシテワタス故、二兩一歩二朱銀五匁二分五釐ワタシ、一兩ニ一匁ノ仕掛ニテモ、二匁二分五釐ハ渡方ノ得也、錢ニテモ一貫文ノ相場銀十三匁五分ノ時、十四匁ニスレバ五分ノ利也、正銀ニテ渡ス時ハ、銀ニ秤ニテカケ相場ナキ故ニ、賣買ノ節前々ニ金渡シ銀ワタシトテ、直段ヲ極ル也、江戸ナドニテモ錢ニテ物ヲ買ヒ、金ニテワタシツリヲ取トキ、二朱七百十二文ノ相場ナルニ、差引ニ付七百十六文ニテ請取、ツリヲ出ス事アリ、直ニ取リテ四文

ノ仕カケ也

一　永初リ之事

永ト云ハ形ハナク金ノ異名ノ様ナル物也、然ドモ諸國トモ今ノ異名ニ永ト云ニハアラズ、永ト云ハ伊勢ノ國ヨリ東御料所ニテノ名目、御勘定所ヘ差出ス書付諸帳面等ニ用ル名目也、町人百姓内證ノ取引ニハ、永トハ不レ書金何兩何歩何程トカ、錢何程トカ書ク、私領タリトモ割附郷帖ニ永ニテカクモアリ、又ハ公儀ヘ差出ス書物ハ、多クハ永トカク也、御料所モ近江國ヨリ西上方・中國・四國・西國スヂヨリ永ト云名目ナシ、御年貢其外トモ總テ銀何ホド、カク銀勘定也、捨永ノ名目昔ハ決テ無事ニテ、京都將軍家ノ時、明朝永樂錢日本ヘワタリ、前條ニ記ス如ク應永年中永樂錢多ク關東ニアリテ、一圓ニ此錢通用シタル所、唐金ノ性其頃ノ他錢トハ、拔群ニ勝リ、日本ニテ鑄タル惡錢ト同日ノ論ニアラズ、因レ之慶長年中永樂一文ハ惡錢四文ニ通用スベキ旨命ゼラレ、其コロ年貢ハ籾ニテ納メル時分ユエ、田ノ年貢ハ籾、畑ノ年貢ハ小判歩判ノ通用ハイマダ民間ニ無ユエ、永樂錢ニテ納メタリ、他錢ニテ納ムレバ永樂一貫文ノ代リニ四貫文納ム、其後小判歩判追々ニ吹出シ、民間ニ通用自由ナル時節ニ至リ、兩替金一兩ニ永錢一貫文ニ極リ、惡錢ハ四貫文ニカヘル、當時兩ガヘニハ時ノ相場アリテ引カユレドモ、金一兩ハ永錢一貫文ガ定直段ノ様ニ成テ、何トナク金ノ異名ノ様ニナリ、永樂ト云ヲ永トバカリ云様ニ成タル也、御料所ニ永勘定ニスルハ、算法ノ仕ヤスキ爲也、金ニスレバ何百何十兩、銀ハ何十

何匁ト、一分ヨリ下ニ銀ニテ付ル、夫々又相場ノ錢ヲ付、三口ニセザレバ成ズ、永ニテハ何貫何百何十何匁何分何釐ト一口ニテ濟ス、二百五十文ヨリ下ノ端永ニ、時ノ相場ノ錢ヲ付ルマデナリ、金ニ相場アレバ上方ヨリ西國銀ヅカヒノ所バカリ、關東ハ總テ金一兩ハ六十目ノ定直段ニテ公納、其外商家取引モ金ニハ相場ナク錢バカリニ相場アル故、引カユル時ト金一兩錢五貫文亦五貫五百文ノ時モアリ、日々時々ノ相場ナレドモ、銀ニテカハル、定直段也、然バ永ト云名目ハ足利時代ヨリ今公納ノ諸勘定ニ、金ト書ベキヲ永何ホド、書用ルハ、慶長年中小判歩判ノ通用始リシ以後ノ事ニテ、慶長ヲ永ノ始トス、最初ハ永樂錢何ホド、云ヲ、略言ニテ永トバカリ書シ所、中ゴロヨリ勘定ノ爲一文ノ下ニ何分何釐何毛マデ付ル樣ニ成シト聞ユ、當時ハ永樂スタリ惡錢同樣ニ成タレドモ其名ハ殘リ、永ト云ヘバ金ノ異名ノ樣ニ成タリ

一　永法說集曰、金一兩ヲ永一貫文ト云コトアリ、中古算數ノ上ニテ立、タトヘバ金一兩ニ銀六十目ガヘト云時ハ、此六十目ヲ相場六十目ニテ割バ、則一トナル、是一兩ヲ一貫文ト名付タル根本也、如レ此法ヲ立ル故ハ、上方・西國スヂハ總テ銀勘定ユヱ、一筋ニテ濟ドモ、關東ハ金勘定ユヱ金何兩銀何匁錢何文ト三口ニ成テ、勘定六ケ敷、永ニシテハ何文何匁ト一スヂニ成ユヱ、永ト云事ヲ立タル也トアリ、小宮山モク之進ノ評ニ、統テ其物有テ其數アリ、金銀アリテコソ相場モアレ、今ノ金銀ハ慶長以後初リ、永ノ名目初リシマデハ、小判一歩丁銀モナシ、左スレバ金一兩ヲ六十目ト立、夫ヲ除テ一

ト成ユヱ、永一貫文ト立シト云ハ無稽ノ説也、永ノ初リハ今ノ小判一歩初ラザル以前、足利時代永樂通寶本朝ヘ渡リ、唐金ノ性ヨロシキ故、永一錢ハ鐚四文ニ替タルニヱ、永錢ノ永ヲ取リテ勘定仕安カランガ爲ニ、金一兩ヲ永一貫トシテ、釐毛ヲ勘定ニ立ルコトト成シト、先ノ三ノ説ヨロシキ也

永法説集ニ云如クナラバ、關東ノミ永ヲ用ユルベキ謂レナシ、上方・西國銀ヅカヒト云ドモ、小判一歩モアリテ通用シ、金勘定モアレバ海内總テ永ヲ用ユベキニ、關東ニ限リタルハ彼錢通用ヨリ始リシ事明也

一　度量衡之事　附　斗掻　升座　秤座　絹布丈尺始

度量衡ハ元十二律ヨリ起ル、十二律ハ黄帝ノ時伶倫ト云人、嶰谷ノ竹ヲ伐テ管トシテ初ム、度量ノ事ハ和漢トモ先儒督糺スト云ドモ、古法亡テ詳ナラズ、魏晋ヨリ以後定規トス、徂徠先生此儀ヲ考ヘアラハシタル所、又圖南先生代々音律ノ道ニクハシク、其家醫業タルヲ以テ、張仲景ガ用藥ノ分量等ヲ考ヘ、諸書ヲ引用シテ其誤ヲ正シ、權量撥記ヲアラハス、精密ハ此書ニ盡セリ、又徂徠ノ意ニモトリ、今世ニ用ル所ノ説ヲノブル者也

一　度ハ丈尺也、黄鐘ノ律ヨリ起リ、此律ノ管長サ九寸・圓徑九分、寸分ノ初リ、北方ノ秬黍中ナルモノ、一黍ノ廣サヲ一方トス、十方ヲ寸トシ、十寸ヲ尺トシ、十尺ヲ丈トシ、十丈ヲ引トシ、分寸尺丈引是ヲ度ト云、律ノ管九寸ナルモノ、唐土世々ノ寸尺違アレバ今日本ノ曲尺ニテ何寸ニ當ルヤ知ラズ、一黍ノ廣一方ニ極リタルコト、今世ノ黍大ナル物ナレドモ、今ノ曲尺七八分モ可レ有ヤ、然ルニ於テハ中

黍ノ廣サヲ以一分トスルハ、今ノ尺五六釐モ有ベシ、淮南子ノ云ル如ク、黍ノ大小極リナク、大ナル物アリ、小ナル物アリ、其中ナル物ヲ取ト云ドモ、是又土地ニヨリテ中ノ内ニモ大小アリ、由レ之其精密ヲ盡サズト云、宜ナルカナ、然ドモ萬物元ノ始リハ、其據ナクシテハ起リ難シ、音律ハ天地ノ氣ヲ和シ、八風ヲ調ヘ萬物ヲ生ズト云、同時本朝ニテハ十二調子ト云、黃鐘ハ十二月ノ律ニテ律ノ始リ長寸ト云、夫ヨリ少ヅヽ短クナル、十月律ノ應鐘極陰ノ律ニ至テ、四寸有餘也、十一月ハ子ノ月、十二支ノ首メ、又陰ツキテ陽起リ、一陽來復シテ黃鐘ハ陽ノ首也、因レ之和漢天下ノ制度皆黃鐘ヨリ出ル故、度量衡ヲ定メタリ、子ノ月ヲ十一月ニ取ハ、夏ノ制ニテ今和漢トモ夏ノ制ヲ用ル、秬黍ノ數ニ仍テ度量衡ハジマリシハ、三代ノハジメ夏ノ代ナル也、夏ノ代ノ尺ヲ秬黍尺ト云ハ黍ノ廣キヲ分トシテ、度ノ極マリシハ夏ノ代ナルベシ、又黃帝ノ時音リツ首リシトアレバ、其コロヨリノコトニヤ、此事先儒モ審ナラズト云リ、度量衡ハ魏晋以後ヲ證トス、日本ノ度ハ唐朝ヨリ受傳ヘ、今用ル曲尺ハ唐尺ニシテ、殷ノ代ト同尺也、唐ノ開元錢徑リ八分ナルヲ以テ、今曲尺ニ當テ是ヲ證トス、夏ノ唐尺ハ八寸、周ノ一尺ハ六寸四分ト云、又夏ハ八寸八分三釐一毛餘、周ハ六寸六分六釐六毛餘トモ聞、何レカ是ナラン、黃帝ノ時音律ハ始リテモ、イマダ度量コウハナカリシヤ、黃鐘ノ寸圓九分九リン、夏尺ナレバ今ノカネザシニテ、圓ノスン分五厘長、七スン五分ニアタル、然ドモ昔ノ事ハ今評シテモ證據ナク、後人諸書ニヨリテ云トイヘドモ、人々ノ見識モアテ推量ノ沙汰トナリ、昔ヲ知ルノミ、當時ニ於テ先ヅハ用

ナシ、今日本ニテ用ル尺四種アリ、一ニカネ尺、工匠ノ具、二ニ鯨尺、裁物ノ具、マガリ尺也、一尺二スン九分、是ヲ鯨尺ト云ヘドモ今ハ用ヒズ、今ノクジラ尺ハ呉服尺也、三ニ呉服尺、マガリ尺ニテ一尺二スン、帛布商ノ具、今ノクジラ尺是也、四ニ襪尺、マガリ尺ニテ、八スン、和襪履工ノ具也、足袋屋ニテハ何寸何分ト云フ、開元錢・永樂錢ノワタリ八分アリ、日本ノ寛永錢・文錢モ八分アリ、此ノ尺ハ八スン一尺ナルヲ以テ、八分ハ一スンナレバ、何トナク錢ノ數ニテ、寸尺ヲ何文ト云フナルベシ、今世上ニ用ル尺ハカネ尺クジラ尺ノ二品ノミ諸國ニ用ル也、又工匠家ニ裏尺ト云事アリ、表尺四寸一分四厘二毛ヲ、裏尺ノ一尺トシ、カネ尺ノオモテニ盛リ附キアリ、勾股弦ノ弦ナリ、一尺四方角違カネ、勾股倍ニテ則ウラ尺也、小口ノワタリヲ一四一四二ニテ除ケバ、方何程トシレル、由レ之差シ渡シヲ見テ、何寸角ニ成ルト云フノ法、一四一四二ヲ用ユ、則ウラ尺工匠ノ法ニシテハ、算木算盤ヲ用ヒズ、ウラザシヲ以ッテ、如何樣六ヶ敷事ニテモ積ル、勾股弦ハ云フニ及バズ、開平・開立ヲ以ッテ可レ積坪數、或ル方圓ノ器物タリト云フトモ、ウラ尺ニテ積バ少シモ違フコトナシ、之ニ依ッテ、ウラ尺ノ法ハ工家ノ秘傳トス

一　量モ黃鐘ノ律ヨリ初ル、量ハ斗斛也、則此方ノ升也、黃鐘ノ管徑リ九分七寸、此内ニ黍秬ノ中ナルモノ千二百粒入、此量目ヲ龠ト云、是ヲ倍シテ合ト云、十合ヲ升、十升ヲ斗、十斗ヲ斛トス、龠合升斗石、是ヲ五量ト云、唐其代々ノ升違ヒアリ、諸書ニ辨ズト云ドモ昔ヲ知ルノミ、今用ユルニ益ナシ、

我國ノ升、昔ハ如何ノ制ニテ用ヒタルニヤ、古書ニモ見ズ、中古ノ升ハ口方曲尺五寸深サ二寸五分ナリ、其初何レノ代ヨリ制シタルヤ分明ナラズ、御入國ノ節慶長ノコロマデ、此升ヲ用ヒタルトミエタリ、是ハ一尺六面ノモノヲ竪横トモ四ツニ切リ、方五寸深サ二寸五分ニ成ル、萬物一ヨリ起ル者ナレバ、一尺方面ノモノヲ十六ニテ割タルト見エ、可レ然法ナレドモ、當代ニナリ方四寸九分、フカサ二寸七分ニ成タルヲ考フルニ、一升ハ萬物改量ノ器也、然ル所一尺六面ヲ四ツヅヽニ切、方五寸フカサ二寸五分ト成テハ寸詰リ、又萬物一ヨリ起リテ一ニ歸ス、小數ノ留リタル所ニテ位ヲ進メ、大數ノ極ニ至リ、滿レバ欠ルノ道理アル故、寸ノツマラザル樣ニ、四寸九分ニ二寸七分ト直ス樣ニ命ゼラルトミエタリ、古升ノ員量ニヨリテハ、四寸九分、二スン六分トモ可レ成ナレドモ、左スレバ古升ヨリ歩員減ズルユヱ、猶豫ヲ付テ二スン七分ト直リタルトミユル、古升ハ一歩坪ニシテ六萬二千五百歩、今升ハ六萬四千八百二十歩アリ、四スン九分ノ二スン六分ニスレバ、六萬二千四百二十六歩トナル、古升ヨリ歩數減ズル故、二寸七分トシテ歩數餘計ニ直シタルトミエタリ、此論地方落穗集ニモ出タリ、又前條ニモ記ス如ク、甲州ニハ武田信玄制ノ三升ノ升アリ、京マス三升入是ヲ一升ト云、弦ヲ眞直ニ掛、其下ニ鐵類有テ入ヲ小半ト云テ、三通アリ、甲州一國ハ此升ヲ用ヒ、商賈等ニモ一升半小半ト呼テ價ヲ論ズ、京マスモ用ヒザルニモアラザレドモ、若今マスニテ物ヲハカルニハ京マス何升何合ト斷ラザレバ、國人必マス目ノ違アリ、甲府ニ升座今ニアリ、又上方筋ニハ武佐判ト云マスアリ、京マス八合入

ナリ、是ハ江州佐々木領知ノ節、一國ノ通用也、其古風今モ彼國ニハノコリ、上方在郷ニテハ用ルナリ、尤今ハ升座モナシ、武佐ハ江州ノ地名、今中山道ノ驛場也、昔ハ此所ニ升座アリテ、改メ出シタルトカヤ、江戸ナドニテモマスニテハカル小菓類小貝等ヲ賣ル小商人ハ、武佐判トテ八合マスヲ以テ物ヲ商フ、方言ニ八兵衛マスト云、穀物・酒・油・醬油等ハ、升座ノ判アリテ弦カケテ用ヒ、假ニモ無判ノマスヲ用ヒズ、商家ノ外輕キ者ドモ、飯米等ヲハカルニモ升座ノ改ヲ受ザル故、細工人ノ手ニヨリ少ノ違ヒ有モ知レズ、是等ハ弦ナキマスヲ總テ武佐判ト云ナレドモ、八合入ニアラザレバ武佐判ト云ハ非也、本マスハ一合・二合五勺・五合・一升・一斗何レモツルカケ也、是ヲ鐵判升ト云、豫州・勢州ニハ六合ヲ一升トスルマスアリシヨシナレドモ、今ハ聞ニ及バザレドモ、僻地ニハ今ニテモ用ユル所アルベシ

一　今ノ升ヲ京マスト云、江戸ニモ東三十三ケ國ノ升座アレドモ、總テ公儀諸書物トモ京マスト云、

一合ヨリ一斗マデ升座ノ燒印有テ用レ之

一合升　但鐵張緣弦ナシ　横二寸一分五厘、深一寸六分

二合五勺升　右同斷　ヨコ三寸一分九厘、深一寸六分

五合升　但　鐵弦緣弦掛　横四寸、フカサ二寸五分

一升升　同斷　ヨコ四寸九分、フカサ二寸七分

五升升　同斷　ヨコ八寸三分五厘、フカサ四寸二分五厘

一斗升　同斷　ヨコ一尺五分、フカサ八分八厘

一　斗搔ハ太シ、一合マスヨリ一斗マスマデ底ノ裏ニ丸キ燒印アリ、此徑リヲ斗カキノ差渡シニ用ルコト定法也

斗カキ升ニ應ゼザレバ、マス目不同ニ成モノ故、燒印ノ寸ニテ定ル也

一　衡モ黃鐘ノ律ヨリ出ル、衡ハ斤兩今用ル秤ノ事也、重リヲ權ト云、何レモ秤ノ重リナリ、俗ニ分銅ト云、黃鐘ノ管ノ中ナル秬黍ノ中ノモノ千二百粒、重サ十二朱トス、是ヲ倍シテ二十四朱ヲ一兩トシ、十六兩ヲ一斤トス、三斤ヲ鈞トシ、四鈞ヲ石トス、朱兩斤鈞石ヲ五權ト云、今外國ニテハ十錢目ヲ一兩トシ、十六兩ヲ一斤トス、則百六十錢目也、一朱ハ三分三厘三毛餘ト、徂徠ノ說ナレドモ、二十四朱ヲ兩トシテ、十錢目ナレバ一朱四分一厘六毛六糸六忽六微不盡ニ當ル、三分三厘三毛三糸不盡ヲ朱トシテハ、二十四朱ハ八錢目十六兩、一斤ハ百二十錢目ニアタレバ、前條十錢目ヲ兩百六十目ヲ斤トシテ、一朱ノ目方勘定合ハズ、三十朱ヲ兩トセザレバ、一兩十錢目ニハ當ラズ、三十朱ニシタル法モ有ニヤ、徂徠ノ說必ズ謂アルコトナルベケレドモ分リガタシ、又秦ノ始皇半兩錢ヲ鑄ル、形質周錢ノ如ク、重サ十二朱、半兩タルヲ以銘トス、今ハカリニテ重目一錢目四分八厘一毛四糸八忽不盡ノ當リニテハ、一朱一分二厘三毛四糸五忽六微不盡ニアタル、其後漢ノ武帝元狩五年、五朱錢ヲ鑄ル、

量目五朱則銘文トス、此錢六分一厘七毛八忽不盡アリ、一朱ノ目方秦ノ半兩ト同目ナリト、平井先生藥用分量考等ニ前漢食貨志ヲ引テ出セリ、又圖南子モ諸書ヲ引テ開元錢ノ寸方重目ヲ量リテ、權量撥記ニアラハス所、徂徠ノ說ト大同小異アリ、周漢以來ノ度量衡、今本朝ノ尺升秤ニ的當シテ、權量撥記ニ出ス所如レ左

周漢一尺	今曲尺八寸三分三厘三毛三糸餘
魏晉一尺	同八寸七分二厘四毛九糸餘
東晉一尺	同八寸八分四厘九毛九糸餘
隋唐宋元 明營造尺	同今ノ曲尺同尺也
明量地尺	今曲尺一尺零二分四厘
明裁衣尺	今曲尺一尺零六分六毛六糸餘

但或書ニ曰、三代ノ尺代々差別アリ、夏ノ代ハ秬黍一粒ノ横廣ヲ一分トシ、十分ヲ一寸、十寸ヲ一尺トス、所謂横黍尺是也、殷ハ十二寸ヲ一尺トス、唐朝幷ニ日本ノ曲尺同様也、是ヲ商尺ト云テ、周ハ八寸ヲ一尺トス、商尺十二寸ヲ以テ夏尺十寸ヲ除ケバ、八寸三分三釐三毛三糸不盡トナル、殷ノ尺ハ則チ十二ヲ以テ十二寸ヲ除キ今日本ノ曲尺也、又十二寸ヲ以テ周尺八寸ヲ除バ六スン六分六釐六毛六糸不盡ト成也、圖南子ノ周尺ハ、前條ニ云八スン三分三厘三毛三糸餘トアリ、又八スン四分

トモアリ、周錢ハ今存在セズ、錢譜並ニ孔方圖鑑等ニモ載セズ、形容スン分モ知レザレバ、錢ノワタリヲ以テ證トスベキ由モ無ケレバ異說區々ニシテ何レカ是ナラン

周一斗　今ノ京升一升三合九勺四才餘

漢一斗　同一升四合四勺六才餘

魏晉一斗　同一升四合七勺六才餘

隋唐宋一斗　同四升三合八勺四才餘

元一斗　同五升九合七勺七才餘

明一斗　同四升八合六勺九才餘

周漢一斤　今秤四十五錢目一分六厘

魏晉一斤　九十一錢目二分

隋唐一斤　百三十六錢目八分

宋一斤　百五十三錢目六分

明二斤　百五十六錢目八分

一　本朝上代ノ衡如何制ナルヤ知ラズ、今世銀ハ四匁三分ヲ一兩トシ、十兩四十三匁ヲ一枚ト云、銀ニハ斤目ヲ云ハズ、藥種・香具・煙草等ハ總テ目方ヲ量ルモノ、四匁ヲ一兩、四十兩ヲ一斤トシテ、百

六十目一斤也、又品ニヨリ五匁ヲ一兩トスルモアリ、烟草ハ農人ノ手ヨリ直ニ買ヲ山目ト云テ、二百匁ヲ一斤トシテ價ヲ論ズ、木綿ナド公儀ニテ斤目ノ勘定ハ、平野目ト云テ二百三十匁一斤ノ定法也、又ハ國所其品ニヨリ二百五十匁、或ハ三百匁ヲ一キントスル所モアリテ一定ナラズ、日本ニテハ何朱ト云數量ヲ用ヒズ、由テ二十四朱ヲ一兩、十六兩ヲ一キント云事モアリ、四匁ヲ一兩、百六十匁ヲ一キントスルハ、日本國中僻地ニテモ普通ノ法也

但金一歩ノ半斤ヲ二朱ト云コト、我國ノミノ稱號ニテ、唐土ノ一朱•二朱トハ異也

一　升座•秤座トモ元ハ京都ニ有シニ、慶長年中神君統御ノ後、東三十三ヶ國ノ升坐、江戸町年寄樽屋藤左衛門ヘ命ゼラレ、今ニ連綿タリ、西三十三ヶ國ノ坐ハ京都ニアリ、ハカリ坐モ西國ハ神谷源四郎ト云者、京都ニ住居ス、東國ハ江戸住居守隨彦太郎相勤ム、上方筋ニテハ彼ガハカリヲ用ユル事ヲ免サズ、亦東國ニテハ上方ノハカリヲ禁ズ、若所持ノ者謀テ紐ナド仕替ニヤレバ、取上テ打折リ、時々手先ノ者ヲ市中ニ出シ改シメ、古道具店ナドニテ賣買ハ嚴クトガム、今ノ升ハ元ハ京都ナル故ニ、江府ニテ出來ル升モ總テ京升ト云、淺草御藏ニテ書物俵入等ハ、京升何斗何升入ト書ナリ

一　布丈尺初リ之事

人皇四十三代元明天皇和銅七甲寅年、一反二丈六尺•一疋五丈二尺ト定ラルト、日本紀ニ見ユ、有章院樣御代寛文五乙巳年、絹木綿ノ丈尺布ノ尺ニ習ヒ、二丈六尺タルベキ旨命ゼラレ、木綿中古マデモ無

リシニ文祿・慶長ノ時分ニ始リ、元和・寛政ノ頃ヨリ專ラ行ハレシ者也、是ヨリ以前タリトモ丈尺不足ニハ非ザレドモ、絹布ノ品ニヨリ區々タリ、今モ奥州ニテ織出ス布ナドハ、二丈四尺アリ、其外田舍ヨリ出ル物ニハ、必ズ其丈短クシテ、尺寸ノ極ラザル物アリ

一 分限扶持之事　附扶持米二合半ノ初　御代官幷ニ手代出役扶持　諸入用定法　御代官陣屋引越入用定法

一 扶持方割

七十俵ヨリ九十俵マデ　五人フチ

百石ヨリ百四十石マデ　七人フチ

百五十石ヨリ二百四十石マデ　十人フチ

二百五十石ヨリ二百九十石迄　十一人フチ

三百石　十二人フチ

是ヨリ以上五十石ニ付一人フチヅヽ增

八百石　廿二人フテ

九百石　廿三人フチ

是ヨリ以上百石ニ付一人フチヅヽ增

千石　　四十五人フチ

千百石　　四十六人半フチ

是ヨリ以上一萬石マデ百石ニ付一人半ヅヽ增

三千五百石　　五十二人半フチ

四千石　　六十人フチ

五千石　　七十五人フチ

一萬石　　百五十人フチ

是ヨリ十萬石マデ一萬石ニ付百五十人扶持ヅヽ增

右之通御フチ方御上洛御供其外御用ニテ罷出候節モ、分限高ニ應ジ被レ下レ之、尤萬石以下關越候ヘバ一倍、關無レ之所ハ二十五里外ハ一倍、關內幷ニ二十五里內ハ五割增、萬石以上關所有無幷二十五里內ハ五割マシ、萬石以上ハ關所有無並道法遠近ニカヽハラズ五割マシ、京都・大坂・伏見・長崎御番萬石以下ハ知行高倍、萬石以上ハ五割マシ、駿河御番ハ萬石以上二十五割マシ被レ下レ之定法也

一　今一人扶持一度玄米二合五勺ニ定リタルハ、寬永年中松平伊豆守執政ノ時、御工夫ヲ以テ二合半ノ定法初ル、或說ニハ豐臣家時代ニ始ルト云モアレドモ、政談ニ信綱始メ玉フトアレバ定說ナルベシ、又軍中籠城等ノ兵粮ハ、一人前一晝夜三升ヅヽノ由也

一　城地郷村引渡、或ハ論所大檢使・朝鮮使來朝・日光御法會・御賄掛・御普請所掛リ等、何品ニ依ズ總テ御代官自分支配所外御用ニテ旅行ノ節、御入用如レ左
御代官ハ分限高ニテ被レ下
關所不レ越時ハ五割マシ、關所越ル時ハ一倍、關所無レ之所二十五里内ハ五割マシ、二十一里外ハ一倍、何レモ江戸ニテモ陣屋ニテモ、出立ノ時ヨリ歸着ノ日マデ下サルナリ
宿外一ヶ月銀三枚宛
筆墨紙蠟燭代
但筆ハ一匁ニ付二割、墨ハ一匁形、蠟燭ハ廿匁掛、入用高ハ勤日數、幷御用ノ品ニ應ジテ吟味ノ上ニテ被レ下也
手代一人ニ付三人フチ
足輕一人ニ付一人半フチ
但割マシ等ノ儀ハ御代官御フチ方同斷
城引渡大檢使等ハ手代二人書役一人切、若子細有テ人召連候節ハ、其旨前廣ニ可二申立一コト、檢見以後出立ナラバ、五十俵月割ノ雇手代一人相立、朝鮮使來朝・日光御法會等其外ニモ、大御用ニテ手代大勢入用アル時ハ、人數相極メ前廣ニ可二相伺一、其節ハ雇手代モ一人ニカギラズ、御用ニ應ジテ人

數ヲ極メ可レ伺

手代書役用人役一人ニ付日十七文　宿リ卅五文

足輕小者中間日八文　宿リ十七文

御代官御用ニ付旅行ノ節

御朱印被レ下時ハ、本馬六疋内二疋、人足四人ニ代リ、御用長持一棹人足八人被レ下

御朱印不レ被レ下賃馬被レ下時ハ、本馬五疋、御用長持人足四人、支配所内通行ノ外往來賃銭下サレ、

支配所内通行ハ人馬トモ無賃ニテ、村々ヨリ差出定法也

手代一人ニ付人馬一疋、書役一人輕尻一疋ヅヽ、是又支配所ノ外下サレ、足輕モ前々ハ輕尻下サレタルニ近年御改正ニテ止タリ

大檢使又ハ御普請御用等、竿取入等ノ時ハ、竿取一人賃銀二匁ヅヽ相定、畫圖師入用アル時ハ相伺一日銀四匁ヅヽノ積リニテ下サル、尤畫圖ノ至細ニ由テ一日何枚カクト云事、畫圖差出タル上ニ、御勘定所吟味ニテ日數相キハメル也

御代官陣屋引越、其外陣屋ヨリ御用ニテ出府アル時、御入用道中往來ノ日數、御代官ハ分限扶持下サレ、召ツレ人數如レ左

手代一人　書役同斷　侍三人　足輕一人　中間五人　陸尺四人

右ノ外道中木錢被レ下之

本馬五疋　御用長持人足四人　手代一人人馬一疋　書役一人輕尻一疋

右ノ通人馬賃錢支配所ノ外被レ下之

陣屋引越ノ節、御代官家族幷手代書役、別段ニ引越候人數家族トモ、道中入用御代官諸入用ノ内ヨリ出之、別段ニ御入用ハ不相定、尤新規御代官被仰附、亦ハ場所替等ニテ引越場所ニ相成タル時ハ、御手當被レ下、年賦拜借等仰付ラルヽコト也

但御代官場所ガヘ最寄ガヘ等ノ節前々ハ上方・關東トモ郷村引渡シタル日マデ、諸入用下サレ請取方ニテ請取タル月ヨリ下サレタル所、關東ハ郷村引ワタシタル月ヨリ、先ニ二ヶ月分ノ諸入用元高ノ通下サレ、上方ヨリ中國・西國筋ハ、四ヶ月分下サレ、勿論不首尾等ニテ御役御免御咎ノ筋等有レ之御代官ヘハ、右ノ通下サレズ、郷村引ワタシマデノ分下サレ、請取方ハ前々之通、上方關東トモ郷村請トリタル月ヨリ、諸入用可レ被レ下旨、寛政五丑年ヨリ御改正ニテ極リタリ

手代御用ニテ旅行ノ時、御扶持方其外御入用等右ニ准ジ、尤論所其外御用ノ品ニヨリ、雇小者一人出立ヨリ歸着マデ一日チン銀百三十二文ヅヽ、日割ヲ以テ下サレ、川越等アル所ハ、川越チン御入用ニ相立、又御用先ヨリ飛脚ヲ以不レ伺シテ不レ叶御用有時ハ、一里錢八十文ヅヽノツモリ、チン錢下サル也

御代官並手代支配所御用向ニテハ、扶持方木錢筆墨紙蠟燭其外馬ノチン錢トモ、何品モ御入用ニハ不ニ相立ハ、定式諸入用ノ內ヲ以テ相勤、尤檢見入用ハ支ハイ高多少ニカヽハラズ、金五十兩ヅヽ定式諸入用ニ籠リ、別段ニ相立有レ之也

地方凡例錄卷十一　大尾

地方凡例錄跋

右凡例錄ノ一章、經濟稼穡ノ道、文ヲ正シ當然取アツカフ所ヲ集メ、書記シテ奉ルベキヨシ、四年以前亥歲、奉二大命一筆ヲ立テ、官務ノ暇著作ストイヘドモ、素ヨリ不智短才ノ臣久敬、文學ニ疎ク、殊更書籍ニ乏シ、今年寅仲秋ニ至リ、漸ク十一卷調成シテ、大看ニ備ヘヌ、目錄出ル條下、凡十六卷程ニテ全備スベシ、然ルニ季夏ノ頃ヨリ、小臣病ノ床ニ臥シ、今晚冬ニ至テ病痾甚シク、古稀ニ向ヒタル老命ノ限リモ誌テ、臨終ノ期程近ク聞ユレバ、最早十二卷目ヨリ末筆記スベキ力ナク、空シク過ヌル事イト歎カハシク、愚息ナル者ハ地方ノ道知ルベキニモ非ザレバ、跡ヲツギテ書スベキ便リモナ

ク、然ハアレドモ此マヽ打捨ヌル事生前ノ遺志少カラズ、若經濟ノ道ニクハシク、地方功者ナル輩、志アッテ、小臣ガ寸志ヲアハレミ玉ヒ、目錄ノ箇條ニヨッテ、諸書ヲ開和漢ノ始元ヲ糺シ、尚今世取行フ法令ヲ觀味シテ書ツヾリ、全備ノ後君侯ニ備ヘ玉ハヾ、大命ノ御旨ニモ叶ヒ、次ニ小臣ガ本懐實ニ是ニ過ベカラズ、今終焉ニ及ビ、三十二章ハ備ナキ事、忘執ノ内ノ第一也、依レ之黄壤下句枕上ニ筆ヲトリテ、志願ノ一端ヲ記シ、臣大石久敬遺意ヲノブル而已

抑爲ニ此書一也、前大石翁奉ニ台命一、積年參ニ考諸書一、而所ニ編集一也、雖ニ崇外不レ出之秘籍一、而讀不レ能レ見レ之、適雖レ有ニ坊間流布者一、魚魯烏焉之差謬頗多、脫漏又不レ鮮、吾官甚困レ之、余今幸請ニ得翁手書所レ上之原藁一、而今ニ謄寫一之、校レ之正レ之、竊充ニ活字一以頒ニ同志一、定ニ原價一以換ニ製本一、限ニ三十部一、實海內有用書也、冀四方君子、尋常與ニ書冊一、同レ日不レ可レ論云爾

慶應二龍集丙寅仲春之吉

南總　大倉儀　謹識

宮崎幸麿
小西武治　校

大正五年十二月二十日印刷
大正五年十二月二十三日發行

日本經濟叢書 卷三十一

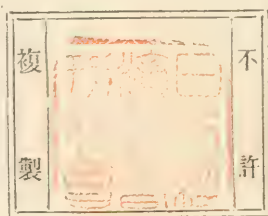
非賣品

不許複製

編者 瀧本誠一

發行者 佐藤卯兵衛
東京市神田區駿河臺鈴木町拾六番地

印刷者 中田福三郎
東京市牛込區市谷加賀町一丁目十二番地

印刷所 株式會社秀英舍第一工場
東京市牛込區市谷加賀町一丁目十二番地

發行所 東京神田區駿河臺鈴木町拾六番地
日本經濟叢書刊行會
電話本局三一八五番
振替口座東京二六八一〇番

理事 高木範之丞
佐藤卯兵衛

CONTENTS

of the thirty-first volume

JIKATA HANREI ROKU, *or an encyclopaedic handbook of agrimensorial and agronomical affairs*

Compiled 1791-1794

Printed 1866

By **ŌISHI KYŪKEI**

(1781-1794)

BIBLIOTHECA
JAPONICA
ŒCONOMIÆ POLITICÆ

VOL. XXXI

TŌKIŌ
NIHON KEIZAI SŌSHO
KANKŌKWAI

1916.